

平成18年度

学生による授業評価実施報告書

平成20年3月

鳴門教育大学 学校教育学部

は し が き

本学は、平成12年度からFD推進事業の一環として、学生による授業評価を実施し、公表してきた。この積み重ねにより授業評価は、教員、学生双方のあいだに定着した感があり、誠に喜ばしい限りである。

前年度の報告書のはしがきにも述べたが、授業評価は、それを行った学生とそれを受けた教員とのあいだに相互作用を生み、創造的・自発的・協同的かつ発展的な教育研究環境の創成が期待される。受講生からの授業評価という絶えざるフィードバックを受けることにより、授業が教員からの一方向性のものでなくなり、教員と学生が協働して授業を構築していくという双方向性が生まれるであろう。授業評価におけるこの相互性や双方向性は、授業の質的向上をもたらすものと確信している。

本学は、平成17年度から学部教育課程を刷新し、「教員養成コア・カリキュラムー鳴門プランー」を導入した。そのねらいは、複雑化・多様化する教育現場の今日的課題に対応できる実践的指導力を育成することにある。この新しい教育課程は、教育実践コア科目を中核に据え、他の教養基礎科目、教職共通科目、専修・教科の専門科目との構造化を図り、有機的に関連づけ編成されている。教育実践コア科目は、教科の成立と人間理解を通して、教師という職業（キャリア）について様々な側面から理解し、あるべき教師像を考える「教育実践基礎演習」と、教科内容・授業構成・指導方法を学び、それを模擬授業で実践することによって、実践的指導力を育成する「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の2つの授業科目から構成されている。その理念の具現化を図るべく、学外委員（学校現場教員）をまじえたFD推進事業専門部会において、新しい授業科目の主旨に沿った授業評価が行われるよう、教育実践コア科目用の評価項目を検討してきた。一部、平成17年度の試行段階を経て、本年度から本格実施に至っている。今後、年次進行で開設する「初等中等教科教育実践Ⅱ・Ⅲ」のためのアンケート様式も作成し、完全実施に向けて進んでいきたい。授業評価結果の分析や妥当性の検証、それを受けてさらなる改善のために新機軸を打ち出していくためには、学外委員（学校現場）等の視点を取り入れていく必要があるのではないかと考えている。

なお、本学は平成18年11月に、「教員免許課程認定大学実地視察規程」（平成13年7月19日、教員養成部会決定）にもとづき実地視察を受けた。おおむね高い評価が得られたが、シラバスに関して次のような改善点が指摘された。「シラバスは、目次のように項目を羅列するのではなく、具体的内容や到達目標を明確に記載し、学生にとってわかりやすい丁寧なシラバスに改善するよう検討すること」。もう一度各自が、本学の設立理念・趣旨に立ち返ってシラバスを検討いただければ幸いである。優れたシラバスと学生による授業評価を通して、教育実践コア科目を中核に据えた教員養成コア・カリキュラムが、その理念や目的の実現に向けて、創造的・自発的・協同的かつ発展的な学びを提供するものとなることを願っている。

最後に、本報告書の作成にあたって、学部教務委員会ならびに学生による授業評価専門部会・FD推進事業専門部会各位、学部授業の担当教員および学生諸君、関係の事務職員にご尽力・ご協力をいただいたことを記し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

平成20年3月

学校教育学部教務委員会

委員長 田 中 雄 三

目 次

はしがき

I 学生による授業評価の意義	1
II 学生による授業評価の結果と考察	3
1. 調査の方法と種類・形態別回答数	3
2. 教養基礎科目に関する結果の概要と特徴	4
3. 教育実践コア科目に関する結果の概要と特徴	5
4. 教職（基礎・共通）科目に関する結果の概要と特徴	10
5. 専修専門科目に関する結果の概要と特徴	11
6. アンケート様式	26
III 学部授業評価の結果報告書	41

あしがき

I

学 生 に よ る
授 業 評 価 の 意 義

I 学生による授業評価の意義

1. 学生による授業評価の意義

最近の社会的問題として、食品の偽装問題がある。「赤福」や「船場吉兆」といった古来よりの老舗がその伝統の暖簾を自らの手で汚した。利益追求が企業目標ではあるが、伝統のブランドの下で消費者を欺き、無視し続けてきたのである。消費者のニーズに耳を傾けず企業自らも自省しない姿勢は、企業としての発展どころか退廃が進行し信用失墜を招く結果は至極当然と言わねばならない。

言うまでもなく、授業評価の主旨は受講者サイドに立つことの重要性の確認と、それを踏まえた授業改善システムの再構築に集約することができる。言い換えれば「受講生の声を聴き、教員が受講生とともにより望ましい教育を創り上げる」という教員の自覚的姿勢の表明であると言えよう。

本学が平成8年度より取り組んでいるFD (Faculty Development) とは、大学が持ち得ている諸資源を最大限に活用できるような組織体制を整え、カリキュラムの構造化と授業内容・方法の充実、学生指導体制の確立、学生同士が切磋琢磨する環境の形成・充実などを意味する。それはすなわち、大学に課せられた社会的使命を果たすための大学全体の組織改善とも言えよう。その意味からも組織構成員である学生による授業評価はFDの一環として重要な位置づけにある。

とは言え、ある意味で「習う」立場にあるものが「教える」立場にあるものの授業を評価することは一定の困難と危険性を伴う。それが成立するためには、いくつかの条件が必要となる。例えば学生の側からすれば、①学生の授業に対する真摯な姿勢、②授業意図の理解、③評価することに対する責任などであり、教員の側からすれば、①授業に対する熱意と準備、②授業意図の伝達、③評価結果に対する真摯な受け止めなどになる。換言すれば、学生による授業評価とは単なる他者評価ではなく、「学生自身の授業への取り組みに対する自省であり、かつ評価を受ける教員の授業内容・方法に対する自省」という相互作用と捉えたい。

2. 教育実践コア科目への授業評価の拡大

本学では、実践力のある教員の養成を目指して平成17年度から学部カリキュラムが刷新され、その中核に「教育実践コア科目」が新設された。その構成は、教科の成立と人間理解を通して、教師という職業について様々な側面から理解しあるべき教師像を考える「教育実践基礎演習」、学習指導要領を基盤とする教科内容の柱立ての理解、授業構成や指導方法、子ども理解など教師として必要な実践的指導力を育成する「教科教育実践」から成り、「教育実習」と並ぶ教育実践のためのコアとなる科目として開設された科目区分である。

昨年度に引き続き「初等中等教育実践基礎演習」「初等中等教科教育実践Ⅰ」に加え、本年度は「ふれあい実習」「初等中等教科教育実践Ⅱ」の2科目を追加して合計4科目を授業評価の対象としたことから、段階的により精細な調査・分析を行えたと考える。

Ⅱ

学生による授業評価の 結果と考察

II 学生による授業評価の結果と分析

1. 調査の方法と種類・形態別回答数

平成18年度の授業評価は、学生によるアンケート調査をもとに、引き続き各教員が調査結果に対するコメントをつけて公表するという形態を採った。調査は、①教養基礎科目、②教育実践コア科目、③教職（基礎・共通）科目、④専修（専攻）専門科目、の中から、各教員が原則として前期・後期それぞれ1授業科目以上を選択して実施することとした。授業科目①③④については、各授業科目の性格に従って、質問紙を(1)講義用、(2)演習用、(3)実験・実習・実技用の3様式を用いた。質問項目はほとんど共通であるが、授業科目の内容や性質に合わせて、質問内容が若干異なっている部分もある。なお、平成17年度より新設された②教育実践コア科目については、「初等中等教育実践基礎演習」「初等中等教科教育実践Ⅰ」「ふれあい実習」「初等中等教科教育実践Ⅱ」の4科目を授業評価の対象とした。授業科目②のアンケート様式は、とくに授業内容に関する質問項目がその他科目のアンケート様式と異なっている。

質問紙の大枠は次の通りである。以下の大項目の下に質問項目が設けられ、授業科目や授業形態によりその数は多少異なっている。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 授業について | (質問項目：2) |
| 2. 授業の内容等について | (質問項目：4－6) |
| 3. あなたの授業への取り組みについて | (質問項目：5－6) |
| 4. 教員の授業の進め方について | (質問項目：7－8) |
| 5. 授業に対する満足度 | (質問項目：1) |
| 6. あなたからの提言 | (自由記述項目：2) |
| 7. 先の1から5までの項目以外で設定する項目 | (教員が自由に追加できる) |

質問紙は、自由記述項目以外は各質問項目に「5.非常にそうである」「4.かなりそうである」「3.どちらともいえない」「2.あまりそうでない」「1.全くそうでない」の5件法で答える形式になっている。有効回答数はつぎの通り（表1）である。

学生による授業評価の種類別・形態別有効回答数

	講 義	演 習	実験・実習・実技	合 計
教 養 基 礎 科 目	301	62	141	504
教 育 実 践 コ ア 科 目	0	275	78	353
教 職 (基 礎 ・ 共 通) 科 目	2,286	205	151	2,642
専 修 専 門 科 目	1,356	259	296	1,911
合 計	3,943	801	666	5,410

学生による授業評価の種類別・形態別実施授業科目数

	講 義	演 習	実験・実習・実技	合 計
教 養 基 礎 科 目	5	1	5	11
教 育 実 践 コ ア 科 目	0	28	1	29
教 職 (基 礎 ・ 共 通) 科 目	45	10	1	56
専 修 専 門 科 目	73	13	22	108
合 計	123	52	29	204

2. 教養基礎科目に関する結果の概要と特徴

1) 評価結果の概要

教養基礎科目の解答結果については、授業形態ごとに13ページ以下図1から図3に示してある。これらの図では、各項目における有効解答数に占める1～5の選択肢の割合を帯グラフで、またその実数をグラフ内の数字で表している。これらの図を参考にしながら、ここでは主として各項目の平均点によってその特徴を見て行きたい。

「日本国憲法」や「生体メカニズムと生命」等、講義形式の授業において4点以上の高い評価が得られた項目は、「(1)目標・授業計画・内容」(4.22)「(2)成績評価の方法」(4.31)、「(3)授業内容」(4.17)、「(4)授業内容の教養・専門性」(4.15)、「(7)授業によく出席した」(4.38)、「(14)熱心に指導した」(4.24)、「(18)教員の声は聞き取りやすかった」(4.11)の7つの項目で、昨年よりも改善している。逆に評価が低い項目は「(9)授業中に積極的に発言や質問をした」(2.41)と3点未満の項目は1つとなり、評価の低い項目数も減少し、授業内容に改善がみられた。なお、13ページの参考データからもわかるとおり、授業に対する満足度を示す項目「(20)この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」(3.87)と全体で最も低い評価となっている。参考としてために(1)～(20)各項目の平均点のさらに平均点をとったところ、3.78となり、昨年に比べて改善が見られるものの、他の全ての授業種類／形態とくらべて低い評価であったことを付記しておきたい。

次に演習形式の授業について述べる。演習形式の授業について、18年度アンケートが実施されたのは情報関係の授業であった。講義形式の授業同様、(1)～(20)の総合平均を取ったところ4.23という結果が出た。20項目中16項目が4点以上を得ており、特に高い評価を示した項目は、「(3)授業内容」(4.42)、「(4)授業内容の教養、専門性」(4.48)、「(6)授業内容は、興味、関心を引くものだった」(4.47)、「(7)授業によく出席した」(4.48)「(13)学生参加型の授業だった」(4.53)、「(17)視聴覚機器及び教育用機器の利用は適切だった」(4.56)、「(19)学生の疑問や質問に適切に答えた」(4.56)などであり、14ページの参考データにもあるように、「教員および教員の教授法に関する項目」の平均点でも他の全ての授業種類／形態とくらべても高い点を取っている。しかし、その一方「(8)授業内容をよく理解するために予習や復習をした」(3.47)、「(9)授業中に積極的に発言や質問をした」(3.44)となっており、演習形式での学生の授業態度は、教員主導の受動的なものとなっている様子が窺える。ただ、全体に平均点は高く、それを反映するように、「(20)この授業は自分自身にとって満足できるものであった」(4.23)と授業に対する満足度はかなり高い。

実験・実習、実技形態の授業では、情報処理関係の2つの授業、および「健康・スポーツ学Ⅱ」でアンケートが実施された。(1)～(20)各項目の総合平均は4.08。項目ごとの平均点が4点を超えたのは15項目で、特に高い評価を得た項目は、「(1)目標・授業計画・内容」(4.45)、「(3)授業内容」(4.35)、「(7)授業によく出席した」(4.60)、「(13)熱心に指導した」(4.44)、「(17)教員の声は聞き取りやすかった」(4.57)等。また他の授業分野／内容と比べて高い得点だったのが授業中の態度を示す「(9)積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ」(4.37)の項目であり、15ページの参考データからもわかるように、学生の授業に対するモチベーションの高さがうかがわれる。ただし項目(9)は、他の授業形態における比較対象となる項目の質問「(9)授業中に積極的に発言や質問をした」とは内容が異なるので単純に比較はできない。

2) 評価結果の特徴

平成18年度は、学部における新カリキュラムが始まって2年目である。教養基礎科目、特に講義

形態の授業は内容が一新され、旧カリとはガラリと違う授業名、授業内容になった。教養基礎科目は、新カリの履修規定では「現代社会の諸問題」というテーマで括られ、旧カリ 26 科目から新カリ 12 科目と半数以下になった。新カリが始まった昨年度、講義形態の授業の授業評価アンケートの実施科目数が、一昨年度 13 科目から昨年度 7 科目と半減し、18 年度は 6 科目とさらに実施科目数が減少している。演習および実験・実習・実技についても調べてみたところ、いずれも 9→4→1 (演習), 9→3→4 (実験・実習・実技) と新カリになってから授業評価アンケートの実施科目数は減少している。おそらく、教養基礎科目が「現代社会の諸問題」という大きなテーマで括られて、多くの科目で複数教員が担当するために、アンケートの実施が難しくなっているのが一因ではないかと推測される。

ついでに分析者の個人的興味から、学生の授業への取り組みの項目「(7)授業によく出席した」、「(8)授業内容をよく理解するために予習や復習をした」、「(9)授業中に積極的に発言や質問をした」、「(10)積極的に課題に取り組んだ」、「(11)分からないことや疑問に思ったことは調べた」について、考察を加えてみたい。各授業形態ごとの、学生の授業への取り組みの項目 ((7)~(11)) の平均を求めたところ、講義形態では 3.36、教養演習では 3.85、実験・実習・実技では 3.81 という結果になった。演習、実験、実習、実技では、学生の積極的な授業態度が窺えるが、講義形態では、授業に出て、講義を受けるだけという、極めて消極的な授業態度になっている。また、演習、実験、実習、実技科目においても、予習、復習や、自発的に分からないところを調べる等、学生の授業外での学習態度は消極的であり、「自発的に学習する姿勢」を促す授業をする工夫が必要であると痛感させられた。

3. 教育実践コア科目に関する結果の概要と特徴

1) 図 10：教職実践コア科目（基礎演習）

本授業については、117 名の回答を得た。

① 授業概要に関して

「目標・授業計画・内容の明確性」については、肯定的評価が 84 名、否定的評価が 6 名であった。また、「概要に沿った授業内容であった」という項目については、肯定的評価が 76 名、否定的評価が 3 名と、授業概要に関しては、計画も実施も概ね高い評価を得ているといえる。

「成績評価の方法の明確性」については、肯定的評価が 40 名、「どちらとも言えない」が 40 名、否定的評価が 41 名と評価にばらつきがあり、評価方法の明確化が必要である。

② 授業内容に関して

「意義を知り、理解を深める内容であった」については、70 名が肯定的評価をしており、否定的評価が 12 名であった。「特性を理解させる授業内容であった」については、65 名が肯定的評価、18 名が否定的評価であった。「教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった」に関しては、81 名が肯定的評価で、9 名が否定的評価であった。「教職に対する興味・関心が高まる授業であった」に関しては、85 名が肯定的評価をしており、否定的評価は 10 名であった。「授業への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった」については、82 名が肯定的評価、12 名が否定的評価であった。

授業内容に関して概観すると、約 80 名が肯定的評価で、10 名前後が否定的評価であった。従って、本授業の授業内容に関しては、概ね目的に合致した内容であったといえる。

③ 授業への取り組みについて

「授業への出席」に関しては、109 名がよく出席し、あまり出席しなかったと回答した者が 2 名

であった。「時間外の準備やまとめ」に関しては、71名がよくおこなったとし、14名があまり行わなかったとしている。「積極的に取り組んだ」に関しては、80名がよく取り組んだとし、7名があまり取り組まなかったとしている。「意欲的に課題に取り組んだ」については、87名がよく取り組んだとし、3名があまり取り組まなかったとしている。「分からなかったことや疑問に思ったことを調べた」については、43名がよく調べたと回答し、あまり調べなかったが29名であった。「授業に関して友人や教員と話し合った」については、78名が話し合ったと回答し、9名があまり話し合わなかったと回答している。

授業への取り組みに関しては、出席を重視し、努力できている様子が見える。また、時間外のまとめや準備、友だちや先生との話し合いなども良くできていることが分かった。しかし、疑問に思ったことを調べたについては、他の項目より積極的な回答が少ない。学生が授業で全て理解でき、疑問を持たなかったのか、もしくは疑問を持ったとしても調べなかったのかについては不明である。

④ 教員の授業の進め方について

「学生の理解状況を確認しながら授業を行った」については、71名がそうであると回答し、11名がそうではないと回答している。「熱心に指導した」については96名がそうであったと答え、2名がそうではなかったと答えている。「授業内容を分かりやすく伝えた」については、81名がそうであったと回答し、8名がそうではなかったと答えている。「資料、教材等は適切であった」については、74名がそうであったと回答し、9名が適切ではなかったと答えている。「設備や教具の利用は適切であった」については、65名が適切であったと答え、6名がそうではなかったと回答している。「教員の声の聞き取りやすさ」は、80名が聞き取りやすかったと答え、16名が聞き取りにくかったと答えている。「与えられた課題の分量は適切であった」については、76名が適切であったと答え、12名が適切でなかったと答えている。

授業の進め方は概ね満足のいくものであったと思われるが、声の聞き取りやすさに少し問題があったことがうかがえる。

⑤ 授業に対する満足度

授業が満足できるものであったと答えた者は、89名、18名がどちらでもない、9名が不満足であったと答えている。学生にとって概ね満足できる授業であったと思われる。

2) 図 11：教科教育実践 1

本授業については、78名の回答を得た。

① 授業概要に関して

「目標・授業計画・内容の明確性」については、肯定的評価が65名、否定的評価が3名であった。また、「概要に沿った授業内容であった」という項目については、肯定的評価が63名、否定的評価が1名と、授業概要に関しては、計画も実施も概ね高い評価を得ているといえる。

「成績評価の方法の明確性」については、肯定的評価が47名、否定的評価が2名と若干肯定的評価が少ないが、否定的評価も少ないことから、概ね成績評価の方法は明確にできていると思われる。

② 授業内容に関して

「幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった」については、54名が肯定的評価をしており、否定的評価が6名であった。「教科の特性と意義が理解できる授業内容であった」については、59名が肯定的評価、1名が否定的評価であった。「授業実践を観察する視

点が示された授業内容であった」に関しては、64名が肯定的評価で、1名が否定的評価であった。

「授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった」に関しては、66名が肯定的評価をしており、否定的評価は2名であった。「教科の目標、内容、指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった」については、59名が肯定的評価、1名が否定的評価であった。

授業内容に関して概観すると、約65名が肯定的評価で、1名前後が否定的評価であった。従って、本授業の授業内容に関しては、目的に合致した内容であったといえる。

③ 授業への取り組みについて

「授業への出席」に関しては、67名がよく出席し、あまり出席しなかったと回答した者が1名であった。「時間外の準備やまとめ」に関しては、39名がよくおこなったとし、9名があまり行わなかったとしている。「積極的に取り組んだ」に関しては、61名がよく取り組んだとし、3名があまり取り組まなかったとしている。「意欲的に課題に取り組んだ」については、64名がよく取り組んだとし、2名があまり取り組まなかったとしている。「分からなかったことや疑問に思ったことを調べた」については、39名がよく調べたと回答し、あまり調べなかったが16名であった。「授業に関して友人や教員と話し合った」については、51名が話し合ったと回答し、11名があまり話し合わなかったと回答している。

授業への取り組みに関しては、授業への出席、授業での積極性は、努力できている様子が見える。しかし、時間外のまとめや準備、友だちや先生との話し合いなどでは、少し不足している学生がいるようである。さらに、「疑問に思ったことを調べた」については、他の項目より積極的な回答が少ない。学生が授業で全て理解でき、疑問を持たなかったのか、もしくは疑問を持ったとしても調べなかったのかについては不明である。

④ 教員の授業の進め方について

「学生の理解状況を確認しながら授業を行った」については、49名がそうであると回答し、7名がそうではないと回答している。「熱心に指導した」については72名がそうであったと答え、そうではなかったは0であった。「授業内容を分かりやすく伝えた」については、60名がそうであったと回答し、1名がそうではなかったと答えている。「資料、教材等は適切であった」については、65名がそうであったと回答し、1名が適切ではなかったと答えている。「設備や教具の利用は適切であった」については、63名が適切であったと答え、1名がそうではなかったと回答している。「教員の声の聞き取りやすさ」は、72名が聞き取りやすかったと答え、1名が聞き取りにくかったと答えている。「与えられた課題の分量は適切であったについては、65名が適切であったと答え、2名が適切でなかったと答えている。

授業の進め方は概ね満足のいくものであったと思われるが、「学生の理解状況を確認しながら授業を行った」ということに関しては、7名がそうではないと答え、内容が分かっているために、授業そのものがつまらなかったのか、授業内容が難しく、理解度をこえたのかについては不明である。

⑤ 授業に対する満足度

授業が満足できるものであったと答えた者は、67名、9名がどちらでもない、2名が不満足であったと答えている。従って、学生にとっては概ね満足できる授業であったと思われる。

3) 図 12：ふれあい実習について

受講生 78 名から回答を得た。

① 実習概要に関して

「目標・授業計画・内容の明確性」については、肯定的評価が 66 名、否定的評価が 4 名であった。また、「成績評価の方法の明確性」については、肯定的評価が 37 名、どちらとも言えないが 25 名、否定的評価が 16 名と、必ずしも評価方法が明確化されているわけではないことがうかがえる。

② 事前オリエンテーションに関して

「事前オリエンテーションにより実習概要が理解できた」については、60 名が肯定的評価をしており、否定的評価が 5 名であった。「オリエンテーションは、実習での自分自身の目標を設定するのに役立った」については、61 名が肯定的評価、3 名が否定的評価であった。「設備や教具の利用は適切だった」に関しては、45 名が肯定的評価で、5 名が否定的評価で、どちらでもないと回答した者が 27 名と多かった。「教員の声は聞き取りやすかった」に関しては、43 名が肯定的評価をしており、否定的評価は 7 名で、どちらでもないが 27 名と多かった。事前オリエンテーションについては、否定的意見は少なかったが、どちらでもないという回答が目立つのが特徴である。

③ 事後指導について

「事後指導によって実習で経験したことの意義について理解が深まった」については、63 名がそうであると回答し、4 名がそうではないと回答している。「事後指導は実習の内容を振り返るのに役立った」については、63 名がそうであると回答し、1 名がそうではないと回答している。「学生の理解状況を確かめながら授業を行った」に関しては、44 名がそうであると答え、23 名がそうではないと回答し、どちらでもないが 27 名いた。「資料、教材等は適切であった」については、35 名がそうであったと回答し、4 名が適切ではなかったと答えているが、どちらでもないが 37 名と多かった。「教員の声の聞き取りやすさ」は、54 名が聞き取りやすかったと答え、4 名が聞き取りにくかったと答えている。

事後指導については概ね満足のいくものであったと思われるが、どちらでもないという学生が目立ち、教具の利用方法など、改善の余地がある。

③ 授業への取り組みについて

「積極的に取り組んだ」に関しては、71 名がよく取り組んだとし、あまり取り組まなかったは 0 である。「授業に関して友人や教員と話し合った」については、66 名が話し合ったと回答し、1 名があまり話し合わなかったと回答している。「大学で学ぶべき目標が明確になった」については、67 名が肯定的に回答し、否定的な回答は 1 名であった。「今後ボランティアとして関わってみたい」ということに関しては、71 がそうおもうと答え、思わないは 0 であった。

授業への取り組みは、総じて良好である。また、学ぶべき目標やボランティアとしての関わりについても非常に積極的な回答が得られ、本授業が学生に大きなインパクトを与えていることが分かった。

⑤ 授業に対する満足度

授業が満足できるものであったと答えた者は、71 名、7 名がどちらでもない、不満足は 0 であった。学生にとって満足できる授業であったと思われる。

4) 図 13：教科教育実践 2

本授業については、71名の回答を得た。

① 授業概要に関して

「目標・授業計画・内容の明確性」については、肯定的評価が60名、否定的評価が5名であった。また、「概要に沿った授業内容であった」という項目については、肯定的評価が59名、否定的評価が1名と、授業概要に関しては、計画も実施も概ね高い評価を得ているといえる。

「成績評価の方法の明確性」については、肯定的評価が52名、否定的評価が5名と、概ね成績評価の方法は明確にできていると思われる。

② 授業内容に関して

「各教科の内容が理解できる授業内容であった」については、63名が肯定的評価をしており、否定的評価が2名であった。「教科の特性と意義が理解できる授業内容であった」については、57名が肯定的評価、2名が否定的評価であった。「授業実践を観察する視点が示された授業内容であった」に関しては、59名が肯定的評価で、1名が否定的評価であった。「授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった」に関しては、60名が肯定的評価をしており、否定的評価は2名であった。「教科の目標、内容、指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった」については、60名が肯定的評価、2名が否定的評価であった。

授業内容に関して概観すると、約60名が肯定的評価で、2名前後が否定的評価であった。従って、本授業の授業内容に関しては、目的に合致した内容であったといえる。

③ 授業への取り組みについて

「授業への出席」に関しては、65名がよく出席し、あまり出席しなかったと回答した者が0であった。「時間外の準備やまとめ」に関しては、60名がよくおこなったとし、5名があまり行わなかったとしている。「積極的に取り組んだ」に関しては、60名がよく取り組んだとし、3名があまり取り組まなかったとしている。「意欲的に課題に取り組んだ」については、58名がよく取り組んだとし、4名があまり取り組まなかったとしている。「分からなかったことや疑問に思ったことを調べた」については、43名がよく調べたと回答し、あまり調べなかったが10名であった。

「授業に関して友人や教員と話し合った」については、48名が話し合ったと回答し、5名があまり話し合わなかったと回答している。

授業への取り組みに関しては、概ね良好のようであるが、疑問に思ったことを調べたについては、他の項目より積極的な回答が少ない。

④ 教員の授業の進め方について

「学生の理解状況を確認しながら授業を行った」については、62名がそうであると回答し、1名がそうではないと回答している。「熱心に指導した」については67名がそうであったと答え、そうではなかったは0であった。「授業内容を分かりやすく伝えた」については、56名がそうであったと回答し、2名がそうではなかったと答えている。「資料、教材等は適切であった」については、60名がそうであったと回答し、適切ではなかったは0であった。「設備や教具の利用は適切であった」については、53名が適切であったと答え、そうではなかったは0であった。「教員の声の聞き取りやすさ」は、63名が聞き取りやすかったと答え、聞き取りにくかったは0であった。「与えられた課題の分量は適切であったについては、60名が適切であったと答え、1名が適切でなかったと答えている。

授業の進め方は満足のいくものであったと判断される。

⑤ 授業に対する満足度

授業が満足できるものであったと答えた者は、60名、10名がどちらでもない、1名が不満足であったと答えている。従って、学生にとっては概ね満足できる授業であったと思われる。

5) コア科目を通して

1年次で行われるふれあい実習に関しては、肯定的回答が多く、ボランティアへの意識も育っており、入学直後の教員を希望する学生にとって、非常に有意義な授業となっていることがうかがえた。また、教科教育実践ⅠとⅡを比較すると、Ⅱの方で「肯定的な回答した人数が多くなり、否定的回答が少なくなっている。1年次の教科教育実践Ⅰ、2年次の教科教育実践Ⅱと学年があがるにつれて学習への積極性がみられることは、これらの授業が学生にとって意義のあるものとなっていると考えられる。

4. 教職（基礎・共通）科目に関する結果の概要と特徴

1) 評価結果の概要

教職（基礎・共通）科目の評価結果については、授業形態ごとに図4、5、6に示してある。

講義形式の授業で学生の評価の高い項目は、「授業内容は、授業概要に沿っていた」(4.03)、「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった」(4.05)、「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」(4.01)、「授業によく出席した」(4.42)、「熱心に指導した」(4.05)であった。一方、評価の低い項目は、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」(2.90)、「授業中に積極的に発言や質問をした」(2.65)、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」(2.88)であった。

演習形式の授業で学生の評価の高い項目（4ポイント以上）は、16項目あった。特に評価の高い項目は、「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった」(4.58)、「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」(4.55)、「授業によく出席した」(4.78)であった。相対的に評価の低い項目は4項目であるが、最低でも3.14ポイントであった。

実験・実習・実技形式の授業で学生の評価の高い項目（4ポイント以上）は、13項目あった。特に評価の高い項目は、「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった」(4.52)、「授業によく出席した」(4.61)であった。相対的に評価の低い項目は7項目であるが、最低でも3.74ポイントであった。

2) 評価結果の特徴

まず、前回の授業評価結果と比較してみる。驚くべきことに、教職（基礎・共通）科目の講義形式の授業は、前年と全く同じ結果になっている。図を比較してもほとんど違いが見られないほど酷似している。講義形式の授業の昨年の全体平均は3.74ポイントであったが、今年の全体平均は3.72ポイントでわずかに下落している。授業は改善しているのに学生にそれが伝わらないのか。それとも、昨年と同じレベルの授業が行われ、学生が今年も同じ反応を示したのか。データからは推測できないが、好転していないのは事実である。また、講義形式の授業で気付いたのは、「視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった」の回答数が極端に少ない点である。多い項目では2134の回答がある中で1742の回答しかない。機器を使用していない授業では、この項目を回答しないように削除しているためと推測される。

演習形式の授業も、前年と似たような結果となっている。昨年の全体平均は4.14ポイントであったが、今年の全体平均は4.19ポイントでわずかに上昇している。

実験・実習・実技形式の授業は、昨年の回答数が14と極端に少なかったため、今年と比較することはできない。今年は回答数が151、全体平均は4.16ポイントを示している。ここでは、学生の授業への取り組み状況の自己評価が高い点が目立っている。

授業形式の違いによる全体平均のポイントを比較すると、講義形式が3.72ポイント、演習形式が4.19ポイント、実験・実習・実技形式が4.16ポイントであり、これまでの報告書でも指摘されてきたように、講義形式の評価が低い状況が続いている。授業によく出席するが、積極的には参加していない状況を改善していくことが必要と思われる。

5. 専修専門科目に関する結果の概要と特徴

1) 評価結果の概要

専修専門科目の評価結果については、授業形態ごとに図7, 8, 9に示してある。

講義形式の授業で学生の評価の高い項目は、「授業によく出席した」(4.45), 「授業内容は、教養や専門性を高めるためのものだった」(4.39), 「授業内容は、授業概要に沿っていた」(4.25), 「熱心に指導した」(4.20), 「目標・授業計画・内容は、明確に示されていた」(4.12), 「成績評価の方法は、明確に示されていた」(4.12), 「教員の声は、聞き取りやすかった」(4.08), 「教科書や配布資料などの教材は、内容を理解する上で適切だった」(4.04), 「授業内容は、興味・関心を引くものだった」(4.04), 「教員の説明をよく聞いた」(4.01)であった。一方、評価の低い項目は、「授業中に積極的に発言や質問をした」(2.95), 「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」(3.24), 「分からないことや疑問に思ったことを調べた」(3.30)であった。

演習形式の授業での学生の評価の高い項目は、「授業によく出席した」(4.57), 「授業内容は、教養や専門性を高めるためのものだった」(4.37), 「授業内容は、授業概要に沿っていた」(4.28), 「目標・授業計画・内容は、明確に示されていた」(4.24), 「熱心に指導した」(4.20), 「教科書や配布資料などの教材は、内容を理解する上で適切だった」(4.16), 「授業内容は、興味・関心を引くものだった」(4.16), 「積極的に課題に取り組んだ」(4.07), 「授業の進む速さは適切だった」(4.04), 「この授業は、自分自身にとって満足のできるものであった」(4.04), 「学生の疑問や質問に適切に答えた」(4.01), 「成績評価の方法は、明確に示されていた」(4.01), 「学生参加型の授業だった」(4.00), 「授業の内容を分かりやすく説明した」(4.00)であった。一方、評価の低い項目は、「授業中に積極的に発言や質問をした」(2.91), 「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」(3.31), 「分からないことや疑問に思ったことを調べた」(3.32)であった。

実験・実習・実技形式の授業で学生の評価の高い項目は、「授業内容は、教養や専門性を高めるためのものだった」(4.63), 「授業によく出席した」(4.61), 「積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ」(4.61), 「熱心に指導した」(4.56), 「教員の説明をよく聞いた」(4.54), 「この授業は、自分自身にとって満足のできるものであった」(4.53), 「教員の声は、聞き取りやすかった」(4.51), など、20項目中18項目が4.08以上の高い評価を得ている。評価の低い項目は、「分からないことや疑問に思ったことを調べた」(3.54)であった。

2) 評価結果の特徴

これまでの報告でも繰り返し指摘されているが、学生による授業評価の傾向として、学生はよく

出席し、授業の内容や方法に好意的な評価を与え、専門性を高めているものの、とくに講義形式の授業では、積極的な発言や質問、予習や復習など、自発的な取り組みやその努力に不十分性がみられ、この傾向については今回も確かめられた。とりわけ、講義形式の授業での、「積極的な発言や質問」の項目については、この3年の間、16年度2.98、17年度2.98、18年度2.95とほぼ同じレベルのまま推移している。予習・復習や調べ学習の項目についても、講義と演習では、3.3前後のレベルにとどまっていた変化が認められていない。各授業形式を比べると、講義形式(3.92)や演習形式(3.97)よりも、実験・実習・実技形式(4.35)の授業の方が高い評価を得ていることがわかる。具体的な学びや調べの活動を組織することがこうした授業形式では主になることがその評価の理由として考えられよう。この点については、「積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ」という項目に高い評価(4.61)を与えていることから確かめることができるだろう。

全体として専修専門科目が扱う内容は、関連の学術分野の進展にともなって、幅広く高度化の一途をたどっている。そうした内容を三つの授業形式全体で伝達するという点で、学生には高い評価を得ていることが確かめられた。学生の積極的な発言や調べ学習という点での問題も指摘されるが、講義や演習という授業形式から派生する問題と考えることもできるだろう。膨大な知識体系を、各教員の独自の視点から整理し伝達することが講義という授業形式の働きであり、それをより専門的に詳細に教授することが演習という授業形式であると考えれば、こうした問題の捉え方も変わってくるのではないかと考えられよう。ただ、16年度報告書で指摘されているような、「本学の実体、すなわち積極的な授業参加や、本人の努力に不十分な点があっても、単位が確保され、しかも学生の満足度も高い、という姿を見れば、学生だけではなく、教員側にも授業の方法や評価の厳格さにおいて甘さがあることを指摘せざるを得ない」。という問題点は依然として残されていることも確かである。厳格な評価をすれば、学生の積極的な発言や学ぶ態度が養成されるかという点、かならずしもそうとも言い切れないであろうし、かといって、学生の評価に迎合することで、厳格さのレベルを落とすこともできないことも確かである。三つの授業形式という枠組みを再検討し、これまでとはことなる、講義・演習・実技・実習・実験の融合した授業のあり方も検討課題として明確になりつつあるように思われる。

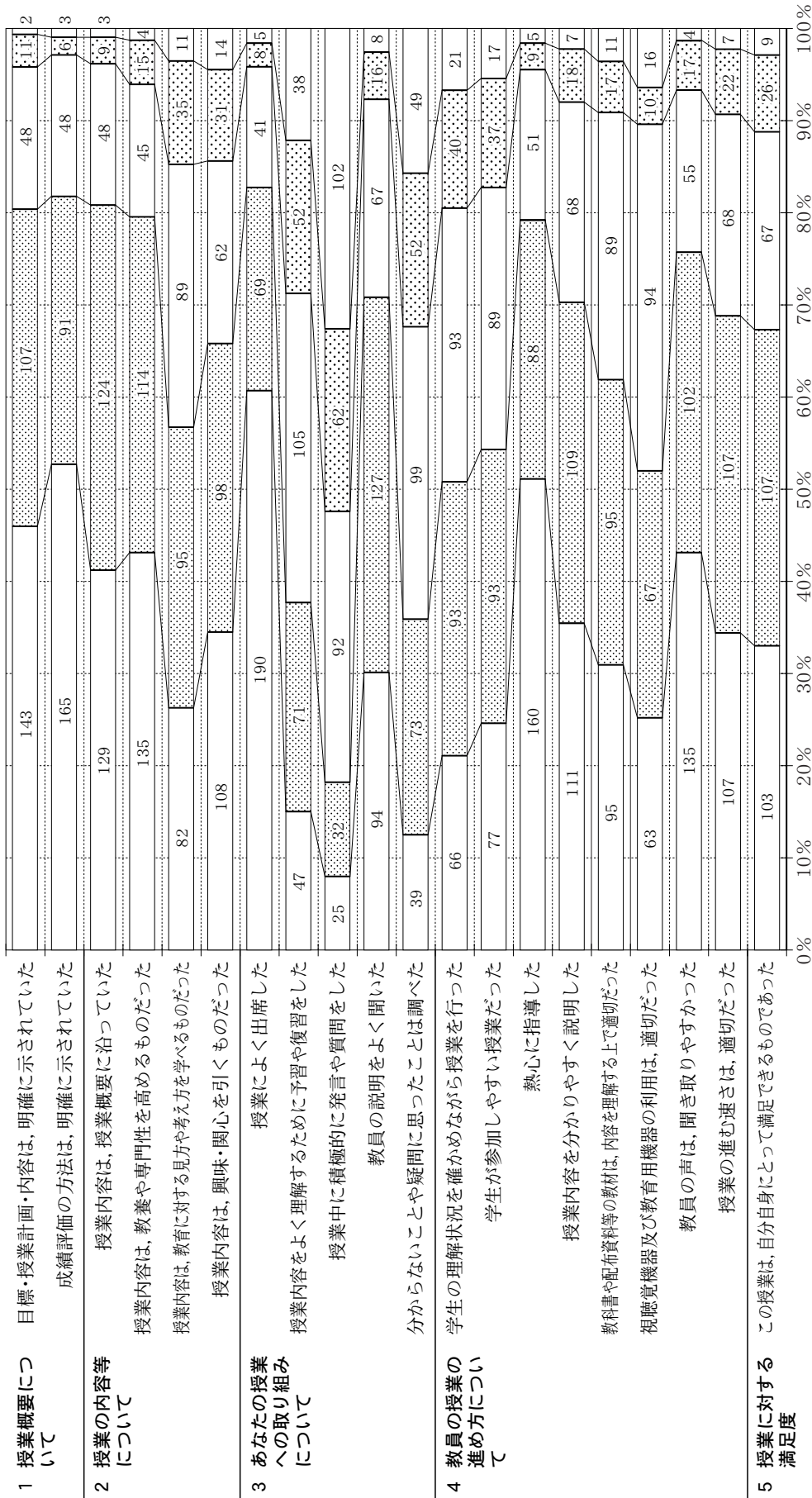
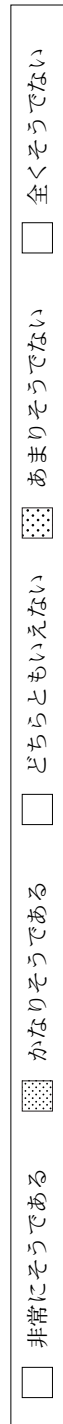


図1 教養基礎科目(講義)に対する評価結果

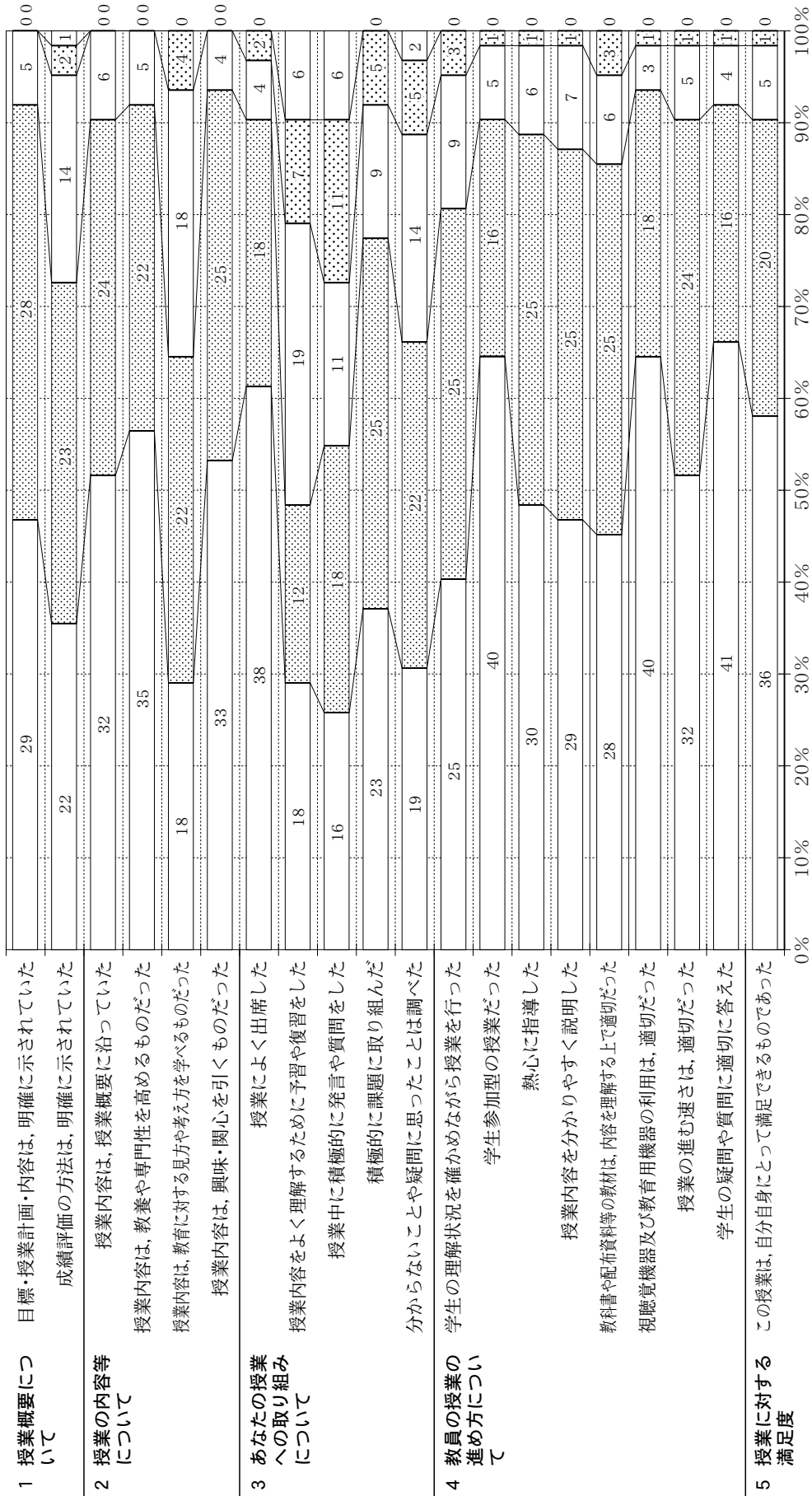
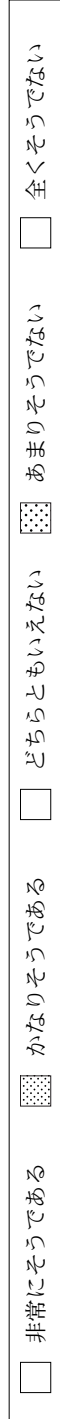


図2 教養基礎科目(演習)に対する評価結果

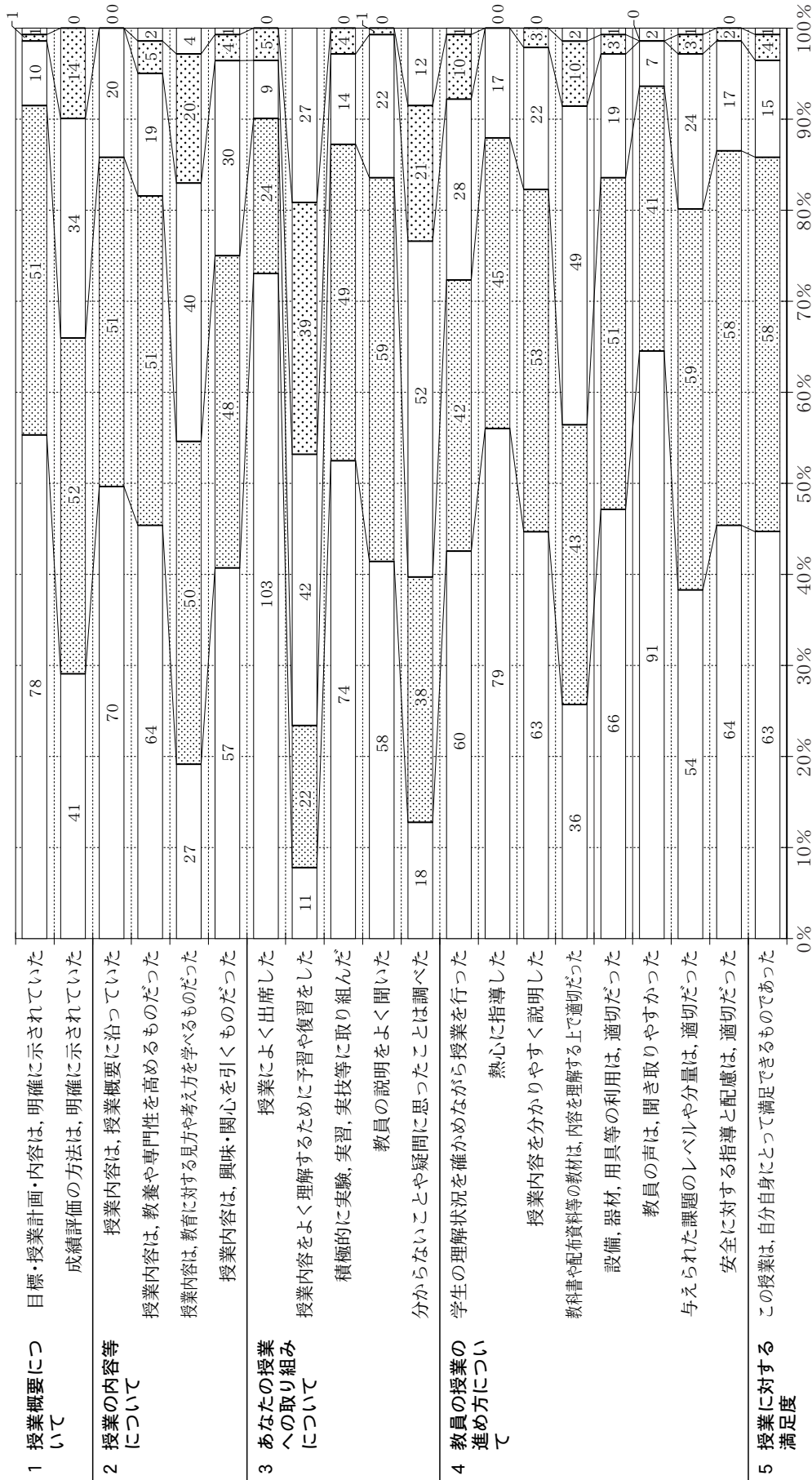
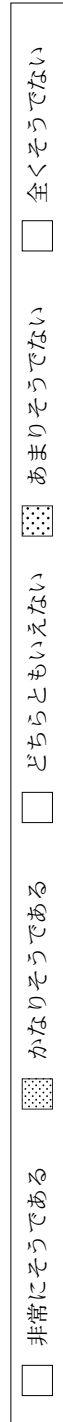


図3 教養基礎科目(実験・実習・実技)に対する評価結果

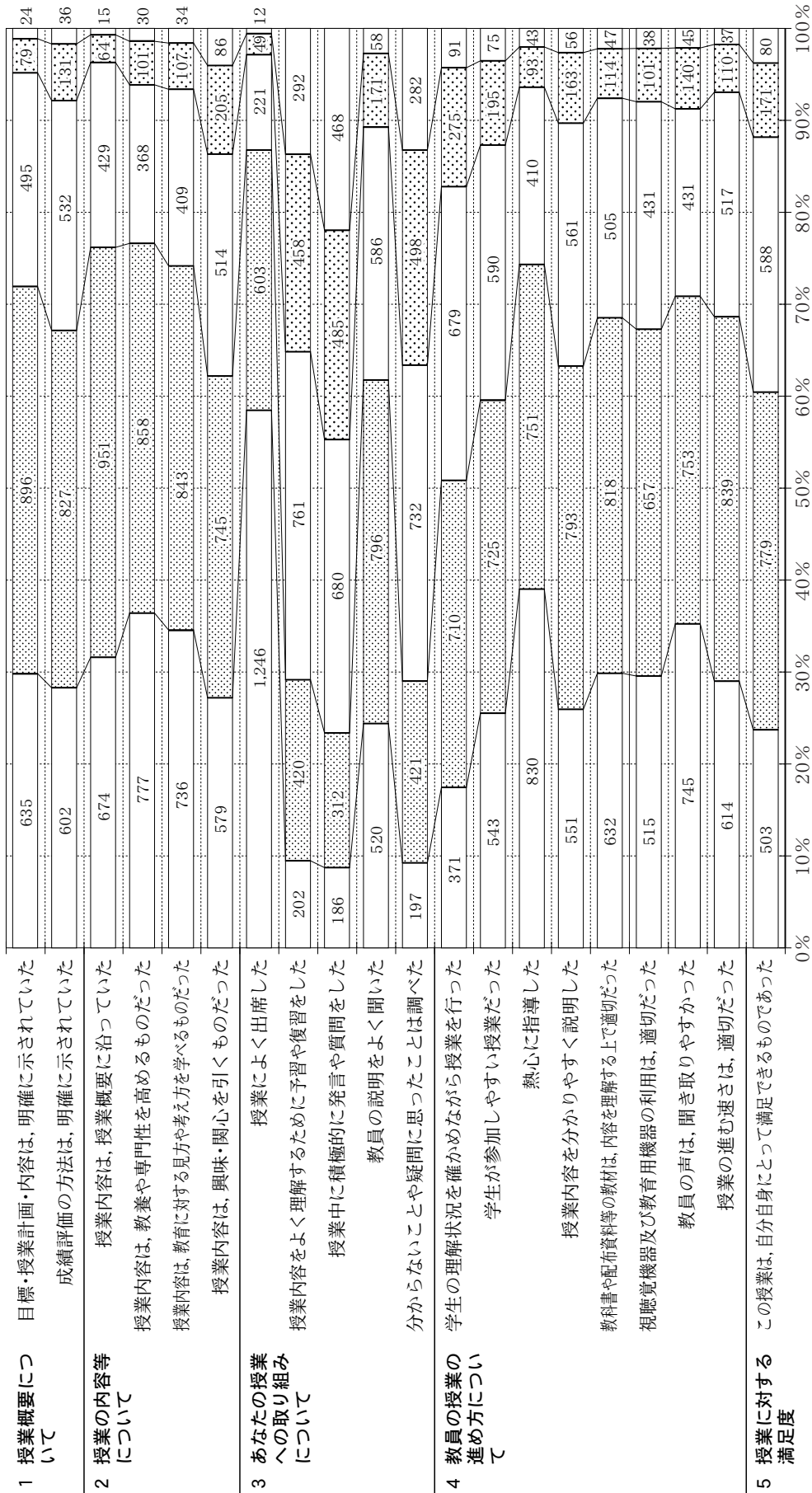
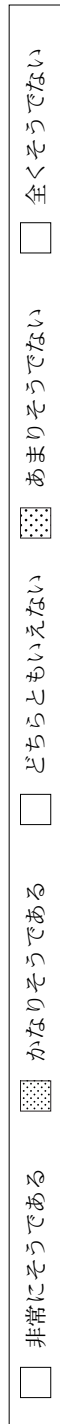


図4 教職(基礎・共通)(講義)に対する評価結果

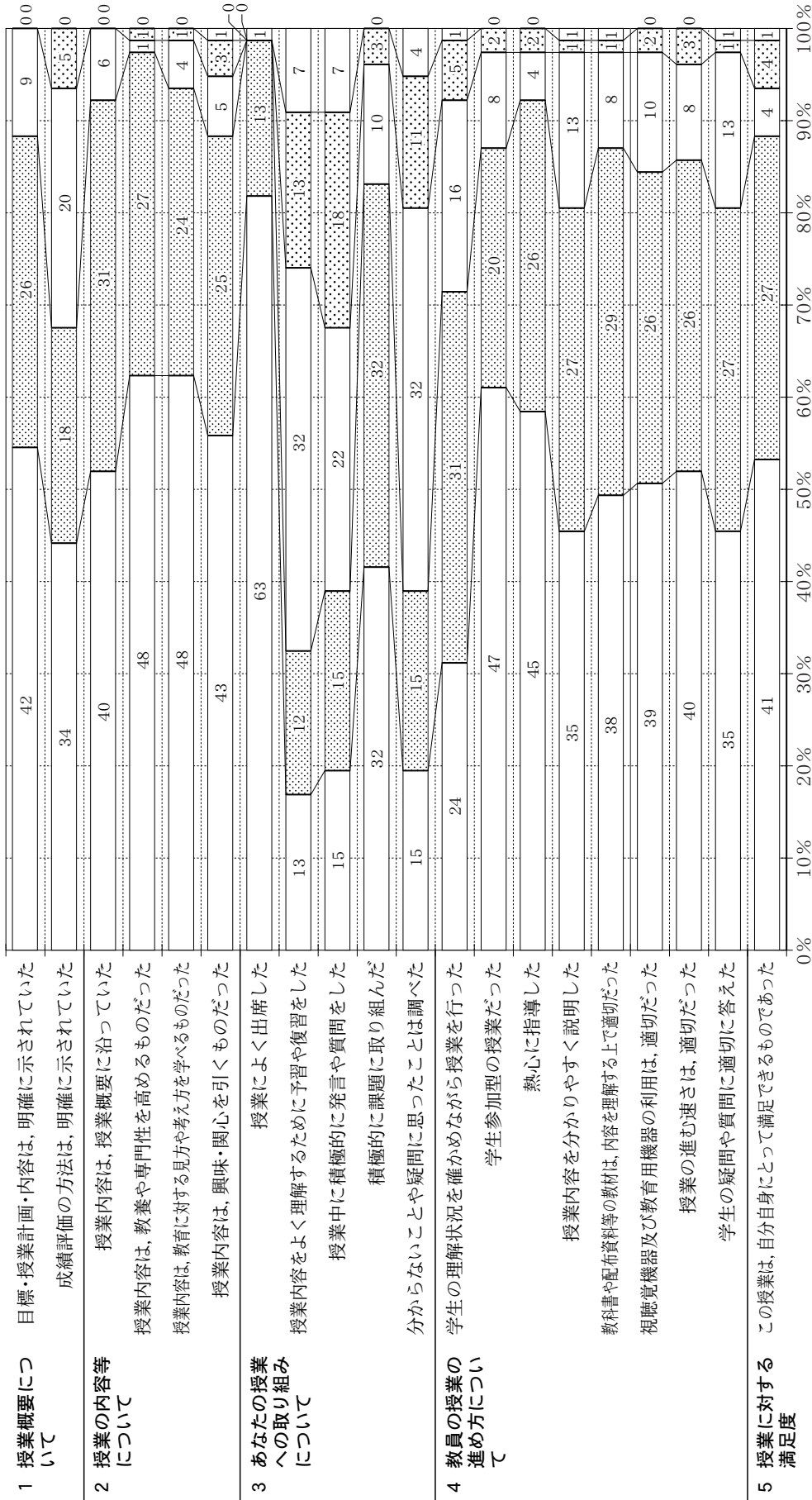
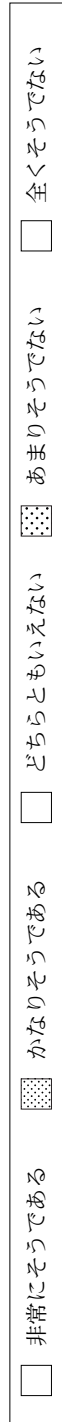


図5 教職(基礎・共通)(演習)に対する評価結果

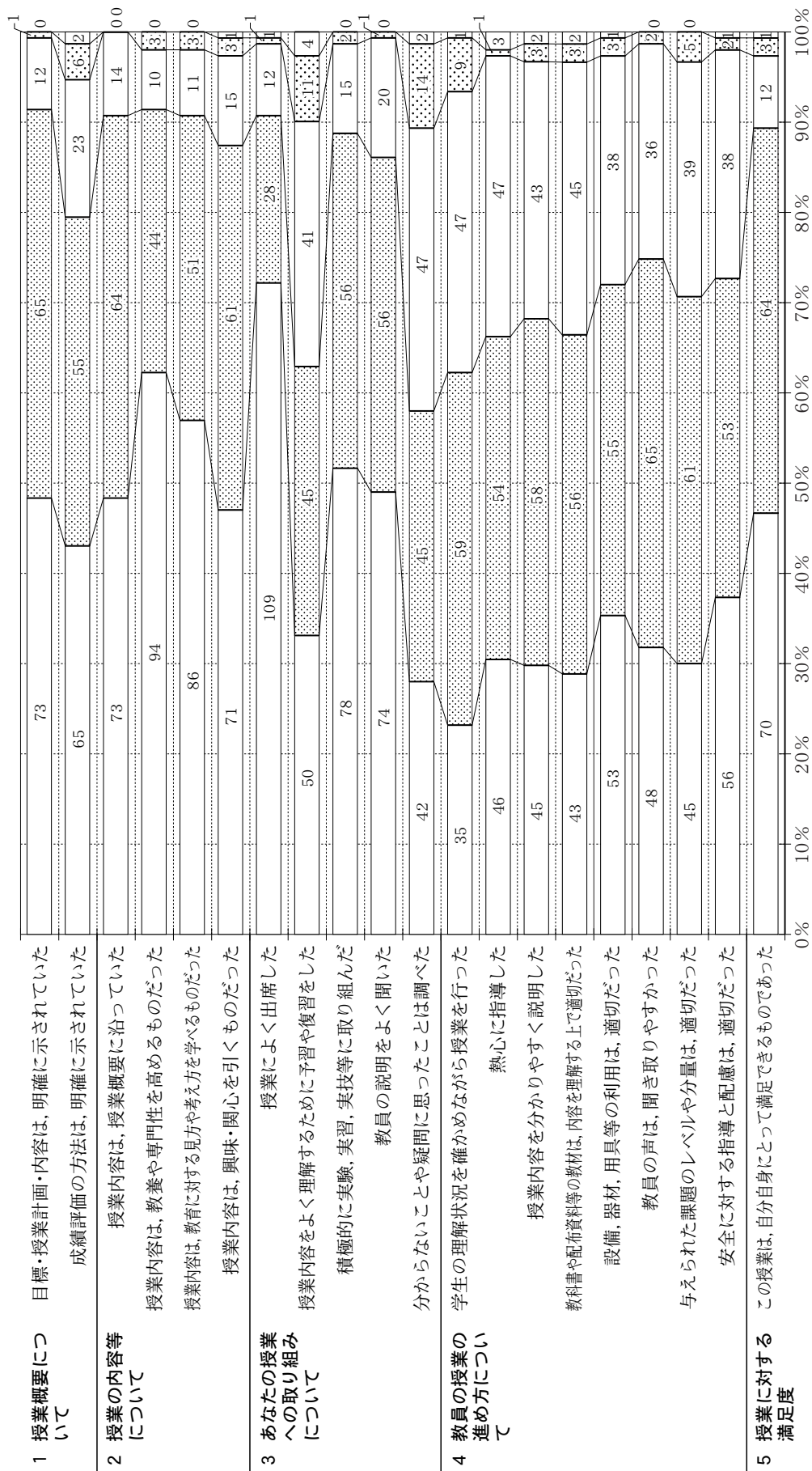
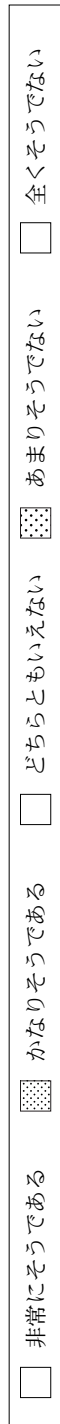


図6 教職(基礎・共通(実験・実習))に対する評価結果

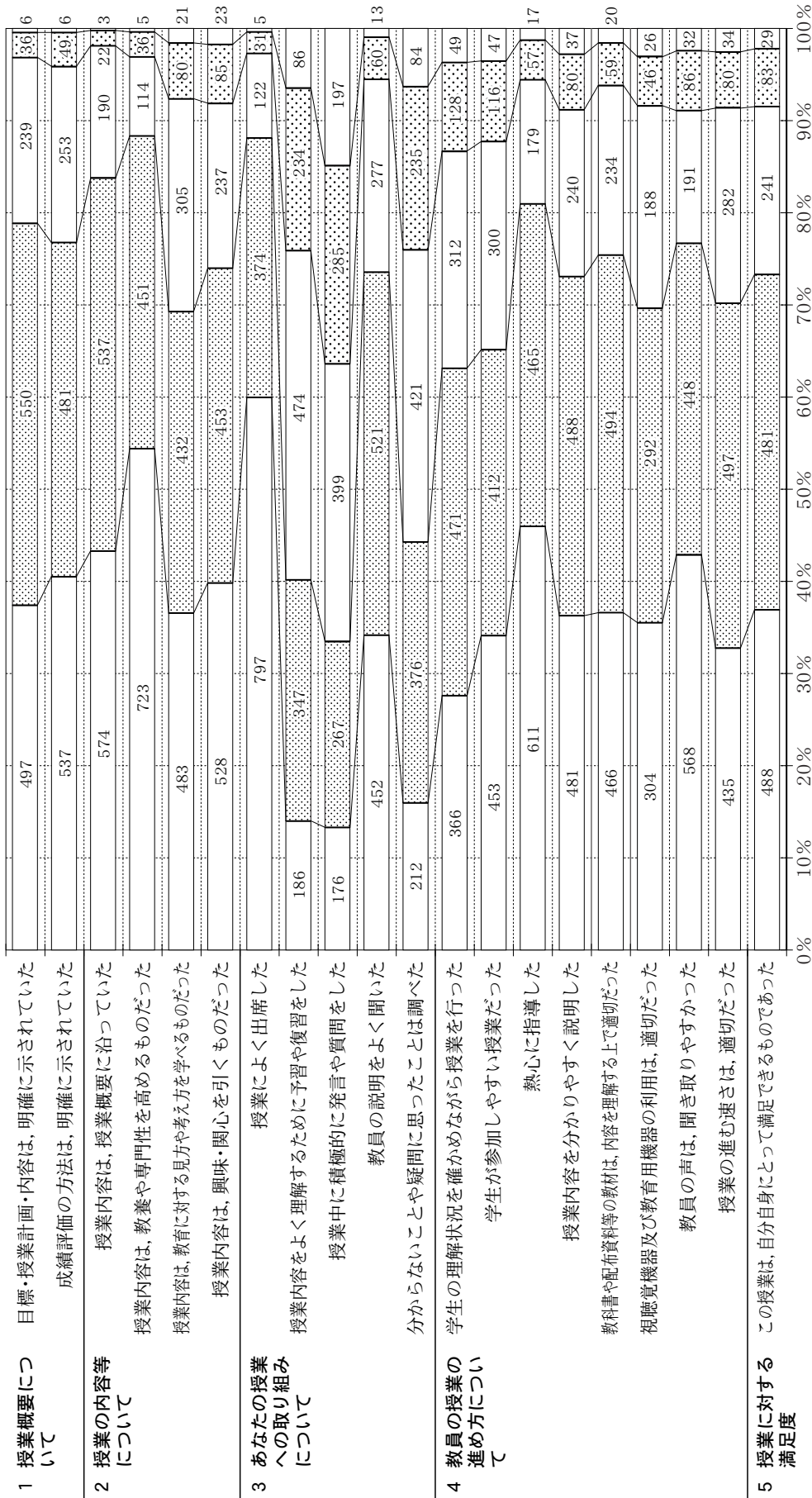
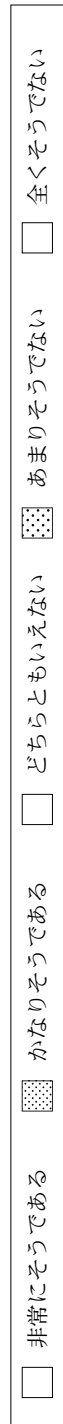


図7 専修専門科目(講義)に対する評価結果

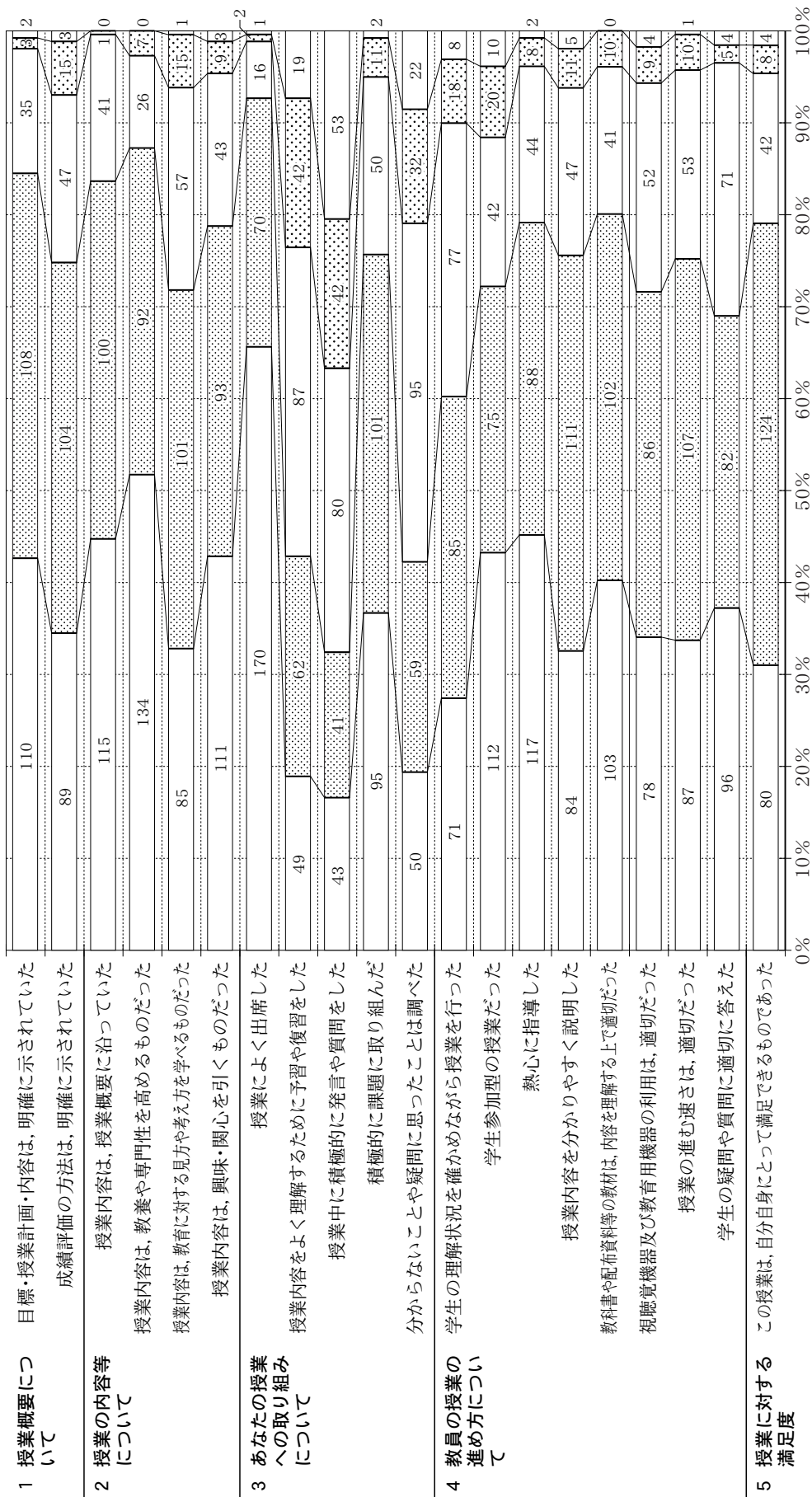
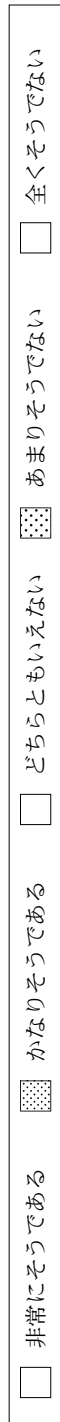


図8 専修専門科目(演習)に対する評価結果

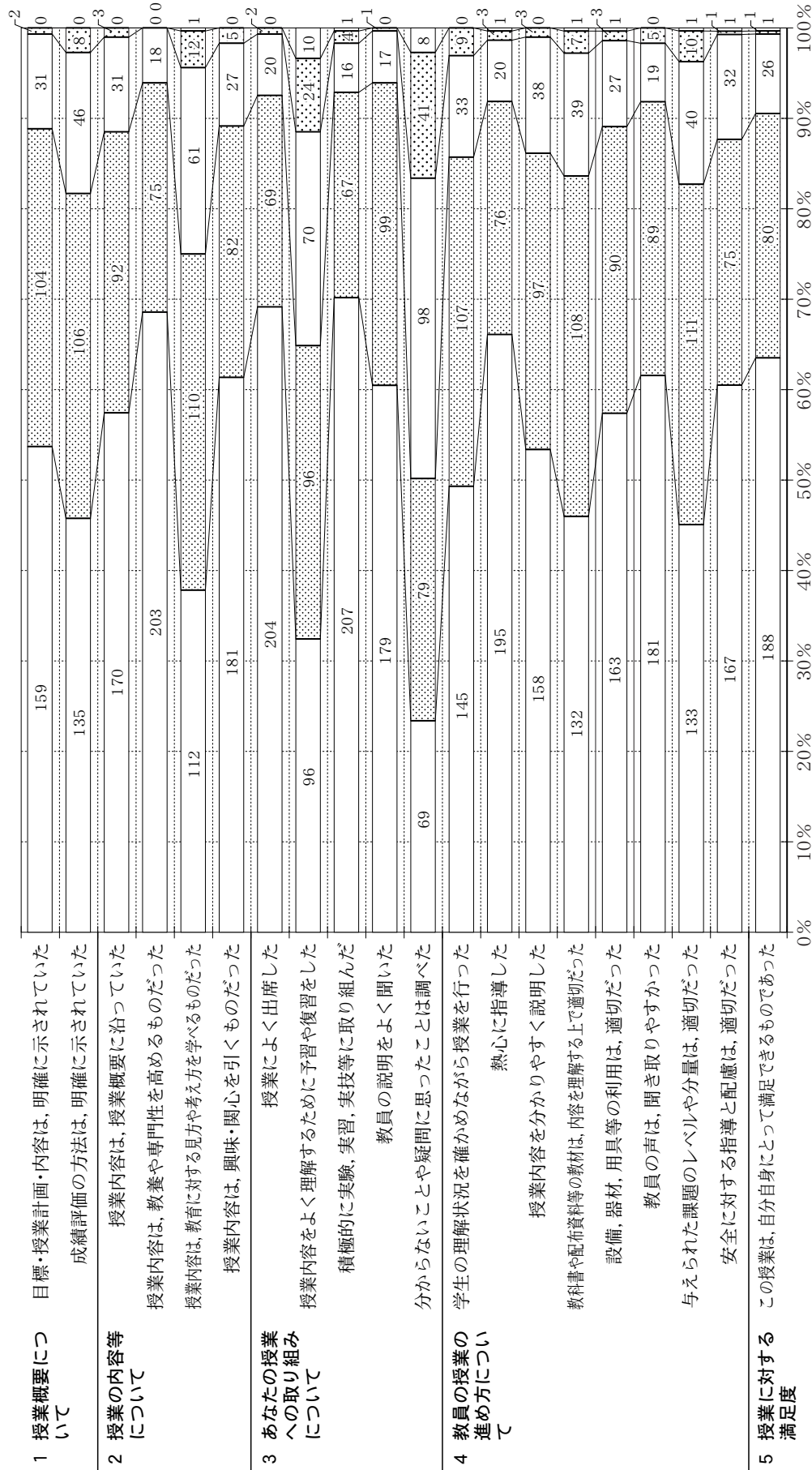
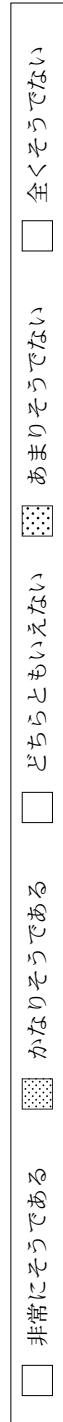


図9 専修専門科目(実験・実習・実技)に対する評価結果

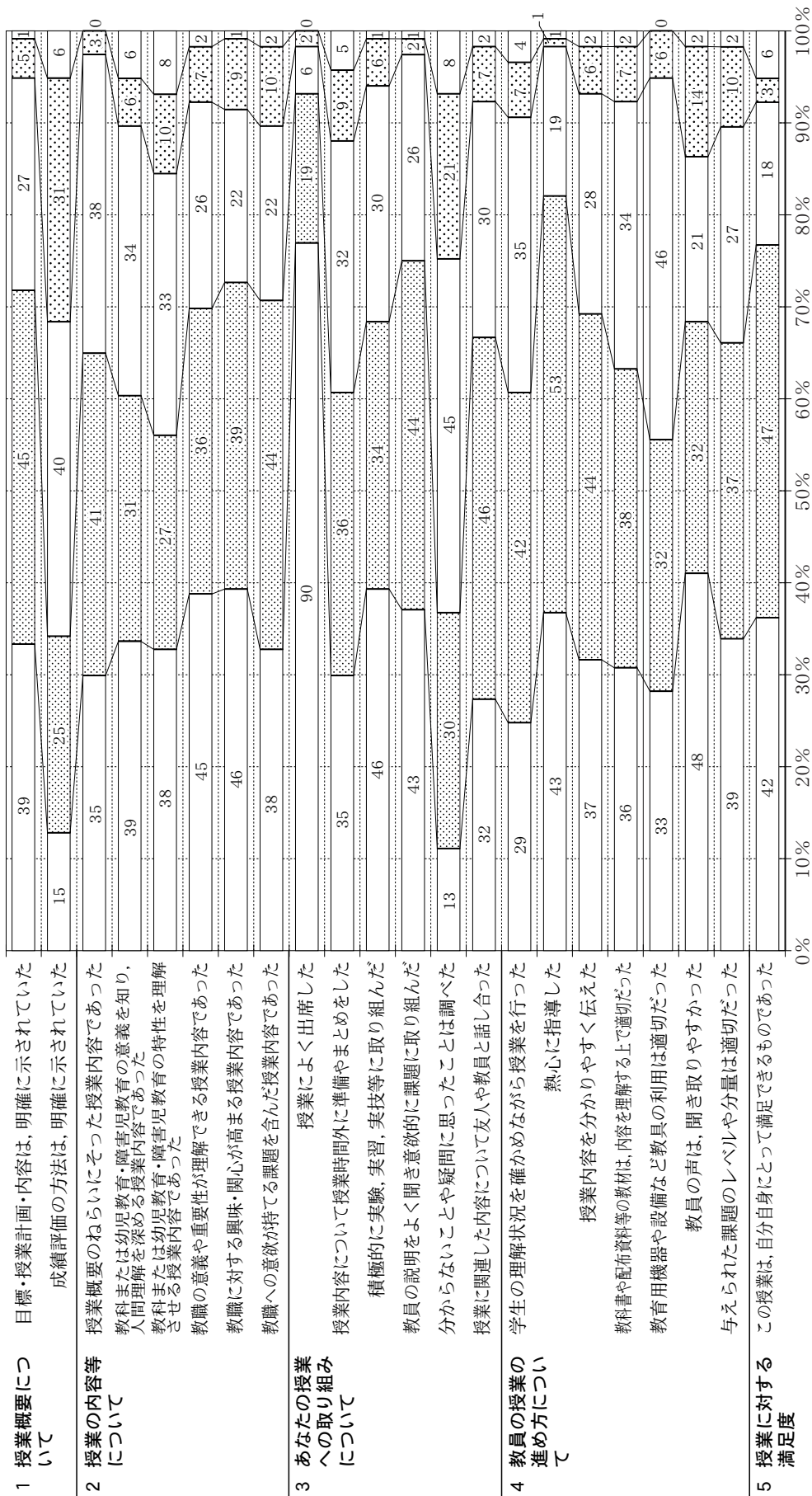
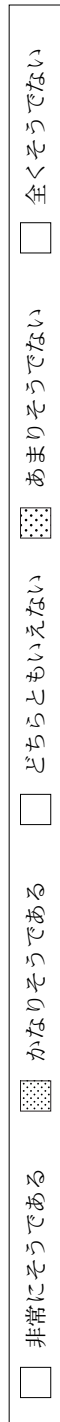


図10 教育実践コア科目(基礎演習)に対する評価結果

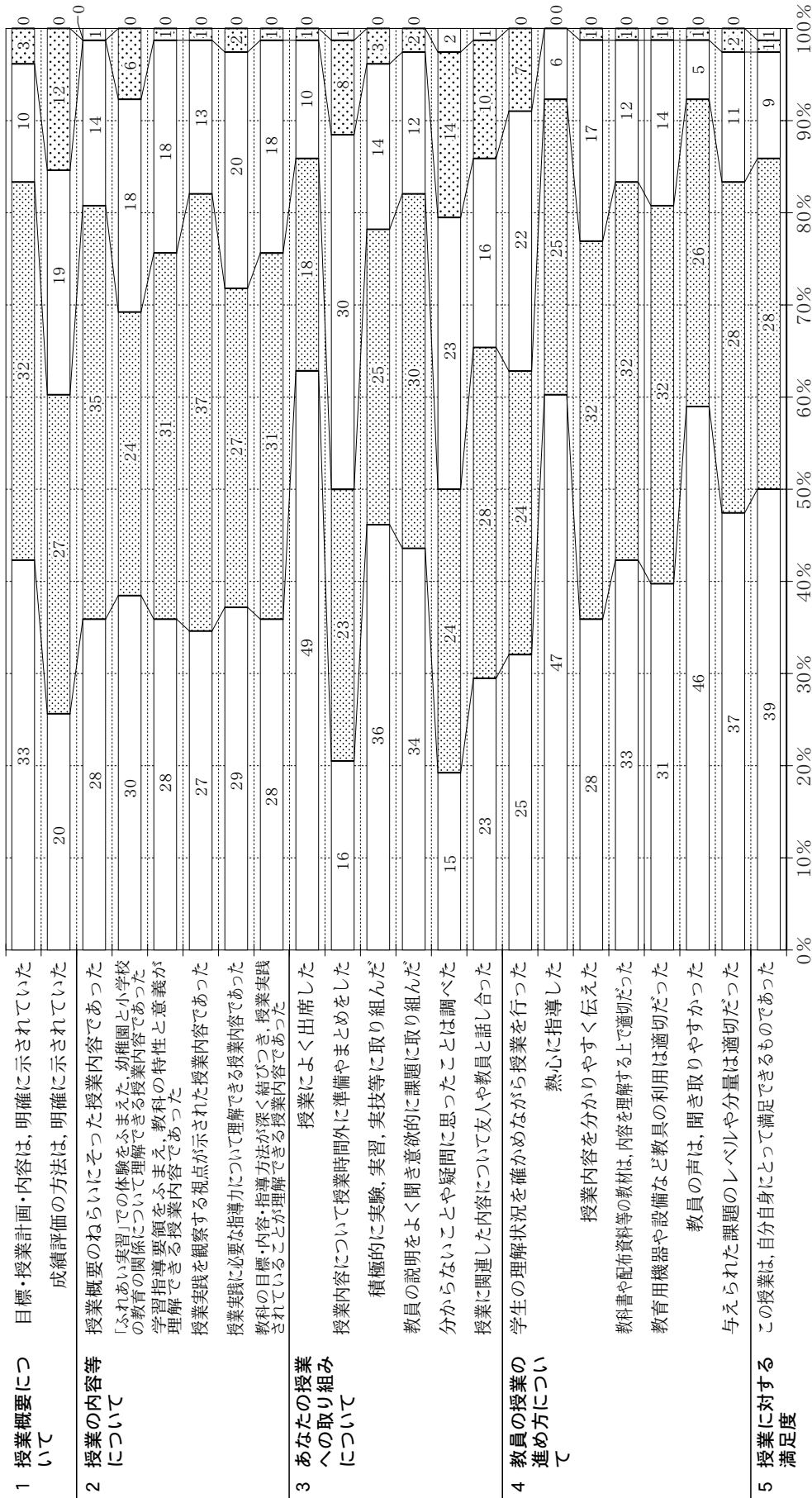
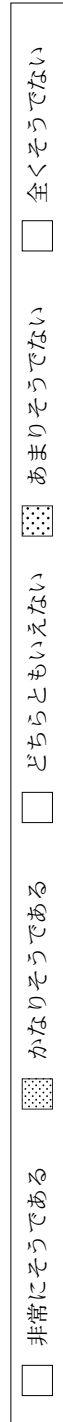


図11 教育実践コア科目(教科教育実践Ⅰ)に対する評価結果

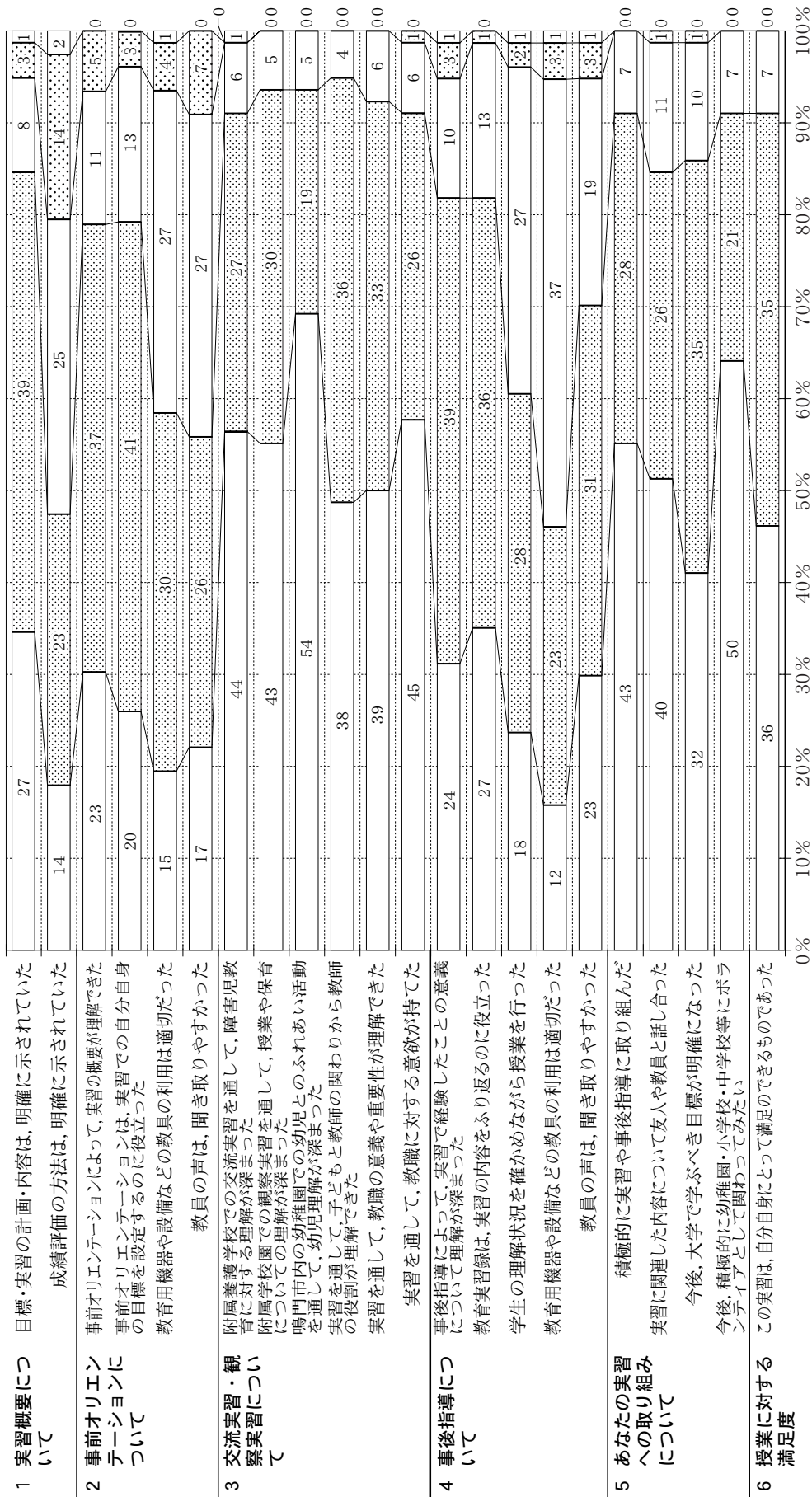
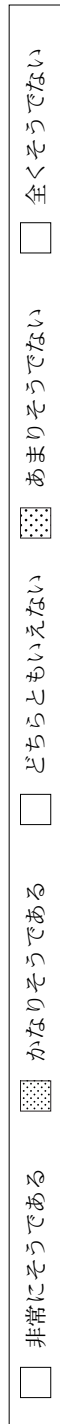


図12 教育実践コア科目(ふれあい実習)に対する評価結果

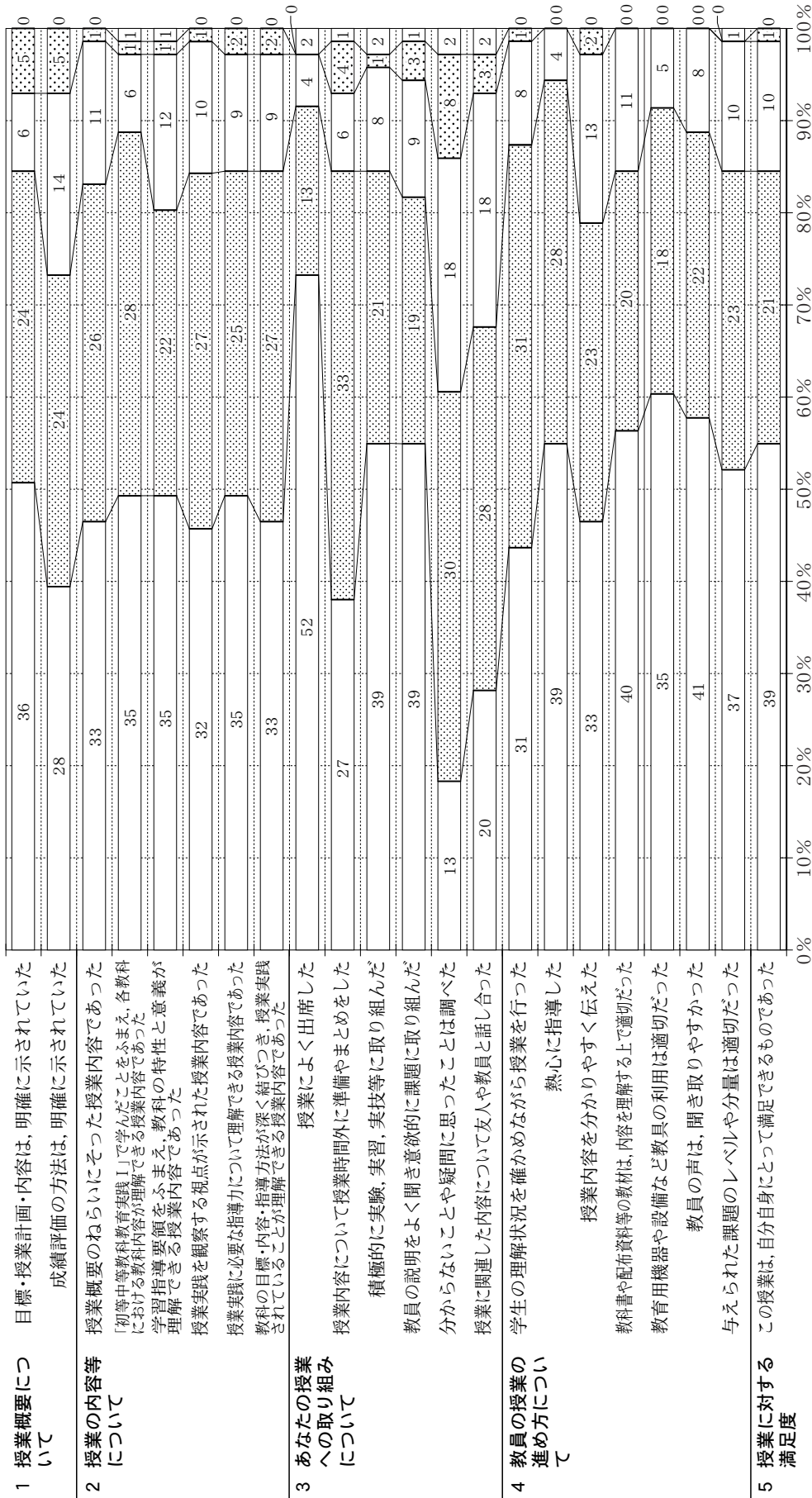
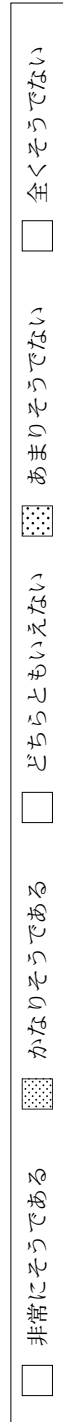


図13 教育実践コア科目(初等中等教科教育実践Ⅱ)に対する評価結果

様式 1 (主として講義用)

平成 18 年度 授業 評価 アンケート

評価実施日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

授業科目名 _____ 前期・後期 _____ 曜日 _____ 時限 _____

授業区分 1. 教養基礎科目 2. 教職(基礎・共通)科目 3. 専修専門科目

担当教員名 _____ 受講者数 _____ 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。 4. かなりそうである。 3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。 1. 全くそうでない。



1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (7) 授業によく出席した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(10) 教員の説明をよく聞いた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
(13) 学生が参加しやすい授業だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(14) 熱心に指導した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(15) 授業内容を分かりやすく説明した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(19) 授業の進む速さは、適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度

- (20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 ⑤ ④ ③ ② ①

6 あなたからの提言

(21) この授業でよかったことを書いてください。

(22) この授業で改善したほうがよいと思うことを書いてください。

7 先の(1)から(20)の項目以外で、本授業で設定する項目

- | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|
| (1) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (2) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

【ご協力ありがとうございました。】

注 この頁は、6と7の順番を変えても、7の項目を増減しても結構です。先生方の独自の授業評価アンケートに加工することが可能な頁です。ただし、6の(21)と(22)の項目に相当する提言は必ず学生に書かせてください。

様式2 (主として演習用)

平成18年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日

授業科目名 前期・後期 曜日 時限

授業区分 1. 教養基礎科目 2. 教職(基礎・共通)科目 3. 専修専門科目

担当教員名 受講者数 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。 4. かなりそうである。 3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。 1. 全くそうでない。



1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (7) 授業によく出席した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(10) 積極的に課題に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
(13) 学生参加型の授業だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(14) 熱心に指導した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(15) 授業内容を分かりやすく説明した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(18) 授業の進む速さは、適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度

- (20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 ⑤ ④ ③ ② ①

6 あなたからの提言

(21) この授業でよかったことを書いてください。

(22) この授業で改善したほうがよいと思うことを書いてください。

7 先の(1)から(20)の項目以外で、本授業で設定する項目

- | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|
| (1) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (2) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

【ご協力ありがとうございました。】

注 この頁は、6と7の順番を変えても、7の項目を増減しても結構です。先生方の独自の授業評価アンケートに加工することが可能な頁です。ただし、6の(21)と(22)の項目に相当する提言は必ず学生に書かせてください。

様式3 (主として実験・実習・実技用)

平成18年度授業評価アンケート

評価実施日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

授業科目名 _____ 前期・後期 _____ 曜日 _____ 時限 _____

授業区分 1. 教養基礎科目 2. 教職(基礎・共通)科目 3. 専修専門科目

担当教員名 _____ 受講者数 _____ 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。 4. かなりそうである。 3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。 1. 全くそうでない。



1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (7) 授業によく出席した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
(10) 教員の説明をよく聞いた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
(13) 熱心に指導した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(14) 授業内容を分かりやすく説明した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度

- (20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 ⑤ ④ ③ ② ①

6 あなたからの提言

(21) この授業でよかったことを書いてください。

(22) この授業で改善したほうがよいと思うことを書いてください。

7 先の(1)から(20)の項目以外で、本授業で設定する項目

- | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|
| (1) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (2) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

【ご協力ありがとうございました。】

注 この頁は、6と7の順番を変えても、7の項目を増減しても結構です。先生方の独自の授業評価アンケートに加工することが可能な頁です。ただし、6の(21)と(22)の項目に相当する提言は必ず学生に書かせてください。

様式4 (教育実践コア科目用)

平成18年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日

前期 曜日 時限

・幼児教育実践基礎演習

授業科目名 ・初等中等教育実践基礎演習 (コース)

・障害児教育実践基礎演習

授業区分 教育実践コア科目

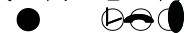
担当教員名 受講者数 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた (良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。 4. かなりそうである。 3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。 1. 全くそうでない。

マークのしかた
良い例 悪い例



1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (9) 授業によく出席した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
(16) 熱心に指導した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度について

- (22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 ⑤ ④ ③ ② ①

6 あなたからの提言

(23) この授業でよかったことを書いてください。

(24) この授業で改善したほうがよいと思うことを書いてください。

7 先の(1)から(22)の項目以外で、本授業で設定する項目

- | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|
| (1) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (2) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

【ご協力ありがとうございました。】

注 この頁は、6と7の順番を変えても、7の項目を増減しても結構です。先生方の独自の授業評価アンケートに加工することが可能な頁です。ただし、6の(23)と(24)の項目に相当する提言は必ず学生に書かせてください。

平成18年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日
後期 曜日 時限

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅰ (コース)

授業区分 教育実践コア科目

担当教員名 _____ 受講者数 _____ 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。 4. かなりそうである。 3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。 1. 全くそうでない。



1 授業概要について

- | | | | | | |
|----------------------------|---|---|---|---|---|
| (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

2 授業の内容等について

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| (3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

3 あなたの授業への取り組みについて

- | | | | | | |
|--------------------------------|---|---|---|---|---|
| (9) 授業によく出席した。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

4 教員の授業の進め方について

- | | | | | | |
|------------------------------------|---|---|---|---|---|
| (15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (16) 熱心に指導した。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (17) 授業内容を分かりやすく伝えた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (20) 教員の声は、聞き取りやすかった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

5 授業に対する満足度について

- | | | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|---|---|
| (22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
|---------------------------------|---|---|---|---|---|

6 あなたからの提言

(23) この授業でよかったことを書いてください。

(24) この授業で改善したほうがよいと思うことを書いてください。

7 先の(1)から(22)の項目以外で、本授業で設定する項目

- | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|
| (1) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (2) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

【ご協力ありがとうございました。】

注 この頁は、6と7の順番を変えても、7の項目を増減しても結構です。先生方の独自の授業評価アンケートに加工することが可能な頁です。ただし、6の(23)と(24)の項目に相当する提言は必ず学生に書かせてください。

平成18年度授業評価アンケート

評価実施日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

授業科目名 ふれあい実習

集中講義

授業区分 教育実践コア科目

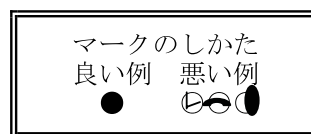
担当教員名 _____

受講者数 _____ 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。4. かなりそうである。3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。1. 全くそうでない。



1 実習概要について

- (1) 目標・実習の計画・内容は、明確に示されていた。
(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。

⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①

2 事前オリエンテーションについて

- (3) 事前オリエンテーションによって、実習の概要が理解できた。
(4) 事前オリエンテーションは、実習での自分自身の目標を設定するのに役立った。
(5) 教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。
(6) 教員の声は、聞き取りやすかった。

⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①

3 交流実習・観察実習について

- (7) 附属養護学校での交流実習を通して、障害児教育に対する理解が深まった。
(8) 附属学校園での観察実習を通して、授業や保育についての理解が深まった。
(9) 鳴門市内の幼稚園での幼児とのふれあい活動を通して、幼児理解が深まった。
(10) 実習を通して、子どもと教師の関わりから教師の役割が理解できた。
(11) 実習を通して、教職の意義や重要性が理解できた。
(12) 実習を通して、教職に対する意欲が持てた。

⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①

4 事後指導について

- (13) 事後指導によって、実習で経験したことの意義について理解が深まった。
(14) 教育実習録は、実習の内容をふり返るのに役立った。
(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。
(16) 教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。
(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。

⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①

5 あなたの实習への取り組みについて

- (18) 積極的に実習や事後指導に取り組んだ。
(19) 実習に関連した内容について友人や教員と話し合った。
(20) 今後、大学で学ぶべき目標が明確になった。
(21) 今後、積極的に幼稚園・小学校・中学校等にボランティアとして関わってみたい。

⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①

6 授業に対する満足度

- (22) この実習は、自分自身にとって満足のできるものであった。

⑤ ④ ③ ② ①

7 あなたからの提言

(23) この実習でよかったことを書いてください。

(24) この実習で改善したほうがよいと思うことを書いてください。

【ご協力ありがとうございました。】

平成 18 年度 授業 評価 アンケート

	評価実施日	年	月	日
授業科目名	後期	曜日	時間	
授業区分				
担当教員名	受講者数			
	名			

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。 4. かなりそうである。 3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。 1. 全くそうでない。



- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 1 授業概要について | | | | | |
| (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 2 授業の内容等について | | | | | |
| (3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 3 あなたの授業への取り組みについて | | | | | |
| (9) 授業によく出席した。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 4 教員の授業の進め方について | | | | | |
| (15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (16) 熱心に指導した。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (17) 授業内容を分かりやすく伝えた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (20) 教員の声は、聞き取りやすかった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 5 授業に対する満足度について | | | | | |
| (22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

6 あなたからの提言

(23) この授業でよかったことを書いてください。

(24) この授業で改善したほうがよいと思うことを書いてください。

7 先の(1)から(22)の項目以外で、本授業で設定する項目

- | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|
| (1) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (2) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

【ご協力ありがとうございました。】

注 この頁は、6と7の順番を変えても、7の項目を増減しても結構です。先生方の独自の授業評価アンケートに加工することが可能な頁です。ただし、6の(23)と(24)の項目に相当する提言は必ず学生に書かせてください。

III

学部授業評価の 結果報告書

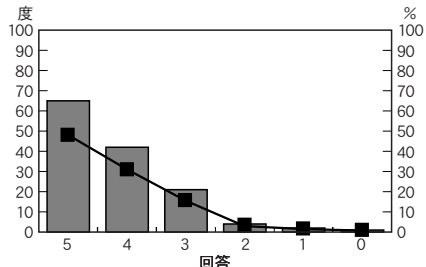
教 養 基 礎 科 目

授業科目名：「日本国憲法」
 評価実施日：平成 18 年 8 月 1 日
 担当教員名：麻生 多聞

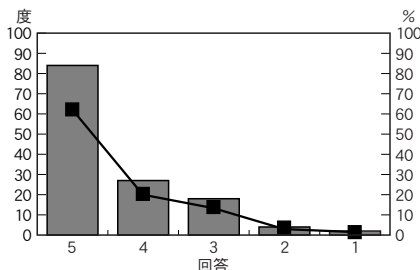
(有効な合計 135)

■ 度 ■ %

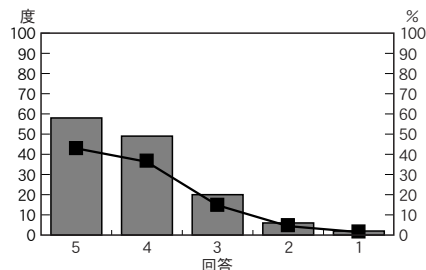
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



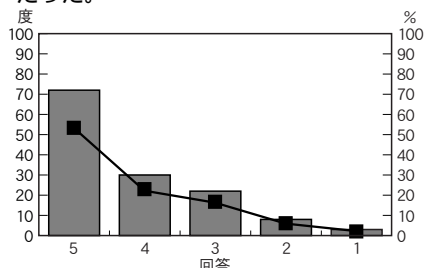
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



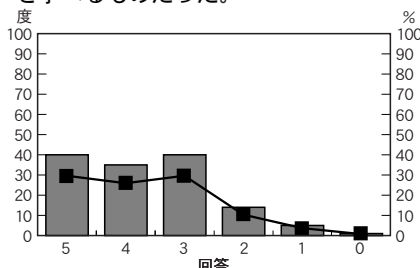
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



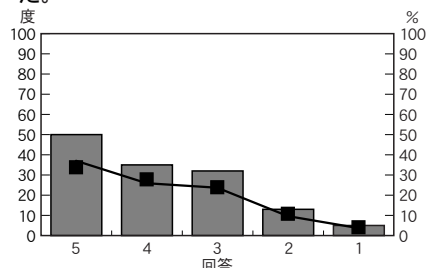
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



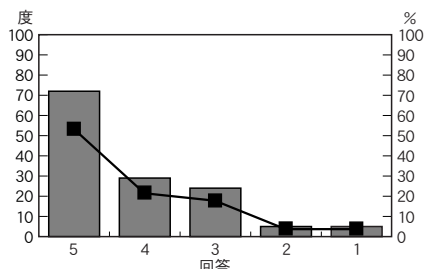
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



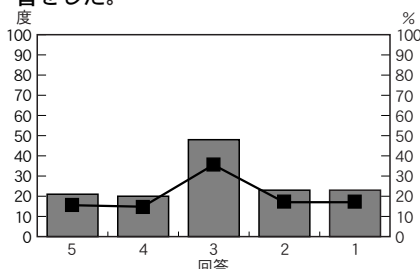
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



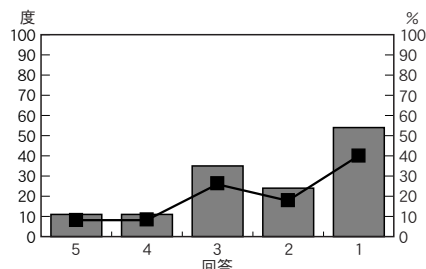
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



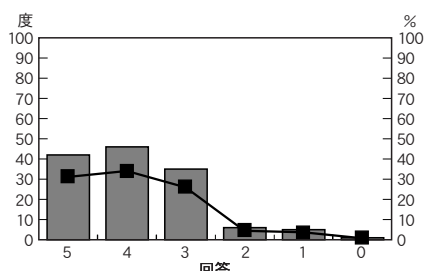
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



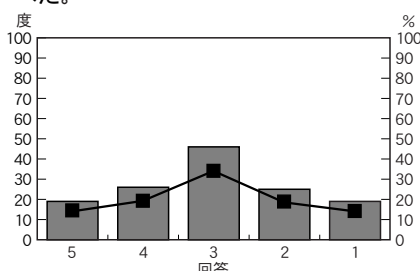
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



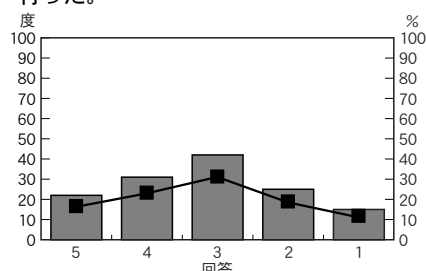
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



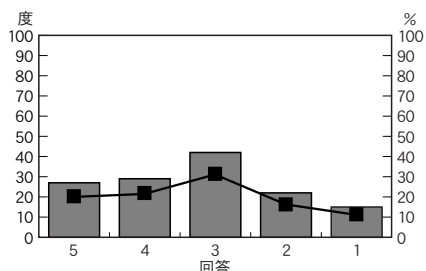
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



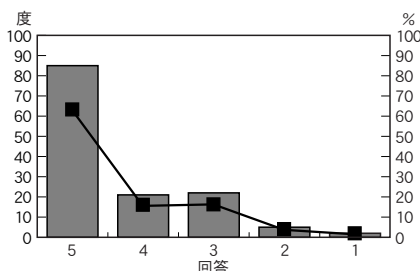
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



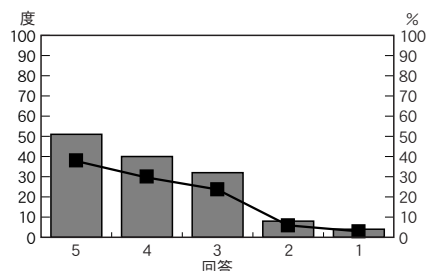
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



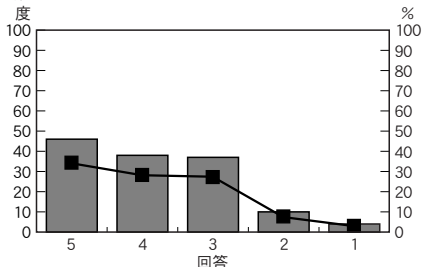
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



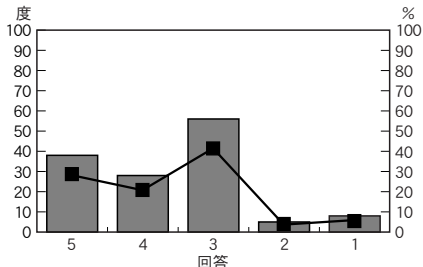
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



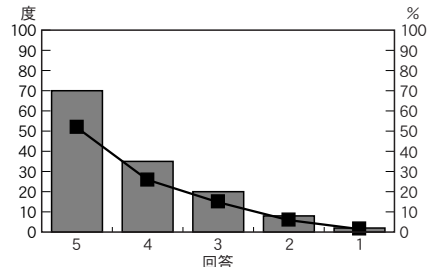
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



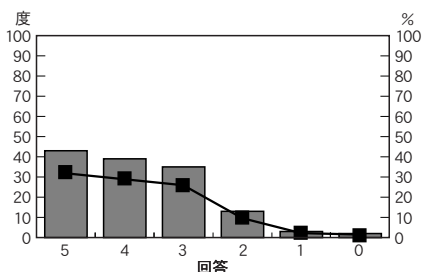
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



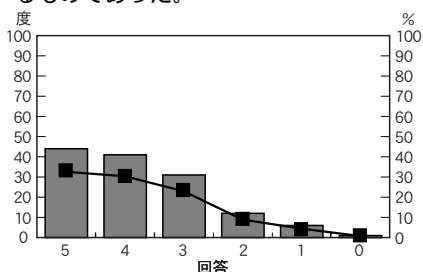
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

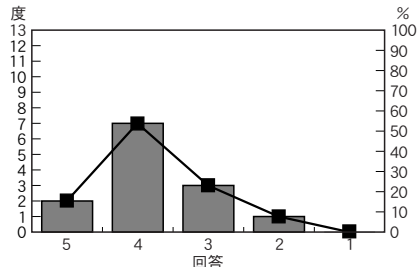
大教室での講義ということもあり、集中力を維持することが難しいかもしれませんが、毎週出席率もよく、静かに受講してもらえますので、とてもやりがいを感じています。また、講義後にも質問を提示する学生も多く、質問の内容から講義を真剣に聴講していることがうかがえます。せっかくですから、質問を講義時間内に、他の学生の前で提示してもらえると、問題意識の共有につながりますし、またその質問を踏まえて講義内容も展開されていきますので、恥ずかしがらずに講義中に質問をしてみてください。

授業科目名：「脳と心の科学」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 5 日
 担当教員名：井上 和臣, 田中 淳一

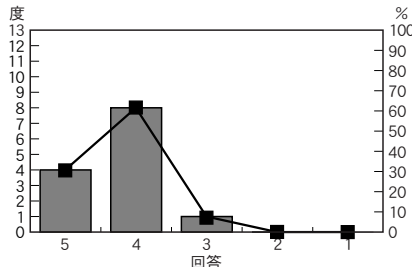
(有効な合計13)

■ 度 ■ %

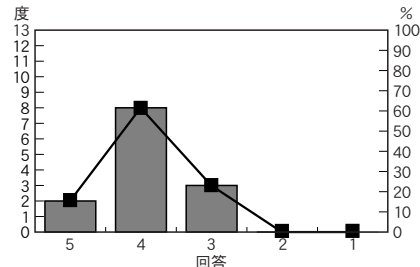
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



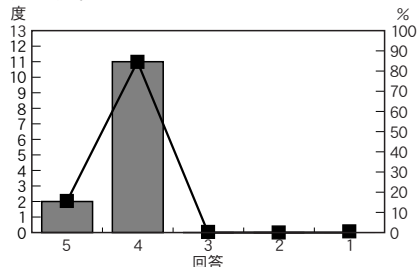
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



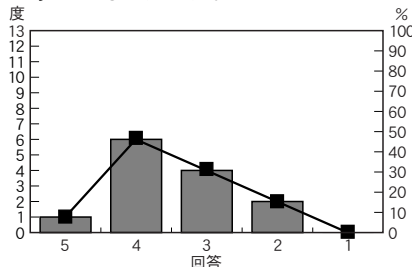
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



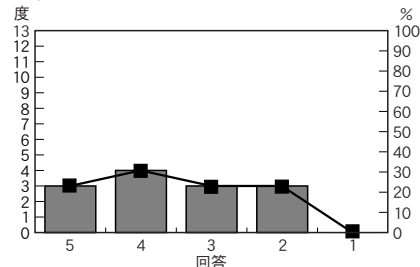
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



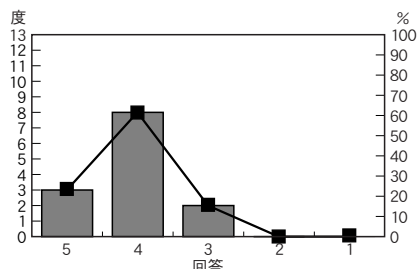
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



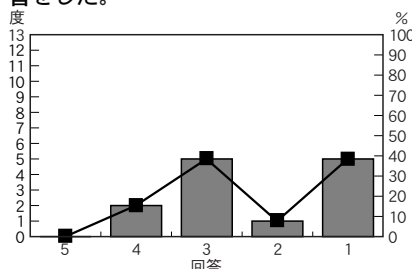
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



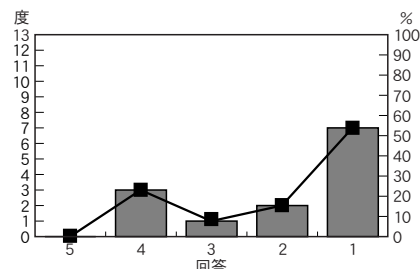
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



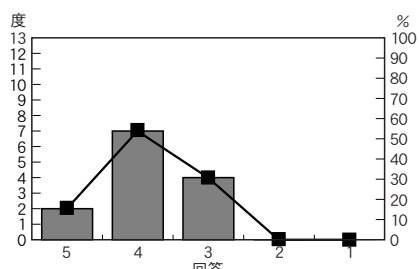
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



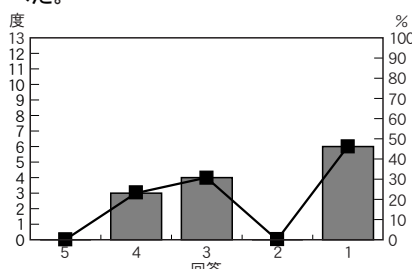
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



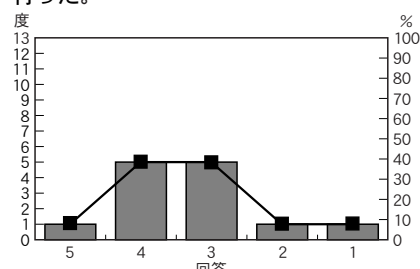
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



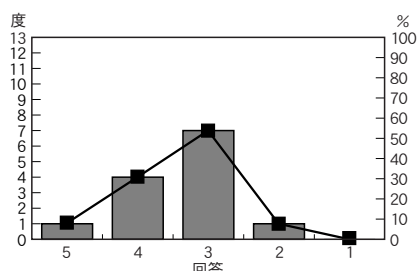
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



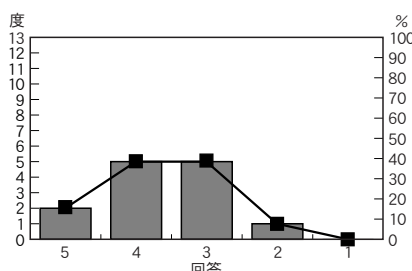
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



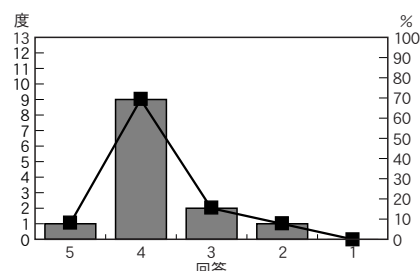
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



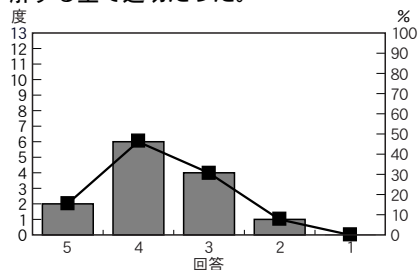
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



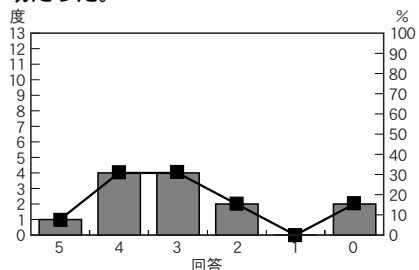
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



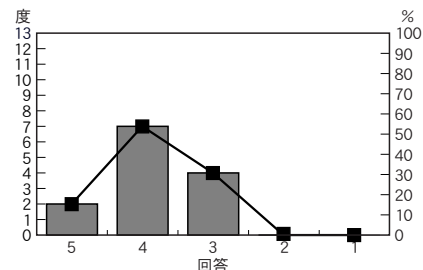
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



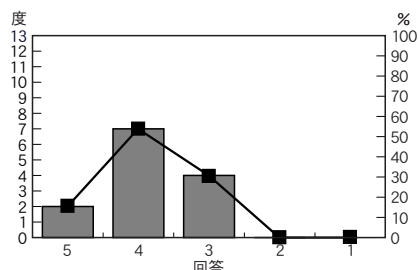
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



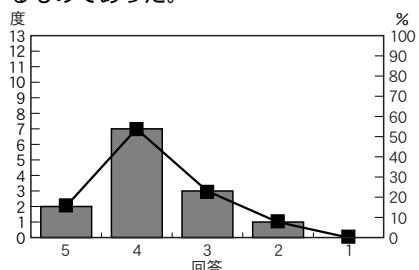
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

目標・授業計画および成績評価の方法については、おおむね明確に示されていたとの評価が得られた。授業内容は、専門性が強いことから、理解を深めるように用語等の詳細な説明を行うよう心掛けた。授業内容に関しては、授業概要に従っており、教養や専門性を高めるものであったと評価されたが、興味・関心を引くものかどうかという点においては、学生の意見が分かれた。授業内容の選択には、考慮しなくてはならないことが指摘された。学生の出席状況は良く、教員の説明をよく聞いているが、授業への積極的な参加および予習と復習状況については、改善を要することが示された。学生に内容理解のために予習と復習を勧め、また学生との対話を介して内容の理解を促す様な授業展開をし、学生がより参加しやすい授業になるように努力することが必要であると考えられる。教授方法や授業の進め方等は、ある程度の評価が得られているものと思われる。学生にとっての授業の満足度は、良好であったと判断される。

授業科目名：「統計概論」

評価実施日：平成 18 年 7 月 10 日

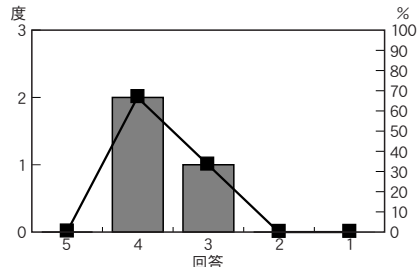
担当教員名：鳥巢 伊知郎

(有効な合計 3)

■ 度 ■ %

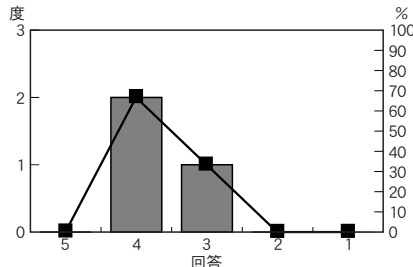
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



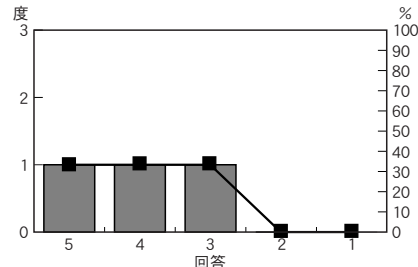
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



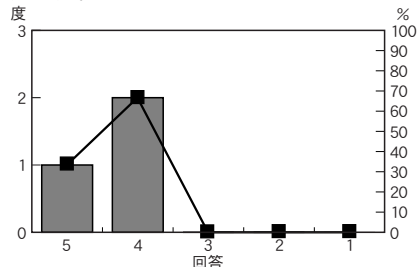
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



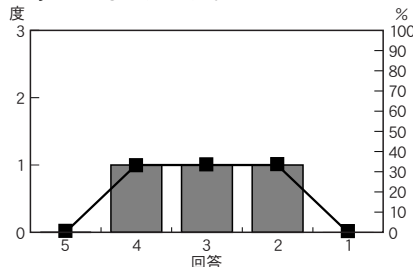
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



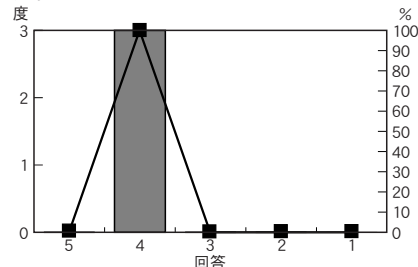
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



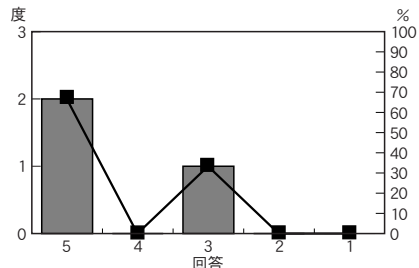
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



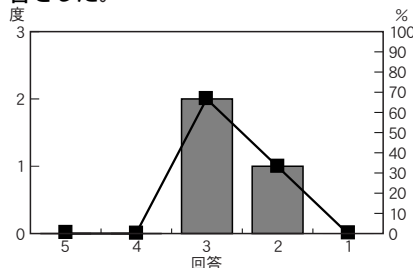
項目分析：(7)

授業によく出席した。



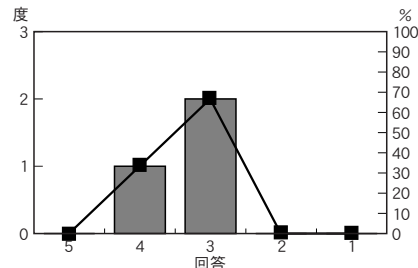
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



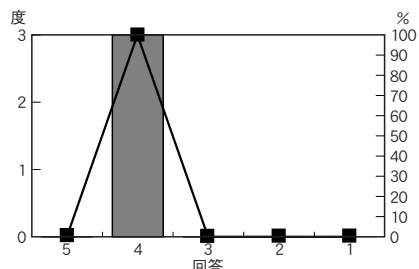
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



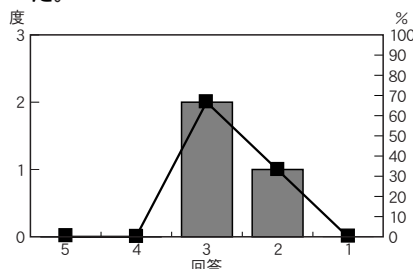
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



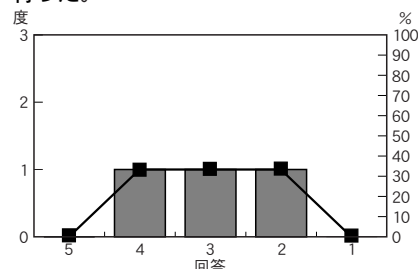
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



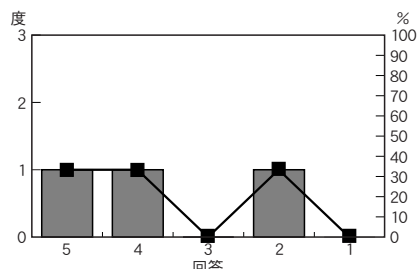
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



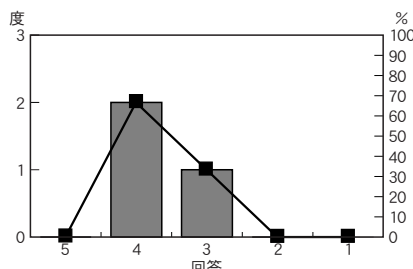
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



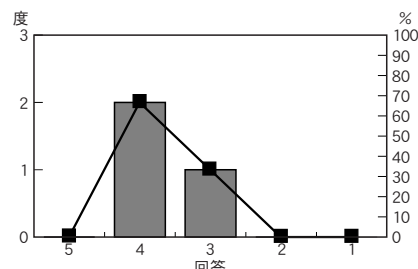
項目分析：(14)

熱心に指導した。

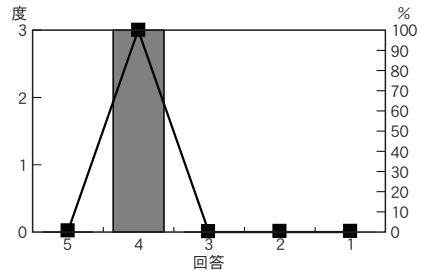


項目分析：(15)

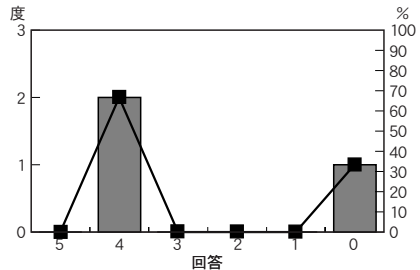
授業内容を分かりやすく説明した。



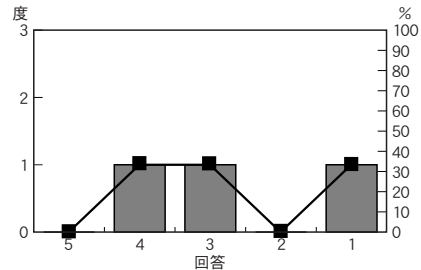
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



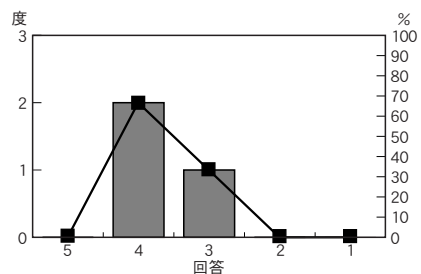
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



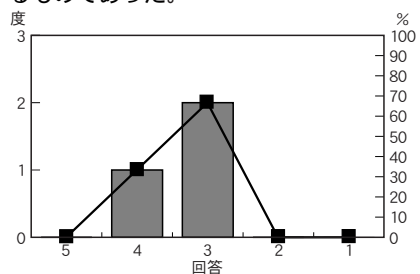
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

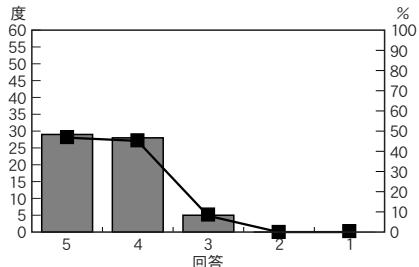
毎回の受講者数は平均2名程度であった。初学者には難解な統計解析の数学的な証明部分があったにもかかわらず、最後までついてきてくれた者もあった。

授業科目名：「実践情報教育Ⅱ」
 評価実施日：平成18年7月28日
 担当教員名：曾根 直人

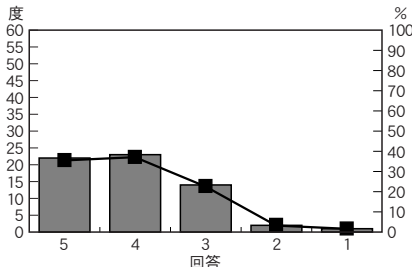
(有効な合計62)

■ 度 ■ %

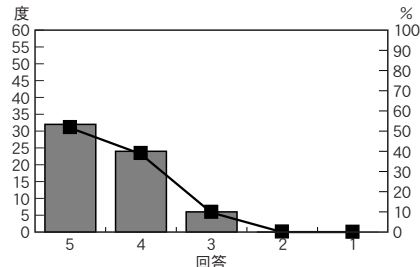
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



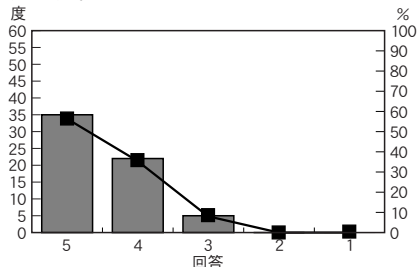
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



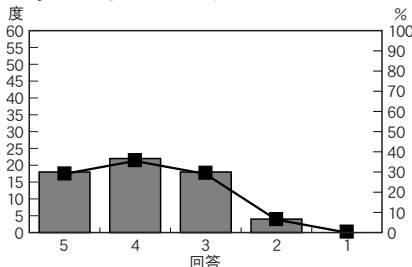
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



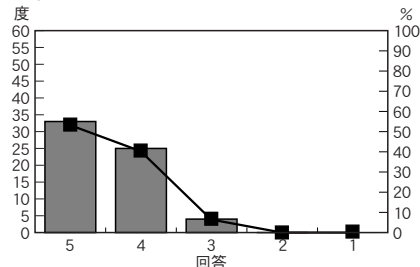
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



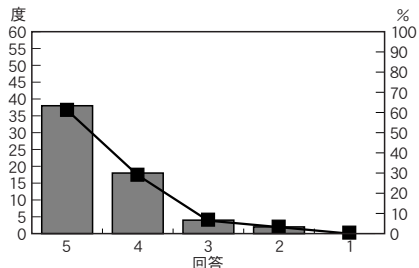
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



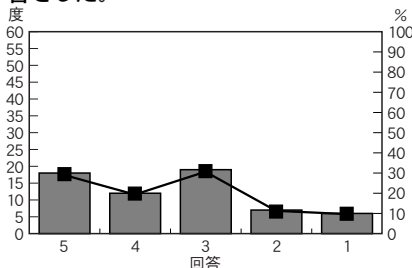
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



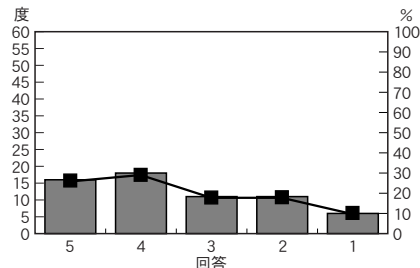
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



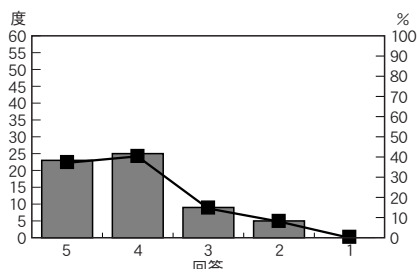
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



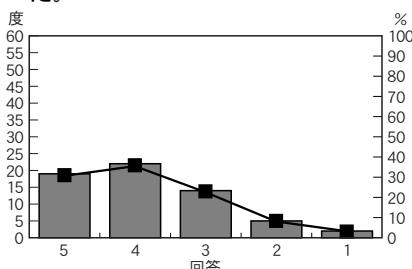
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



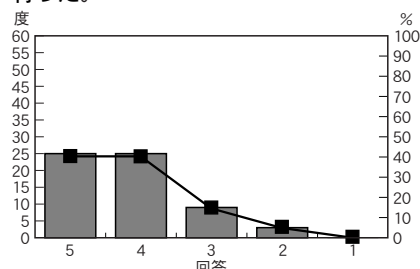
項目分析：(10)
 積極的に課題に取り組んだ。



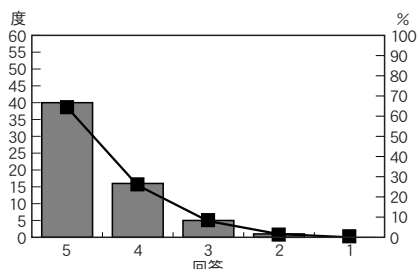
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



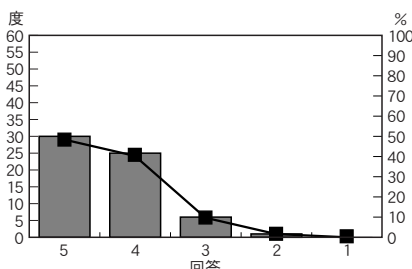
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



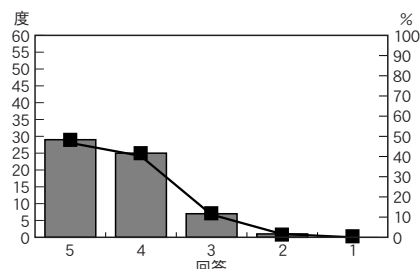
項目分析：(13)
 学生参加型の授業だった。



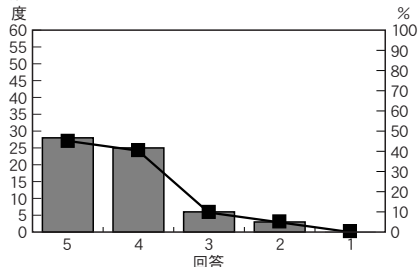
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



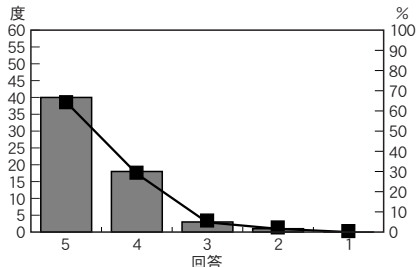
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



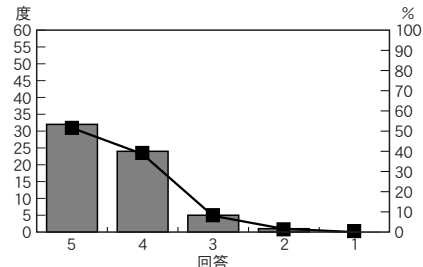
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



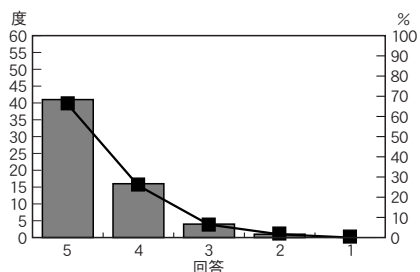
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



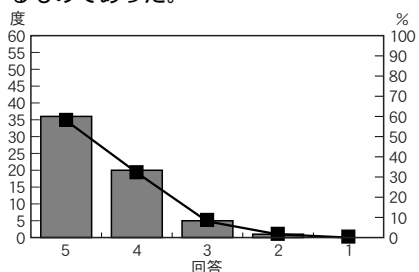
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

アンケートの結果より、授業に対する学生の興味は非常に高かった事が伺える。一方、復習への取り組みが消極的であったことも分かった。

興味が高かったのは演習の内容としてホームページ作成や写真の加工、動画編集といったすぐに活用できるものを取り上げたためと考えられる。コンピュータを活用するためには各種ソフトの操作に慣れる必要があり、授業への興味の高さをそのまま日常的なコンピュータの利用へとつなげてもらいたい。

復習への取り組みが消極的だった理由を想像すると、一部特殊な機材が必要なため手持ちのコンピュータだけでは出来なかったことが考えられる。授業では、できる限りフリーソフトを利用したり、機材を貸し出すなど大学以外でも課題に取り組めるよう配慮したつもりだったが、まだ不十分ようである。また、グループでの作業を行ったが介護実習等の理由で欠席する学生が多く、全体としての作業が進まないグループがあった。グループを分けた際に、各自の介護実習の予定などを考慮して作業計画を立てるように指示する必要性を感じた。

授業科目名：「英語リーディング I B」

評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日

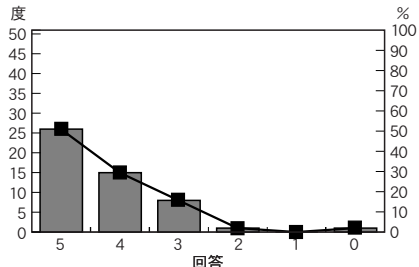
担当教員名：伊東 治己

(有効な合計51)

■ 度 ■ %

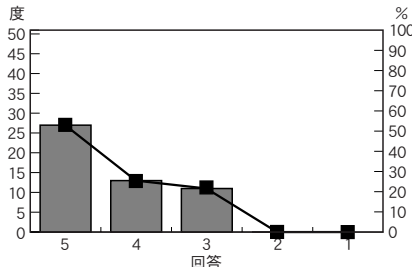
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



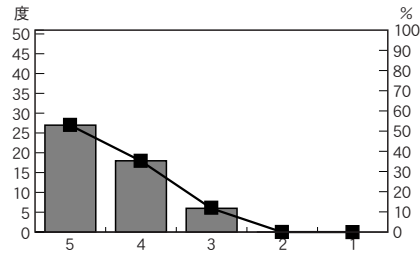
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



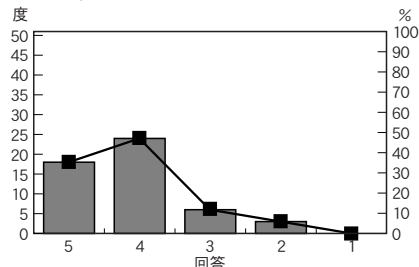
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



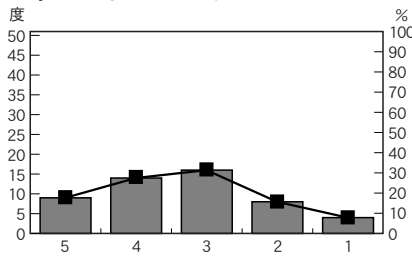
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



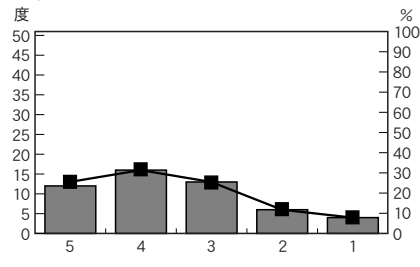
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



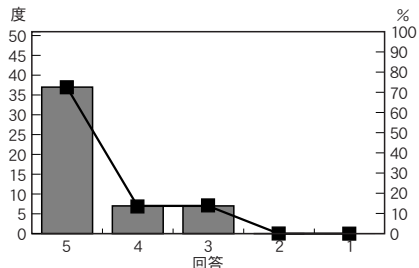
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



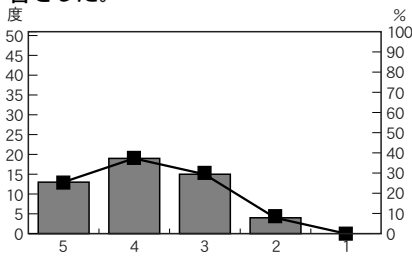
項目分析：(7)

授業によく出席した。



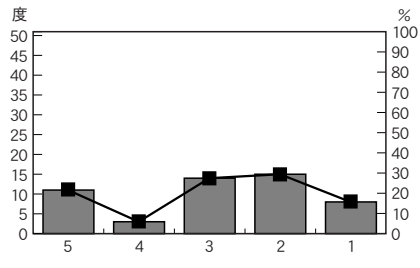
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



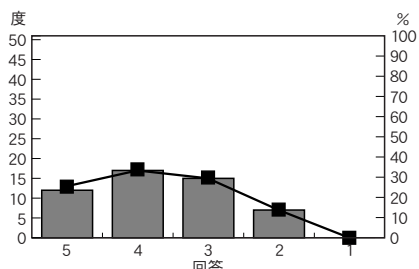
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



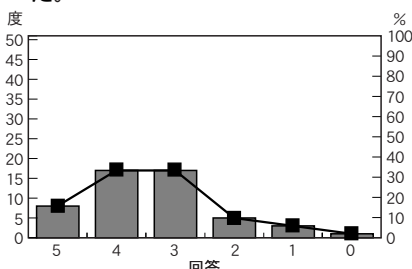
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



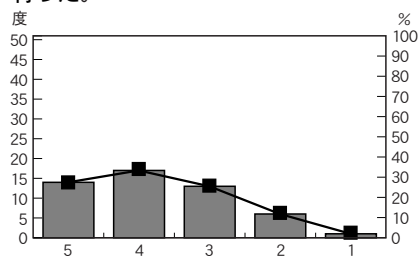
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



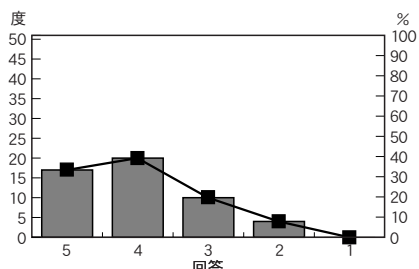
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



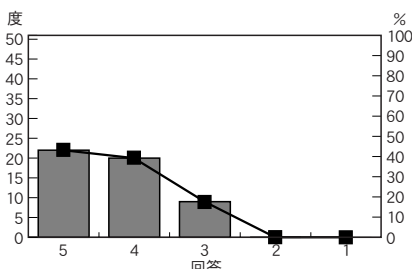
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



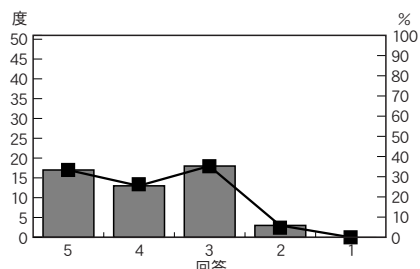
項目分析：(14)

熱心に指導した。

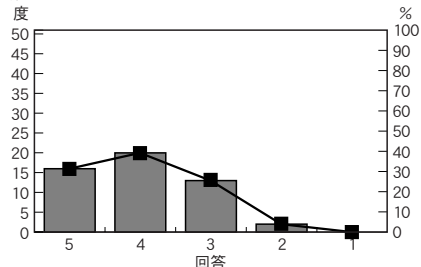


項目分析：(15)

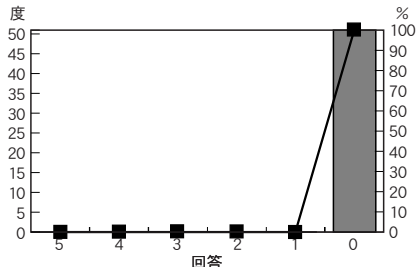
授業内容を分かりやすく説明した。



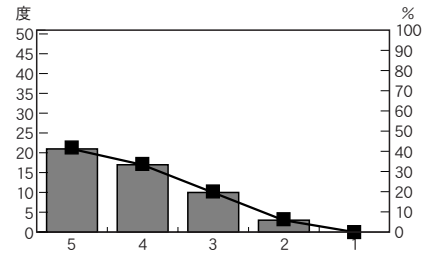
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



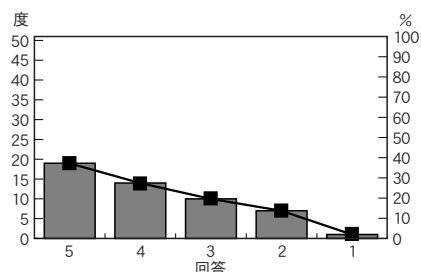
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



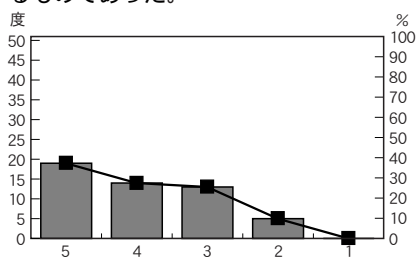
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は、英字新聞の記事及び時事的な話題を取り扱っている論説集を教材とし、国際化・情報化に対応できる英語リーディング能力、つまり、英語で書かれた内容を正確かつ迅速に読みこなす能力の育成を目指すものであった。授業評価の結果から判断する限り、受講生からは概ね好意的な評価を得られたものと思われる。特に、毎時間の授業の前半に行った英字新聞の記事を使ったリーディング活動は、使った記事が最新のものであったという事に加えて、空所補充というクイズ形式で行ったことも幸いして、比較的好意的に受け取られているようである。受講生からも、「英字新聞が楽しかった」「新聞記事の内容が最近の話題で、興味を引くものだった」「最近のニュースなども知れて良かった」「英語で書かれた新聞を毎時間読むことで、現在の問題と英語を学ぶことができた」などと、好意的な意見が多く寄せられた。ただ、「5 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」「9 授業中に積極的に発言や質問をした」「12 学生の理解状況を確認しながら授業を行った」「15 授業内容を分かりやすく説明した」については、まだまだ改善の余地が残されている。「20 この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」の回答状況も必ずしも良いとは言えない。外国語のクラスとしては珍しく、58名という多人数を対象としていたことも一部影響していると思われるが、今後、これらの反省点を考慮して、受講生がより積極的に参加できるような授業作りを心がけていきたい。

授業科目名：「健康・スポーツ学Ⅱ」

評価実施日：平成 18 年 6 月 27 日

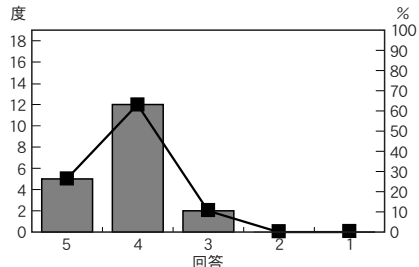
担当教員名：坂本 和丈

(有効な合計19)

■ 度 ■ %

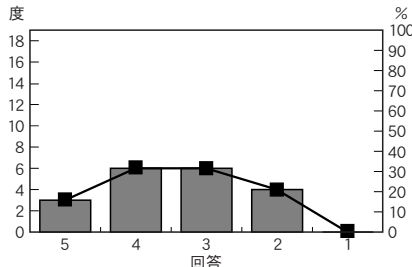
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



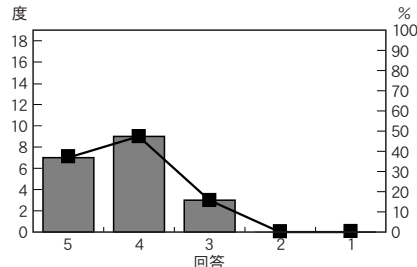
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



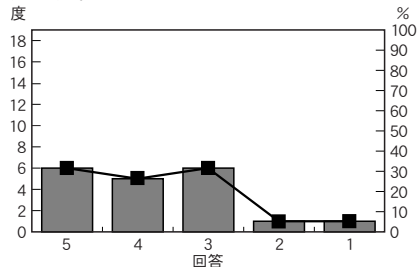
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



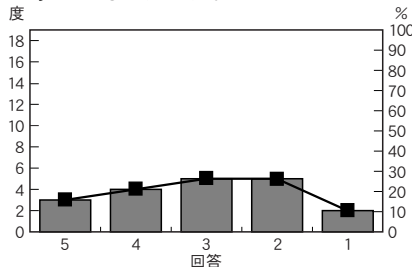
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



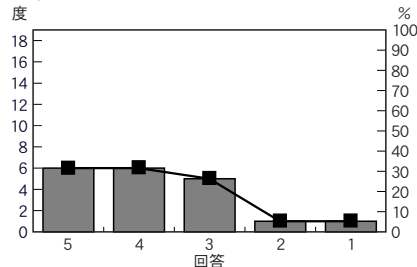
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



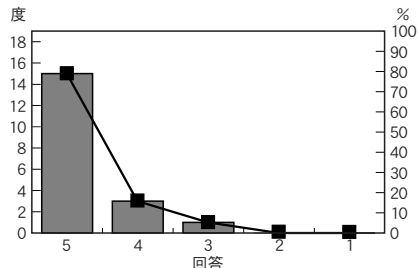
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



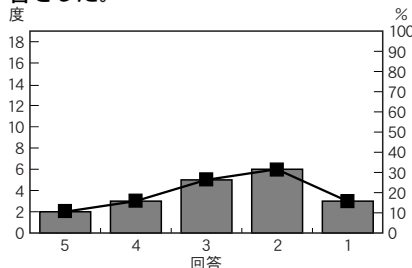
項目分析：(7)

授業によく出席した。



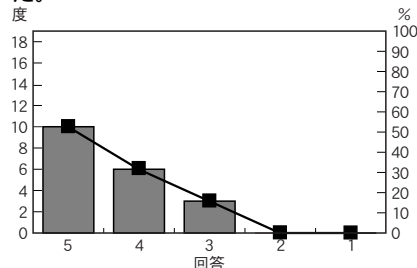
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



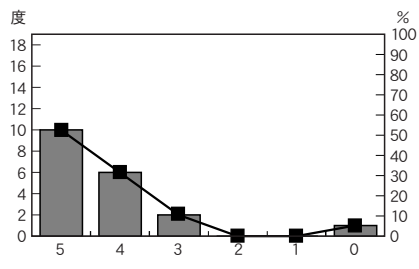
項目分析：(9)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



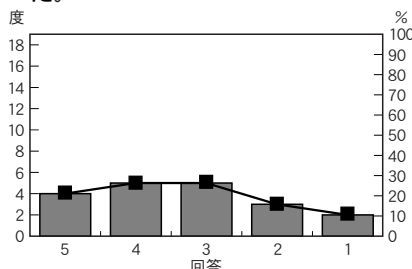
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



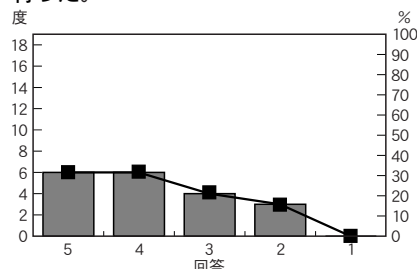
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



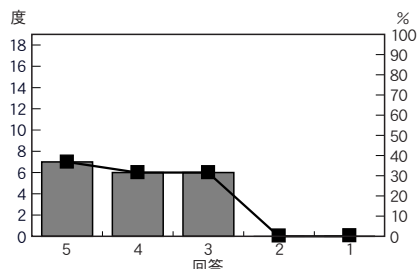
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



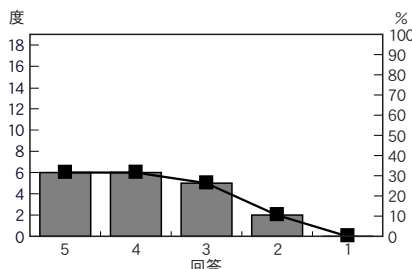
項目分析：(13)

熱心に指導した。



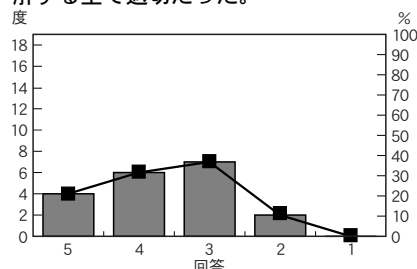
項目分析：(14)

授業内容を分かりやすく説明した。

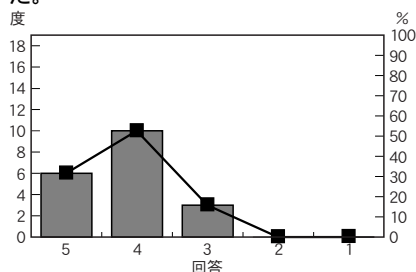


項目分析：(15)

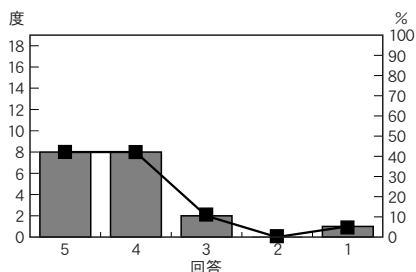
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



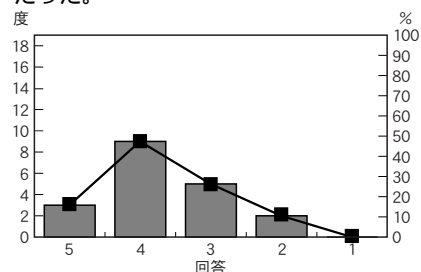
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



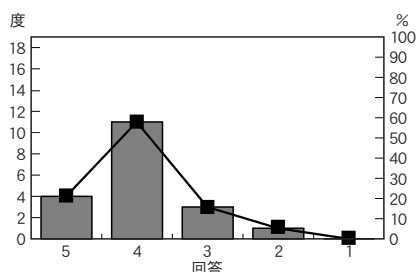
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



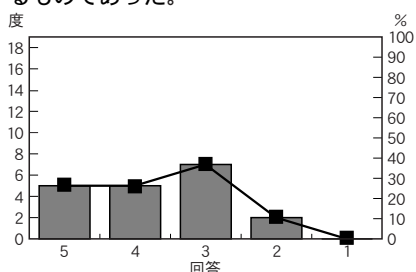
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

- 1 授業概要について、目標等の提示は評価が高いが、成績評価の方法については評価が低いように思われる。
- 2 授業の内容等について、授業内容と概要の一致度は比較的高いと評価しているが、教育の見方や考え方については評価が低い。
- 3 学生による授業への取り組みについて、出席、実技の学習、説明を聞くこと等の評価は高いが、予習・復習・疑問点の調べ等は低い評価であった。
- 4 教員の授業の進め方について、いずれの項目についても評価は比較的高いものであった。
- 5 授業に対する満足度について、学生は十分満足していると評価していない。

以上のことから、本実技授業は、授業の進め方や学生の取り組みの評価は比較的高いが、学生の授業外の努力や満足度は必ずしも高いとは言えない。これらの点については今後の検討課題である。

授業科目名：「健康・スポーツ学Ⅱ」

評価実施日：平成 18 年 11 月 14 日

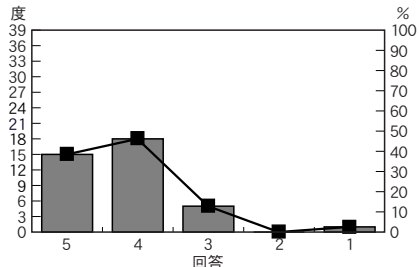
担当教員名：坂本 和丈

(有効な合計39)

■ 度 ■ %

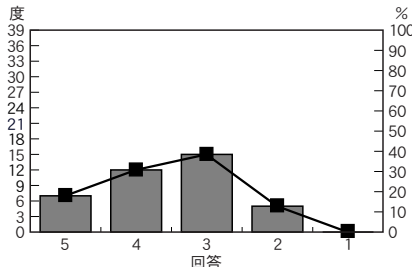
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



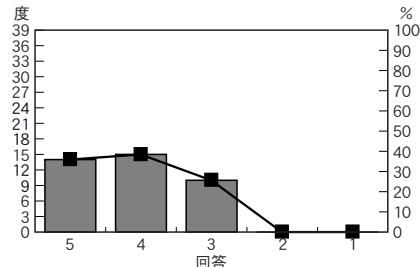
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



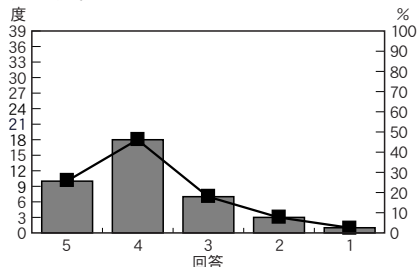
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



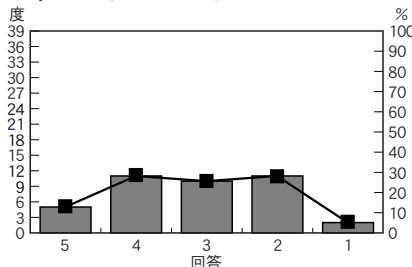
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



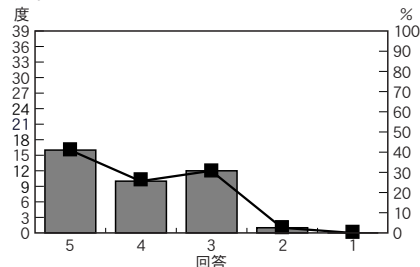
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



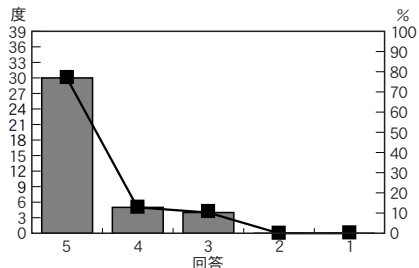
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



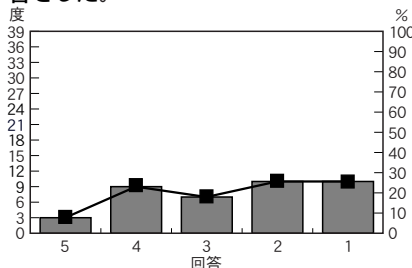
項目分析：(7)

授業によく出席した。



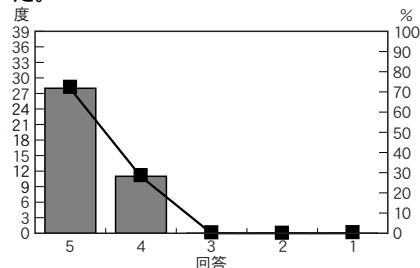
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



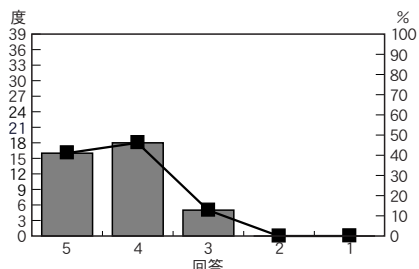
項目分析：(9)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



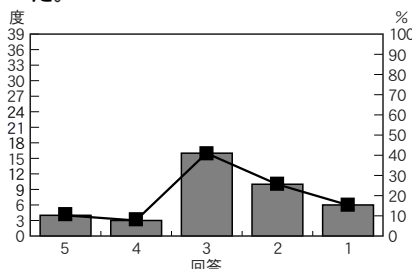
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



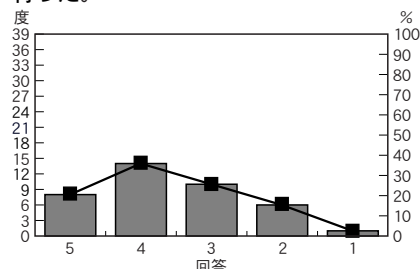
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



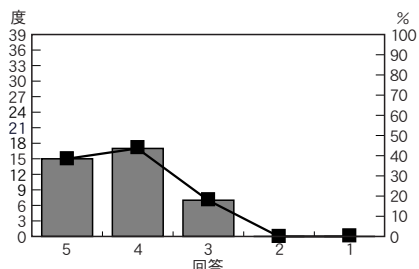
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



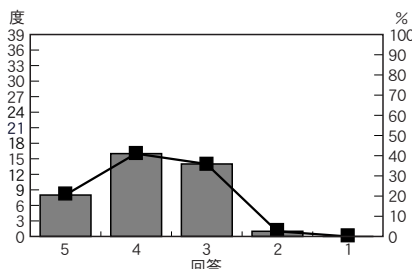
項目分析：(13)

熱心に指導した。



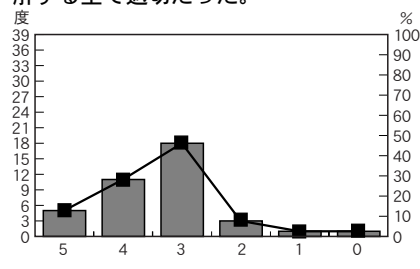
項目分析：(14)

授業内容を分かりやすく説明した。

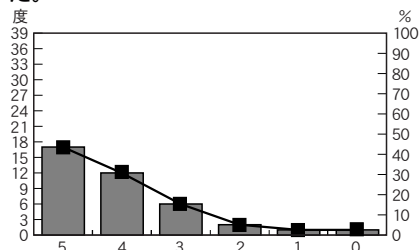


項目分析：(15)

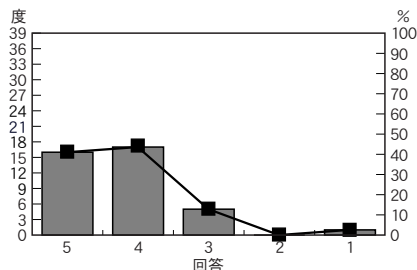
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



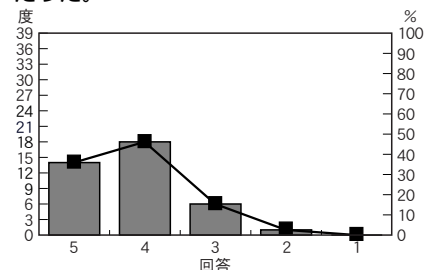
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



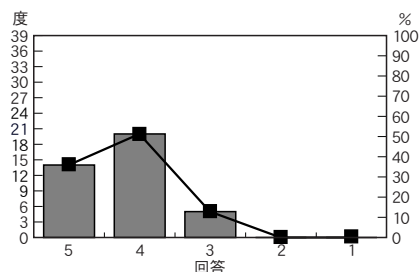
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



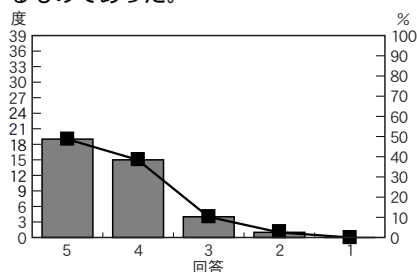
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

- 1 授業概要について、目標・授業計画等は85%以上の学生が明確であったと回答しているが、成績評価については少し不明確さが認められた。
- 2 授業内容等について、授業概要に沿い、教養や専門性を高め、学生の興味・関心を引くものであると回答した学生の割合が高かったが、教育に対する見方や考え方を学べるものとしては少し割合が低かった。
- 3 あなたの授業への取り組みについて、授業への出席、実技への積極的な取り組み、説明をよく聞いた、などへの回答はかなり高い回答であったが、分からないことや疑問点について調べた、ということへの回答はかなり低い回答であった。
- 4 教員の授業の進め方について、熱心な指導、用具等の利用、教員の声、課題のレベルや分量、安全に対する指導等はかなり高い回答であったが、学生の理解状況の確認、内容の分かりやすさ、配付資料等の配布については回答率が低く、今後配慮する必要がある。
- 5 授業に対する満足度について、87%以上の学生がかなり満足していると回答している。

以上のことから、本実技授業において学生はかなりの満足度を示している。しかし、成績評価、見方や考え方、学生の理解状況等について、今後改善する必要がある。

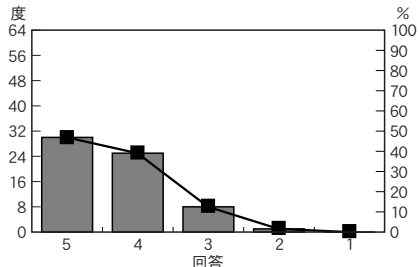
授業科目名：「健康スポーツ学Ⅱ」
 評価実施日：平成19年1月16日
 担当教員名：梅野 圭史

(有効な合計64)

■ 度 ■ %

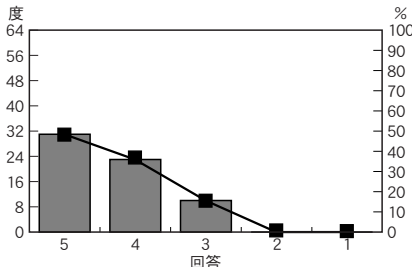
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



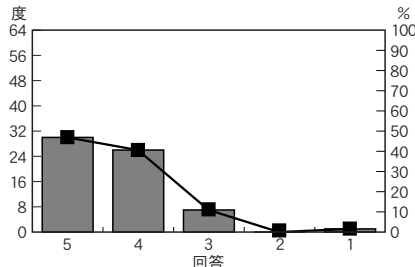
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



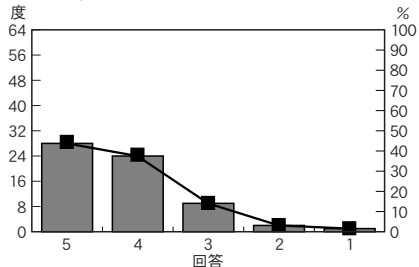
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



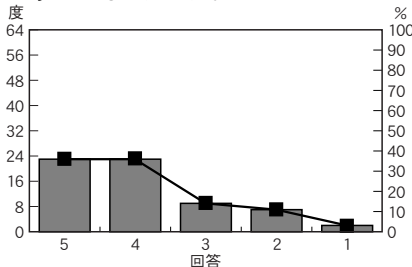
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



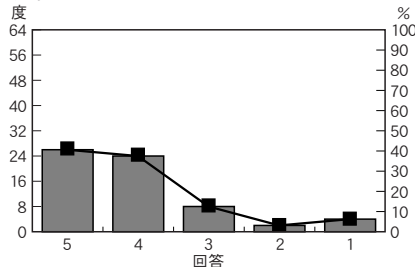
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



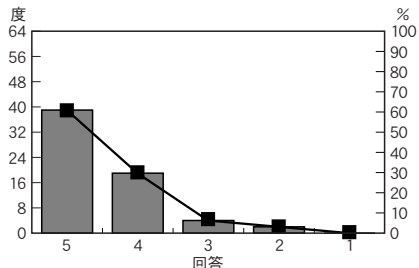
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



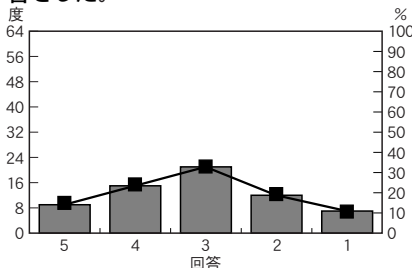
項目分析：(7)

授業によく出席した。



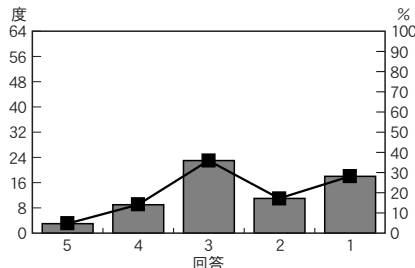
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



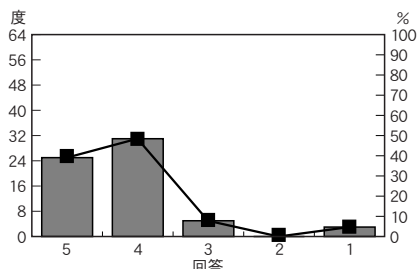
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



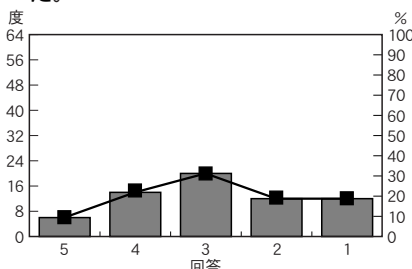
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



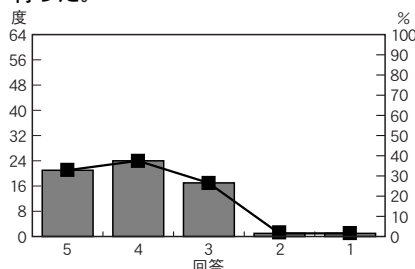
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



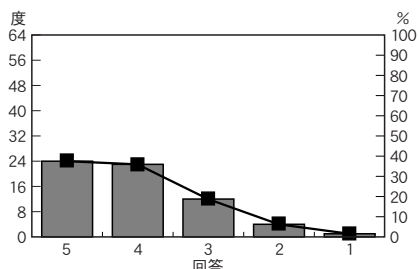
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



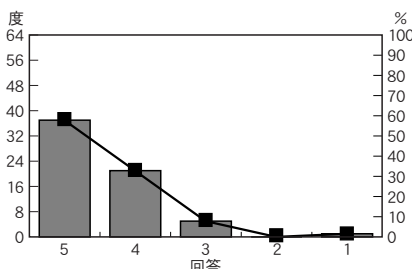
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



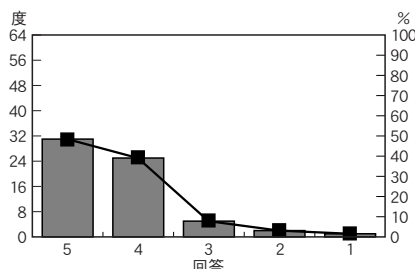
項目分析：(14)

熱心に指導した。

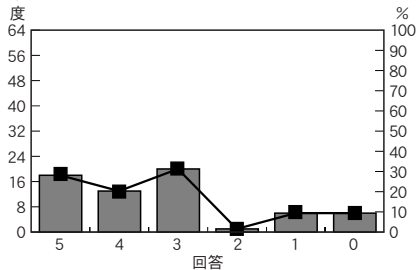


項目分析：(15)

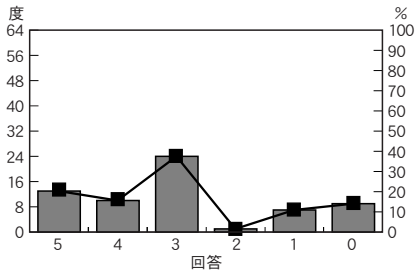
授業内容を分かりやすく説明した。



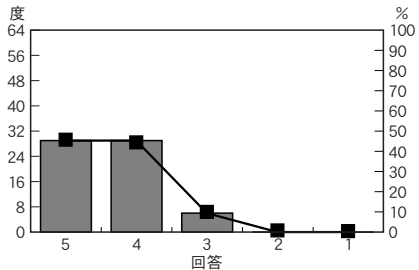
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



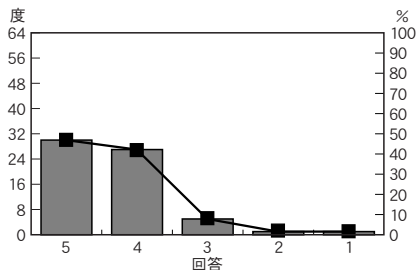
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



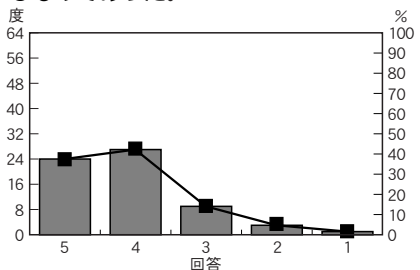
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は講義であるため、学生からの質疑応答や意見を取り上げる工夫を行っていなかった。授業終了前に、何らかの感想を書かせるやり方を導入するのがよいのかも知れない。今後の課題としたい。

教育実践コア科目

授業科目名：「幼児教育実践基礎演習」

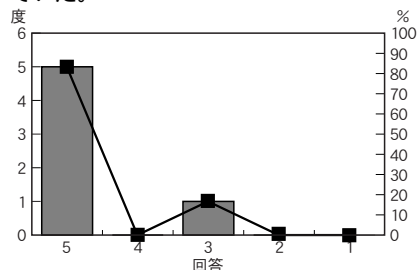
評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

担当教員名：橋川 喜美代，浜崎 隆司，田村 隆宏，塩路 晶子

(有効な合計 6)

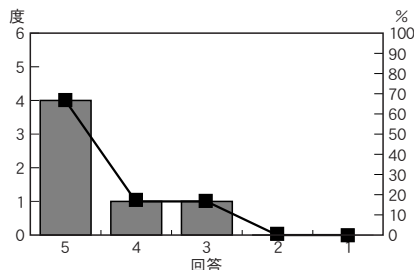
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



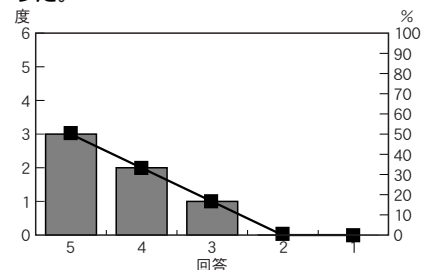
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



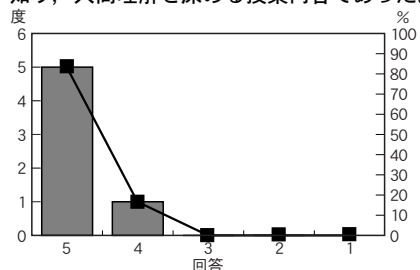
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



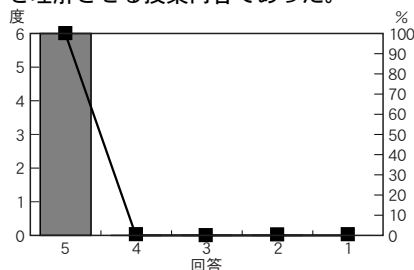
項目分析：(4)

教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。



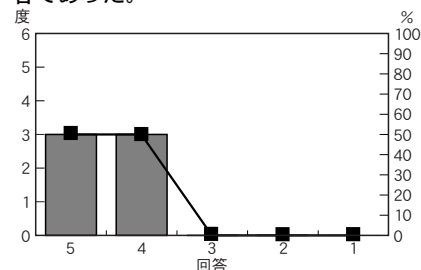
項目分析：(5)

教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。



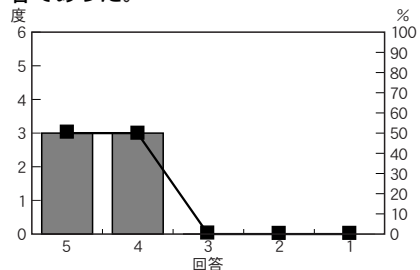
項目分析：(6)

教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。



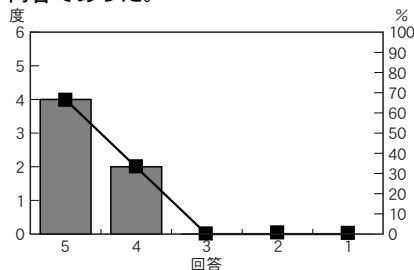
項目分析：(7)

教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。



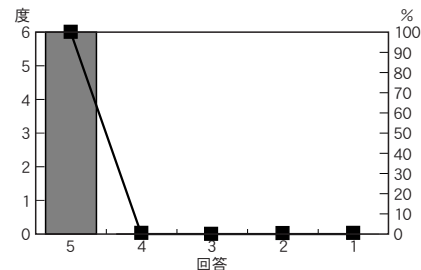
項目分析：(8)

教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。



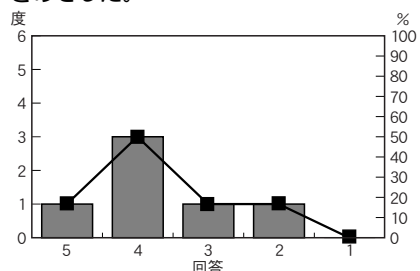
項目分析：(9)

授業によく出席した。



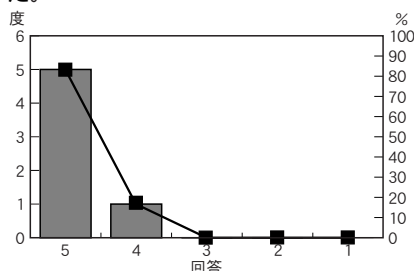
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



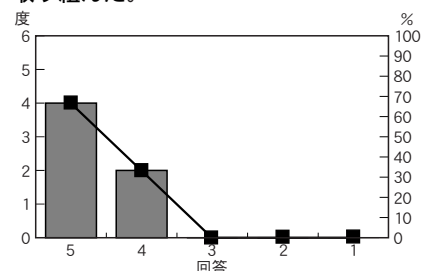
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



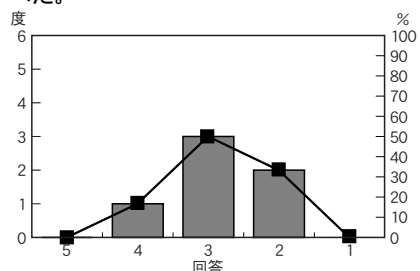
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



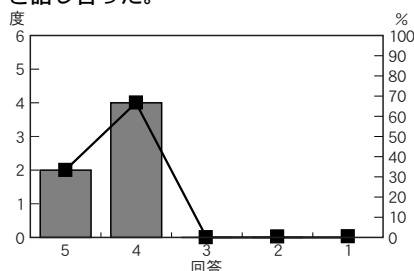
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



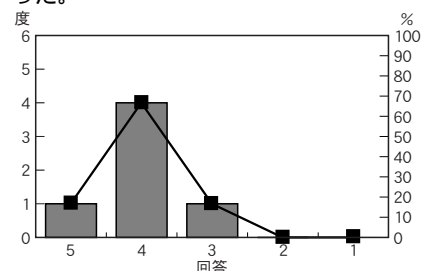
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

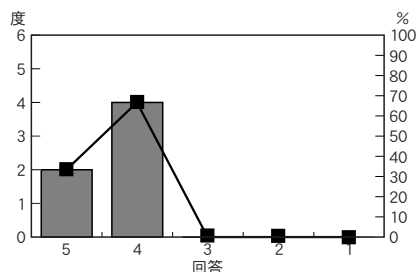


項目分析：(15)

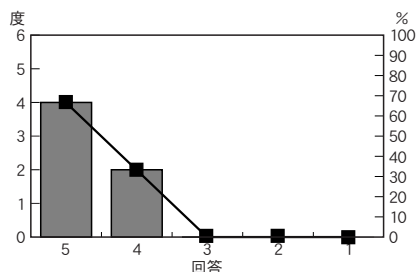
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



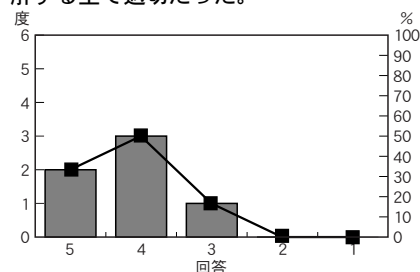
項目分析：(16)
熱心に指導した。



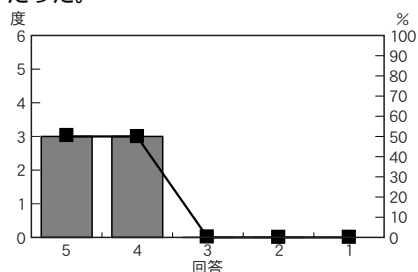
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



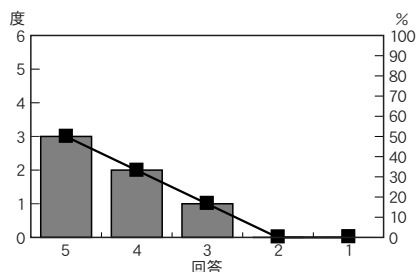
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



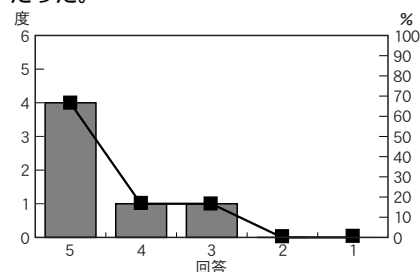
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



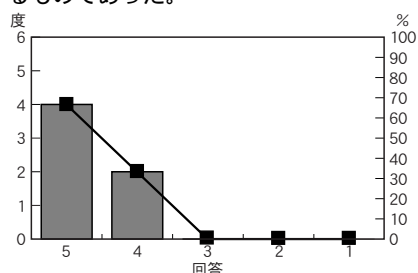
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

項目(22)の本授業への満足度は4.5であり、この得点を越えた項目が(1)(2)(4)(5)(6)(7)(8)(9)(11)(12)(17)(19)であったことから、肯定的に評価されている。特に、受講生はこの授業が幼児教育の特性を理解させ、その意義を知り、人間理解を深める内容だと高く評価している。それに比べ、教職の意義や重要性、教職に対する興味や関心を高める点では若干評価が下がる傾向にあることから、来年度は留意して授業を行う必要がある。

また、受講生の態度として気になるのは、全員が授業によく出席し、教員の説明を良く聞き意欲的に課題に取り組んでいる反面、分からないことや疑問に思ったことを調べたり、授業内容について時間外に準備したりまとめたりすることに極めて消極的だという点である。言われればやるが、自主性・主体性には欠けるといった面が顕著に示されたと言えよう。特に、項目(13)「分からないことや疑問に思ったことは調べた」は、2.8と標準を割っていることから、検討を要する課題である。項目(14)「授業に関連した内容について友達や教員と話し合う」ことは行っているのに、分からないことや分からないことを人に聞くことはあっても、自ら調べることは経験的に少なかったものと考えられる。この点を踏まえて、自身で分からないことや疑問に思ったことを調べる機会をもっと授業に組み入れながら進めていく必要がある。

授業科目名：「初等中等教育実践基礎演習（学校教育コース）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

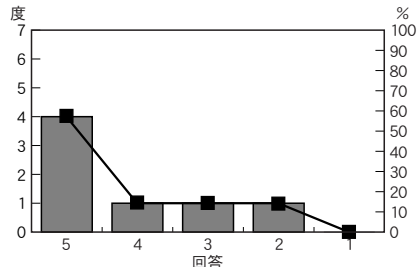
担当教員名：中津 郁子，川上 綾子

(有効な合計 7)

■ 度 ■ %

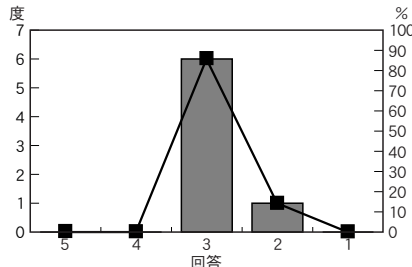
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



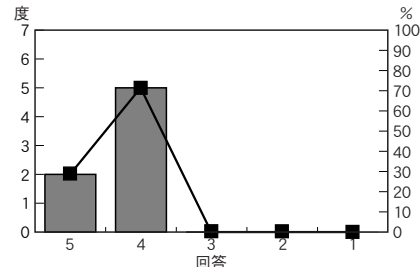
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



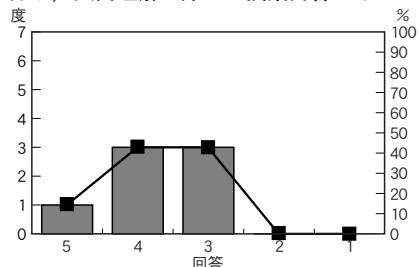
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



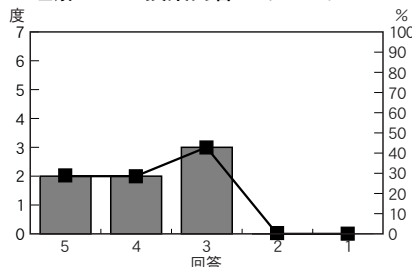
項目分析：(4)

教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。



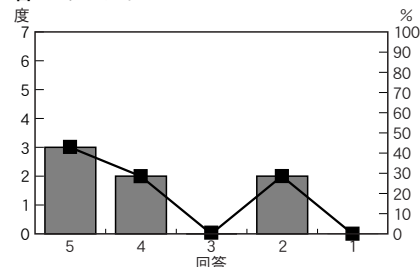
項目分析：(5)

教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。



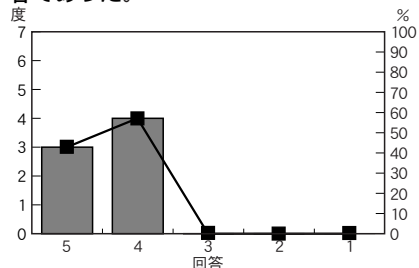
項目分析：(6)

教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。



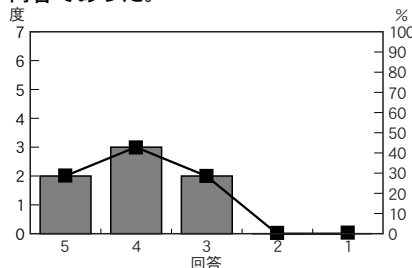
項目分析：(7)

教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。



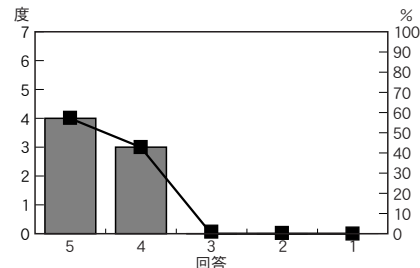
項目分析：(8)

教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。



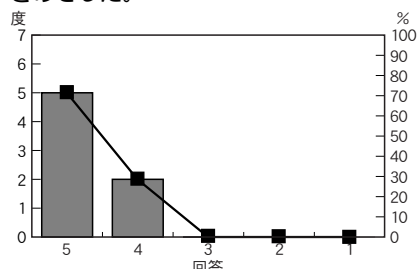
項目分析：(9)

授業によく出席した。



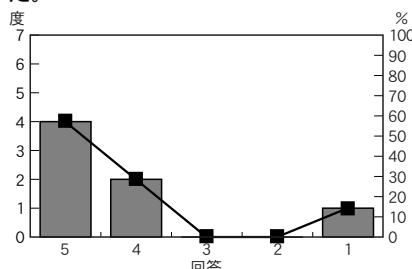
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



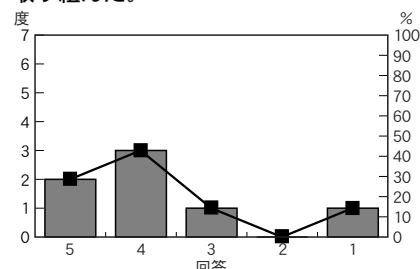
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



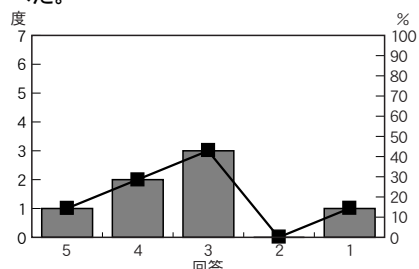
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



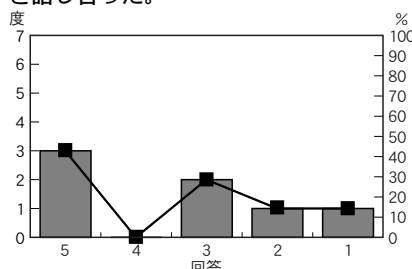
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



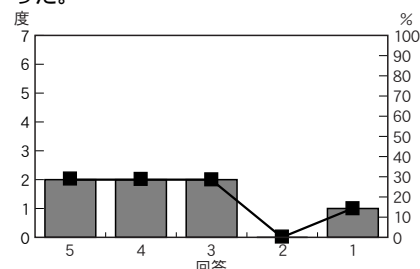
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

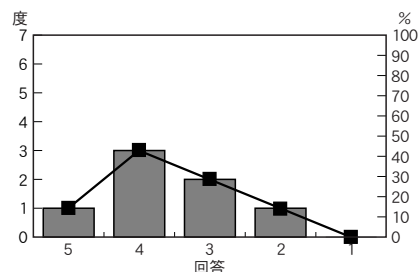


項目分析：(15)

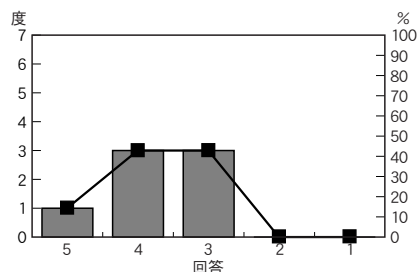
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



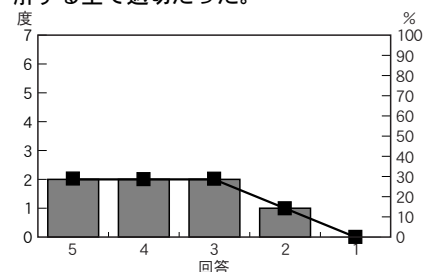
項目分析：(16)
熱心に指導した。



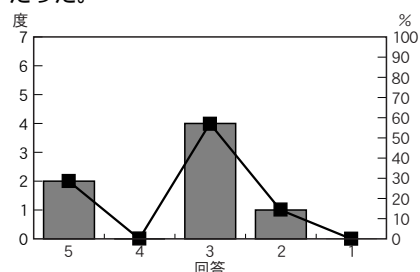
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



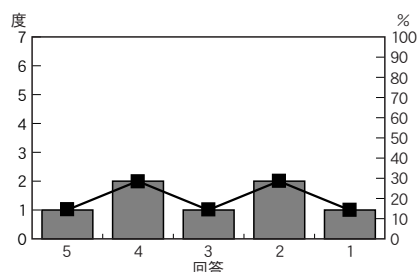
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



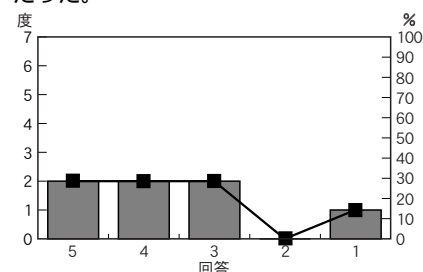
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



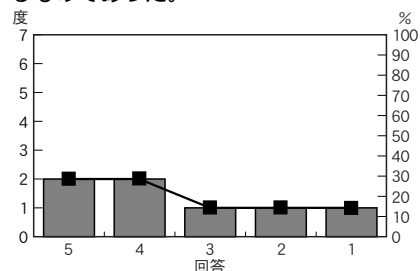
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

「授業概要」に関しては、計画等は明確だったが、成績評価の方法が明確には理解されていなかった。演習のため、総合的な取り組み方で評価したが、最初にその旨を明確にしておくべきだった。

「授業の内容」に関しては、概ね評価は良いが、「(6)教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった」に「そう思わない」が約28%であった。

学生の「授業への取り組み」に関しては、概ね意欲的に取り組んだという評価だったが、約14%は積極的に取り組んだとは評価していないようだった。教職の意義や重要性の理解に関連があるとも考えられるが、個々の意識に応じた指導を工夫していきたいと考える。

教員の「授業の進め方」に関しては、「学生の理解状況を確認しながら」・「熱心に指導」したと思わなかった学生が14%であった。また、「教員の声」が聞き取りにくかったが約42%であった。改善していきたいと思う。

ほとんどの学生にとってこの授業に対する評価は満足できるものになったようだが、そうではない学生も少数ではあるが見られた。少人数での授業のため、一人ひとりと会話をしながら授業を進めてきたが、今後はより一層、個々の授業への取り組み方や、満足度を考慮しながら丁寧な授業を進めていきたいと思う。

授業科目名：「初等中等教育実践基礎演習（国語科教育コース）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

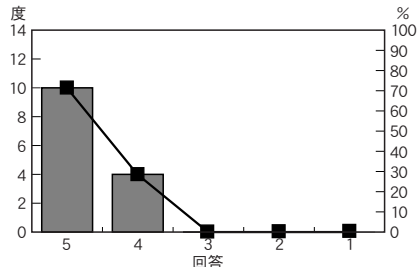
担当教員名：松原一義, 赤松万里, 村井万里子, 余郷裕次, 茂木俊伸, 原 卓志, 小野由美子, 永田良太, 幾田伸司, 蓑毛政雄

(有効な合計 14)

■ 度 ■ %

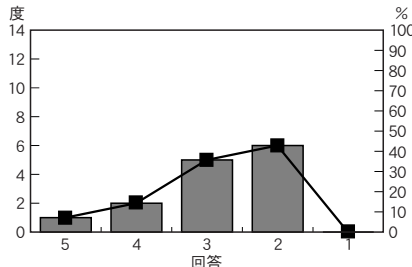
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



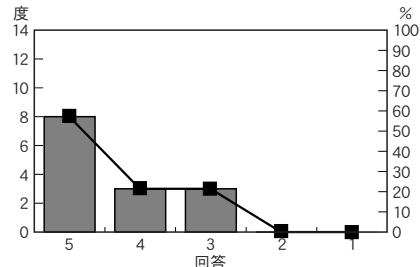
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



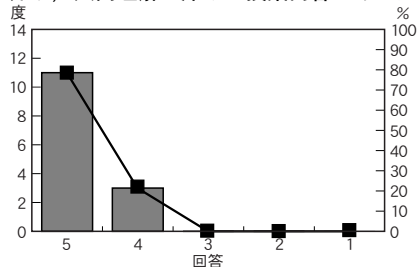
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



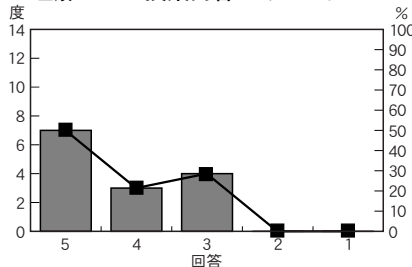
項目分析：(4)

教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。



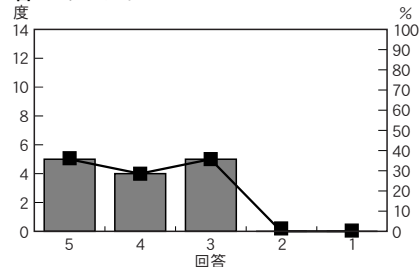
項目分析：(5)

教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。



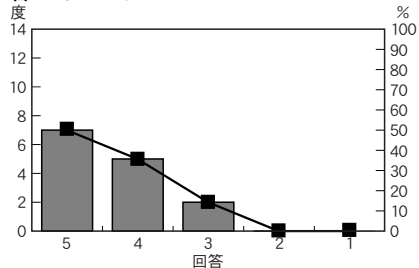
項目分析：(6)

教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。



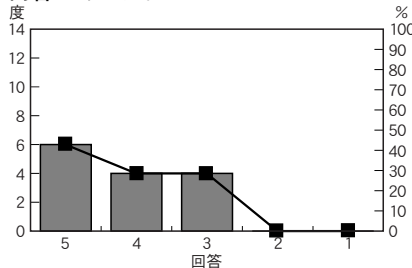
項目分析：(7)

教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。



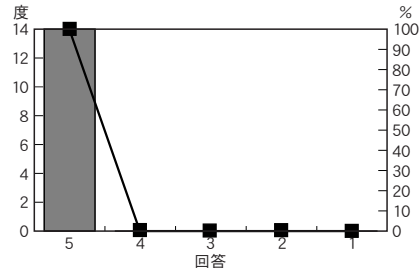
項目分析：(8)

教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。



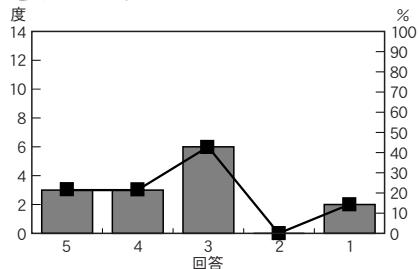
項目分析：(9)

授業によく出席した。



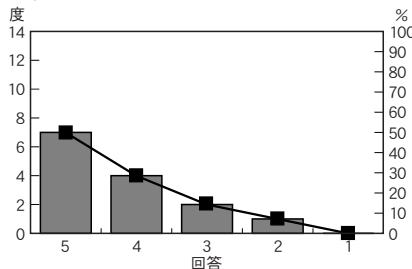
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



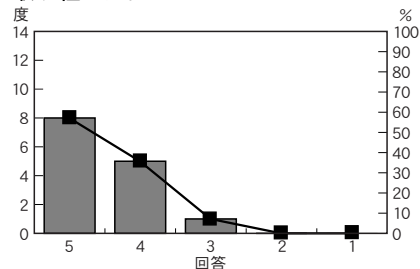
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



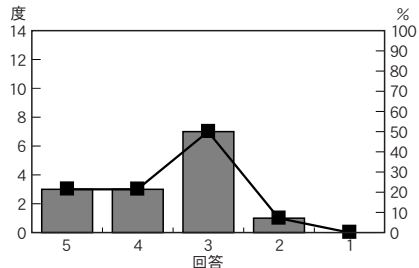
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



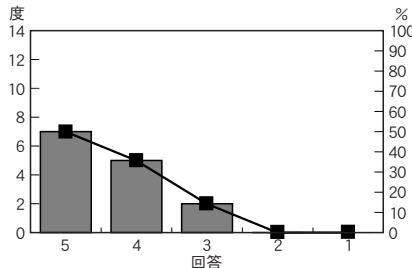
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



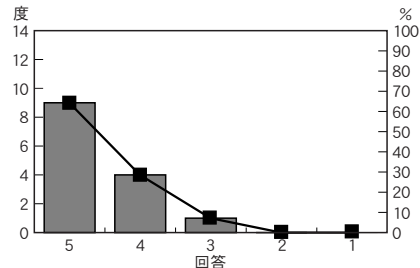
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

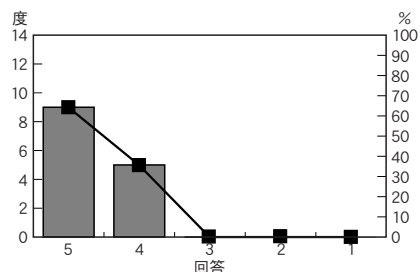


項目分析：(15)

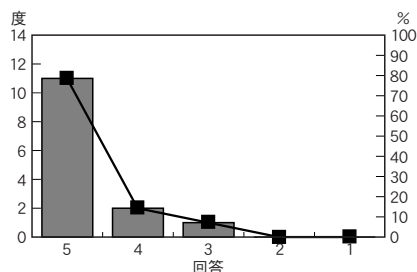
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



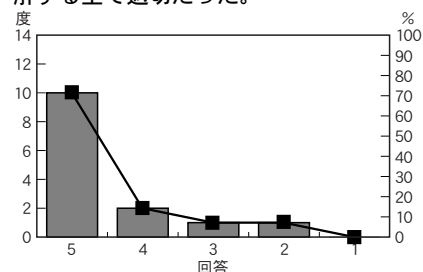
項目分析：(16)
熱心に指導した。



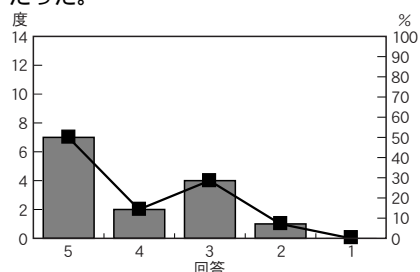
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



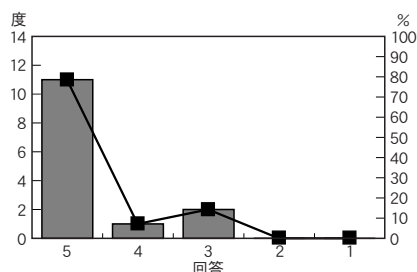
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



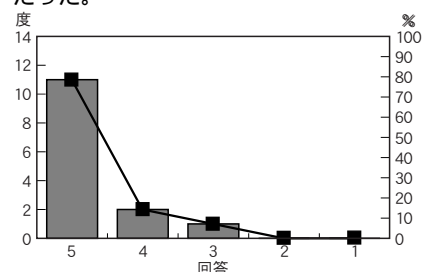
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



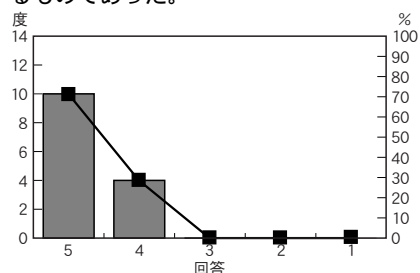
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は、大学4年間の学習生活に関する指針を得ること、また、教員として求められる「話す」「書く」「聞く」などの基礎的な技能を身に付けることを目標とし、第13週まで茂木（クラス担当教員）が担当した。

評価の平均が4.32であったこと、半数の質問項目で高い評価（4.5以上）が得られたことから、概ね好意的な評価がなされたと思われる。一方で、項目2の評価が低く、今後はより明確な形で成績の評価基準を示す必要がある。

受講生のコメントからは、「発表とか表現するのが苦手」という意識を持ちながらも、同級生と「話し合ったり、発表したり、かなり実践的な内容」をこなしていき、「教員を目指す動機が人によって様々であるということを知」って、自らの教職への意識を高める機会となったこと、また、教科としての「国語について深い興味・関心が持てた」ことがうかがえる。これらの点を、本授業の成果として挙げるができるだろう。

授業科目名：「初等中等教育実践基礎演習（英語科教育コース）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

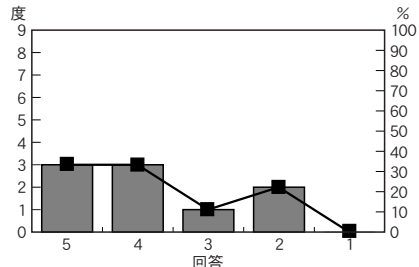
担当教員名：前田 一平，藪下 克彦，山森 直人

(有効な合計 9)

■ 度 ■ %

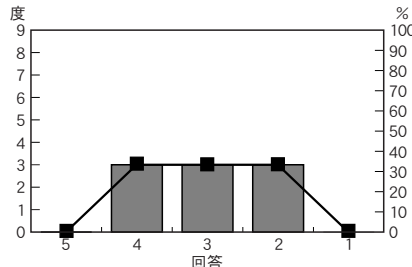
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



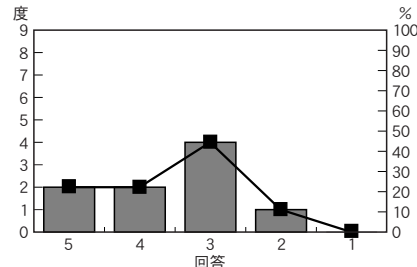
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



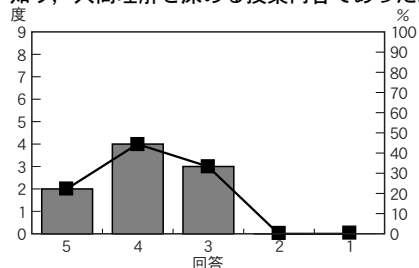
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



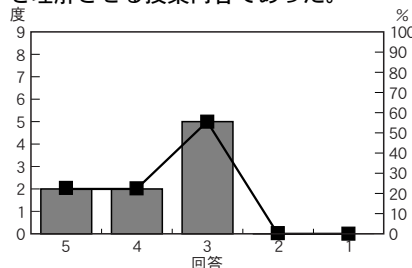
項目分析：(4)

教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。



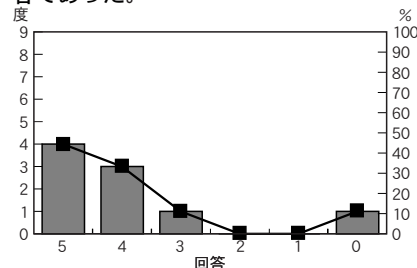
項目分析：(5)

教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。



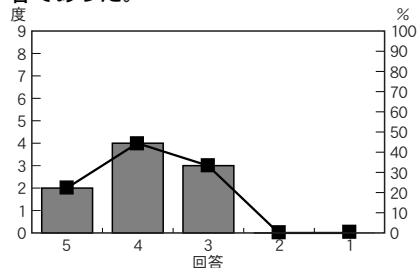
項目分析：(6)

教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。



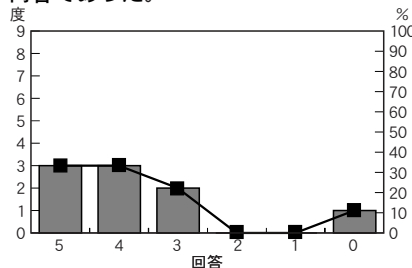
項目分析：(7)

教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。



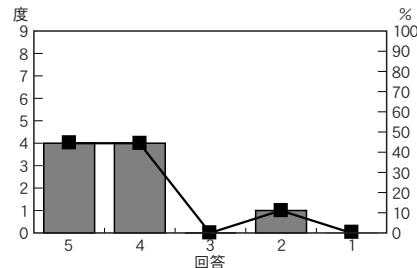
項目分析：(8)

教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。



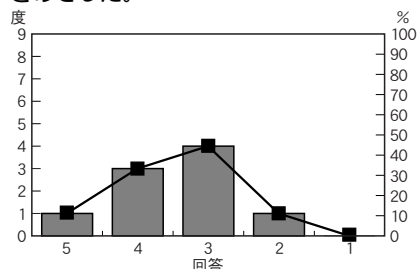
項目分析：(9)

授業によく出席した。



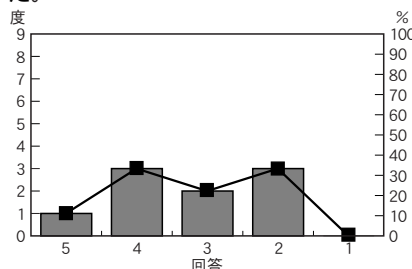
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



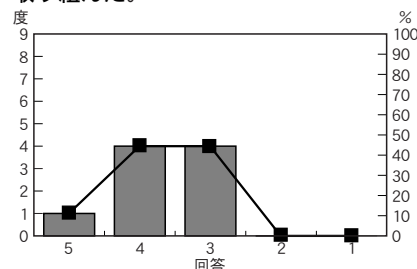
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



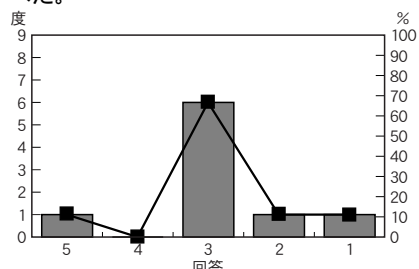
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



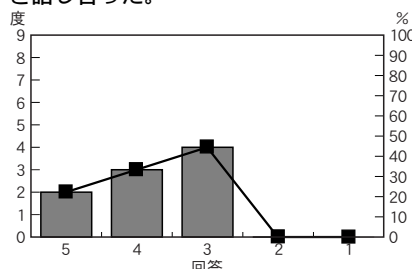
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



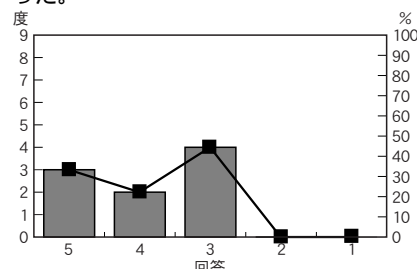
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

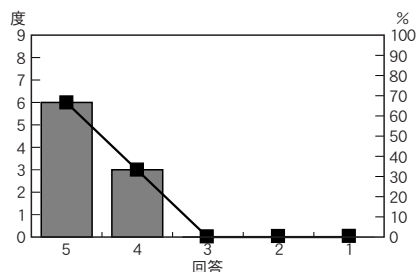


項目分析：(15)

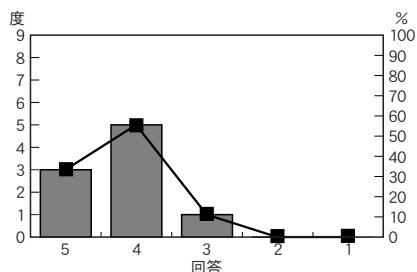
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



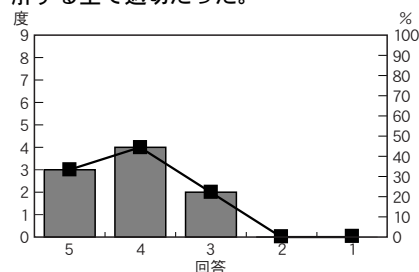
項目分析：(16)
熱心に指導した。



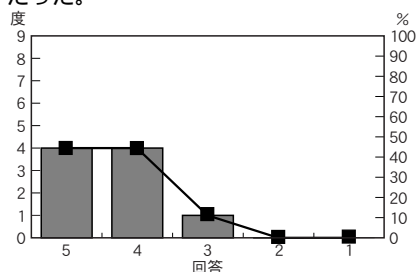
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



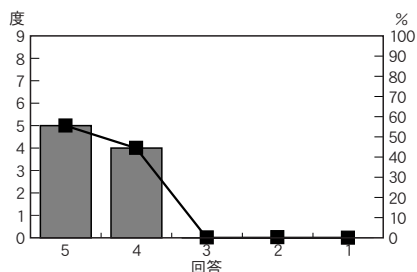
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



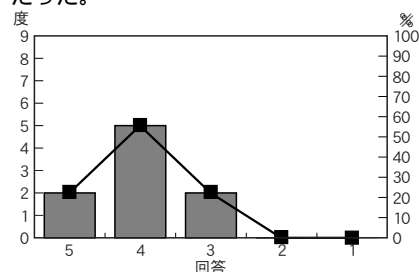
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



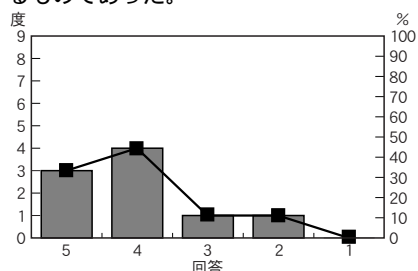
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全体的にまずまずの評価であったと判断する。「教員の授業の進め方」に関わる15～21項目については、15番の項目を除いて、5ないし4の評価が70%以上であった。また、授業の満足度に関わる22番の項目でも5ないし4の評価が77%であった。

ただ、受講生自らの予復習・質問発言・調べに関する項目については3以下の評価が増え、5ないし4の評価は50%を割る項目がほとんどである。さらに、成績評価の方法（項目2）については、3以下の評価が67%と高く、オムニバス形式の授業の問題点に対する指摘として受け止めたい。授業の内容（項目3～8）に関して、項目3と5について約50%が3の評価を与えている。これもオムニバス形式の授業内容の統一の悪さと細切れの授業形式の改善を求められる評価であると考えられる。

受講生からの自由記述「提言」の中で、「全体の授業の流れを最初に知りたい」という改善要求は、オムニバス形式の授業の工夫を迫られるものである。今回の授業評価から学ぶべきことは、オムニバス形式の授業はよほど慎重に工夫実施しないと、焦点の定まらないバランスを欠いた授業になりがちであるということである。

授業科目名：「初等中等教育実践基礎演習（社会科教育コース）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

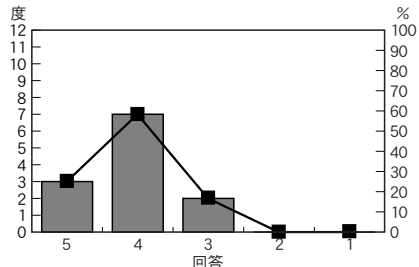
担当教員名：原田 昌博, 山本 準, 立岡 裕士

(有効な合計 12)

■ 度 ■ %

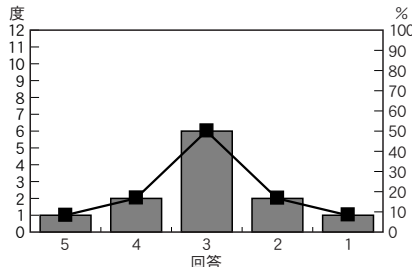
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



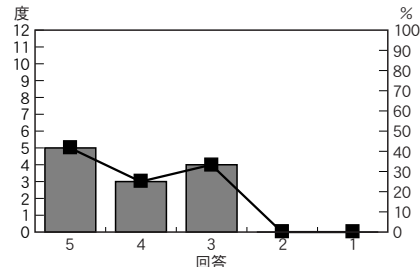
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



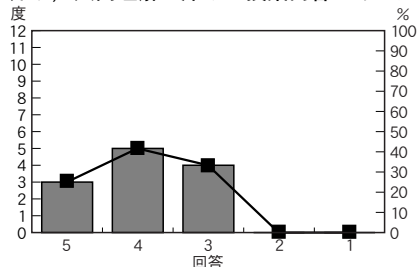
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



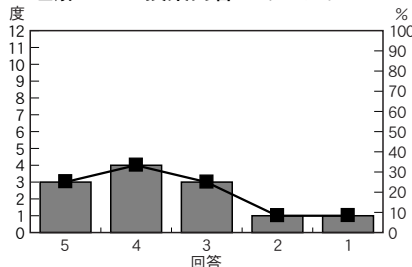
項目分析：(4)

教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。



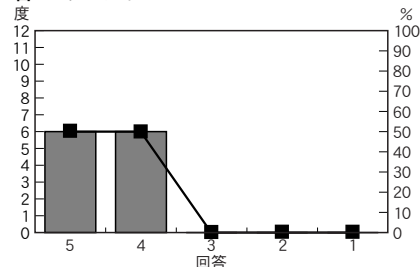
項目分析：(5)

教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。



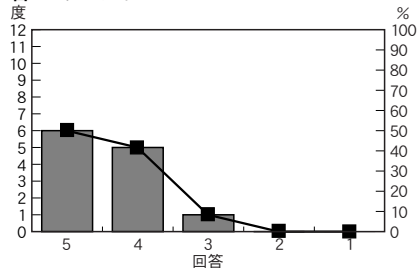
項目分析：(6)

教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。



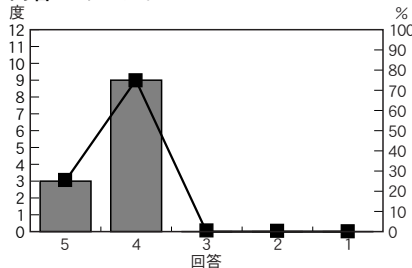
項目分析：(7)

教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。



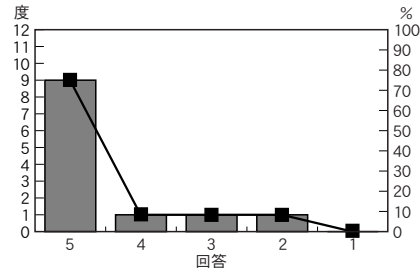
項目分析：(8)

教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。



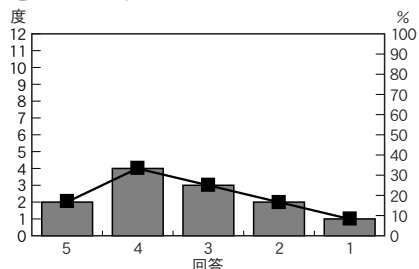
項目分析：(9)

授業によく出席した。



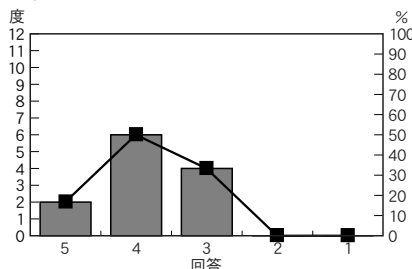
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



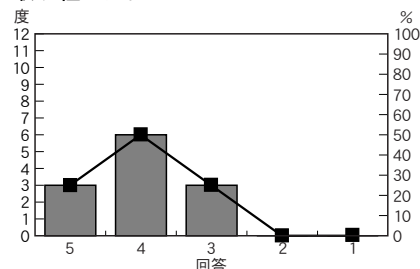
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



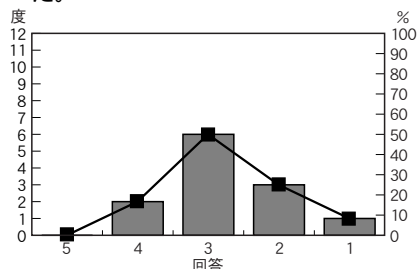
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



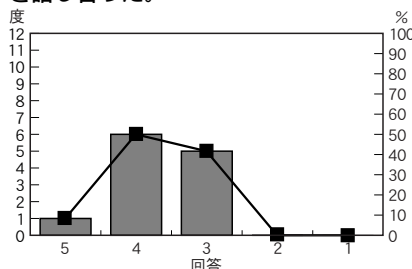
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



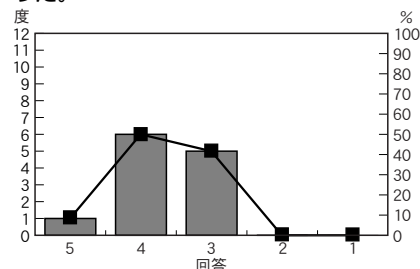
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

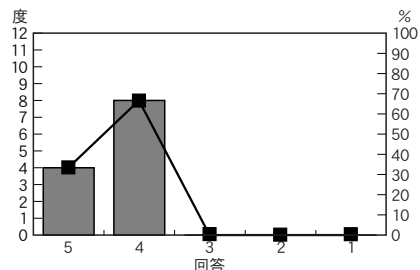


項目分析：(15)

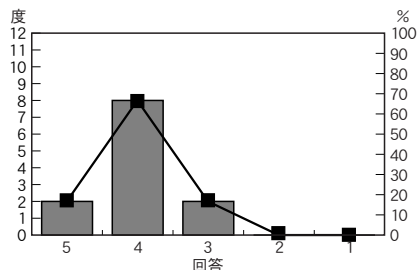
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



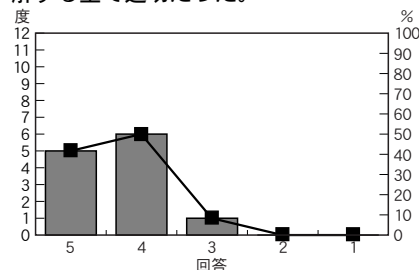
項目分析：(16)
熱心に指導した。



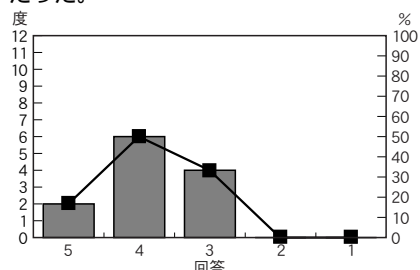
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



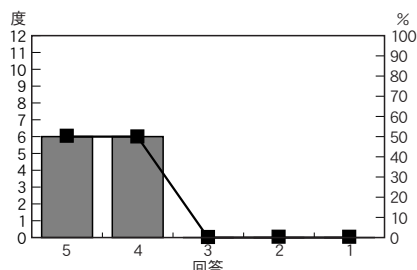
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



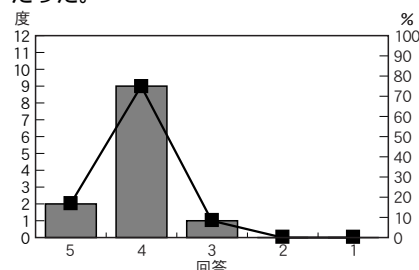
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



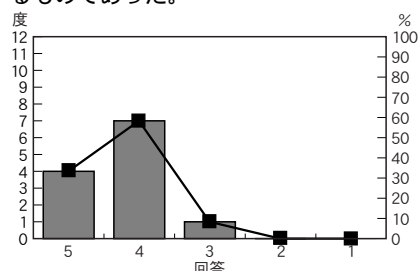
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本講義は担任教員（歴史学）が6回、その他の社会系の教員（地理学および社会学）が2回ずつ担当するオムニバス形式をとった。本講義に対する学生の評価は概ね良好である。例えば、「教職の意義・重要性が理解できる内容であったか」を問う質問では全員が「4」以上、「教職に対する興味・関心が高まる内容であったか」を問う質問では90%が「4」以上に評価している。結果、学生の満足度に関する問いでは90%が「4」以上となっている。本講義の主目的である「教職」への動機・興味付けという点では「4年間しっかりしようという気が起きた」というある学生のコメントが示すように一定度の成果があったといえるであろう。また、教員の指導については「熱心さ」に対しては全員が「4」以上、「教材の適切さ」については90%が「4」と評価している。ただし、担当者が複数いる授業に対しては学生の中に戸惑いもあったようであり、1人の教員の話をもう少しじっくり聞きたかったというコメントも散見された。また、もう少し実践的であってもよいのではないかという意見もあり、こういった点は今後できる限り改善されるべきであると考えられる。

授業科目名：「初等中等教育実践基礎演習（算数科・数学科教育コース）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

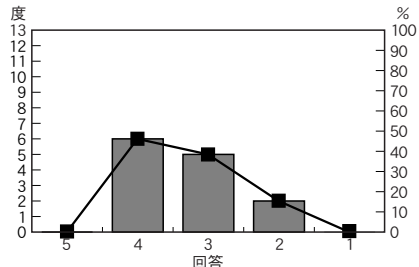
担当教員名：鳥巢 伊知郎

(有効な合計13)

■ 度 ■ %

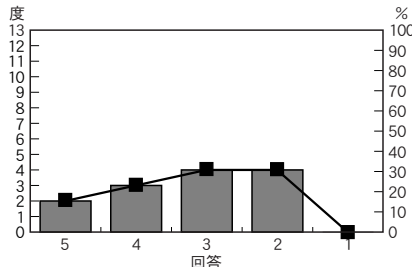
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



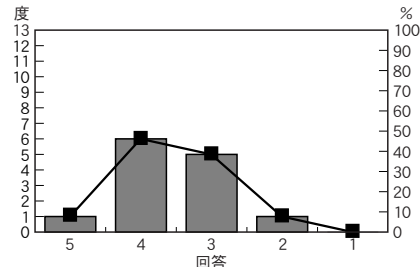
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



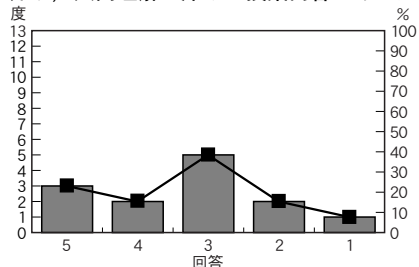
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



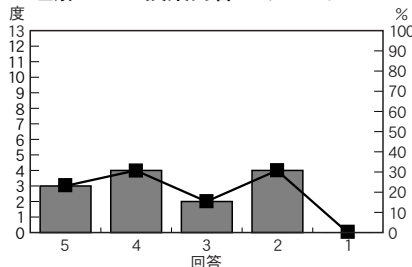
項目分析：(4)

教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。



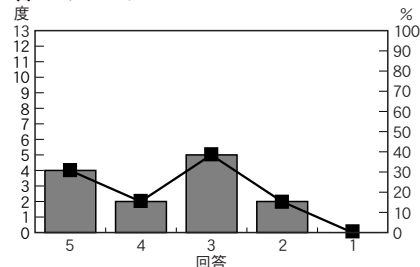
項目分析：(5)

教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。



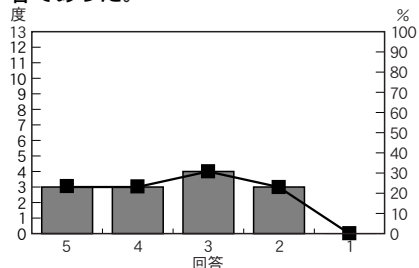
項目分析：(6)

教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。



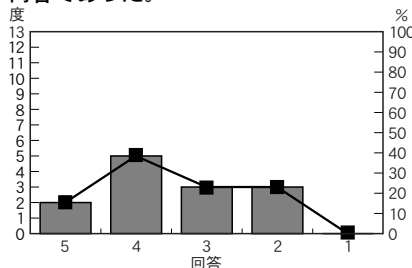
項目分析：(7)

教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。



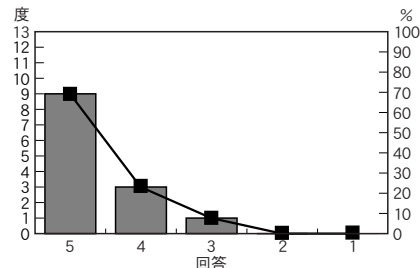
項目分析：(8)

教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。



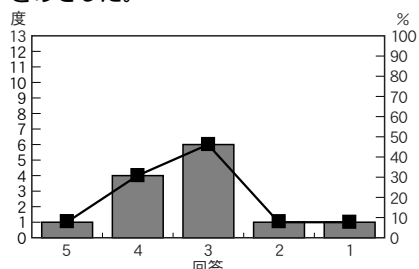
項目分析：(9)

授業によく出席した。



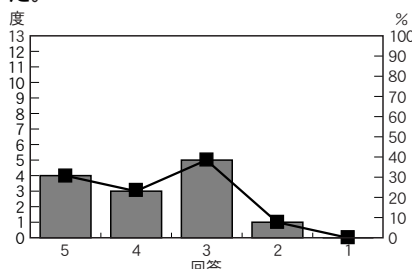
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



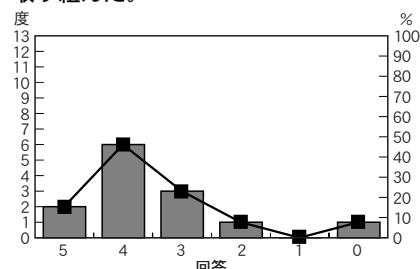
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



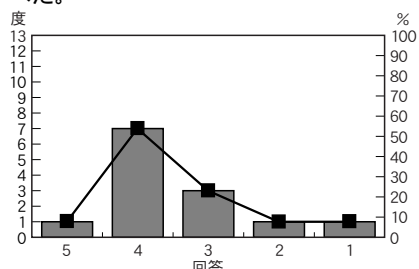
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



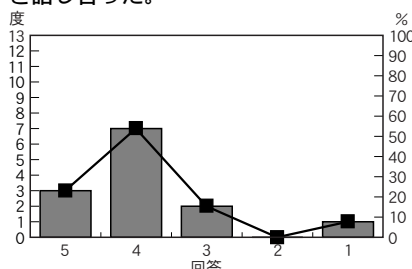
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



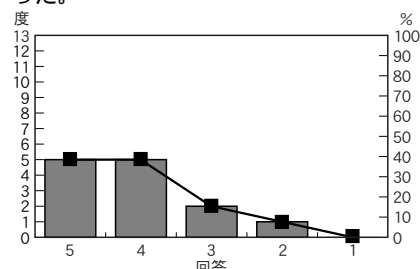
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

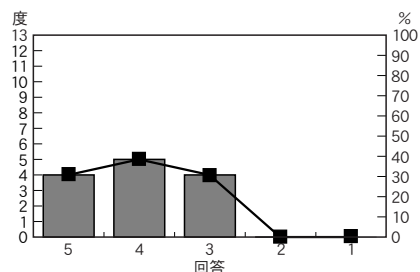


項目分析：(15)

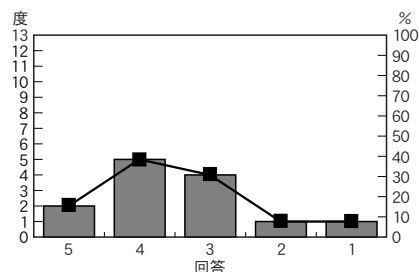
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



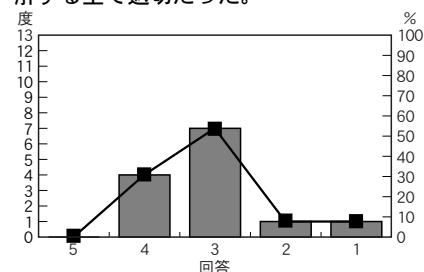
項目分析：(16)
熱心に指導した。



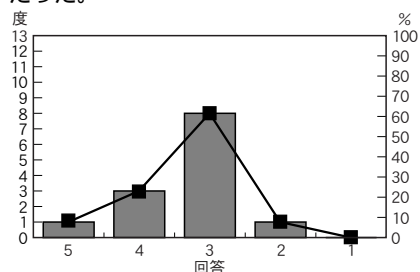
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



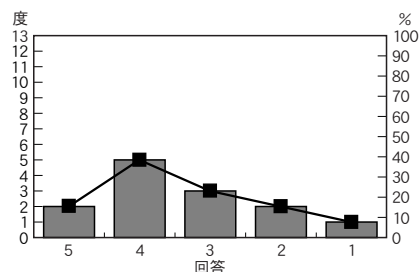
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



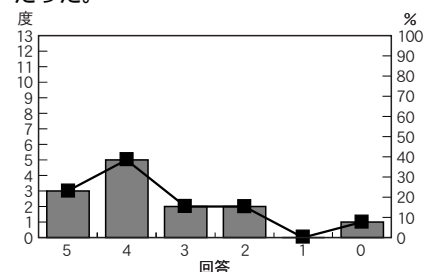
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



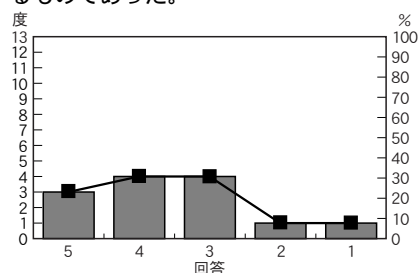
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

関数のグラフと微積分の入門的な講義を行った。その際、高校時代に数Ⅲを履修している者と、していなかった者との間で理解の差があらわれた。

授業科目名：「初等中等教育実践基礎演習（理科教育コース）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

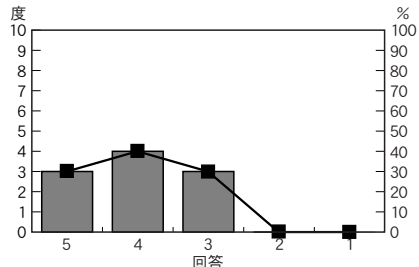
担当教員名：米澤 義彦, 松川 徳雄, 本田 亮, 村田 守, 村田 勝夫

(有効な合計10)

■ 度 ■ %

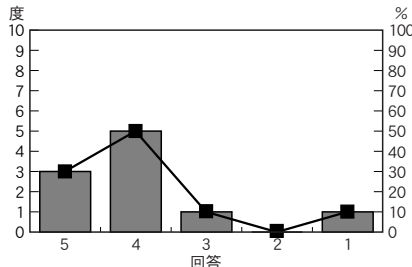
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



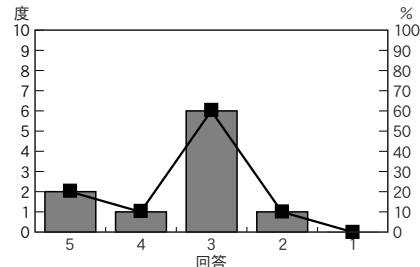
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



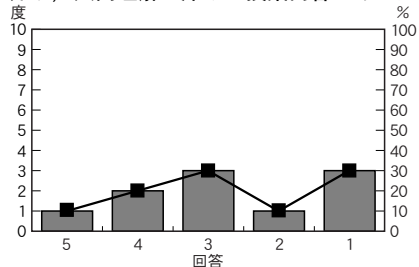
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



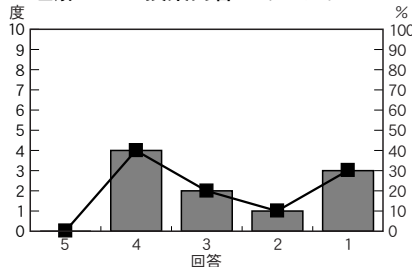
項目分析：(4)

教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。



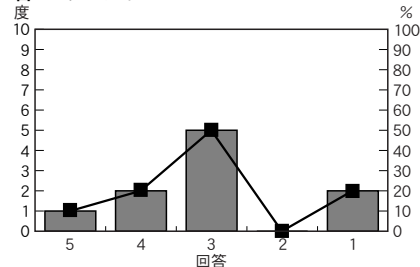
項目分析：(5)

教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。



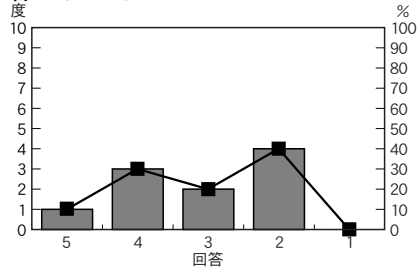
項目分析：(6)

教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。



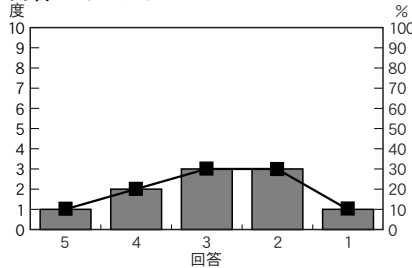
項目分析：(7)

教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。



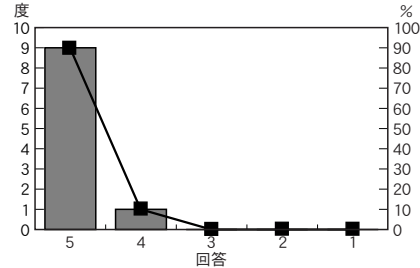
項目分析：(8)

教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。



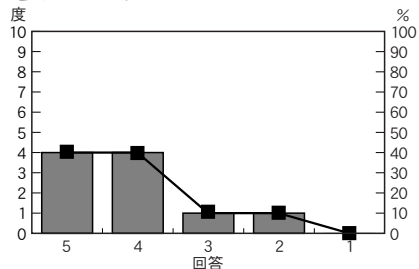
項目分析：(9)

授業によく出席した。



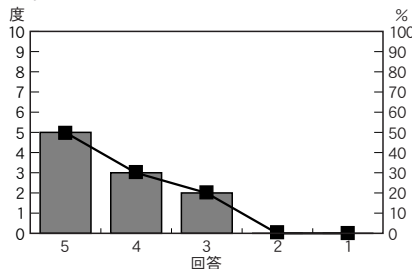
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



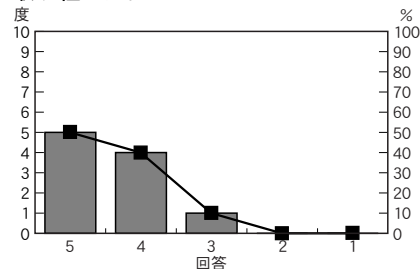
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



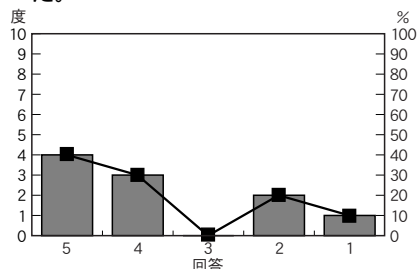
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



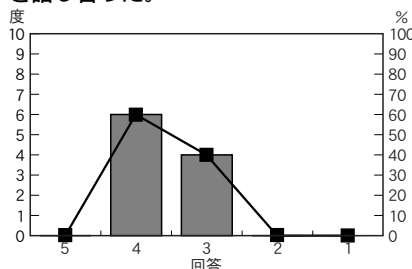
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



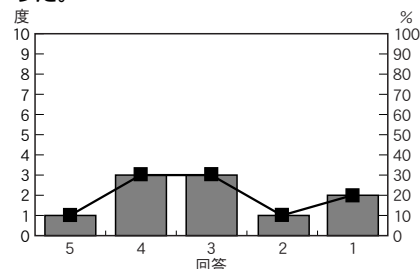
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

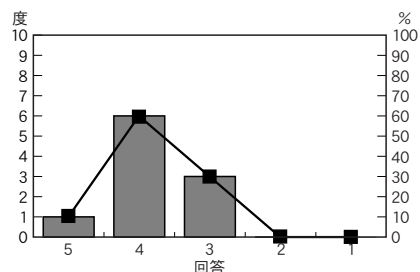


項目分析：(15)

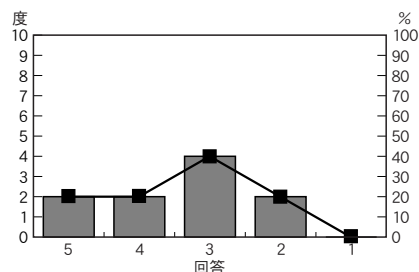
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



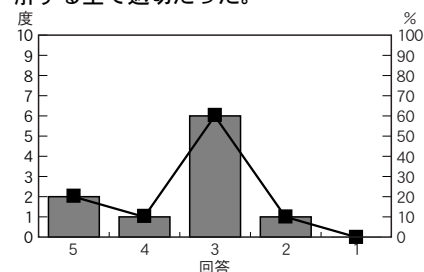
項目分析：(16)
熱心に指導した。



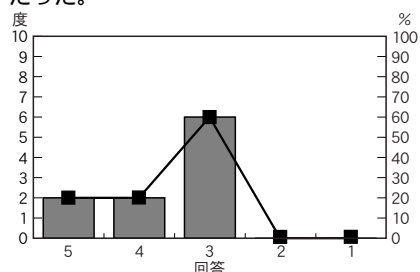
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



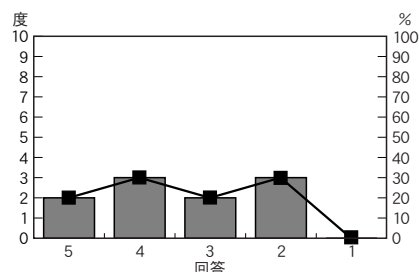
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



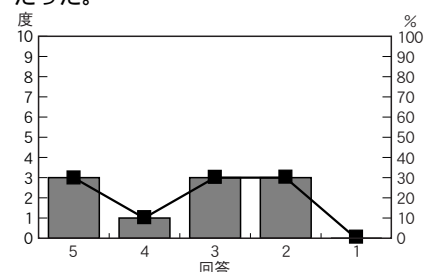
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



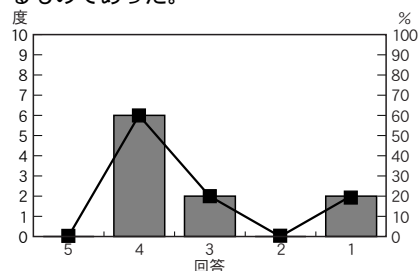
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は教育実践コア科目の最初の科目として設定されている。理科の4分野の担当教員と全学共通キャリア教育の担当教員とからなる複数担当者によって授業が行なわれる。このためであろう、学生の「何を目的としているか明確にしてほしい。」というコメントにもあるように、授業内容の一貫性の無さが伺われる。理科という教科の特質および教科内容とキャリア教育との複合授業であるために、何を持って一貫性と判断するかは難しい。今後はこの点を受講生に理解させ、負に考えることなく多数教員担当のメリットを表に出した授業を行なう必要がある。

理科教育講座としては、自然科学に対する基本的な考え方、基礎的な知識、技術および表現方法を習得することをこの授業の目的としている。このことに関して、学生から以下のようなコメントがあった。「理科教員になる上での、必要不可欠な内容…(中略)で有意義であった。」「専門性を高める内容であったのでよかった。理科について興味を持つことができた。」「自己紹介(プレゼンテーション)の授業が良かった。」。これらのコメントから、学生はこの授業で「理科教員に必要な教科内容の専門的入門」を望んでいるようである。教科に関する授業内容は旧課程のものから引き継がれ、そして修正されたものであり、ある程度満足するものであったといえる。

アンケート項目に幼児教育、障害児教育に関するものがあり、これらは授業内容と矛盾するものである。アンケート項目の削除等を授業担当者に任せるのではなく、各専修(コース)に適合したアンケート様式のアップロードの希望をここに付しておく。

(文責 本田)

授業科目名：「初等中等教育実践基礎演習（音楽科教育コース）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

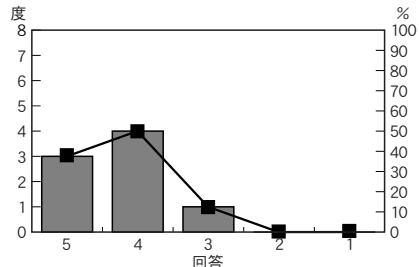
担当教員名：山田 啓明, 西園 芳信

(有効な合計 8)

■ 度 ■ %

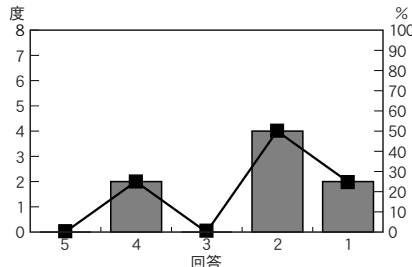
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



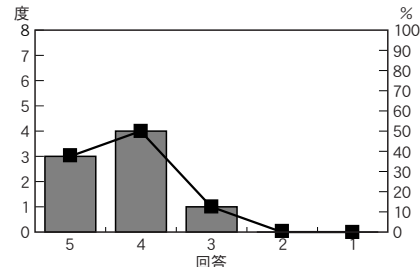
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



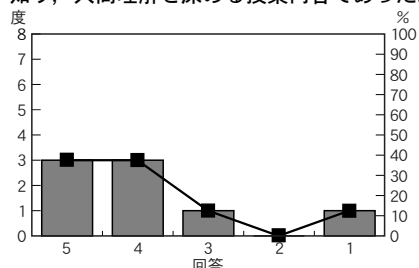
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



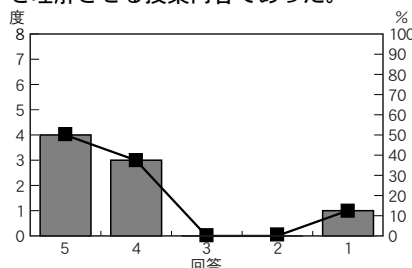
項目分析：(4)

教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。



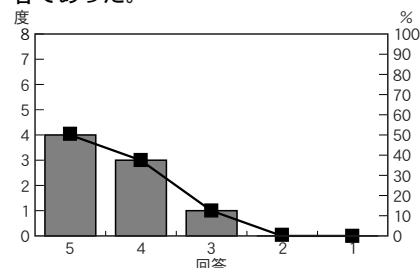
項目分析：(5)

教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。



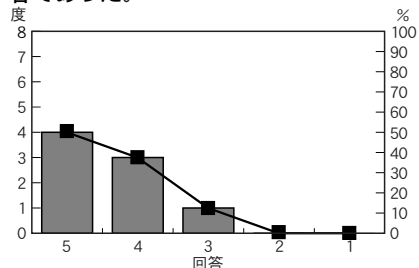
項目分析：(6)

教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。



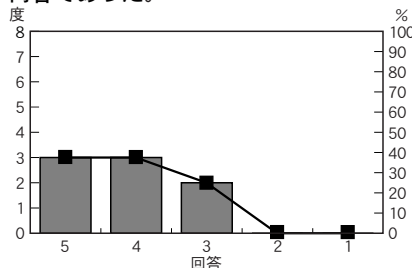
項目分析：(7)

教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。



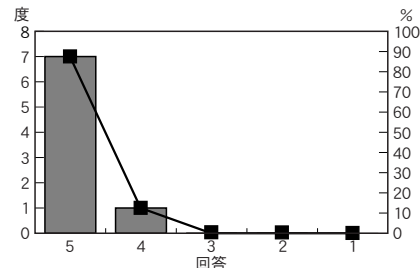
項目分析：(8)

教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。



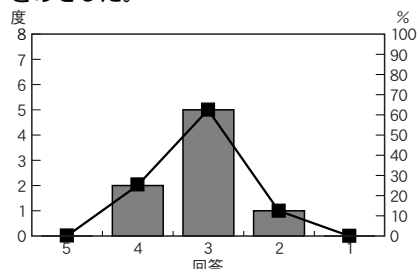
項目分析：(9)

授業によく出席した。



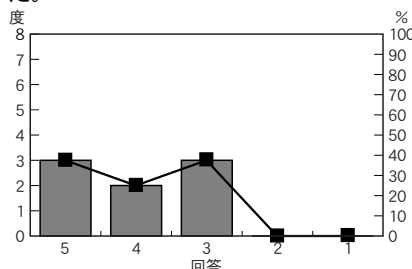
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



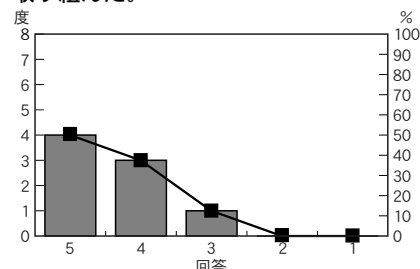
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



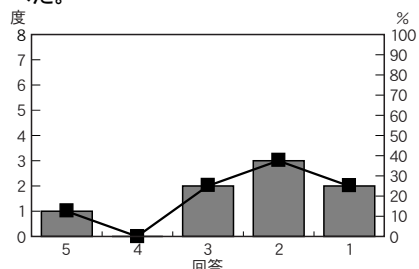
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



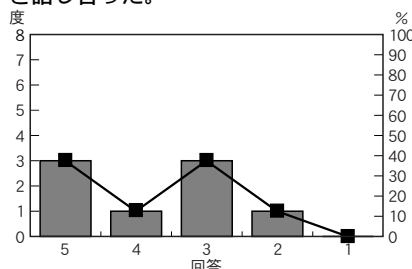
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



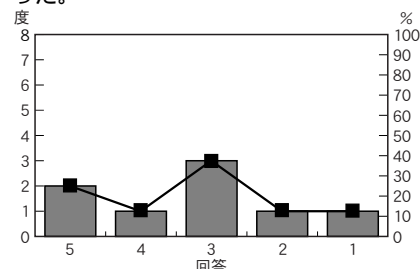
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

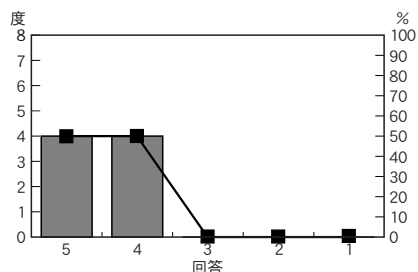


項目分析：(15)

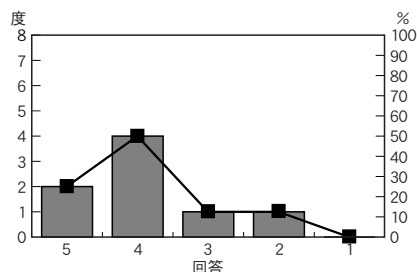
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



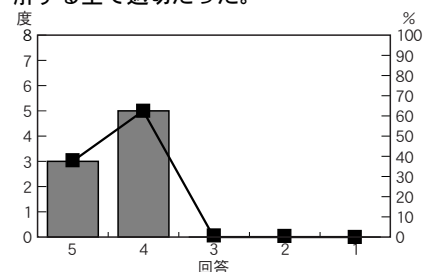
項目分析：(16)
熱心に指導した。



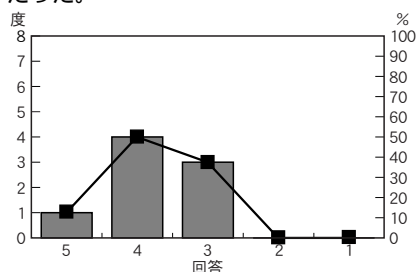
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



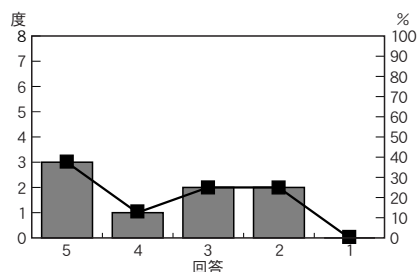
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



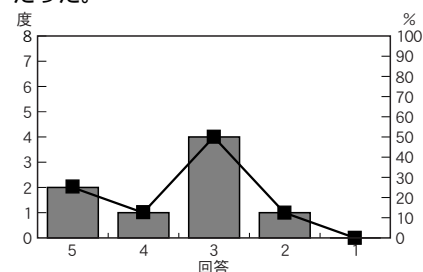
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



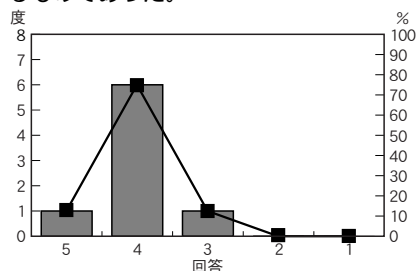
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は複数教員の担当によるオムニバス形式の授業である。残念ながら本コメントの筆者（山田）は授業の最初の部分を担当しただけであり、他の授業担当者がどのような授業を行ったのか知る立場に無い。そもそも自分が実施した訳でもない授業評価に何故コメントを求められるのか？上記の理由によりコメントの内容は限定的にならざるを得ないが、特に気になる点は項目分析(2)の成績評価の方法に関する評価の低さである。おそらくはシラバスと現実の授業との間に何らかの乖離があるのではないかと。実際のシラバス作成の過程に筆者は関わっていないし、この授業における授業者の大半は同様だと思われる。シラバス作成者の思いと実際の授業者の思いのズレが特にこの点にでたのではないかと。という感想を持った。とはいえ、学生達の提言を見る限り、また項目分析(22)を見る限りにおいては学生の満足度は比較的高いようである。個々の授業者が行った授業については学生達が満足しているものと信じたい。

授業科目名：「初等中等教育実践基礎演習（図画工作科・美術科教育コース）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

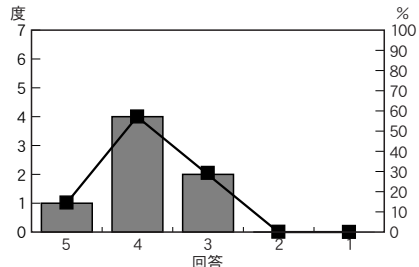
担当教員名：長岡 強, 武市 勝, 松島正矩, 井戸川豊, 小川 勝, 橋本泰幸, 西田威汎

(有効な合計 7)

■ 度 ■ %

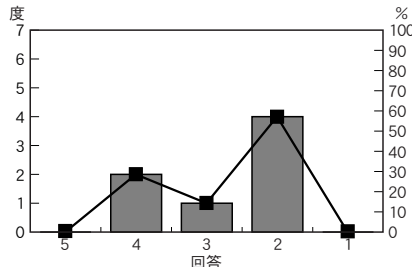
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



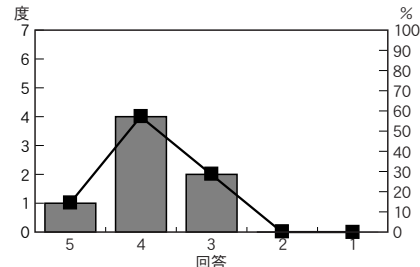
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



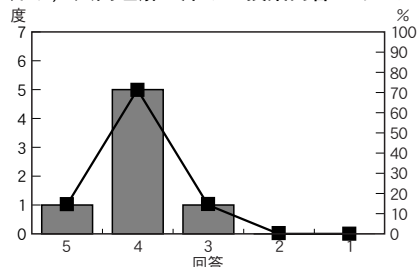
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



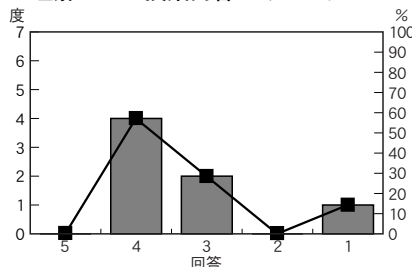
項目分析：(4)

教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。



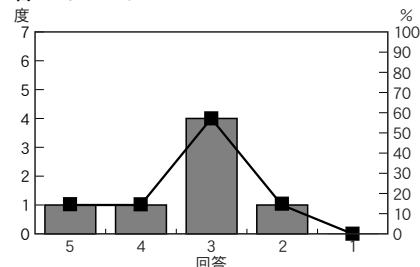
項目分析：(5)

教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。



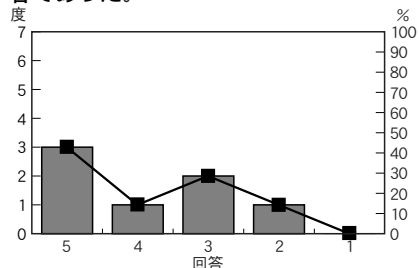
項目分析：(6)

教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。



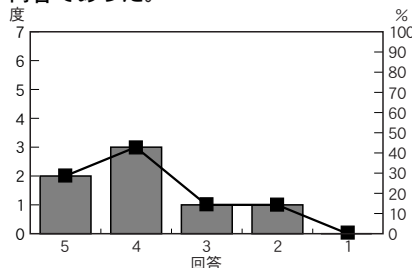
項目分析：(7)

教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。



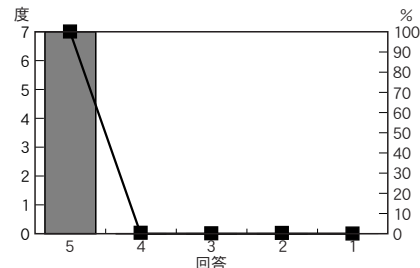
項目分析：(8)

教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。



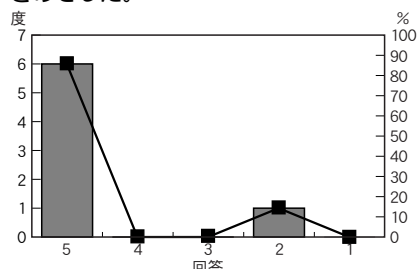
項目分析：(9)

授業によく出席した。



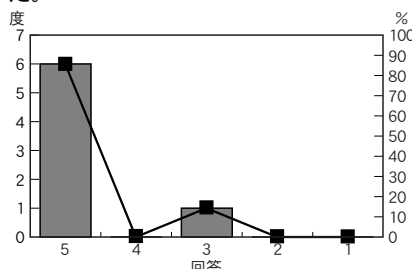
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



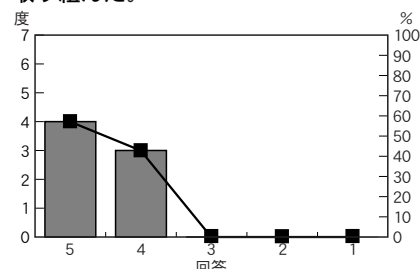
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



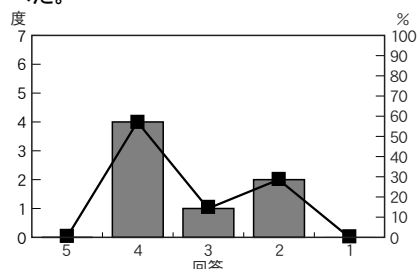
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



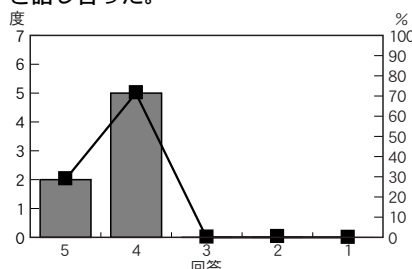
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



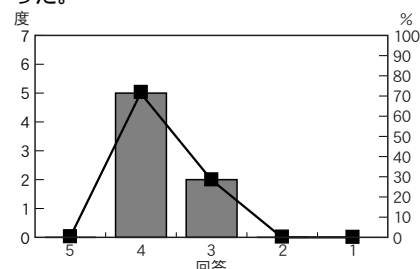
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

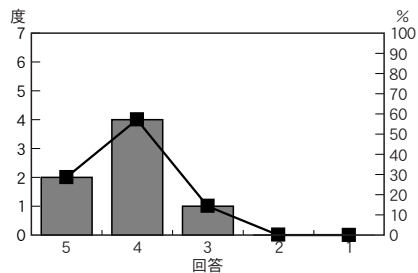


項目分析：(15)

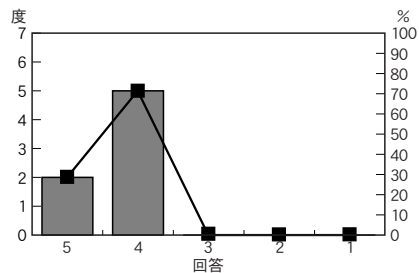
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



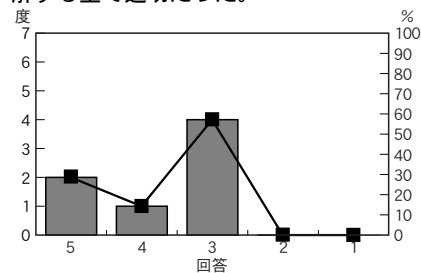
項目分析：(16)
熱心に指導した。



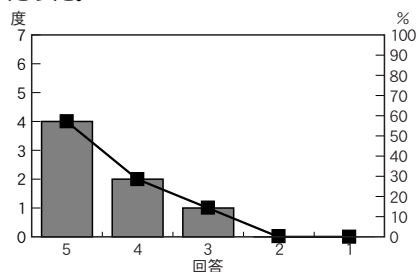
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



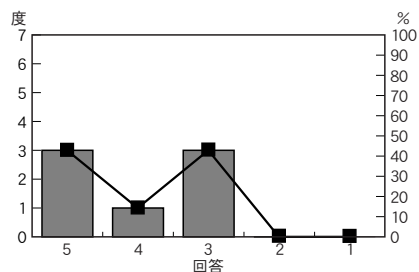
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



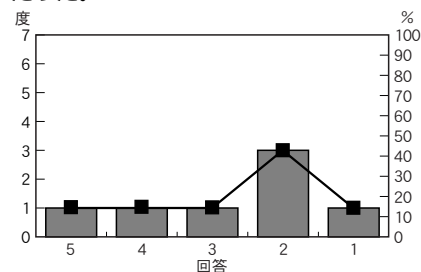
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



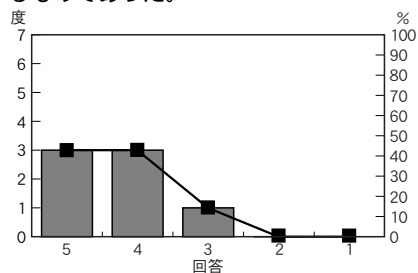
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

授業概要については、もっと明確に示す必要があった。特に成績評価の方法については、7名の教員による分担というところで曖昧な表現であった点を反省している。

1分野あたり2時間の授業に、作品制作を5分野で取り入れてみると、前期全体では受講生にかなりオーバーワークとなったようである。

次年度においては、学生の視点に立った教育実践コア科目として相応しい授業内容、授業方法となるよう見直しを図りたい。

授業科目名：「初等中等教育実践基礎演習（体育科・保健体育科教育コース）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

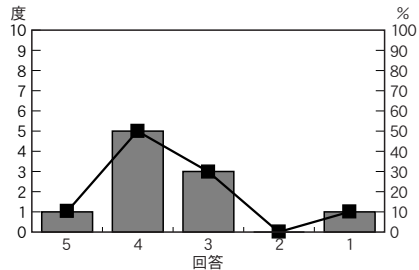
担当教員名：乾 信之

(有効な合計10)

■ 度 ■ %

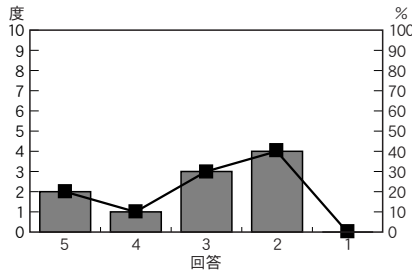
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



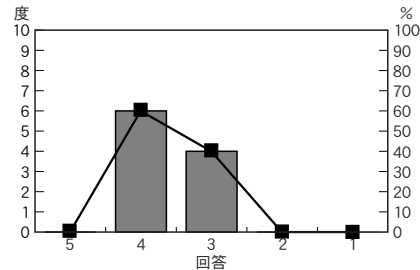
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



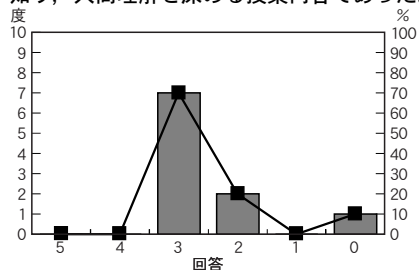
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



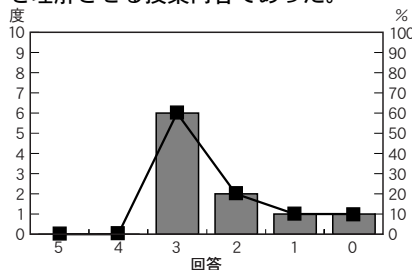
項目分析：(4)

教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。



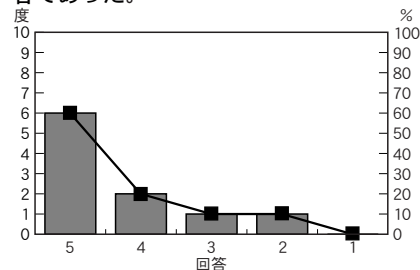
項目分析：(5)

教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。



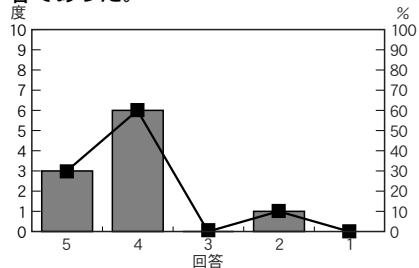
項目分析：(6)

教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。



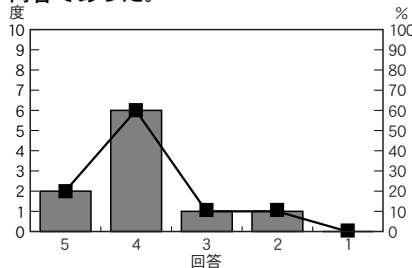
項目分析：(7)

教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。



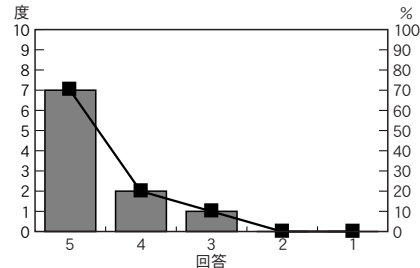
項目分析：(8)

教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。



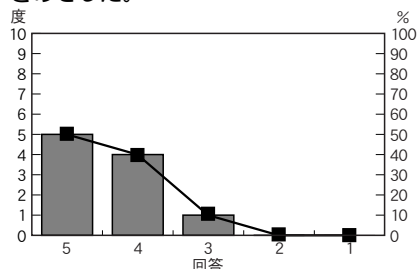
項目分析：(9)

授業によく出席した。



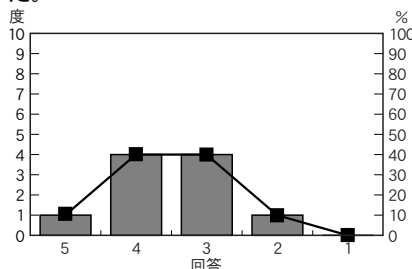
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



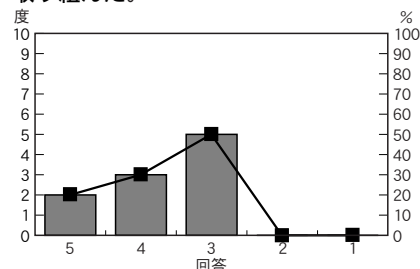
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



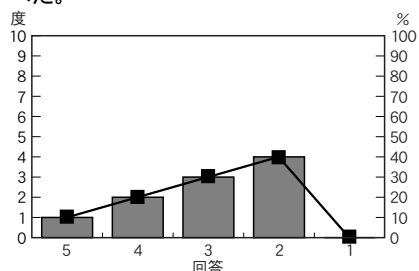
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



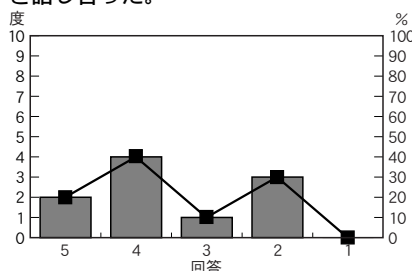
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



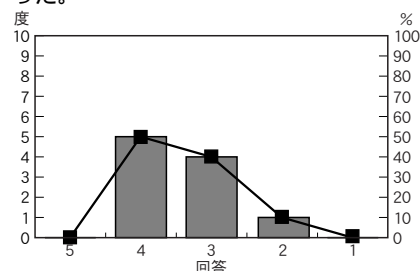
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

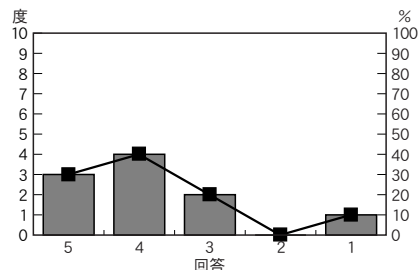


項目分析：(15)

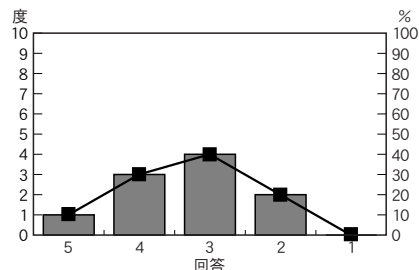
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



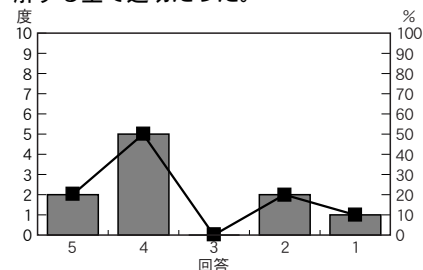
項目分析：(16)
熱心に指導した。



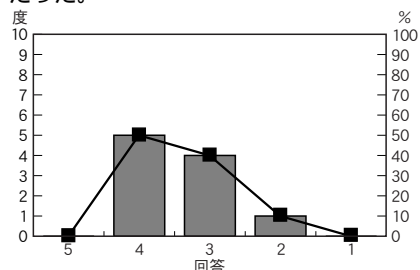
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



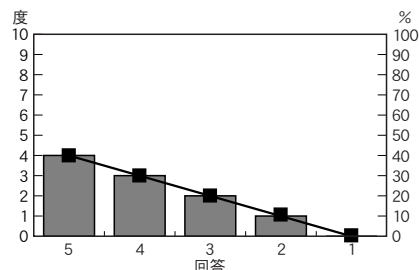
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



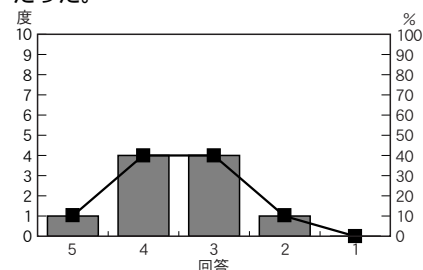
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



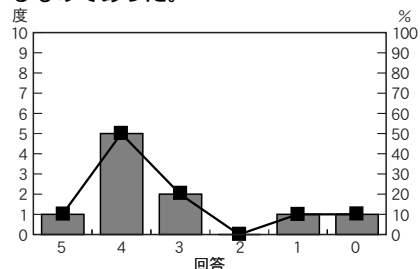
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

この演習は受講生が「希望格差社会」(筑摩書房, 2004)の内容をレジメにまとめて、発表して話し合うという形式で行った。本の内容が特定の教科に限定されていないので、教科に関する項目4と5は低い値を呈したが、教職に関する項目6, 7, 8は高い値を示した。

この演習の形式から、演習時間以外にもかなりの準備が必要であったから、項目10は高い値を示した。しかしながら、わからないことや疑問に思ったことをさらに調べる態度に欠けていた(項目13)。

したがって、今後の課題として、演習で生じた疑問点を自己学習するような演習での論議が望まれる。

授業科目名：「初等中等教育実践基礎演習（技術科教育コース）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

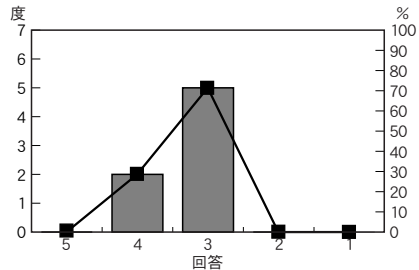
担当教員名：木下凱文，伊藤陽介，尾崎士郎，菊地 章，坂本 智，宮下晃一，吉田 肇

(有効な合計 7)

■ 度 ■ %

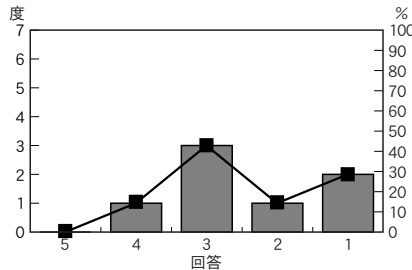
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



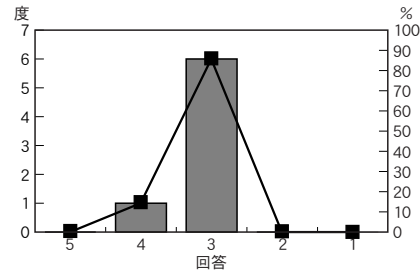
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



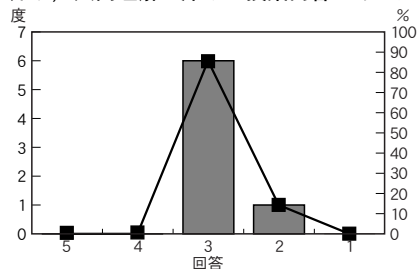
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



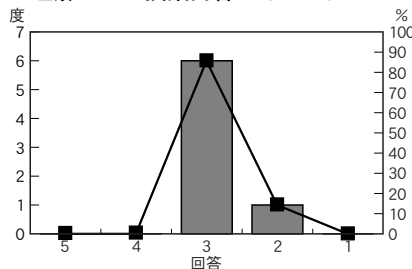
項目分析：(4)

教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。



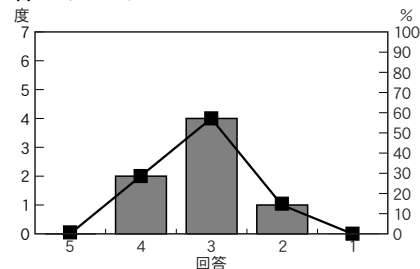
項目分析：(5)

教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。



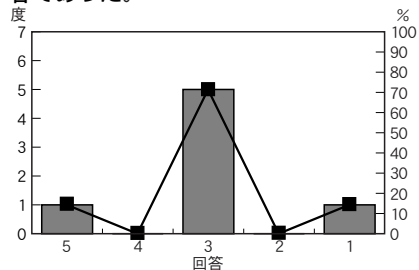
項目分析：(6)

教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。



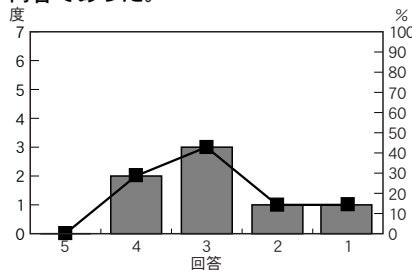
項目分析：(7)

教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。



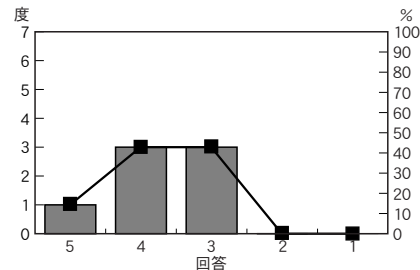
項目分析：(8)

教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。



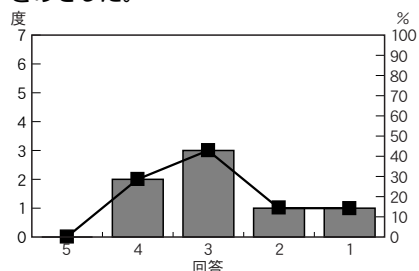
項目分析：(9)

授業によく出席した。



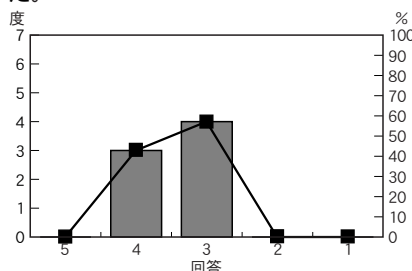
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



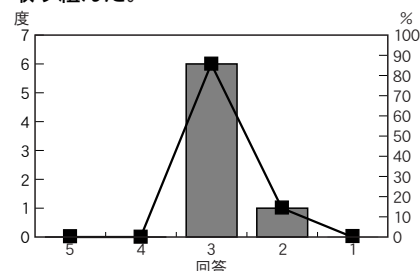
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



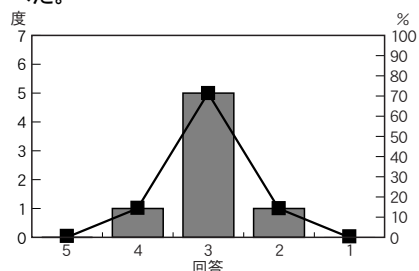
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



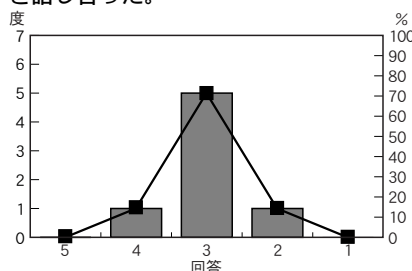
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



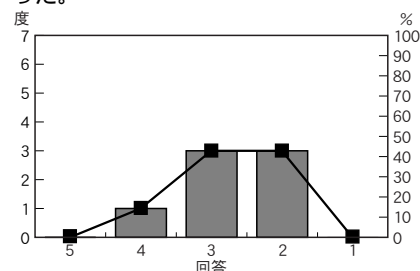
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

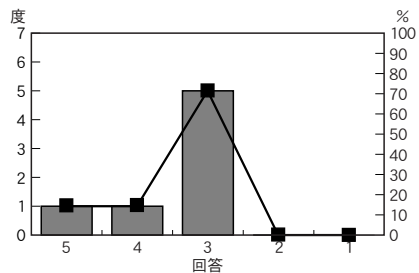


項目分析：(15)

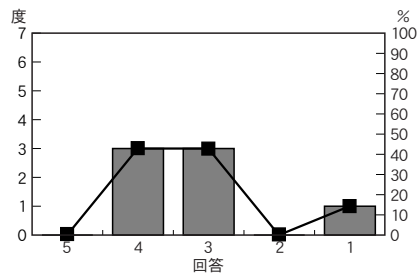
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



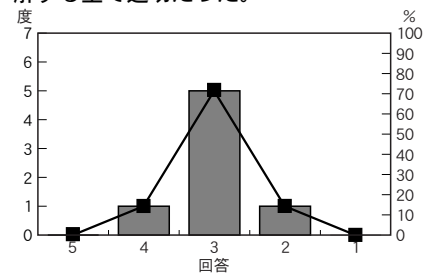
項目分析：(16)
熱心に指導した。



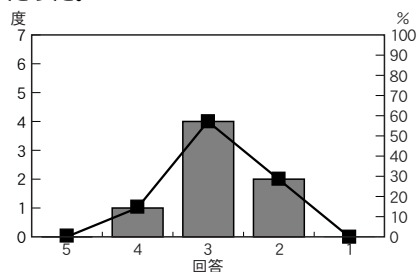
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



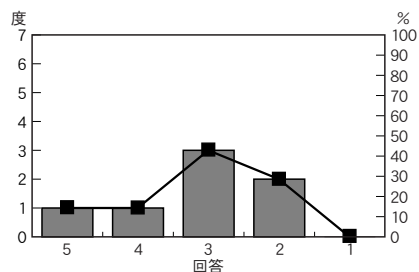
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



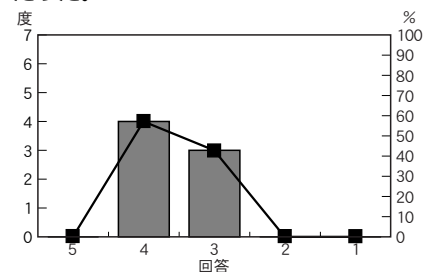
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



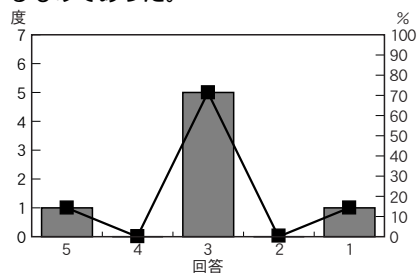
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

授業科目名：「初等中等教育実践基礎演習（家庭科教育コース）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

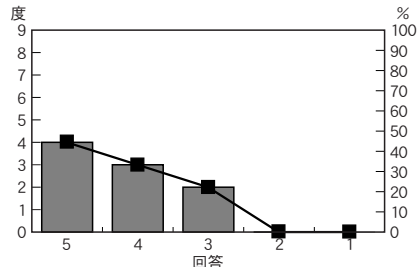
担当教員名：黒川 衣代, 西川 和孝, 金 貞均

(有効な合計 9)

■ 度 ■ %

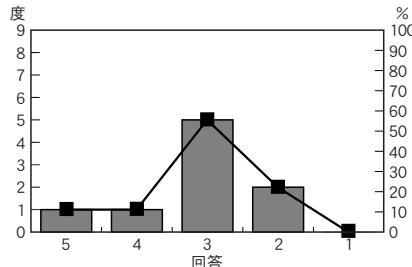
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



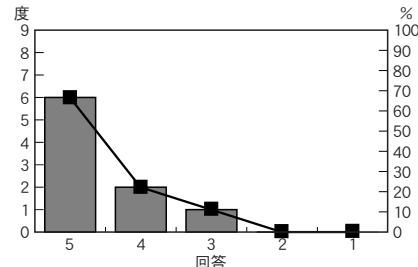
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



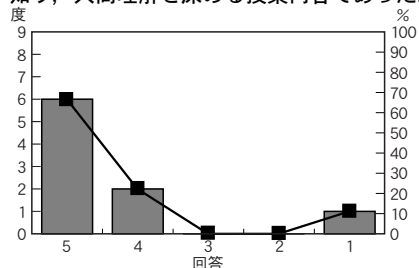
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



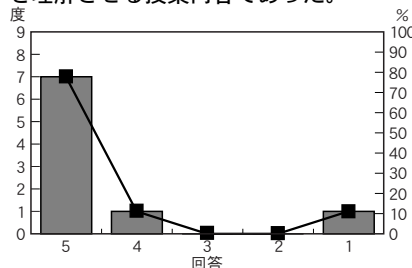
項目分析：(4)

教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。



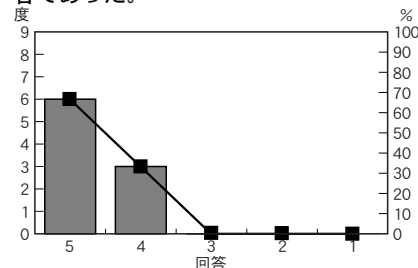
項目分析：(5)

教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。



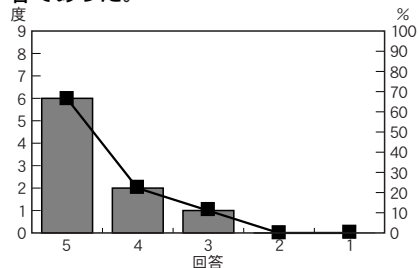
項目分析：(6)

教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。



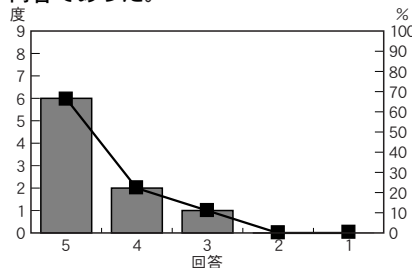
項目分析：(7)

教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。



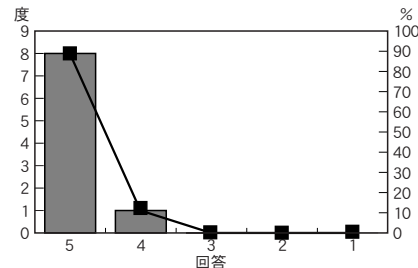
項目分析：(8)

教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。



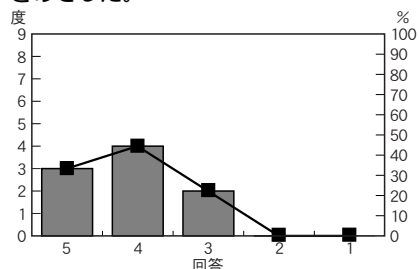
項目分析：(9)

授業によく出席した。



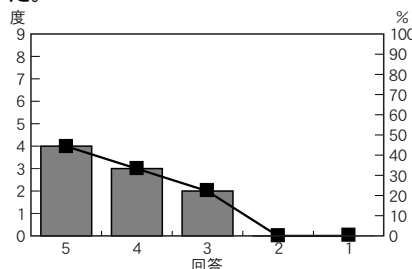
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



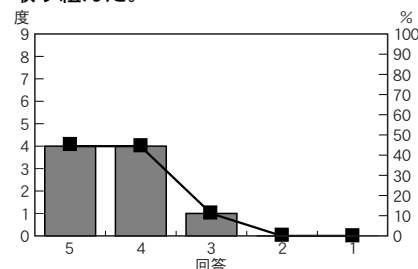
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



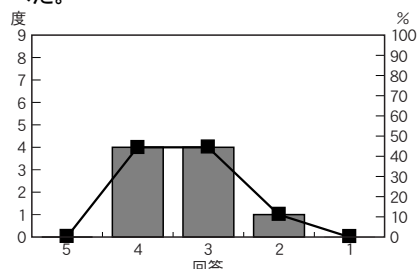
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



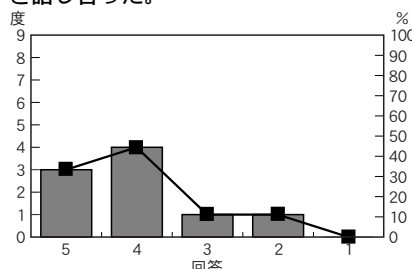
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



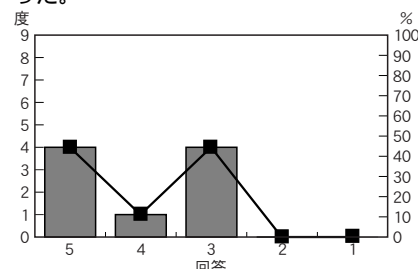
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

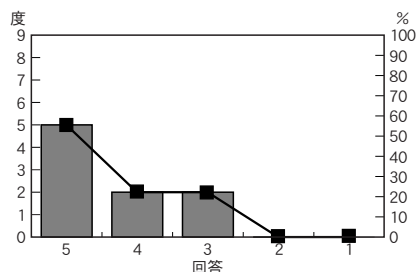


項目分析：(15)

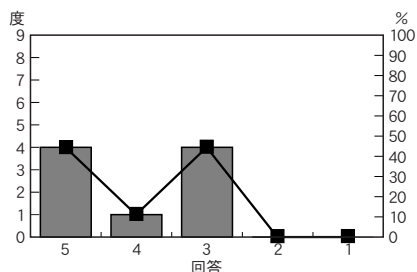
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



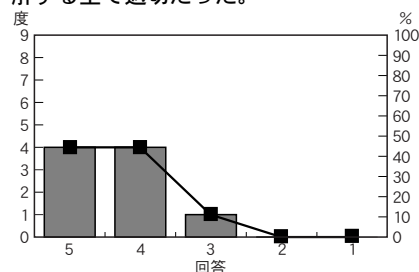
項目分析：(16)
熱心に指導した。



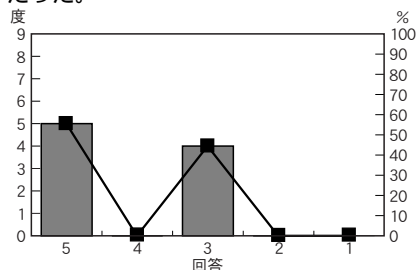
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



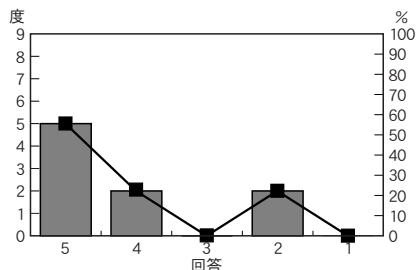
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



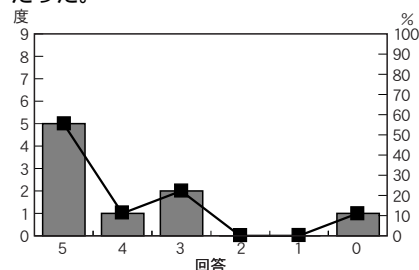
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



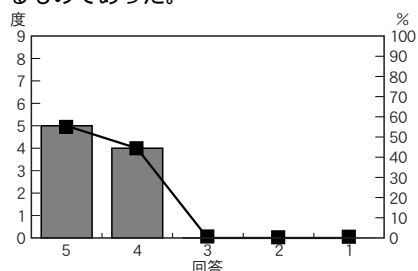
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

アンケートの結果、授業のはじめに「授業目標・授業計画・内容、成績評価の方法」に関する説明をより明確にする必要性が浮かび上がった。「授業の内容（設問3～8）」に関しては一定以上の評価をしており、本授業の到達目標（家庭科教育の成立・特性および専門職として家庭科教師に求められる資質について理解し、家庭科教師像を具体的にイメージできる）は達成されたと判断できる。受講生からの提言の欄には、本授業のよかった点として、「現職の小・中学校先生に話を聞いたこと」「教職について詳しく知ることができたこと」「家庭科の意義、役割、これからの社会をみる視点について考えられたこと」「模擬授業をしたことで、教えることの難しさや大切さを知ることができたこと」「教員になるための意欲がわいてきたこと」などの意見が書かれており、本授業の期待する成果として捉えたい。一方、受講生側の取り組み姿勢に関する自己評価（設問9～14）は決して肯定的とはいえず、学習意欲の向上と参加姿勢等に対する教員側の工夫が必要と考える。「教員の授業の進め方（設問15～21）」では「受講生の理解状況を確認めながら」、「授業内容を分かりやすく、聞き取りやすく伝えること」と「適切な教具の選定」等への示唆が得られた。最後に、本授業に対する受講生らの全体的満足度は高いといえる。

授業科目名：「障害児教育実践基礎演習」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

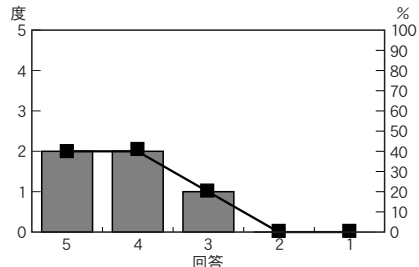
担当教員名：橋本俊顯，八幡ゆかり，井上とも子，大谷博俊，津田芳見，島田恭仁

(有効な合計 5)

■ 度 ■ %

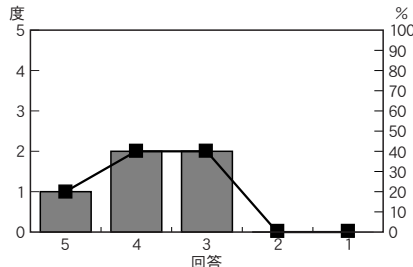
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



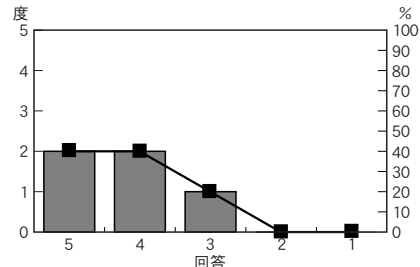
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



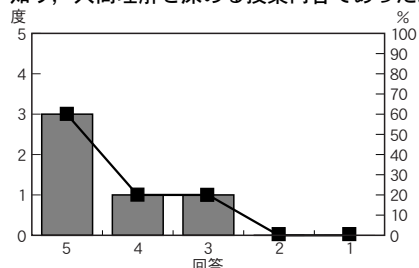
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



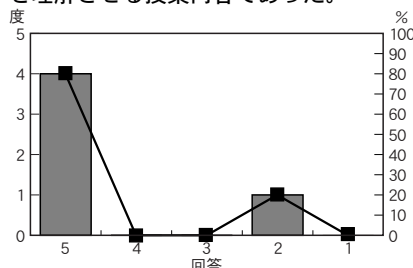
項目分析：(4)

教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。



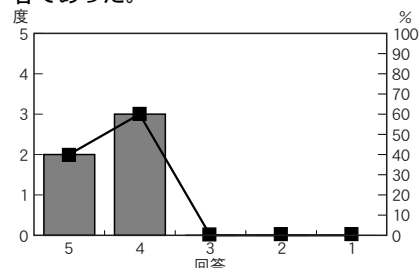
項目分析：(5)

教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。



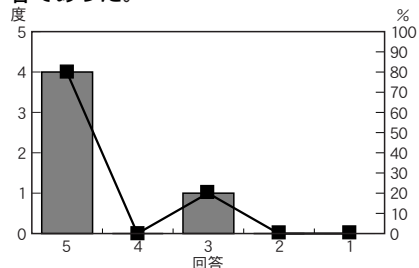
項目分析：(6)

教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。



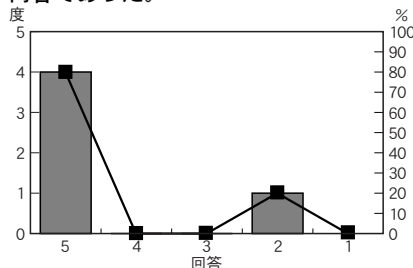
項目分析：(7)

教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。



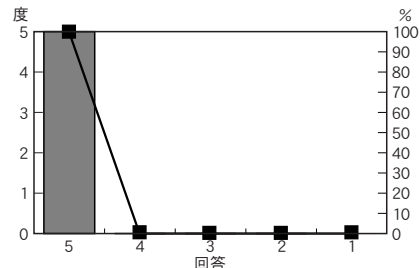
項目分析：(8)

教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。



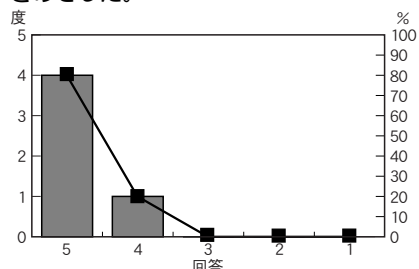
項目分析：(9)

授業によく出席した。



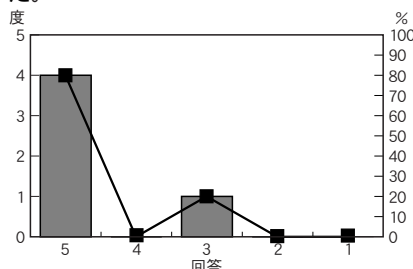
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



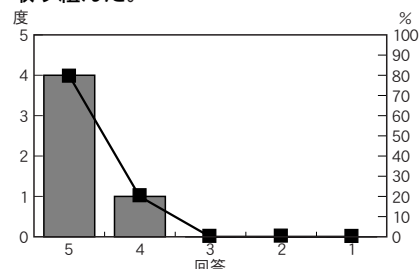
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



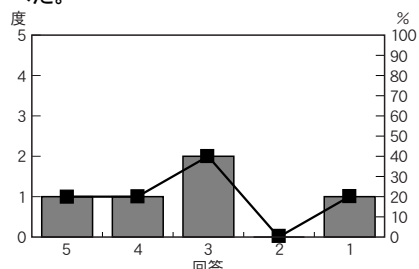
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



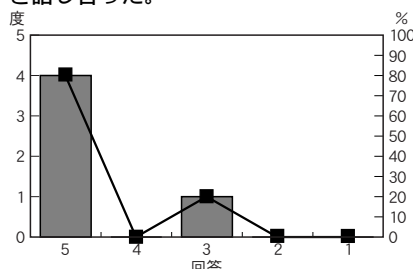
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



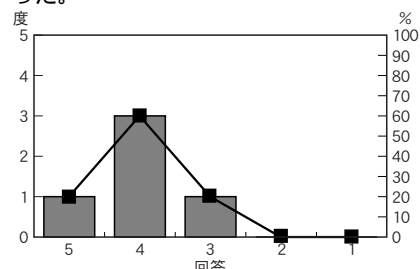
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

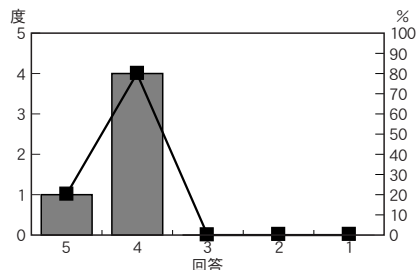


項目分析：(15)

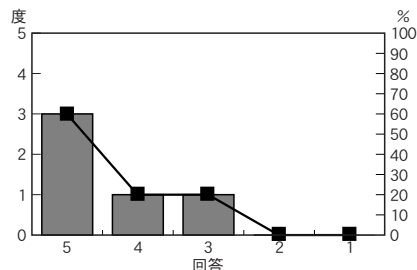
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



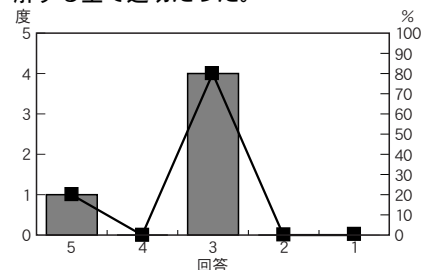
項目分析：(16)
熱心に指導した。



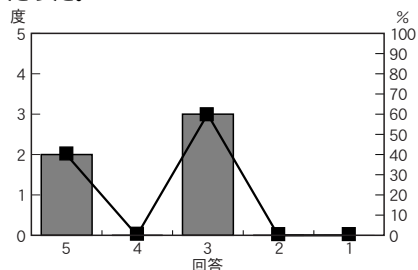
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



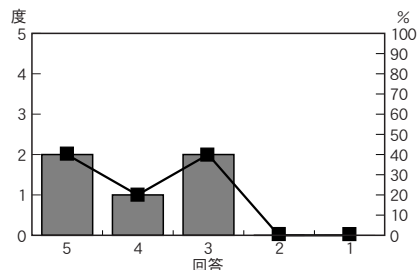
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



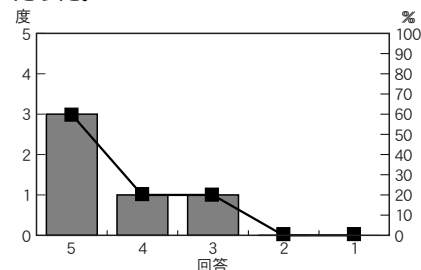
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



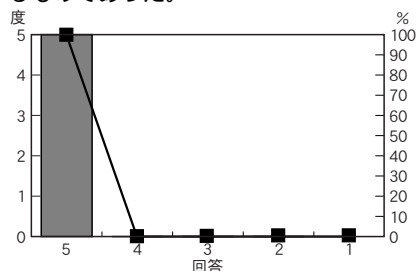
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は将来障害児教育に関わる学生に障害児教育の現場を体験させ、障害児教育の現状を大まかに把握させる目的で行っている。アンケート結果からは概ねその目的は達成されたと考えられるが、一部に障害児教育の特性が理解できなかったものがいたので、これが教育する立場の側の要因か否かについて検討を要する。

授業への参加については積極的であったが、入学直後の授業のためか自主学习についての項目でばらつきが見られた。検討を要する。

成績評価について十分に伝わっていなかった点を除いて、授業そのものへの評価は妥当であった。また、全体評価は全員この授業は満足のいくものとの評価であり、一部改善しながら次年度も同様の方針で実行する予定である。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅰ（国語）」

評価実施日：平成19年2月14日

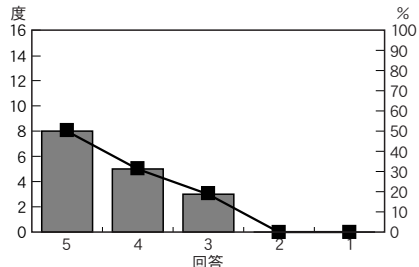
担当教員名：余郷 裕次

(有効な合計16)

■ 度 ■ %

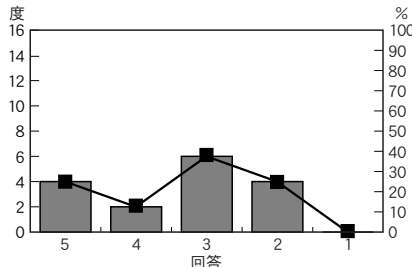
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



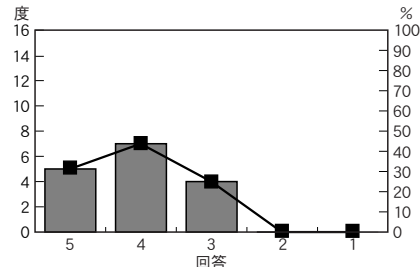
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



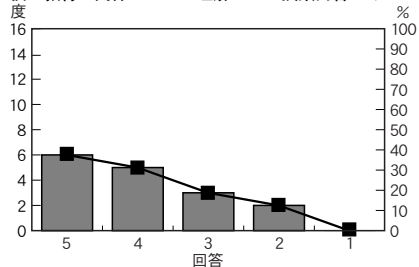
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



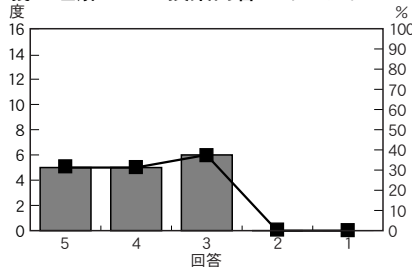
項目分析：(4)

「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。



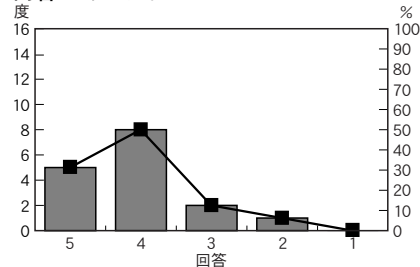
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



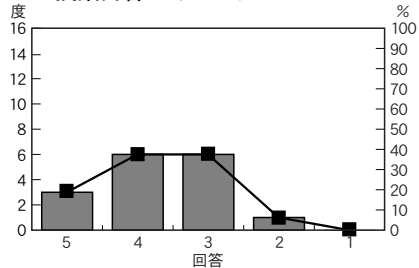
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



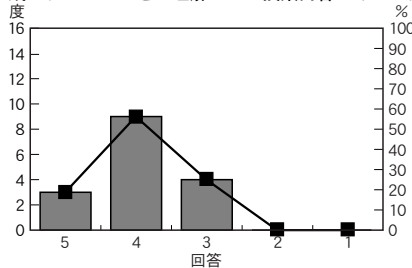
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



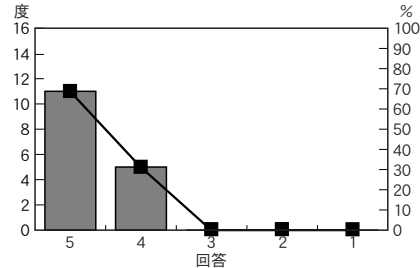
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



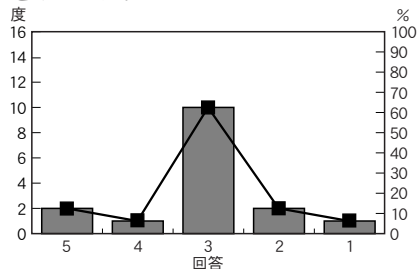
項目分析：(9)

授業によく出席した。



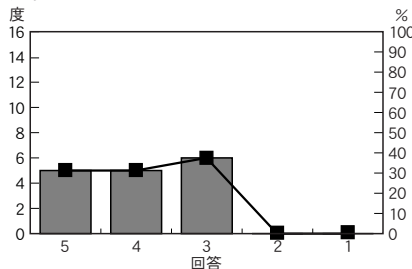
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



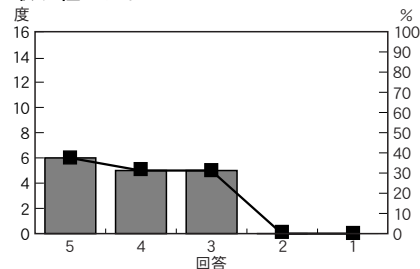
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



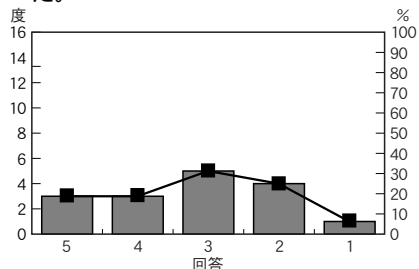
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



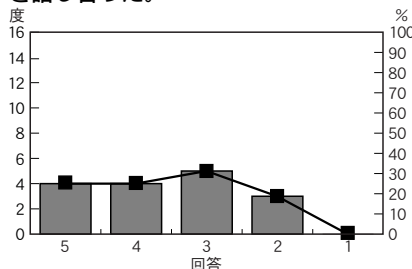
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



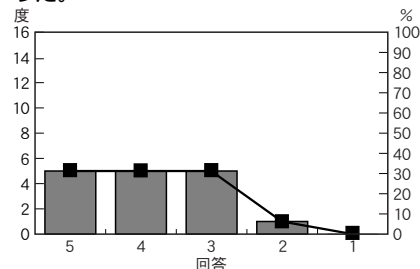
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

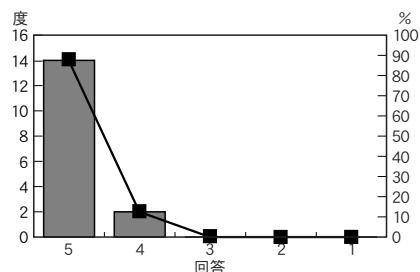


項目分析：(15)

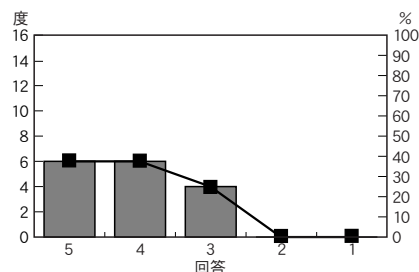
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



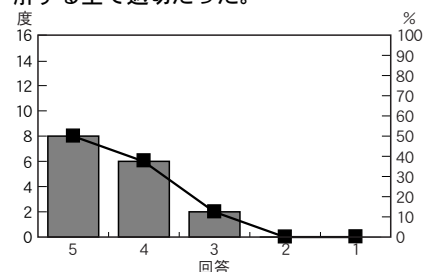
項目分析：(16)
熱心に指導した。



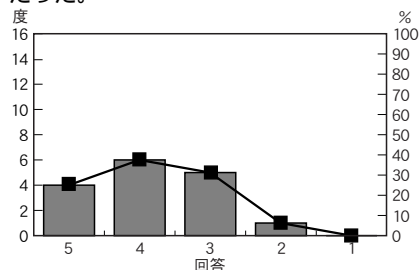
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



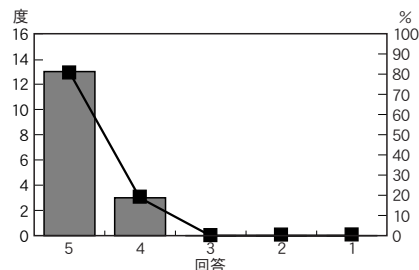
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



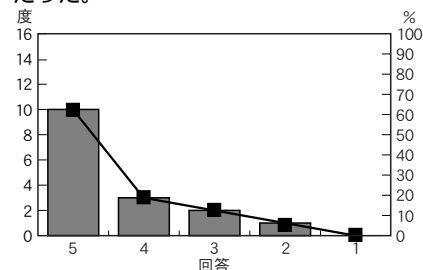
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



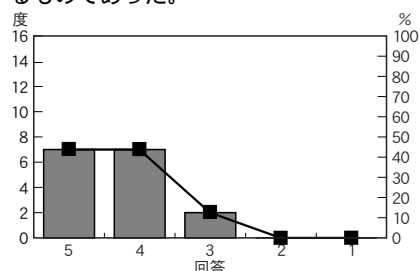
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

初等中等教科教育実践 I (国語) は、昨年度から始まった新しい授業である。昨年度と同様、授業評価からは、授業に毎回熱心に参加し、教員側の熱意を評価しつつ、全体として満足していることがわかる。特に、項目分析 (16) 「熱心に指導した。」については、5 の評価が 87%、4 の評価が 13% で、それ以下の評価は無かった。教員が熱心に指導すれば、学生はそれを受けとめ評価してくれることが確かめられた。ただし、(17) 「授業内容を分かりやすく伝えた」は、5: 37.5%、4: 37.5%、3: 25% と、やや評価がばらついた。

講義の展開や方法については、さらに試行錯誤しつつ工夫が必要である。

また、「6 あなたからの提言」では「いろいろな絵本に出逢えたことや絵本を読むきっかけとなったこと。」など、「絵本の読み聞かせ」に関する授業内容を「よかった」と評価する記述が多く見られた。また、「教科書の内容に深く触れることが出来た。」など教材研究に関する授業内容を「よかった」と評価する記述も見られた。今後も、教科教育実践の主旨を生かし、教科内容、指導方法と関わらせながら、絵本や教材の音読や読み聞かせの基礎的パフォーマンスを鍛える授業内容を展開していきたい。しかし、内容学の教員との有機的な連携については、今後の課題として残った。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅰ（社会科）」

評価実施日：平成19年2月7日

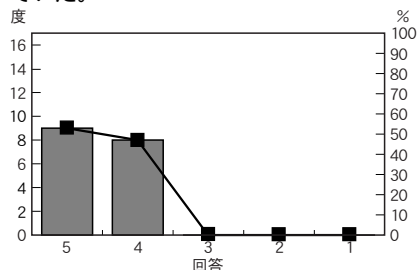
担当教員名：橋川 喜美代，草原 和博，坂田 大輔，立岡 裕士，青葉 暢子

(有効な合計17)

■ 度 ■ %

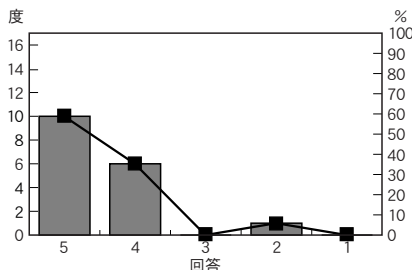
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



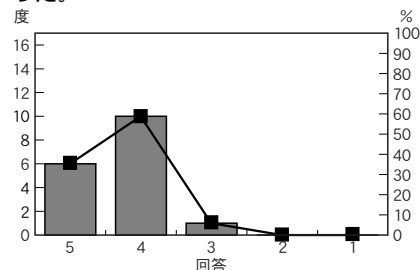
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



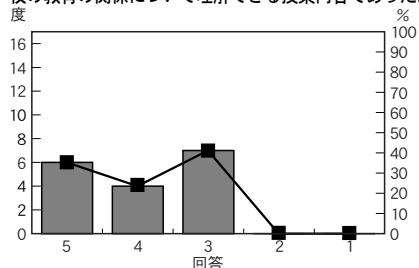
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



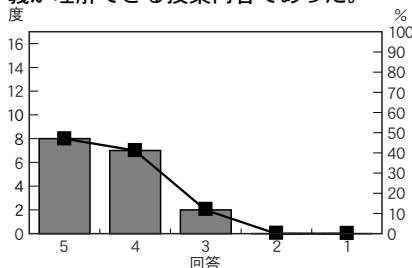
項目分析：(4)

「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。



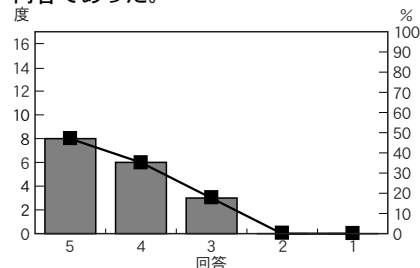
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



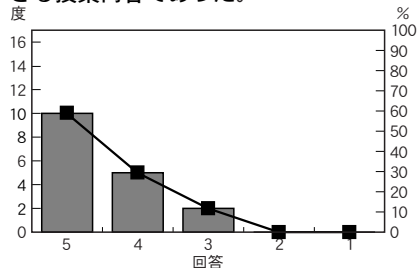
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



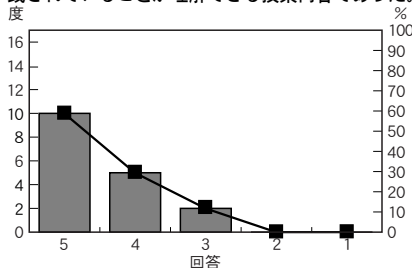
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



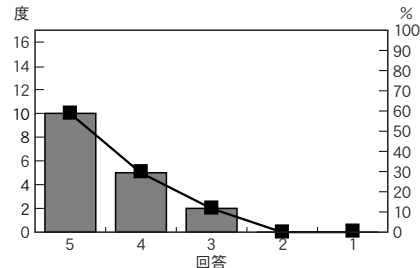
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



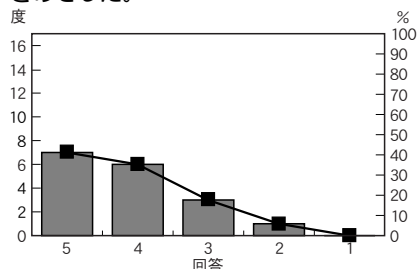
項目分析：(9)

授業によく出席した。



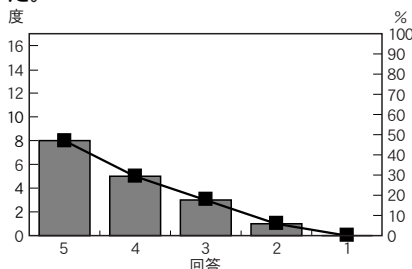
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



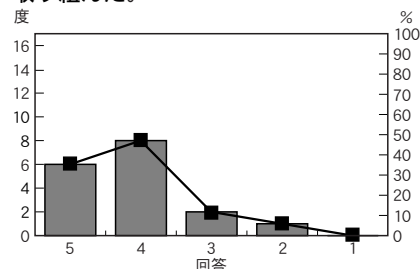
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



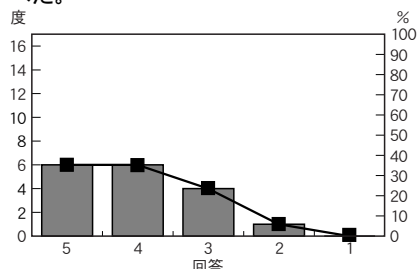
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



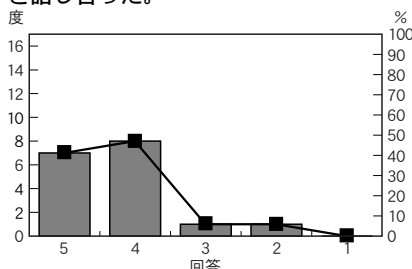
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



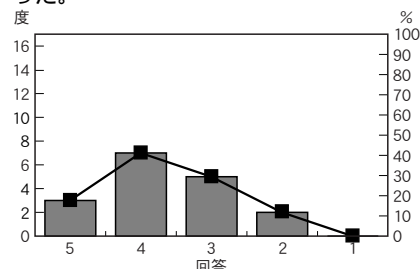
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

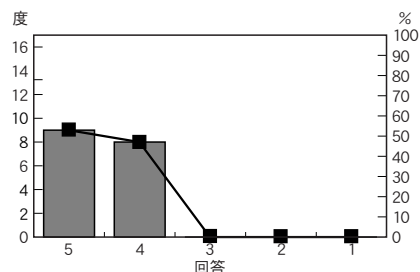


項目分析：(15)

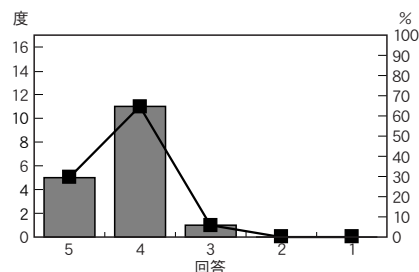
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



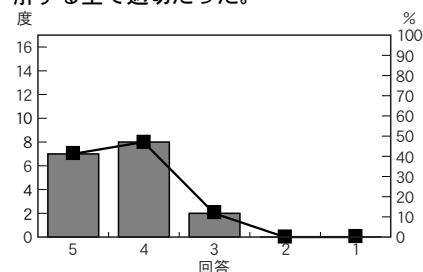
項目分析：(16)
熱心に指導した。



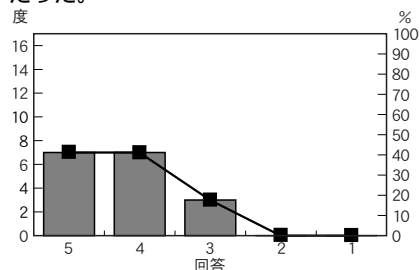
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



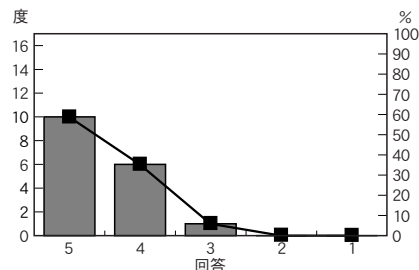
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



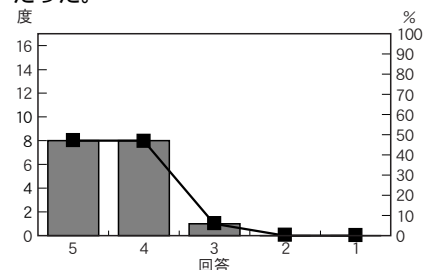
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



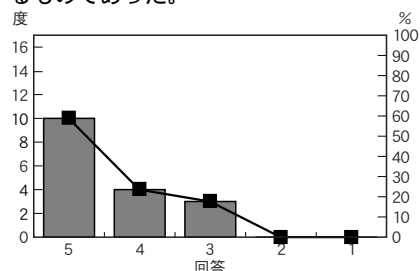
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

おおむね高評価が得られた。学生の満足度（項目 20）では、評点 5 が 58%、評点 4 以上では 82% の支持があった。コアカリの目標に照らしてとくに注目されるのは、項目 4～8 の結果である。教科の特性・意義（項目 5）、授業観察の視点(6)、授業実践の指導力(7)、授業の目標・内容・方法の構造(8)に関する理解では、評点 4 と 5 が 80% 以上を占めた。しかし、幼小連携の理解(4)に関する評価は、他に比べて低かった。カリキュラム全体における冒頭 3 回の位置づけが問われている。これは全学的に検討すべき課題であろう。

本学では、全般的に学生の主体的な学習状況にかかわる項目で、評点が低く抑えられる傾向にある。しかし、本科目に限ると、疑問解決（項目 12）を除いて、授業時間外の準備・復習(10)、授業への積極的参加(11)、意欲的な課題解決(13)、友人・教員との話し合い(14)で、評点 4 以上が 80% あった。これは、教育実践力の育成という本科目のねらいが授業のあり方を変え、学生の取り組みを促したためと考えられる。自由記述の回答にも、「模擬授業形式の授業プラン発表がよかった」「授業（づくり）のイメージをもつことができた」「現職の先生の話が聞けてよかった」「自分のためになった」「社会科教育にいっそう関心をもてるようになった」などの好意的なコメントが寄せられた。

一方、授業の分かりやすさを問うた項目(17)において、評点 5 が 29%・評点 4 が 65% と相対的に評価が低かったこと、「(教員間で) 授業内容がズレていた」という受講生の指摘は無視できない。入門科目としての特性を踏まえた教育内容の開発と、担当者間でのさらなる調整が求められている。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅰ（理科）」

評価実施日：平成19年2月21日

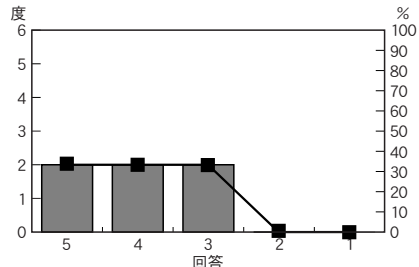
担当教員名：香西 武，工藤 慎一，武田 清，本田 亮，橋川 喜美代

(有効な合計6)

■ 度 ■ %

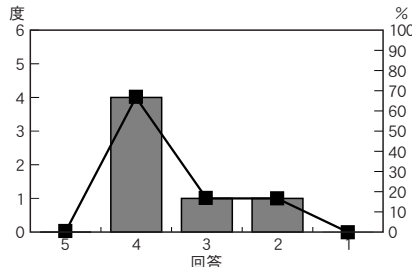
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



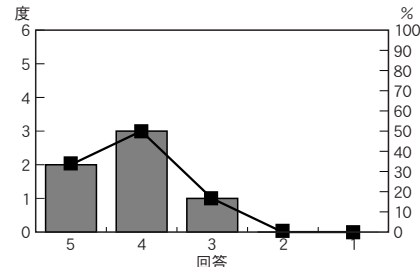
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



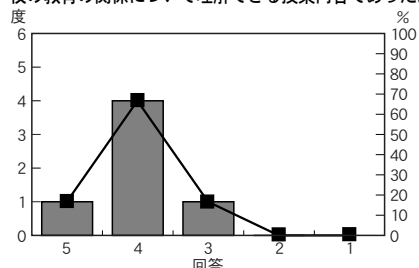
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



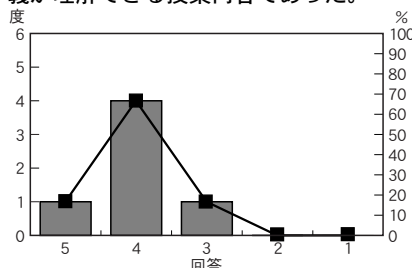
項目分析：(4)

「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。



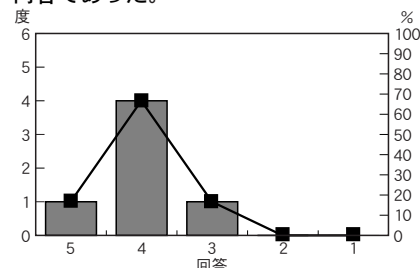
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



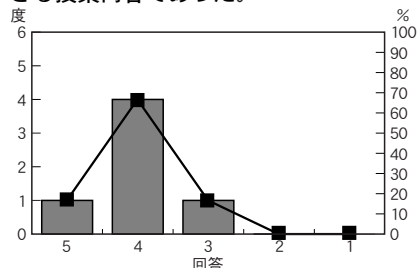
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



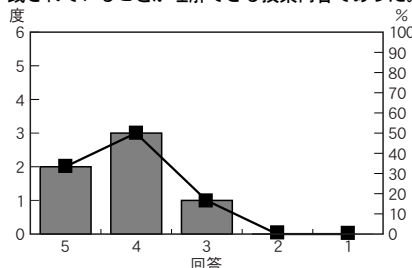
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



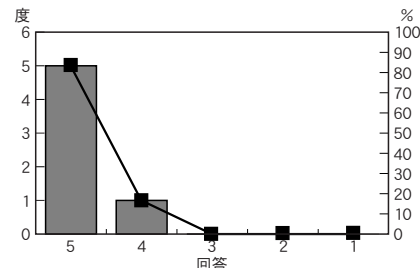
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



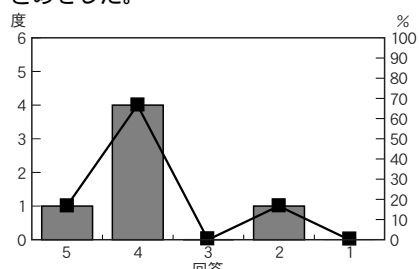
項目分析：(9)

授業によく出席した。



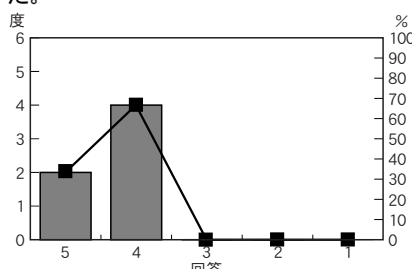
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



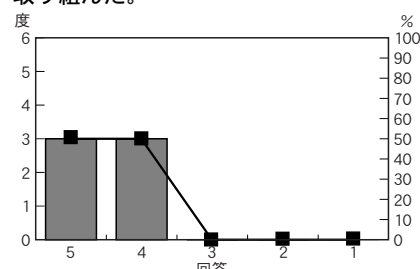
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



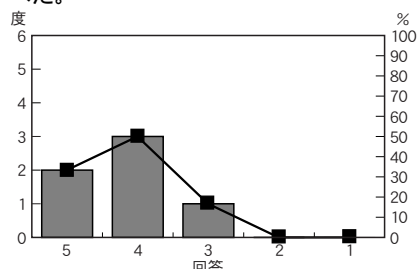
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



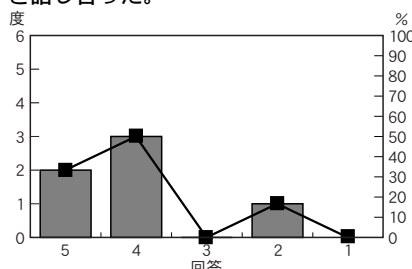
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



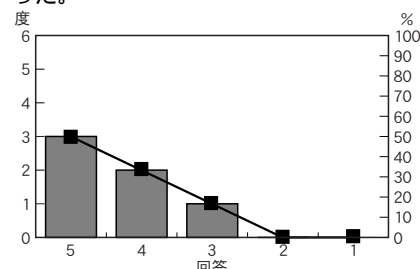
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

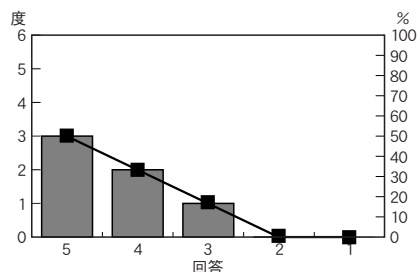


項目分析：(15)

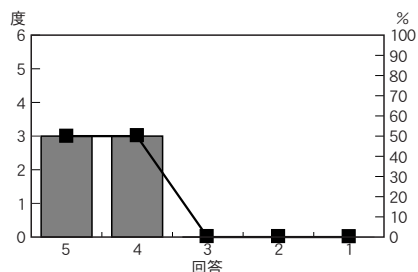
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



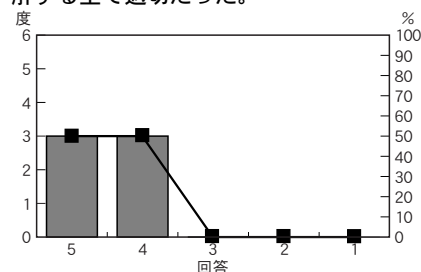
項目分析：(16)
熱心に指導した。



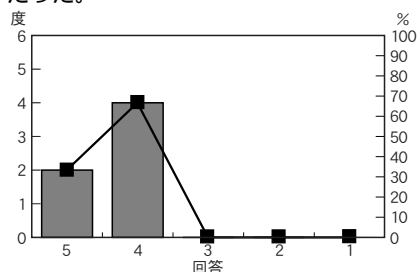
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



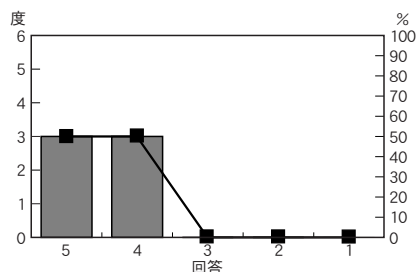
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



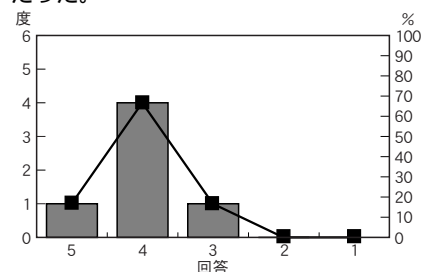
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



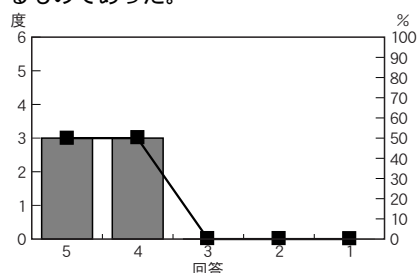
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

授業に対する満足度について、非常にそうであるが50%、かなりそうであるが50%であり、授業としての満足度は達成できていると考えられる。今後の授業の改善点としては、目標・授業計画・内容の明示がどちらも言えないという回答が30%程度あり、これらの明示が必要である。また、成績の評価方法について、明示されていたかという項目に関しても、あまりそうではないという学生もおり、評価について明示する必要がある。授業に関連した内容について友人や教員と話した、授業内容について授業時間外に準備やまとめをした、という項目でごく少数の学生ではあるが、あまりそうではないという学生もおり、授業の特質上、今後配慮が必要であると思う。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅰ（音楽）」

評価実施日：平成19年2月28日

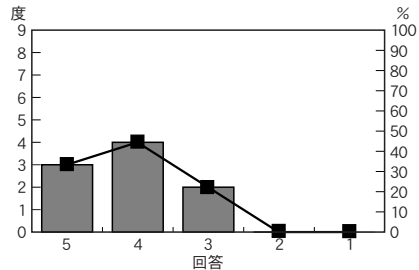
担当教員名：西園 芳信

(有効な合計9)

■ 度 ■ %

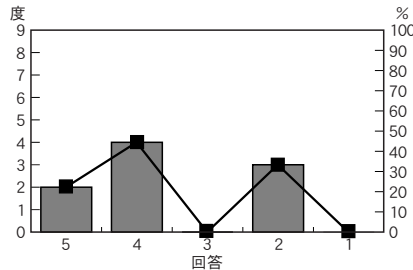
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



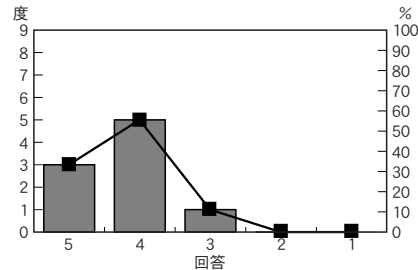
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



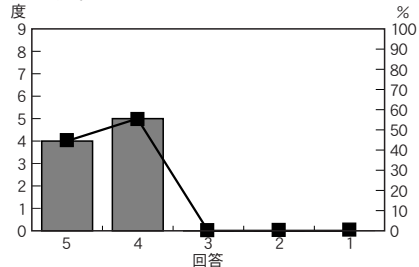
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



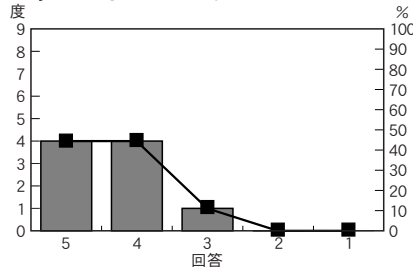
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



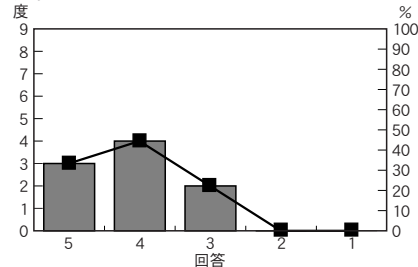
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



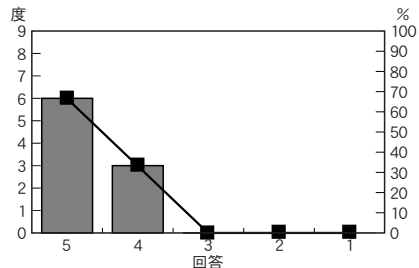
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



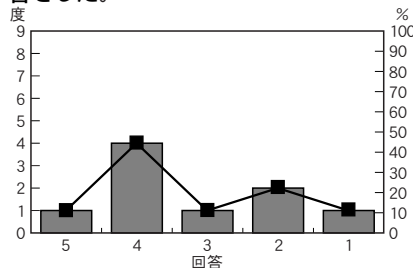
項目分析：(7)

授業によく出席した。



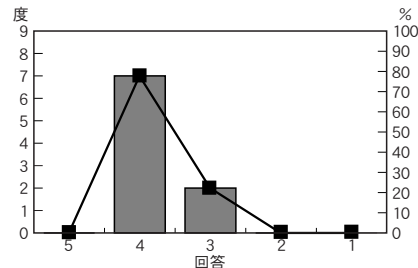
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



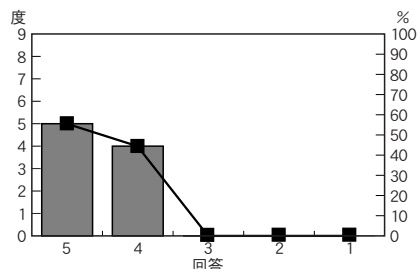
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



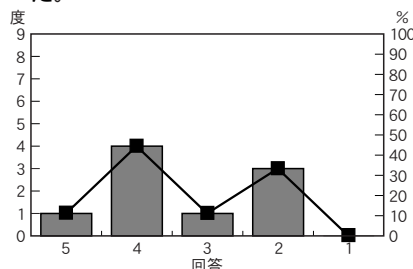
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



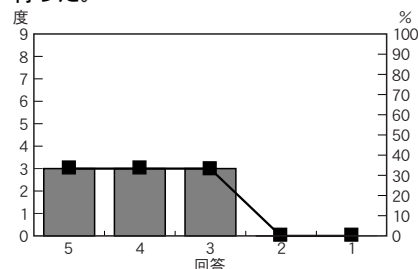
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



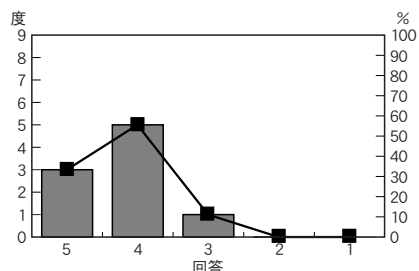
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



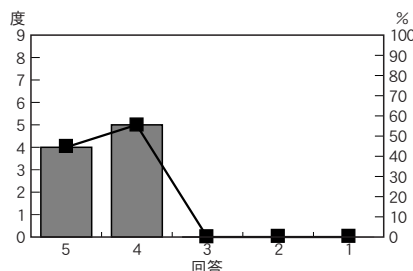
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



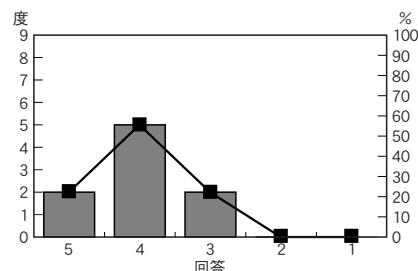
項目分析：(14)

熱心に指導した。

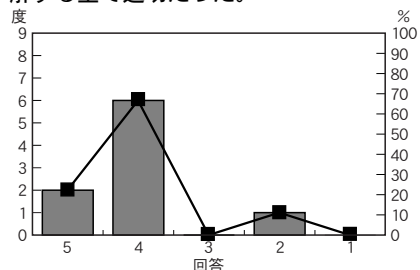


項目分析：(15)

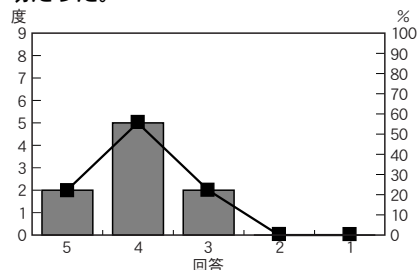
授業内容を分かりやすく説明した。



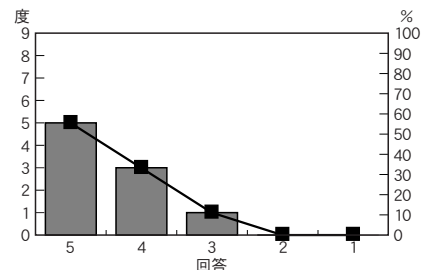
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



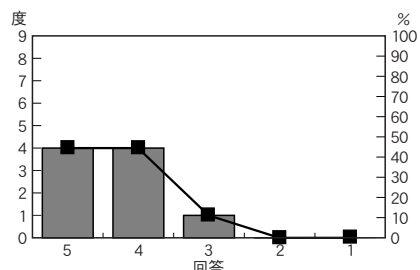
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



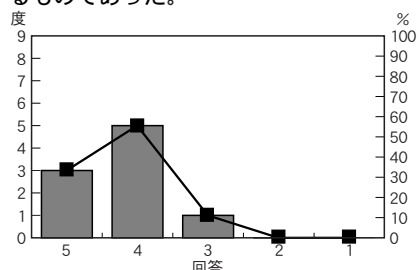
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

この授業は、教育実践を中核にし、その中で教科内容・教科教育・教育実践を関連させながら捉えられるようにすることにより、小学校低学年の授業を展開するための実践的指導力を育成することを目的とする。

授業に関する目標等、20項目の学生の評価について、5, 4, 3の評価を合計すると94%となる。このことからこの授業は、学生に十分理解できる内容であったと評価できるものと言えよう。つぎに、この授業は教員養成のカリキュラムの中で実践的指導力を育成するためのコアになるものであることから、このコアの内容を端的に示す評価項目を見ると、次のようになっている。評価項目「(5)授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。」については、5と4の評価を合計すると、88%、評価項目「(6)授業内容は、興味・関心を引くものだった。」は、5と4の評価を合計すると、77%となっている。このことから、この授業は、本学のコア授業としての目的を達成していると言えよう。

授業において改善すべき点は、授業の中で学生に積極的に発言を促すことや、もっと授業に積極的に参加するように促すこと、それと、成績評価の方法について明確に示すことである。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅰ（図工・美術）」

評価実施日：平成19年1月17日

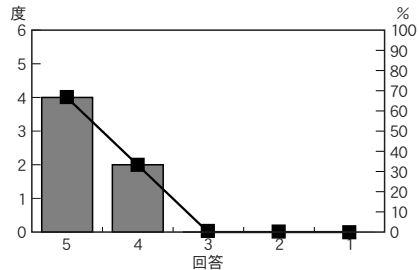
担当教員名：橋川 喜美代，武市 勝，小川 勝，野崎 窮，森 裕二郎，山木 朝彦

(有効な合計6)

■ 度 ■ %

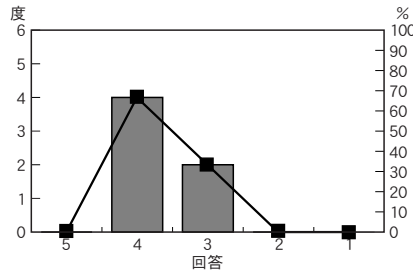
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



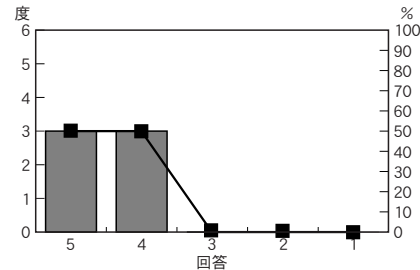
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



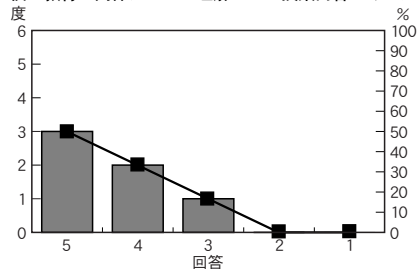
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



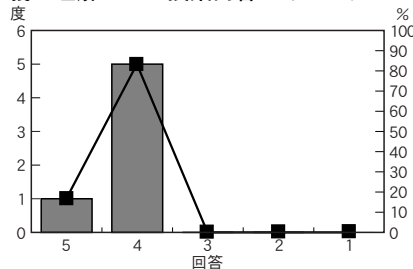
項目分析：(4)

「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。



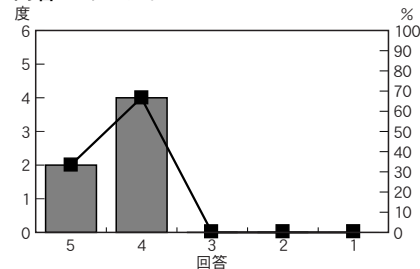
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



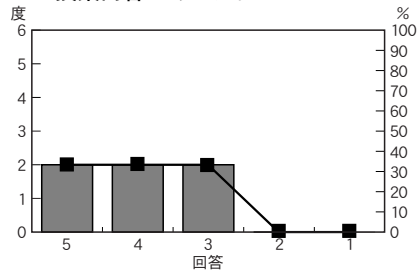
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



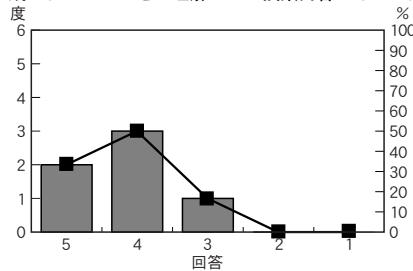
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



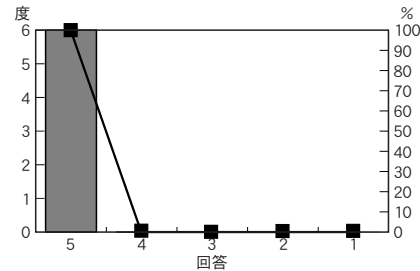
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



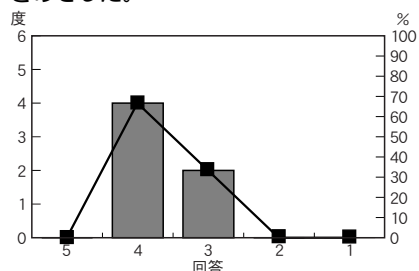
項目分析：(9)

授業によく出席した。



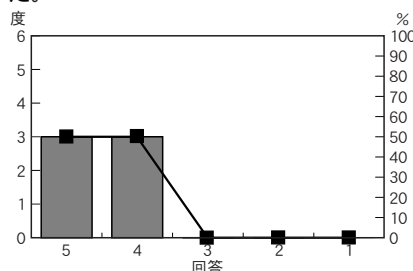
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



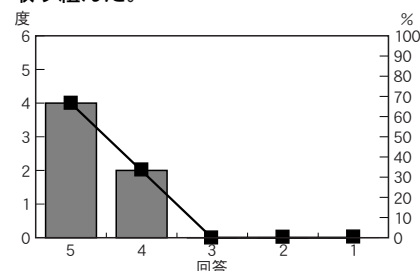
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



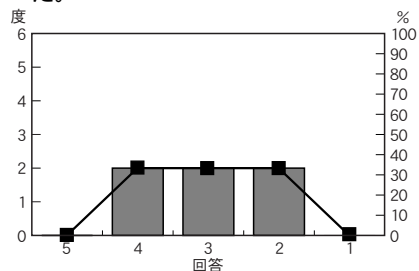
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



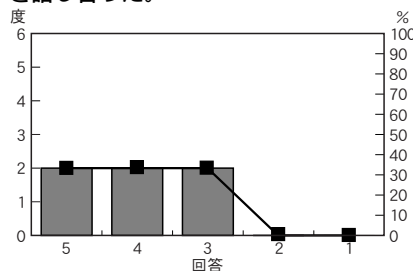
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



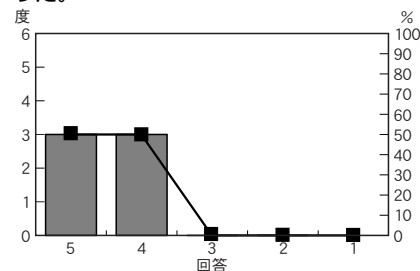
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

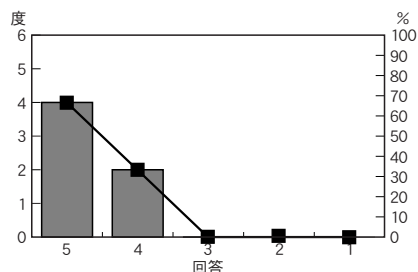


項目分析：(15)

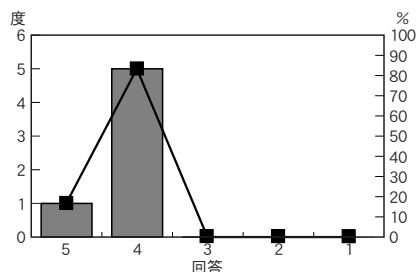
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



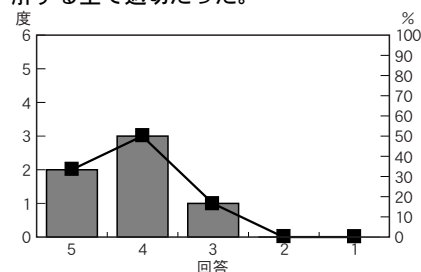
項目分析：(16)
熱心に指導した。



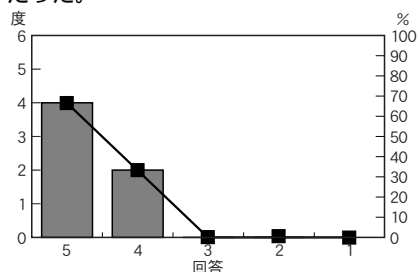
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



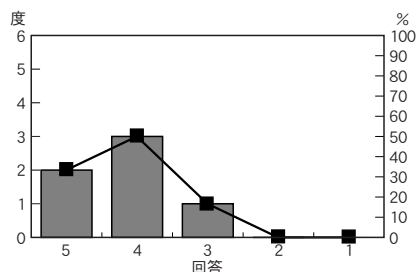
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



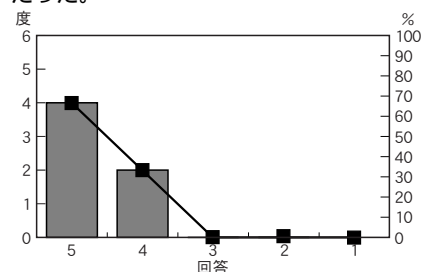
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



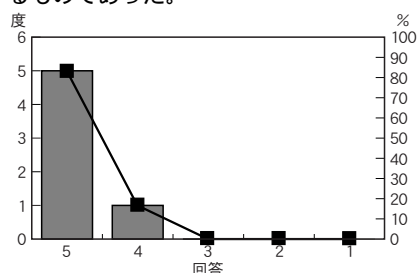
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

総合的な評価を問う問いとして設けられた第22問の「この授業は、自分にとって満足できるものであった」かどうかという設問に対して、5が約83%、4が約17%となり、全体として高い評価を得られたのは、根本的なところでこの授業の内容が受講生に支持されていることを示しており、授業改善については、部分的な改善に努める方向で見直すことに努めればよいことを示唆している。同様に、項目分析の1、3、9、11、12、15、16、19、21では、値5と4に集中しており、この授業が教育内容および方法の面で高く評価されていることがわかる。課題としては、項目分析13の「分からないことや疑問に思ったことは調べた」かどうかを問う設問に値2を選ぶ受講生がいたことである。いわゆる調べ学習の学習姿勢を教師自身が身に付けることが重要であることを授業中に示唆するなどすべきだったと反省している。なお、それ以外の項目では、値2や値1を選ぶ者は一人もいなかった。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅰ（保体）」

評価実施日：平成19年1月24日

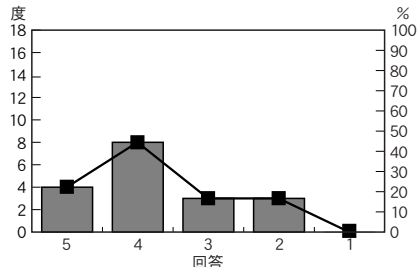
担当教員名：橋川 喜美代，安藤 幸，綿引 勝美，木原 資裕

(有効な合計18)

■ 度 ■ %

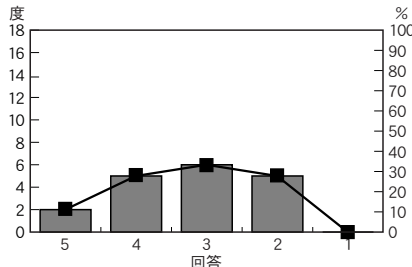
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



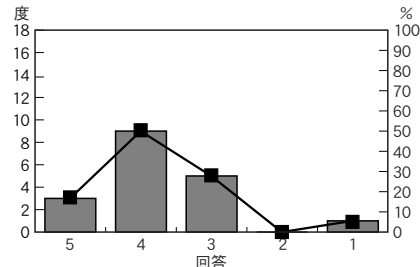
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



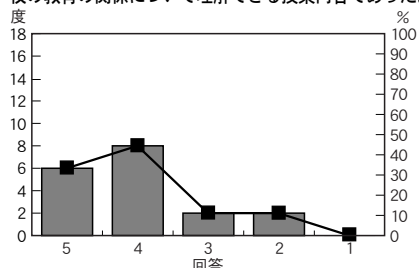
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



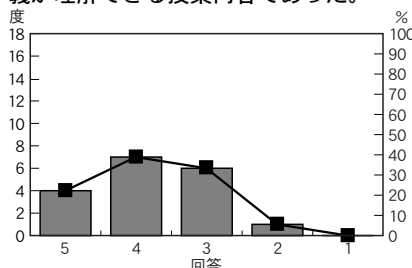
項目分析：(4)

「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。



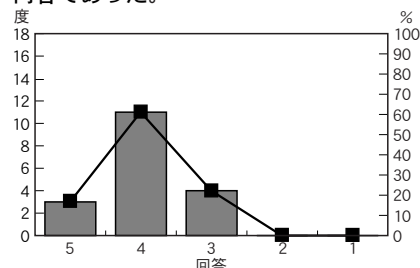
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



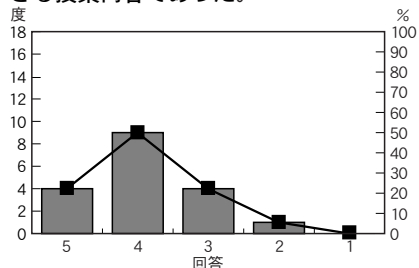
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



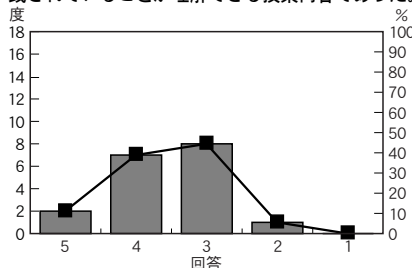
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



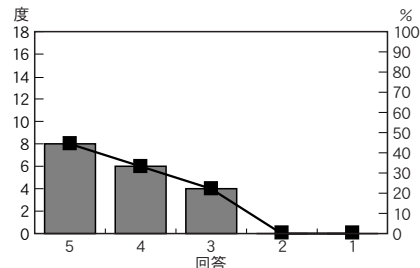
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



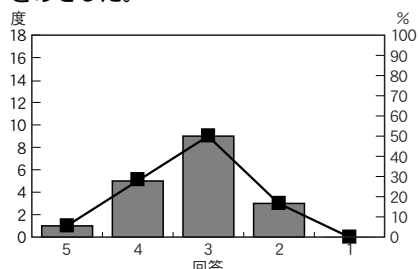
項目分析：(9)

授業によく出席した。



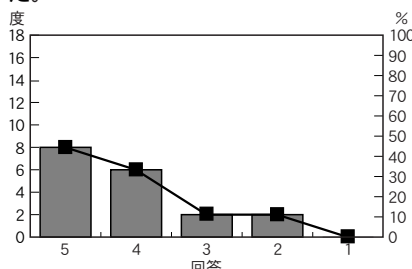
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



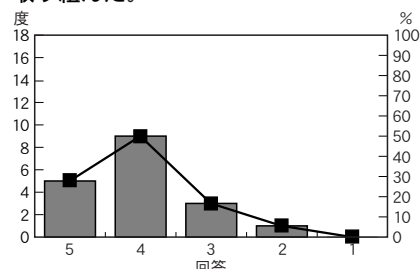
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



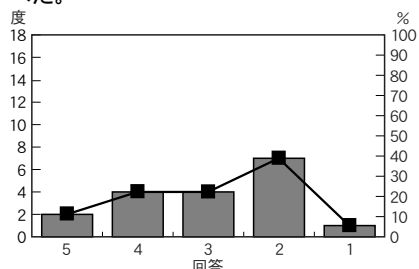
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



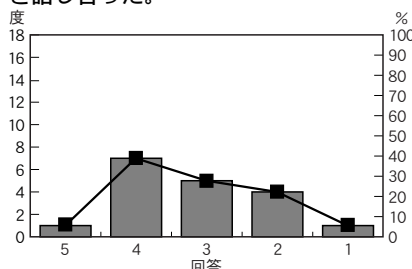
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



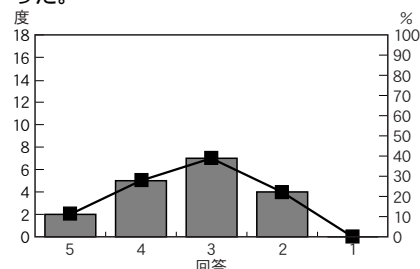
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

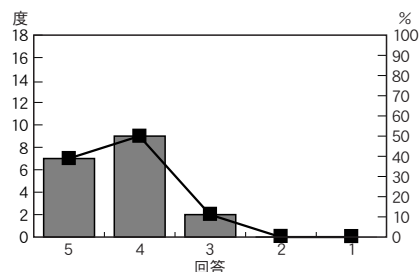


項目分析：(15)

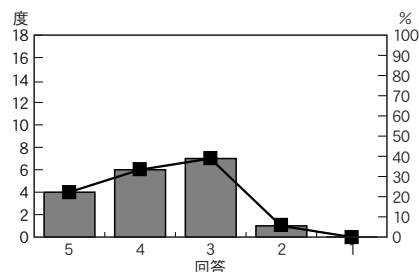
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



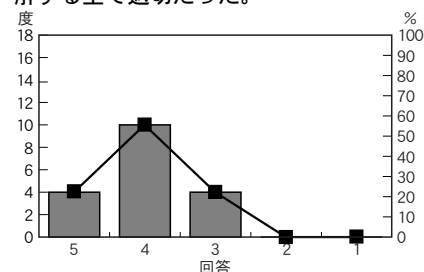
項目分析：(16)
熱心に指導した。



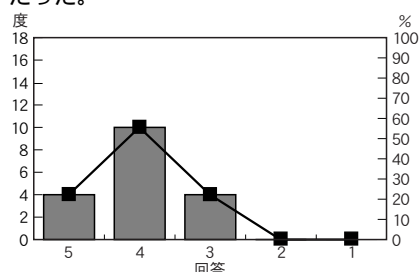
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



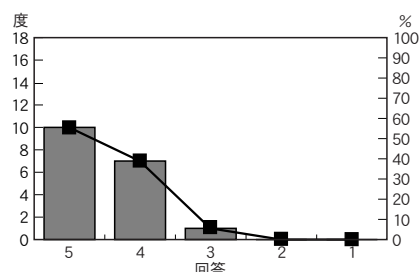
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



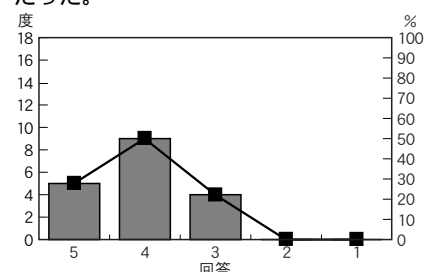
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



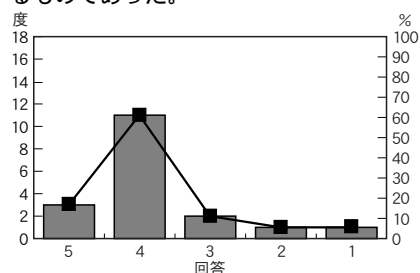
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

22の評価項目において、「5. 非常にそうである」「4. かなりそうである」の割合を次の区分で分類すると、80%以上のもの2項目、70～80%未満のもの10項目、60～70%未満のもの3項目、50～60%未満のもの2項目、50%未満のもの5項目であった。

80%以上の項目として、「20. 教員の声は聞き取りやすかった (94.4%)」「16. 熱心に指導した (88.9%)」があり、受講生が指導する教員の情熱を感じ取ってくれているように思う。一方、50%未満の項目として、「13. 分からないことや疑問に思ったことは調べた (33.3%)」「10. 授業内容について授業時間以外に準備やまとめをした (33.3%)」「15. 学生の理解状況を確認しながら授業を行った (38.9%)」「2. 成績評価の方法は明確に示された (38.9%)」「14. 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った (44.5%)」があり、授業時間以外で自主的な学習があまりなされていない実態を想起させる。このことは、本授業担当教員が他の履修科目との負担を考慮して、課題やレポートのきびしい評価を義務づけていない授業形態によるものと思われる。また、「15. 学生の理解状況を確認しながら授業を行った (38.9%)」「2. 成績評価の方法は明確に示された (38.9%)」の受講生よりの指摘を真摯に受け止め、授業内容・方法の改善に努力していきたいと考えている。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅰ（技術）」

評価実施日：平成 年 月 日

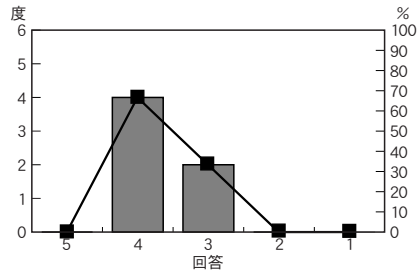
担当教員名：尾崎 士郎，橋川 喜美代，坂本 智

(有効な合計6)

■ 度 ■ %

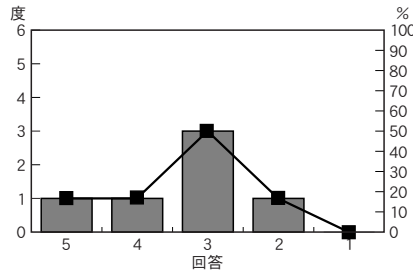
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



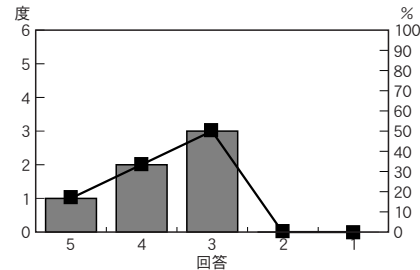
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



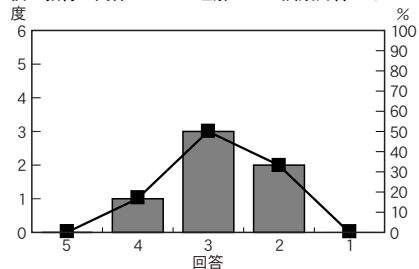
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



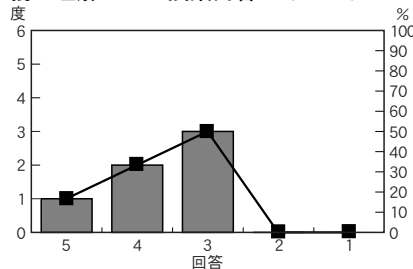
項目分析：(4)

「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。



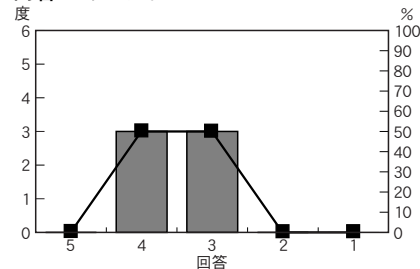
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



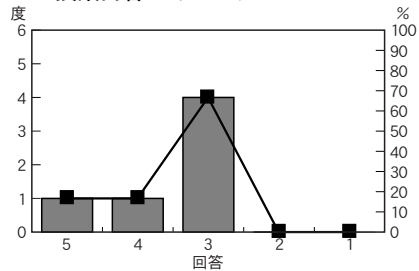
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



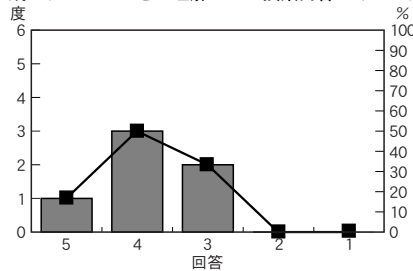
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



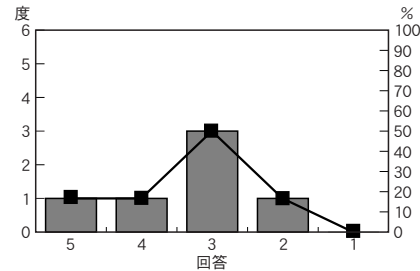
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



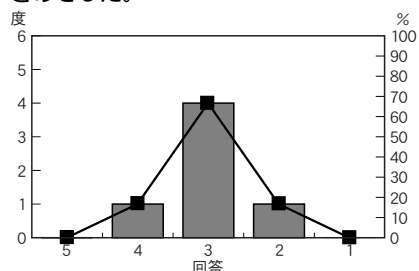
項目分析：(9)

授業によく出席した。



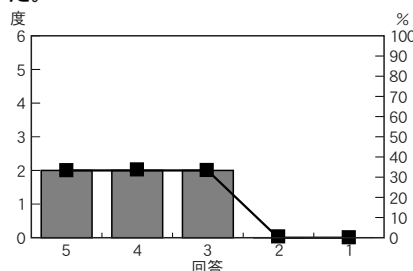
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



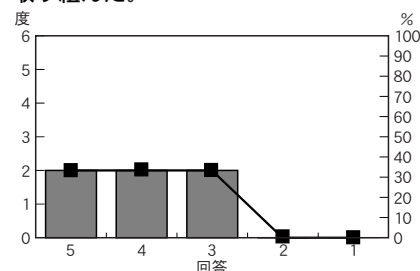
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



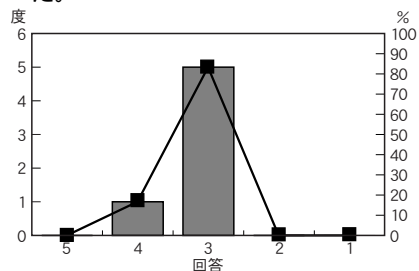
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



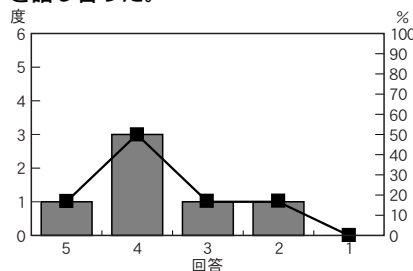
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



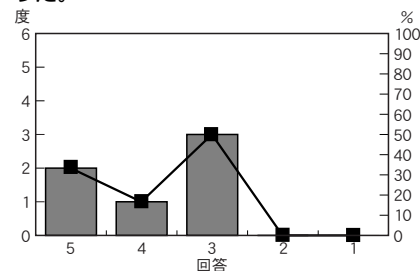
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

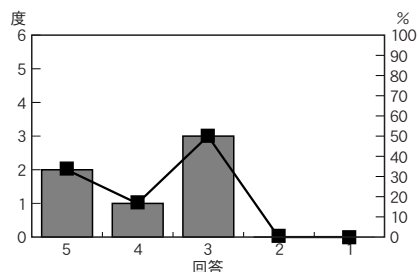


項目分析：(15)

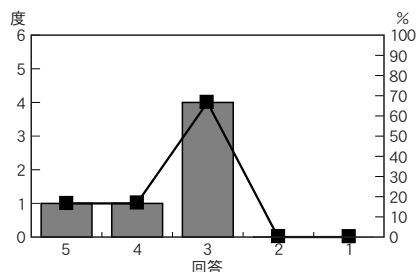
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



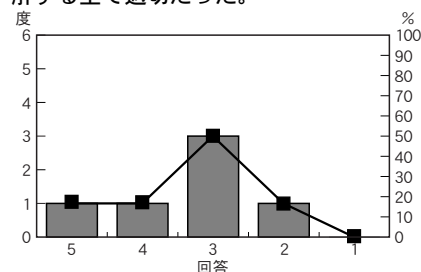
項目分析：(16)
熱心に指導した。



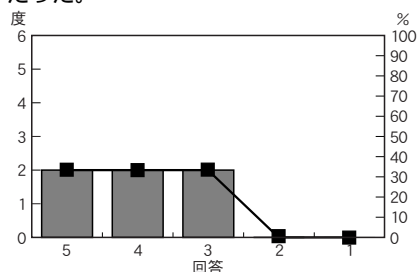
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



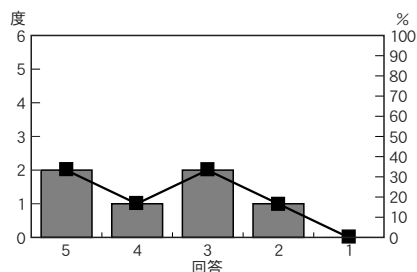
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



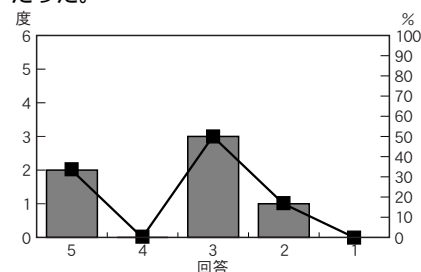
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



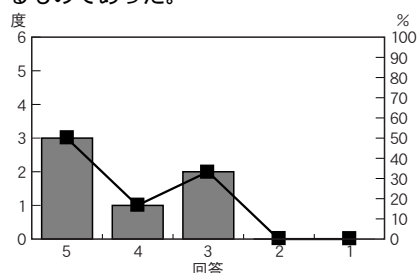
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業科目では、シラバスの内容を踏襲しながらも、指導案作成や模擬授業等の基礎的な教科の指導法、基礎的な実習を含む教科内容に関する題材を中心に、個別指導に重点を置いて学習指導を行った。

1. 授業の概要については、「(1)目標・授業計画・内容は明確に示されていた。」「(2)成績評価の方法は、明確に示されていた。」は中位またはやや高い評価であった。
2. 授業の内容等については、「(4)ふれあい実習での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった」が中位程度であったが、他の項目は評価がやや高い。
3. あなたの授業の取り組みについては、「(9)よく授業に出席した」、「(10)授業内容について時間外に準備やまとめをした。」「(13)分からないことや疑問に思ったことは調べた。」が中位程度、「(11)積極的に実験、実習、実技に取り組んだ。」「(12)教員の説明をよく聞き意欲的に取り組んだ。」「(14)授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。」の評価は概ね中位よりも高い側にあった。
4. 教員の授業の進め方については、「(15)学生の理解状況を確認しながら授業を行った。」「(16)熱心に指導した」、「(17)授業内容を分かりやすく伝えた」、「(19)教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。」「(20)教員の声は聞き取りやすかった。」では評価が中位から高い側に分布し、「(18)教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。」では中位程度、「(21)与えられた課題の分量は適切だった。」では評価が二極化した。
5. 授業の進め方と満足度については、評価が中位から高い側に分布した。

自由記述のこの授業でよかったことは、以下の通り。

「初めての作業ばかりだったので、楽しかった。」「技術と知識の向上。」「基礎的な知識が得られた」「自己にあった課題設定ができて実習が満足いくものであった。」

自由記述のこの授業で改善したほうがよいと思うことについて、記述はなかった。

本授業科目に対する学生の評価は、ごく一部の項目を除いて全般的に中位以上の評価を得ているが、前年度または他の授業科目に比べて評価の結果が相対的に低調であるように見受けられる。年度や受講者によって評価がかなり異なると感じる。内容的には大きな変更を行っておらず、また現職教員を含む4名の複数担当で授業を実施しているため、以上の原因を特定しがたい。まだ2年目の新しい授業科目であるため、暫くは授業の実施状況を観察してみたい。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅰ（家庭）」

評価実施日：平成19年1月24日

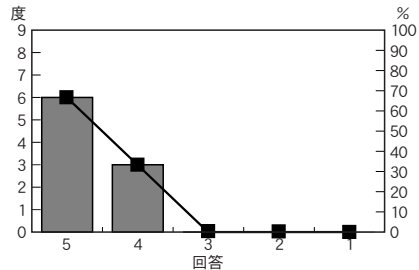
担当教員名：渡邊廣二，橋川喜美代，前田英雄，鳥井葉子，金 貞均，黒川衣代 ほか

(有効な合計9)

■ 度 ■ %

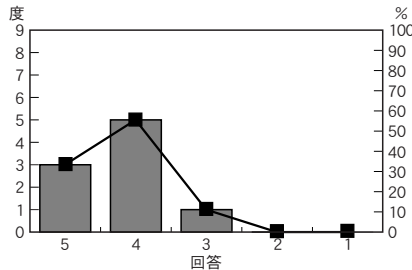
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



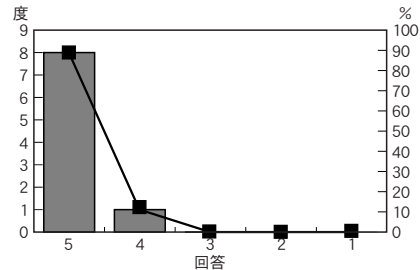
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



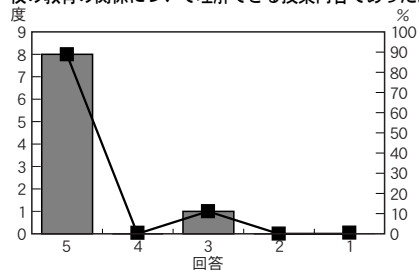
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



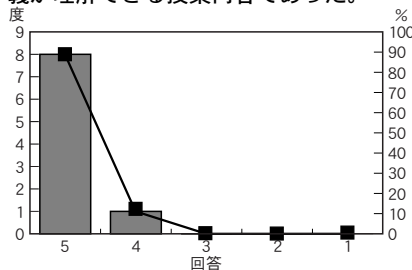
項目分析：(4)

「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。



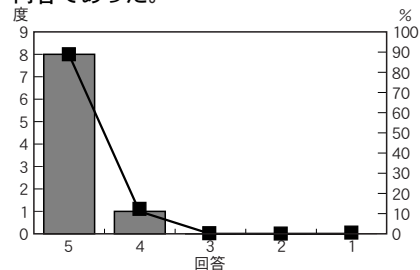
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



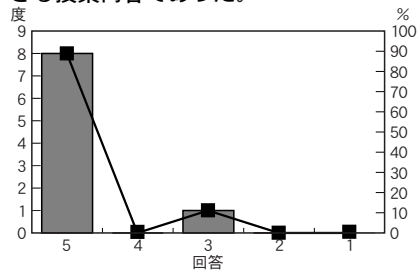
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



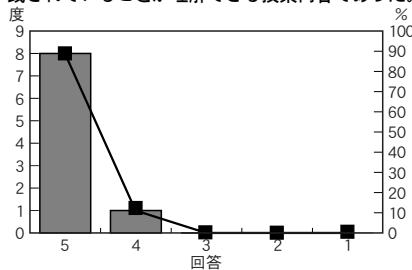
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



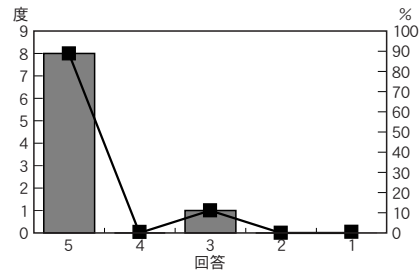
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



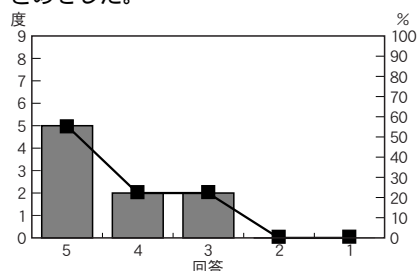
項目分析：(9)

授業によく出席した。



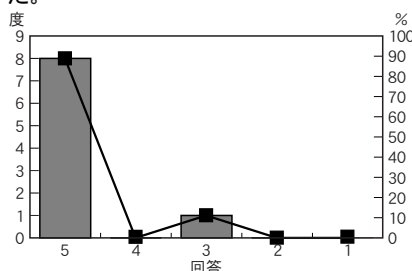
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



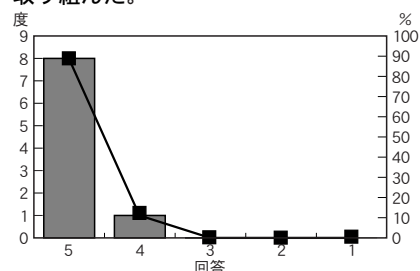
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



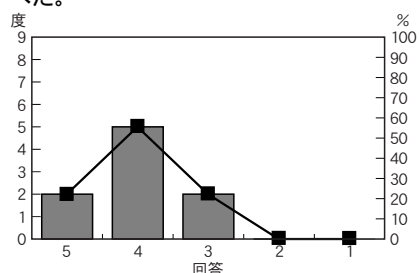
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



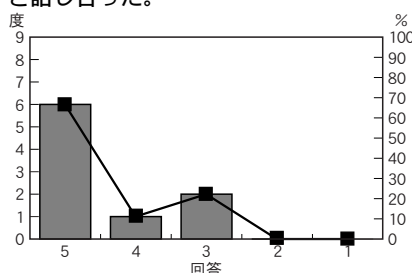
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



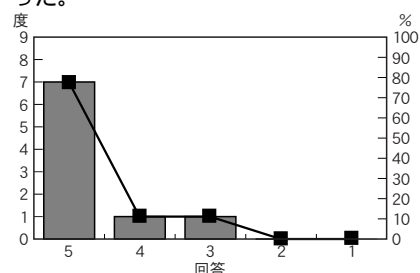
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

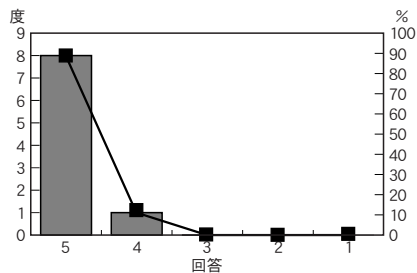


項目分析：(15)

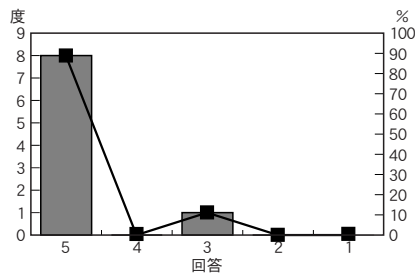
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



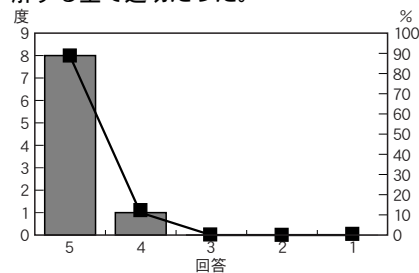
項目分析：(16)
熱心に指導した。



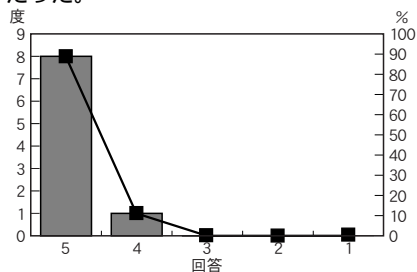
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



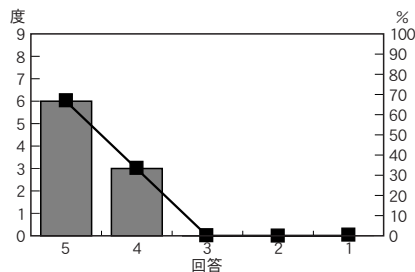
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



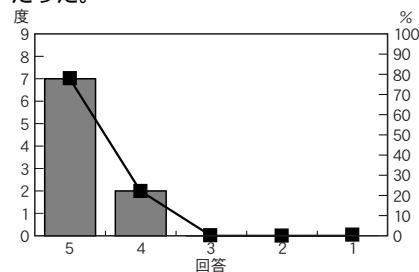
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



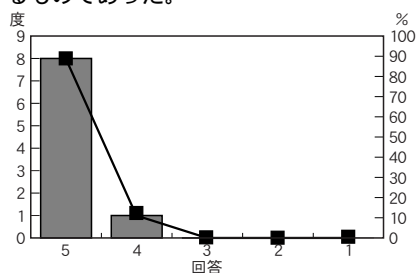
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全体として高い評価である。22項目のうち18項目の評価が4.7以上である。

まず授業の内容等に関する6項目については、9人中8人が「非常にそうである」と回答している。教育実践コア科目にふさわしい授業内容であったことを確認できる。

次に教員の授業の進め方に関する7項目についても4.9～4.7という高い評価である。

これに対して、学生たち自身の授業への取り組みについては、評価がやや下がる。そのうち、授業中の活動や態度についてはいずれも高い評価であるが、授業外の活動については評価が低くなる。たとえば、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」(4.0)、「授業内容について授業時間外に準備やまとめをした」(4.3)、「授業に関連した内容について友人や教員と話し合った」(4.4)となっている。

こうした授業外での学生の活動状況をより活性化するために、教員がどのような支援をしていったらよいのだろうか。たとえば、学生に課題を与え、その課題と授業とを結びつけるなどの工夫が考えられる。

こうした課題も残されているが、授業に対する学生たちの満足度は高い(4.9)ので、今回の授業に対して、全体として、われわれ教員としても満足できる。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅱ（国語）」

評価実施日：平成19年2月20日

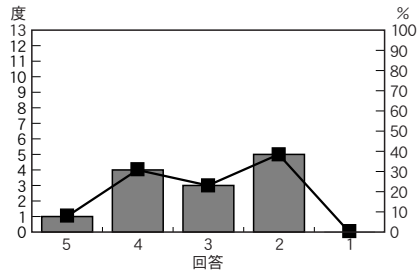
担当教員名：村井 万里子，赤松 万里

(有効な合計13)

■ 度 ■ %

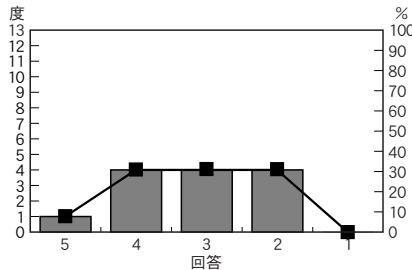
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



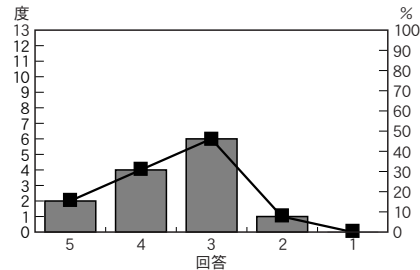
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



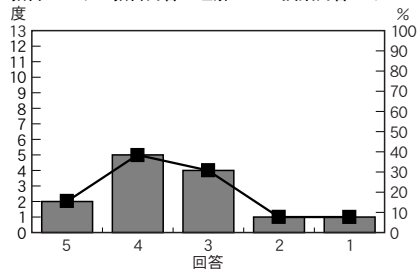
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



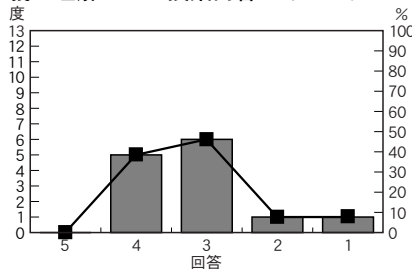
項目分析：(4)

「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。



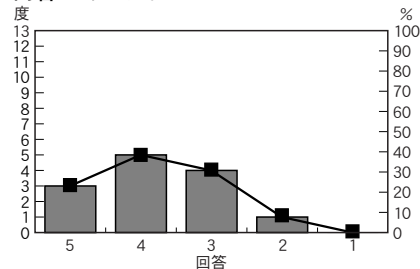
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



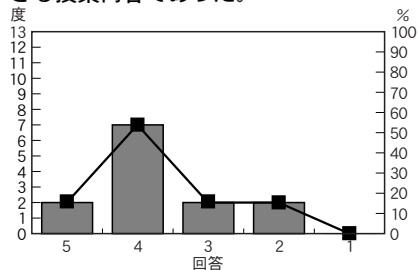
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



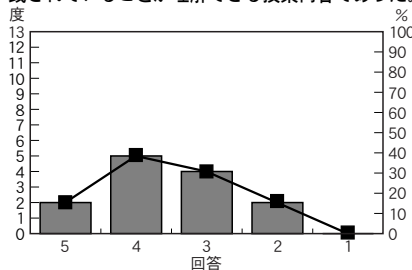
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



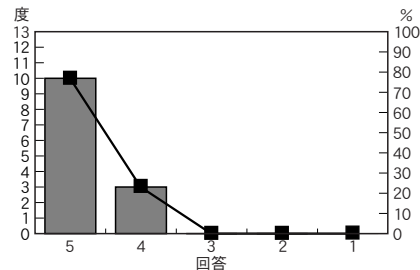
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



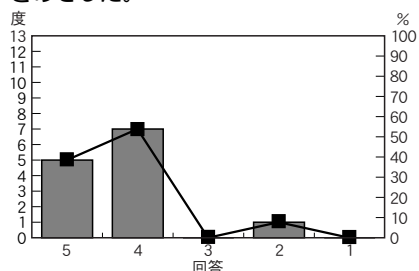
項目分析：(9)

授業によく出席した。



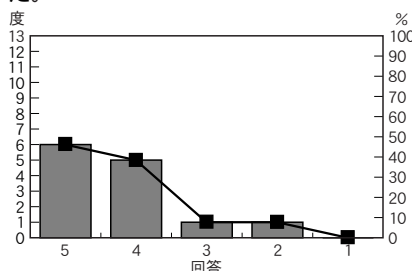
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



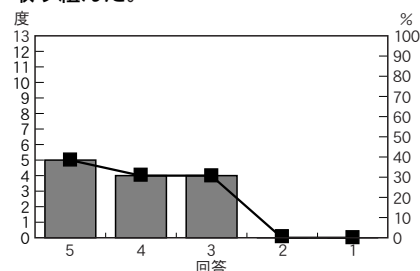
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



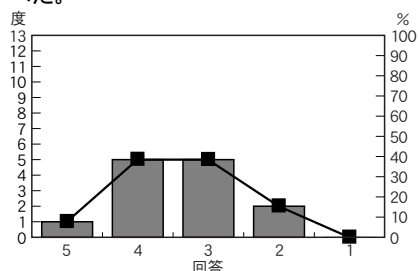
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



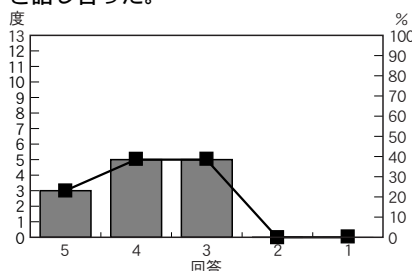
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



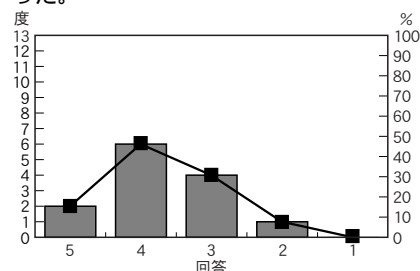
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

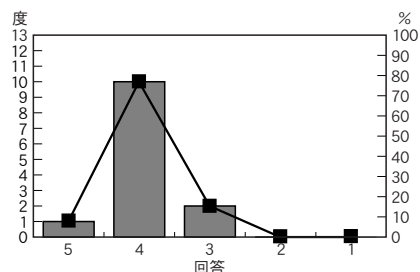


項目分析：(15)

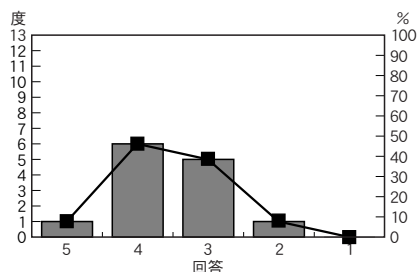
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



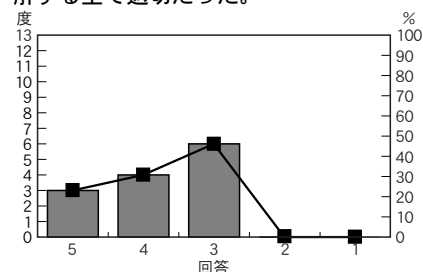
項目分析：(16)
熱心に指導した。



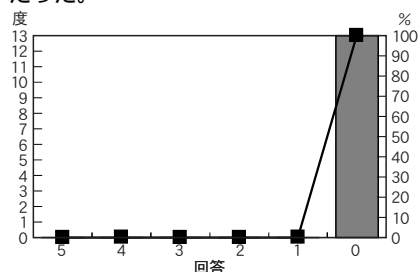
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



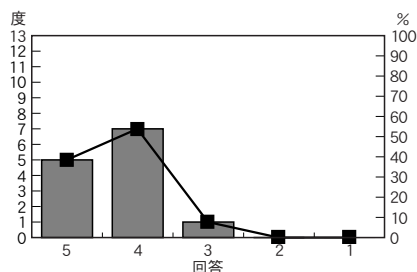
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



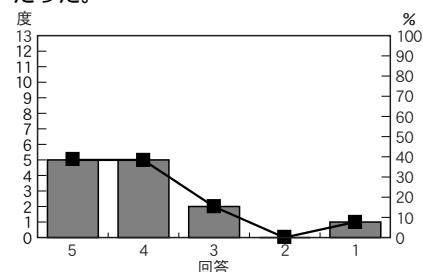
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



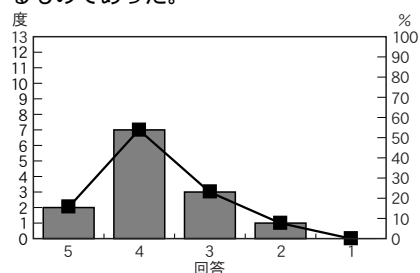
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

「教育実践コアカリキュラム」として、初めての授業であり、とまどいが大きかった。

予めねらったことは、2つである。1つは、カリキュラム改正で著しく授業が減った古典の専門的学習を補うこと。2つめは、古典研究を中学校の実際の現場で指導することに結びつく授業を構想することである。この2点については、成功であった。

しかし、大学で行われた説明や、カリキュラム作りに直接たずさわった教員から、何度聞いても「コアカリキュラム授業」の具体的なイメージが湧かず、附属中学校との連携・連絡にも手間取り、具体的な進め方は、すべてが始まってから手探り状態に進んだ。

次年度は、今回の結果をふまえ、弱体化している古典文学の解釈力を底上げするとともに、授業作りに直結する教材研究と底堅い読書生活の構築を目指していきたい。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅱ（社会科）」

評価実施日：平成19年2月27日

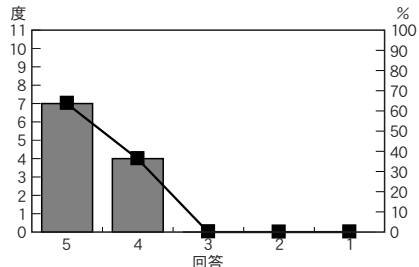
担当教員名：梅津 正美, 町田 哲, 井上 隆, 濱口 恒一郎

(有効な合計11)

■ 度 ■ %

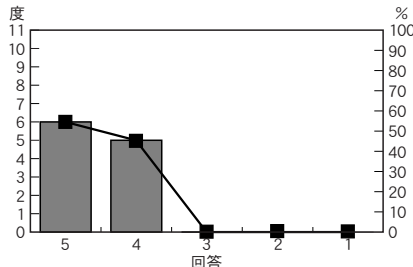
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



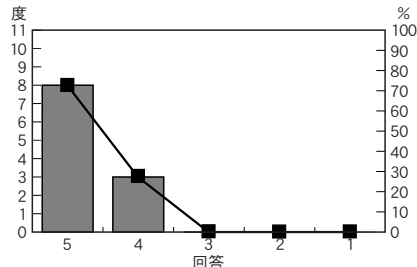
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



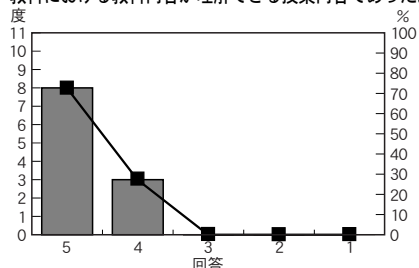
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



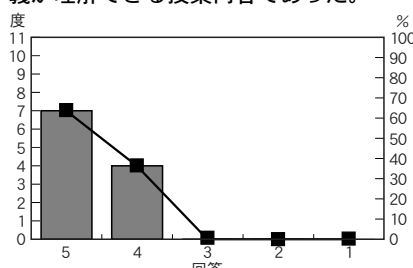
項目分析：(4)

「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。



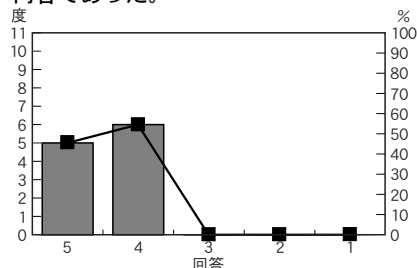
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



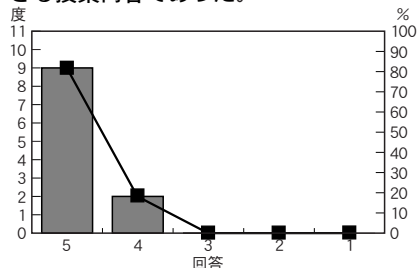
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



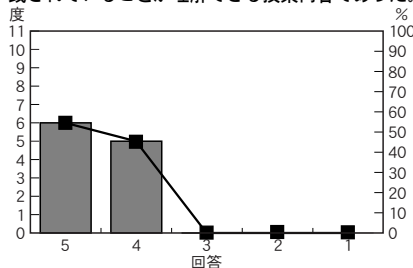
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



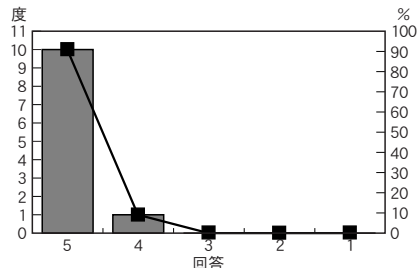
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



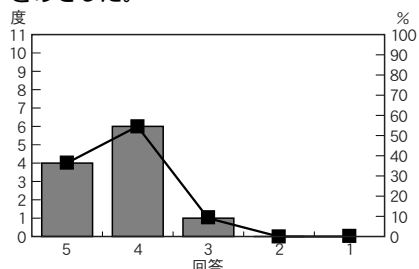
項目分析：(9)

授業によく出席した。



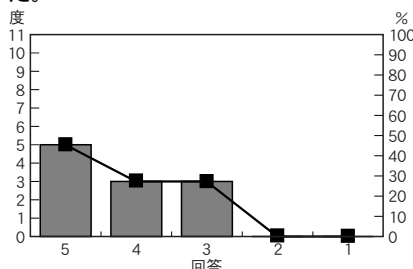
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



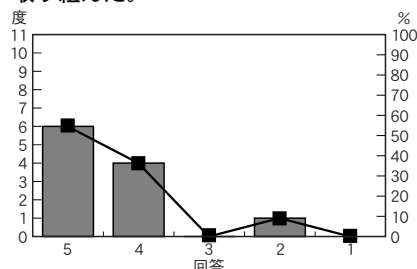
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



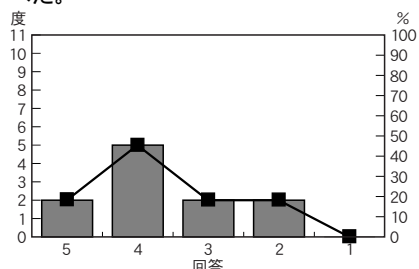
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



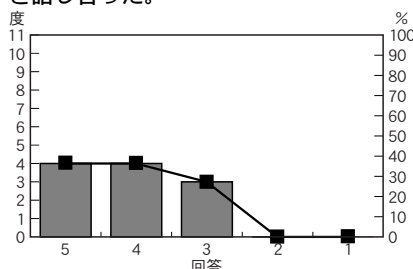
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



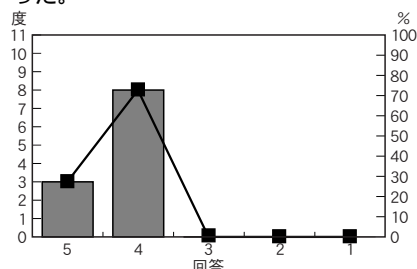
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

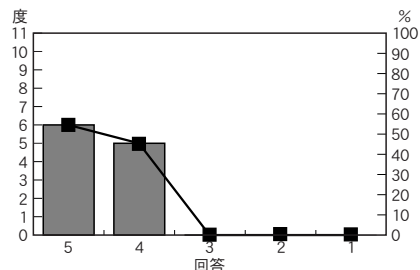


項目分析：(15)

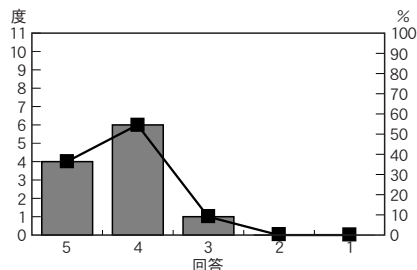
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



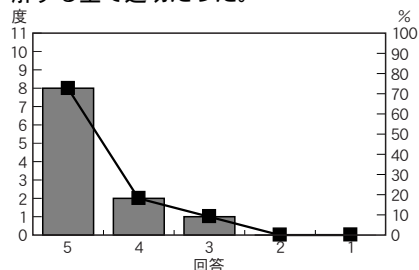
項目分析：(16)
熱心に指導した。



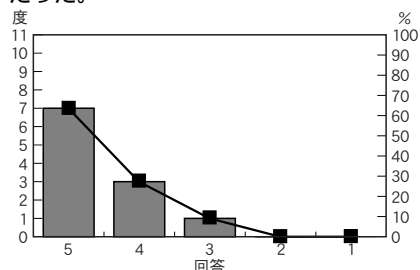
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



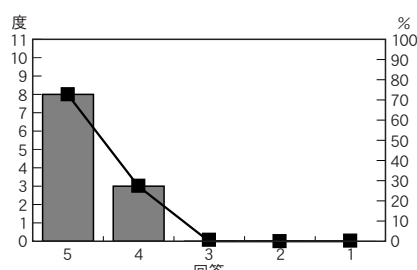
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



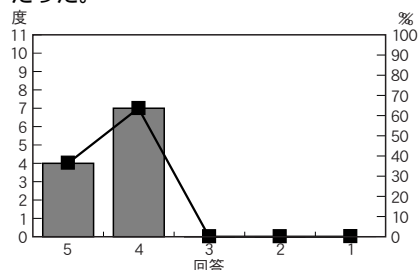
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



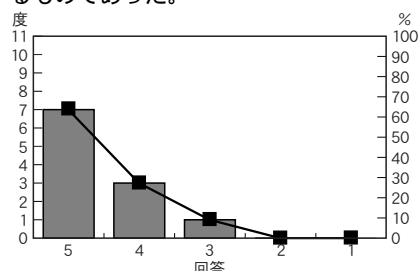
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は、社会科教育実践力の基礎を養成するために、小・中学校社会科歴史学習の授業構想・授業展開（マイクロティーチング）・授業評価（実践した授業の分析・評価・改善）の内容・活動を組み込んで展開した。

本授業に対する20項目の評価の平均値は4.5、授業全体に対する学生の満足度を示す項目(22)の平均値は4.6であり、授業全体に対して概ね良好な評価を得ることができた。授業の内容に関わる項目(3)(4)(5)(6)(7)(8)の平均値は4.7、授業の展開・態度に関わる項目(15)(16)(17)(18)(19)(20)(21)の平均値は4.5であった。これに対して、学生の授業への取組に関わる項目(9)(10)(11)(12)(13)(14)の平均値は4.2であり、相対的に低くなった。しかし、大学全体で共通理解されたコア科目「初等中等教科教育実践」の趣旨・目的・内容構成の原則に即して実践した本授業では、学生は学校現場の実践の事実豊富に触れ、それらの分析・検討を経て自らの授業を構想し、実践し、評価・改善していく活動に取り組んだ。その取組は、学生の自己評価以上に真摯で積極的なものであったと考えている。

学生の自由記述からは、「模擬授業の準備は大変であったが、授業実践力を、体験を通じて鍛えることができた」、「同級生同士で授業について議論できたことが良かった」といった評価を得た。これらの評価・意見を基盤に、次年度以降のコア科目の実践とその改善に努めたい。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅱ（理科）」

評価実施日：平成19年2月20日

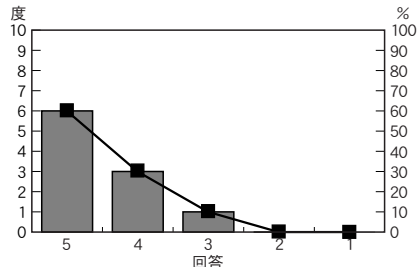
担当教員名：佐藤 勝幸, 清水 宏次, 村田 勝夫, 粟田 高明, 今倉 康宏

(有効な合計10)

■ 度 ■ %

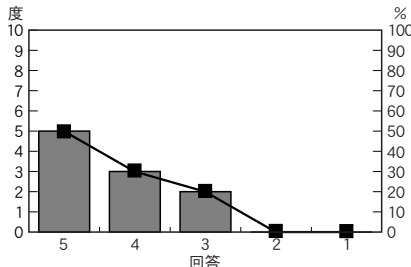
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



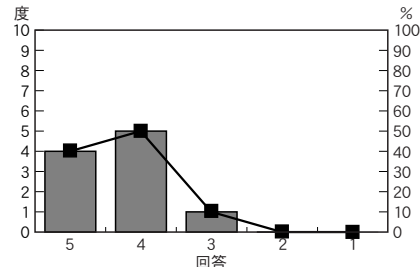
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



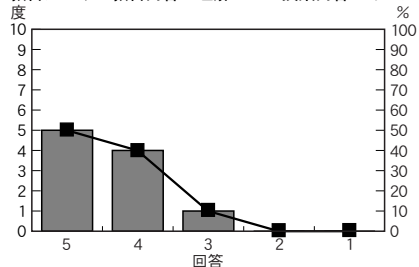
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



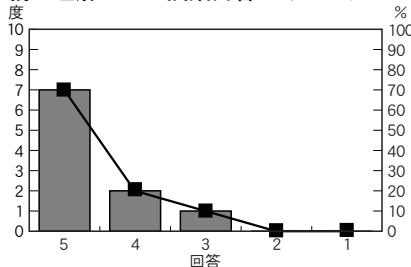
項目分析：(4)

「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。



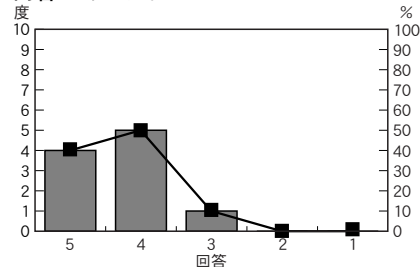
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



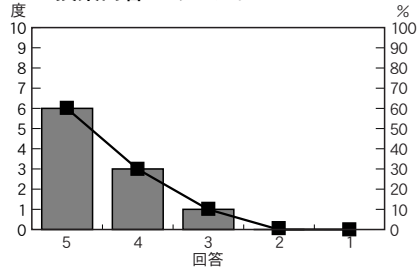
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



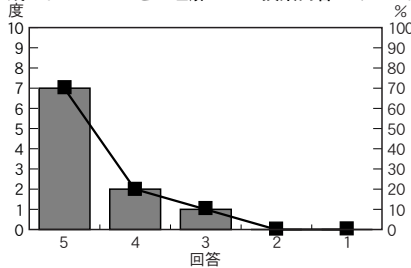
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



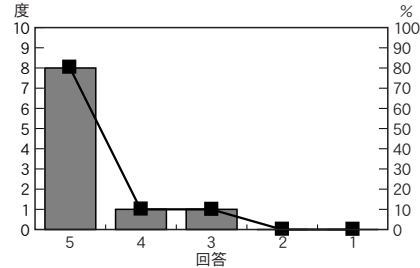
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



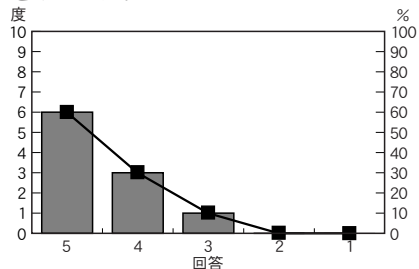
項目分析：(9)

授業によく出席した。



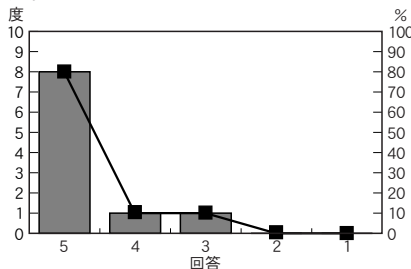
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



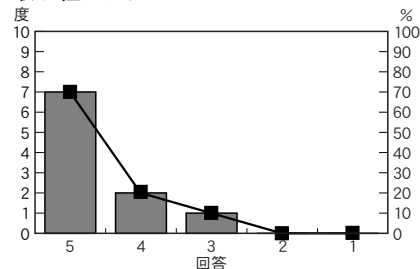
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



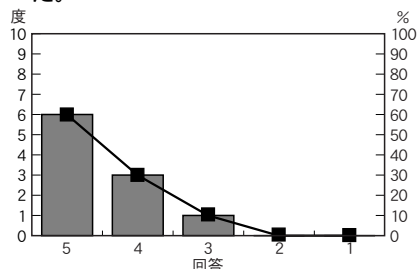
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



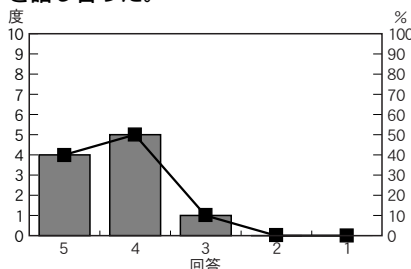
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



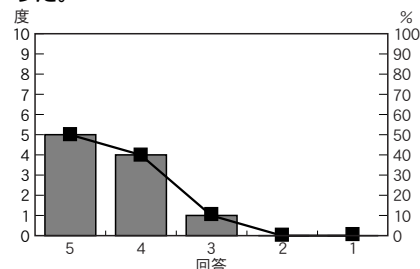
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

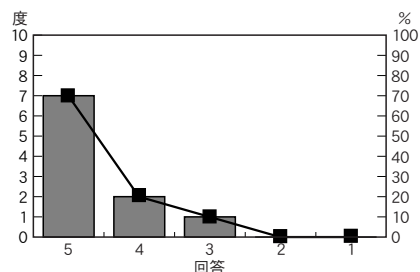


項目分析：(15)

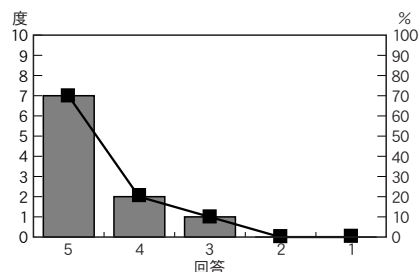
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



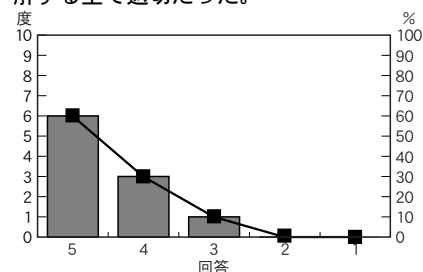
項目分析：(16)
熱心に指導した。



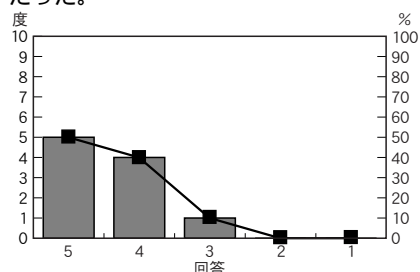
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



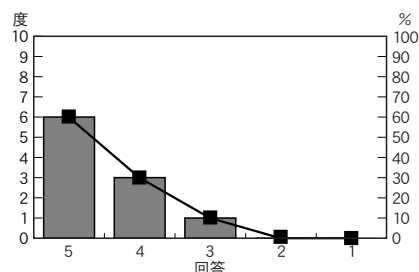
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



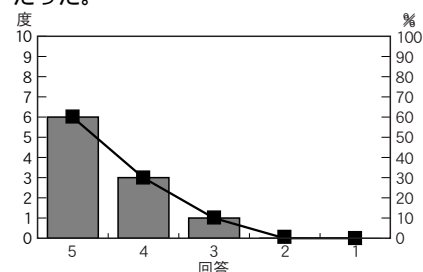
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



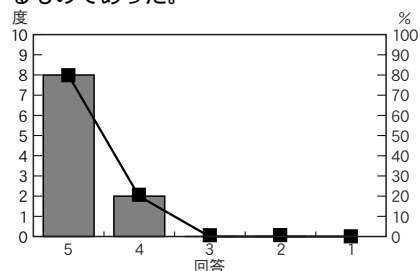
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

受講者数が10名であるため、集計したデータの信頼性にやや問題はありますが、得られた結果から検討した。授業計画、概要にそった内容、「初等中等教科教育実践 I」からの連続性や発展性、授業実践的内容について適切であったといえる（いずれも4, 5の回答で80%以上）。さらに学生の出席、取り組みにも積極性がみられ（いずれも4, 5の回答で90%以上）、大学教員サイドの指導、配布資料、使用器具や施設、課題の量なども適切（同様に90%以上）であったと思われる。このことは学生の達成感（5の回答が80%）にも表れているといえる。これらのことから、授業目的を達成する指導がなされていると評価できる結果であるといつてよい。今後はより一層授業内容や教材を改良・工夫し、さらなる授業実践力の育成を目指す。

(文責 佐藤)

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅱ（音楽）」

評価実施日：平成19年2月20日

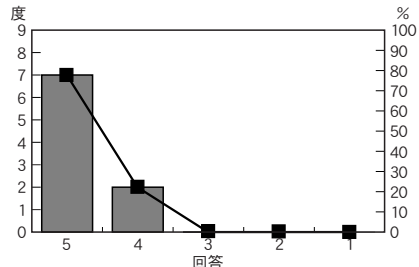
担当教員名：長島 真人，森 正

(有効な合計9)

■ 度 ■ %

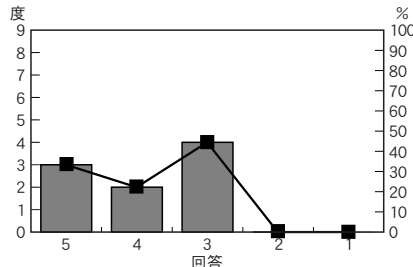
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



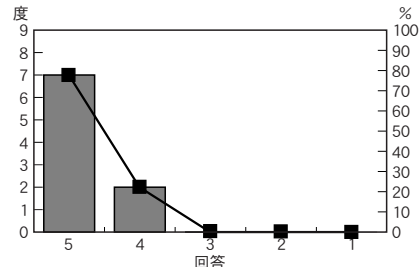
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



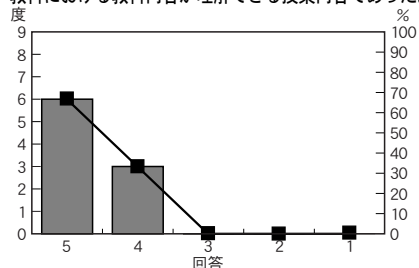
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



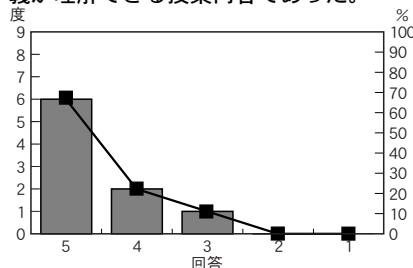
項目分析：(4)

「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。



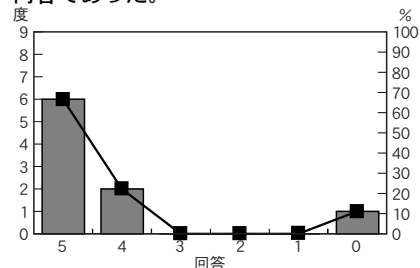
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



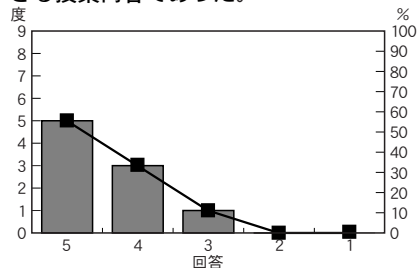
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



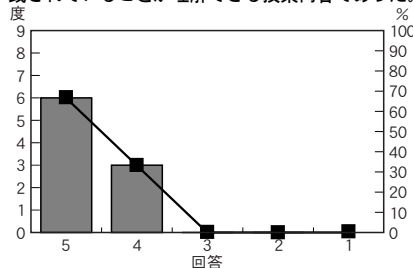
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



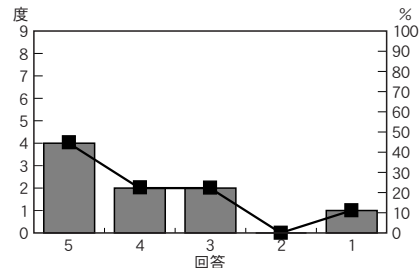
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



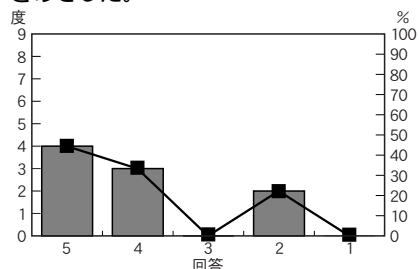
項目分析：(9)

授業によく出席した。



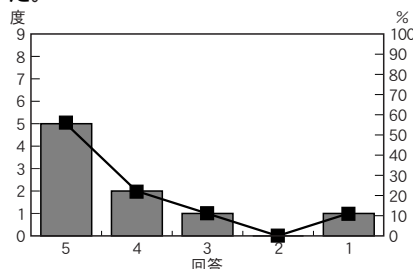
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



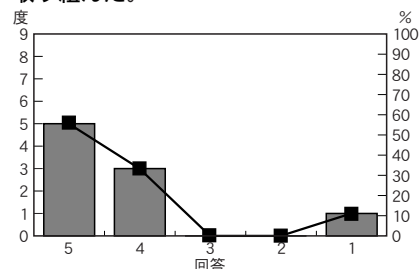
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



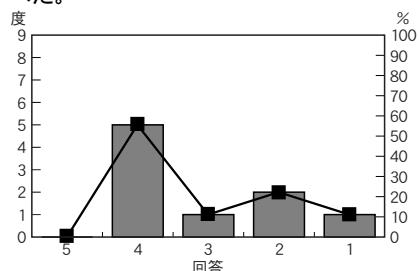
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



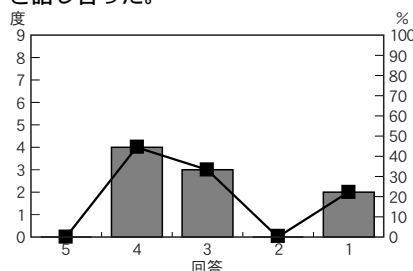
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



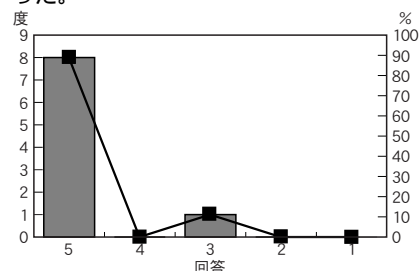
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

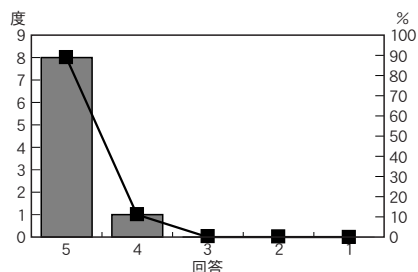


項目分析：(15)

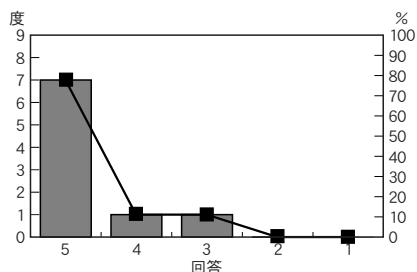
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



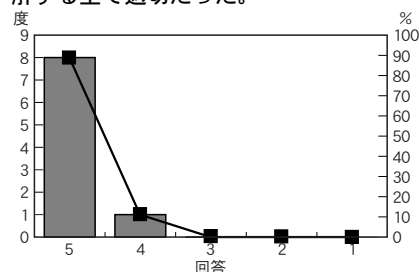
項目分析：(16)
熱心に指導した。



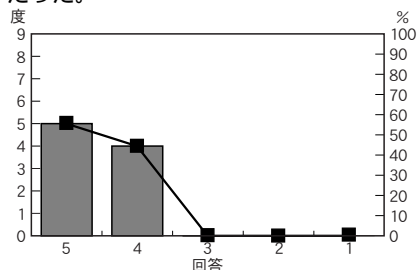
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



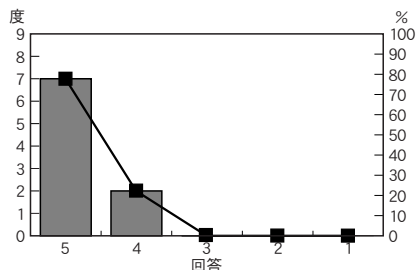
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



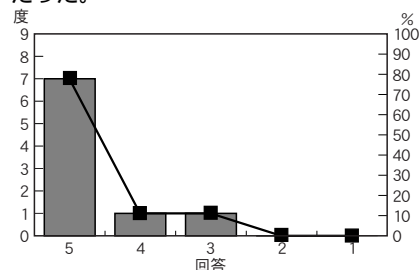
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



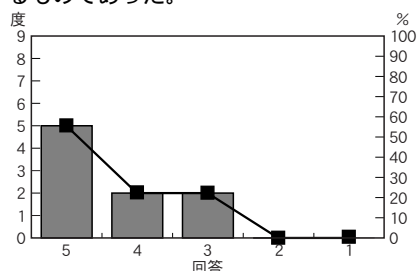
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

始めて試みた授業であったが、教員チーム一人ひとりの個性を生かしながら授業内容を検討することができたように思っている。学生たちからの評価は、概ね満足のいく回答が得られているようであり、指導内容や指導方法は、基本的に妥当であったと考えられる。この講義は、小学校の4, 5, 6 学年の指導内容を対象としながら、教育実践力の育成をめざす講義と演習を展開した。特に、歌唱共通教材の教材研究や範唱とピアノ伴奏のあり方の研究は、教員採用試験の準備に直結する内容となった。ただ、学生たちの回答の中で、項目(9), (10), (11), (12), (13), (14)において、二極に分裂する傾向がみられる。この傾向は、やや例年に比べて遅刻や欠席の多い学生が若干名いたことが原因となっているように思われる。これらの学生たちには、今後も、特別な指導が必要である。

「この授業でよかったこと」に関しては、「一つ一つの課題を内容（教科教育）と伴奏法（教科専門）の双方から学ぶことができたので、よく理解できた」、「伴奏が以前よりも上手くなった」、「現場の先生から様々な話を聞いた」、「細かな指導で、今後の生活に活かせるものだった」等の記述があり、我々の配慮していたことが的確に評価されたと思っている。「改善した方がよいと思うこと」に関しては、「実際に映像を見せてほしかった」という記述があった。今後は検討していきたい。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅱ（図工・美術）」

評価実施日：平成19年2月19日

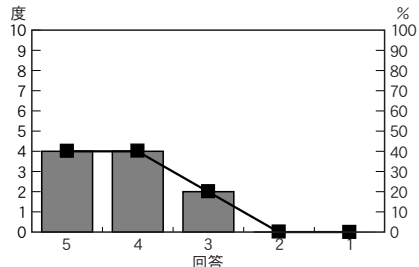
担当教員名：松島 正矩, 長岡 強, 鈴木 久人, 山田 芳明

(有効な合計10)

■ 度 ■ %

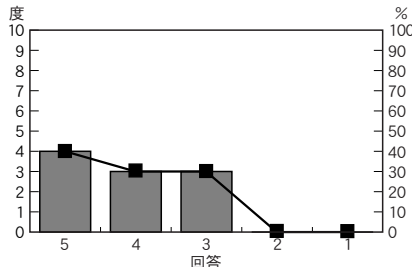
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



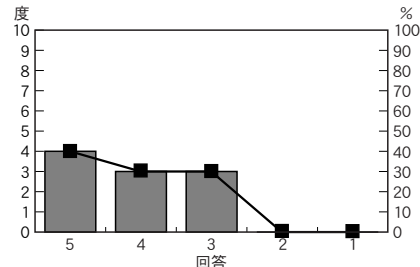
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



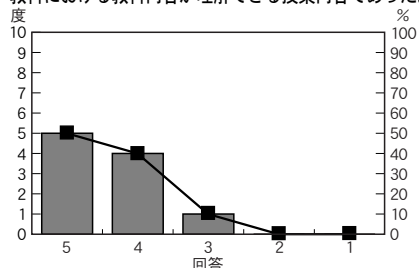
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



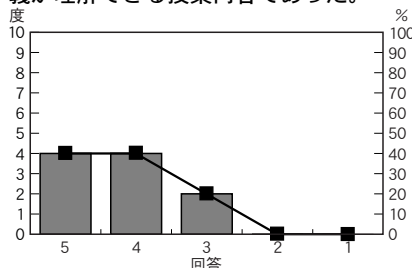
項目分析：(4)

「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。



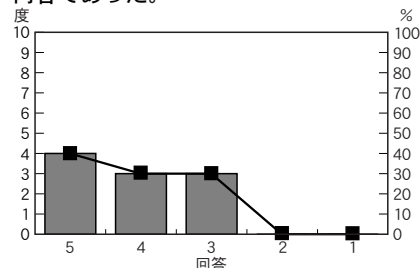
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



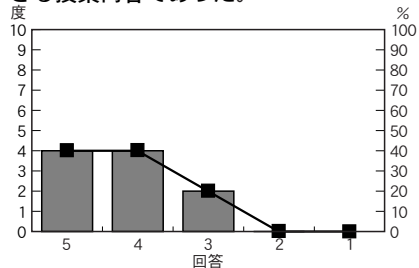
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



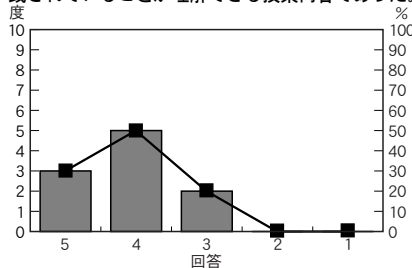
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



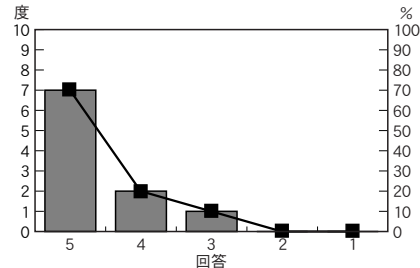
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



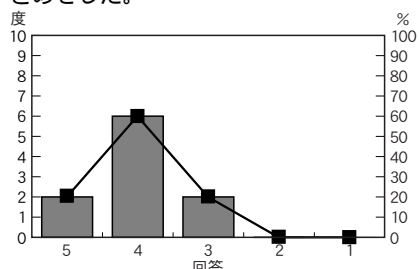
項目分析：(9)

授業によく出席した。



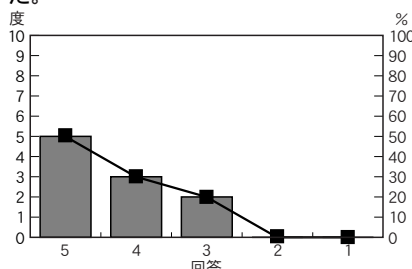
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



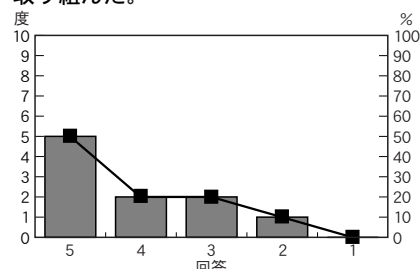
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



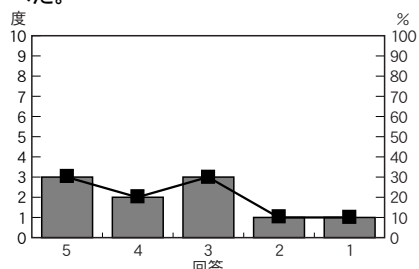
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



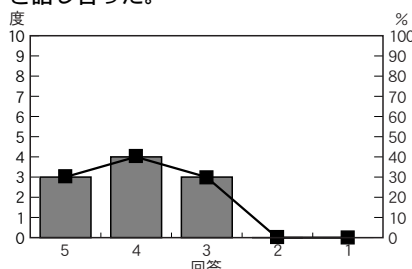
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



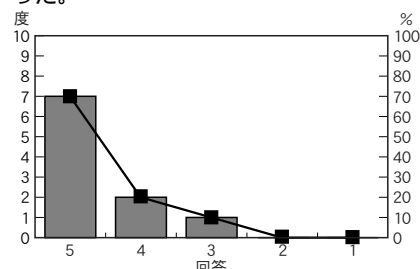
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

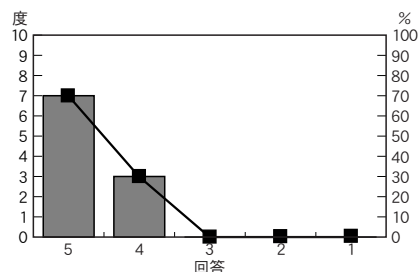


項目分析：(15)

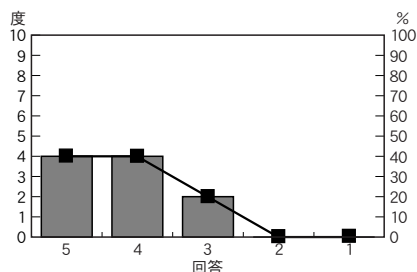
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



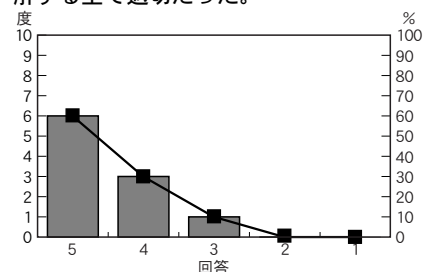
項目分析：(16)
熱心に指導した。



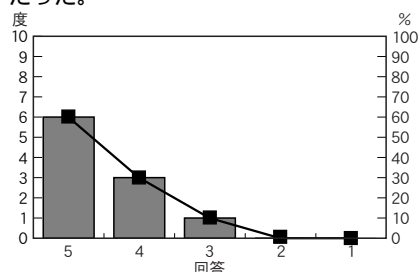
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



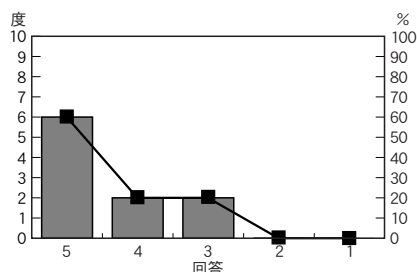
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



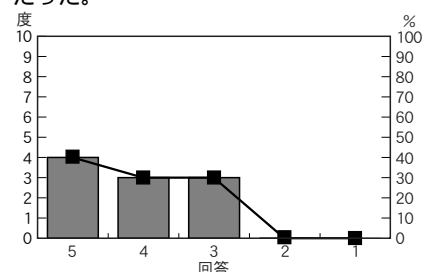
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



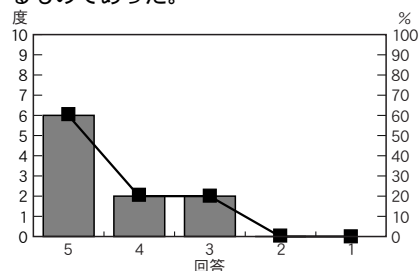
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業の目的は、小学校における図画工作科教育の実践力を、中学年の教科内容の体系の理解と実技、教材開発及び授業実践（模擬授業）を通して修得することにある。

評価結果を見ると、ほとんどすべての項目で5ないし4ポイントの評価を受けており、2ないし1の回答があったのは、項目13のみであり、これは学生自身の取り組みを問う項目の一つであった。さらに、提言をもとめる項目に対する回答として「実際に教師として必要とされる技量についてまなぶことができてよかった」や、「指導案についてとても学べました！」「ためになりました」といった回答が多く寄せられたことから、授業の目的を十分に達成しており、学生にとって満足度の高い授業ができたのではないかと考えられる。

その一方で、「指導案の書き方に時間を割いて欲しい」「もっときびしくすべき、宿題も」といった提言もあった。より厳格な姿勢で授業に臨むことや、講義内容についての時間配分の見直しをするなど、改善をはかりたい。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅱ（体育・保健体育）」

評価実施日：平成19年2月13日

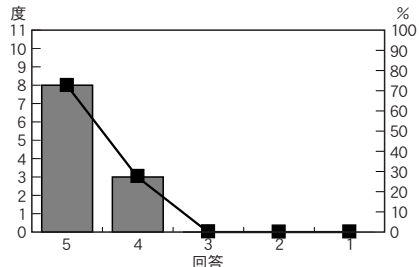
担当教員名：○松井 敦典, 田中 弘之, 坂本 和丈

(有効な合計11)

■ 度 ■ %

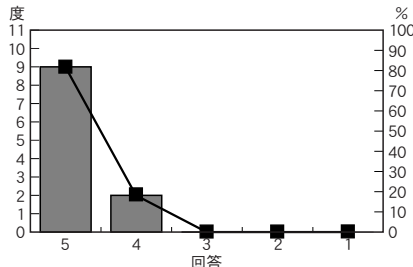
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



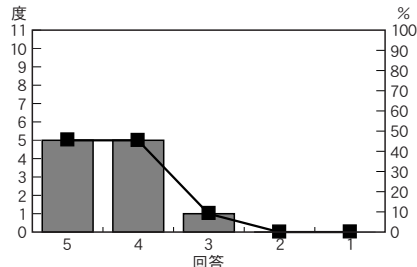
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



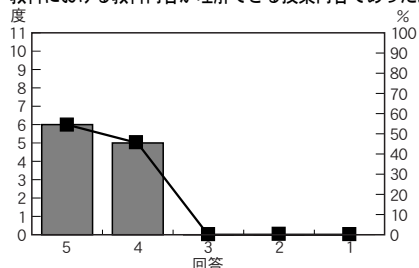
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



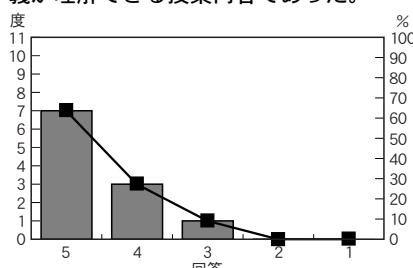
項目分析：(4)

「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。



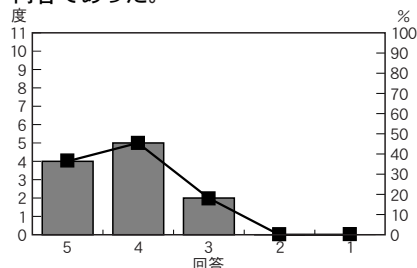
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



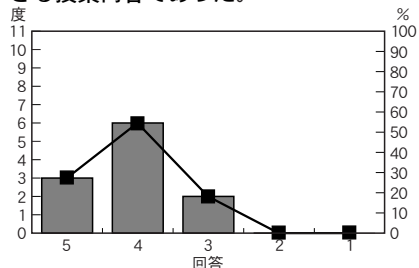
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



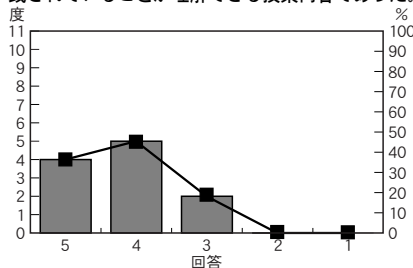
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



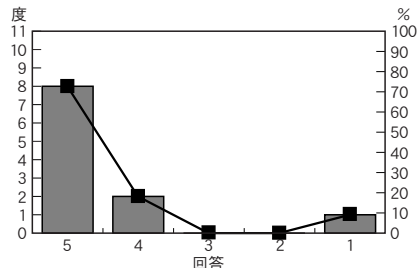
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



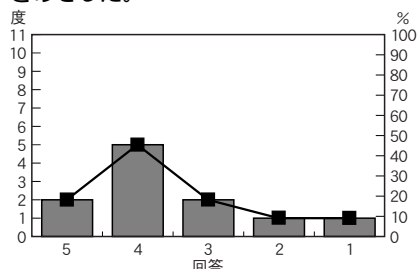
項目分析：(9)

授業によく出席した。



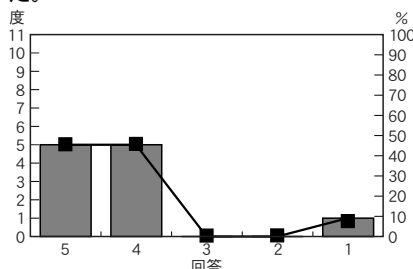
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



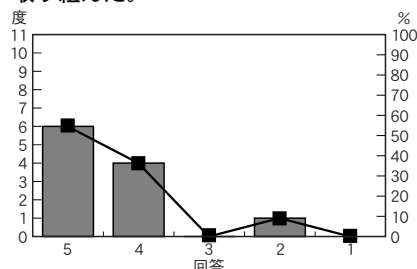
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



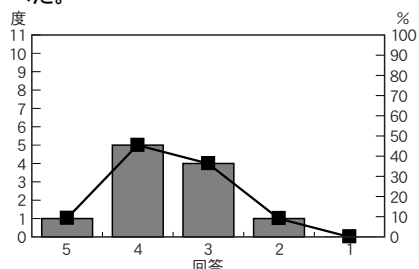
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



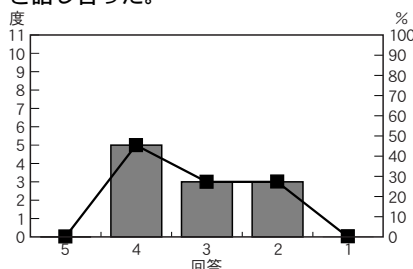
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



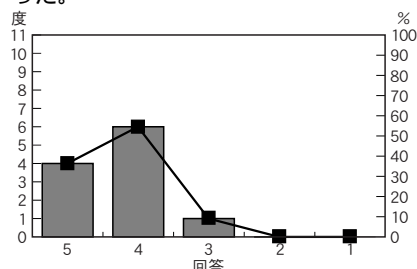
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

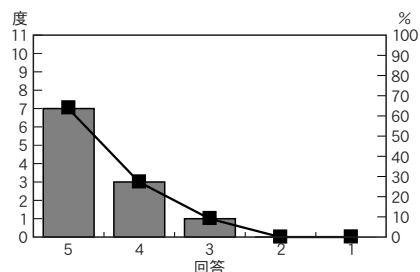


項目分析：(15)

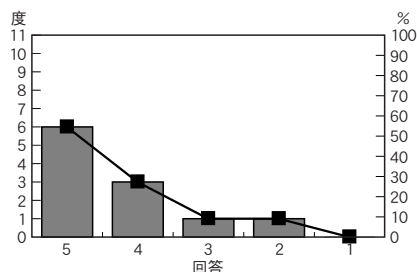
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



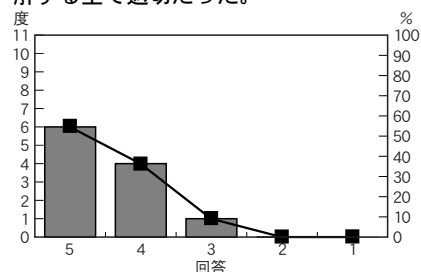
項目分析：(16)
熱心に指導した。



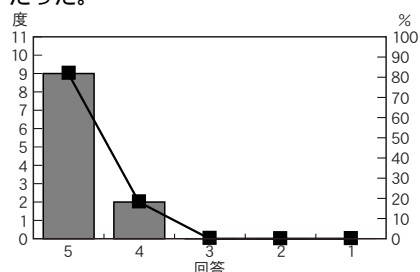
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



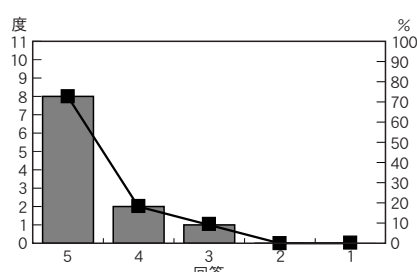
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



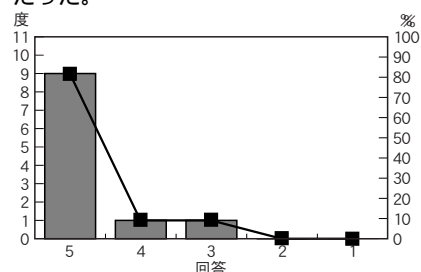
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



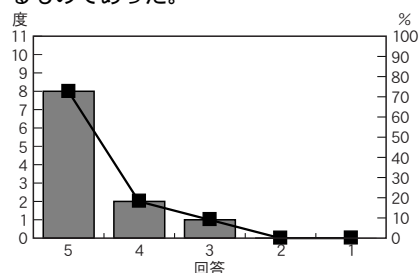
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は、体育科・保健体育科の教育実践コア科目であり、小学校体育科および中学校保健分野の教育法と指導法、またそれらに関連する内容論として、運動生理学とバイオメカニクスを取り扱っている。本学教員3名に加え、附属小学校・中学校教諭各1名の協力により、後に受講する附属校実習で実践活用できる内容を取り扱っている。本年度から始まった新規授業のため、手探りな状態で始めることとなったが、概ね良好な評価が得られていると判断できる。授業の良かった点として、以下のコメントが得られている。

- いろいろな観点から「体育」の授業について考えることができた。
- 体育授業を科学的に見るという視点が身についたこと。
- 現職の先生の授業が受けられたこと。(同類7件)
- スポーツ科学の知識を身につけることができ、興味も深まった。
- 指導案の書き方や評価の仕方など、実践に向けて考えることができた。
- 具体的な例でわかりやすかった。

尚、改善点として、受講の成果をいかに実践に活かすことができるか、その手段について不安を訴える記述も数例見られた。

授業科目名：「初等中等教科教育実践Ⅱ（家庭）」

評価実施日：平成19年2月27日

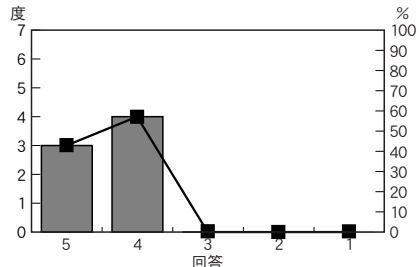
担当教員名：福井 典代, 黒川 衣代, 渡邊 康二, 鳥井 葉子, 元木 康代, 井原 和美

(有効な合計7)

■ 度 ■ %

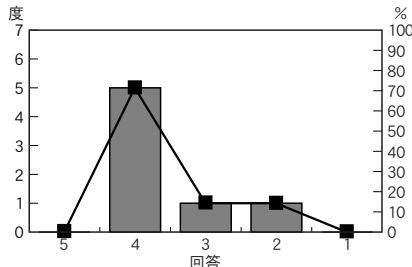
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



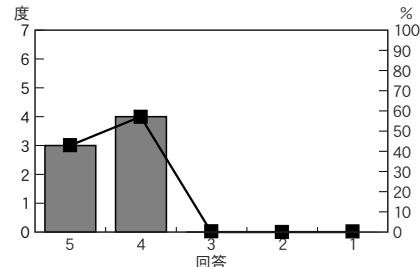
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



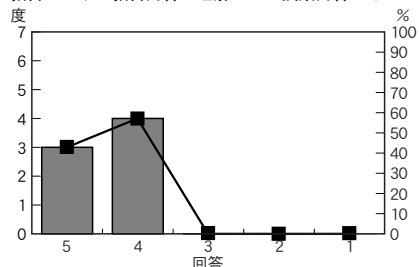
項目分析：(3)

授業概要のねらいにそった授業内容であった。



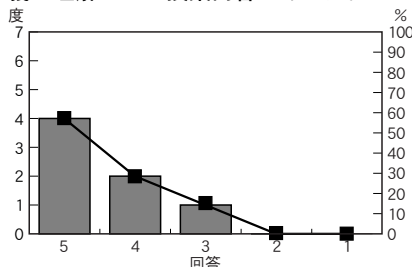
項目分析：(4)

「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。



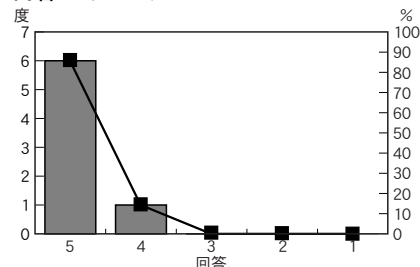
項目分析：(5)

学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。



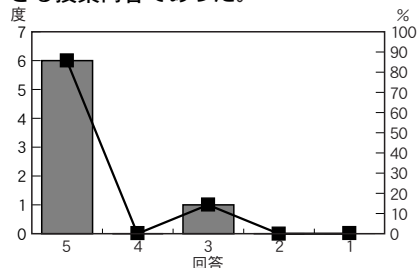
項目分析：(6)

授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。



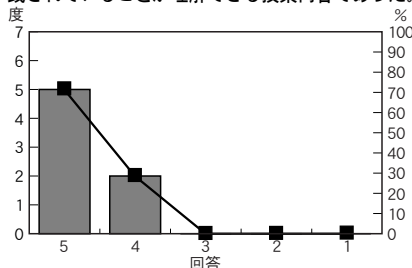
項目分析：(7)

授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。



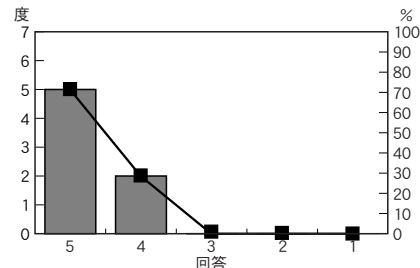
項目分析：(8)

教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。



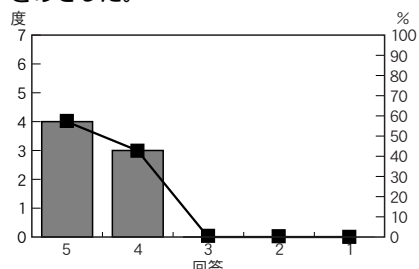
項目分析：(9)

授業によく出席した。



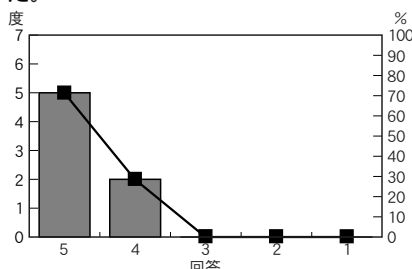
項目分析：(10)

授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。



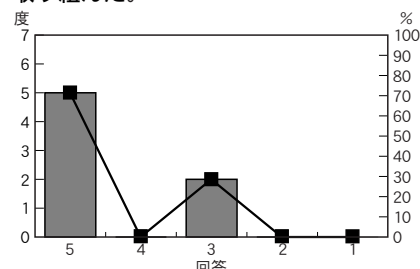
項目分析：(11)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



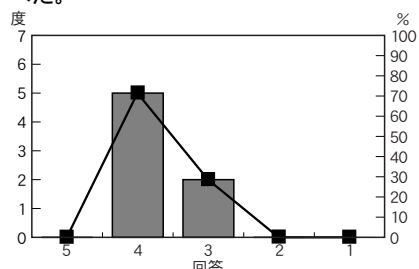
項目分析：(12)

教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。



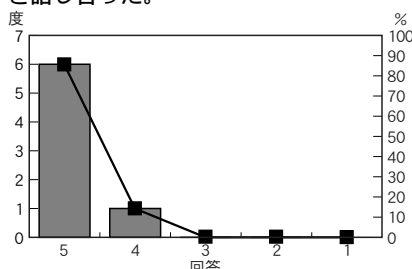
項目分析：(13)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



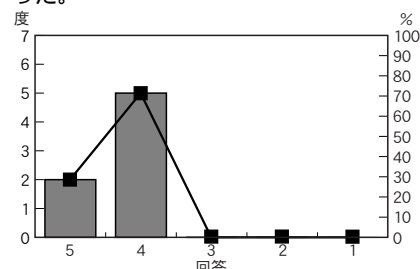
項目分析：(14)

授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。

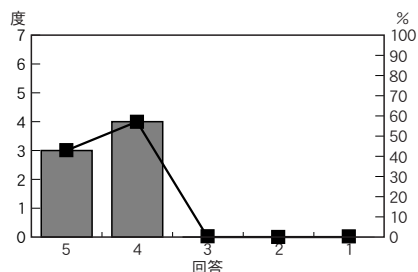


項目分析：(15)

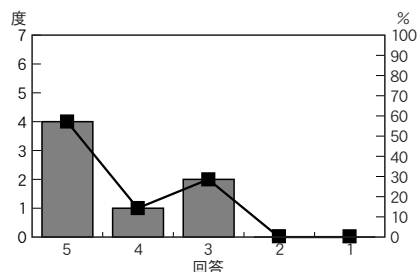
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



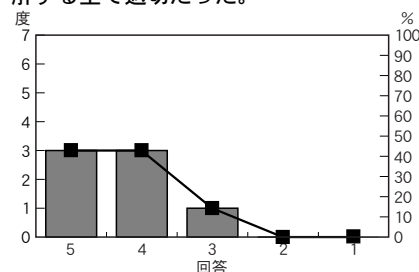
項目分析：(16)
熱心に指導した。



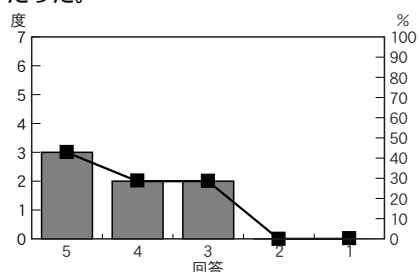
項目分析：(17)
授業内容を分かりやすく伝えた。



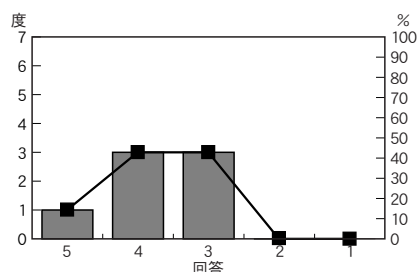
項目分析：(18)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



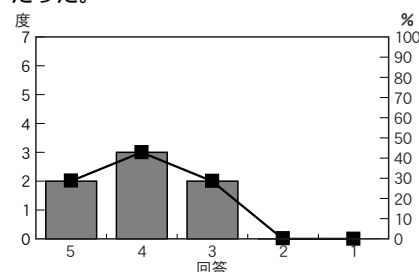
項目分析：(19)
教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。



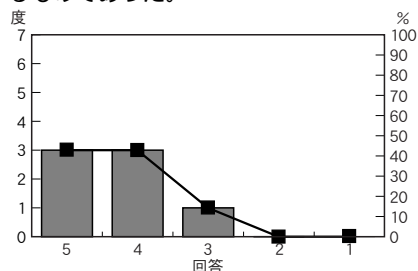
項目分析：(20)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(21)
与えられた課題のレベルや分量は適切だった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は新科目で家庭科教育コースの学生6名と障害児教育専修の学生3名が履修した。各専門の大学教員による中学校家庭科指導内容の講義、教科教育大学教員による指導方法・分析・評価の講義後、中学校家庭科教員がグループによる模擬授業をもとに指導を行った。

全22項目の授業評価の平均は4.4と非常に高かった。なかでも評価が高かったのは「6 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。」と「14 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。」であり、ともに平均が4.8であった。一方、評価が低かったのは、「2 成績評価の方法は明確に示されていた」の平均3.6、また「13 分からないことや疑問に思ったことは調べた。」と「20 教員の声は聞き取りやすかった。」で、ともに平均3.7であった。今後は授業概要に示した成績評価方法「毎週の授業後の課題と学期末の課題を総合的に評価する。」の明確化から授業改善に取り組みたい。なお、教員の声に関しては、遠隔授業観察システム活用授業を試みた際の音声の聞き取り難さによるものと推察される。

受講生からの提言「この授業でよかったこと」には「いろんな分野についての考えが知れた。」「現職の先生にもご指導いただけ、授業をつくるために必要な能力を育てることができたこと。」「様々な分野の模擬授業ができたこと。」「現場の先生の意見が聞けたこと。」「それぞれの専門の先生のお話が聞けてよかった。」「模擬授業実践によってよい経験ができた。」「改善したほうがよいと思うこと」には、映像データベースを活用した課題設定の試みに関して、「映像データベースをもう少し改善した方がよい。」があげられた。

授業科目名：「ふれあい実習」

評価実施日：平成 18 年 9 月

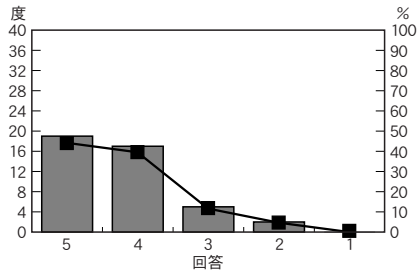
担当教員名：藤原 伸彦，清水 茂

(有効な合計43)

■ 度 ■ %

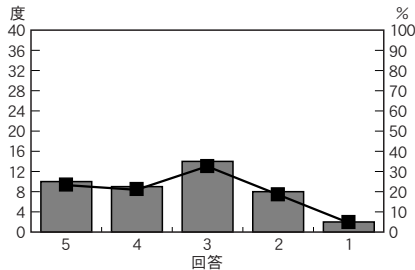
項目分析：(1)

目標・実習の計画・内容は、明確に示されていた。



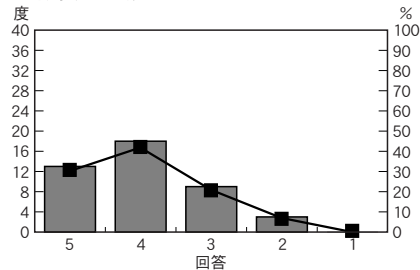
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



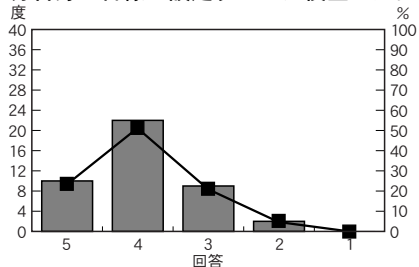
項目分析：(3)

事前オリエンテーションによって、実習の概要が理解できた。



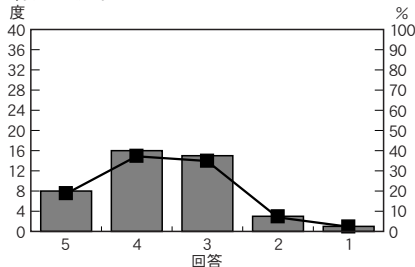
項目分析：(4)

事前オリエンテーションは、実習での自分自身の目標を設定するのに役立った。



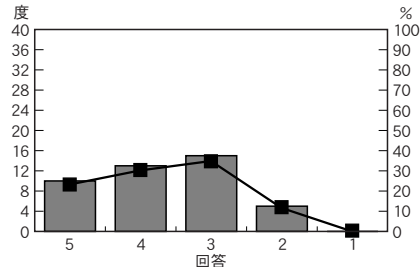
項目分析：(5)

教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。



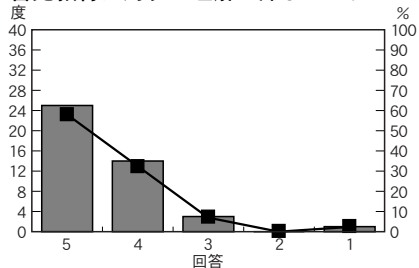
項目分析：(6)

教員の声は、聞き取りやすかった。



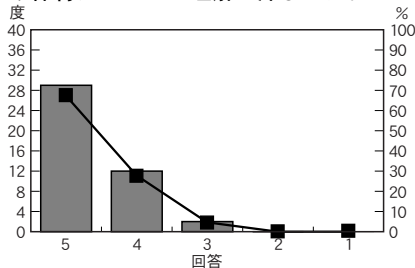
項目分析：(7)

附属養護学校での交流実習を通して、障害児教育に対する理解が深まった。



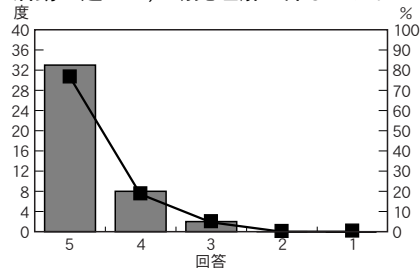
項目分析：(8)

附属学校園での観察実習を通して、授業や保育についての理解が深まった。



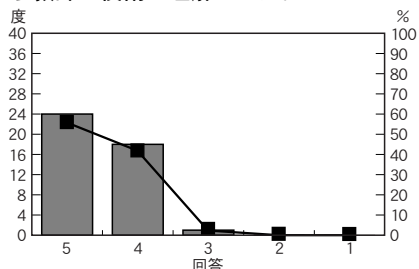
項目分析：(9)

鳴門市内の幼稚園での幼児とのふれあい活動を通して、幼児理解が深まった。



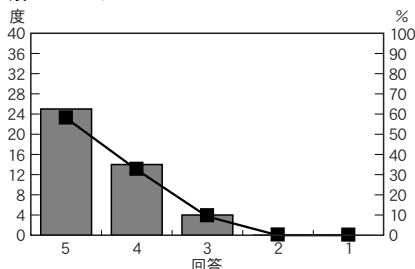
項目分析：(10)

実習を通して、子どもと教師の関わりから教師の役割が理解できた。



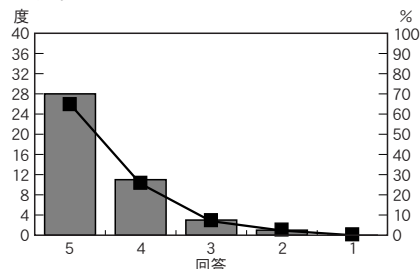
項目分析：(11)

実習を通して、教職の意義や重要性が理解できた。



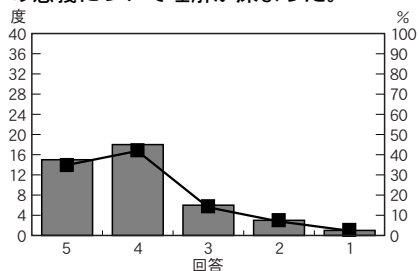
項目分析：(12)

実習を通して、教職に対する意欲が持てた。



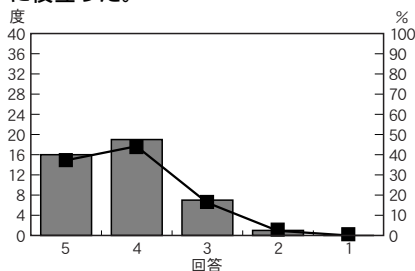
項目分析：(13)

事後指導によって、実習で経験したことの意義について理解が深まった。



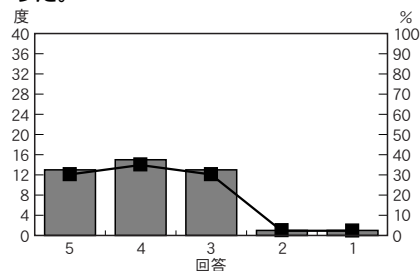
項目分析：(14)

教育実習録は、実習の内容をふり返るのに役立った。

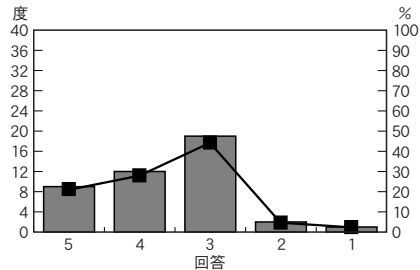


項目分析：(15)

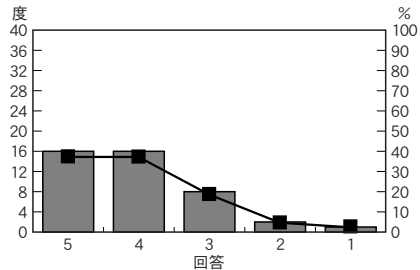
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



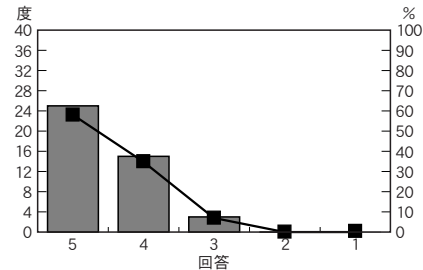
項目分析：(16)
教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。



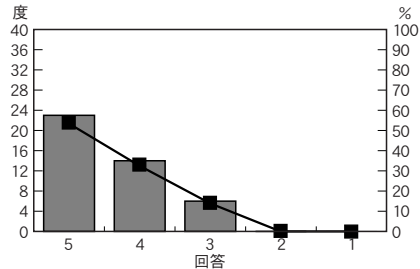
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



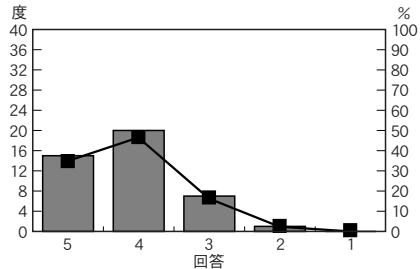
項目分析：(18)
積極的に実習や事後指導に取り組んだ。



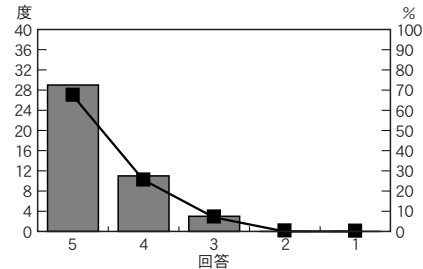
項目分析：(19)
実習に関連した内容について友人や教員と話し合った。



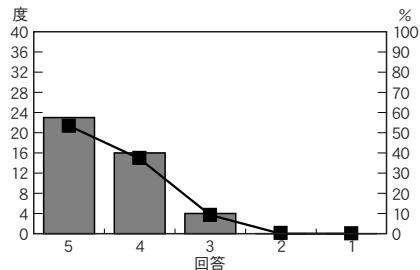
項目分析：(20)
今後、大学で学ぶべき目標が明確になった。



項目分析：(21)
今後、積極的に幼稚園・小学校・中学校等にボランティアとして関わってみたい。



項目分析：(22)
この実習は、自分自身にとって満足のできるものであった。



授業科目名：「ふれあい実習（大学院学生）」

評価実施日：平成 18 年 9 月

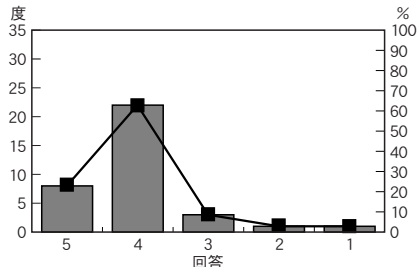
担当教員名：藤原 伸彦，清水 茂

(有効な合計35)

■ 度 ■ %

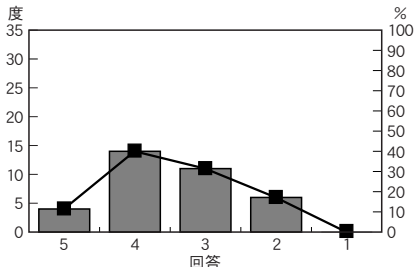
項目分析：(1)

目標・実習の計画・内容は、明確に示されていた。



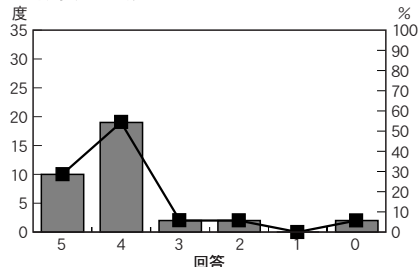
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



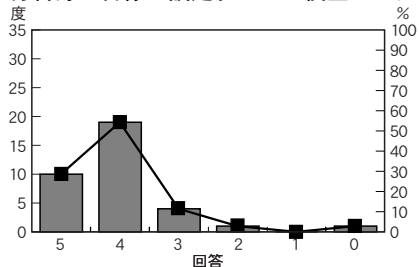
項目分析：(3)

事前オリエンテーションによって、実習の概要が理解できた。



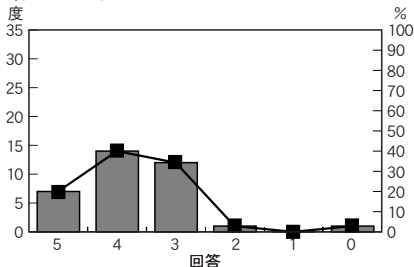
項目分析：(4)

事前オリエンテーションは、実習での自分自身の目標を設定するのに役立った。



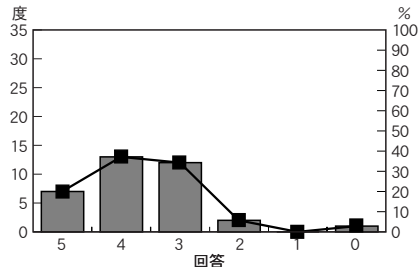
項目分析：(5)

教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。



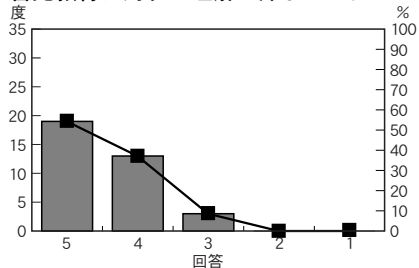
項目分析：(6)

教員の声は、聞き取りやすかった。



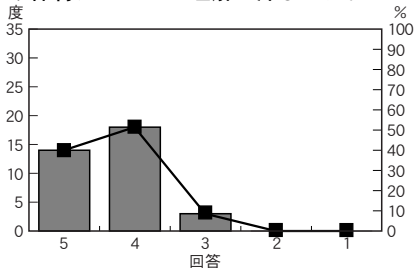
項目分析：(7)

附属養護学校での交流実習を通して、障害児教育に対する理解が深まった。



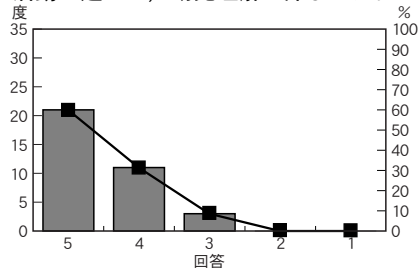
項目分析：(8)

附属学校園での観察実習を通して、授業や保育についての理解が深まった。



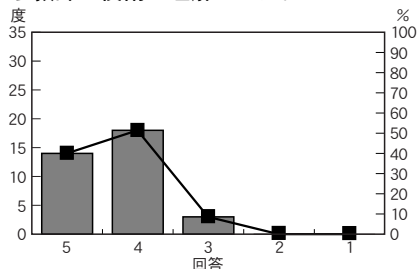
項目分析：(9)

鳴門市内の幼稚園での幼児とのふれあい活動を通して、幼児理解が深まった。



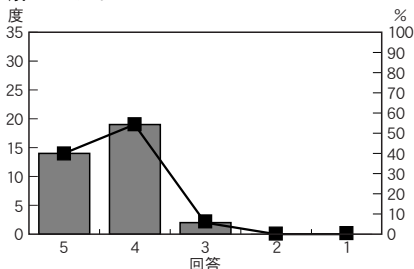
項目分析：(10)

実習を通して、子どもと教師の関わりから教師の役割が理解できた。



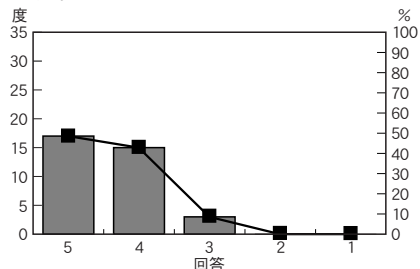
項目分析：(11)

実習を通して、教職の意義や重要性が理解できた。



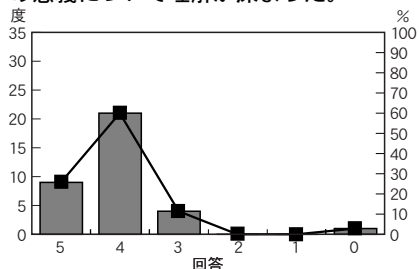
項目分析：(12)

実習を通して、教職に対する意欲が持てた。



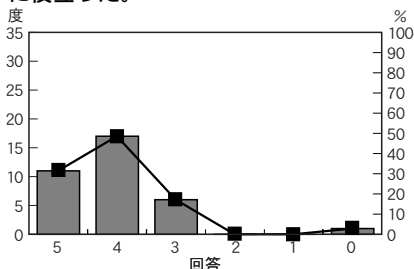
項目分析：(13)

事後指導によって、実習で経験したことの意義について理解が深まった。



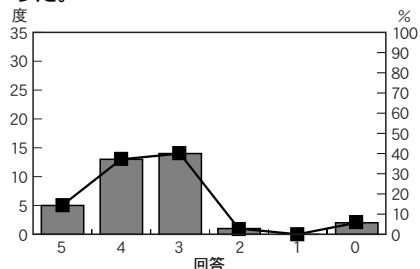
項目分析：(14)

教育実習録は、実習の内容をふり返るのに役立った。

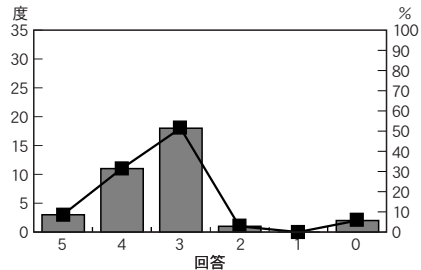


項目分析：(15)

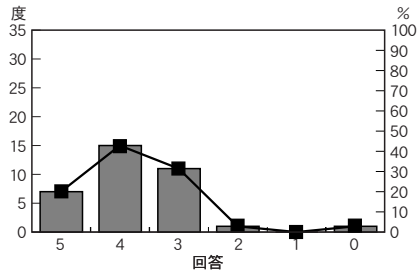
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



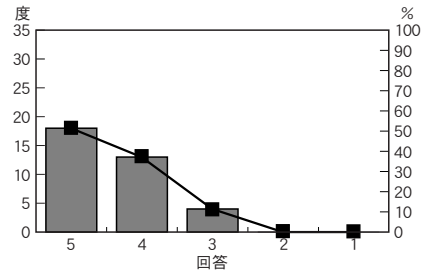
項目分析：(16)
教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。



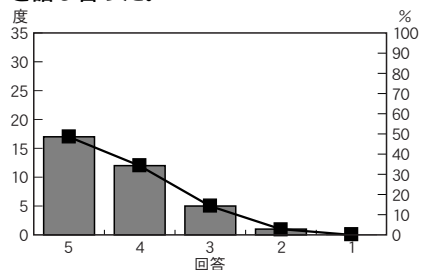
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



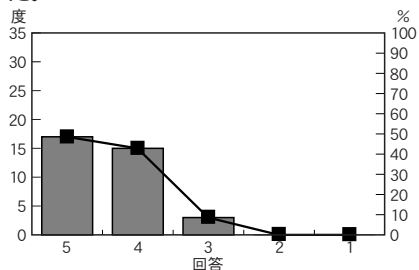
項目分析：(18)
積極的に実習や事後指導に取り組んだ。



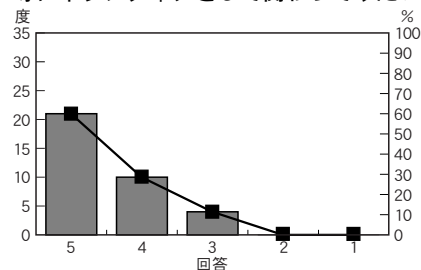
項目分析：(19)
実習に関連した内容について友人や教員と話し合った。



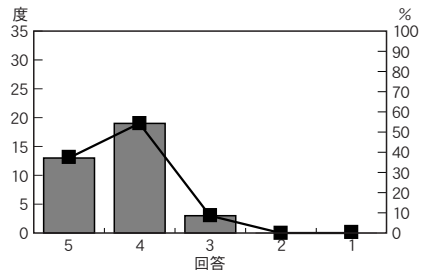
項目分析：(20)
今後、大学で学ぶべき目標が明確になった。



項目分析：(21)
今後、積極的に幼稚園・小学校・中学校等にボランティアとして関わってみたい。



項目分析：(22)
この実習は、自分自身にとって満足のできるものであった。



教員のコメント

ふれあい実習は、①大学でのオリエンテーション、②附属校園および鳴門市幼稚園での実習、③附属幼・小・中における実習後に大学で実施する事後指導の3つから成り立っている。アンケートには、①オリエンテーションに関する項目として(1)～(6)が、②実習に関する項目として(7)～(12)が、③事後指導に関する項目として(13)～(17)が設定され、さらに④ふれあい実習全体についての項目(18)～(22)と、⑤今後への提言のために自由記述欄(23)～(24)が設けられている。以下、①～⑤についてアンケート結果を振り返ってみたい。なお、学部生の回答結果と長期履修学生の回答結果はほぼ同様の傾向を示していたため、コメント内に表れる数値は学部生の回答結果を示すこととする。

① 大学でのオリエンテーションに関して [項目(1)～(6)]

項目(1), (3), (4)については、70%以上の学生が「非常にそうである」「かなりそうである」と回答していた。オリエンテーションは当然、附属校園および鳴門市幼稚園での実習に向けて必要な情報を示すことが目的であり、項目(1)および(3)の結果は、おおむねオリエンテーションの最低限の目的が果たされていることを示している。また、項目(4)の結果から、オリエンテーションが実習に向けて学生が学習目標を設定するように方向付けていることがわかる。

項目(2)では、約半数の学生が「どちらともいえない」「あまりそうではない」と回答している。実際には、学生の参加状況や実習録の内容をもとに評価することは伝えているにも関わらず、このような結果となった。次年度以降は、この点について更に強調するとともに、評価についての説明をより具体的に示すようにしたい。項目(5), (6)の結果でも、「どちらともいえない」「あまりそうではない」とする学生がやや多い。内容のプレゼンテーションの方法については、改善の余地が少しあるだろう。

② 附属校園および鳴門市幼稚園での実習に関して [項目(7)～(12)]

いずれの項目でも実習によって教職・子どもに対する理解が深まった、および教職への意欲が高まったと回答する学生がほとんどであった。しかも「非常にそうである」の回答数が「かなりそうである」の回答数を上回っている点が特徴的である。現場に赴くことが重要な学びの機会となっていると言える。また、学生自身もそのように捉えていることがわかる。

③ 附属幼・小・中における実習後に大学で実施する事後指導に関して [項目(13)～(17)]

項目(16)を除くいずれの項目でも、65%以上の学生が「非常にそうである」「かなりそうである」と回答している。事後指導によって、比較的多くの学生が実習で学んだことを確認することが出来ているようである。項目(16)に関しては、機器・設備の使い方に問題があるというのではなく、事後指導ではプロジェクトなどの設備を使わないことが多いため、単にそれを反映しているように思われる。

④ ふれあい実習全般について [項目(18)～(22)]

いずれの項目でも、「非常にそうである」「かなりそうである」とする学生の率が高い。ふれあい実習について、学生の満足度は高く、今後の学習の目標を明確に持つようになったり、今後ボランティアで幼稚園・小学校・中学校等に関わりたいと意欲を高めたりしている。

⑤ 今後への提言 [自由記述(23)～(24)]

両項目について、主な意見を列挙する。

《項目(23)》

- a) 実際の教育現場の様子を見たり、教員から直接話を聞いたりすることができ、有意義であった。
 - b) 教師としての視点から学校を見てみることができた。
 - c) 子どもたちとふれあえた。
 - d) 障害児教育講座以外の学生も養護学校で実習を受けられたことがよかった。
 - e) 自分が専攻する校種だけでなく、幅広く教育現場を見ることができ、よかった。
-

-
- f) 教職を目指す気持ちが高まった。
 - g) 今後、何を学んでゆけばよいかを意識できた。
 - h) 事後指導で他の人の意見を聞くことができた。

《項目④》

- i) 市内の幼稚園までの道のりについて、もう少し分かりやすい地図を示してほしい。
- j) 実習の時期についてもっと早く知らせしてほしい。
- k) 実習に行く際の持ち物等については、先に知らせてほしい。(購入が必要なものもあるため。)
- l) オリエンテーションが長すぎる。資料を配布するだけでもよいのではないだろうか。
- m) 事前指導で、服装や頭髪、態度に関する注意をすべきではないか。
- n) 他の学生の実習態度で、目に余るものがあった。社会の一員としてどうあるべきかについて指導をすべきだと思う。
- o) 車のないものにとっては、市内幼稚園での実習で大学から遠いところに配属された場合に困る。車の保有状況なども考慮して配属先を決めてほしい。
- p) 現場の先生からもっとお話を伺いたい。(時間が少なかった。)
- q) 附属養護学校での実習では、配属クラスの先生方からもっとお話を伺いたかった。
- r) もっと授業を観察したい。
- s) 事後指導をもう少し工夫をすべきではないか。

項目④の回答のうち、いくつかに対してコメントする。

(i)について。地図などは本来、大学側から提供されるのを待つのではなく、自分たちで主体的に調べるべきものではないだろうか。

(j)について。実施時期はシラバスに掲載されているので、それを参照してもらいたい。

(k)について。来年度からは、シラバスに示す、事前に掲示により連絡するなどの方法をとるようにしたい。

(l), (m), (n)について。オリエンテーションは確かに長く、分かっているものにとっては無駄に感じられるというのも尤もである。しかし、(m), (n)の指摘にもあるように、実習態度に問題のある学生がどうしても出てくる場合があり、やむを得ず指導を行なわざるを得ない。

(o)について。確かに大学1年生の段階では車を持っていない学生もいる。来年度には、車の保有状況を考慮に入れるなど、何らかの対策を考えたい。

(p), (q), (r)について。ふれあい実習という枠組みの中でも是非工夫をしていきたい。ただ、時間的にどうしても限界があるため、ボランティアで学校に行くなどして、自発的に子どもたちや現場の先生方と出会う機会をつくってほしい。

※付記

回答数が学部生43名分、長期履修院生35名分と、いずれも対象学生の半数であるため、今回の結果をどの程度考慮するかについてやや慎重になる必要がある。また、ふれあい実習では講義とは異なる形態でアンケートを回収しなくてはならないため、来年度以降は回収方法についても工夫をする必要があるかもしれない。

教職(基礎・共通)科目

授業科目名：「総合学習論」

評価実施日：平成 19 年 2 月 19 日

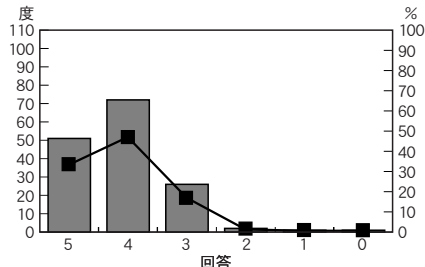
担当教員名：村川 雅弘

(有効な合計153)

■ 度 ■ %

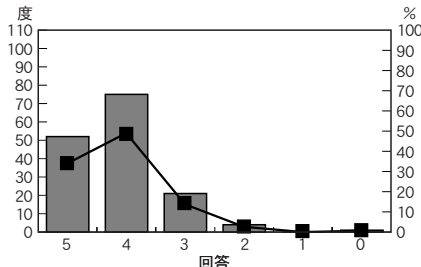
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



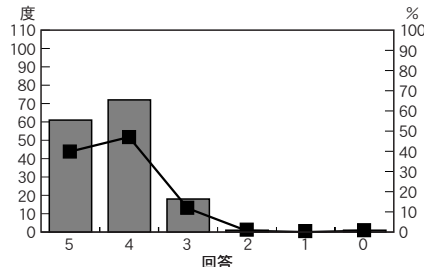
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



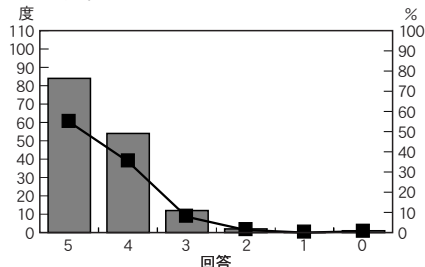
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



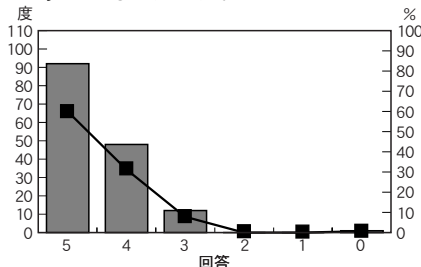
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



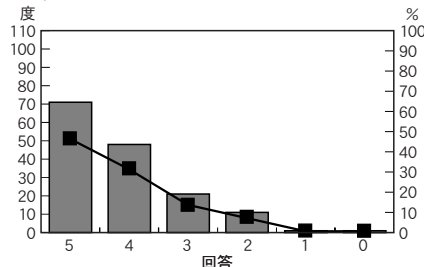
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



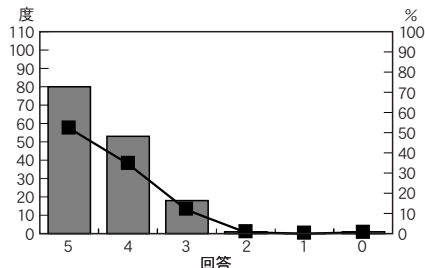
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



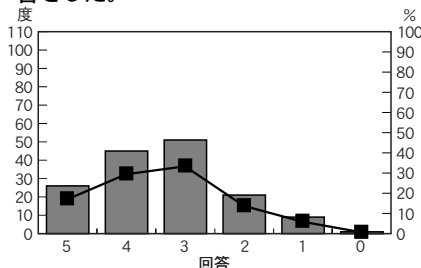
項目分析：(7)

授業によく出席した。



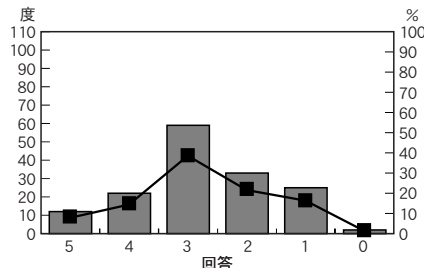
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



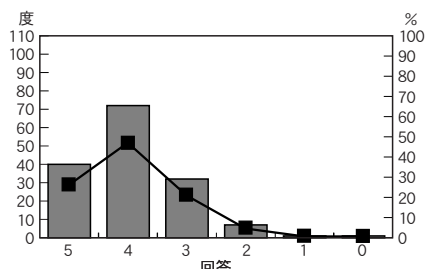
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



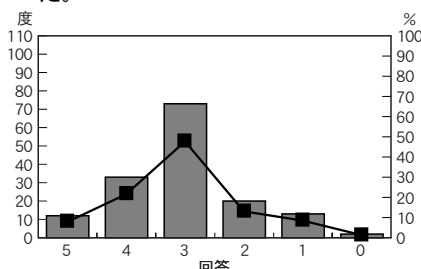
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



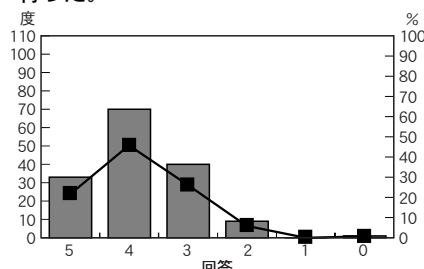
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



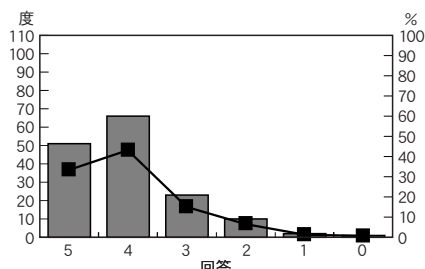
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



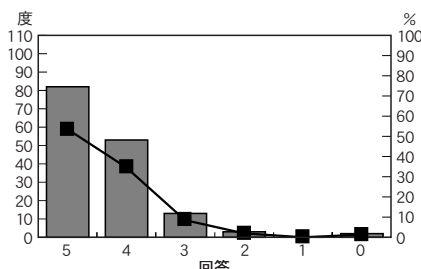
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



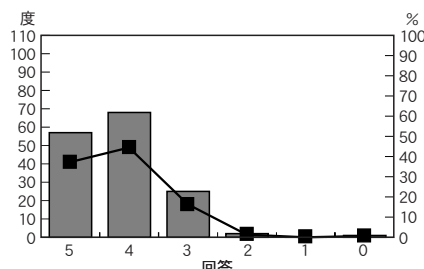
項目分析：(14)

熱心に指導した。

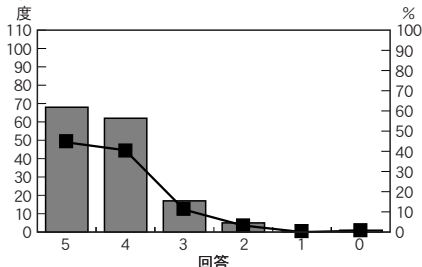


項目分析：(15)

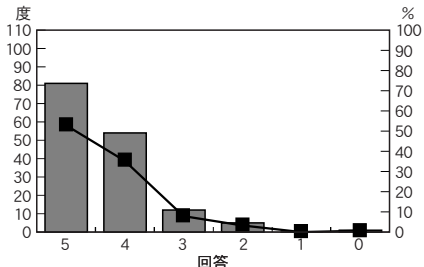
授業内容を分かりやすく説明した。



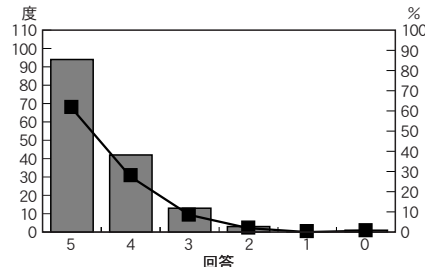
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



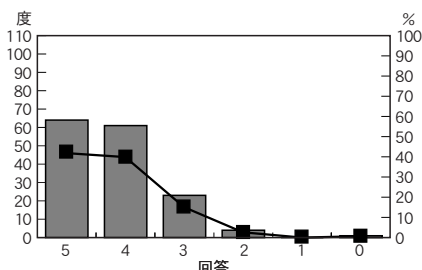
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



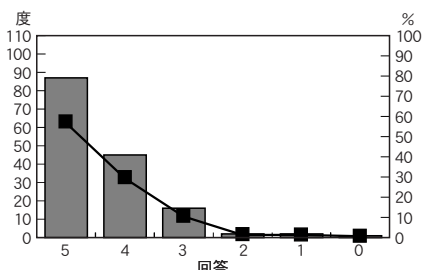
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



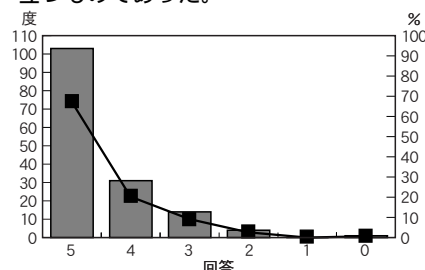
項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



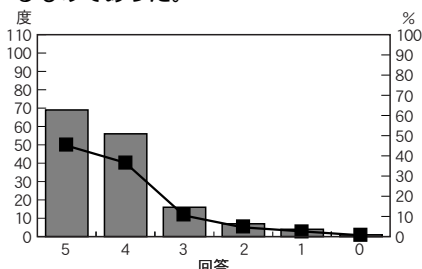
項目分析：(20)
特別講師の酒井先生の講話に感動した。



項目分析：(21)
特別講師の酒井先生の講話は教職に役立つものであった。



項目分析：(22)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

総合的な学習は学部学生にとっては、実際に受けた経験がなく、また否定的な報道等も多く、極めて馴染みが薄く興味のわきにくいものである。そのために、研究途上で撮影した映像資料や関連資料を活用し、できるかぎり興味関心を引きつつ、具体的な実践とつなげて理解してもらえるように工夫した。また、テキストの実践者自身も授業に引き、学生からの質問に具体的に答えるという機会も設定した。アンケート評価は概ね良好であるが、項目の8や9、11は幾分芳しくない。授業中での課題が多いので予習復習や自宅での調べ学習を奨励しないこと、受講人数が多いために授業中における発言の機会を保障できないことが反映した結果だと言える。少し改善していきたい。

自由記述を見ると、「多くの実践がみられた」「本当に役立つ内容だった」「具体的な活動がみられた」「授業者が実際にきてくれた」と肯定的な感想が多かった。意図した手だてに効果があったと判断できる。一方、否定的な感想としては「人数が多すぎる」が一番多かった。昨年度は受講学年変更の移行期のために2つ学年が同時に受講したためである。本来は2つに分けるはずであったが、もう一人の担当教員の突然の異動により叶わなかった。また、受け身的にならないようにつ出席チェックのために授業中に意見等を書かせたことについては「課題が多い」という意見もあった。「内容に偏りがある」「失敗例ももっと聞きたい」という反応については今後改善をしていきたい。

授業科目名：「同和教育論」

評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日

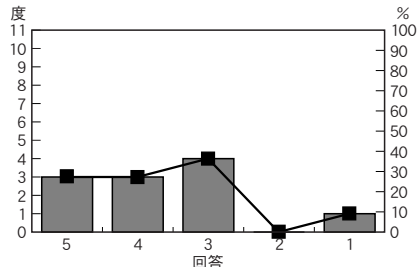
担当教員名：清水 茂, 葛上 秀文, 大石 雅章, 町田 哲

(有効な合計11)

■ 度 ■ %

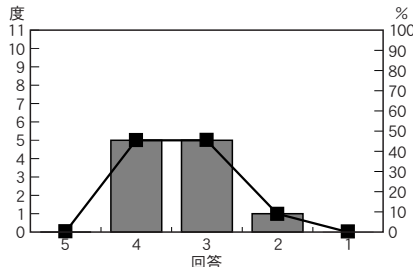
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



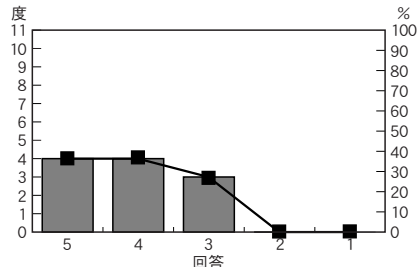
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



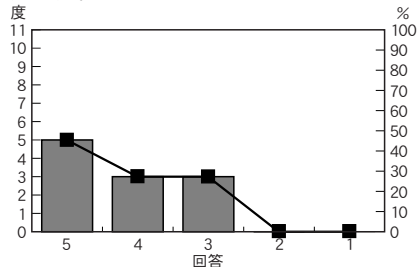
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



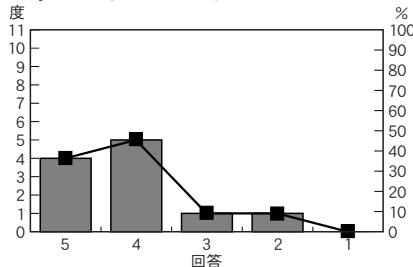
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



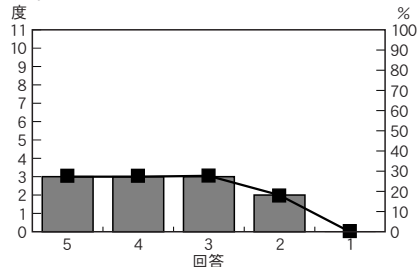
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



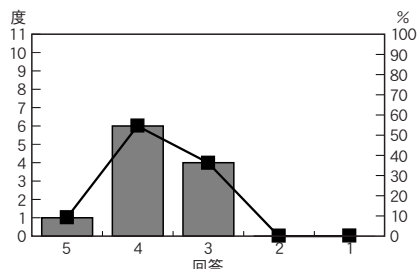
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



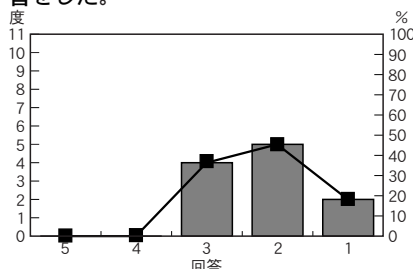
項目分析：(7)

授業によく出席した。



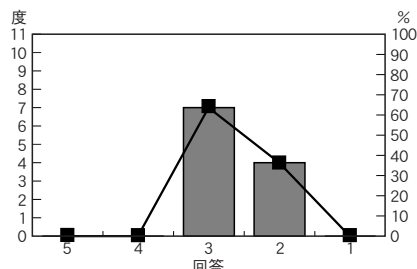
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



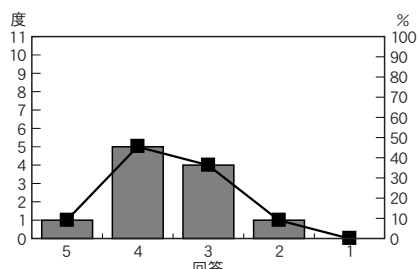
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



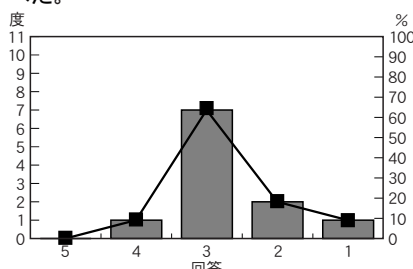
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



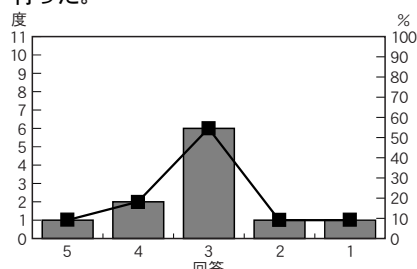
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



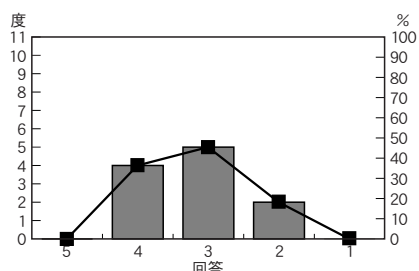
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



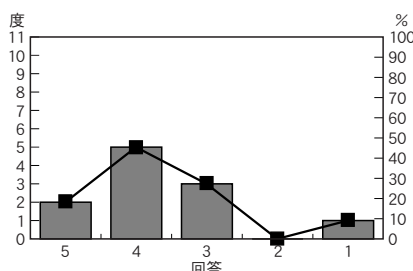
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



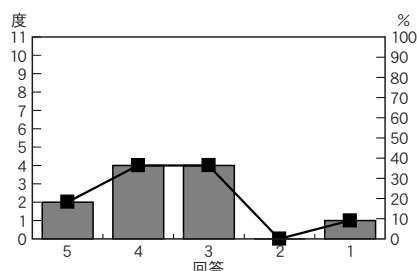
項目分析：(14)

熱心に指導した。

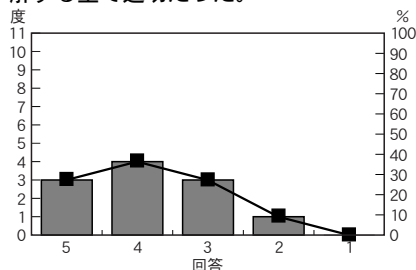


項目分析：(15)

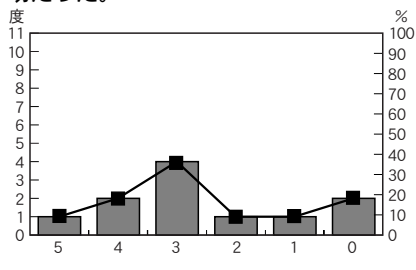
授業内容を分かりやすく説明した。



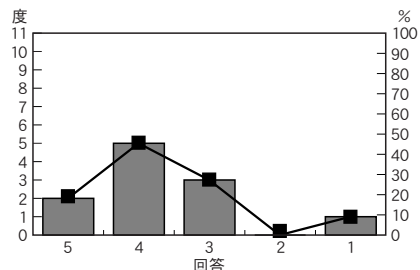
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



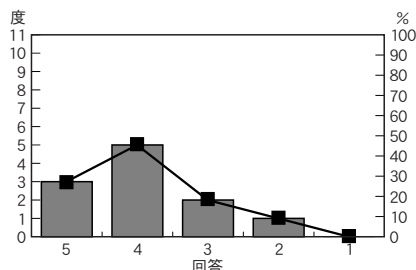
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



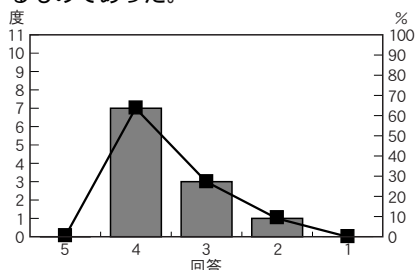
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

第一回目の授業において、授業目標・授業計画・授業内容・各時間の担当者等について、丁寧な説明を心がけたが、学生の理解は十分とは言えない。シラバスを持たずに授業に出席する学生が、数名見受けられた。受講生としての甘さを感じられる。

成績評価の方法に関しては、形成的評価と総括的評価を実施してきた。受講生には、好評であった。授業への出席率も評価の対象に加えた。虚偽の理由で欠席届を出した学生がいたので、厳しく注意した。

予習・復習が十分できていない。これでは、授業内容の習得は難しいであろう。

視聴覚機器の導入が、今後の課題である。そのためには、利用し易い教室環境（機器の設営・優れた機材の設置等）が望まれる。

授業科目名：「人間形成原論」

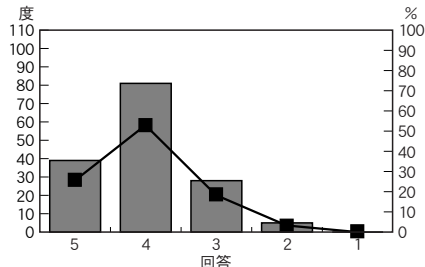
評価実施日：平成 18 年 7 月 31 日

担当教員名：木内 陽一，梶井 一暁

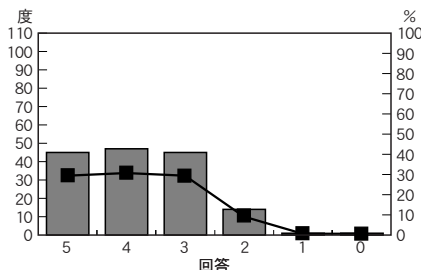
(有効な合計153)

■ 度 ■ %

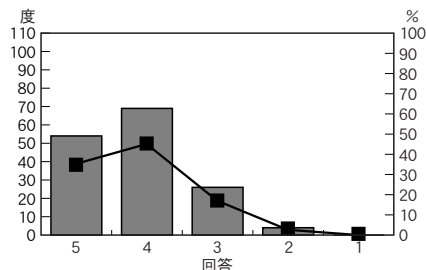
項目分析：(1)
目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



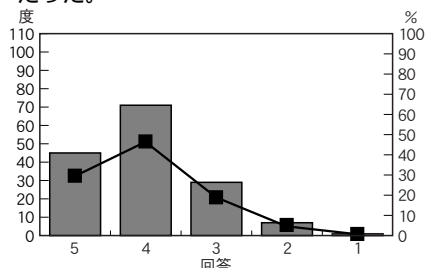
項目分析：(2)
成績評価の方法は、明確に示されていた。



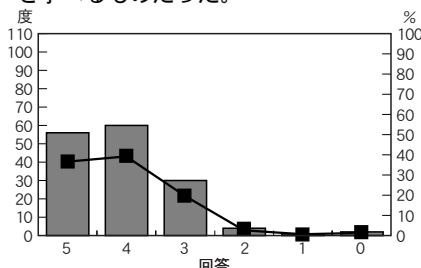
項目分析：(3)
授業内容は、授業概要に沿っていた。



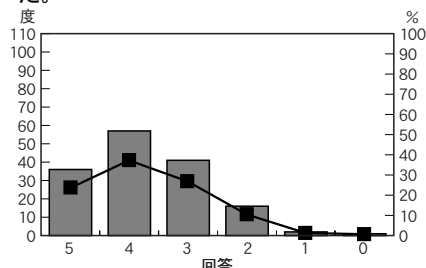
項目分析：(4)
授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



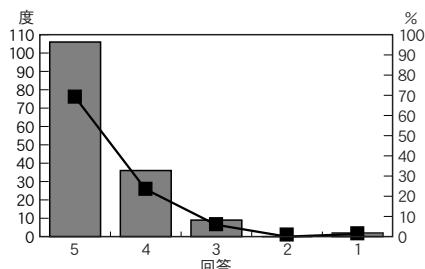
項目分析：(5)
授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



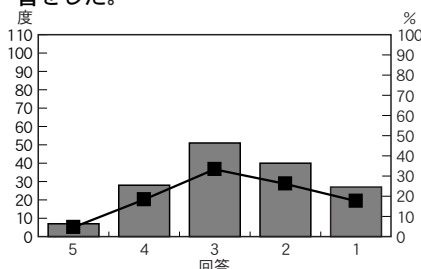
項目分析：(6)
授業内容は、興味・関心を引くものだった。



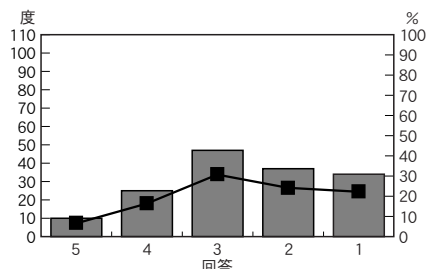
項目分析：(7)
授業によく出席した。



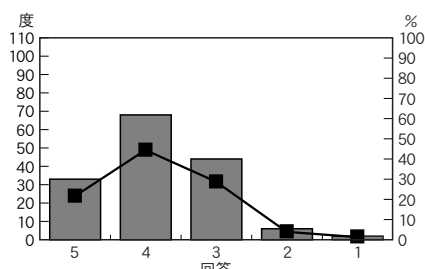
項目分析：(8)
授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



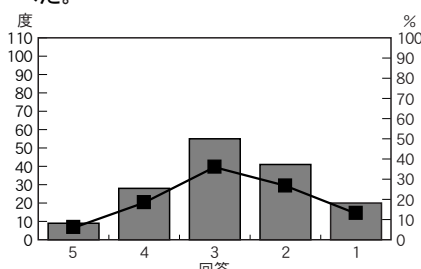
項目分析：(9)
授業中に積極的に発言や質問をした。



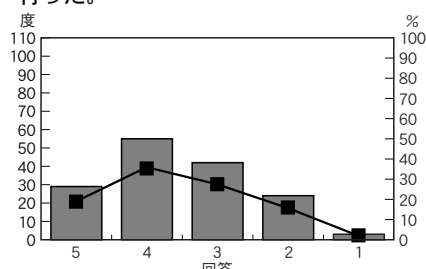
項目分析：(10)
教員の説明をよく聞いた。



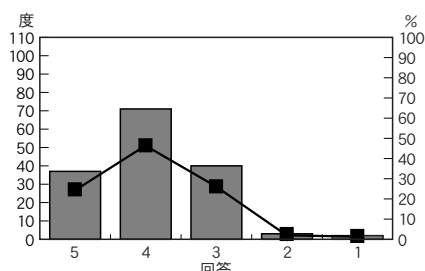
項目分析：(11)
分からないことや疑問に思ったことは調べた。



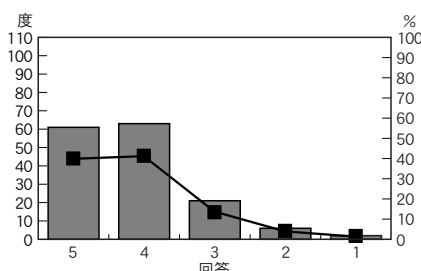
項目分析：(12)
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



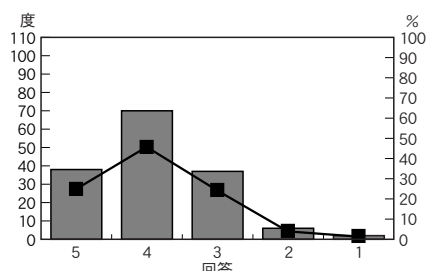
項目分析：(13)
学生が参加しやすい授業だった。



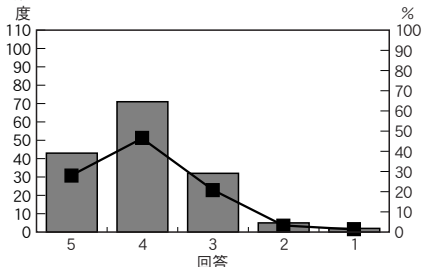
項目分析：(14)
熱心に指導した。



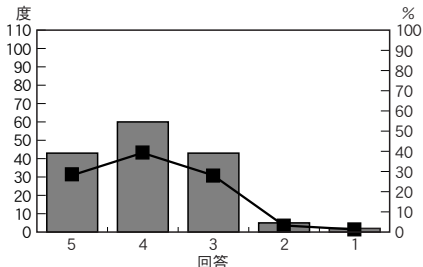
項目分析：(15)
授業内容を分かりやすく説明した。



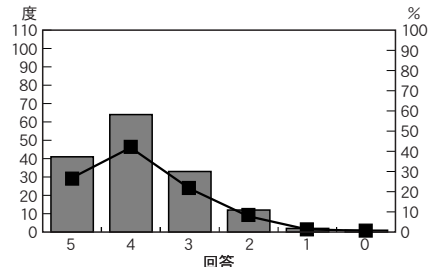
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



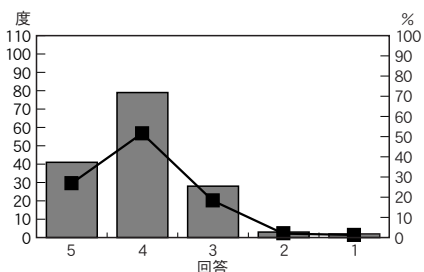
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



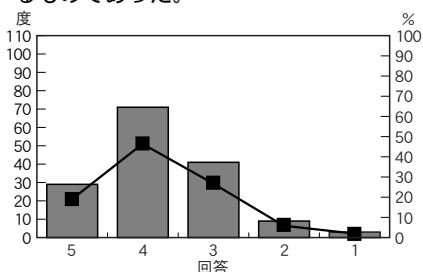
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

「1 授業概要について」、「2 授業の内容等について」、「4 教員の授業の進め方について」、「5 授業に対する満足度」は、おおむね積極的な評価を得た。改善を継続したい。

とくに取り組むべき課題は「3 あなたの授業の取り組みについて」であると考えている。受講者に対し、授業時間周辺への学習展開を誘うことに成功しなかった。自由記述で、図書館に行くようになった、新聞を読むようになったなどのコメントを記す受講者もいたが、少数であった。授業に関連する図書や新聞記事を紹介している。授業者による動機づけが受講者による行動に結びつくようにするためには、さらなる工夫が必要である。

長期履修院生の受講が増えている。学部学生とは受講背景が異なっており、対応を考えていく必要がある。

授業科目名：「発達心理学」

評価実施日：平成 19 年 2 月 8 日

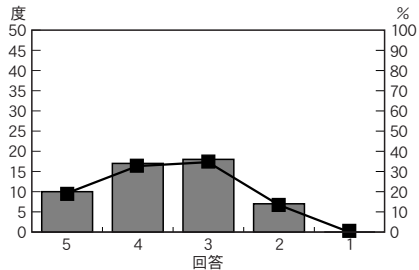
担当教員名：田村 隆宏, 山崎 勝之, 皆川 直凡, 浜崎 隆司, 吉井 健治, 島田 恭二

(有効な合計52)

■ 度 ■ %

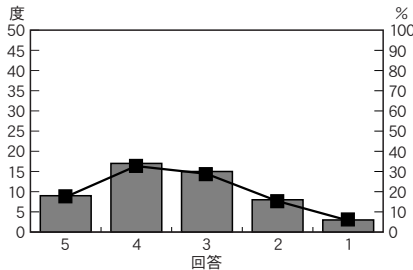
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



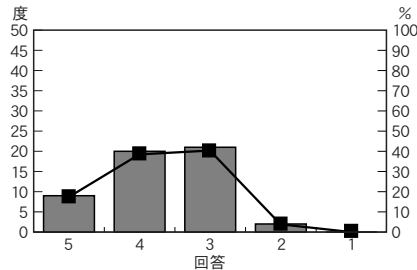
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



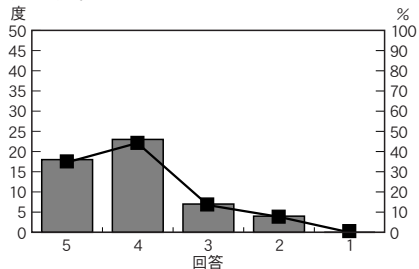
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



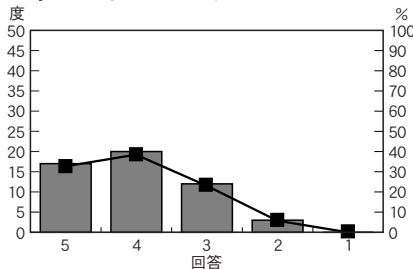
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



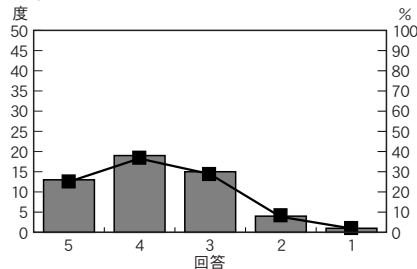
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



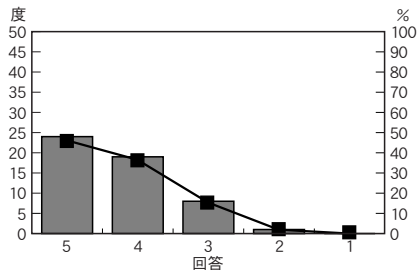
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



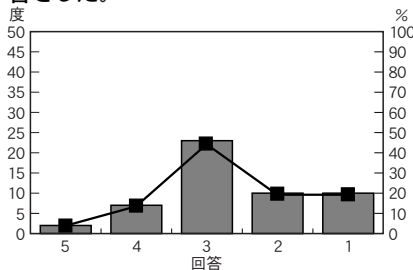
項目分析：(7)

授業によく出席した。



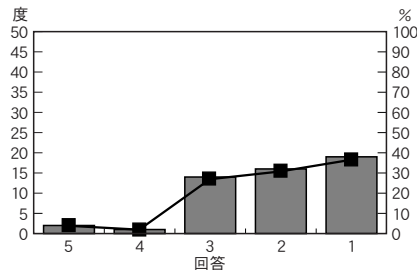
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



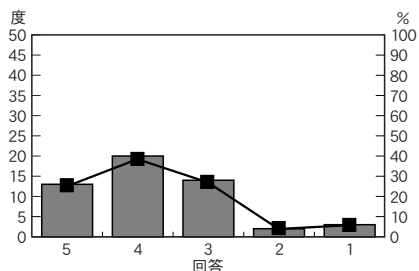
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



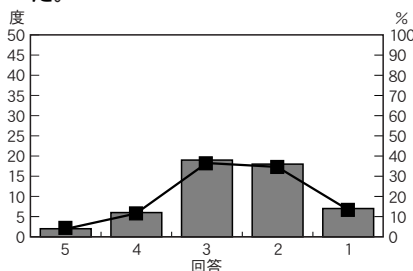
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



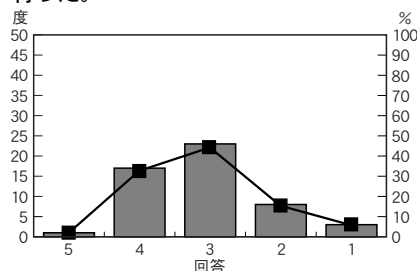
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



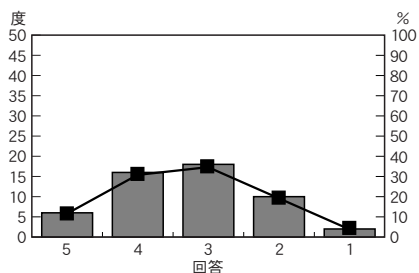
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



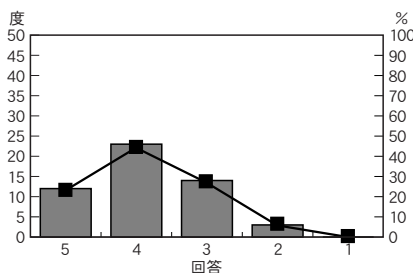
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



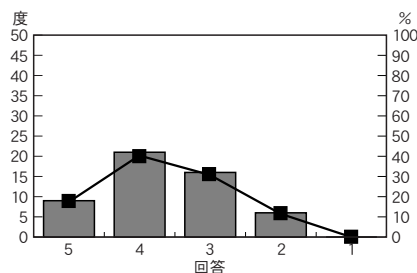
項目分析：(14)

熱心に指導した。

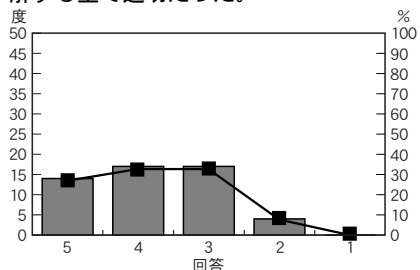


項目分析：(15)

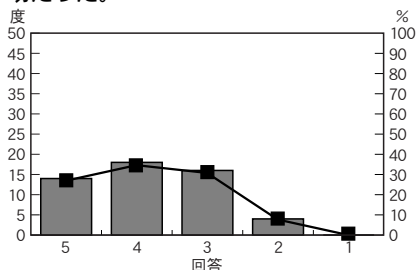
授業内容を分かりやすく説明した。



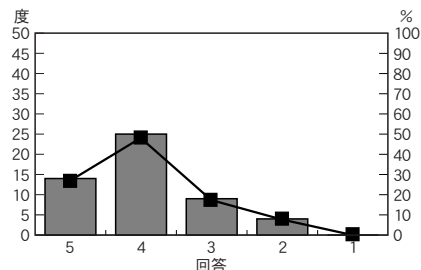
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



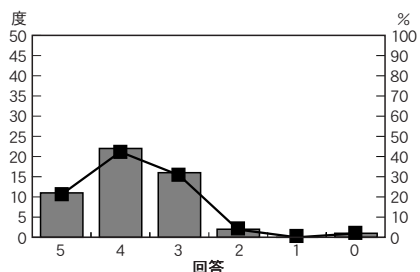
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



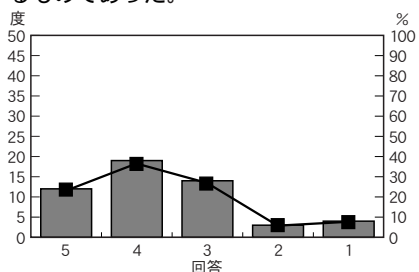
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

「講義の目標、計画、内容の明示」、「成績評価方法の明示」、「内容と授業概要との対応」、「専門性を高める」、「教育に対する見方、考え方が学べる」、「興味関心を引く」といった観点ではいずれも概ね高評価であった。それに対して、学生自身の受講態度については、「出席」はよくして、教員の「説明」をよく聞いているものの、「予習・復習」や「授業中の積極的な発言や質問」、「疑問点などを自主的に調べる」といった自主的な態度があまり促されなかった。今後はこの点を改善する必要がある。

教員の授業姿勢に関わる「熱心に指導」、「わかりやすく説明」、「教材等の適切性」、「使用機材の適切性」、「声の聞き取りやすさ」、「進度の適切性」についてはいずれも、高評価であったが、「学生の理解状況の確認」「学生の参加のしやすさ」については、若干課題の残る評価であった。この点についても改善の余地があるであろう。

「授業に対する満足度」は、概ね高い結果であったので、今後の講義では、上記で指摘した点をさらに改善し、さらに満足度を高めることを目指す必要がある。

授業科目名：「教育社会学」

評価実施日：平成 18 年 7 月 21 日

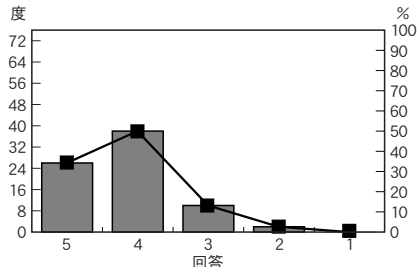
担当教員名：伴 恒信

(有効な合計76)

■ 度 ■ %

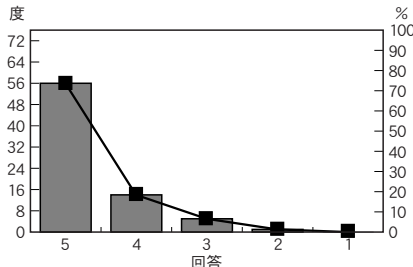
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



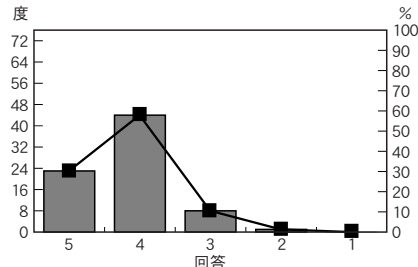
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



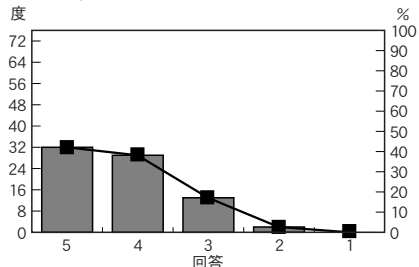
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



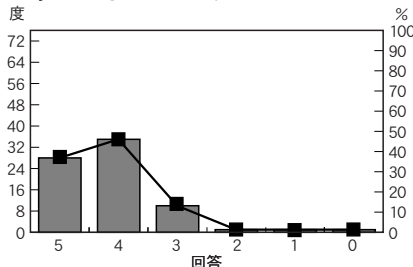
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



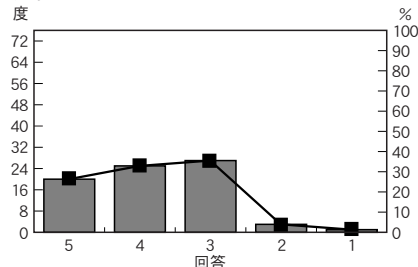
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



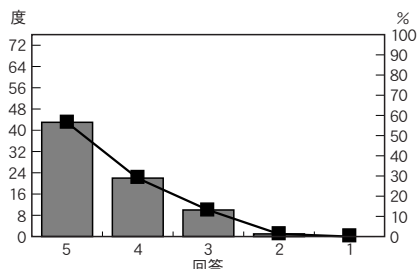
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



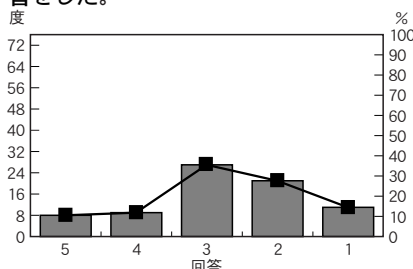
項目分析：(7)

授業によく出席した。



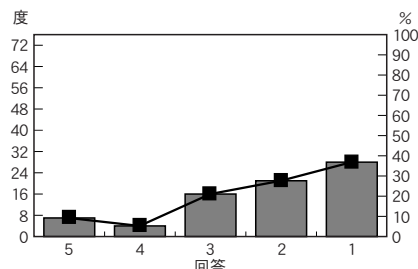
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



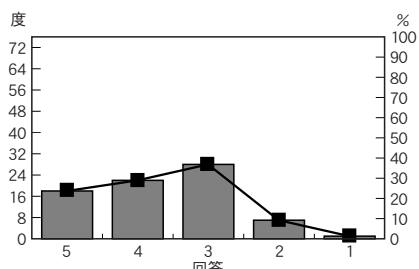
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



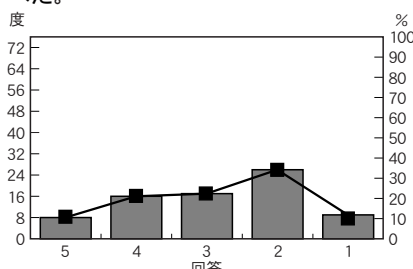
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



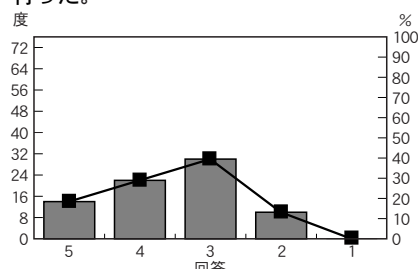
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



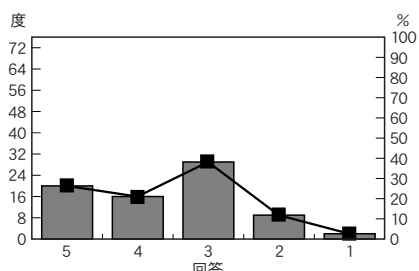
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



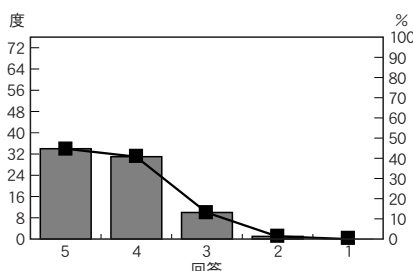
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



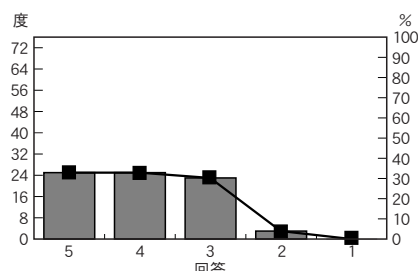
項目分析：(14)

熱心に指導した。

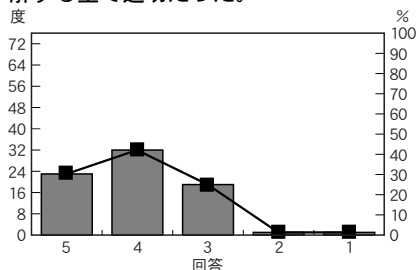


項目分析：(15)

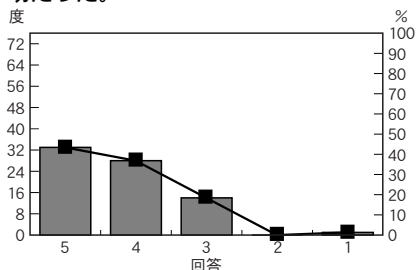
授業内容を分かりやすく説明した。



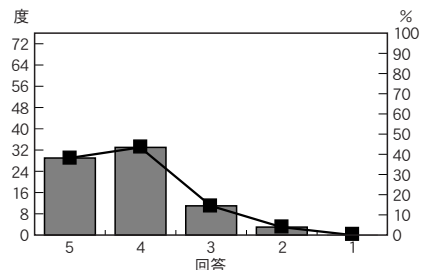
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



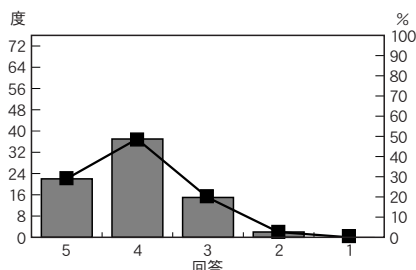
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



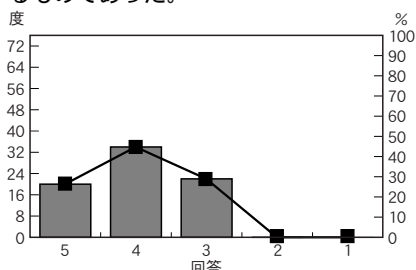
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本年度は講義が後期から前期にまわったことで受講生が増加したが、大講義室の確保が難しく酷暑のなか受講生からは悲鳴に近い声が聞こえていた。改善を望む点での叙述でも、「授業の問題ではなく教室の問題ですが、暑かった。」「教室の広さと受講者の人数が合っていません。暑くて集中できません。」などの記述が目立った。そのような悪条件の中にもかかわらず真面目に取り組んでくれた受講生も多かったようで、「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。」「教育に対する見方や考え方を学べるものだった。」との設問に4以上の評価をする者が8割を越えていた。よかった点に関する具体的な感想でも、「専門性を高めるものであり、普段見ることのできない外国の一面もみれた。」「教育を社会という大きな視点でとらえるのに有益な授業でした。」「幅広くさまざまな知識を得ることができた。」などの叙述がみられた。また授業の進め方についても、8割以上の受講生が「熱心に指導した」「声は聞き取りやすかった」「視聴覚機器の利用は適切」といった項目に4以上の評価を与えている。全体として7割以上の評点4以上の満足を示してはいるが、受講生自身の取り組みを促す点に関しては人数が多いだけに課題として残った。

授業科目名：「教育心理学」

評価実施日：平成 18 年 7 月 31 日

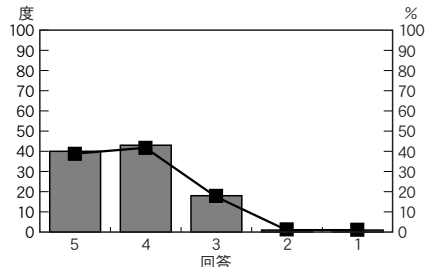
担当教員名：皆川 直凡

(有効な合計 103)

■ 度 ■ %

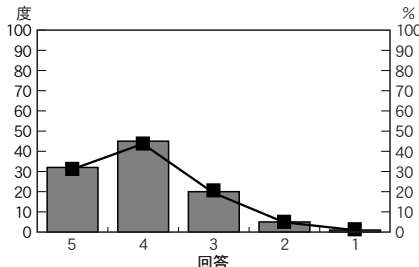
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



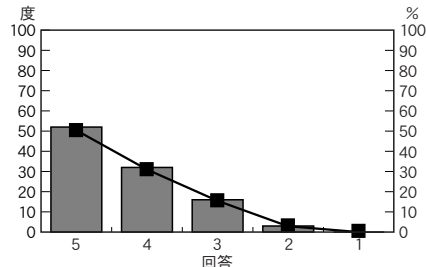
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



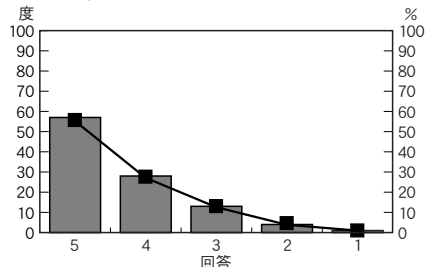
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



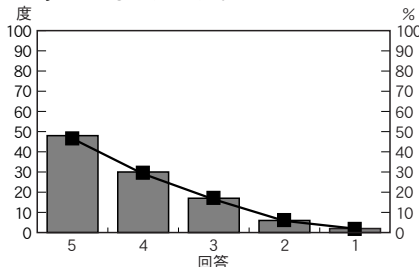
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



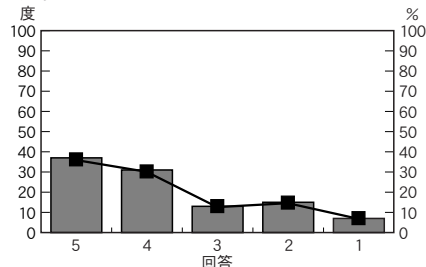
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



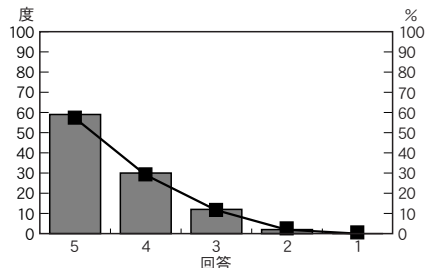
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



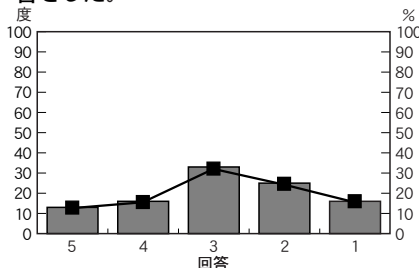
項目分析：(7)

授業によく出席した。



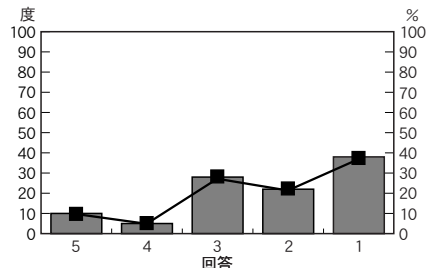
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



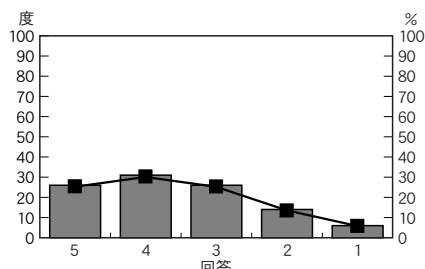
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



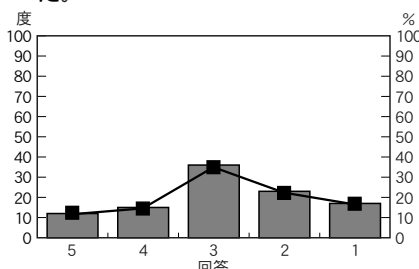
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



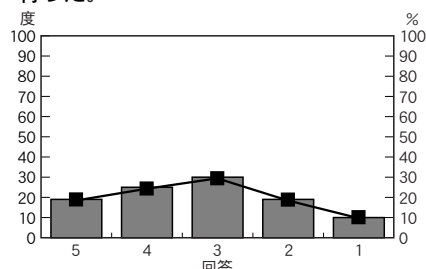
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



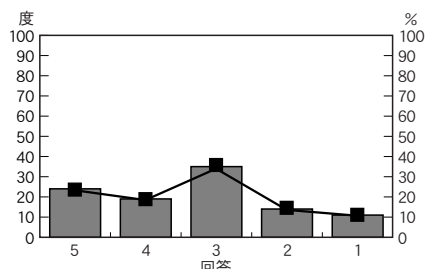
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



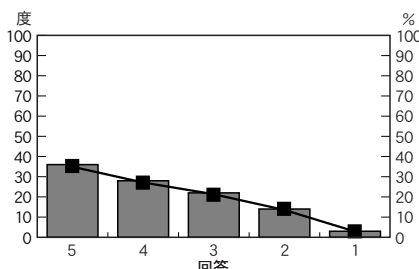
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



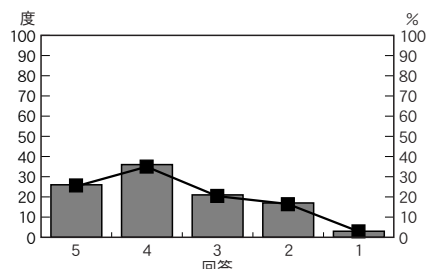
項目分析：(14)

熱心に指導した。

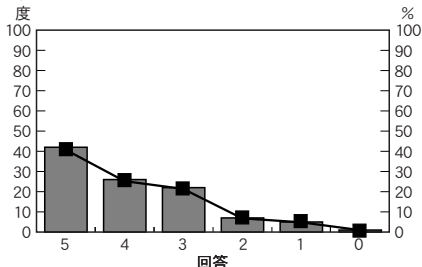


項目分析：(15)

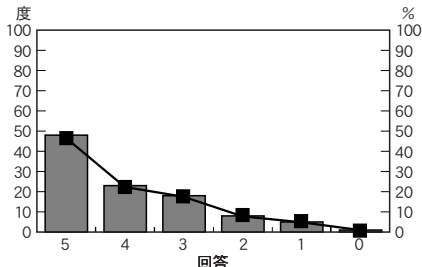
授業内容を分かりやすく説明した。



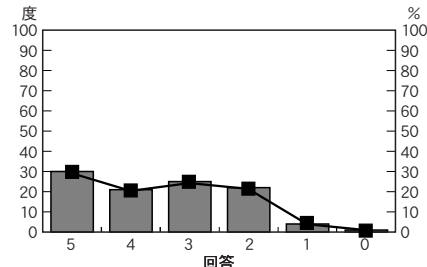
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



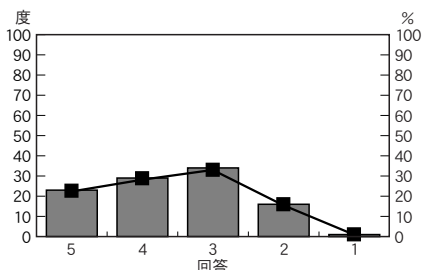
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



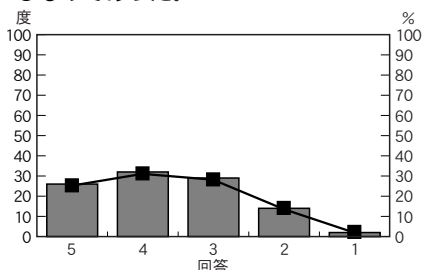
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

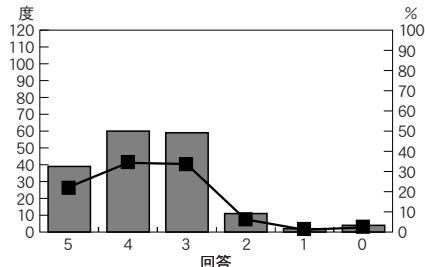
授業概要については、4以上の評価をした受講生の比率が大勢（項目1：80%、項目2：75%）を占めたことから、おおむね明確に示すことができたと考えられる。授業内容に関する4項目では、上記の比率は、「授業概要に沿った」と「教養や専門性を高める」が80%強、「教育に対する見方・考え方を学べる」が75%、「興味・関心を引く」が66%を占めた。受講生の態度に関する5項目については、上記の比率は、「授業によく出席」では86%、「教員の説明をよく聞いた」では55%を占めた。一方、「予習・復習」「発言・質問」「分からないことや疑問点を調べた」では60～70%強が3以下の評価を示した。これらは受講態度が受動的であることを示しており、能動性を高める工夫が求められる。教員の授業の進め方については、学生の「理解状況の確認」「参加のしやすさ」、「進む速さの適切さ」の3項目が評価値3中心の分布であったのに対し、「熱心に指導」「わかりやすく説明」「教材が適切」「教育機器利用が適切」の4項目は4以上の評価者が優勢（60～68%）であった。一方、教員の声の聞き取りやすさは評価値2～5に評価が分かれた。総合的な「授業満足度」は評定値4以上が優勢（56%）であったが、3が28%、2以下が15%であったことにも配慮すべきであろう。100名余の受講生全員から一様に高い評価を得ることは困難だが、個別項目において示唆された問題点を克服する方向で、授業改善をはかりたい。

授業科目名：「道徳教育指導論」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 6 日
 担当教員名：兼松 儀郎

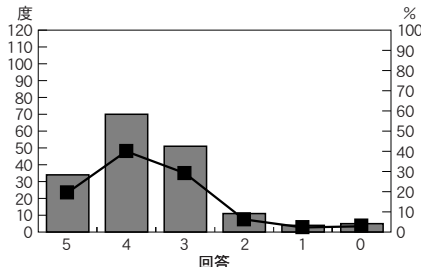
(有効な合計175)

■ 度 ■ %

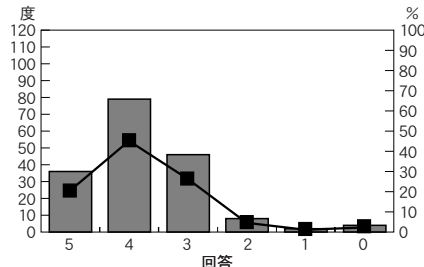
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



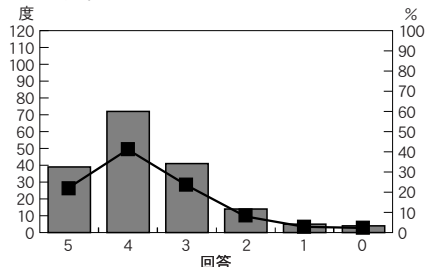
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



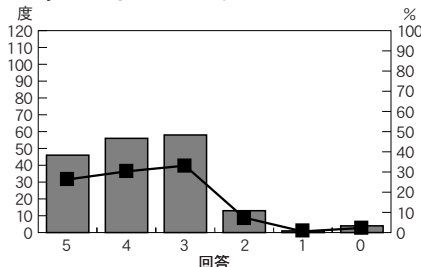
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



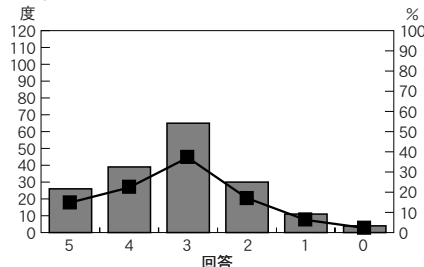
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



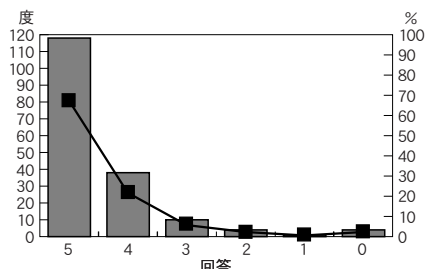
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



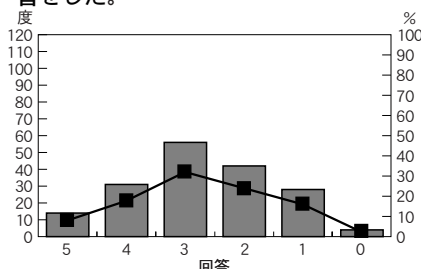
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



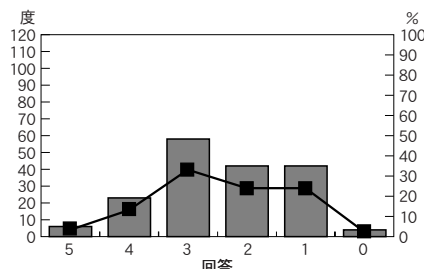
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



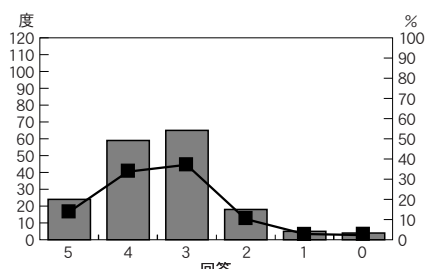
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



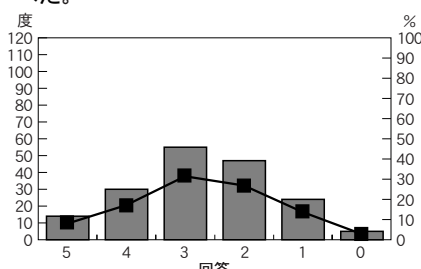
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



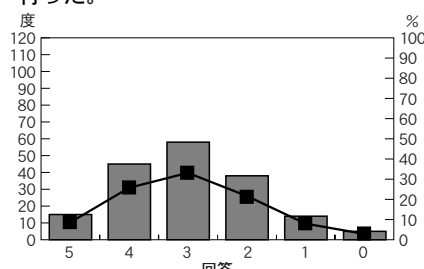
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



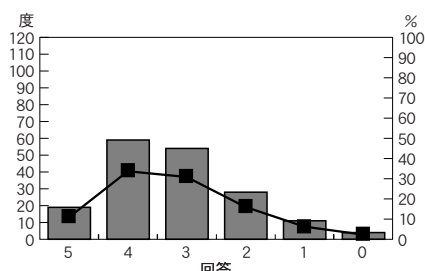
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



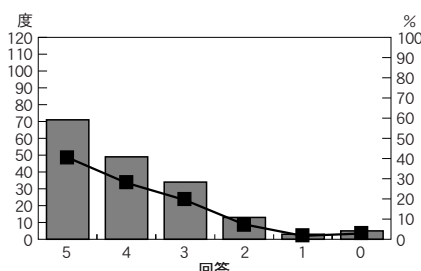
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



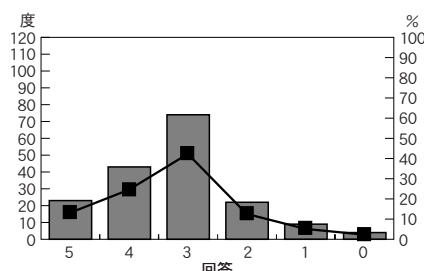
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



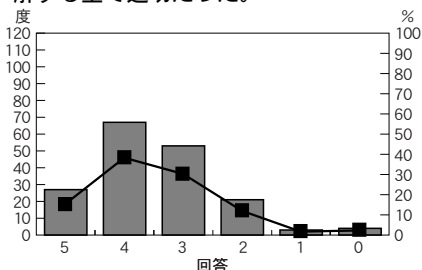
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



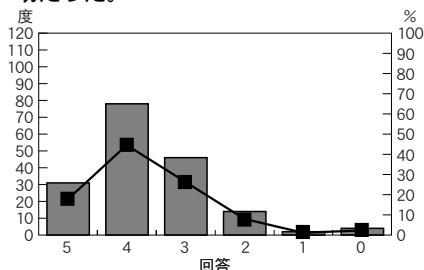
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



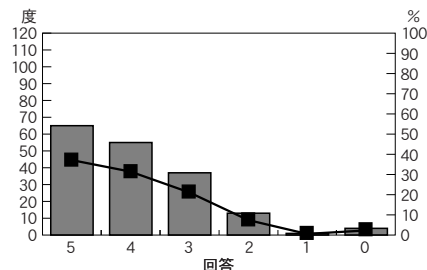
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



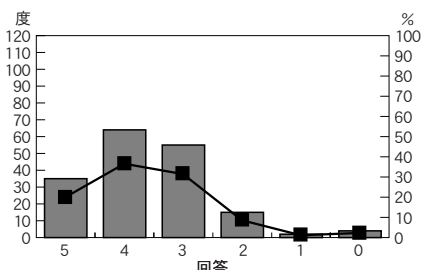
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



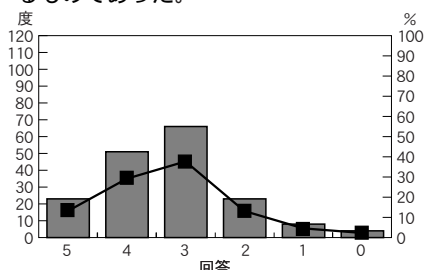
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

肯定的回答（有効回答のうち、「非常にそうである」と「かなりそうである」を合わせた回答）の割合の高い質問項目は、項目7「授業によく出席した」（91.2%）、項目14「熱心に指導した」（70.6%）、項目18「教員の声は、聞き取りやすかった」（70.2%）、項目3「授業内容は、授業概要に沿っていた」（67.3%）であった。否定的回答（有効回答のうち、「全くそうでない」と「あまりそうでない」を合わせた回答）の割合の高い質問項目は、項目9「授業中に積極的に発言や質問をした」（49.1%）、項目8「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」（40.9%）、項目11「分からないことや疑問に思ったことは調べた」（41.8%）であり、いずれの項目も肯定的回答より否定的回答の割合の方が高い。

実地指導講師として招いた小学校・中学校の教員による授業や、道徳学習指導案の作成については、よかったという感想が多かった。

平成18年度は履修者数が190名となり、大規模クラスにおいて、ワークシートの活用、班別討論等、できるだけ指導方法を工夫したが限界があり、平成19年度は、学部1年次生とそれ以外の履修者とに分けて授業を行うリポート科目とすることとした。

授業科目名：「授業研究論」

評価実施日：平成 19 年 2 月 23 日

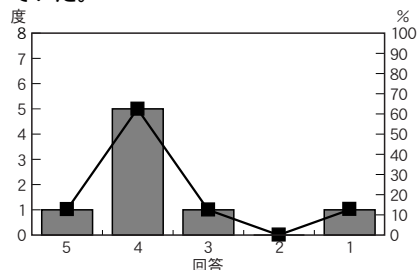
担当教員名：小野瀬 雅人

(有効な合計 8)

■ 度 ■ %

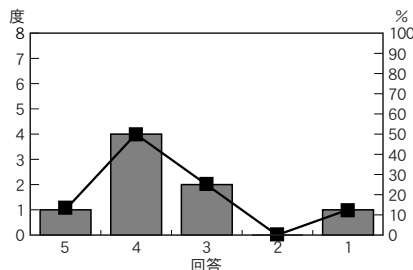
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



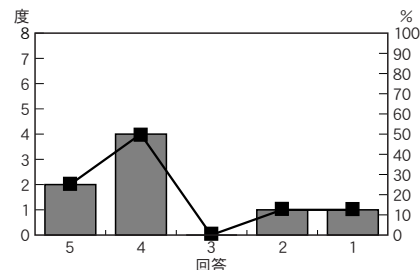
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



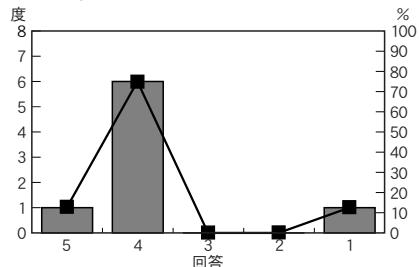
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



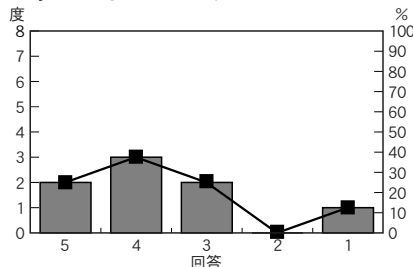
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



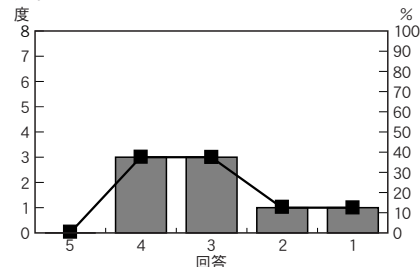
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



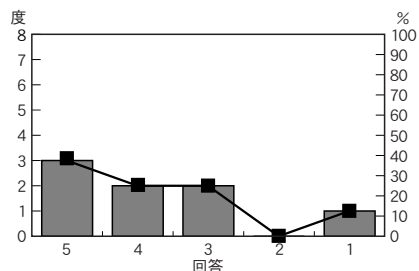
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



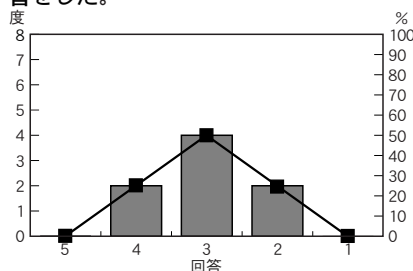
項目分析：(7)

授業によく出席した。



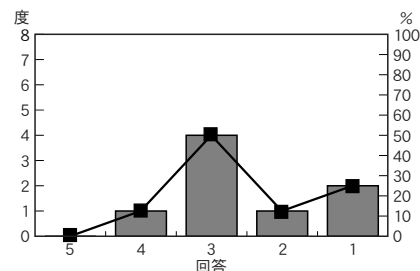
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



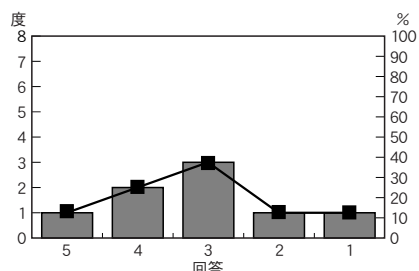
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



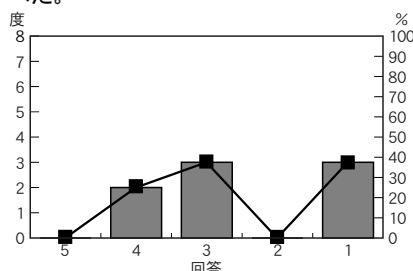
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



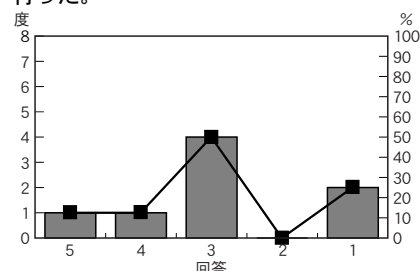
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



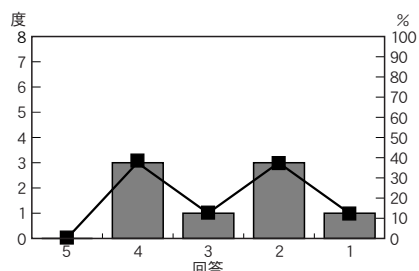
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



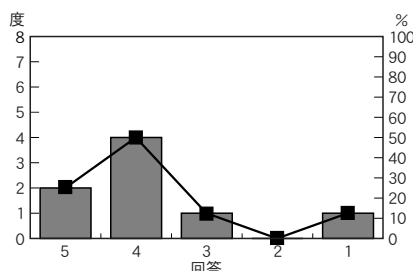
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



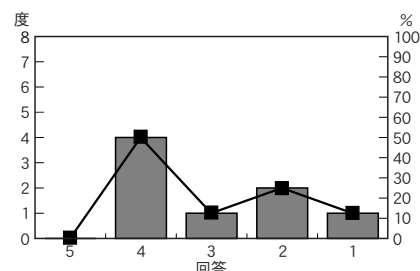
項目分析：(14)

熱心に指導した。

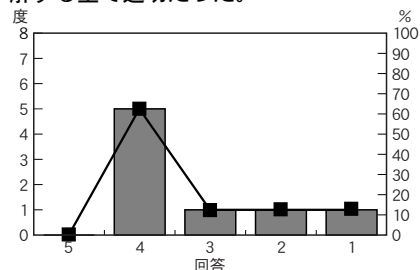


項目分析：(15)

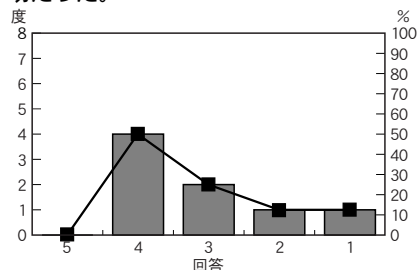
授業内容を分かりやすく説明した。



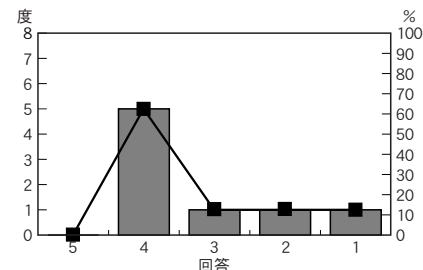
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



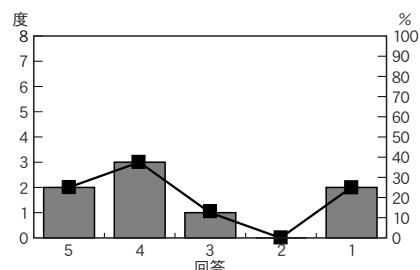
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



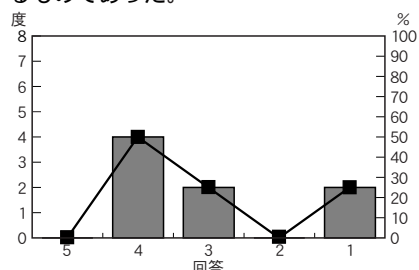
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は学部3、4年生対象の授業であるが、学部生3名（3年1名、4年2名）、長期履修大学院生6名、留学生1名の計10名が受講した。授業評価アンケートには8名より回答があった。本評価のうち、「教員の指導内容及び指導方法」に関する項目で肯定的評価（評価5と4）が全回答者数の約3分の2（8名中5名）以上あった項目をみると、「1 授業概要について」（2/2）、「2 授業の内容について」（3/4）、「3 教員の授業の進め方について」（4/8）で、全14項目中9項目であった。したがって、本授業の内容及び指導方法については、概ね好評であったと判断できる。しかし、「5 授業に対する満足度」（4/4）は50%に留まった。本授業は、学部生対象の内容で、シラバスに示したように、「授業研究」に関して、学部レベルの基本的事項を講義するものであった。学部生からは「授業そのものを科学的に分析してくれたのがわかりやすかった」との提言があったが、その一方で、長期履修大学院生の受講者の中で、本授業の趣旨を理解できず、「講義でなく演習にしてほしい」との意見をもつ者がみられた。今後は、特に学部3・4年対象の授業を受講する長期履修の大学院生への対応についても、何らかの対応が必要である。

授業科目名：「生活科教育論」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

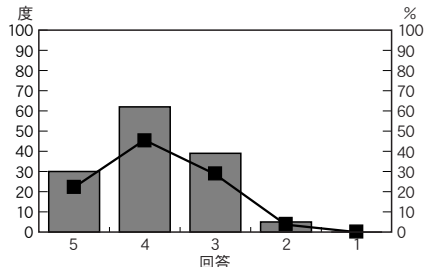
担当教員名：村川 雅弘, 西村 公孝

(有効な合計136)

■ 度 ■ %

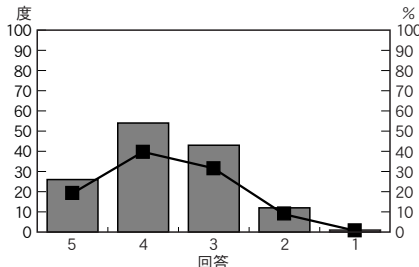
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



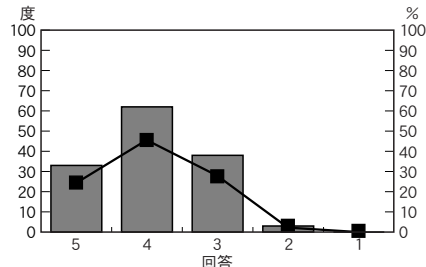
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



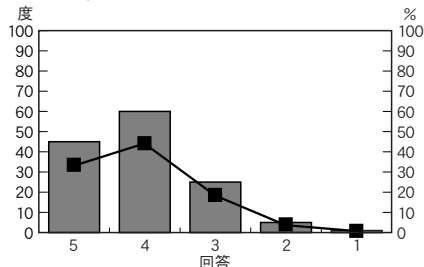
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



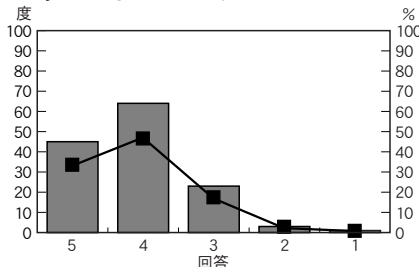
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



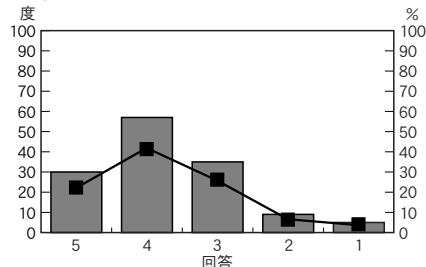
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



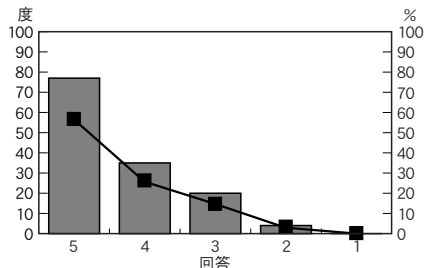
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



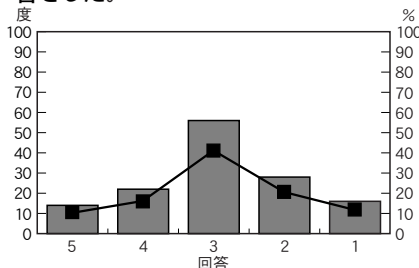
項目分析：(7)

授業によく出席した。



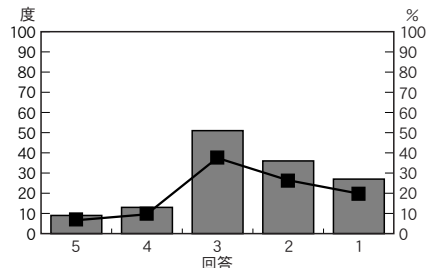
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



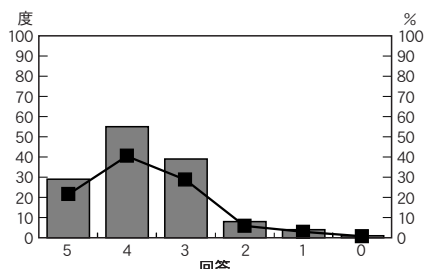
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



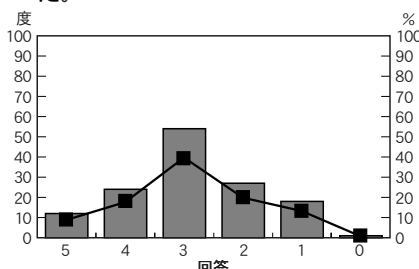
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



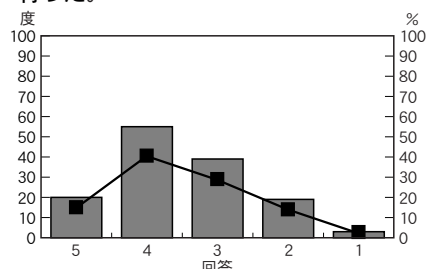
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



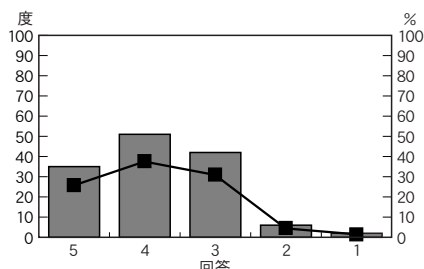
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



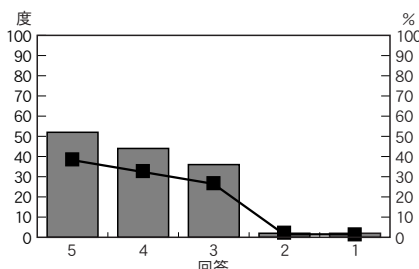
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



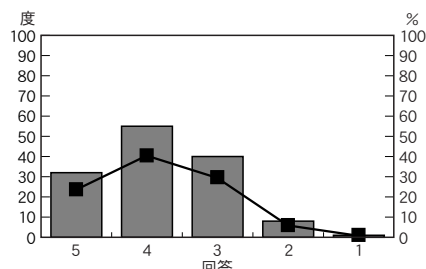
項目分析：(14)

熱心に指導した。

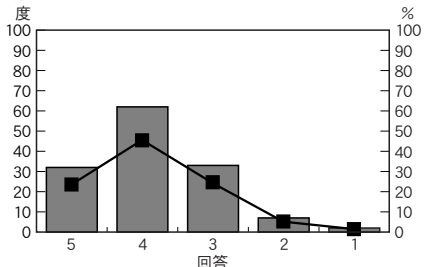


項目分析：(15)

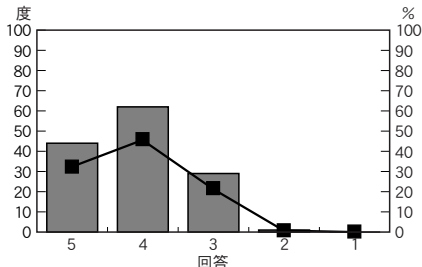
授業内容を分かりやすく説明した。



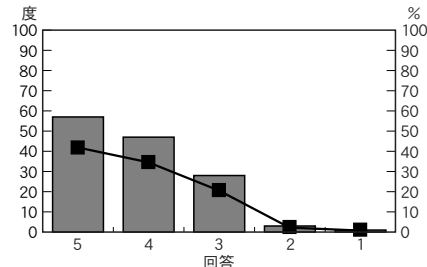
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



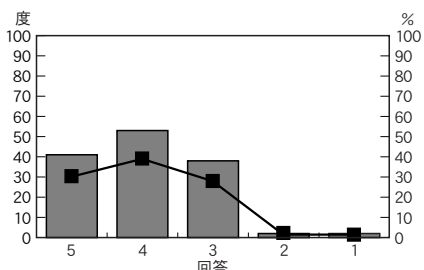
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



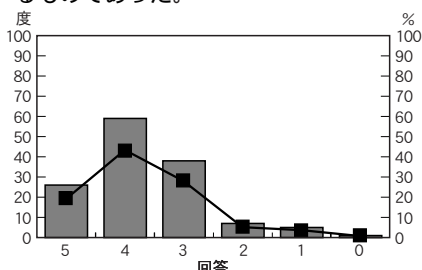
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

西村、村川、非常勤の善野八千代先生の3人で担当したために、結果はその3人の総合評価である。全般的に比較的评价は高いが、項目の8, 9, 11はあまり芳しくない。9については受講生の人数が多いことが影響している。8と11については授業中での課題や提出課題が比較的多かったために、家庭での学習を奨励しなかったことが要因と考えられる。

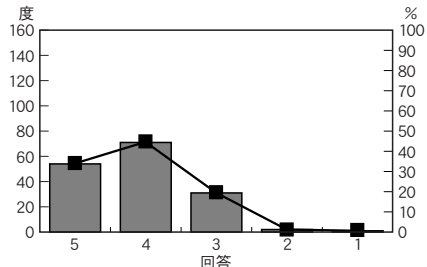
自由記述から各教員への感想を見る。村川については「生活科への意義理解が深まった」「具体的で分かりやすかった」といった肯定的な意見に対して、「プリントを毎回集めてほしい」「説明が回りくどい」といった改善点が指摘された。前者についてはポートフォリオ評価の意味が十分に伝わっていないこと、後者については具体事例から学生自身が考えることを重視したことの影響と考えられる。活動の意義をしっかりと伝える必要がある。西村については「作業中心でよかった」「実践的でよかった」「自分史がおもしろかった」と「課題が多い」「発表・活動が多い」と同じ内容について賛否が分かれた。活動性を高めた授業をよとする学生が多い反面、それを大変と感じる学生も多く、授業の進め方に苦慮する点である。善野については「また聞きたい」「現場の空気がわかった」という意見が多く、非常勤としてお願いした効果があった。全体としては3人が担当することにより「違いがいい」と「統一感がない」と相反する意見がみられた。

授業科目名：「初等社会科教育論」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 20 日
 担当教員名：西村 公孝

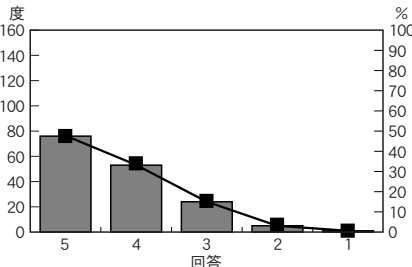
(有効な合計159)

■ 度 ■ %

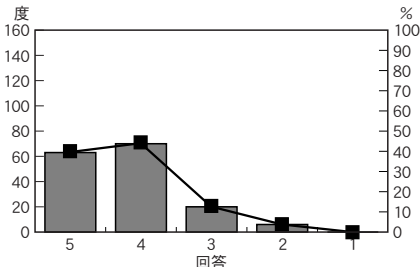
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



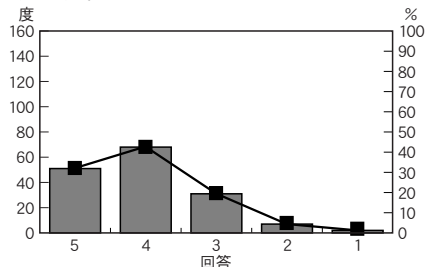
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



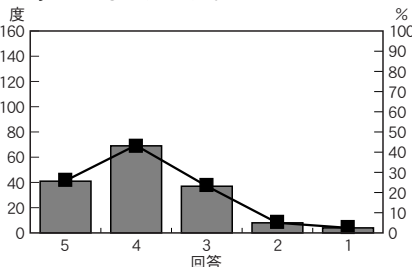
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



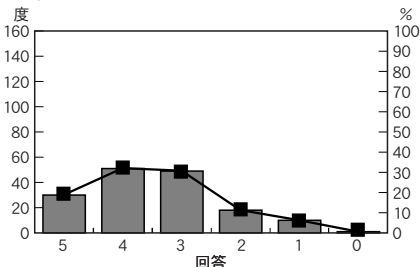
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



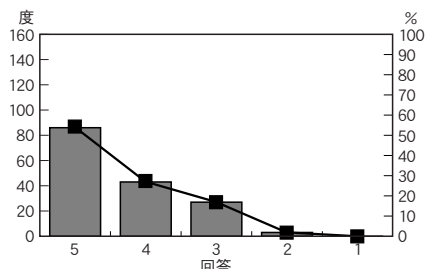
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



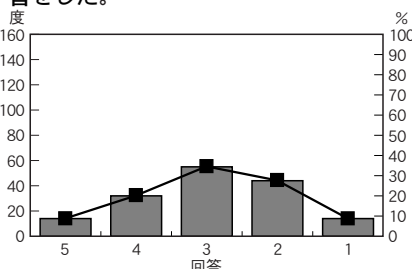
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



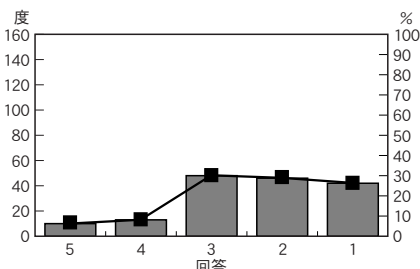
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



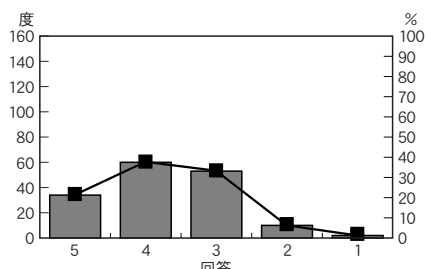
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



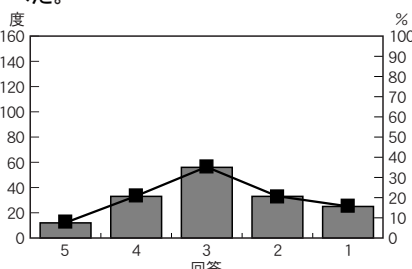
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



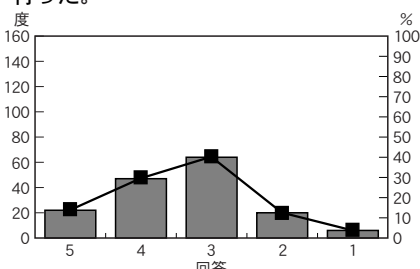
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



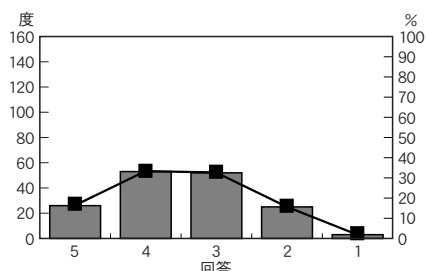
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



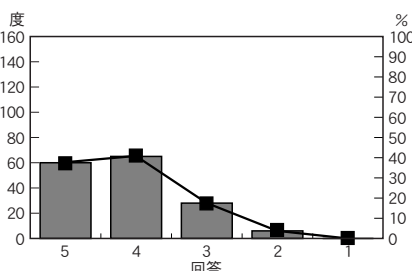
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



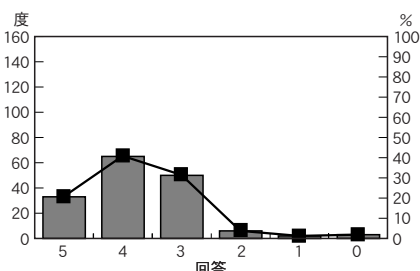
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



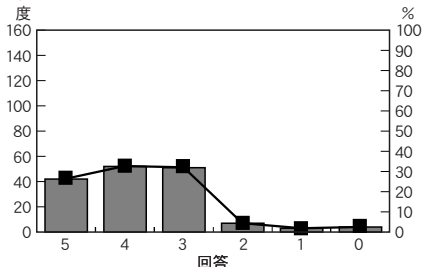
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



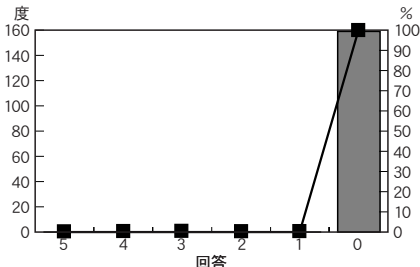
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



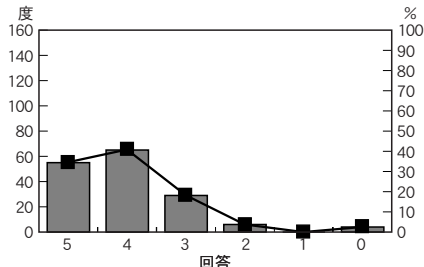
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



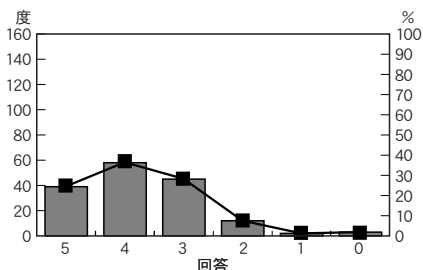
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



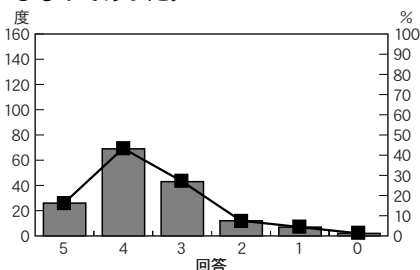
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

「初等社会科教育論」は、小学校教員として社会科を教える基礎科目である。大学院長期履修生の受講により、登録者は178名を数えアンケート回答者は159名であった。201の大教室での講義であり、毎回、学生に授業での課題を書かせ出席を確認した。そのために、授業の目標・計画・内容、その評価の方法の明確化では、高い評価を得ている。授業への参加の度数が最も高くなっている。反面、学生に発言や質問をしながら、参加型の展開により授業内容の理解を進めていったかについては、評価が低くなっている。

また、ゲストを招いてのミニ講演、模擬授業、留学生の外国文化紹介などは教職の意識を高めることができたと評価している。主な感想を下記に紹介しておく。

- ・初等社会科の歴史や考え方がしっかりと学べた。
- ・社会科という教科を別の視線で見ることができて良かった。
- ・社会の深さや社会性を学べたことが良かった。
- ・先生の社会に対する熱意が感じられた。
- ・可能なら人数を100人くらいに分けた方がよい。
- ・板書が多すぎる。(多数) ・改善を図りたい。
- ・大学にもなって冬休みの課題を出す意図がわからない。

授業科目名：「算数科教材論」

評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日

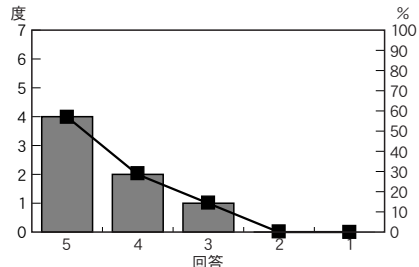
担当教員名：服部 勝憲

(有効な合計 7)

■ 度 ■ %

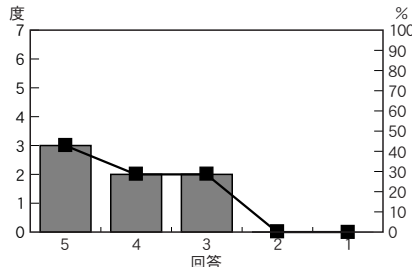
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



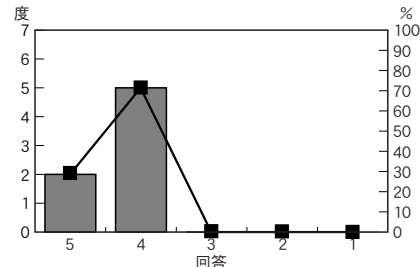
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



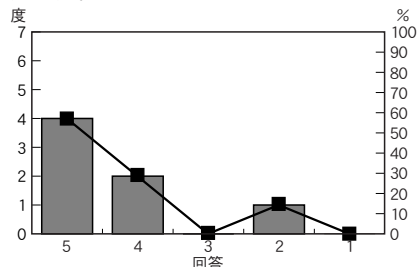
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



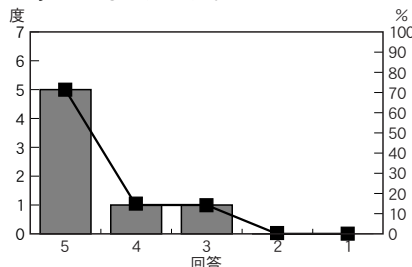
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



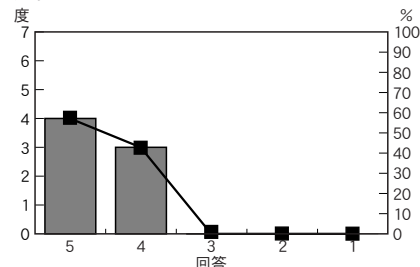
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



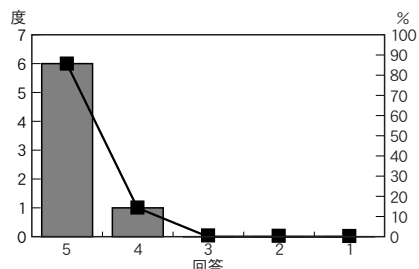
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



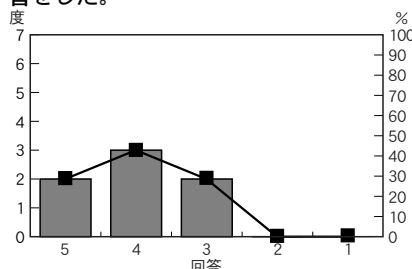
項目分析：(7)

授業によく出席した。



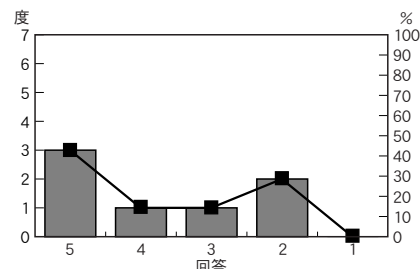
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



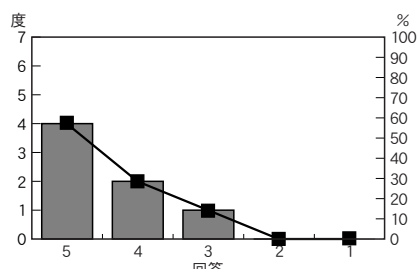
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



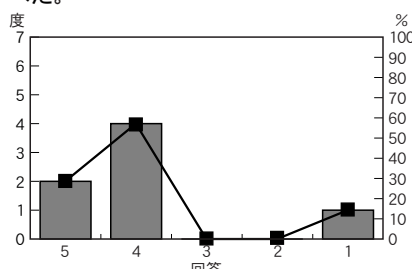
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



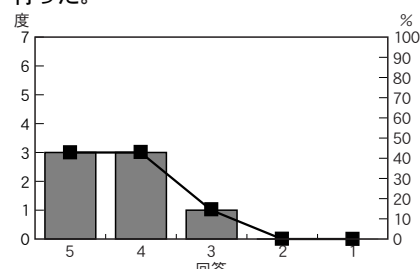
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



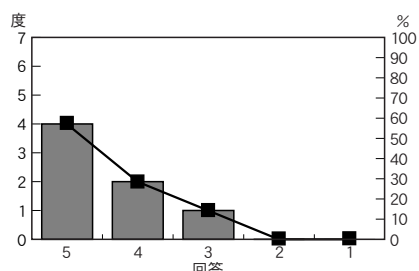
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



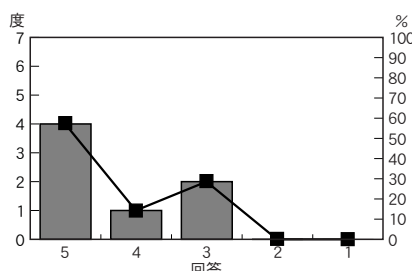
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



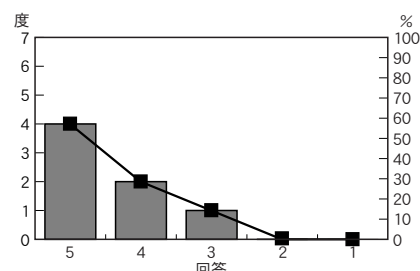
項目分析：(14)

熱心に指導した。

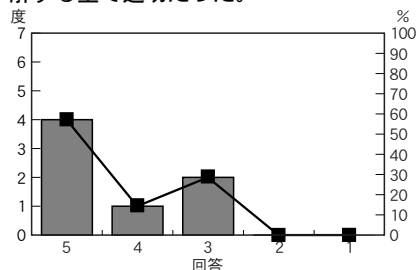


項目分析：(15)

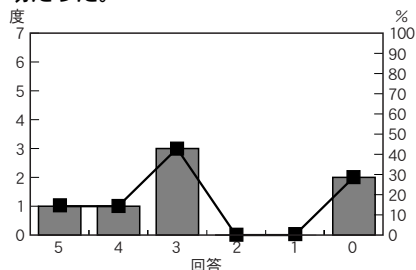
授業内容を分かりやすく説明した。



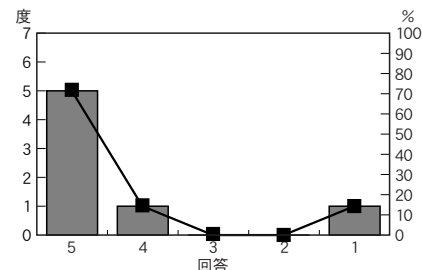
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



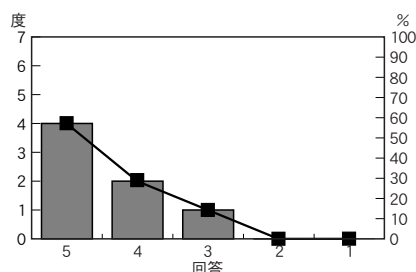
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



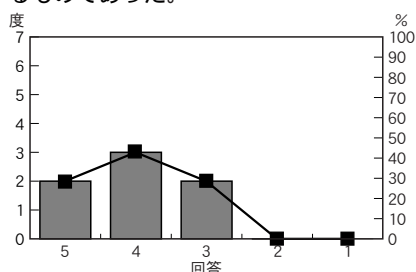
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

学生の本授業についてのコメントには、「算数科の教材の意味がわかった。」、「教材研究の大切さがよくわかった。」、「様々な教材について考えることができた。」、「教材を工夫することの大切さがわかった。」、「算数的活動について折り紙他いろいろな体験ができたのはよかった。」、「VTRで少しは触れることができたが、世界の算数・数学の授業のことをもっと知りたかった。」等々の感想や希望が記載されていた。なるだけ一方的な講義形式の授業展開ではなく、具体的な教材を用いた算数的活動や受講生の分担、或いは院生による模擬授業の形態を積極的に取り入れたこと、またVTR利用による授業研究等が評価項目「教養・専門性」、「教育に対する見方・考え方」、「興味・関心」、「学生が参加する授業」、「授業内容の説明」、「授業の進度」等々の項目におけるかなり積極的な評価につながったと考えられる。ただ「この授業のための予習・復習」、「疑問等に関する研究」等の項目については、十分ではなかったという自己評価である。個人、或いはグループでの報告者や授業者は各自の事前研究や授業展開及び他の受講生からの感想や提案をもとに、レポートとしてまとめ提出させた。報告者や授業者の役割を担当したときには、かなりの時間をかけて準備をしている様子であったが、そうでないときは事前・事後の学習・研究が不足している状況が明らかになった。このことは今後の授業展開における課題といえる。

授業科目名：「算数科授業論」

評価実施日：平成 19 年 2 月 13 日

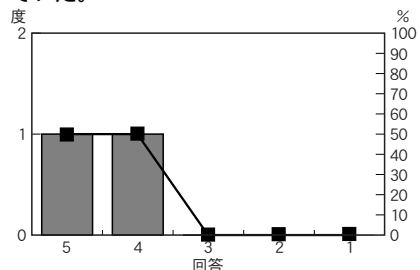
担当教員名：○齋藤 昇, 秋田 美代

(有効な合計 2)

■ 度 ■ %

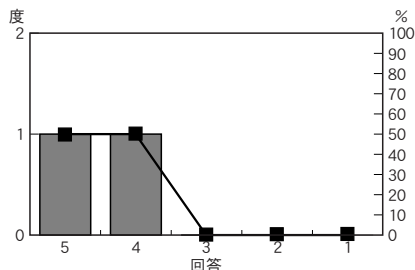
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



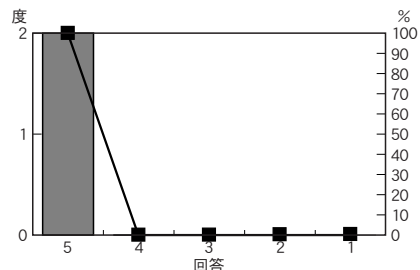
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



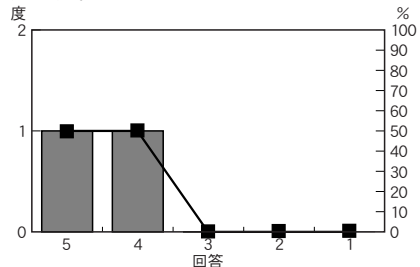
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



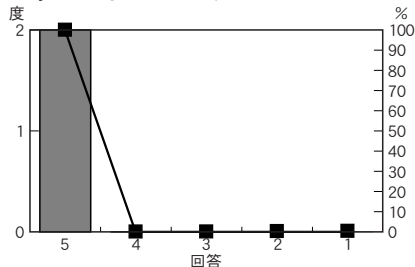
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



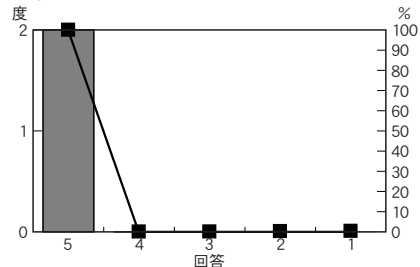
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



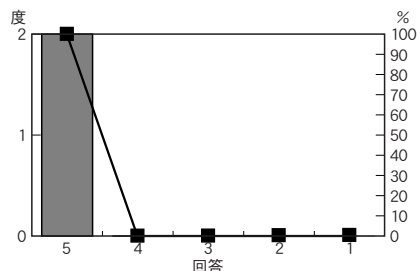
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



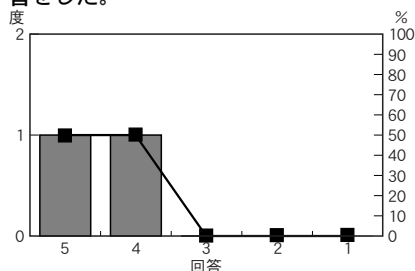
項目分析：(7)

授業によく出席した。



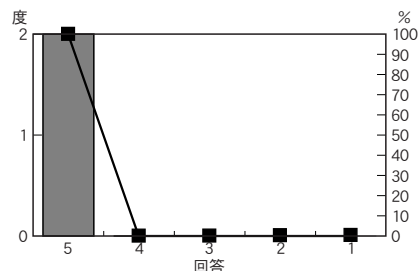
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



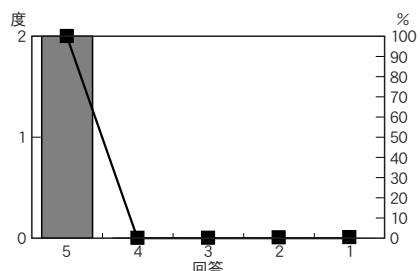
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



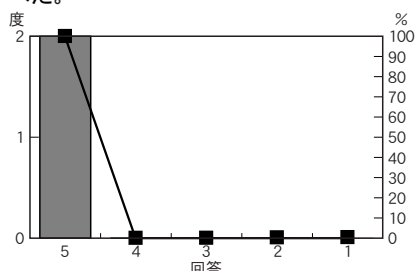
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



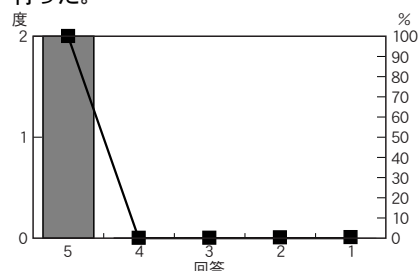
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



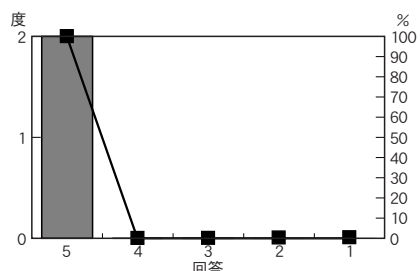
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



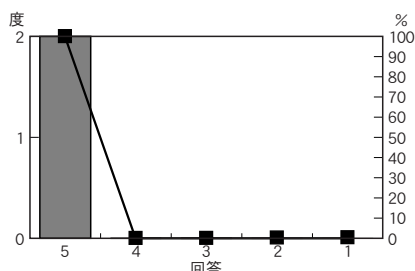
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



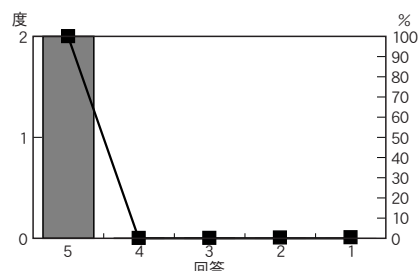
項目分析：(14)

熱心に指導した。

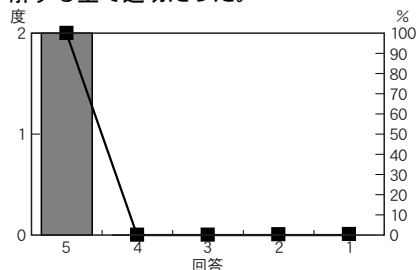


項目分析：(15)

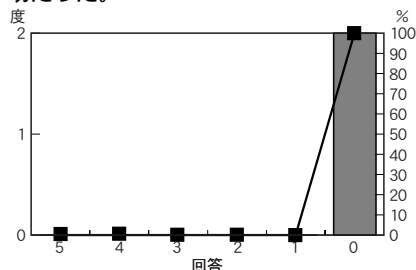
授業内容を分かりやすく説明した。



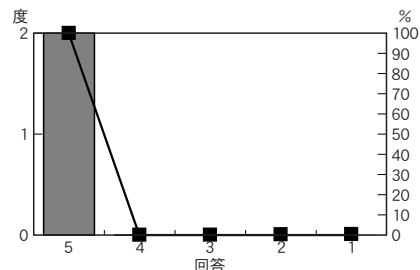
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



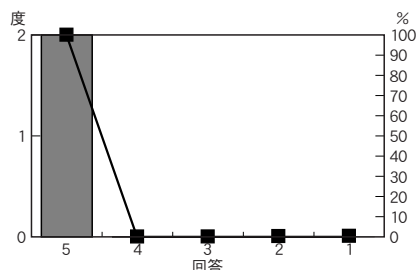
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



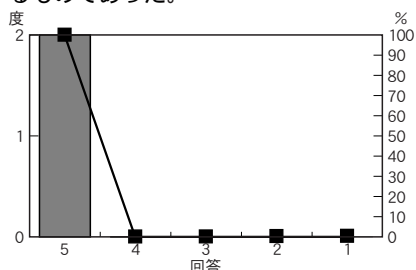
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業では、小学校教員を目指す学生が、小学校算数の教科書に現れる教材の目標、内容、指導方法等を深く理解できること、さらに自ら教材研究を行い、児童に分かりやすい授業を構築できる能力を育成することを目的とした。ここでは、まず学生の教材分析能力を高めるために、小学校算数の教科書の題材の数学的背景についての講義を行った。次に、外国の教科書では題材がどのように扱われているのかを、日本の扱い方と比較して共通点・相違点を考察させ、教材の教育的意義、指導方法について討議を行わせた。討議の様子からは、学生達が多面的な見方で教材研究・授業構築を行う能力を高めたことがうかがわれた。

教員の授業に対するアンケート項目全体の評価平均値は、4.89 でかなり高かった。特に、授業内容について、「教養や専門性を高めるものだった」「教育に対する見方や考え方を学べるものだった」「興味・関心を引くものだった」という項目の平均値がそれぞれ 5.0、教員の授業の進め方について、「学生が参加しやすい授業だった」「熱心に説明した」「授業内容をわかりやすく説明した」という項目の平均値がそれぞれ 5.0 であった。また、学生は、「授業によく出席した」「授業中に積極的に発言や質問をした」と回答しており、さらに授業の満足度に関する項目の平均値が 5.0 であった。

これらの数値から判断すると、授業の目的は達成できたと思われる。次年度も理論と実践を融合した授業を行うことを考えている。

授業科目名：「初等理科教育論」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

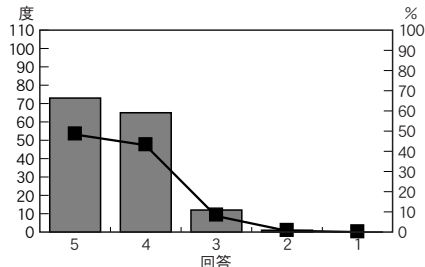
担当教員名：武田 清, 本田 亮, 香西 武, 村田 勝夫, 佐藤 勝幸

(有効な合計 151)

■ 度 ■ %

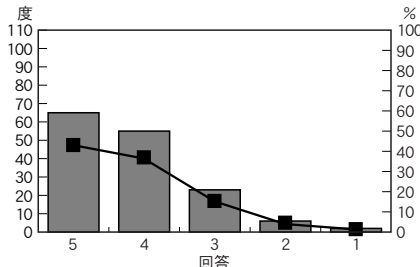
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



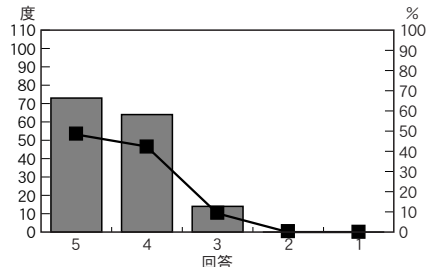
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



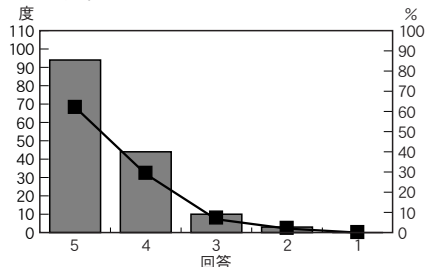
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



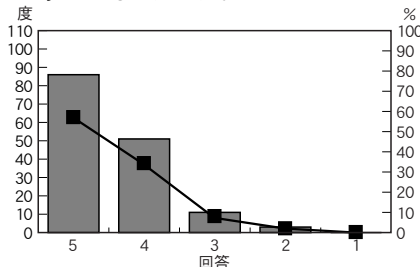
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



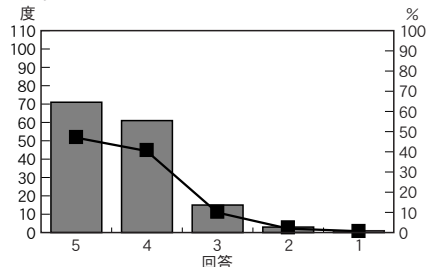
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



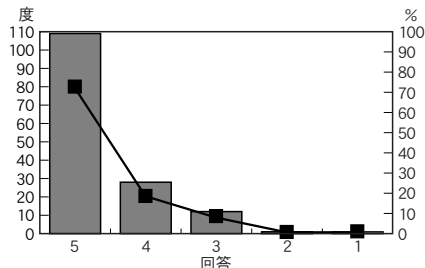
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



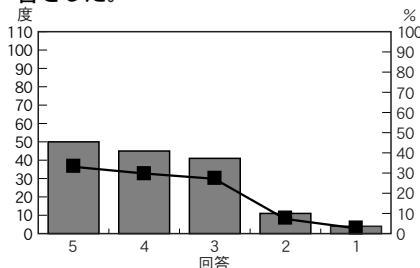
項目分析：(7)

授業によく出席した。



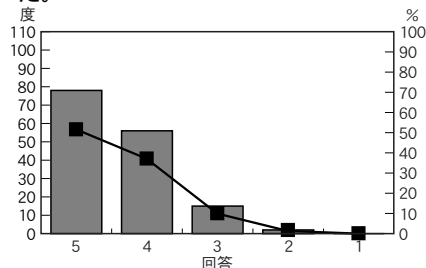
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



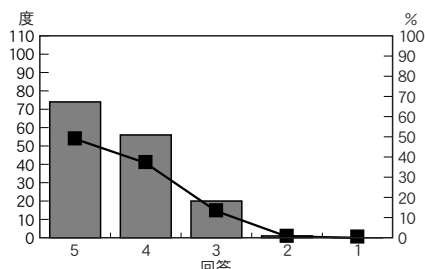
項目分析：(9)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



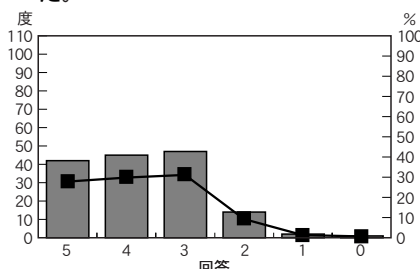
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



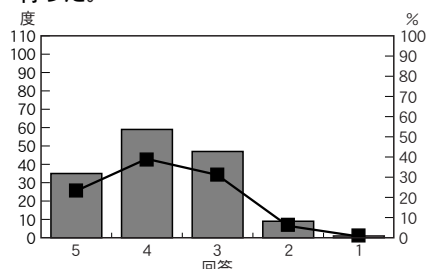
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



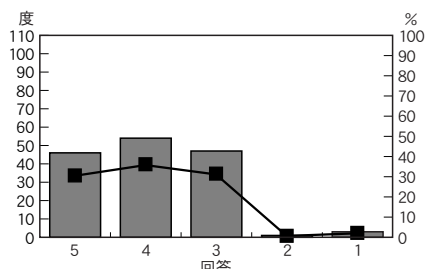
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



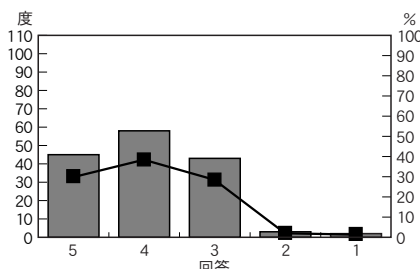
項目分析：(13)

熱心に指導した。



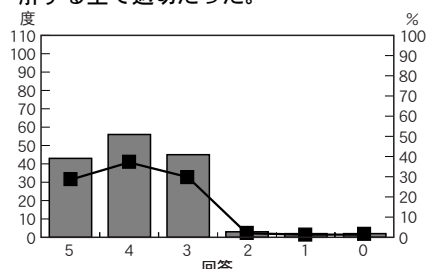
項目分析：(14)

授業内容を分かりやすく説明した。

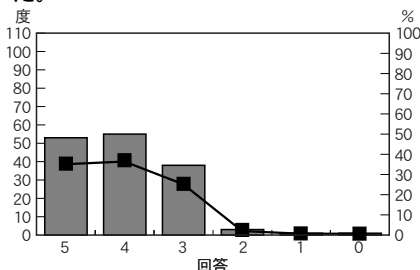


項目分析：(15)

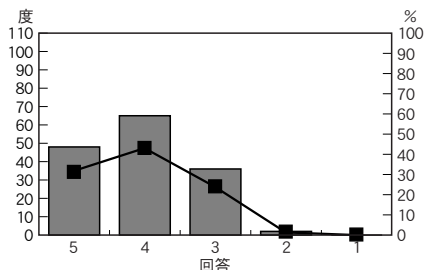
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



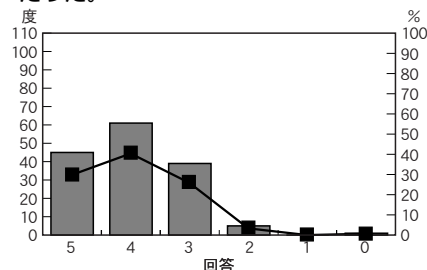
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



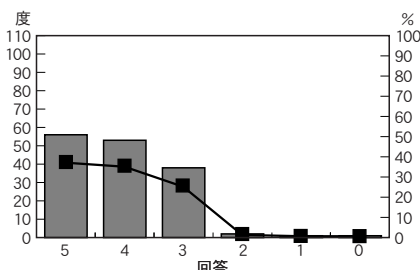
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



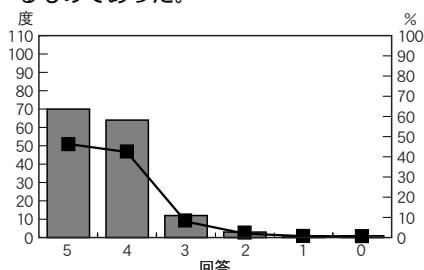
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

初等理科教育論は、前半にオムニバス形式の講義を7回、後半に実習形式の模擬授業を行っている。自由記述において、授業のよかったところとして指摘されているのは、ほとんどが模擬授業に関することである。学部2年次生にとって初めて授業を行う経験であることと、ほとんどの学生にとっては初めて実験を経験することにより、その難しさやおもしろさを体験できたことがよかったとのコメントが多かった。

模擬授業は理科の4分野（物理、化学、生物、地学）に分かれて独立に行われており、前半の講義と合わせると携わる教員が非常に多くなっている。このことに起因する改善すべき点として、分野間の実施形態、評価方法、課題提示のアンバランスが指摘されている。評価項目(12)~(19)で評価が割れているのも、多人数教員によるオムニバスで実施されていることを反映している可能性がある（ただしこちらは、受講生の1/4程度を長期履修生が占めていることから、評価者（受講者）のレベル分布などを反映している可能性もある）。このことは各教員の独立性を重視するために起こっていることであり、そのような独立性は、殊に大学教育においては重要なことと筆者は考える。しかしながら、これらが受講者に無用の混乱を与えているとすれば、担当教員同士の連携により、問題を軽減することが必要かもしれない。今後の課題としたい。また、何人かがレポートの負担の大きさを指摘している。複数で担当する授業の場合、このような傾向となる可能性があるが、その全体としての分量についても検討したい。

ちなみに筆者が担当した化学分野について、毎週、生徒役の受講者にも指導案を作成してもらっているが、その主旨がわからない旨のコメントがあった。それに対してここで答えておく。模擬授業に生徒役として出席し、その内容について批判的態度でコメントしてもらおう上で、あらかじめ授業内容について理解し、同じ内容について教材研究を行っていることが大きな助けとなる。その意味で、あらかじめ指導案を作成しておいてもらうことによりその内容を把握しておいてもらうことが、全員に対して指導案作成を課している理由である。このことは前半の講義の中でも説明しているし、模擬授業が始まったあとも繰り返し説明している。それでも十分ではなかったということか、それともこれらのことを理解した上でのコメントであったのか、判断はつかないが、より具体的に問題を指摘してもらえれば再考の余地がある。

(文責 武田)

授業科目名：「初等理科教育論Ⅱ」

評価実施日：平成18年7月24日

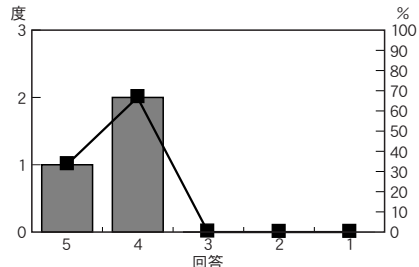
担当教員名：工藤 慎一，武田 清，香西 武，松川 徳雄

(有効な合計3)

■ 度 ■ %

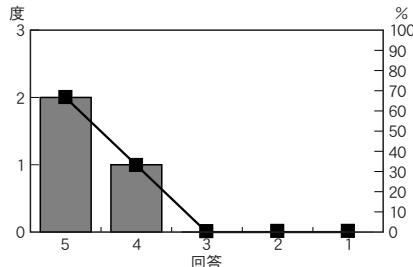
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



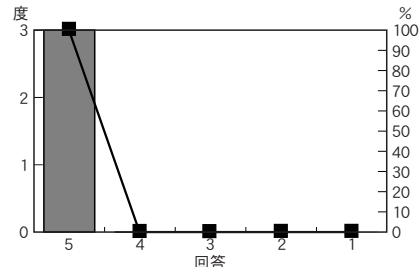
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



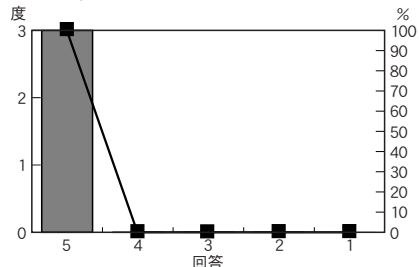
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



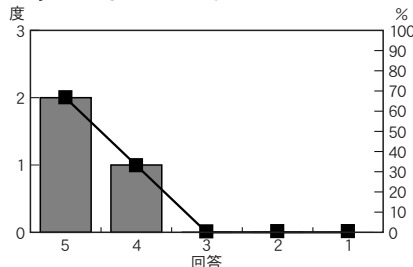
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



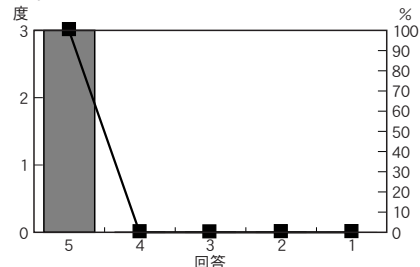
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



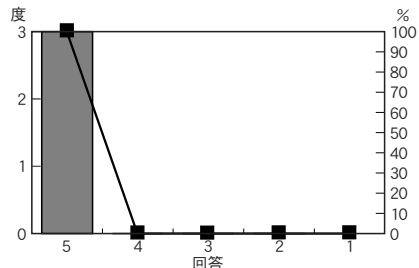
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



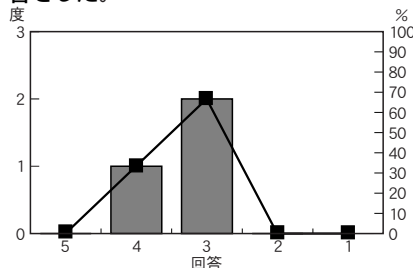
項目分析：(7)

授業によく出席した。



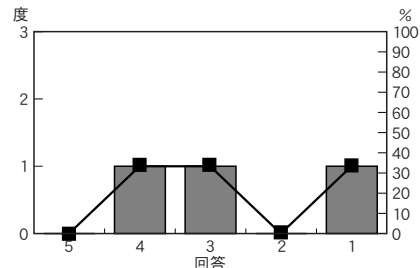
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



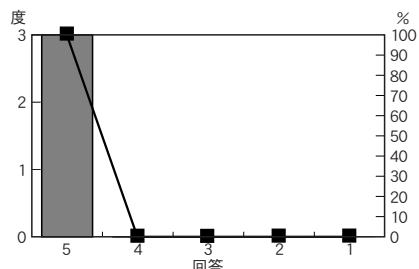
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



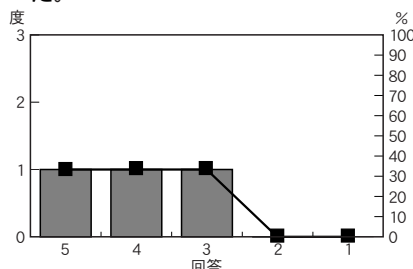
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



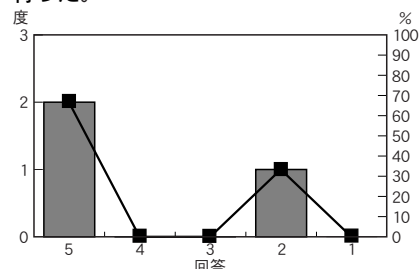
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



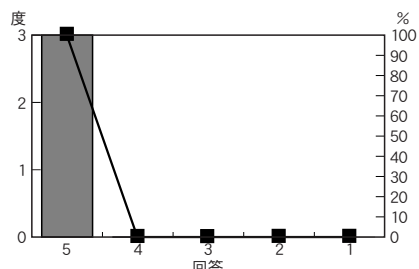
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



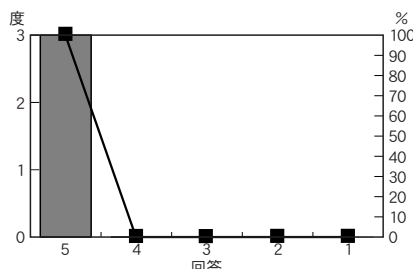
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



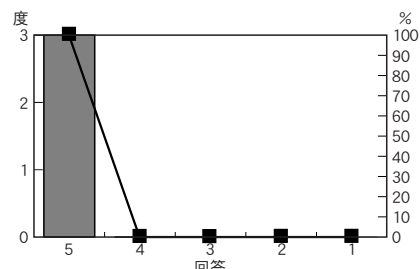
項目分析：(14)

熱心に指導した。

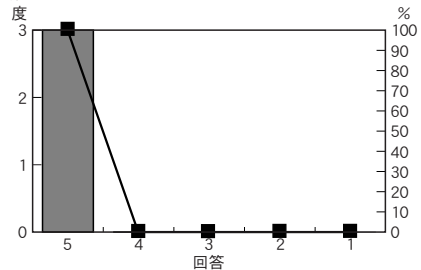


項目分析：(15)

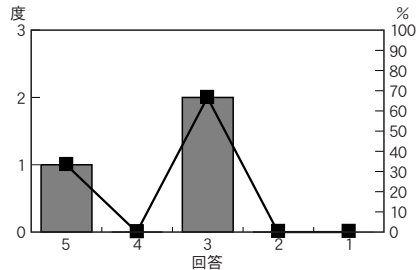
授業内容を分かりやすく説明した。



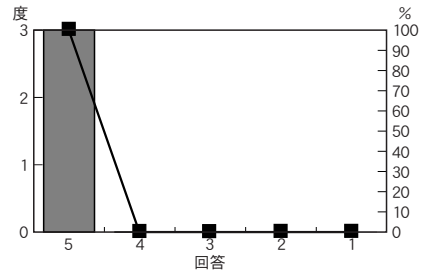
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



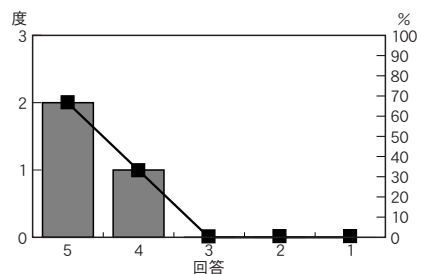
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



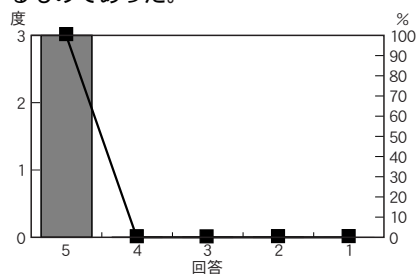
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

アンケート全項目の平均スコアは4.55であった（ただし、わずか3名の結果）。授業内容や方法に大きな問題は無いと考えている。

授業科目名：「初等音楽科教育論」

評価実施日：平成 19 年 2 月 21 日他

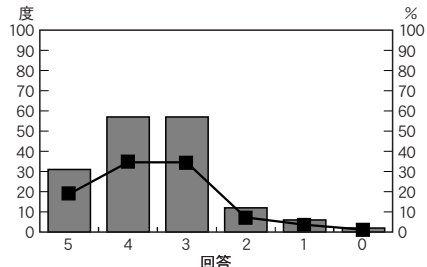
担当教員名：西園 芳信

(有効な合計165)

■ 度 ■ %

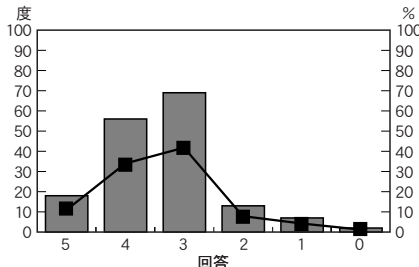
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



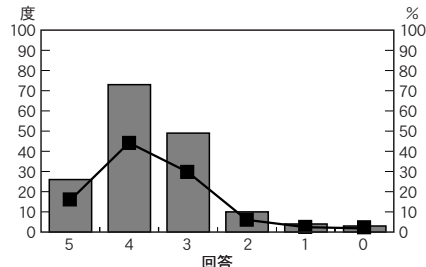
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



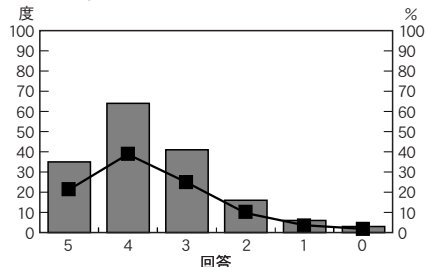
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



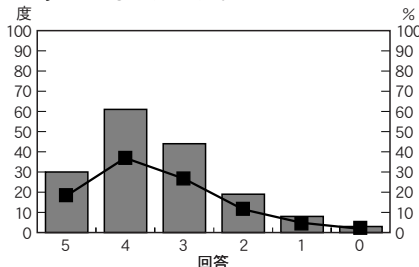
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



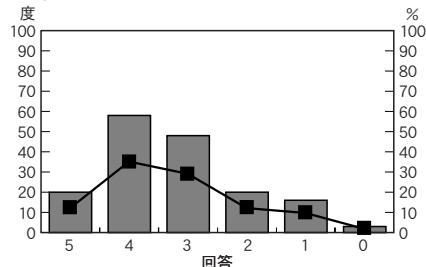
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



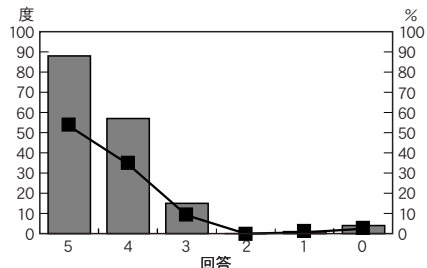
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



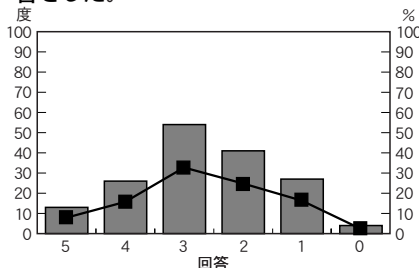
項目分析：(7)

授業によく出席した。



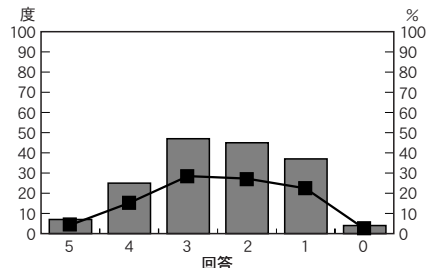
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



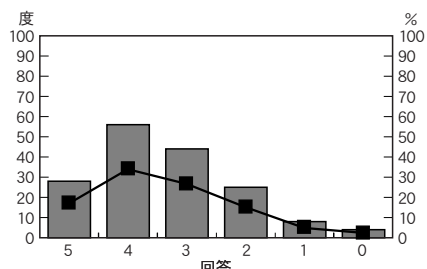
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



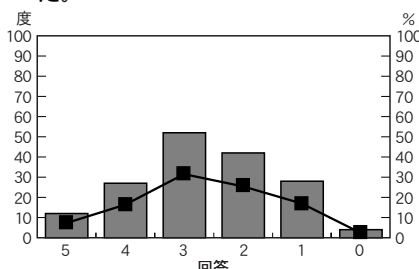
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



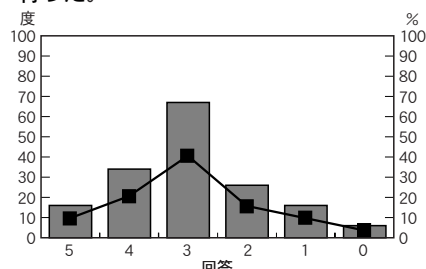
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



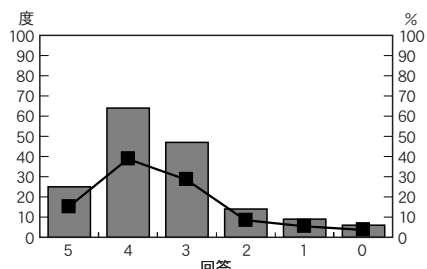
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



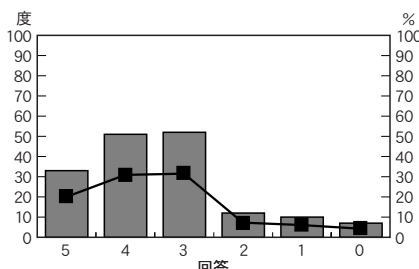
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



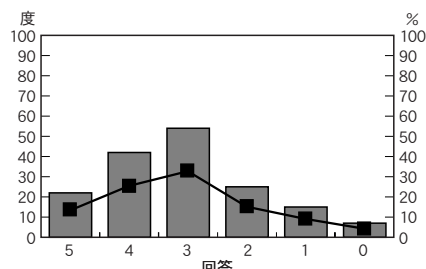
項目分析：(14)

熱心に指導した。

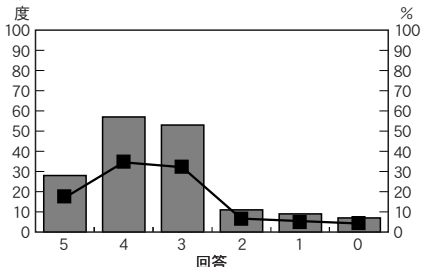


項目分析：(15)

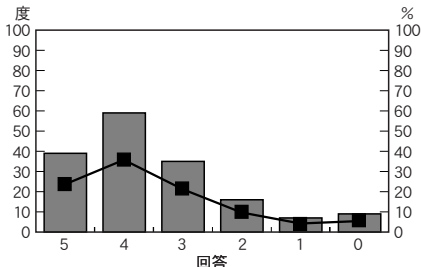
授業内容を分かりやすく説明した。



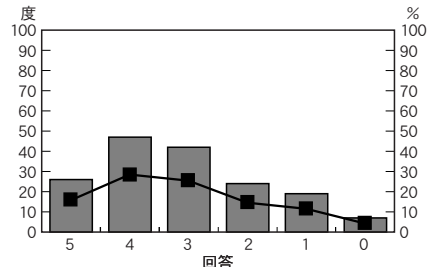
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



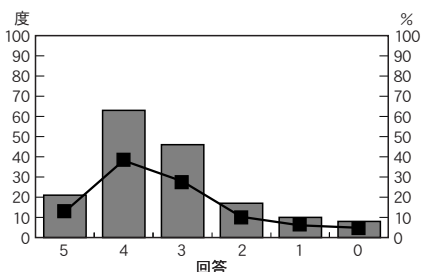
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



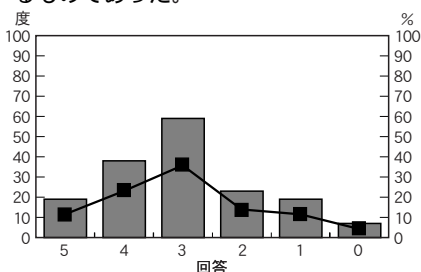
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

この「初等音楽科教育論」の授業は、小学校の教員としての実践的指導力を育成するためのもので、それを音楽科教育の理論と実践から展開するものである。そのため、この授業の目的は、特に小学校の音楽科の教育を実践的に展開するために必要な理論と展開方法を学ぶことである。

20項目の学生の評価結果は、5, 4, 3, の評価を合計すると75.14%となる。この評価結果から、この授業の目標を達成していると言えよう。

授業において改善するところは、授業の中で学生に積極的に発言を求めることによって、授業に積極的に参加するように促すことである。

授業科目名：「初等音楽科教育内容論」

評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日

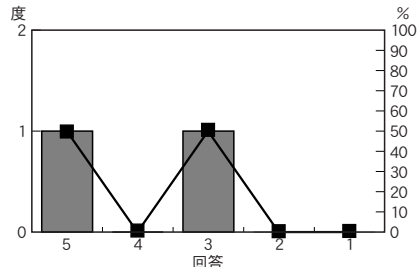
担当教員名：西園 芳信

(有効な合計 2)

■ 度 ■ %

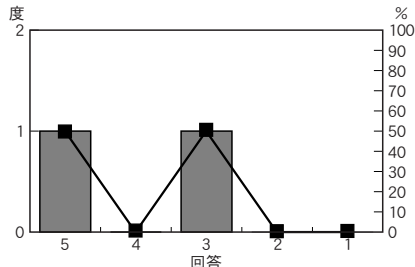
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



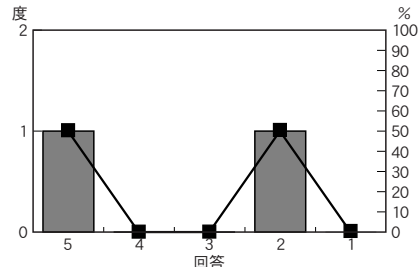
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



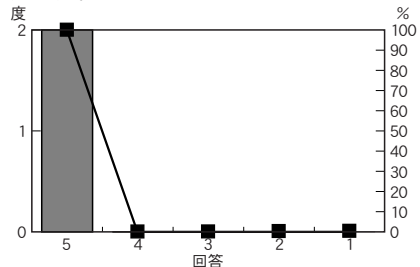
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



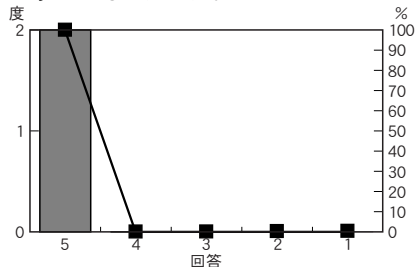
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



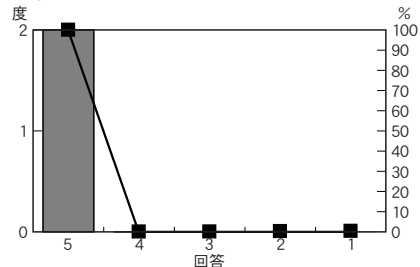
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



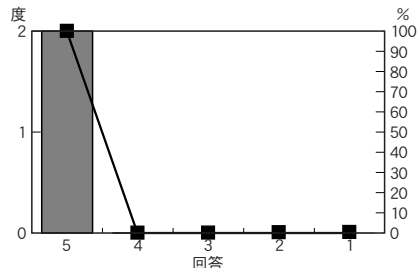
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



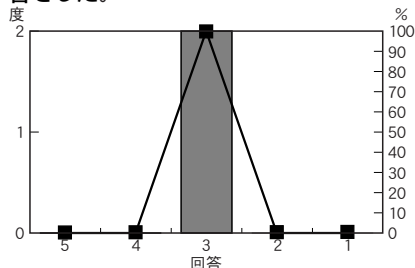
項目分析：(7)

授業によく出席した。



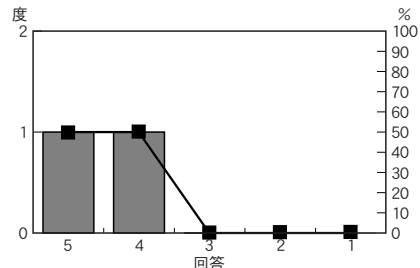
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



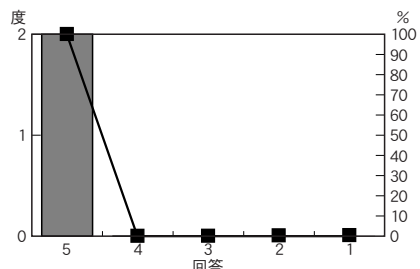
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



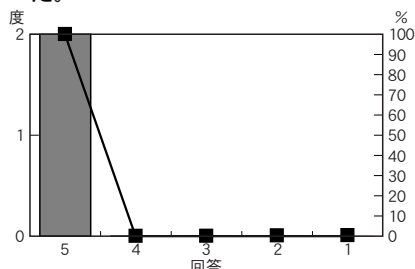
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



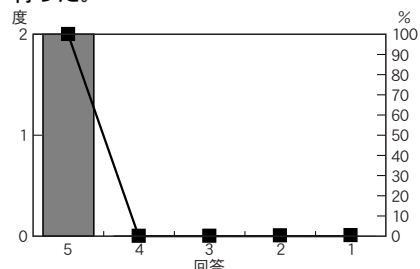
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



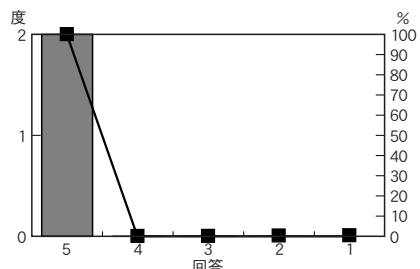
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



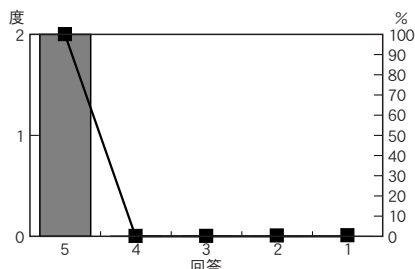
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



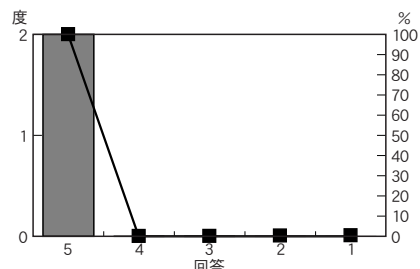
項目分析：(14)

熱心に指導した。

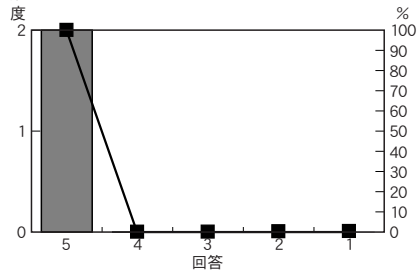


項目分析：(15)

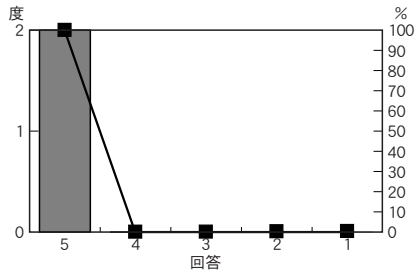
授業内容を分かりやすく説明した。



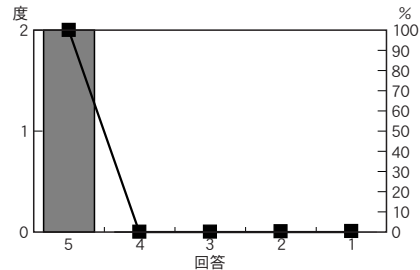
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



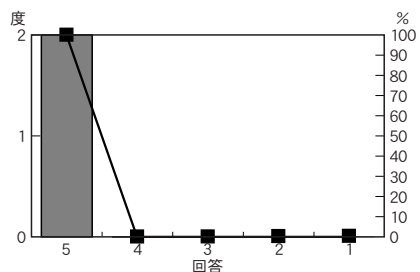
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



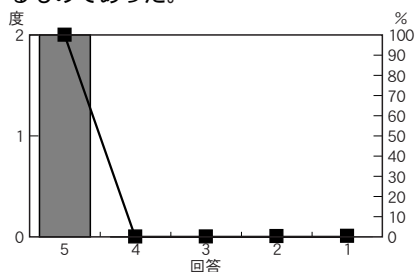
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

この「初等音楽科教育内容論」の授業は、小学校の教員としての実践的指導力を育成するためのもので、それを教育実践学の立場から展開するものである。そのため、この授業では、特に小学校の音楽科教科内容に基づき、単元構成、教材研究、指導案作成、模擬授業によって実践的指導力を育成することをした。

20項目の学生の評価結果は、5の評価が15項目あり、4が1項目、3が3項目となっている。評価結果から、この授業の目標を達成していると言える。

授業科目名：「体育科教育概論Ⅰ」

評価実施日：平成18年7月27日

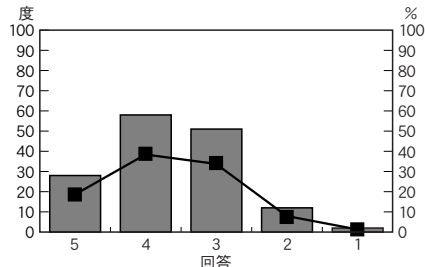
担当教員名：吉本 佐雅子，山本 貞美

(有効な合計151)

■ 度 ■ %

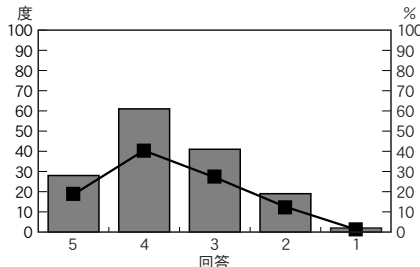
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



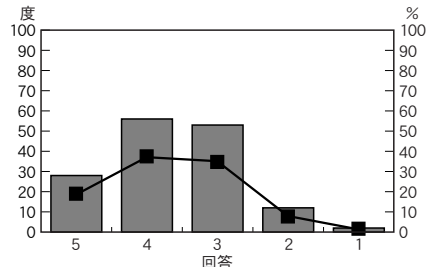
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



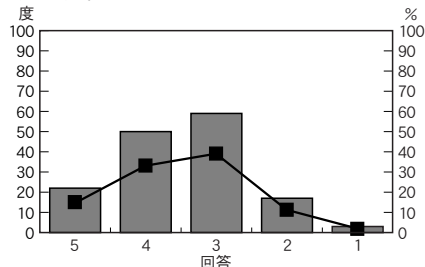
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



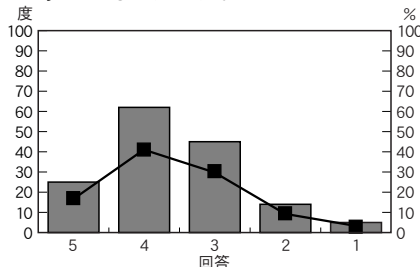
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



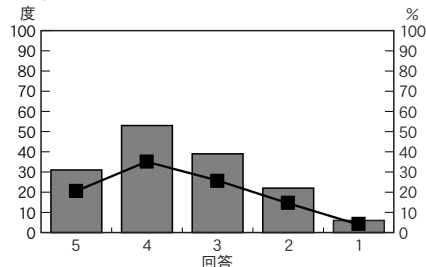
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



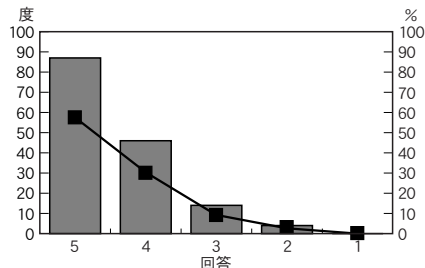
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



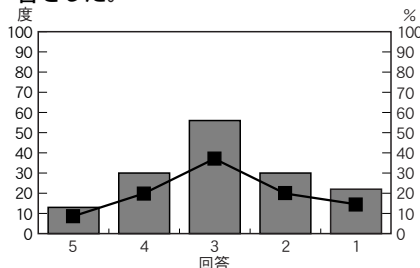
項目分析：(7)

授業によく出席した。



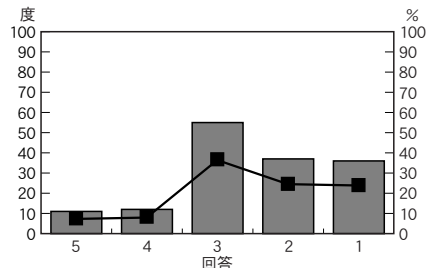
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



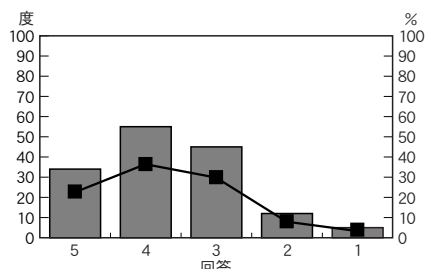
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



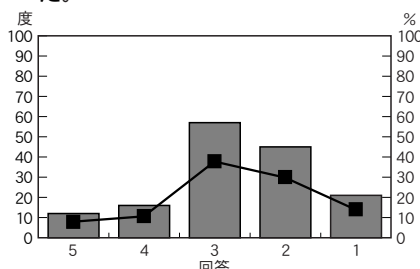
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



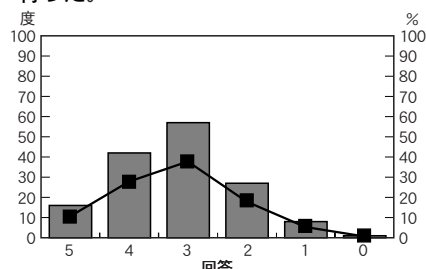
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



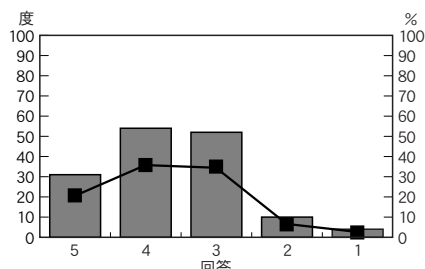
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



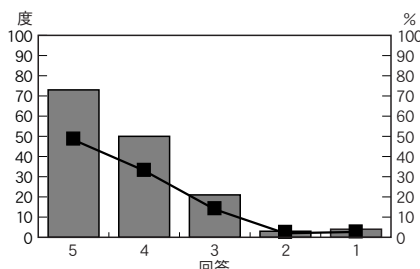
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



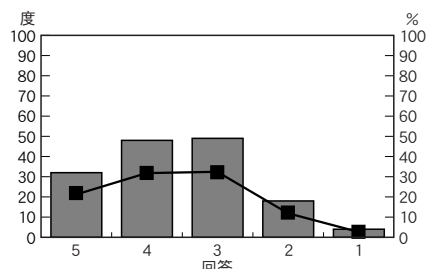
項目分析：(14)

熱心に指導した。

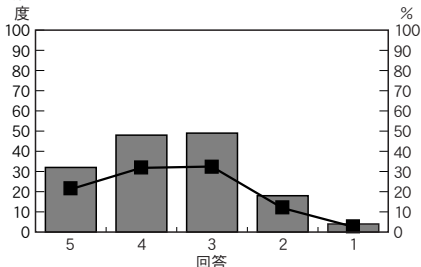


項目分析：(15)

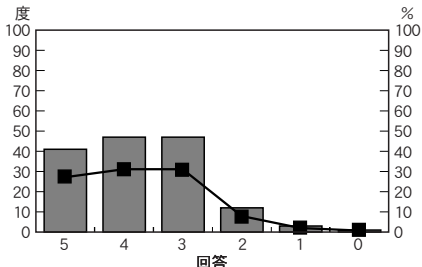
授業内容を分かりやすく説明した。



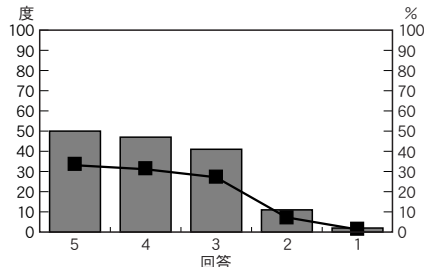
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



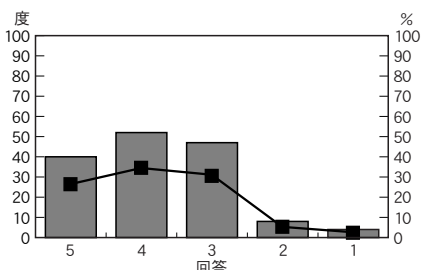
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



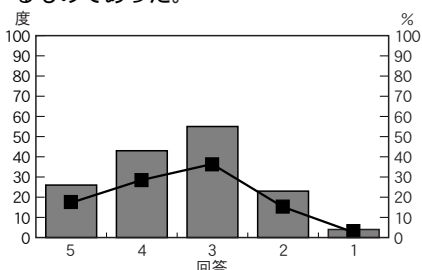
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

約20年の小学校教師体験を中心に講義を進めた。小学校教育は、国語教育が中心。「国語力のない者は、小学校教師を諦めよ」と何度も繰り返し、反感も買った。保健体育科教育概論であったが、概論より特論に近かった。国内だけでなく外国でも評価が高く、実践もされている短距離走教材「8秒間走」42年の変遷を中心に論じた。しかし、最近「ナンバ歩き」や「二軸運動」で将来スポーツ界は変わる、と言われている。文化継承の必要性から「お手玉」「ちょんかけごま」も紹介、「ナンバ歩き」「お手玉」は実技を採用した。

先日、NHK「クローズアップ現代」(2006.11.8)では、パソコン・携帯に頼りすぎる若者を心配していた。脳科学者小泉英明氏は、「手書き」と「携帯メール」を比較すると「手書き」は、脳が多くの情報を処理し脳全体が働いている。ところが「携帯メール」は、脳が殆ど働かない。ボタン一つでは処理する情報が少ない。「パソコン」や「携帯メール」に依存しては、読み書きの衰えだけでなく、「記憶力や思考力」も発達しない、と危惧する。便利なことにおぼれてしまう危険への警鐘。全く同感。最近、学生の文章表現力低下から小学校教育の危機を感じている。早急の対策を

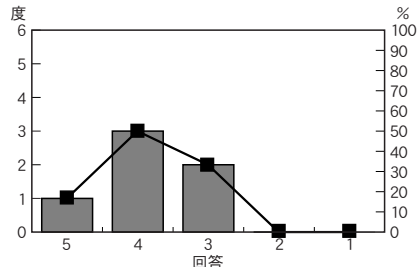
(山本)

授業科目名：「体育科教育概論Ⅱ」
 評価実施日：平成19年2月15日
 担当教員名：山本 貞美, 吉本 佐雅子

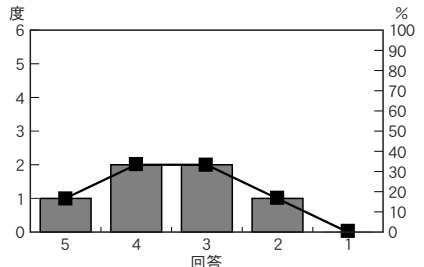
(有効な合計6)

■ 度 ■ %

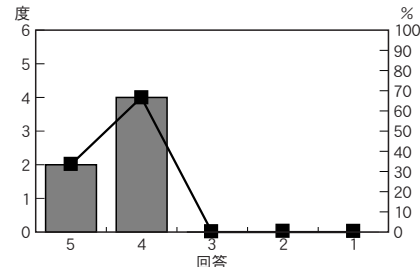
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



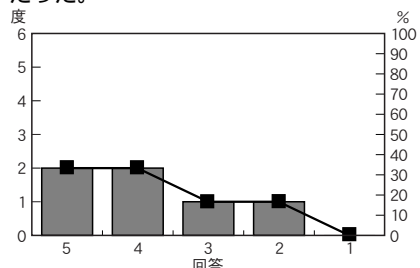
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



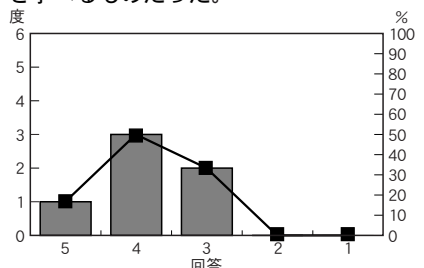
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



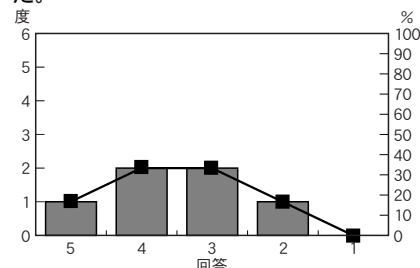
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



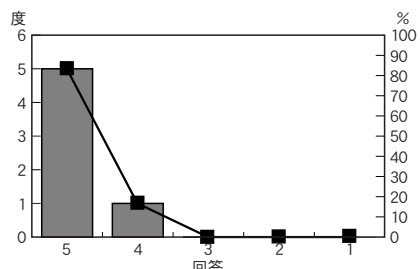
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



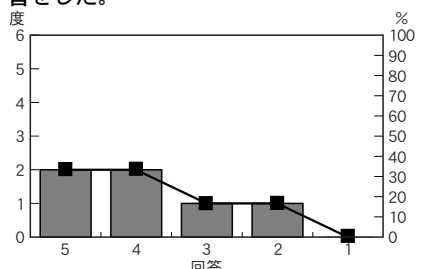
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



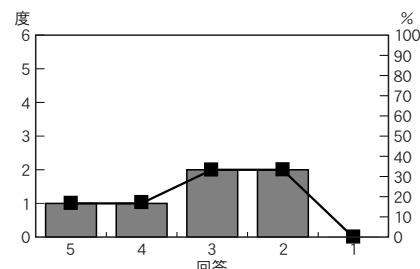
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



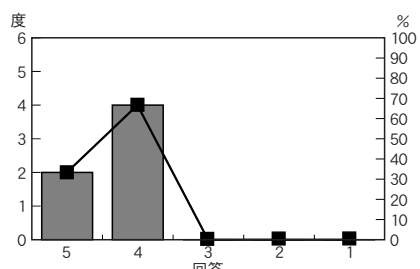
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



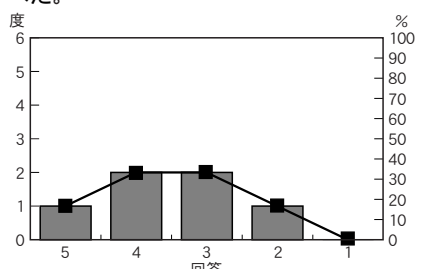
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



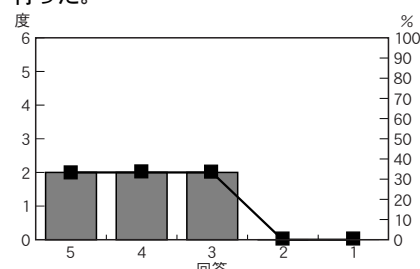
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



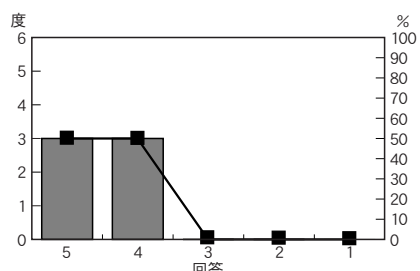
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



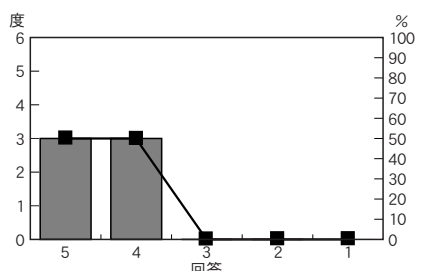
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



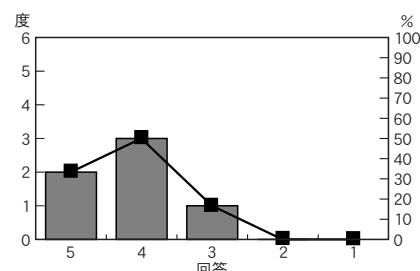
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



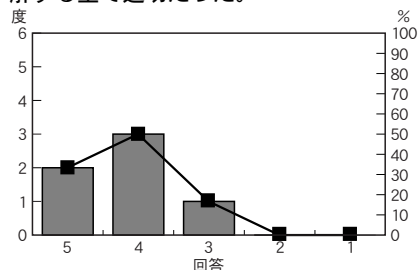
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



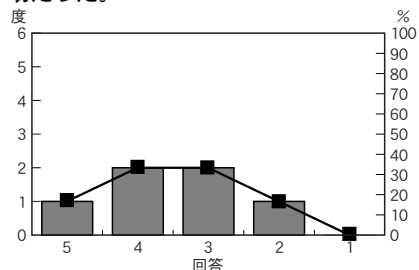
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



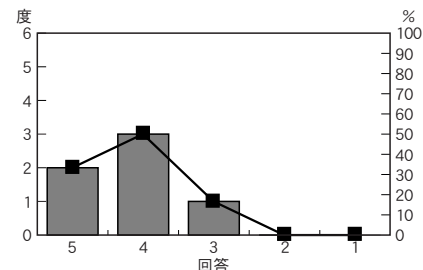
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



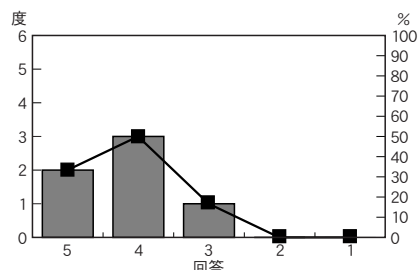
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



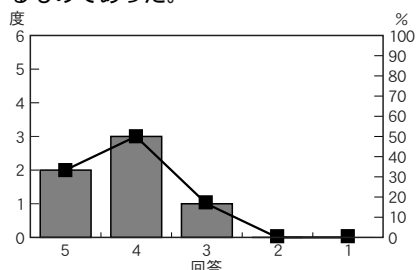
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

最近の教育は、あまりに安易なことに走りすぎる。難しいことをどれだけ惹きつけられるかが教師の力量である。「ちょんかけごま」は大変難しい。授業には無理と思われるが、そうではない。本授業は鳴門西小学校のご協力で6年間実践してきた。今年度も4年生から6年生まで各2時間実践した。難しい教材に挑戦し教師修行をしないと授業力は向上しない。「感動する心」「決して諦めない」この二点を達成させるには、難しいことに挑戦し、教師も子どもも悪戦苦闘してこそ、教師のレベルアップ指導力向上に繋がる。

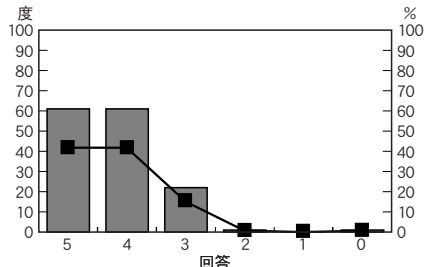
学生にも当然高い技術を要求したので、敬遠する学生もいた。それだけに、難しい技を克服した子どもの笑顔を見たときこそ、「真の意味で授業の楽しさ」を味わったはず。本授業は本年度で閉じるが、45年の教員生活から出た学生への強いメッセージを残したと確信した。

授業科目名：「初等家庭科教育論」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 22 日
 担当教員名：福井 典代, 鳥井 葉子

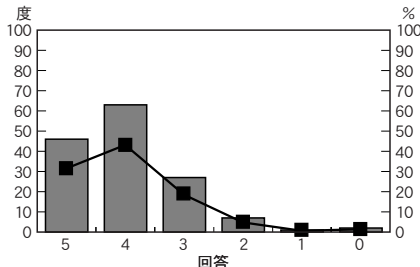
(有効な合計146)

■ 度 ■ %

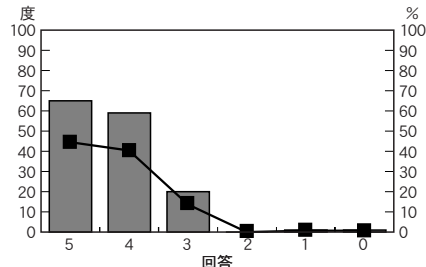
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



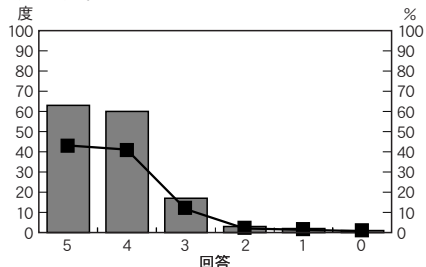
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



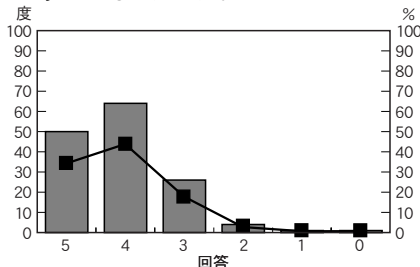
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



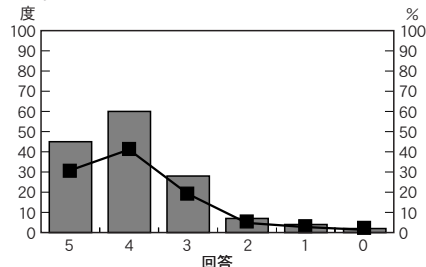
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



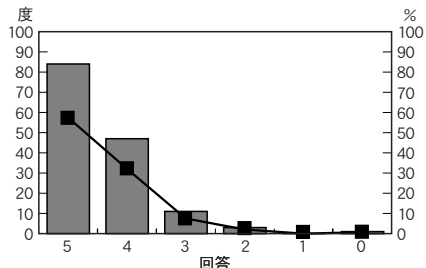
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



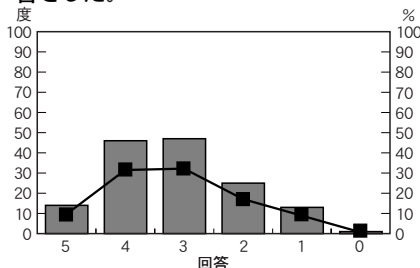
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



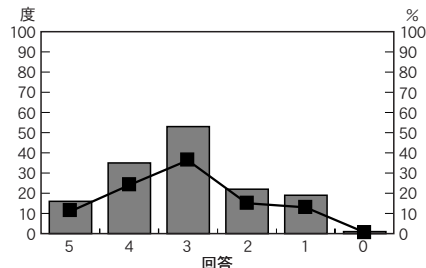
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



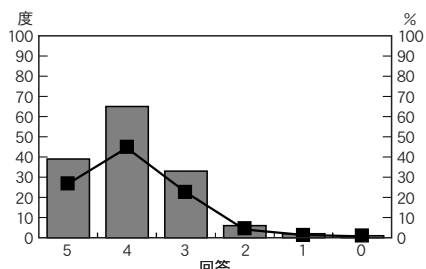
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



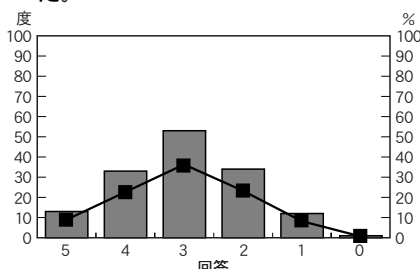
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



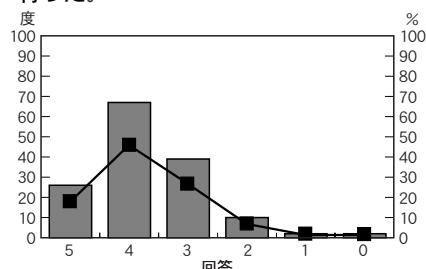
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



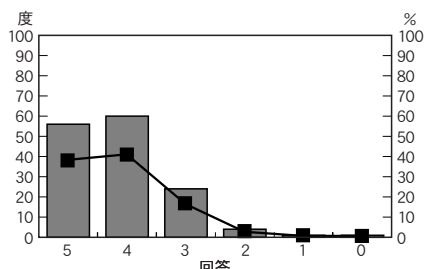
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



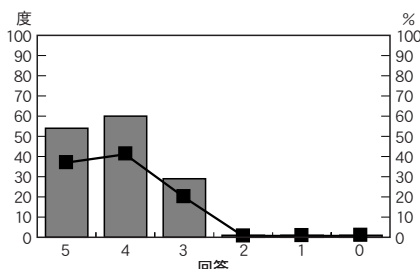
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



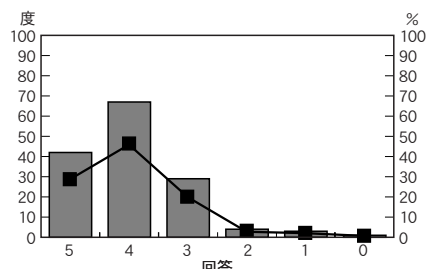
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



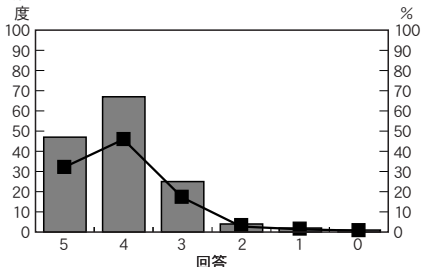
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



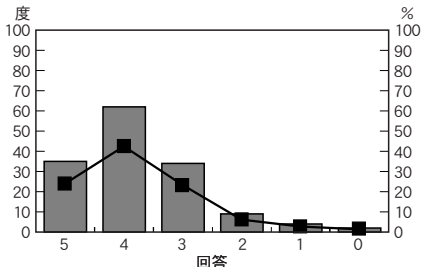
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



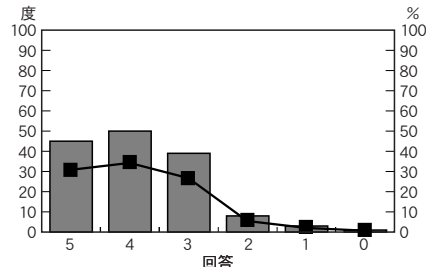
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



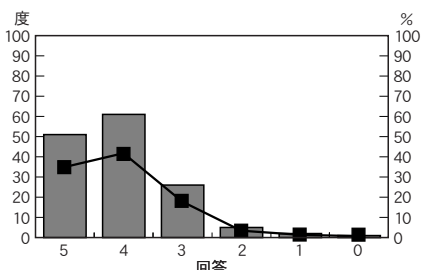
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



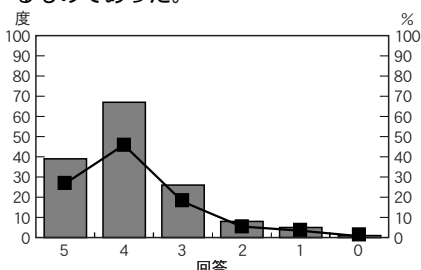
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

評価が高かったのは「7 授業によく出席した。」「3 授業内容は授業概要に沿っていた。」「1 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。」「4 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。」「13 学生が参加しやすい授業だった。」であった。評価が低かったのは「11 分からないことや疑問に思ったことは調べた。」「9 授業中に積極的に発言や質問をした。」「8 授業内容を理解するために予習や復習をした。」「12 学生の理解状況を確認めながら授業を行なった。」「17 視聴覚機器及び教育用機器の利用は適切だった。」であった。

「授業でよかったこと」に「実験と模擬授業がセットになって分かりやすかった。」「色々な実験ができて楽しかった。」「様々な題材の授業が見れた。」「様々な実験を行うことにより専門性が高まった。」「実践的な内容が多く、来年の教育実習に向けて勉強になった。」「全く違った学科で授業案を作ることができたのでよかった。」「改善したほうがよいと思うこと」に「実験から実践までもう少し時間が欲しかった。」「班分け（コースごとに分けて欲しかった。）」「人数が多いので後の方にいる人が聞き取り難かった。」「模擬授業の人数構成と時間の長さ。」「もう少し少人数でやりたかった。」「指導案の書き方など、前もってもう少し細かく指導して欲しい。」「最終テストとして指導案を書く意味が分からない。」等があげられた。

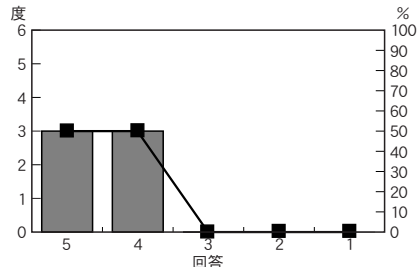
これらから、グループによる実験と模擬授業中心の授業は、専門性が高まり実践的であると高く評価されたが、受講生個人の自主的な学習の深まりには至らなかったといえる。今後は、学習指導案作成の詳細な指導、グループ・模擬授業時間の設定や学習指導案作成試験の意図を全員に分かりやすく説明する等、多人数の本授業の方法を工夫し改善したい。

授業科目名：「初等家庭科授業論」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 13 日
 担当教員名：鳥井 葉子

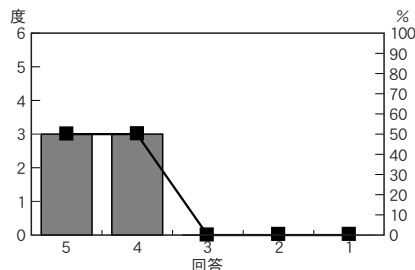
(有効な合計 6)

■ 度 ■ %

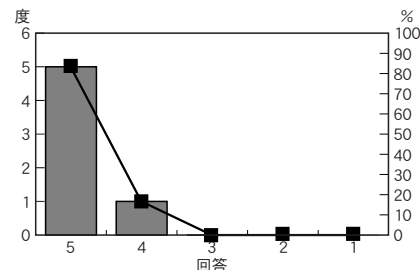
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



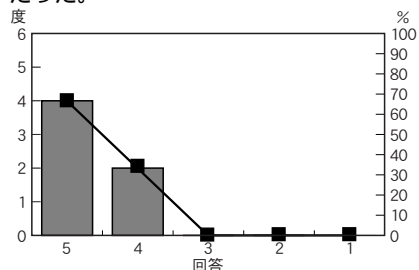
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



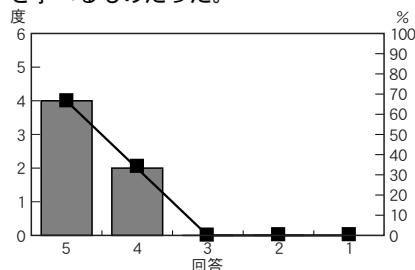
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



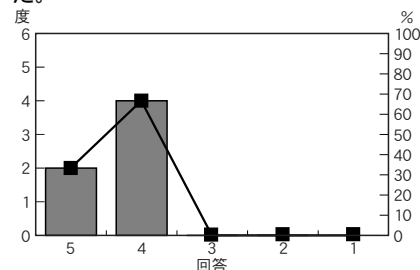
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



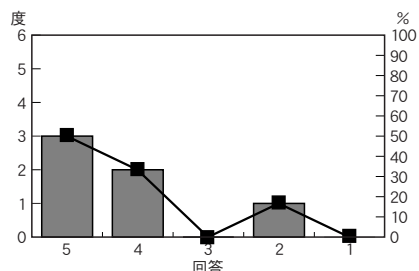
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



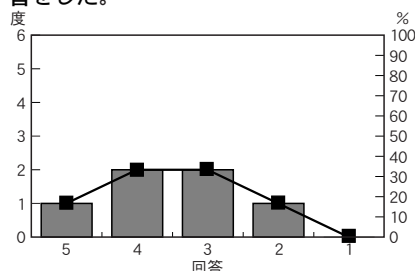
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



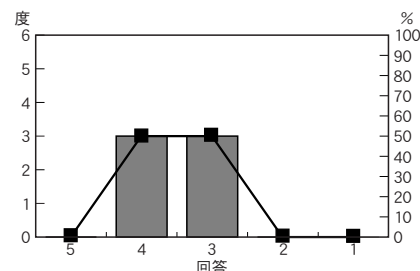
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



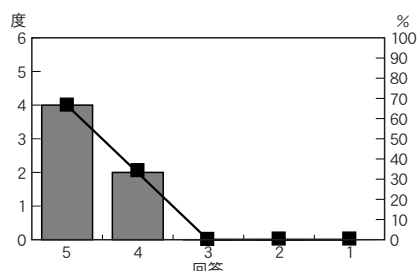
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



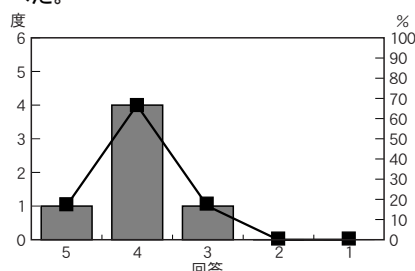
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



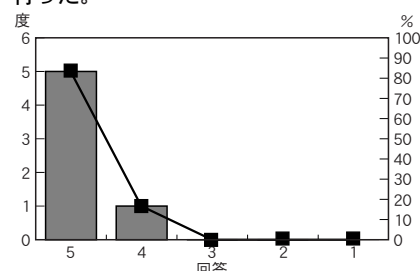
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



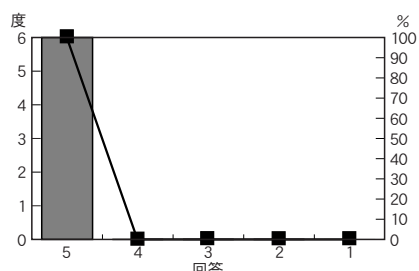
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



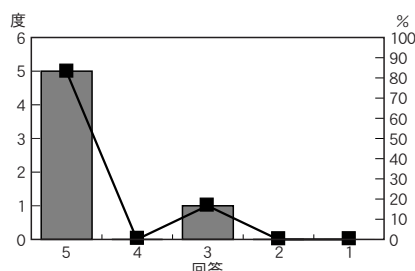
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



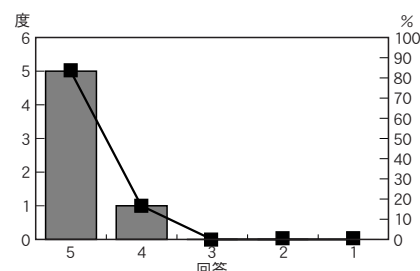
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



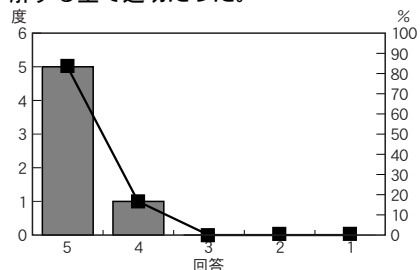
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



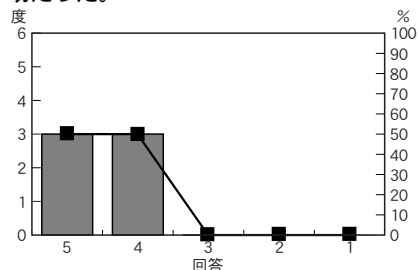
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



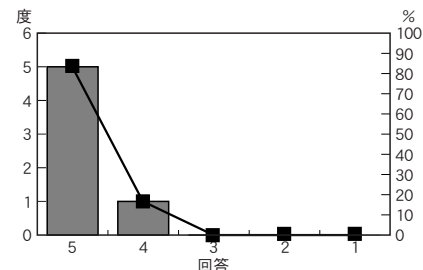
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



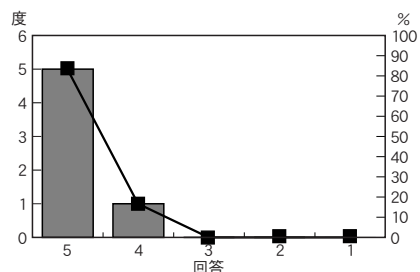
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



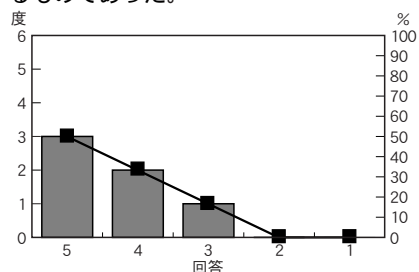
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

受講生は6名と少なかったため、ゼミ形式で授業を進め、毎回全員の発言を求めることができたが、授業評価では「授業中に積極的に発言や質問をした」の回答に「どちらでもない」と答えた受講生が半数いたことから、今後は、教員の指名による発言ではなく、受講生が自ら発言や質問しやすい授業の発問内容や環境づくりに取り組みたい。

受講生からの提言「この授業でよかったこと」では「1人当たり1時間(45分)の模擬授業の実践→全員での考察」「教材研究をした上で模擬授業に取り組めたこと。また、他の学生の発表もきくことができたこと。」「教採前に模擬授業ができてよかった。家庭科の内容の専門性を深められたと思う。」「授業実践についての勉強になった。」「模擬授業中心であったため、授業について考える機会が多くよかった。」であった。また、「この授業で改善したほうがよいと思うこと」は「教室変更等の連絡方法」であった。4年前期の授業科目であり、3年次までに学んだ専門科目および教育実習をふまえた模擬授業の設計・実践を中心に据えた進め方は今後も継続したい。また、模擬授業の内容に即した設備を備えた実験・実習室への教室変更等の連絡は他専修の受講生にも迅速に分かりやすい方法を取りたい。

授業科目名：「生徒指導論（進路指導を含む）」

評価実施日：平成 19 年 2 月 13 日

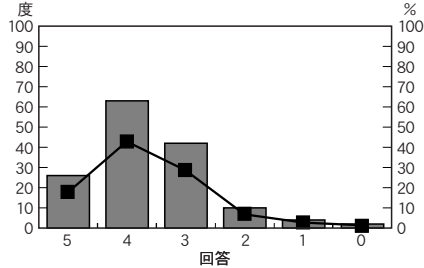
担当教員名：山下 一夫，葛上 秀文

(有効な合計147)

■ 度 ■ %

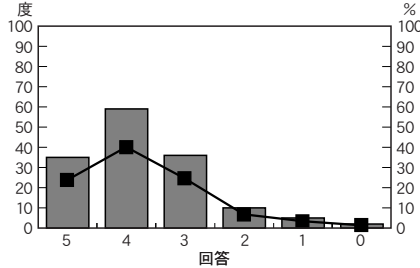
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



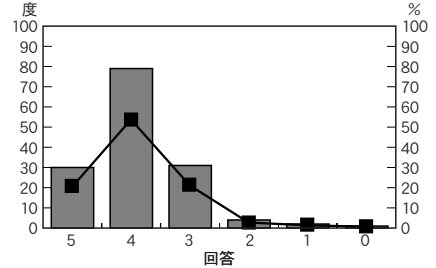
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



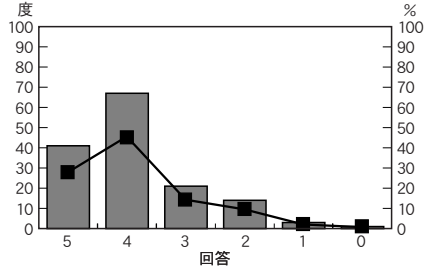
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



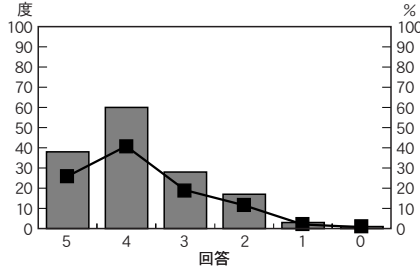
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



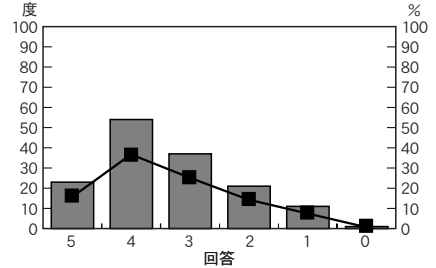
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



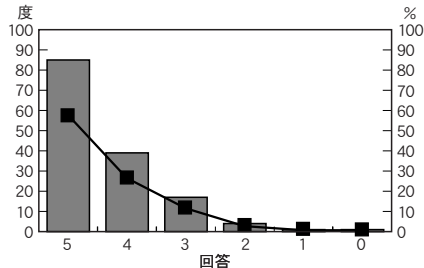
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



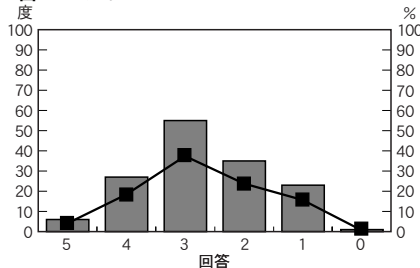
項目分析：(7)

授業によく出席した。



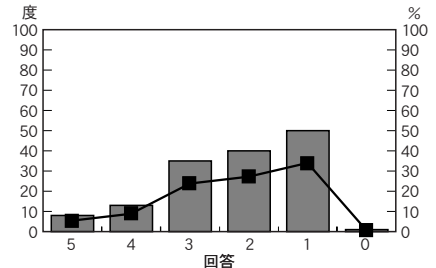
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



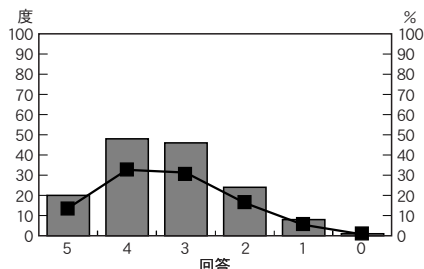
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



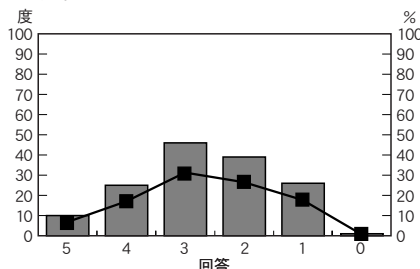
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



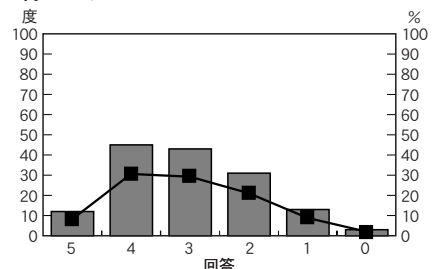
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



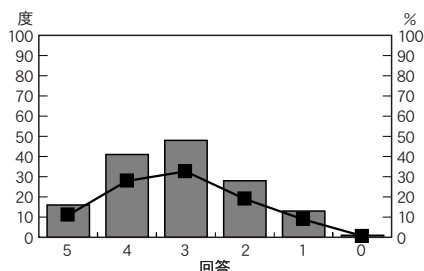
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



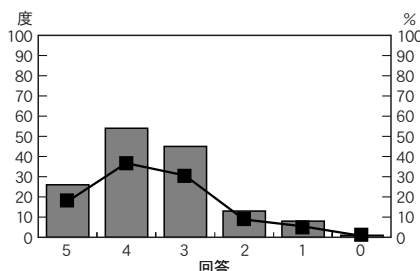
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



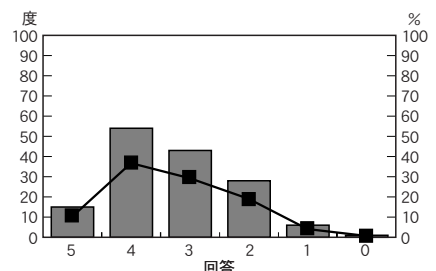
項目分析：(14)

熱心に指導した。

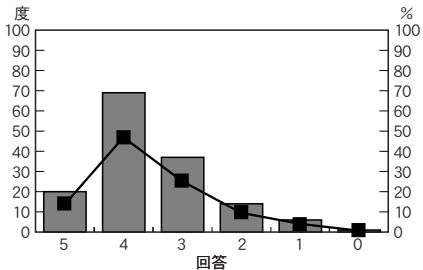


項目分析：(15)

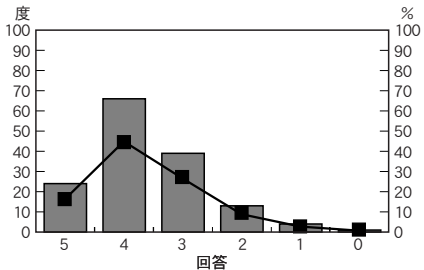
授業内容を分かりやすく説明した。



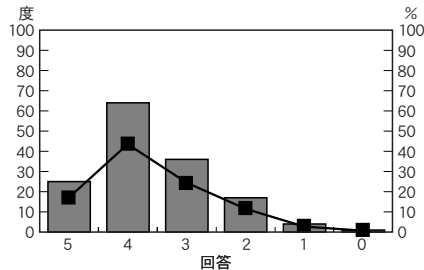
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



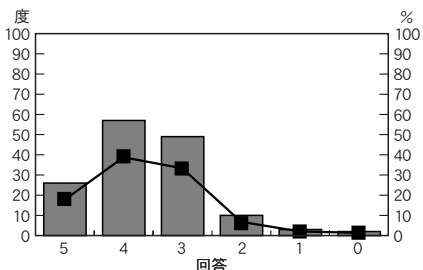
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



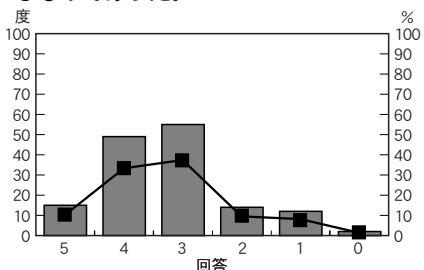
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

授業全体の満足度が、今年度は、5割弱となった。授業内容については、例年通り、十分配慮したものとしたが、満足度が低い要因として、講義室の変更が考えられる。例年はB 201 講義室で行っていたが、今年度はB 101 講義室に変更した。長期履修学生の増加に伴う措置であったが、受講者の増加と講義室が広くなったため、集中しにくかったことが影響したと考えられる。来年度は、講義を学部生と長期履修学生に区分し、講義を行う形とし、学生が授業に集中できるとともに、主体的に授業に参加できるよう工夫を凝らしていきたい。

授業科目名：「カウンセリング論」

評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日

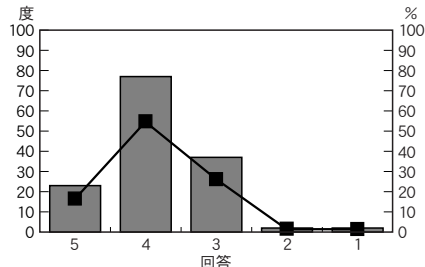
担当教員名：小坂 浩嗣, 吉井 健治

(有効な合計141)

■ 度 ■ %

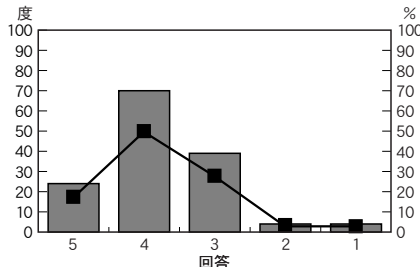
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



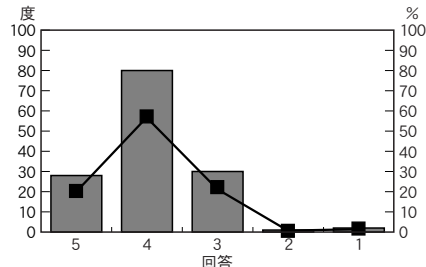
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



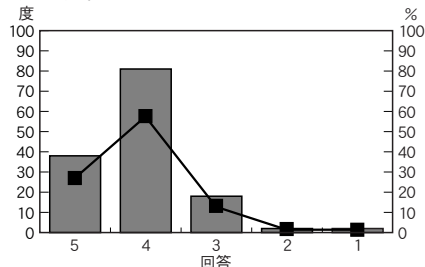
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



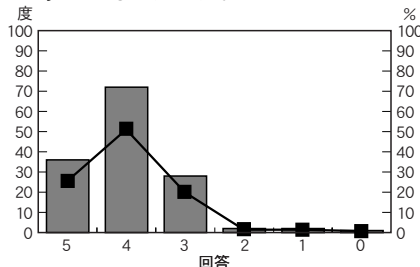
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



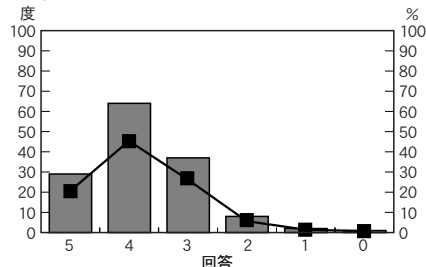
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



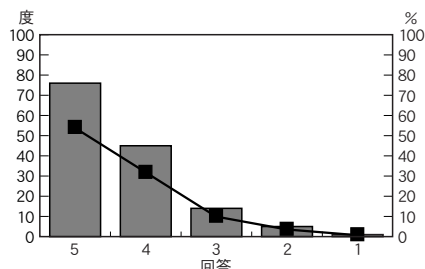
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



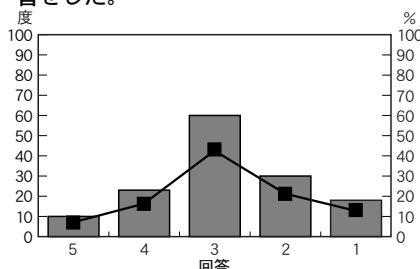
項目分析：(7)

授業によく出席した。



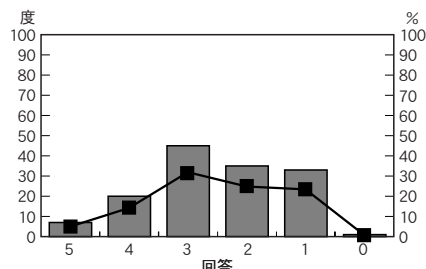
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



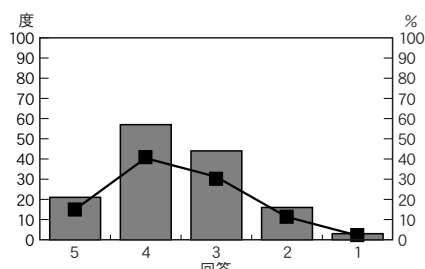
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



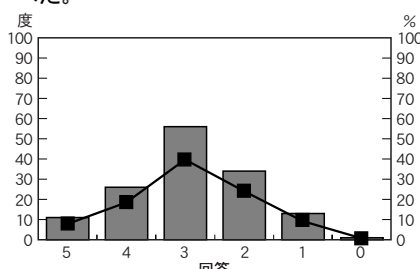
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



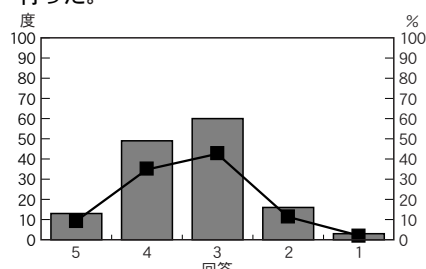
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



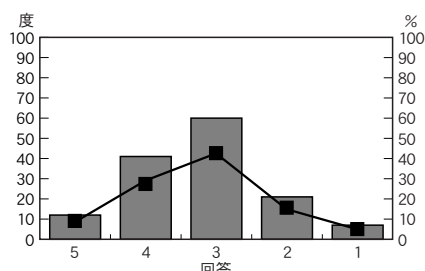
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



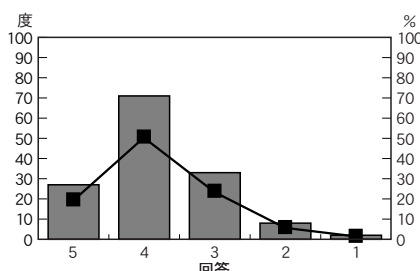
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



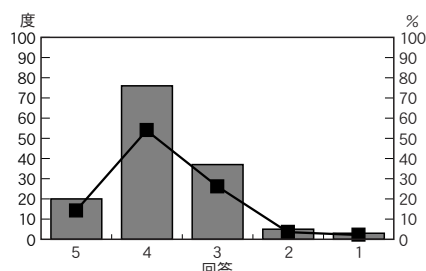
項目分析：(14)

熱心に指導した。

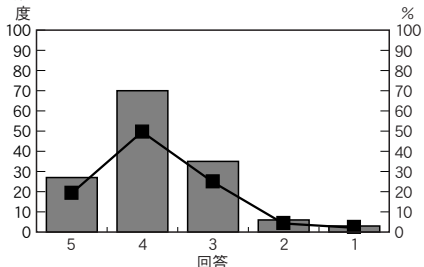


項目分析：(15)

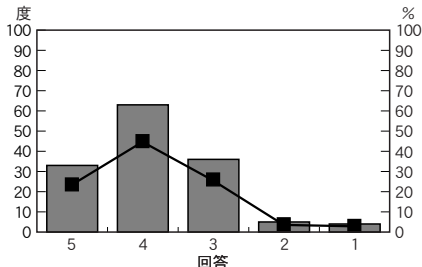
授業内容を分かりやすく説明した。



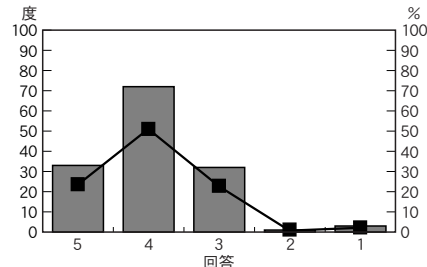
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



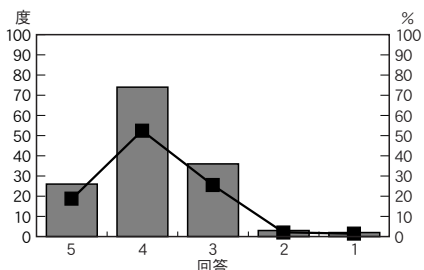
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



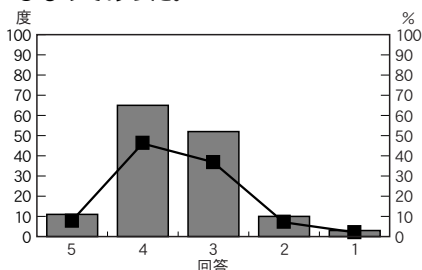
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

5つの評価内容別に分析結果を見ると、概ねよい評価が得られた。回答肢の5または4に評価した者の割合は、「授業概要について」は68.79%、「授業の内容等について」は75.88%、「あなたの授業への取り組みについて」は41.98%、「教員の授業の進め方について」は62.67%、「授業に対する満足度」は53.90%であった。自由記述に見られた意見では、授業内容が具体的事例を提示して解説した点を高く評価する者が多かった。

項目分析を見たとき、「教員の授業の進め方について」のうち「12. 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。」、「13. 学生が参加しやすい授業だった。」の項目に回答肢の5または4に評価した者の割合は、43.97%、37.59%と評価が相対的に低かった。その理由として自由記述に見られた意見では、①講義形式による一方通行の授業形態が中心だったこと、②授業展開のペースが速かったり単調気味であったりしたことなどが指摘された。

来年度は、授業内容については継続する一方、受講者からの要望にもあったように授業展開については学生参加型あるいは対話型の授業場面を設定するなど工夫改善したい。また、受講者の増加に伴い大教室に変更したい。

授業科目名：「幼児教育課程論」

評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日

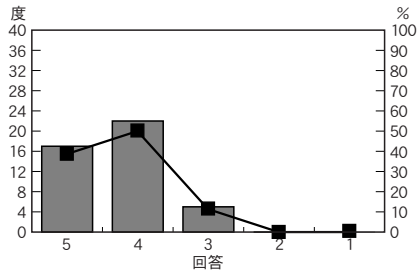
担当教員名：橋川 喜美代

(有効な合計44)

■ 度 ■ %

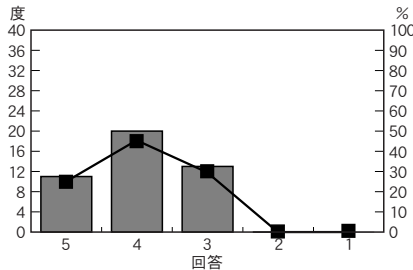
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



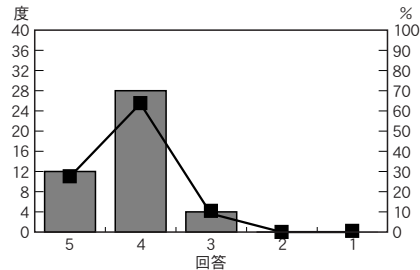
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



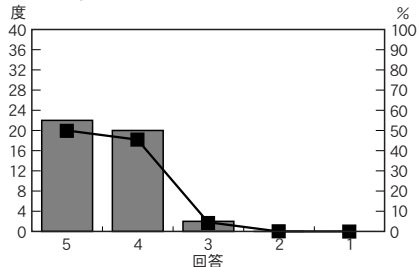
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



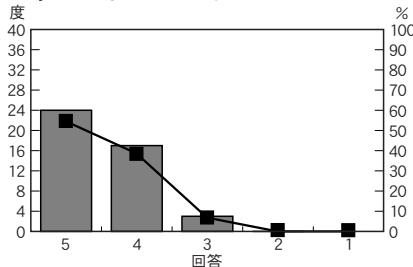
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



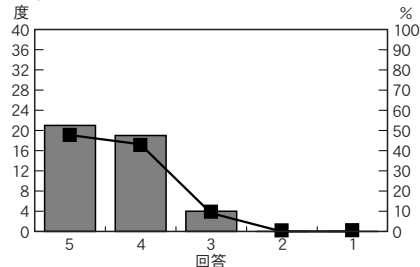
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



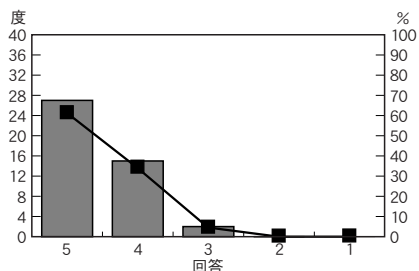
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



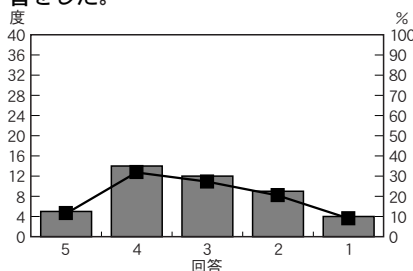
項目分析：(7)

授業によく出席した。



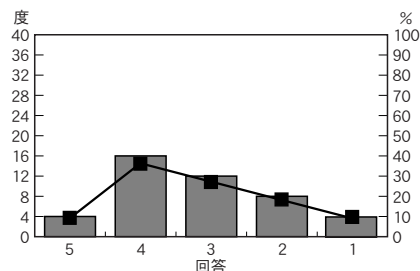
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



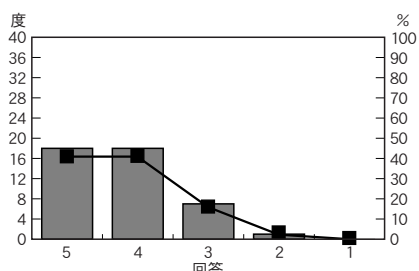
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



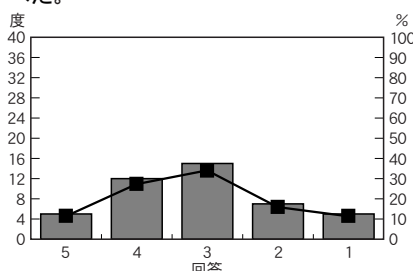
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



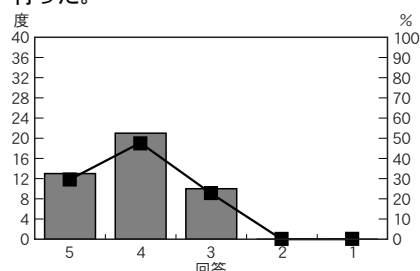
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



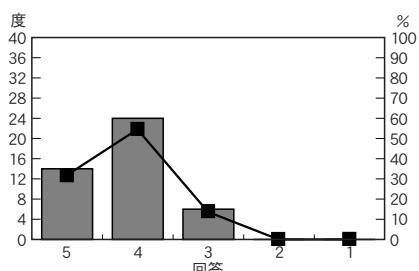
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



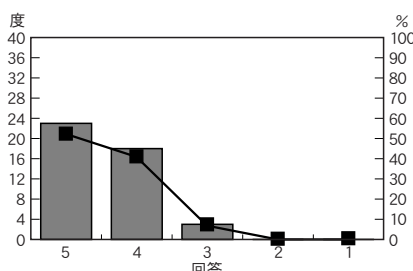
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



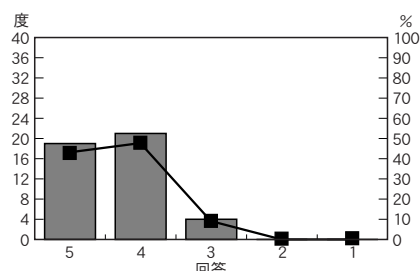
項目分析：(14)

熱心に指導した。

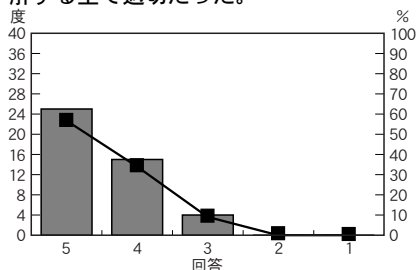


項目分析：(15)

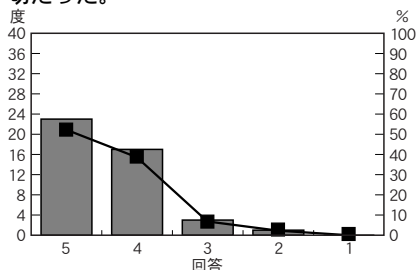
授業内容を分かりやすく説明した。



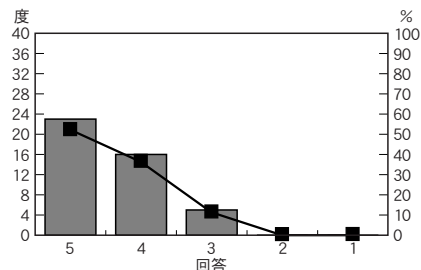
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



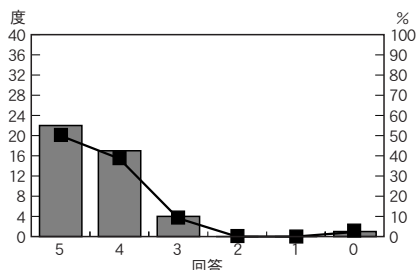
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



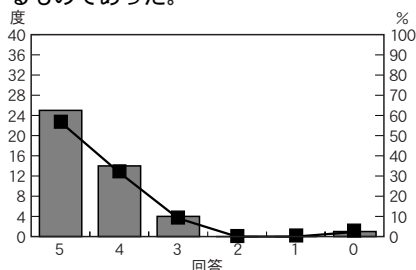
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全体的に高い評価を受けたことは非常に嬉しい限りである。若干問題となったのは、昨年同様、項目(2)の成績評価の方法であった。今年はオリエンテーションの際にプリントを配り、説明したのだが、十分ではなかったようである。なお、項目(17)は昨年よりも改善できたと思っていたのだが、自由記述において「前に画像を表示する時間が短く、書き留めたいことが書ききれなかった」という指摘を受けたので、十分配慮して行ないたい。

学生の授業に対する自己評価が昨年よりも全体的によくなっている。特に、項目(8)の予習復習や項目(11)の分からないことや疑問に思ったことを調べるのに時間を割く学生が増えていることは嬉しい。とはいえ、もっと学習態度が育つ方法を工夫していきたい。

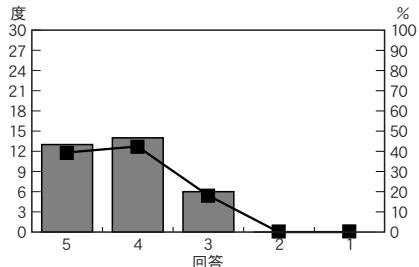
また、自由記述の授業でよかったのは、「幼稚園で実際に保育に関わり、実践的に子ども理解が深められた」「指導案を作成した」「実践的なことが多くてよかった」「幼児のことについていろいろ聞いた」ことだと述べている。一方、改善すべき点として、「1グループの人数が多いので、2つに分け、指導案を作成すればよくまとまったと思う」という指摘があった。次年度への提言として受け止めたい。

授業科目名：「保育内容（環境）」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日
 担当教員名：塩路 晶子

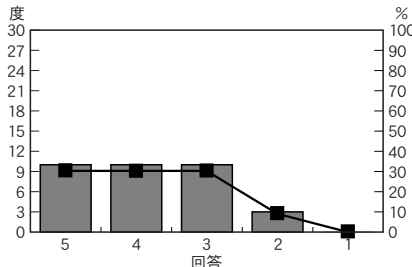
(有効な合計33)

■ 度 ■ %

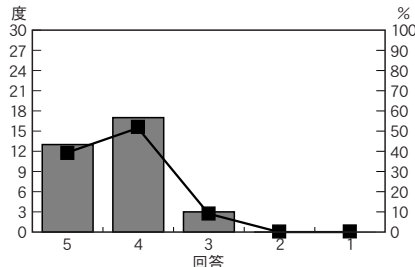
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



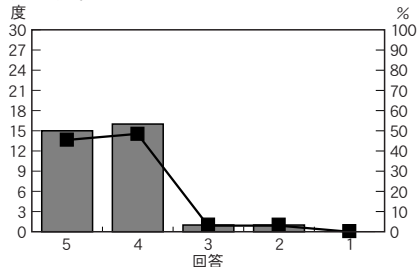
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



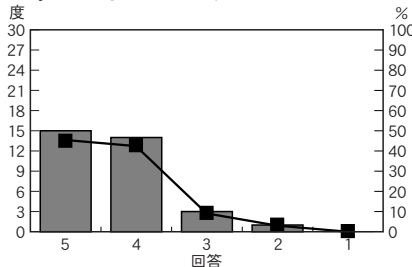
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



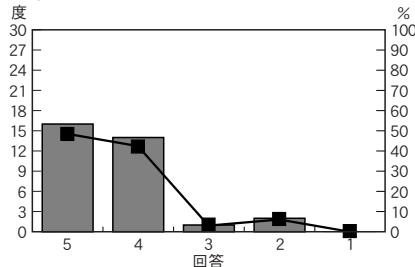
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



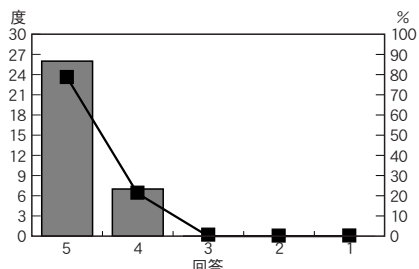
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



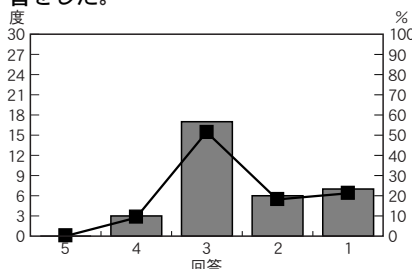
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



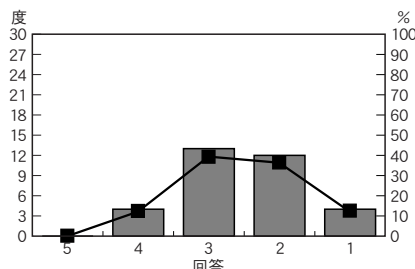
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



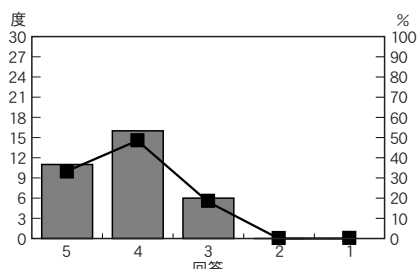
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



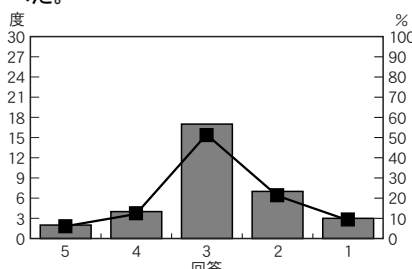
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



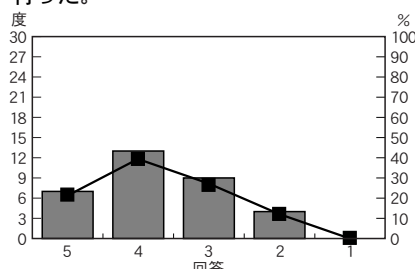
項目分析：(10)
 積極的に課題に取り組んだ。



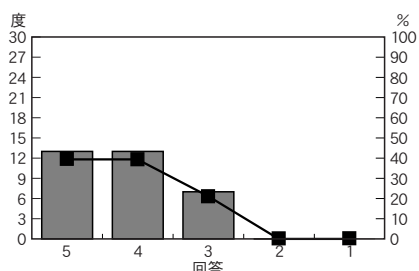
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



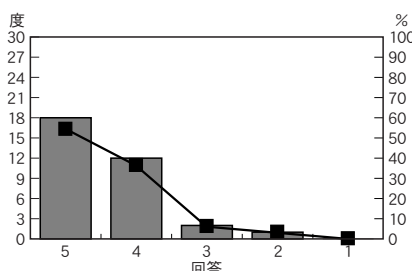
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



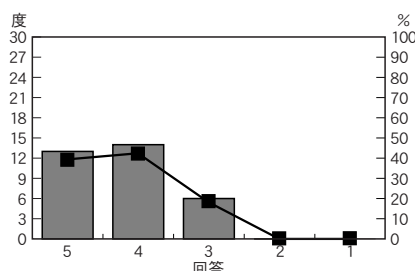
項目分析：(13)
 学生参加型の授業だった。



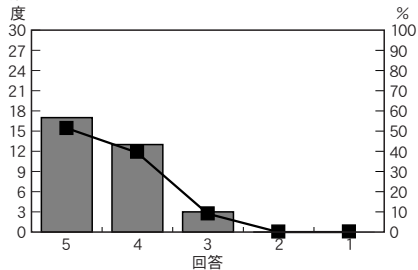
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



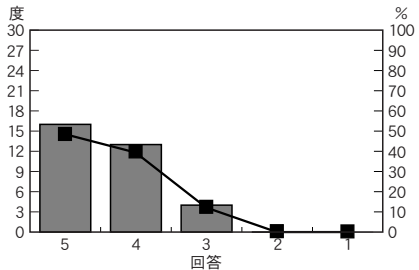
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



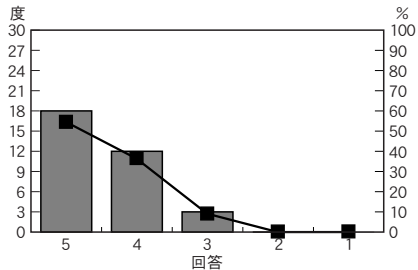
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



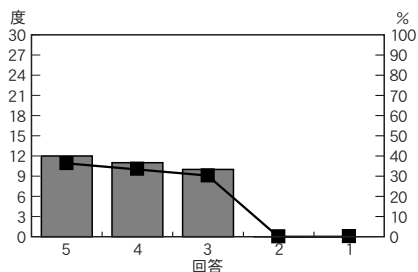
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



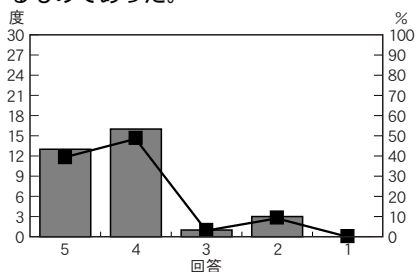
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本演習は、どのような保育の「環境」が幼児の育ちに寄与するか、ということを実践的に学ぶことを目的としていた。受講生からは、自然的・社会的事象を取り込んだ「環境」を構成することがいかに子どもの育ちに重要であるかという、彼らにとって未知の課題について考えたというコメントが寄せられている。

また集計を見ると、「興味・関心を引く内容であった」という評価がほとんどであり、子どもを取り巻く自然や情報、身近なものを使った遊び、社会的な問題などについて、体験的活動や映像等を多く演習に取り入れたことも、受講生の理解を深めることに役立つと思われる。

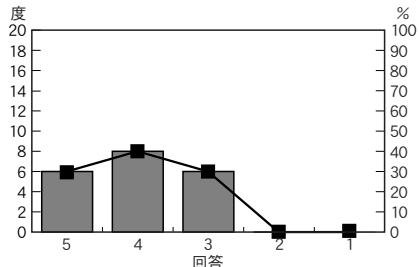
改善点としては、「板書が多すぎる」という提言があること、また受講生の発言をもっと多く引き出す必要があることなどが挙げられ、さらに工夫する必要がある。

授業科目名：「中等国語科教育論」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日
 担当教員名：幾田 伸司

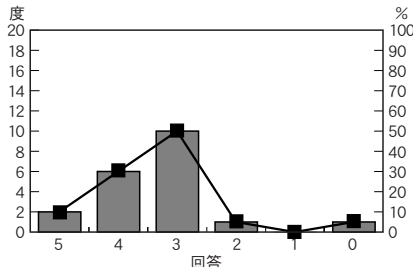
(有効な合計20)

■ 度 ■ %

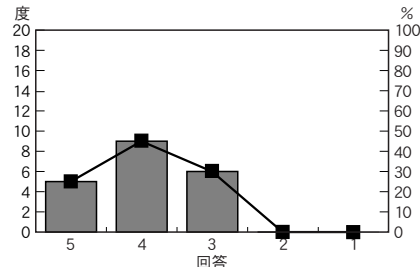
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



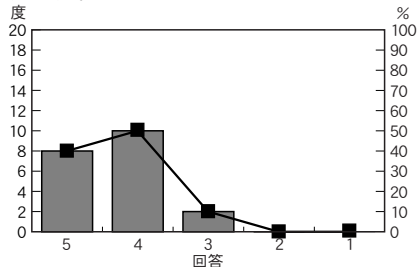
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



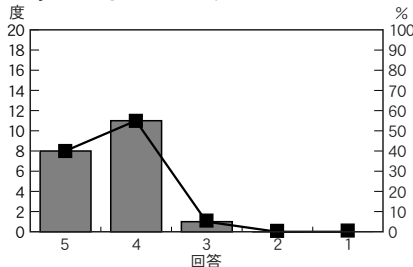
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



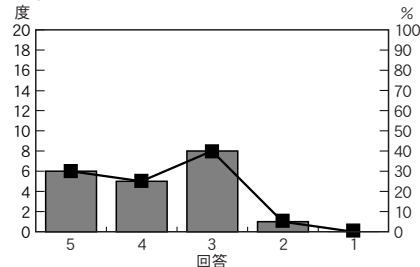
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



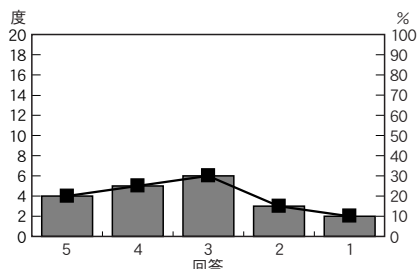
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



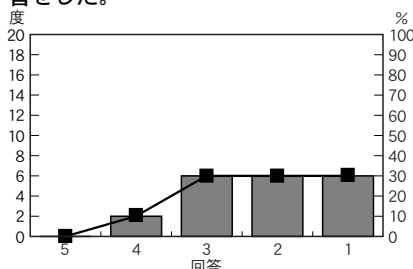
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



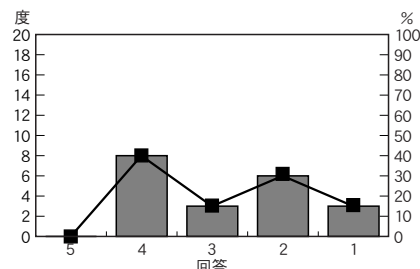
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



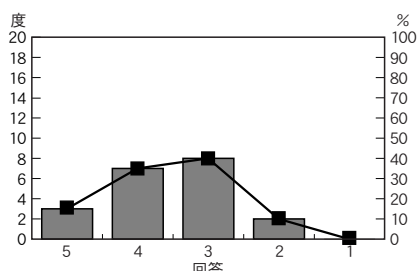
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



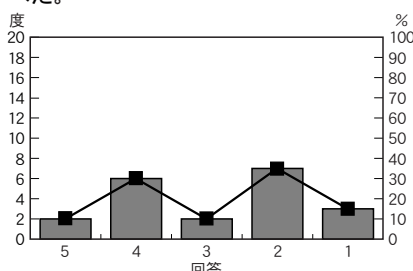
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



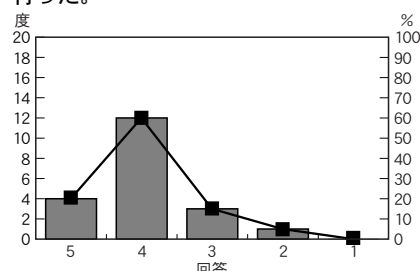
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



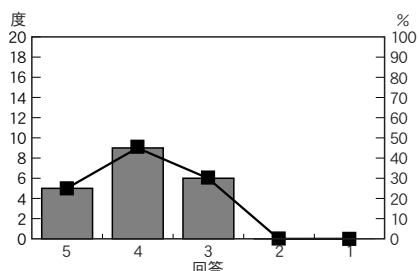
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



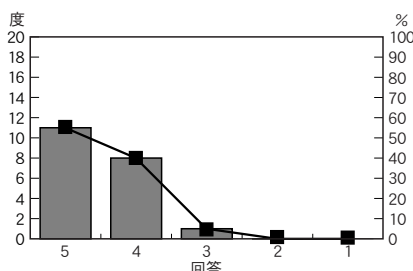
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



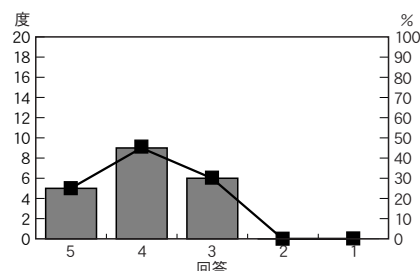
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



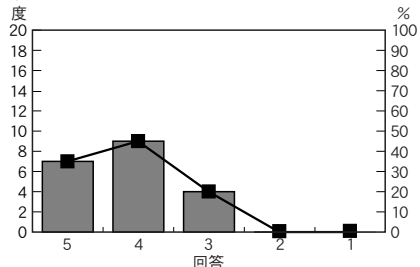
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



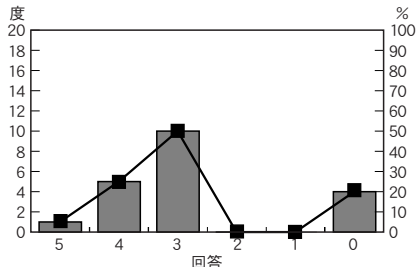
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



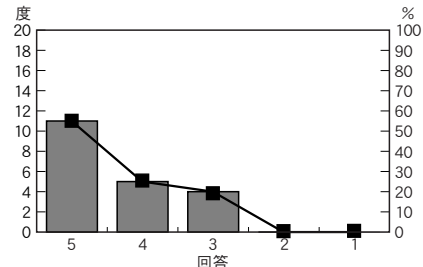
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



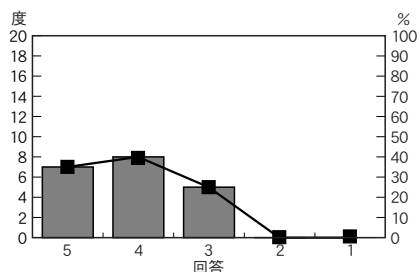
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



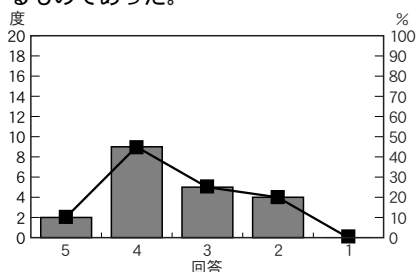
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業では、中等教育課程での国語科授業の内容について、実践報告を紹介したりしながら概説を行った。しかし、授業内容の焦点、半期の構成のしかた、各時の授業の流れとポイントのしぼり方、資料の使い方など、反省すべき点が山積している。項目6の授業内容への興味・関心について、約半数が3以下で回答しているのは、授業者の授業内容づくりのまずさを示すものとして受けとめたい。

また、授業において、受講者と目が合わないという指摘を受けた。まったく意識していなかったことだったが、猛省しなければならないと思う。

次年度に向けて、まず授業内容の精選を図りたい。今年度は、中学校、高等学校の両方の校種に触れたり、言語活動のすべての領域について総花的に扱ったりしたために、焦点がぼやけてしまった感が強い。次年度は中学校に焦点化し、基本的な指導過程、教材研究の方法、発達段階と学習内容等を中心にして授業内容を構想したい。また、各時において受講生が考えるべき課題を精選し、受講生が発言する機会を確保していきたい。

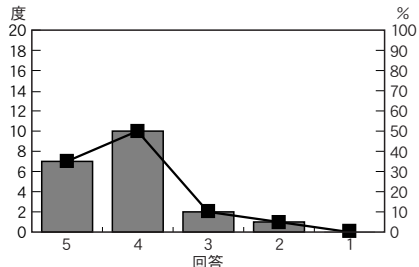
授業科目名：「国語科教育特論Ⅰ」
 評価実施日：平成19年2月21日
 担当教員名：幾田 伸司

(有効な合計20)

■ 度 ■ %

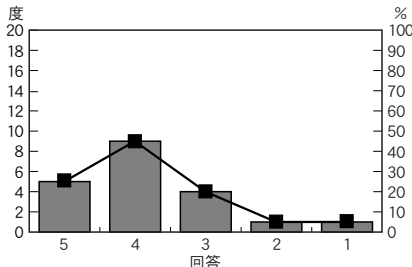
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



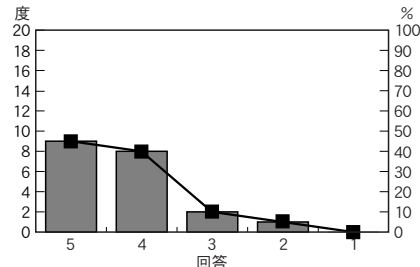
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



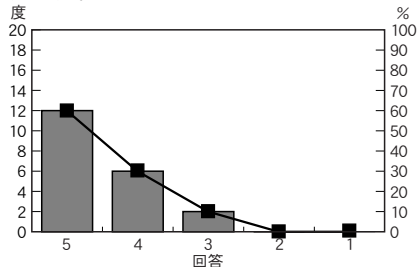
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



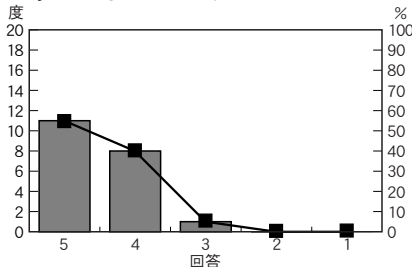
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



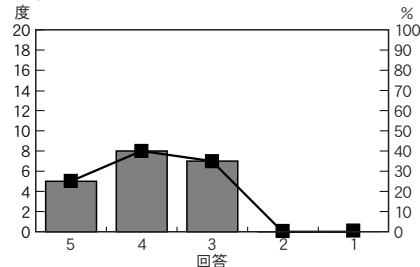
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



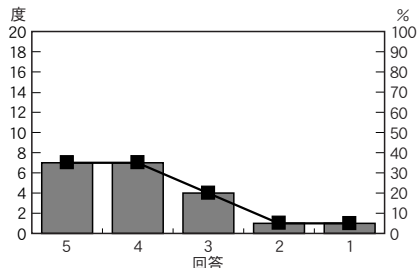
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



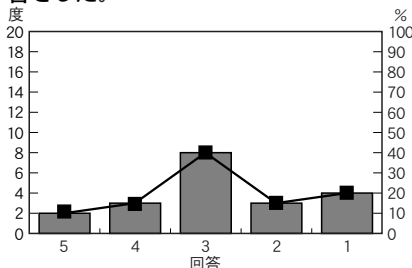
項目分析：(7)

授業によく出席した。



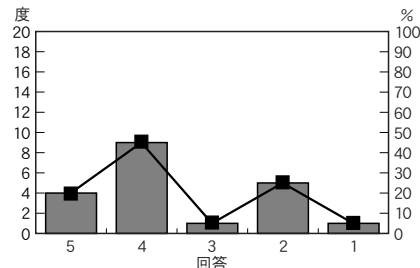
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



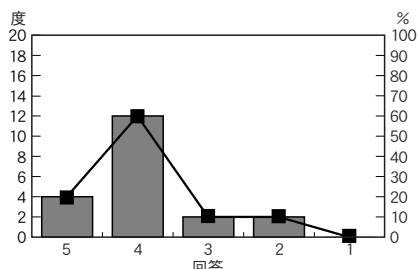
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



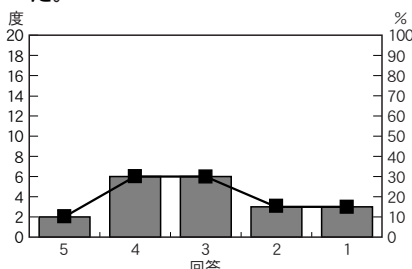
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



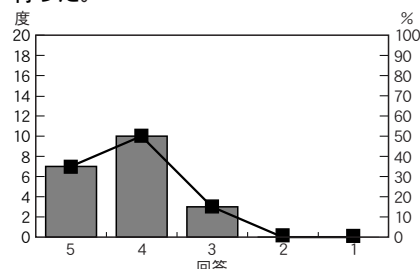
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



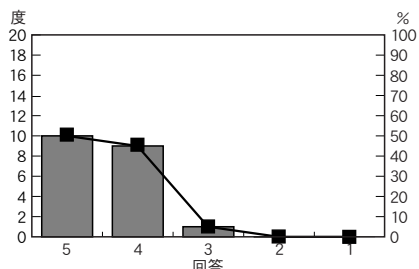
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



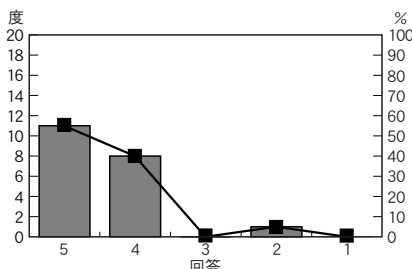
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



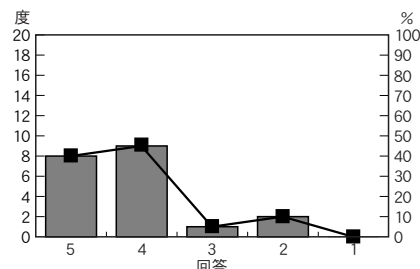
項目分析：(14)

熱心に指導した。

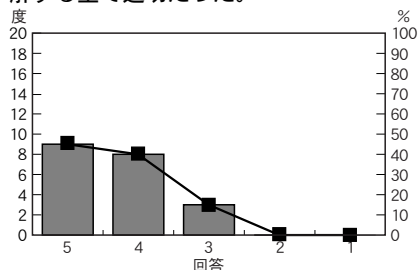


項目分析：(15)

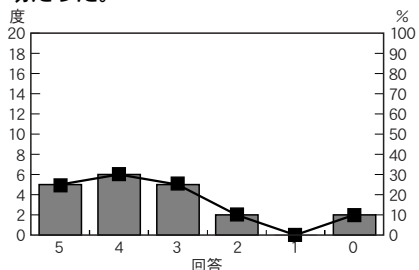
授業内容を分かりやすく説明した。



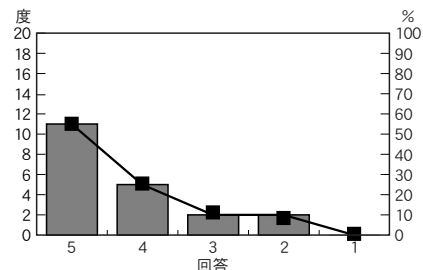
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



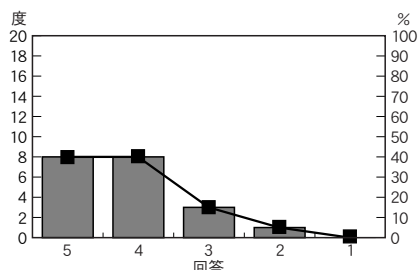
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



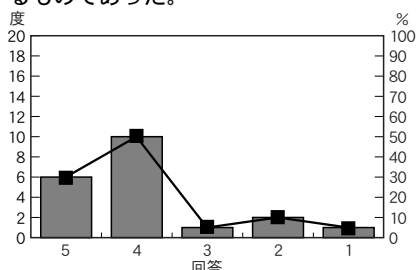
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は、教材分析、討議、模擬授業などの活動を取り入れながら、国語科の授業づくりの過程を実践的に習得することを目標として行った。

評価結果として、「授業の内容等について」「教員の授業の進め方について」はおおむね肯定的に受け止められたようである。活動を多く取り入れたため、受講者が自ら考え、学ぶことができたと感じられた点が、こうした肯定的な評価につながったと考える。モデルとする教材や実践の選定など、試行錯誤しながら進めていただけに、授業者としてはほっとしたというのが実感である。

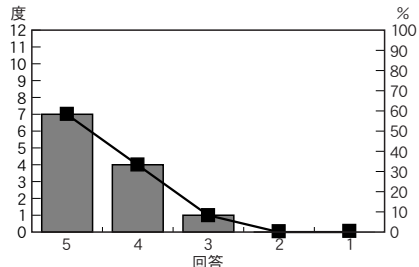
ただし、授業者のパフォーマンスについては声、視線、態度等も含めて、改善しなければならない点があると考えている。また、項目(6)「授業内容は興味・関心を引くものだったか」では、35%の受講者が「どちらともいえない」と回答した。授業者の目標と受講者が学びたいと感じる内容を合致させるよう、教材等を再検討したい。さらに、授業者が伝えるべき知識・事項、受講者が考えるべき内容をさらに精選し、体系化していくことを通して、半期の授業をより効率的に運営することも課題としたい。

授業科目名：「国語科教育特論Ⅱ」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日
 担当教員名：幾田 伸司

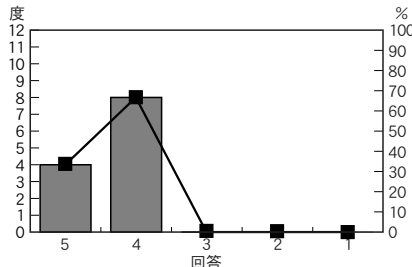
(有効な合計12)

■ 度 ■ %

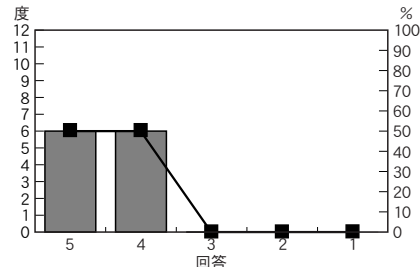
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



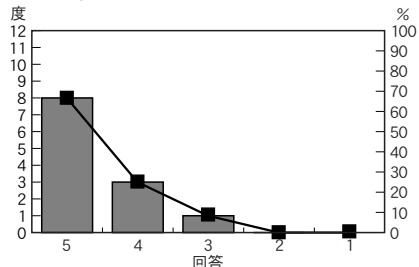
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



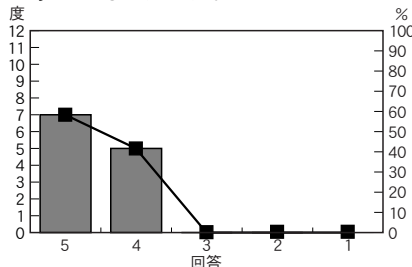
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



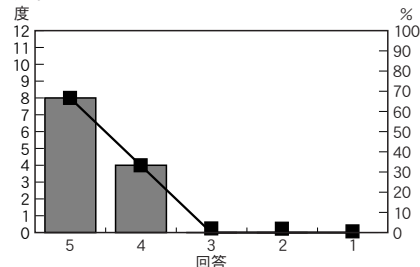
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



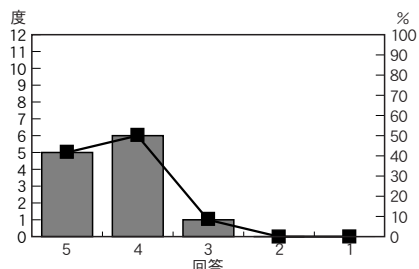
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



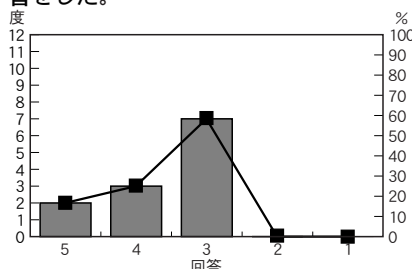
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



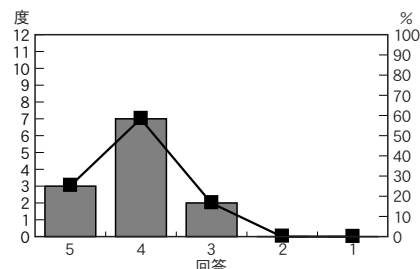
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



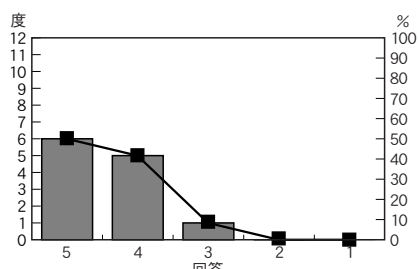
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



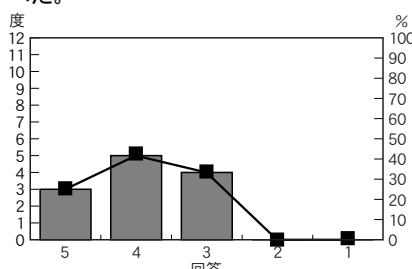
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



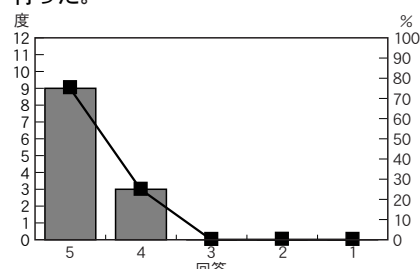
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



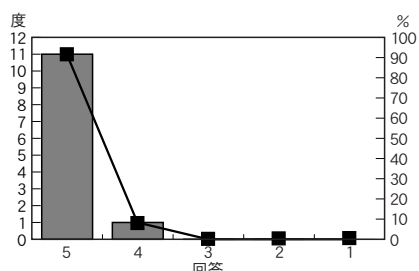
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



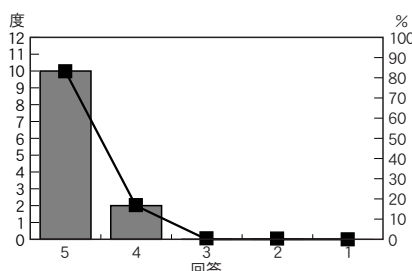
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



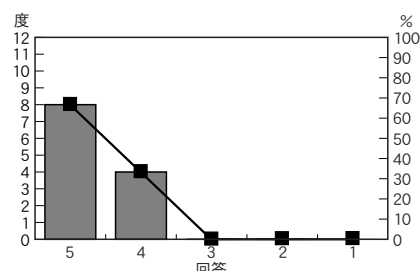
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



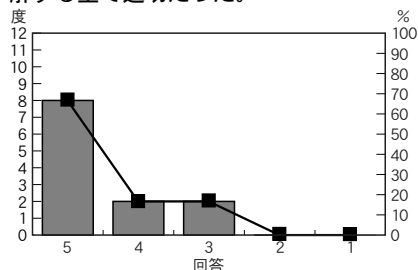
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



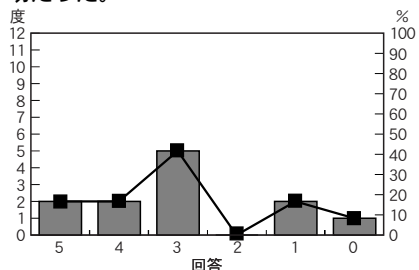
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



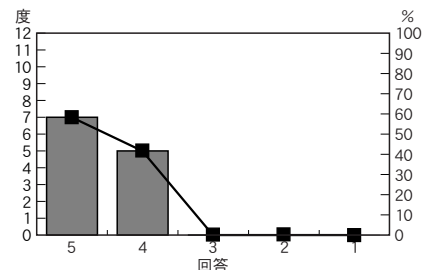
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



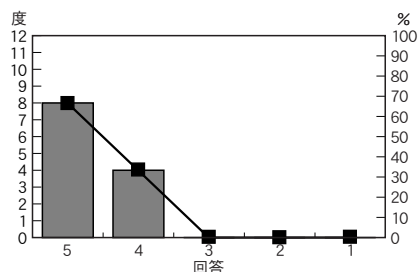
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



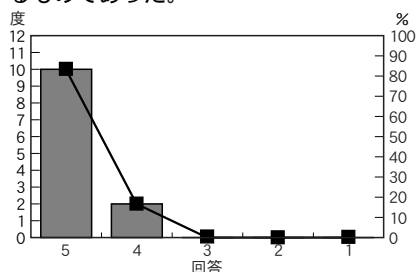
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業では、スピーチ、ディベート、討論、グループワーク、模擬授業、作文等の課題を実際に受講生に課し、学習者と教師の双方の立場から表現指導のあり方を考えることを目標として演習を行った。また、相互評価も取り入れ、自分の活動に対する他の受講生の意見を聞ける場も設定した。

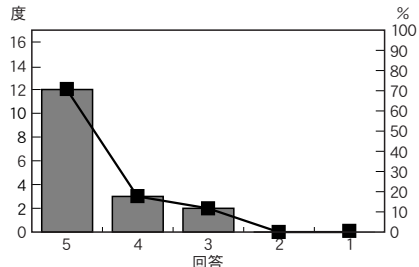
授業評価の結果では、特に項目13の参加しやすさ、項目20の全体的満足度で高い評価を得た。また、項目4～6の授業内容に関しても、概ね肯定的評価を得ることができている。受講生が主体的に取り組まなければならない活動型授業であったことに加え、種々の課題や活動に取り組めたこと、少人数のために全員参加を保障できたことなどが、肯定的評価を得られた理由として考えられよう。一方、今年度は、時事問題など、受講生の既有知識が少ない課題を設定したため、議論が滞ってしまう場面も見られた。課題の改善と精選、受講生へ支援のあり方は、今後の課題である。

授業科目名：「英語科教育論Ⅰ」
 評価実施日：平成18年8月2日
 担当教員名：山森 直人

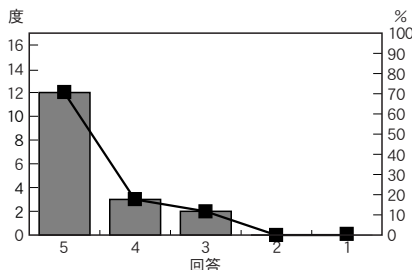
(有効な合計17)

■ 度 ■ %

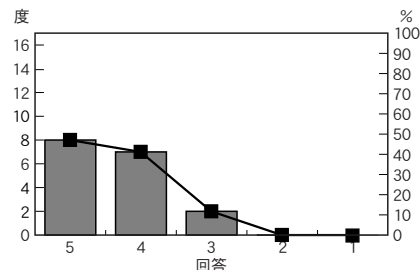
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



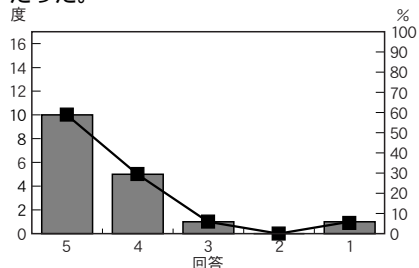
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



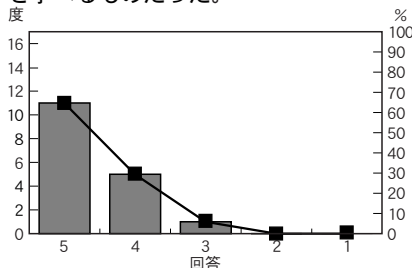
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



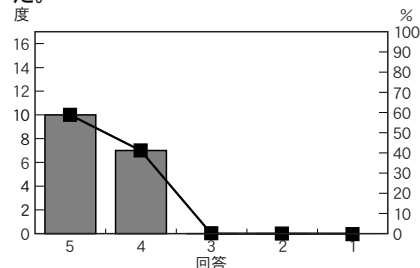
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



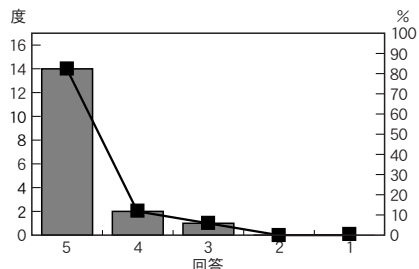
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



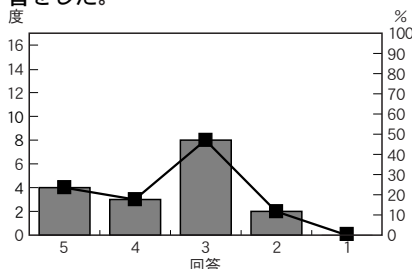
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



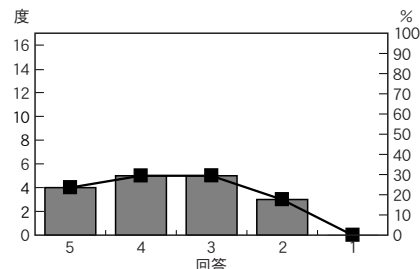
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



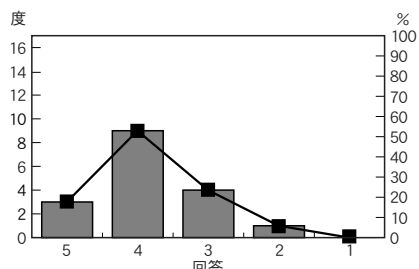
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



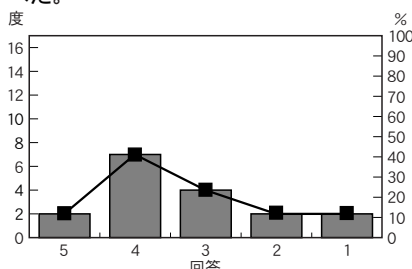
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



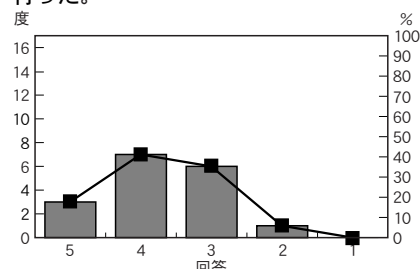
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



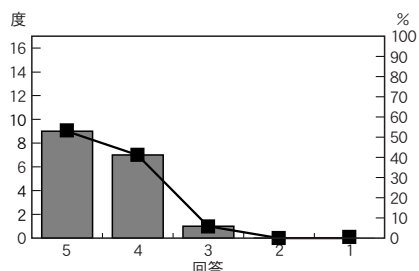
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



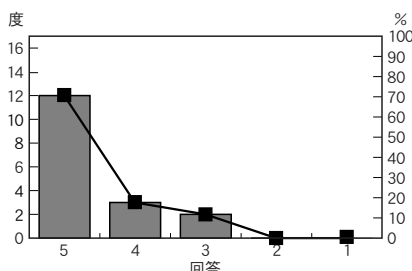
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



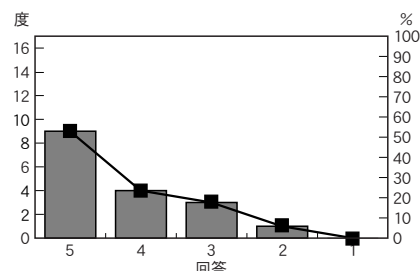
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



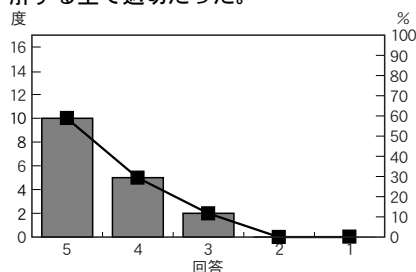
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



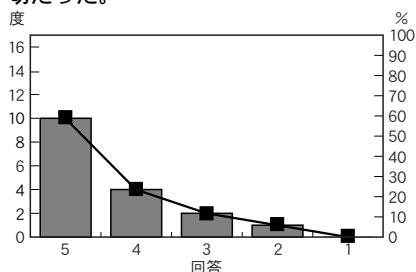
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



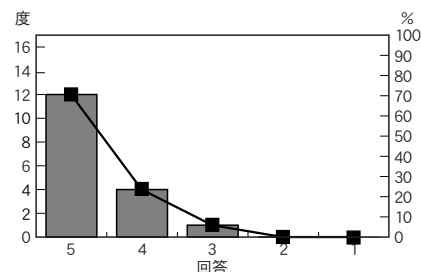
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



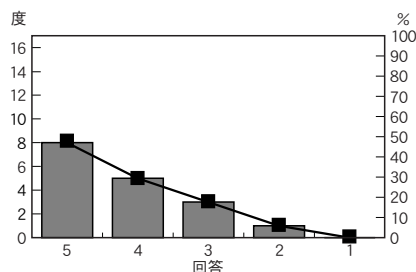
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



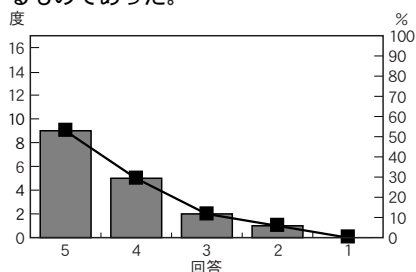
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全体的に良好な結果を得たように思う。ただし、受講生の授業姿勢に関する質問項目(8)~(11)については、評定4から2が多く相対的に低評価となった。今年度はこれまで以上に授業中の討論の機会を増やし、学生に課題意識を持たせようと考えたが、結果的に十分ではなかったようだ。また、質問項目(12)「学生の理解状況を確認しながら授業を行った。」の評定も中間的なものが多かった。今年度はこれまでになく大学院（長期履修生を含む）からの履修者が多く、全体の4割（17名中7名）を占めた。そのため受講者の年齢層や教育経験、社会経験がこれまで以上に多様となり、特に教授内容に関する焦点のあてどころに迷いながら授業を進めた。様々な学生が集まり、一見授業中の議論が活性化しているように感じる一方で、経験豊かな大学院生の意見や考えを学部生が受け身的に聞くだけという場面もあったように思う。授業担当者も学部生が活躍できる場を設けようとしたが、十分でなかったという感想を抱いている。もちろん、様々な経験をもつ学生から授業が構成されるという状況は、授業の阻害要因ではなく、授業活性化のための貴重な知的資源の宝庫だと考える。その資源をうまく活用できるような方向で授業のあり方を検討したい。

授業科目名：「英語科教材論・英語科教育論Ⅱ」

評価実施日：平成 19 年 2 月 28 日

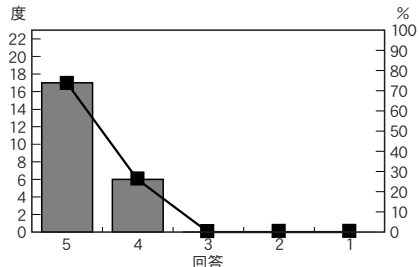
担当教員名：伊東 治巳

(有効な合計23)

■ 度 ■ %

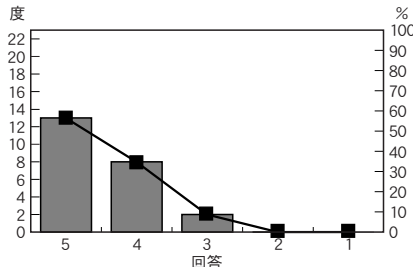
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



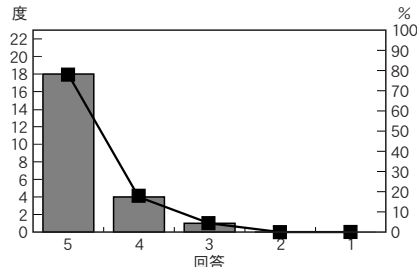
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



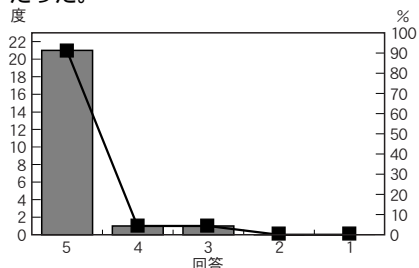
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



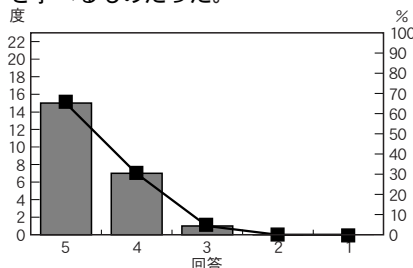
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



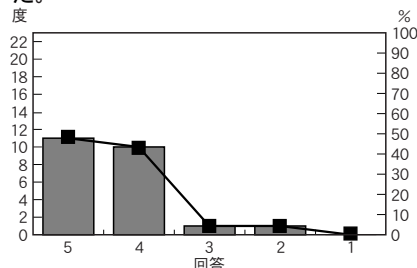
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



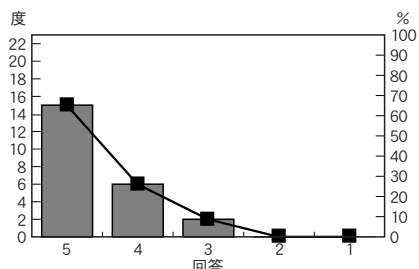
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



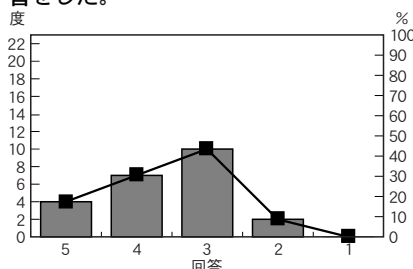
項目分析：(7)

授業によく出席した。



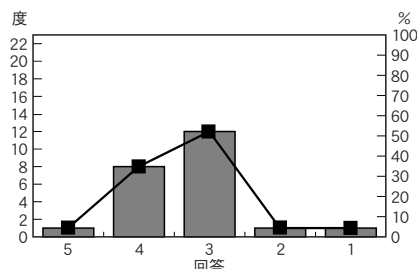
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



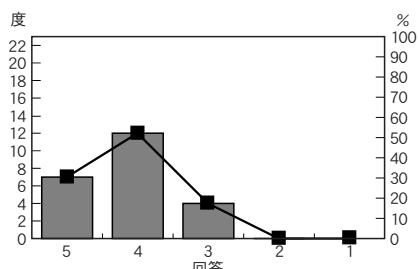
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



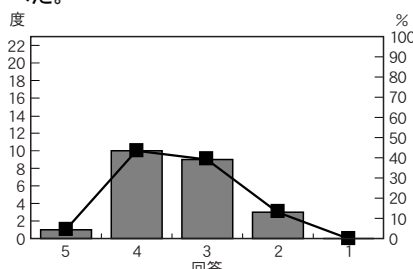
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



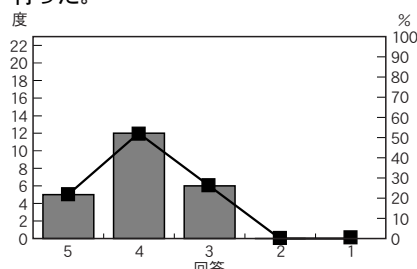
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



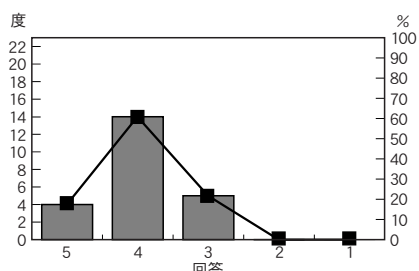
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



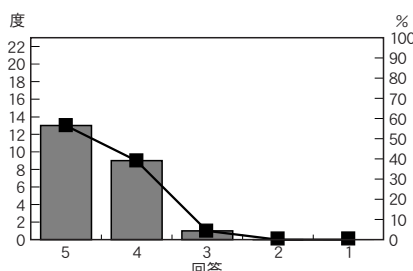
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



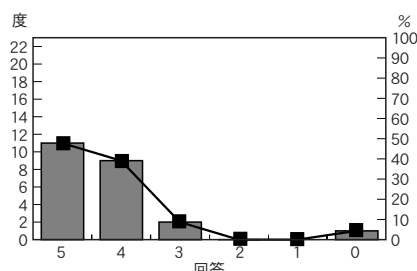
項目分析：(14)

熱心に指導した。

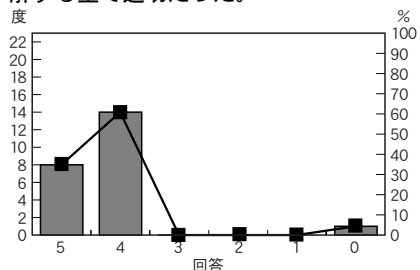


項目分析：(15)

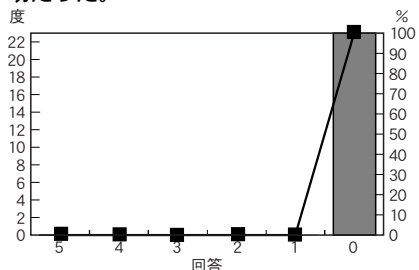
授業内容を分かりやすく説明した。



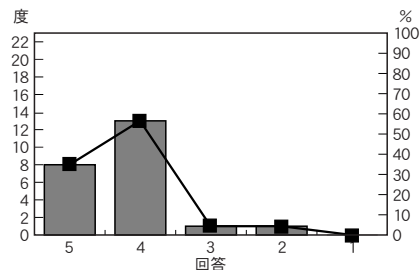
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



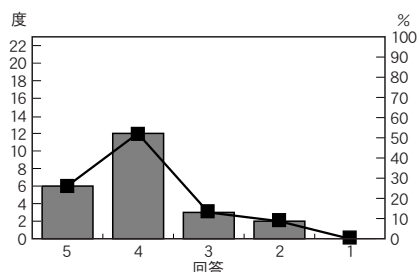
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



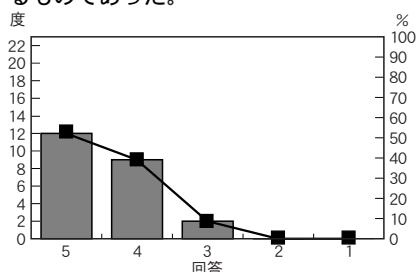
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業では、英語の授業で取り扱う言語材料をその構成要素（文化・語彙・文法・発音）別に教授・学習の観点から見直すとともに、その効果的指導法を具体例を交えながら論じた。昨年度までは中学校（および高等学校）英語科免許を取得するための選択科目であった関係で、もともと授業内容に興味を抱いている学生、しかも英語科教育コースを専攻している学生が受講していたが、本年度から必修科目となったため、受講者層が大きく広がった。ただ、授業内容自体は、中学校（および高等学校）で英語を指導する上で最低限必要とされる専門性を付与するためのものであり、受講生の広がりによって内容を変更することはしなかった。そのため、一部の受講生にとっては、内容的にも授業の進み具合の点においても少し過密過ぎたように思われる。ただ、授業に対する満足度に関しては、全受講者23名のうち、19名が5を選択し、3名が4を選択しており、授業を担当した立場からすれば、来年度に向かっての大きな励みになっている。今後、選択科目から必修科目になったことを考慮に入れ、受講者層の広がりや授業内容の質的保証の間の折り合いをどのように付けていけばよいのか、慎重に検討を重ねていきたい。

授業科目名：「中等社会科教育論」

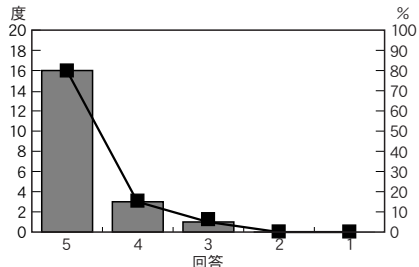
評価実施日：平成 19 年 3 月 3 日

担当教員名：梅津 正美

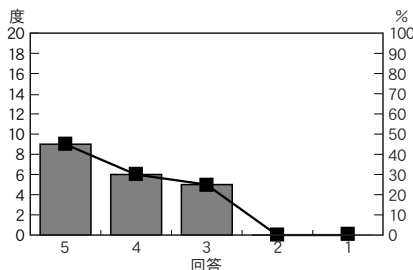
(有効な合計20)

■ 度 ■ %

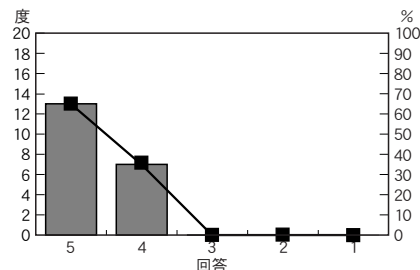
項目分析：(1)
目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



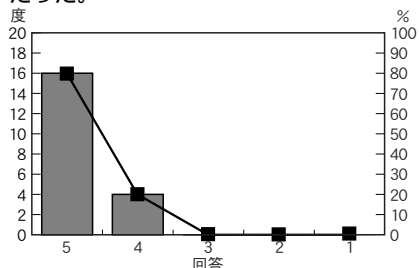
項目分析：(2)
成績評価の方法は、明確に示されていた。



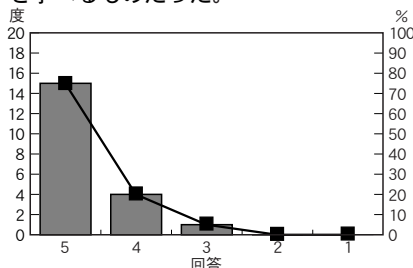
項目分析：(3)
授業内容は、授業概要に沿っていた。



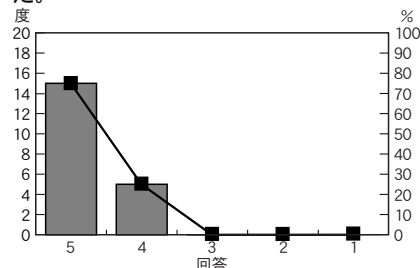
項目分析：(4)
授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



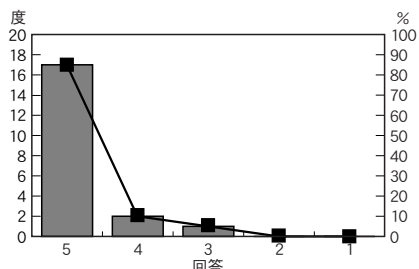
項目分析：(5)
授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



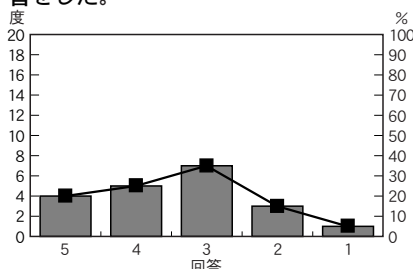
項目分析：(6)
授業内容は、興味・関心を引くものだった。



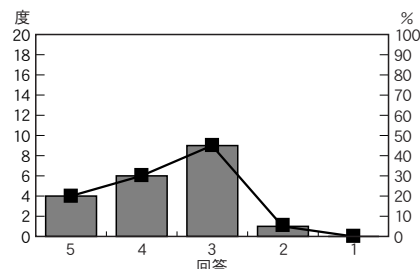
項目分析：(7)
授業によく出席した。



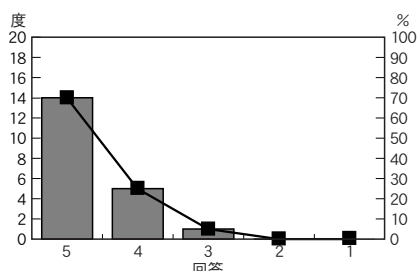
項目分析：(8)
授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



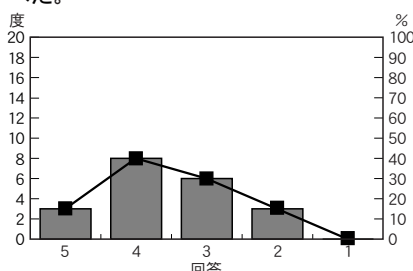
項目分析：(9)
授業中に積極的に発言や質問をした。



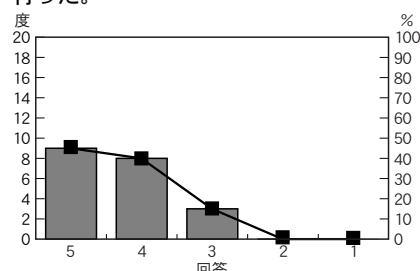
項目分析：(10)
教員の説明をよく聞いた。



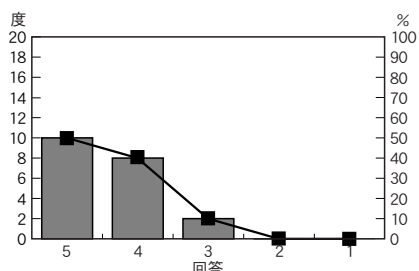
項目分析：(11)
分からないことや疑問に思ったことは調べた。



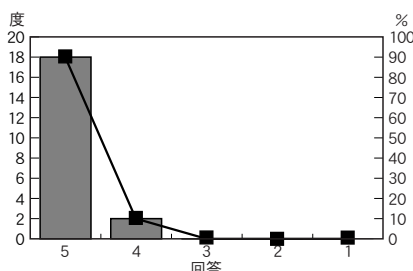
項目分析：(12)
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



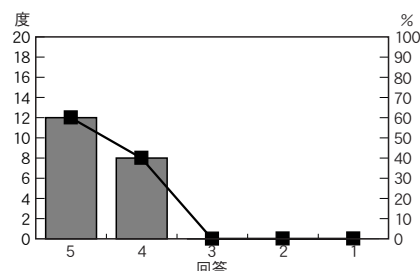
項目分析：(13)
学生が参加しやすい授業だった。



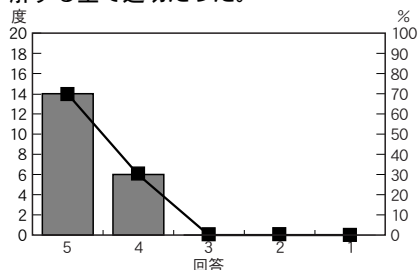
項目分析：(14)
熱心に指導した。



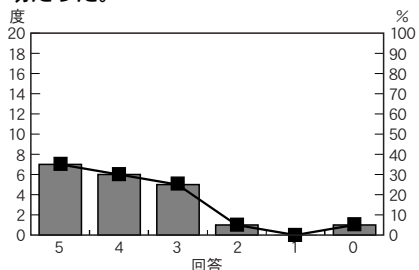
項目分析：(15)
授業内容を分かりやすく説明した。



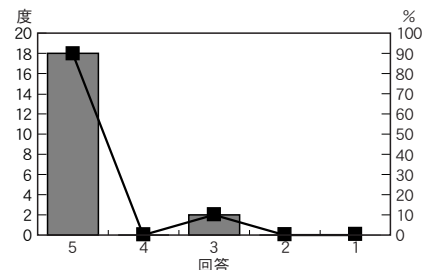
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



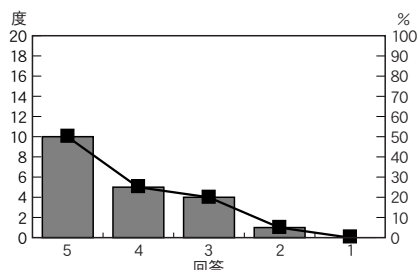
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



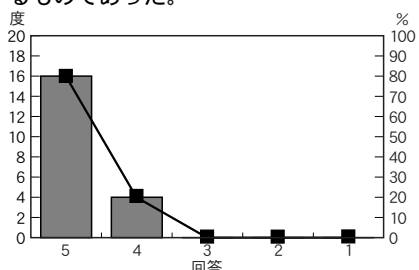
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業では、中学校社会科の実践（教科内容編成・授業・テスト問題等）から事例を引きながら、市民性育成を観点に、社会科教育の内容・方法・評価について講じた。今年度の授業は、授業担当者の在外研究活動の日程との関わりで、2月末に集中講義により展開した。そのため、例年組み込んでいる課題（授業構想・分析やテスト問題構成等）に対する学生の発表・討論活動に時間を取ることができず、授業担当者による講義が中心になってしまったことは、まずもって反省しなければならない。

本授業に対する20項目の評価の平均値は4.5、授業全体に対する学生の満足度を示す項目(20)の平均値は4.8であり、授業全体に対して概ね良好な評価を得ることができた。授業の内容に関わる項目(3)(4)(5)(6)の平均値は4.7、授業の展開・態度に関わる項目(12)(13)(14)(15)(16)(17)(18)(19)の平均値は4.5であった。これに対して、学生の授業への取組に関わる項目(7)(8)(9)(10)(11)の平均値は4.0であり、相対的に低くなった。学生たちが、よく授業に出席しながら、予習・復習が十分できなかった、あるいは発言や質問が十分できなかったと回答したのは、集中講義という形式によるところが大きかったと思う。授業担当者の側で、学生の主体的な学習を促す課題・時間・方法を適切に準備できていれば、これら項目の評価の値はもっと高くなったと思われる。次年度の課題としたい。

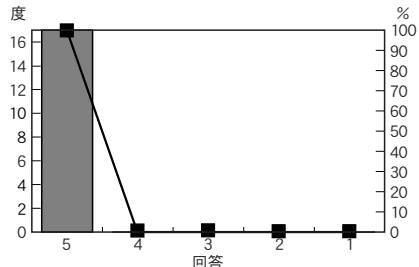
授業科目名：「中等社会科授業論」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 25 日
 担当教員名：草原 和博

(有効な合計17)

■ 度 ■ %

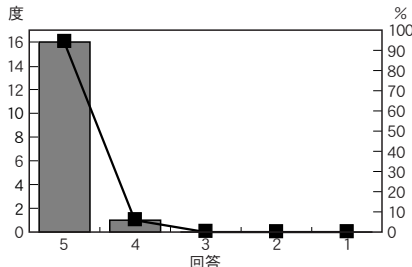
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



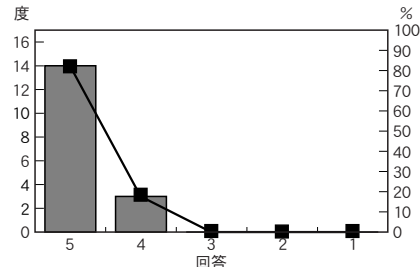
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



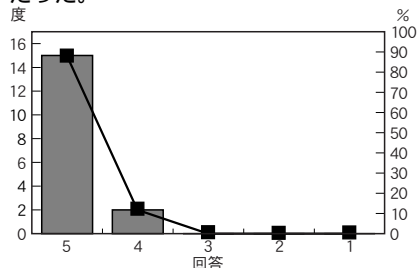
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



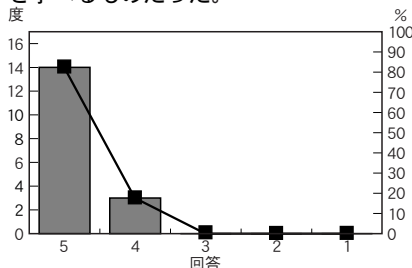
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



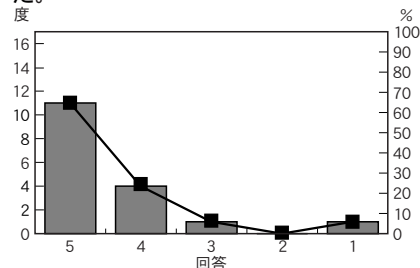
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



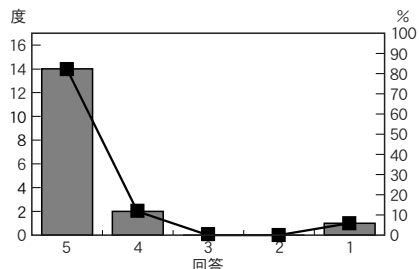
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



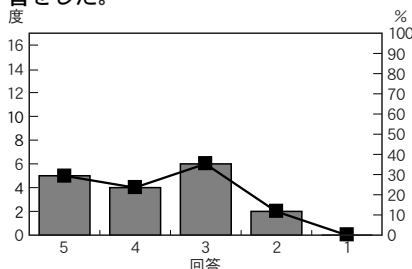
項目分析：(7)

授業によく出席した。



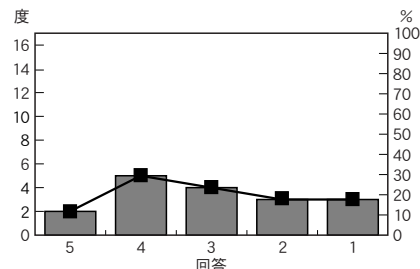
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



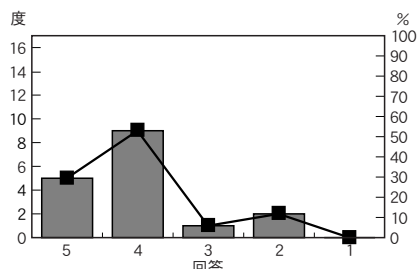
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



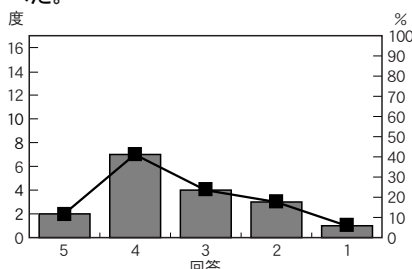
項目分析：(10)

積極的に課題に取り組んだ。



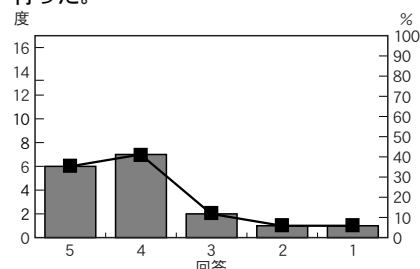
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



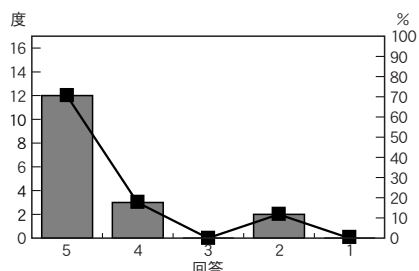
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



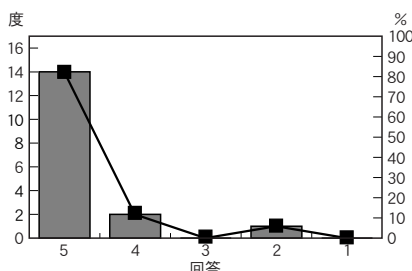
項目分析：(13)

学生参加型の授業だった。



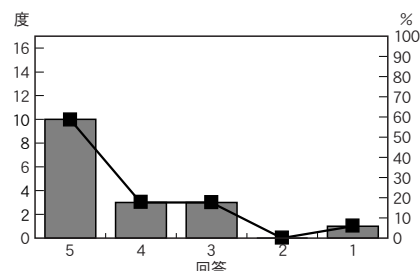
項目分析：(14)

熱心に指導した。

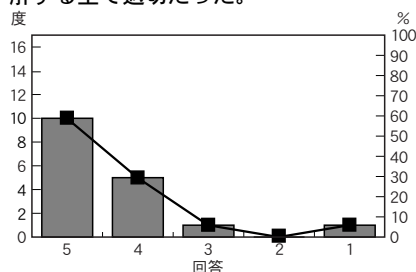


項目分析：(15)

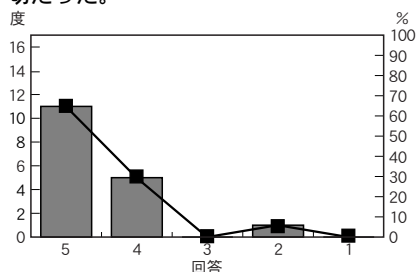
授業内容を分かりやすく説明した。



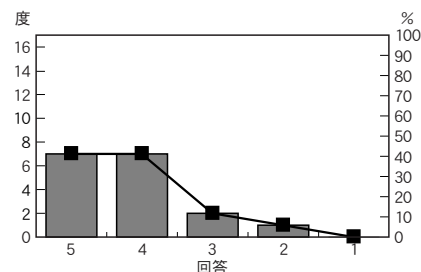
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



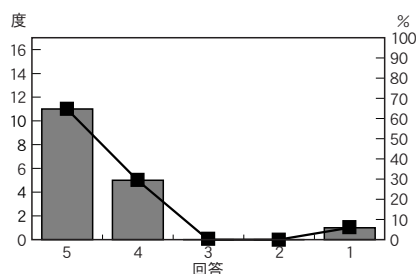
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



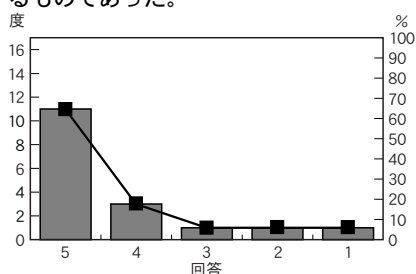
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

おおむね高評価が得られた。6割以上の受講生から「評点5」を得られたのは、項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 13, 14, 17, 19, 20である。昨年度評価の低かった「評価方法の明確さ(項目2)」が、大幅に改善された点は、特質に値する。

反省を要するのは、相対的に評価が低かった項目だろう。「評点5」が受講生の5割を下回ったのは、項目8, 9, 10, 11, 12, 18(授業内の発言と授業外での自己学習, 学生の理解状況の把握, 授業進度の速さ)。とくに、学生の自己評価に関わる項目8~11で厳しい数字が出ている。しかし、教員は、受講生の積極的な取り組みを大いに評価している。受講生の皆さんは、宿題の授業分析に相当な時間を割いて、その成果を発表していた。発表内容の質は高く、到達目標もクリアしていた。責任は教員の側にある。今後は、受講生が自ら学びの「楽しみ」や「意義」を実感できるような講義の持ち方を検討したい。

以下、自由記述の回答を紹介する(一部表現を簡略化)。「授業分析を通じて、授業の作り方が分かった」「学生が参加しやすかった」「分かりやすい説明で、取り残されるという感覚がなかった」「自分で考える機会があった、自分の考えと他人の考えの違いを知ることができた」「教師という職業の難しさを感じた」「内容が濃すぎて理解できないところがあった」「教員が学生の自由な意見を否定するところがあった」。

授業科目名：「社会科・地理歴史科指導論」

評価実施日：平成 19 年 1 月 29 日

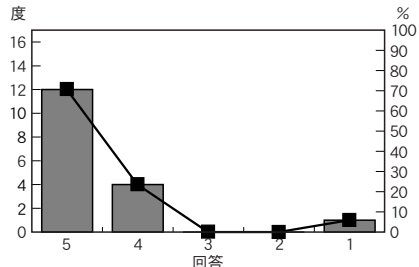
担当教員名：草原 和博，梅津 正美

(有効な合計 17)

■ 度 ■ %

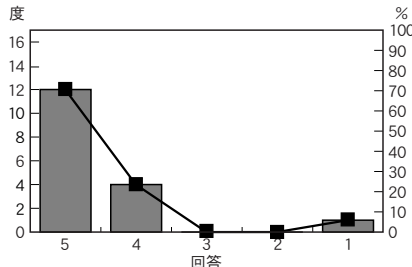
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



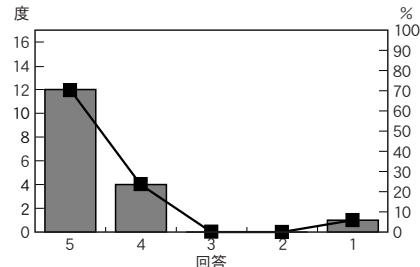
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



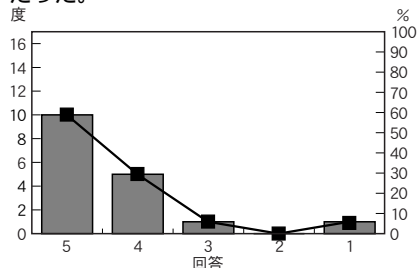
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



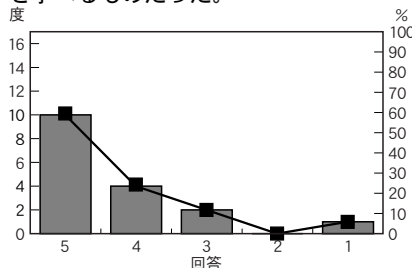
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



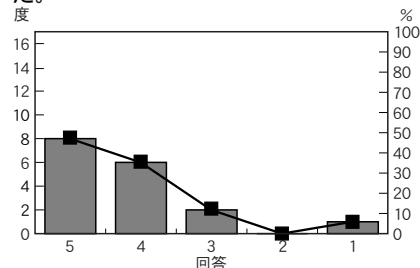
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



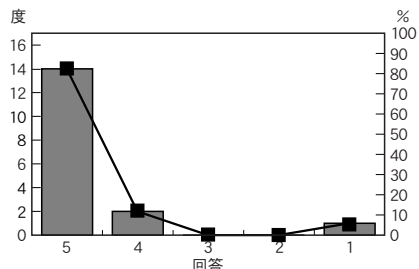
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



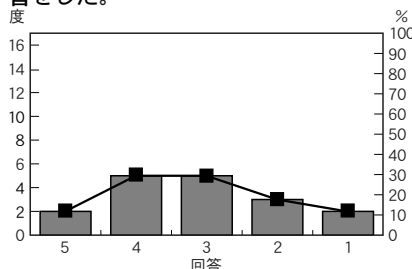
項目分析：(7)

授業によく出席した。



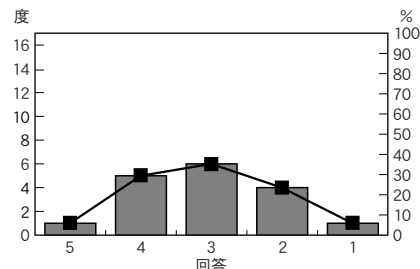
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



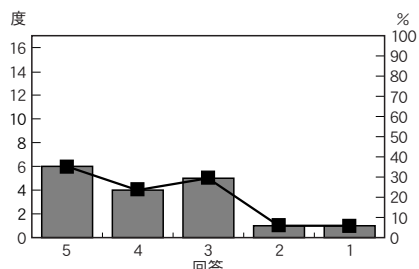
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



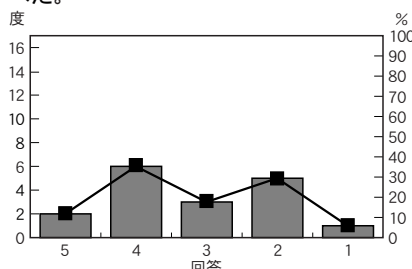
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



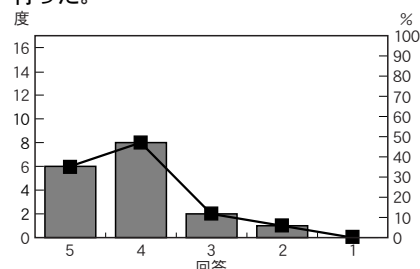
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



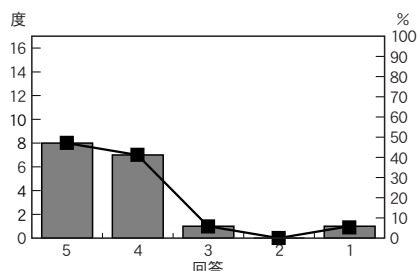
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



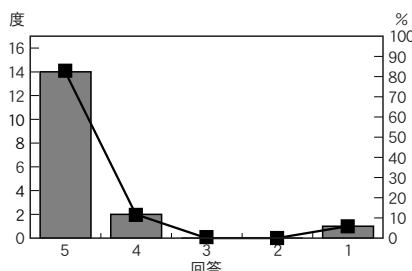
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



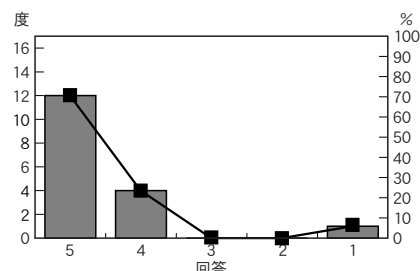
項目分析：(14)

熱心に指導した。

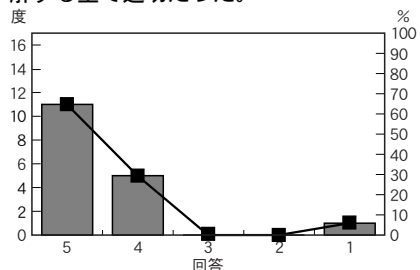


項目分析：(15)

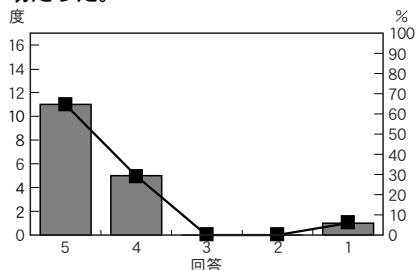
授業内容を分かりやすく説明した。



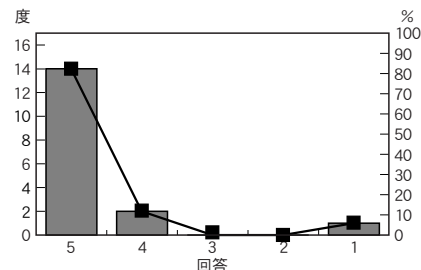
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



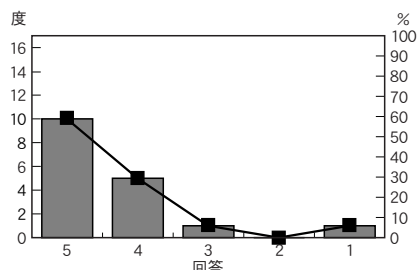
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



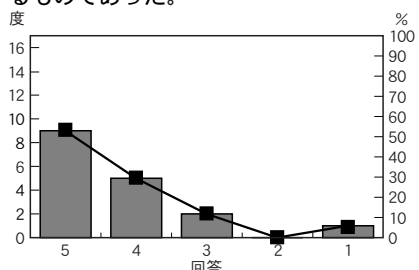
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

おおむね高評価が得られた。学生の満足度（項目 20）において評点 5 が 5 割を越えたのは、とくに以下の項目が高く評価されたためと推察される。目標・内容の明確さ（項目 1）、評価基準の明確さ(2)、授業計画への準拠(3)、熱心な指導(4)、分かりやすい説明(5)など。これらの項目では、評点 5 のみで 7 割以上を占めている。なお、専門性を養う(4)、教育に対する見方・考え方を養う(5)、興味・関心(6)、配布資料(16)、機器使用(17)、進度の適切さ(18)でも、評点 4 以上が 8 割を占める。本授業のねらいに直結する項目で高い評価が得られているので、一定ラインはクリアしていると解される。

反省を要するのは、評点 5 が 5 割を下回った学生の理解状況の確認（項目 12）であろう。次年度はこの点を踏まえ、受講生との関わり方を改善したい。

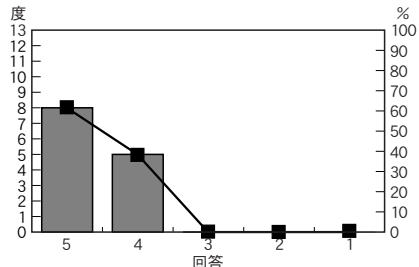
なお、学習参加（項目 8～11）に関する学生の自己評価は全般的に低い＝過剰に厳しい。しかし、教員は学生の取り組みを大いに評価している。受講者の大半が本授業を「学生参加型」と認めるように（参加のしやすさを問うた項目 13 では、評点 4 と 5 で 9 割を占める）、学生は積極的に予習とレポート作成に取り組み、所定の成果を修めていた。以下、自由記述を紹介する。「学生に活動させたり考えさせるものが多かった」「課題が与えられることで授業がよく分かった」「教員になったときすぐに使える実用性のあるものだった」。

授業科目名：「公民科教育論」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 25 日
 担当教員名：西村 公孝

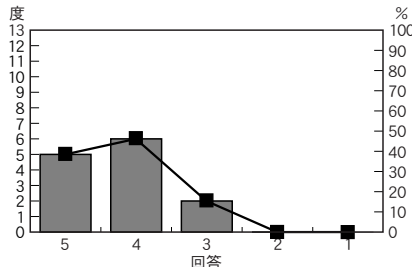
(有効な合計13)

■ 度 ■ %

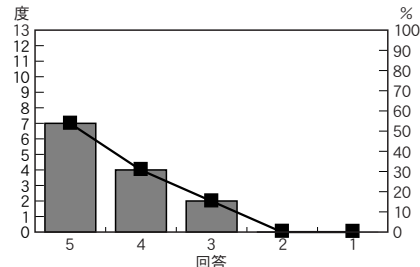
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



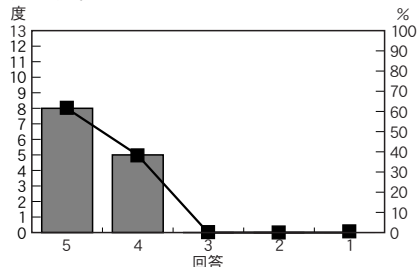
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



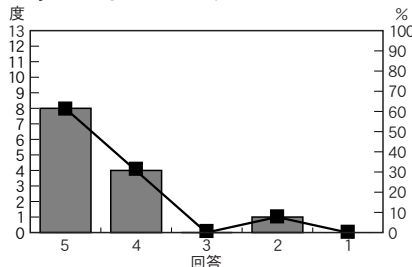
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



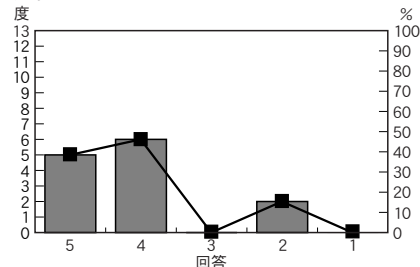
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



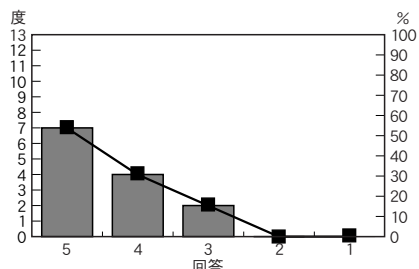
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



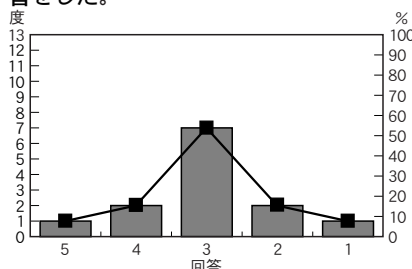
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



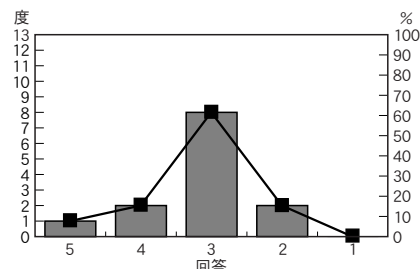
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



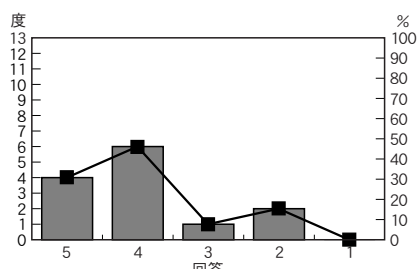
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



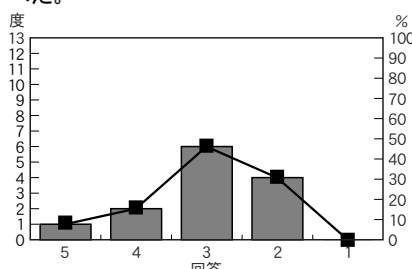
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



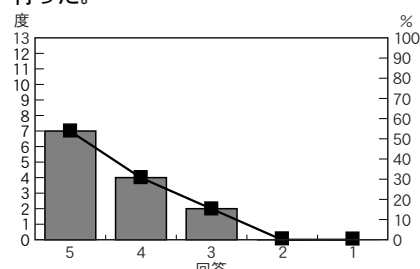
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



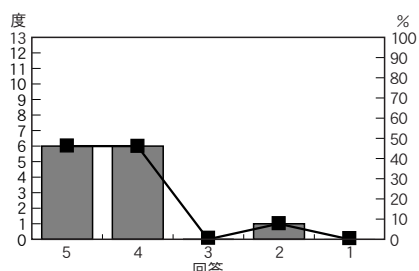
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



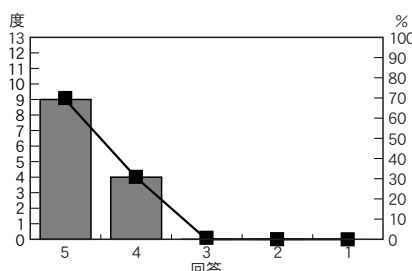
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



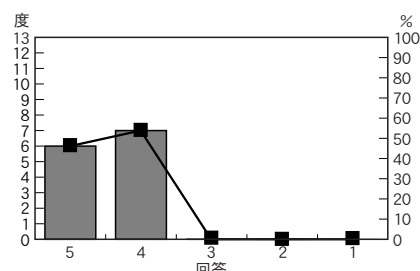
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



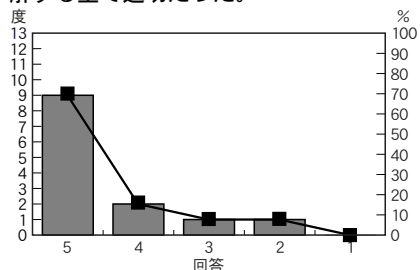
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



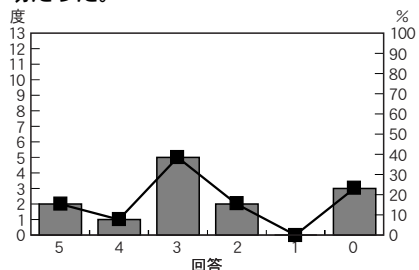
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



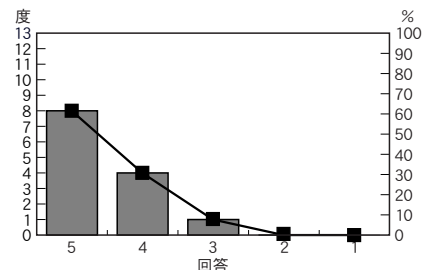
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



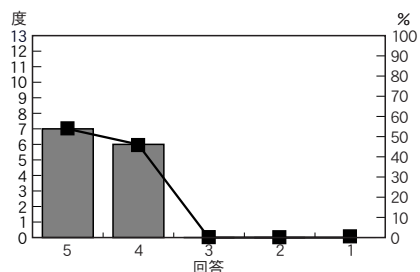
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



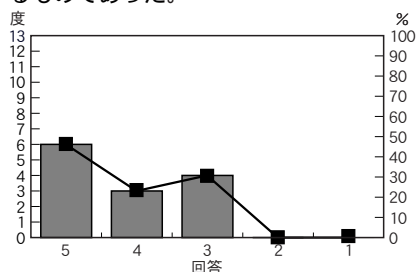
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は高等学校公民科の免許取得のための理論的講義であり、小学校及び中学校教員養成を目的とする大学の枠を越える内容もある。そのために、学生の評価では大旨、前向きなプラスの数値になっているが、積極的な受講態度という観点では課題がある。教科教育論は、教科の歴史、目標、教授内容、学習方法、評価など理論的な枠組みに関する説明が多くなり、学生の主体的な思考・判断・表現を積極的に取り入れるのには限界がある。

来年度は、今年度の学生評価を活かして一層学生の意欲を高めるような教材を取り入れ、積極的な受講態度を養い高等学校の教員を目指す実践的な科目にしていきたい。

授業科目名：「数学科教材論」

評価実施日：平成 18 年 7 月 25 日

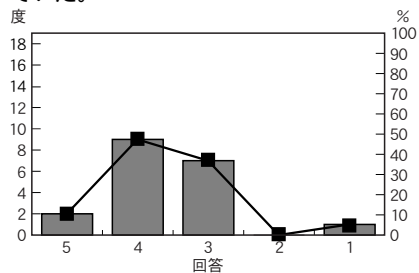
担当教員名：齋藤 昇, 秋田 美代

(有効な合計19)

■ 度 ■ %

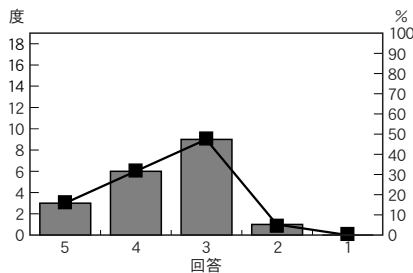
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



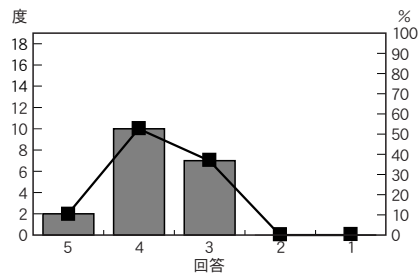
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



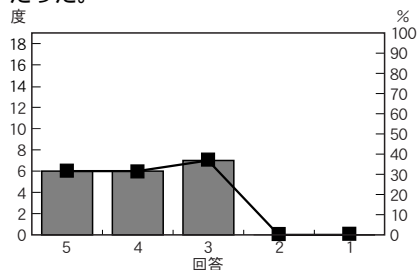
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



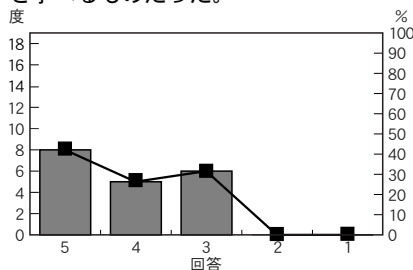
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



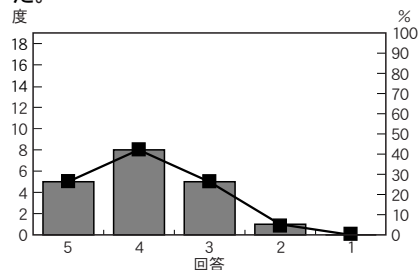
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



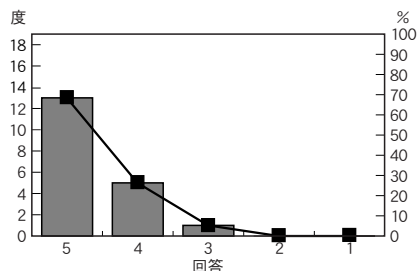
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



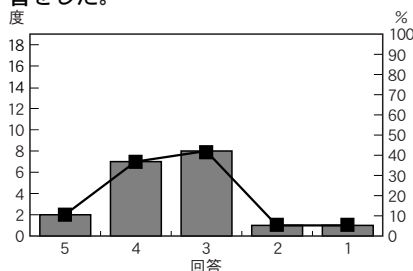
項目分析：(7)

授業によく出席した。



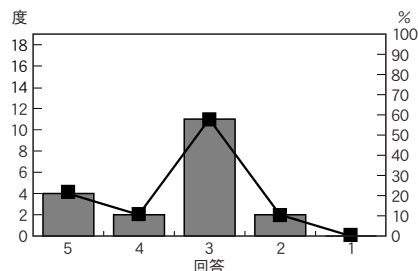
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



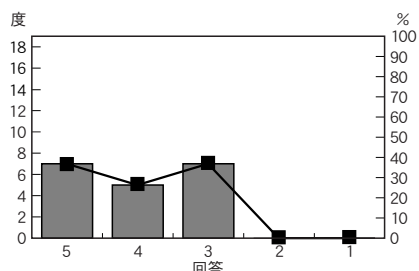
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



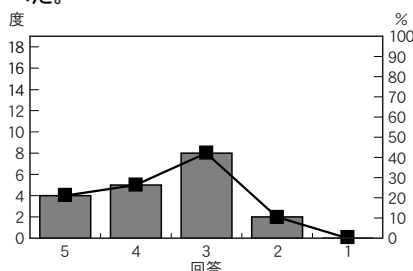
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



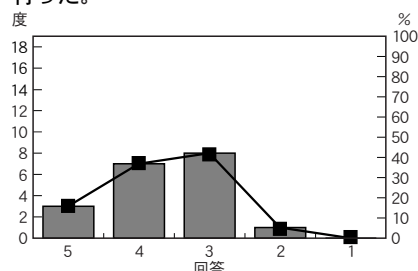
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



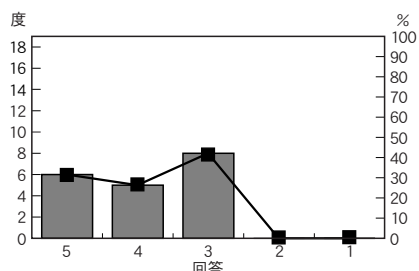
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



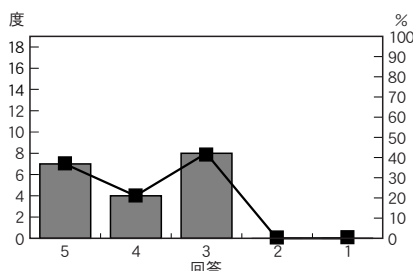
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



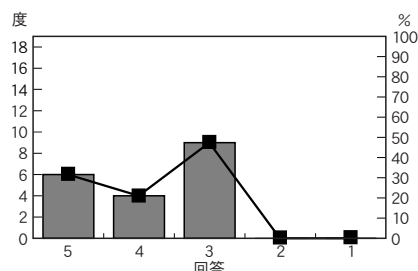
項目分析：(14)

熱心に指導した。

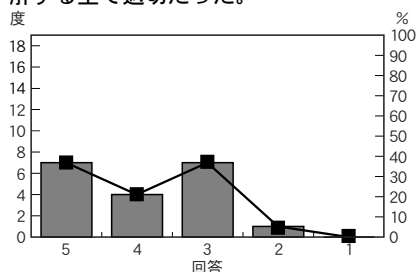


項目分析：(15)

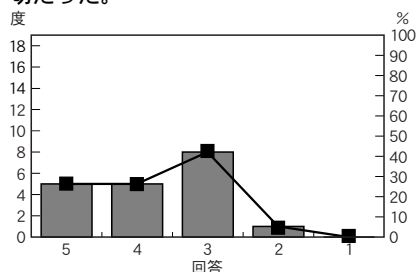
授業内容を分かりやすく説明した。



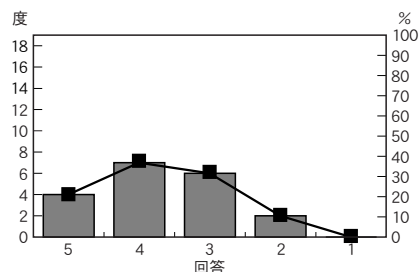
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



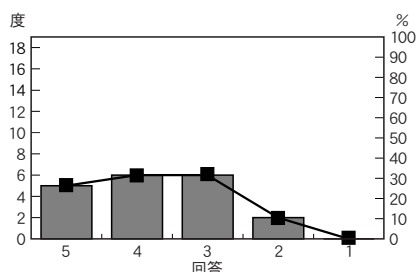
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



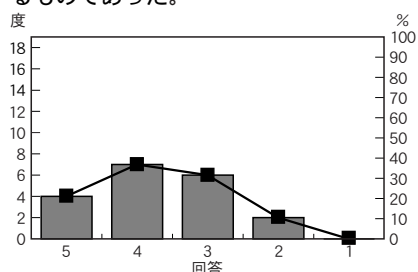
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業では、中学校数学科担当教員を目指す学生が、中学校数学の教科書に現れる教材・教具について、そのねらい・利用方法等を深く理解できること、さらに必要に応じて自ら教材を研究開発できる能力を育成することを目的とした。そこでは、まず学生の教材構造分析能力を高めるために、ISM教材構造分析の理論についての講義を行うとともに、実習を取り入れた。次に中学校数学の授業で使用する具体的な教材を開発し、その教材の教育的意義、実践方法を全員で考究する等の手法を取り入れた。

授業に対して、「非常にそうである」「かなりそうである」という反応を合わせると、受講生の約60～70%が、授業内容について「教養や専門性を高めるものだった」「教育に対する見方や考え方を学べるものだった」「興味・関心を引くものだった」、授業の進め方について「参加しやすい授業だった」「熱心に分かりやすく説明した」、授業に対する満足度について「満足できるものであった」と回答していた。また、記述式のアンケートでは、「数学教育の奥深さがわかった」「中学生の目線からの教材づくりができた」「数学の構造が見えてきた」等の回答があった。

これらの反応から判断すると、授業の目標は、おおむね達成できたと思われる。次年度も理論と実践を融合した授業を行うことを考えている。

授業科目名：「数学科教育学特論」

評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日

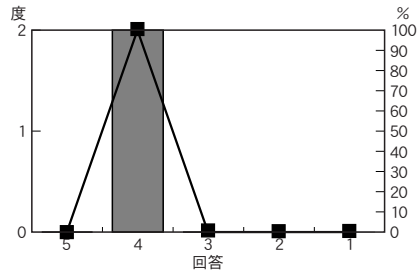
担当教員名：秋田 美代, 齋藤 昇

(有効な合計 2)

■ 度 ■ %

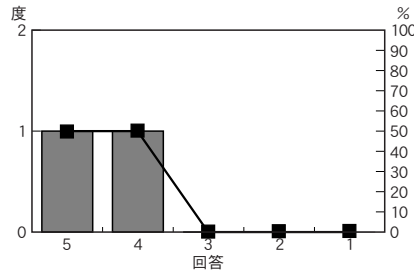
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



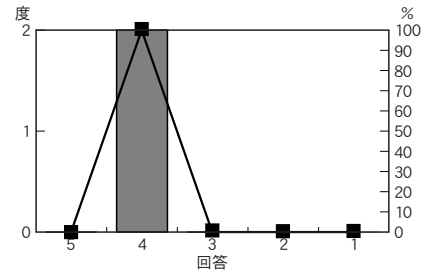
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



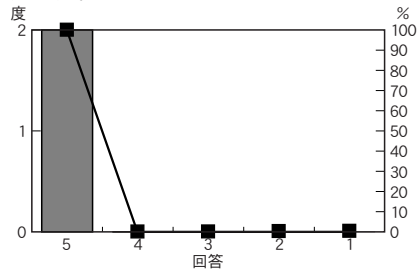
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



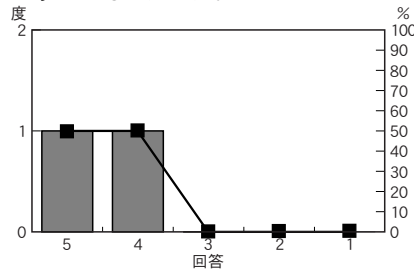
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



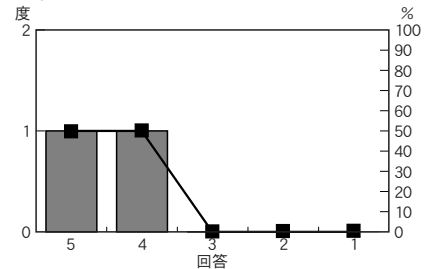
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



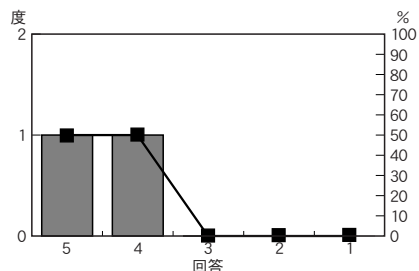
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



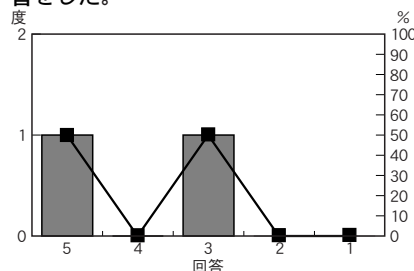
項目分析：(7)

授業によく出席した。



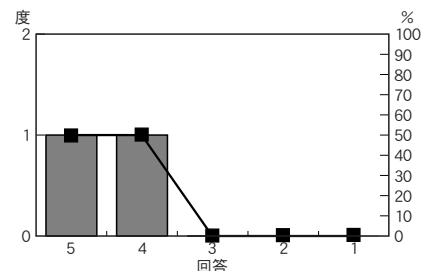
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



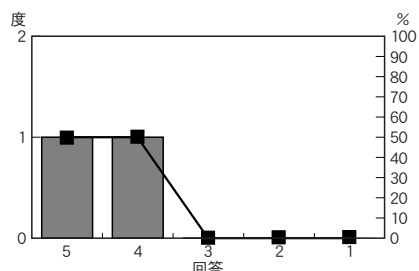
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



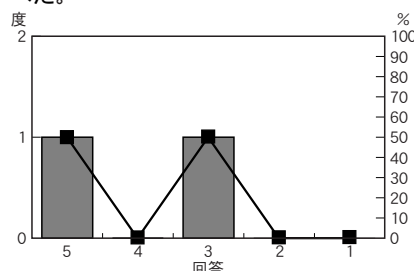
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



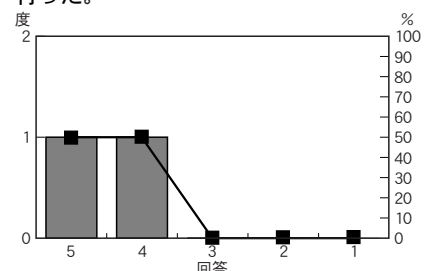
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



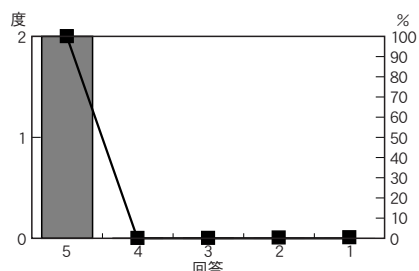
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



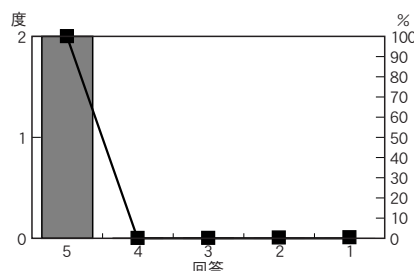
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



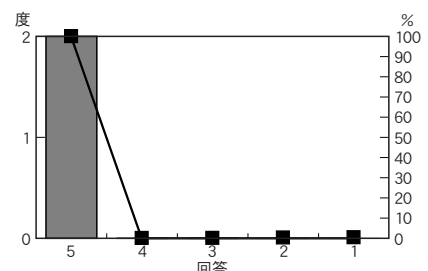
項目分析：(14)

熱心に指導した。

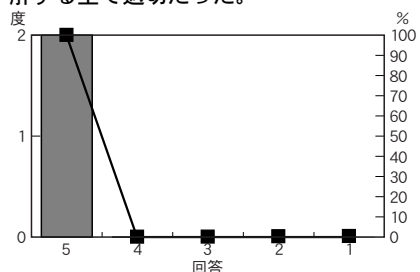


項目分析：(15)

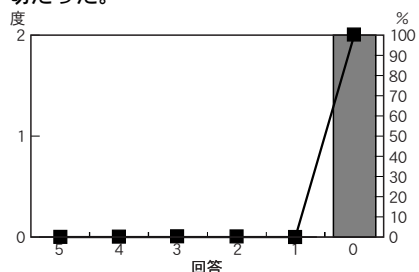
授業内容を分かりやすく説明した。



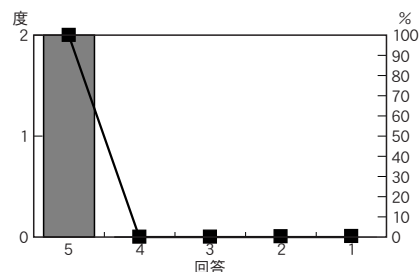
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



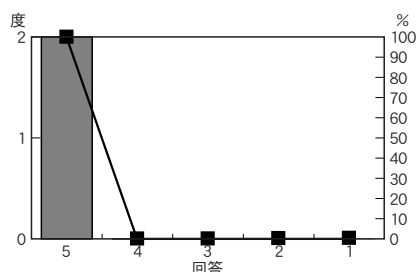
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



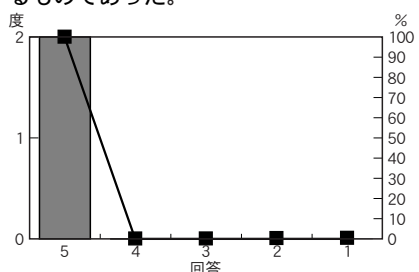
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

この授業では、数学科教育の現状と課題を明確にし、数学科教育の課題に対応した内容と指導方法、評価等に関する理論と実践方法についての理解を深めることをねらいとした。数学科教育の現状と課題を基にして、課題を解決するための授業設計、指導案作成、模擬授業等を行った。また、「課題学習」「選択数学」「総合的な学習の時間」等で使える題材について教材研究を行った。そこでは、生徒が意欲的に学習に取り組むための数学教材について討議した。

受講生が2名と少なかったので、教材作成や発表・討論に十分な時間を取ることができた。受講者は、授業実践方法、評価法等について強い関心を示し、意欲的に授業に取り組んだ。数学科の授業展開等における実践的な指導力の向上につながる資質や能力が養えたものとする。

授業科目名：「中等音楽科教育論Ⅱ」

評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日

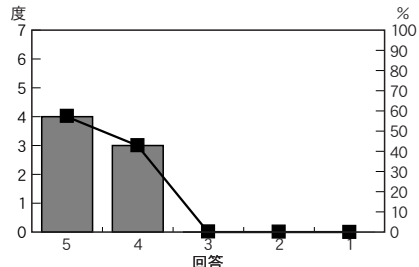
担当教員名：西園 芳信

(有効な合計 7)

■ 度 ■ %

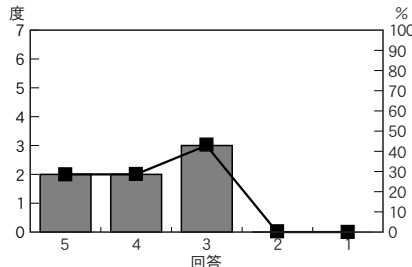
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



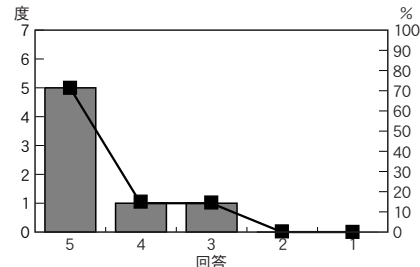
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



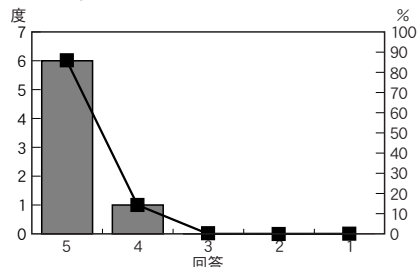
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



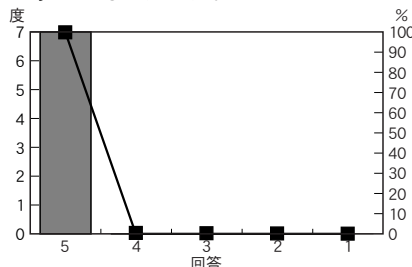
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



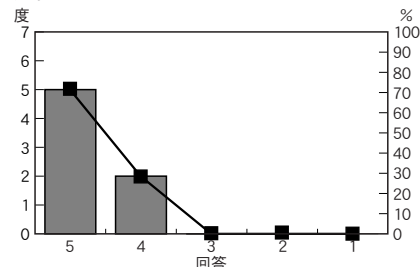
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



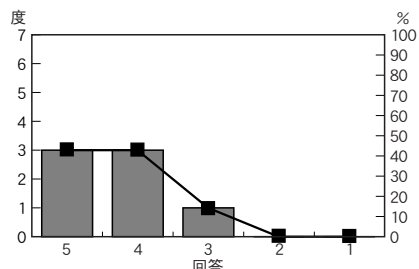
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



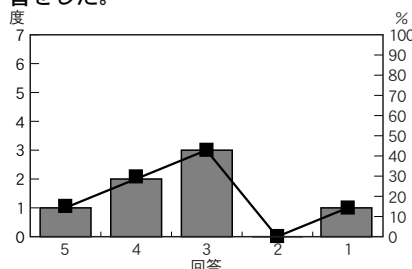
項目分析：(7)

授業によく出席した。



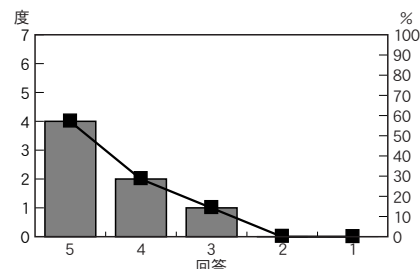
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



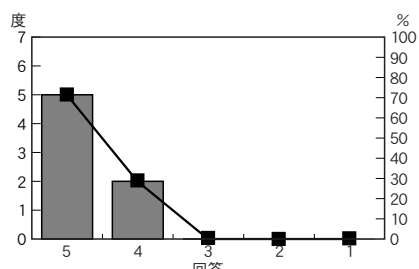
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



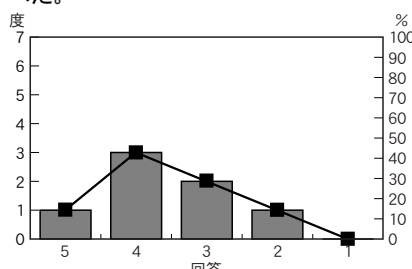
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



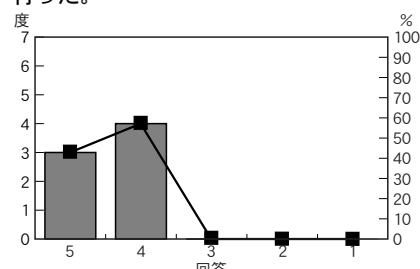
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



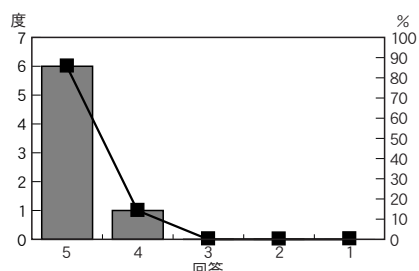
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



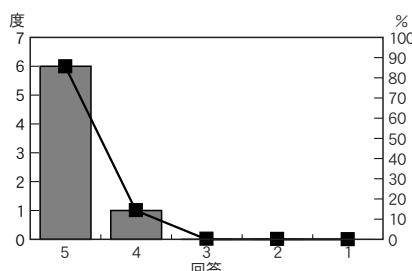
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



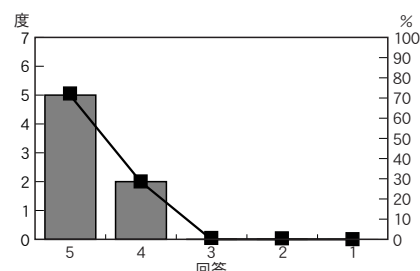
項目分析：(14)

熱心に指導した。

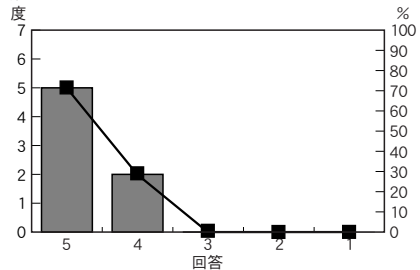


項目分析：(15)

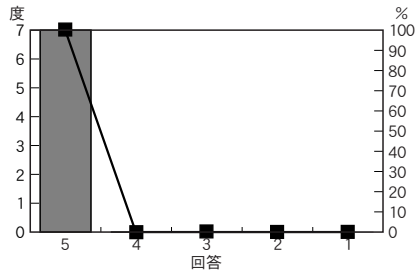
授業内容を分かりやすく説明した。



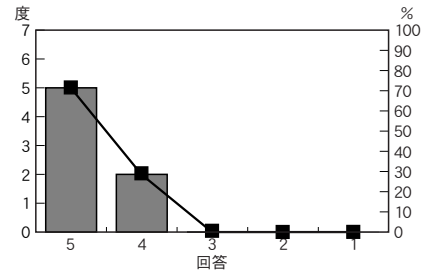
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



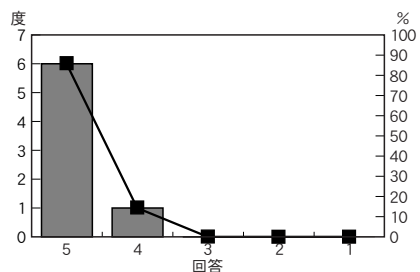
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



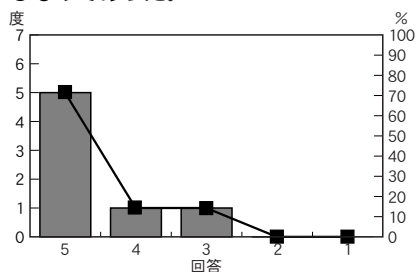
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

この「中等音楽科教育論Ⅱ」の授業は、中学校の教員としての実践的指導力を育成するためのもので、それを教育実践学の立場から展開するものである。そのため、この授業では、特に中学校の音楽科教科内容に基づき、学力育成と評価、単元構成、教材研究、指導案作成、模擬授業によって実践的指導力を育成することをした。

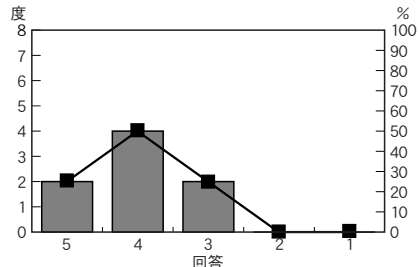
20項目の学生の評価結果は、5、4、3、に集中している。この評価結果から、この授業の目標を達成していると言える。

授業科目名：「美術科教育論Ⅰ」
 評価実施日：平成18年7月27日
 担当教員名：橋本 泰幸

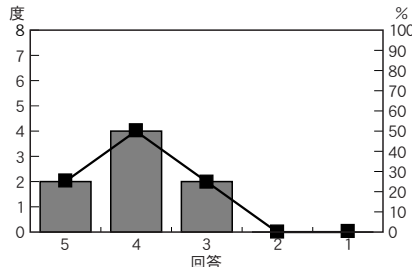
(有効な合計8)

■ 度 ■ %

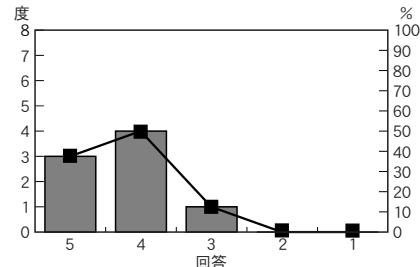
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



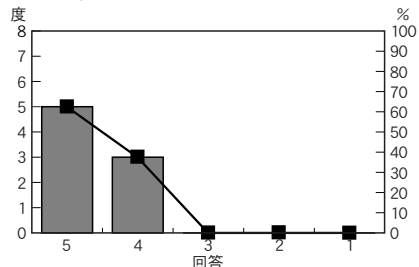
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



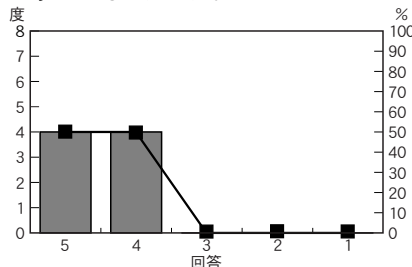
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



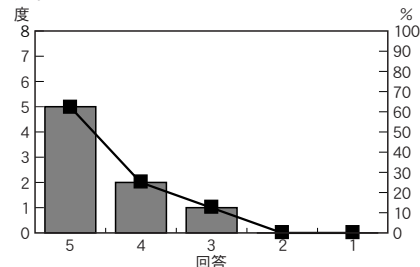
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



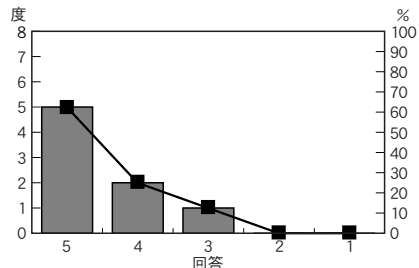
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



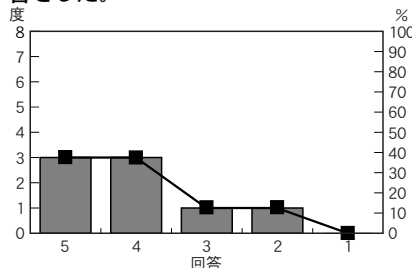
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



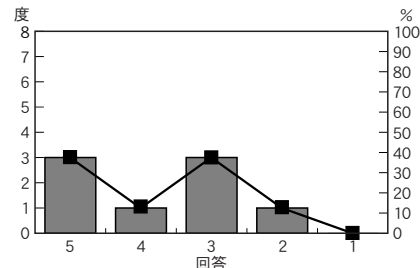
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



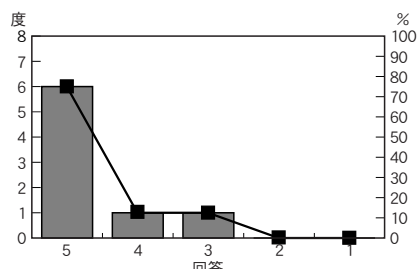
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



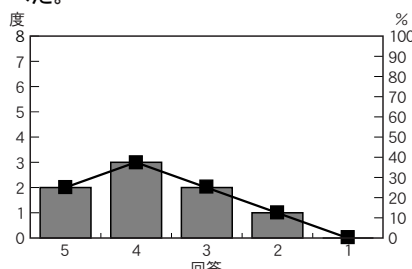
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



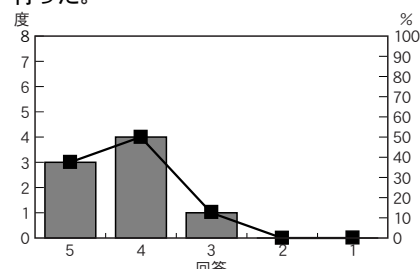
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



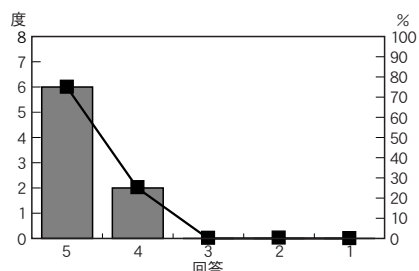
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



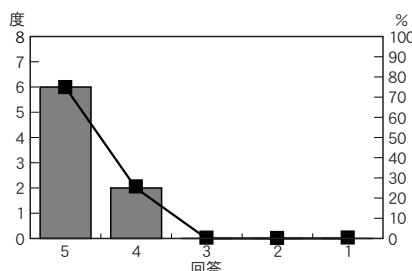
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



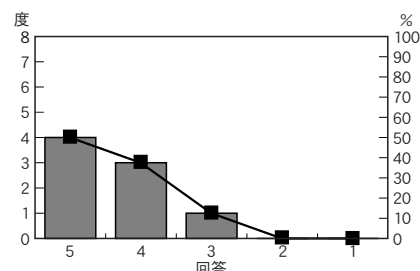
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



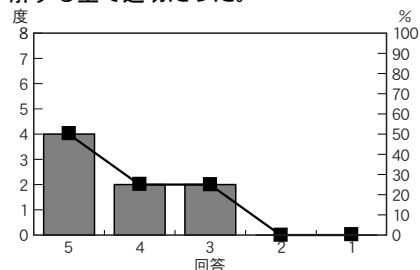
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



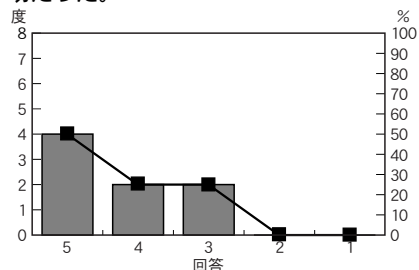
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



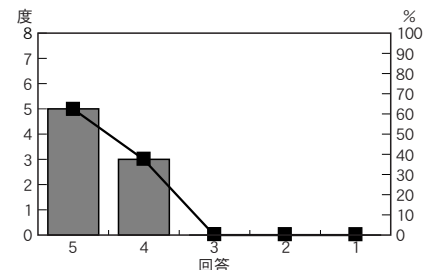
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



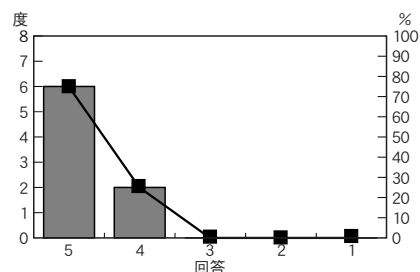
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



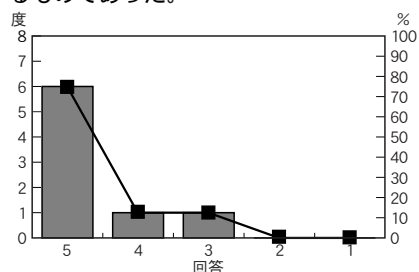
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

授業は総じて学生には好評であったと考えられる。

授業概要はほぼ正確に伝わったと考えられる。授業内容は学生に歓迎されたと判断できる。それが「授業に良く出席した」「興味・関心を引く」などの項目での高得点につながったのだろう。教員の授業の進め方について「学生が参加しやすい授業」「熱心に指導した」で大半の学生が賛意を示している。また、教員の声、授業の速度、とも適切であったことから「満足のできるもの」として受け入れられたのだろう。成功した授業と考えられる。

今後は、教職科目である本授業の内容が、絵画・彫塑などの制作研究に関係づけることで、さらなる満足感を与える授業としたい。

授業科目名：「美術科授業論」

評価実施日：平成 18 年 7 月 25 日

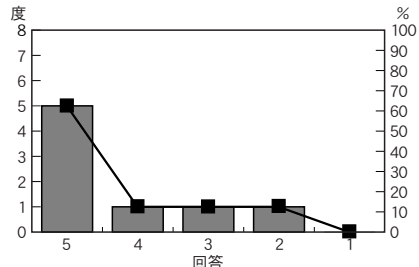
担当教員名：山木 朝彦

(有効な合計 8)

■ 度 ■ %

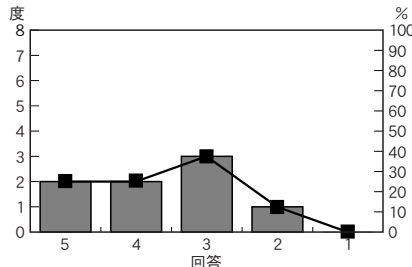
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



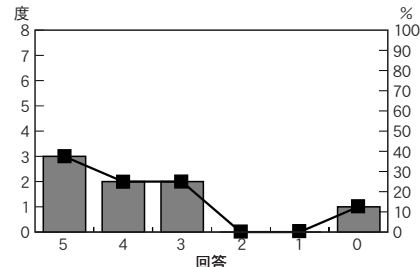
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



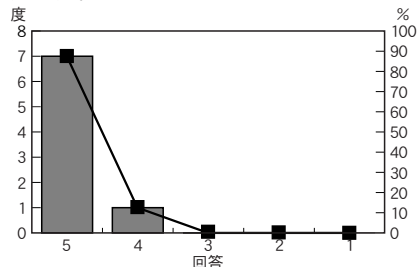
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



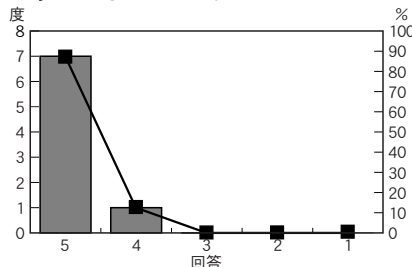
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



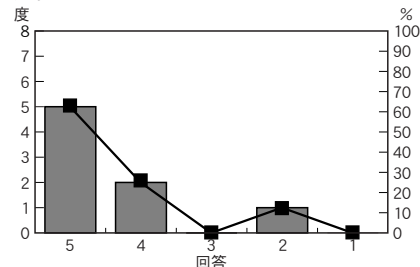
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



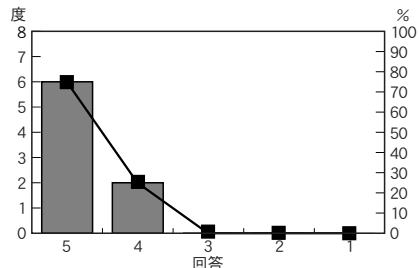
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



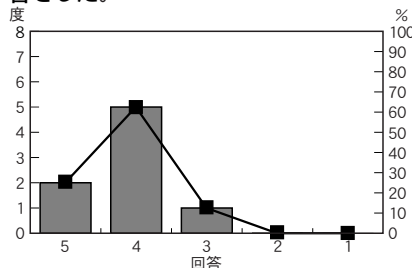
項目分析：(7)

授業によく出席した。



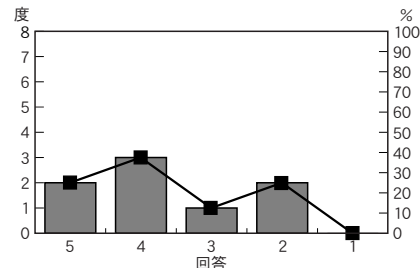
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



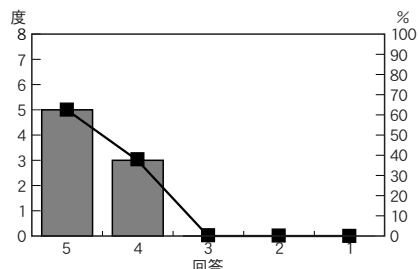
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



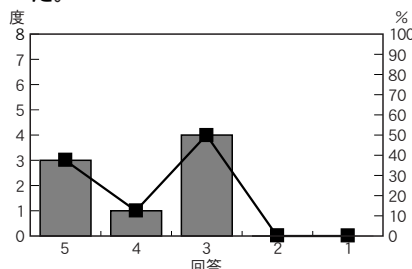
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



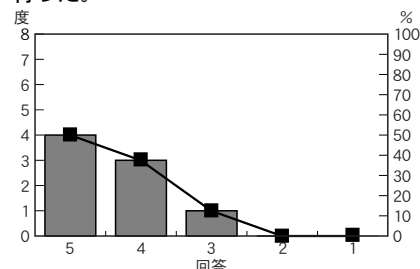
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



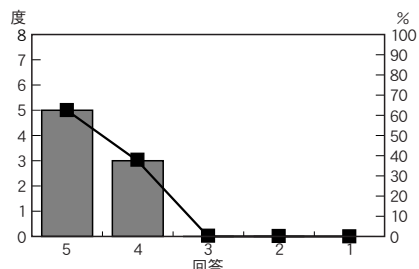
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



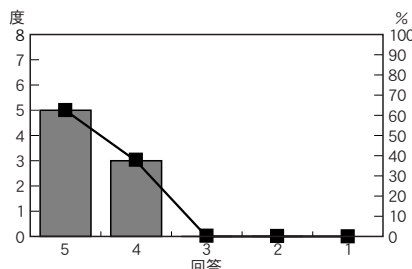
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



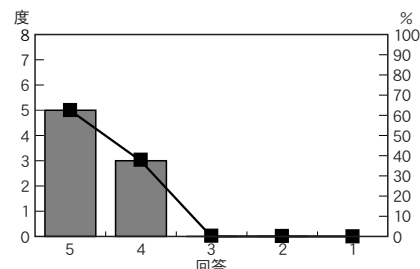
項目分析：(14)

熱心に指導した。

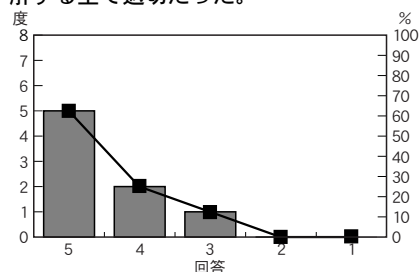


項目分析：(15)

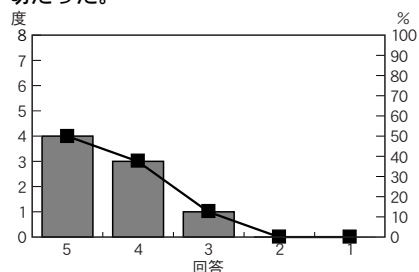
授業内容を分かりやすく説明した。



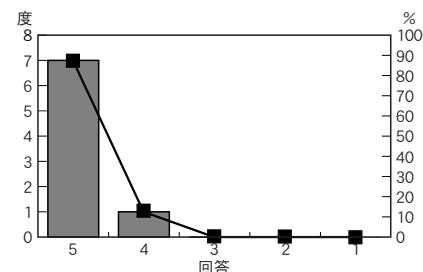
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



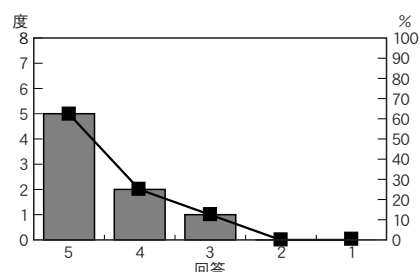
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



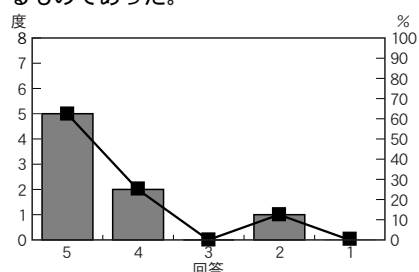
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

美術科授業論は、主として教材開発されたユニークな題材について、美術教育の基本的な理念や現実的な方法論など複数の観点から、その学習成果について検討する内容で進めた。

学習の形態は、学習者が教育専門雑誌などに紹介されている教材を選び出し、その特性を発表するという主体的な勉強が中心となるものであった。同時に、昨今の教員採用試験などにも対応するように、実践的な観点からのプレゼンテーションを行なうように学生に求めた。結果からみると、この目的にそのまま合致する問い4の授業内容は教養や専門性を高めるものだったかどうかの問いに、評価が良いところに集まったのは、授業者として励まされる思いである。同様に問い5の授業内容が教育に対する見方や考え方を学べるものだったかどうかを問う質問にも、受講生の全員が指標の5と4という良い評価を与えてくれたことは、授業者として、この授業の基本設計に間違いがないことを確認できてよかった。反対に評価がプラスとマイナスに分散した成績評価の方法については、今後、授業開始時のオリエンテーションのときだけでなく、授業中に繰り返し学生に伝え、不安や疑問をわずかにでも抱かれたいよう努めなくてはならないと反省している。

授業科目名：「保健体育科教育論Ⅱ」

評価実施日：平成19年2月5日

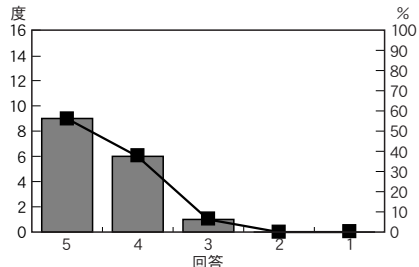
担当教員名：安藤 幸

(有効な合計16)

■ 度 ■ %

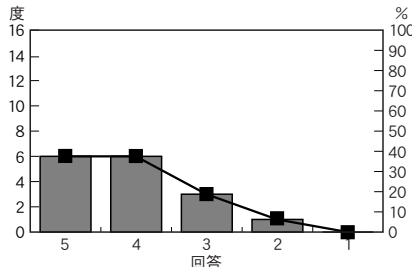
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



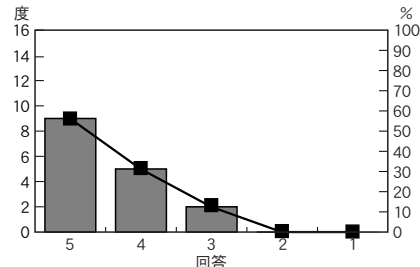
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



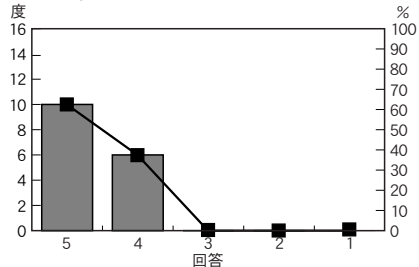
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



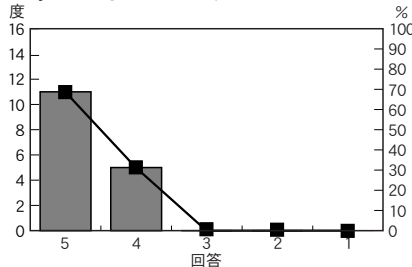
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



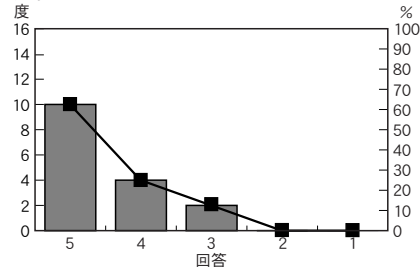
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



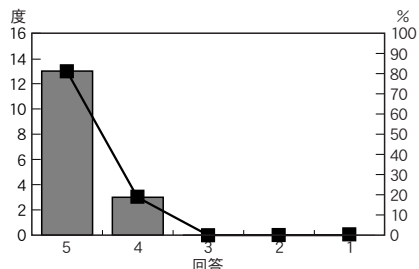
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



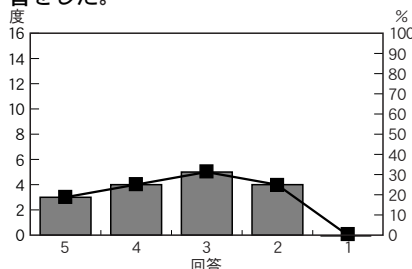
項目分析：(7)

授業によく出席した。



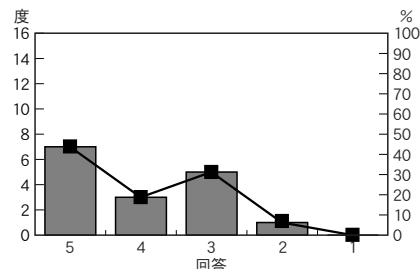
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



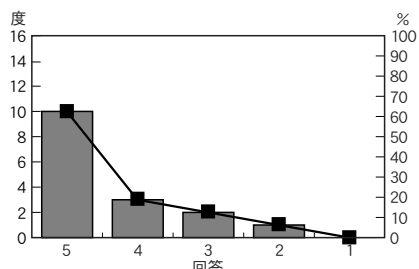
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



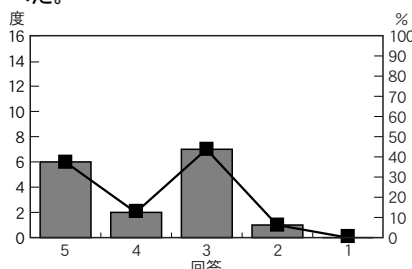
項目分析：(10)

積極的に課題に取り組んだ。



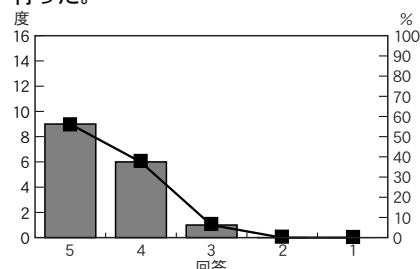
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



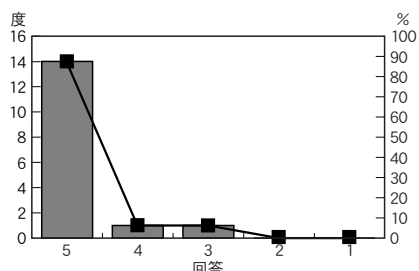
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



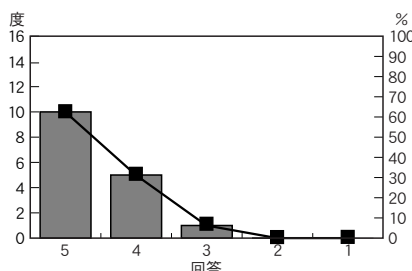
項目分析：(13)

学生参加型の授業だった。



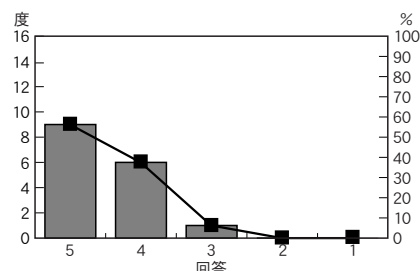
項目分析：(14)

熱心に指導した。

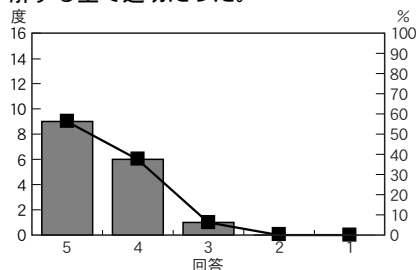


項目分析：(15)

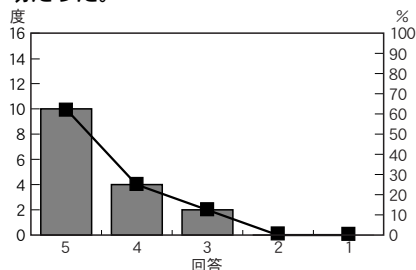
授業内容を分かりやすく説明した。



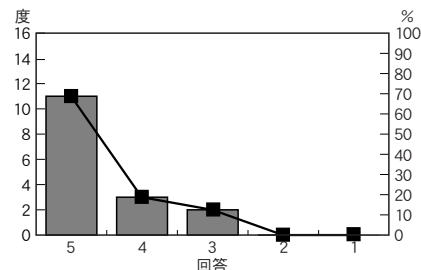
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



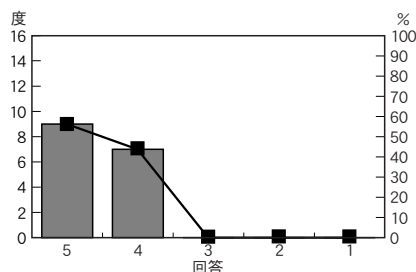
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



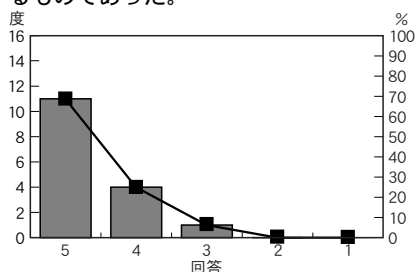
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

- 目標・授業計画・内容について「明確に示されていた」「かなりそうである」と回答した割合が、95%近くであった。しかし、成績評価の方法が、明確に示されていたかについては、「どちらともいえない」と回答した割合が、20%近く存在した。学生は、何でもって評価されているかについて十分に理解していないことが分かった。次年度はこの反省のもとに授業を進めていきたい。
- 授業内容については、90%近くが、授業概要に沿い、教養や専門性を高め、興味関心を引くものだったと回答した。このことは、授業担当者の意図したことが伝わり望ましいことである。
- 学生の授業への取り組みについては、100%が、授業によく出席したと回答したが、予習や復習は十分に取り組めなかったし、授業中積極的に発言や質問をしなかった。しかし、与えられた課題は、積極的に取り組んだと回答した。授業を受動的に受けとめていると考えられる。
- 教員の授業の進め方の「学生の理解状況を確認しながら」「学生参加型の授業で」「熱心に指導した」かについては、半数以上の学生が、「非常にそう思う」と回答し、「かなりそう思う」と回答した割合を加えると95%のものが、肯定的に回答した。一方、「学生の疑問や質問に適切に答えたか」については、「かなりそうである」と回答した割合が高かった。学生への対応が反省される。
- 授業に対する満足度は、70%近くが「非常にそう思う」と回答したが、「かなりそう思う」と4人に1人が回答していた。100%の学生が「非常にそう思う」と満足した授業であったと回答できるよう次年度は努力していきたい。

授業科目名：「保健体育科教育概論Ⅲ」

評価実施日：平成 19 年 2 月 15 日

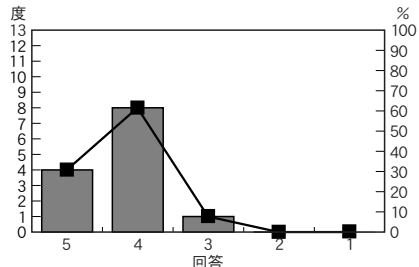
担当教員名：吉本 佐雅子

(有効な合計13)

■ 度 ■ %

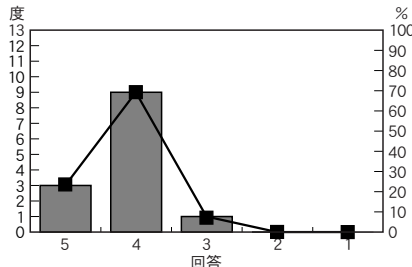
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



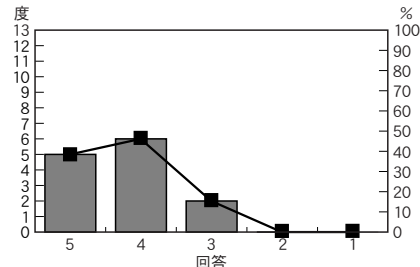
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



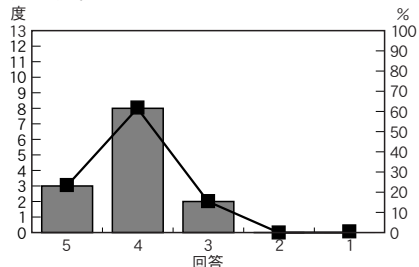
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



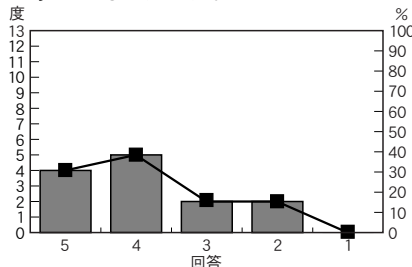
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



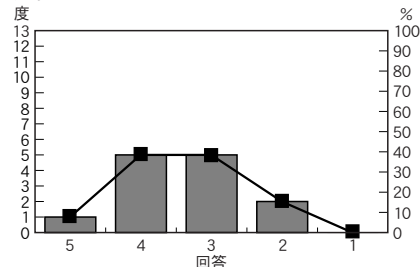
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



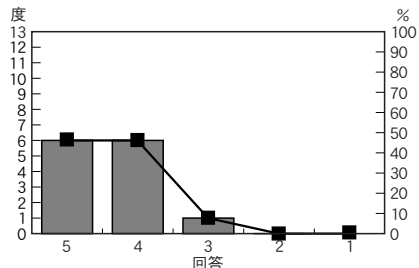
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



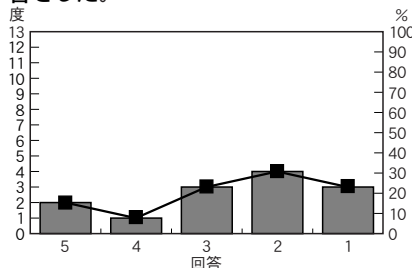
項目分析：(7)

授業によく出席した。



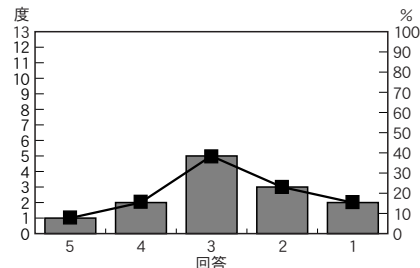
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



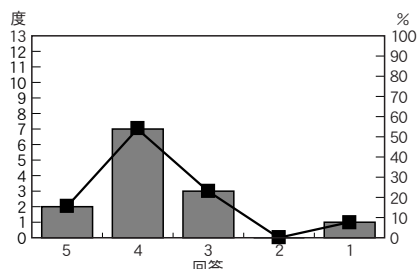
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



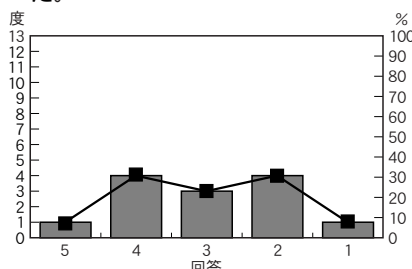
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



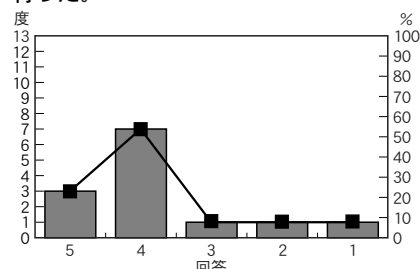
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



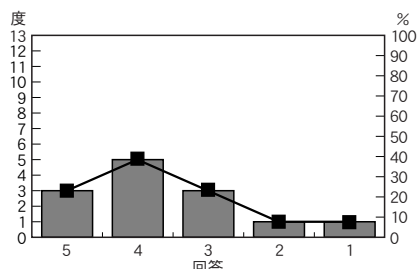
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



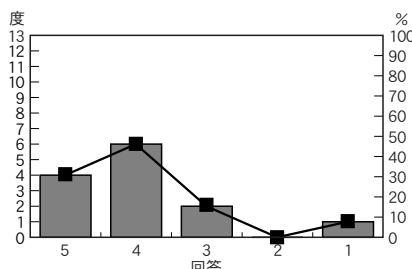
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



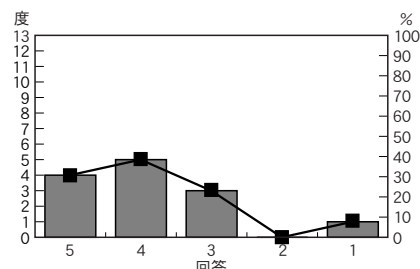
項目分析：(14)

熱心に指導した。

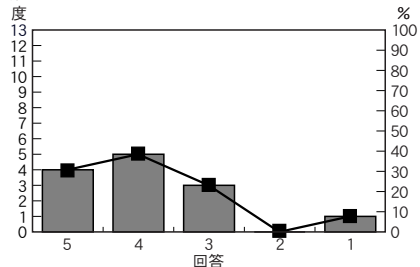


項目分析：(15)

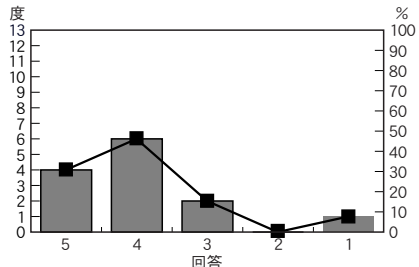
授業内容を分かりやすく説明した。



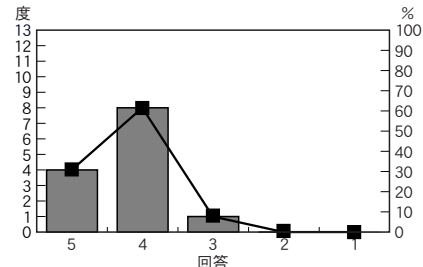
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



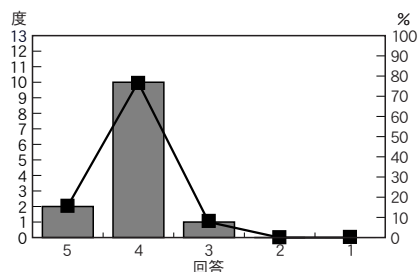
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



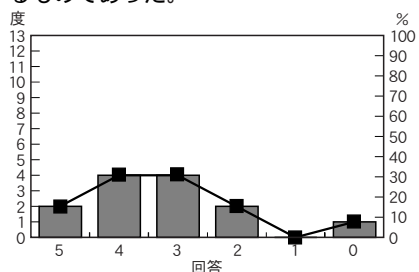
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業の昨年度の評価と比べ、全体的に低くなっており、残念である。昨年度の反省点に留意し、健康教育の理論とともに、今年度は実践部分を充実させたつもりであるが、かえって散漫な内容に受け取られたのかもしれない。

また、理由は定かではないが、授業場面から、学生とのコミュニケーションが足りなかったこと、また、授業の流れを十分理解させることができなかったことなどを反省点として受け止めている。これらを今後の課題としたい。

授業科目名：「保健体育科教育論Ⅳ」

評価実施日：平成 19 年 2 月 22 日

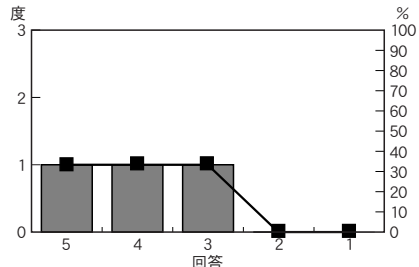
担当教員名：賀川 昌明

(有効な合計 3)

■ 度 ■ %

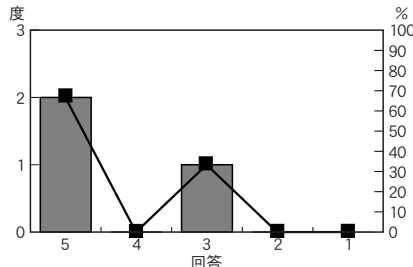
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



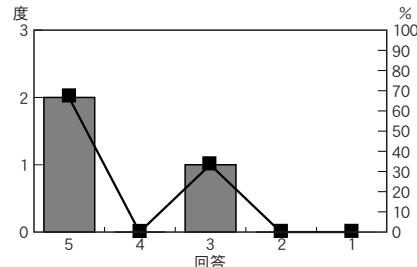
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



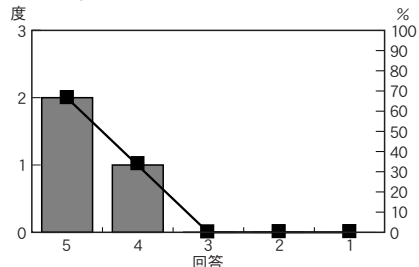
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



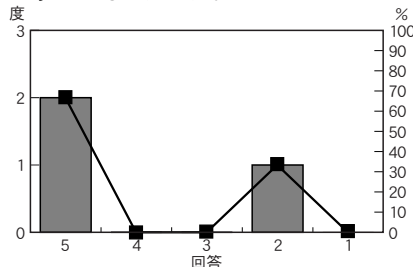
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



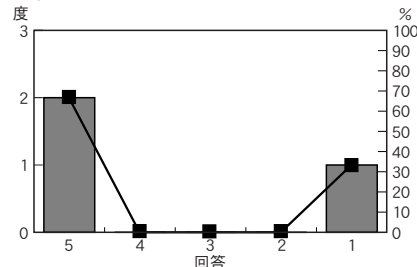
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



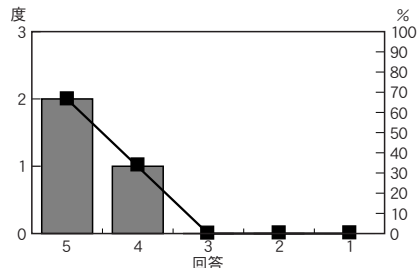
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



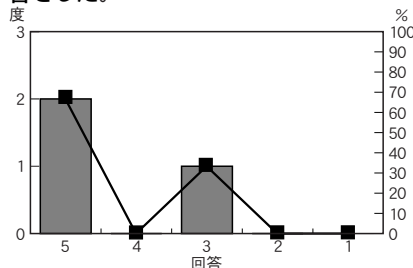
項目分析：(7)

授業によく出席した。



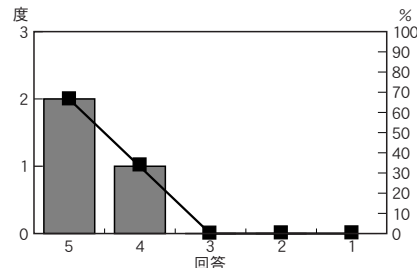
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



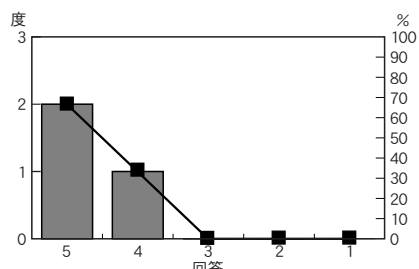
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



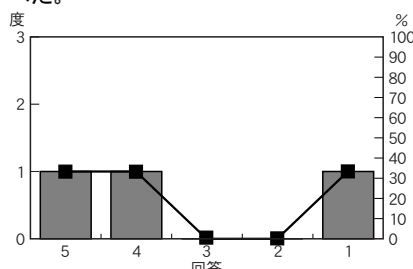
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



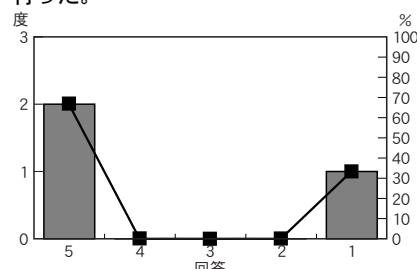
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



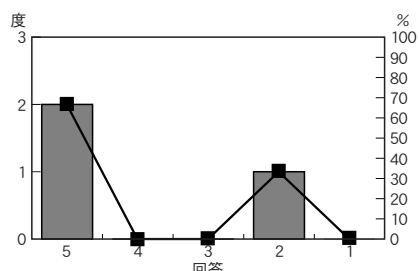
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



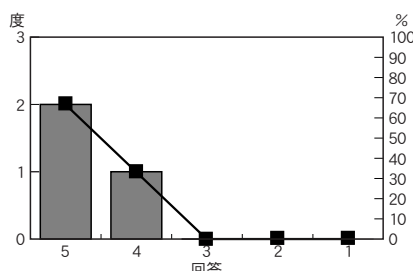
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



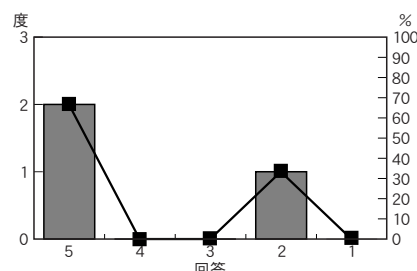
項目分析：(14)

熱心に指導した。

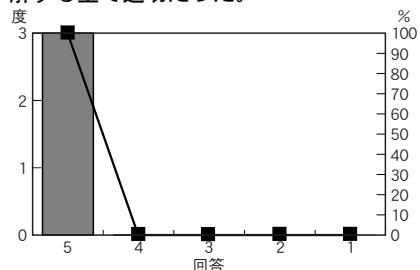


項目分析：(15)

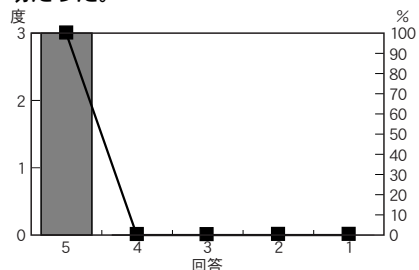
授業内容を分かりやすく説明した。



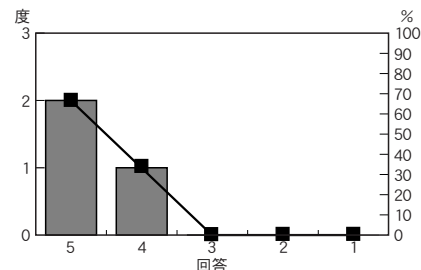
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



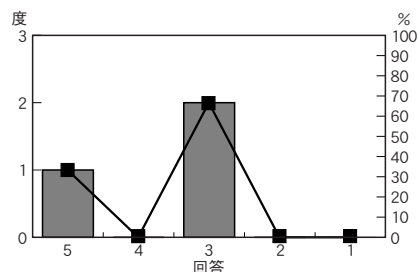
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



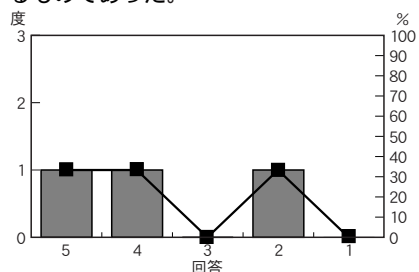
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

受講者数3名であったが、その評価は大きく異なっている。

3名のうち1名の評価は非常に低く、全項目による平均評価点は3.0であった。また、1名の評価は非常に高く、すべての項目で5を選択した。あとの1名は、その中間点ともいえる評価であり、4項目に4、1項目に3、残りの項目全てに5の評価であった。

これらの評価結果から授業中における履修生の学習態度や理解度を思い起こしたとき、次のようなことが推測される。まず尤も評価点の低かったのは、授業開始直後に怪我をし、授業に参加できなかった受講生と思われる。彼は休みの間、他の受講生から授業内容等に関する情報を得ることなく過ごし、授業に参加した時点ではかなりの後れをとっていた。授業者としては、その後れをカバーすべく、個別指導に時間をとったはずであるが、彼には全くその認識がない。一方、尤も高い評価を示した受講生は教員の説明をよく聞いて課題を順調にこなし、疑問が生じた場合は積極的に質問をしたり自分で調べたりしている。中間的な評価をした受講生の場合も、基本的には二番目の受講生と同様の学習態度であったが、最後の段階でシステムトラブルを起こしたことがマイナスに働いたように思われる。

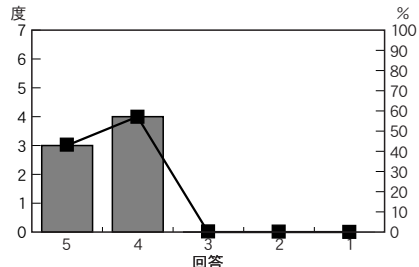
今回のように作業課題の遂行を中心とした授業の場合、その進行状況に応じた受講生の学習態度や理解度等によって、授業に対する評価が異なってくるように思われる。

授業科目名：「中等家庭科教育論」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日
 担当教員名：鳥井 葉子

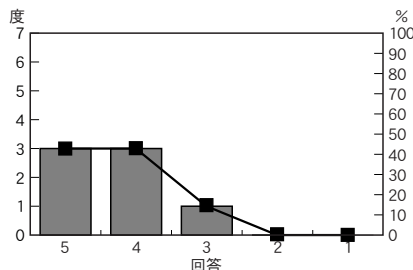
(有効な合計 7)

■ 度 ■ %

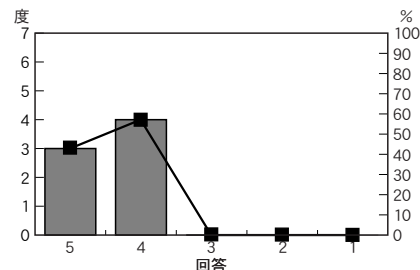
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



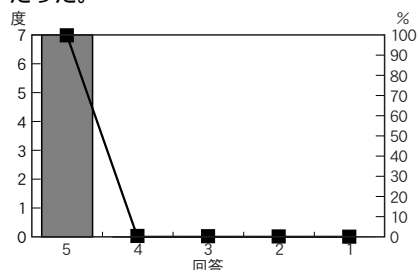
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



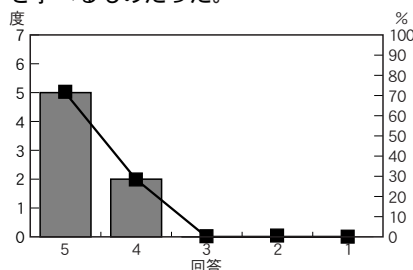
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



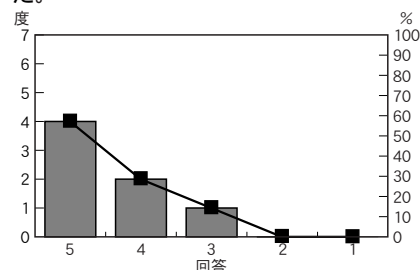
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



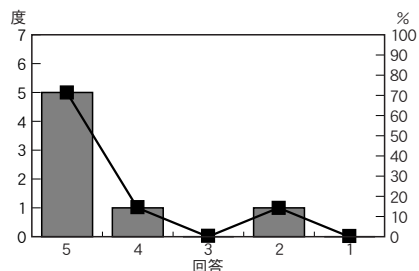
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



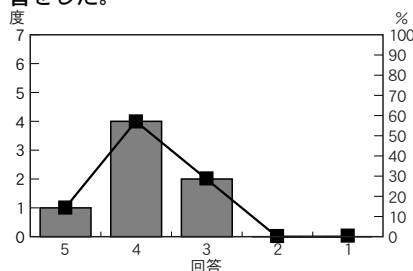
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



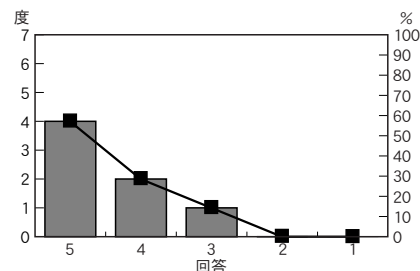
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



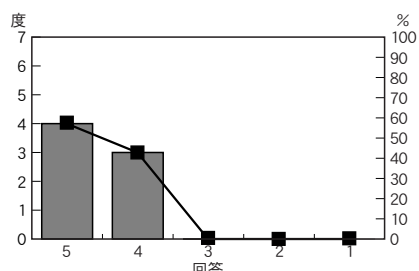
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



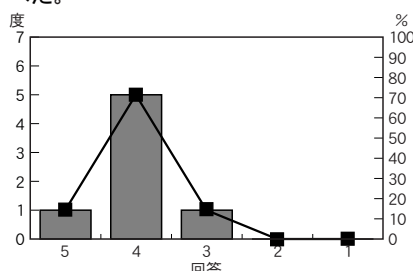
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



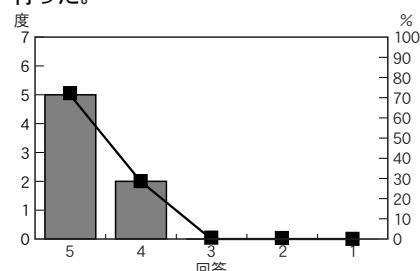
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



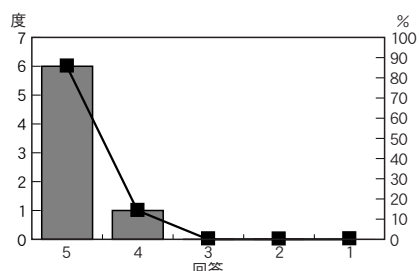
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



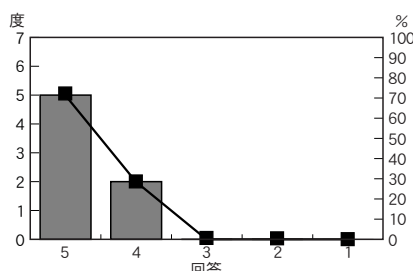
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



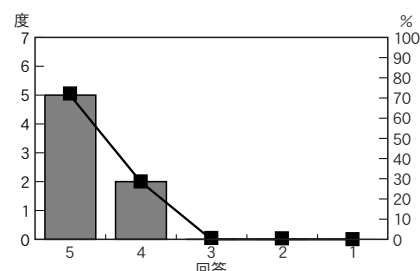
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



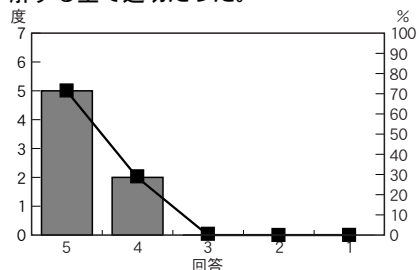
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



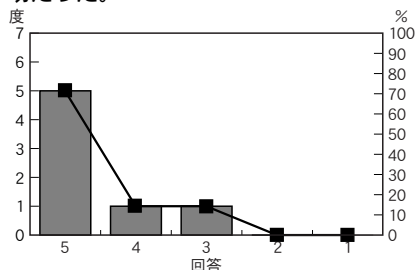
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



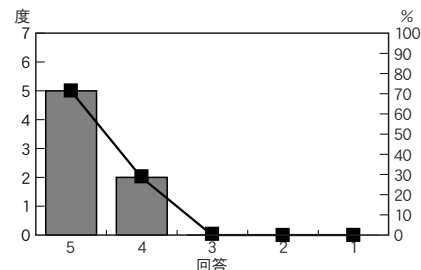
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



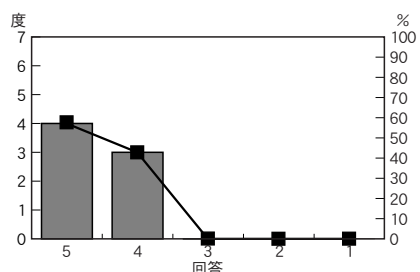
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



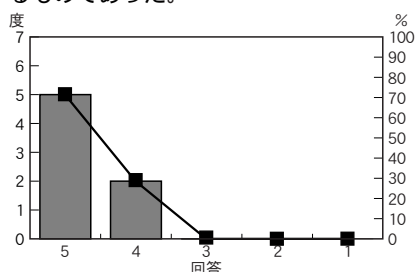
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

授業評価から、今後改善すべき課題として、授業評価の方法の明確化、興味・関心を引く授業内容の導入、授業中の発言や質問の活発化、機器の利用の適切化に取り組みたい。

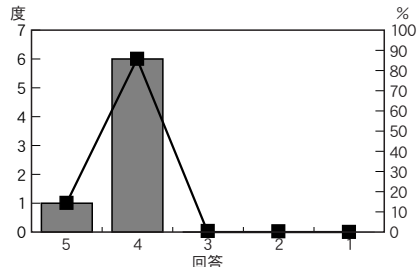
受講生からの提言「この授業でよかったこと」では「指導案の討論会有り、様々な角度から検討できて勉強になった。」「この授業で私は生まれて初めて指導案を書きました。それだけでも大きかったのですが、先生が優しく教えてくださったので、なんとなく形だけは書けるようになった気がします。」「指導案の書き方がよくわかった。」「指導案を書いても教員に提出するだけだったりして、学生がお互いの指導案について意見交換することはないので、この授業でできてとてもよかった。」「指導案を作成することにより実際に教師となるための良い練習になった。」「外部の先生の話が聞けたこと」であった。また、「この授業で改善したほうがよいと思うこと」は「ゲストティーチャーの話聞く機会があと1回くらい欲しい。」であった。学習指導案の作成については、授業実践の基盤であるので、今後も授業では重点を置いて行きたい。実地指導講師の先生による講義は1回であったが、次年度は校種の異なる実地指導講師の先生の講義を盛り込めるように検討したい。

授業科目名：「中等家庭科授業論」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 22 日
 担当教員名：鳥井 葉子

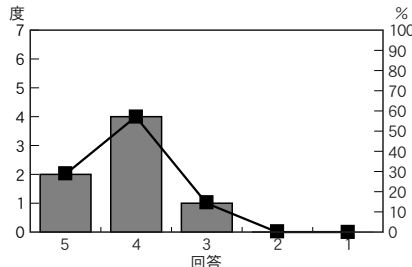
(有効な合計 7)

■ 度 ■ %

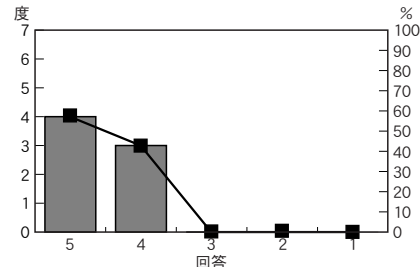
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



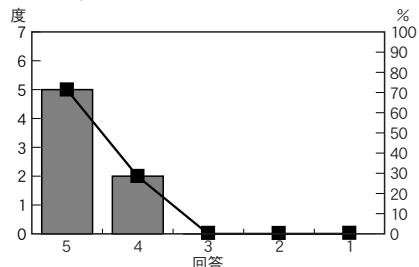
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



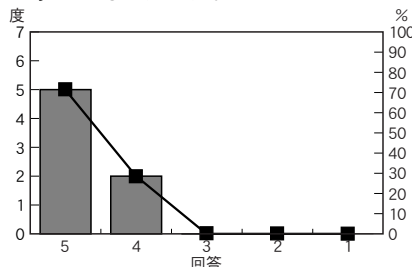
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



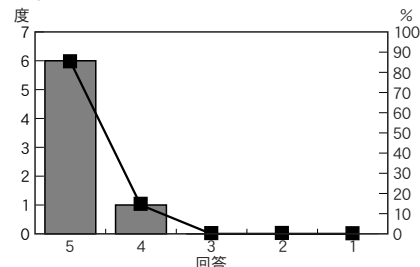
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



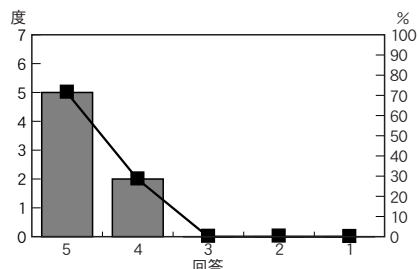
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



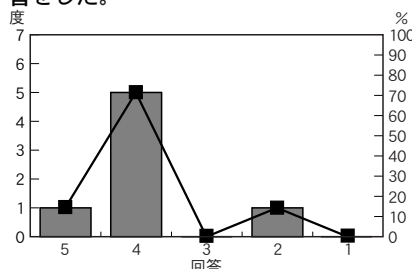
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



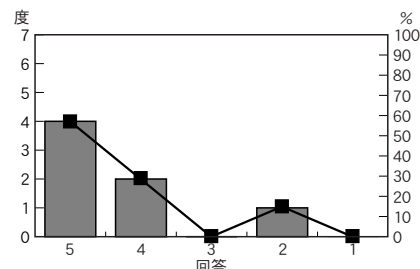
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



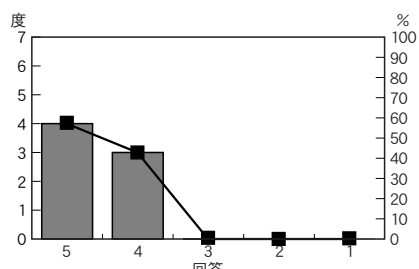
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



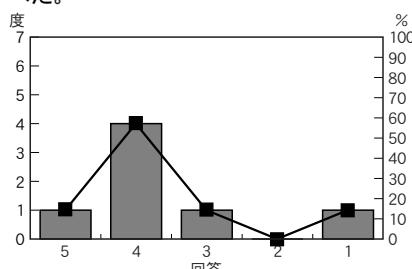
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



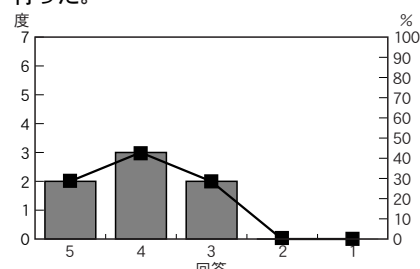
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



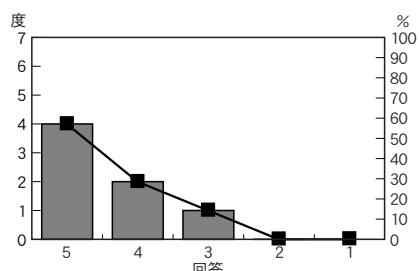
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



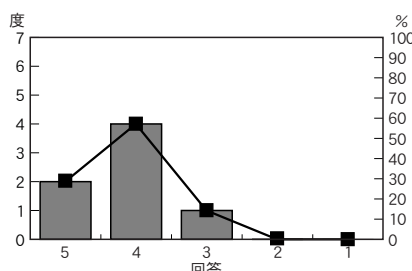
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



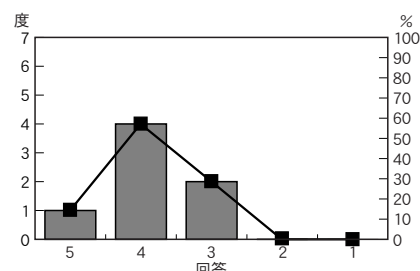
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



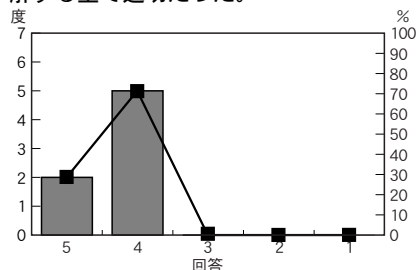
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



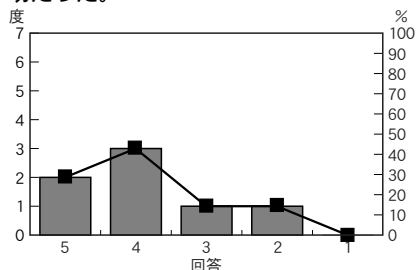
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



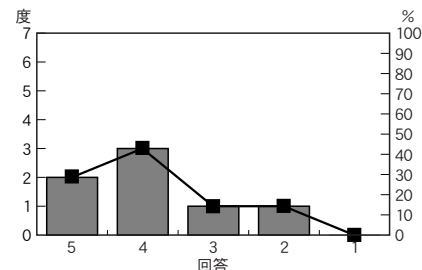
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



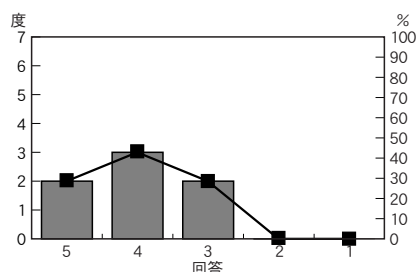
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



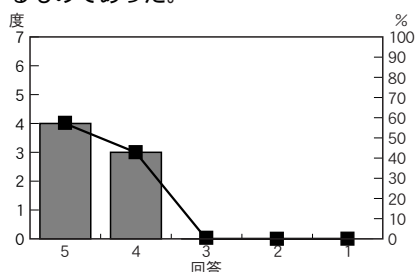
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

評価が高かったのは「6 授業内容は、興味・関心を引くものであった。」「4 授業内容は、教養や専門性を高めるものであった。」「5 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。」「7 授業によく出席した。」「3 授業内容は、授業概要に沿っていた。」「10 教員の説明をよく聞いた。」であった。評価が低かったのは「11 分からないことや疑問に思ったことは調べた。」「8 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」「15 授業内容を分かりやすく説明した。」「17 視聴覚機器及び教育用機器の利用は適切だった。」「18 教員の声は、聞き取りやすかった。」であった。

「この授業でよかったこと」では「模擬授業を通して、みんなで意見交換がたくさんできてよかった。」「教員となるための技能が高まったこと。」「一人ひとりが模擬授業を行ない、その分析が活発にできたこと。」「実践に近い学習ができたこと」があげられた。「この授業で改善したほうがよいと思うこと」については記述がみられなかった。

以上の結果から、平成16年度の同科目のアンケートと同じく、学生自身が自ら学ぶ指導をすることが依然として最も大きな課題であり、ついで受講生の学習状況（理解度・聞き取りやすさ）を確認しながら授業を進めること、また、機器の効果的な活用の検討等により、授業を改善したい。

授業科目名：「保育内容（表現Ⅱ）」

評価実施日：平成 19 年 2 月 16 日

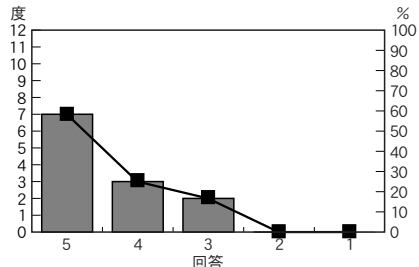
担当教員名：山木 朝彦

(有効な合計12)

■ 度 ■ %

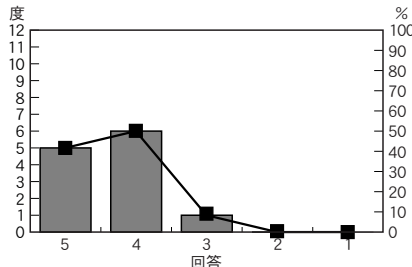
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



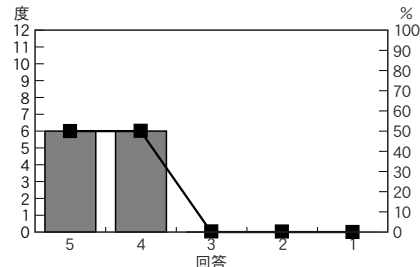
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



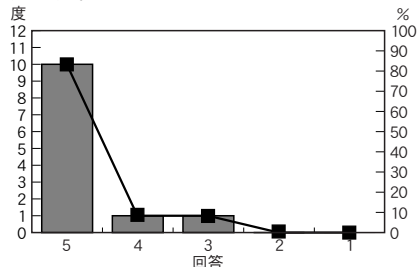
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



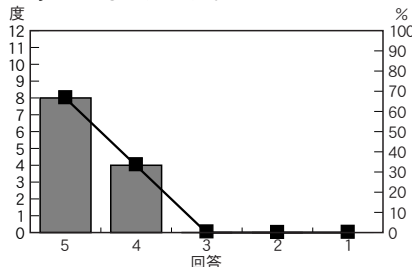
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



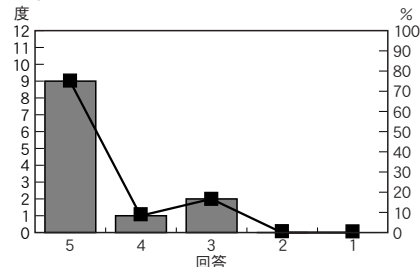
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



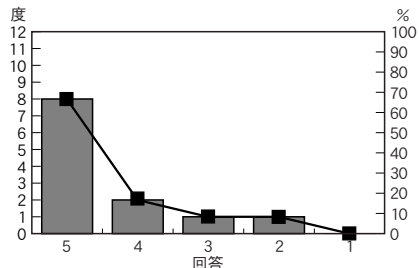
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



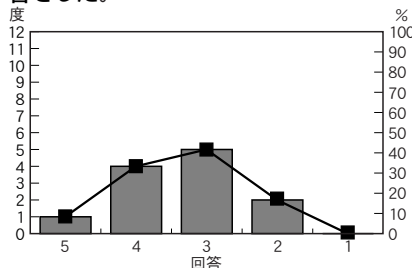
項目分析：(7)

授業によく出席した。



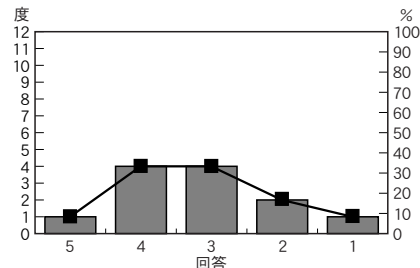
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



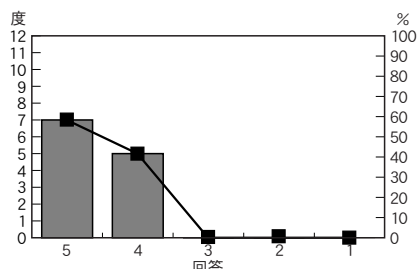
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



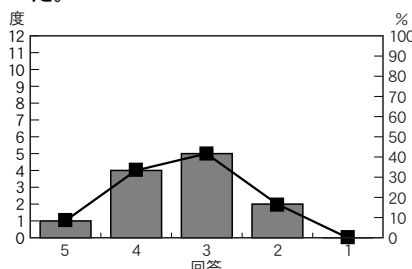
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



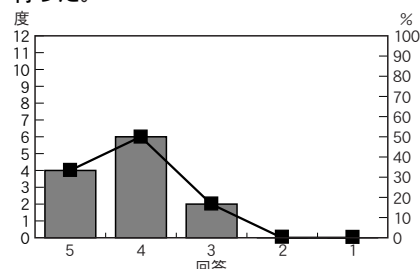
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



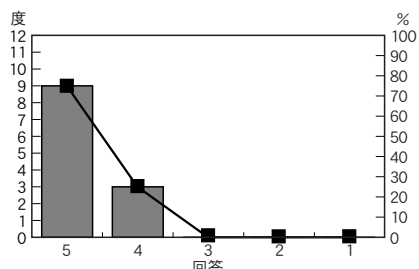
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



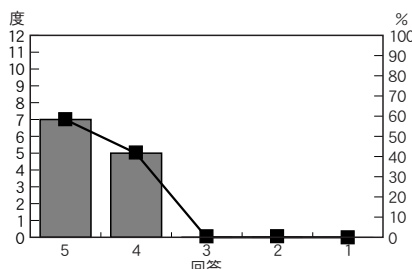
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



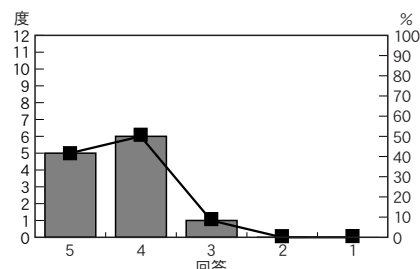
項目分析：(14)

熱心に指導した。

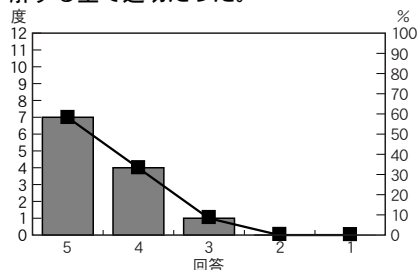


項目分析：(15)

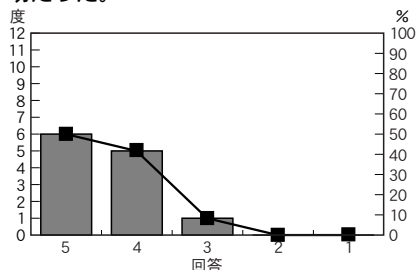
授業内容を分かりやすく説明した。



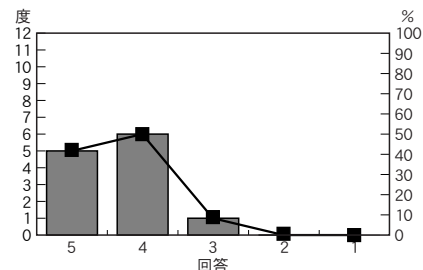
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



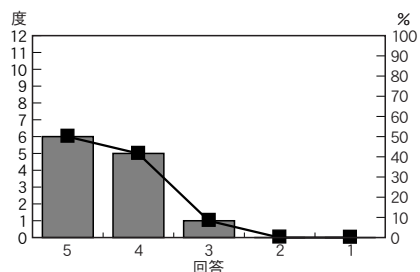
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



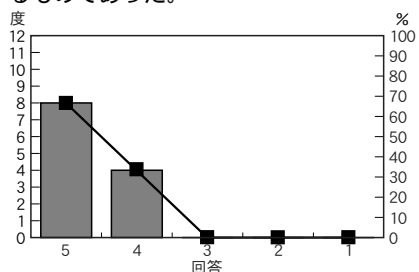
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

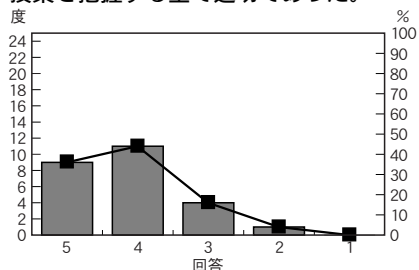
保育内容(表現Ⅱ)に関する学生の授業評価を通覧して、まず初めに気づいたことは、この授業の隠れた眼目である「楽しさ」「参加しやすさ」という要素が、授業のなかで確実に保障されていたことだった。すなわち、問い6の授業内容が興味・関心をひくものであったかどうか問う問いと、問い13の学生が参加しやすい授業であったかどうかを問う問いに対して、学生が与えた評価が良い指標に集中していたことである。これは、幼児の造形を学生自身が体験することで楽しさを体感させようという目的に合致した内容が実際に行なわれたことを示唆しており、授業者としては励まされる結果である。また、教育に対する見方や考えを学べたかどうかを問う問い5や、自分自身にとって満足できるものだったかどうかを問う問い20に対しても高い授業評価を得られたことは、授業内容の質にたいする学生サイドからの支持を示唆しており、嬉しい限りである。こうした良い評価と較べて、学生自身の主体的な学習意欲を引き出す努力が効果的に行われていたかどうかを問う問い9と問い11で相対的に評価が低くなったのは残念である。課題については、その頻度や量を調整し、無理の無い範囲で実施する方向で、これらの点を改善したい。

授業科目名：「総合演習」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 16 日
 担当教員名：近森 憲助

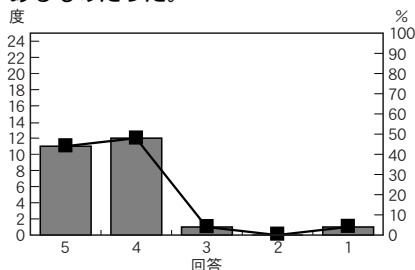
(有効な合計25)

■ 度 ■ %

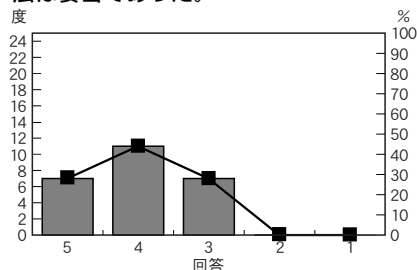
項目分析：(1)
 授業概要に書かれた授業計画や内容は、
 授業を把握する上で適切であった。



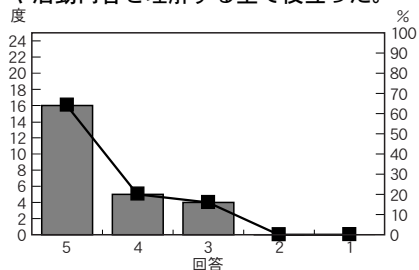
項目分析：(2)
 授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。



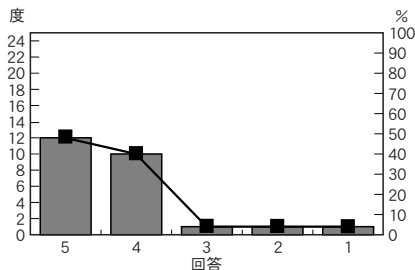
項目分析：(3)
 授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。



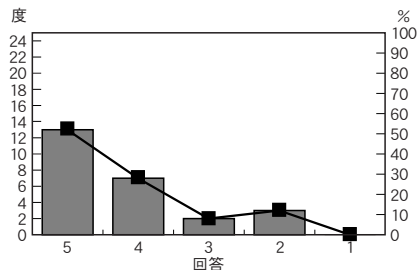
項目分析：(4)
 オリエンテーションは各グループの趣旨
 や活動内容を理解する上で役立った。



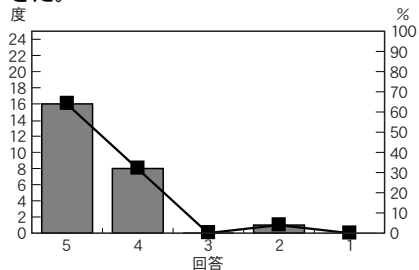
項目分析：(5)
 グループ決定までの時間が十分だった。



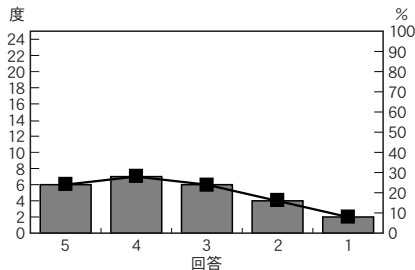
項目分析：(6)
 グループ配属の結果に満足している。



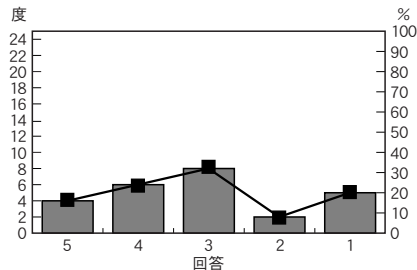
項目分析：(7)
 他のグループの取り組みの様子が理解できた。



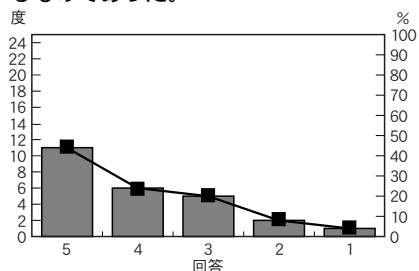
項目分析：(8)
 発表の準備を十分に行うことができた。



項目分析：(9)
 発表をうまく行うことができた。



項目分析：(10)
 「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全体発表会に関する質問（8：「発表の準備を十分におこなうことができた」）及び（9：「発表をうまく行うことができた」）では、評価平均値が、それぞれ3.4及び3.0となった。これらの質問以外の8つの質問に対する評価平均値は、4以上（かなりそうである）であった。また、質問10（「総合演習は自分自身にとって満足できるものであった」）の評価平均値は4.0であり、4以上の評価を与えている学生が60%以上（18/26）であることなどから、近森が担当したグループでは、「総合演習」には概ね満足しているものの、発表の準備及び実施に関して、満足していない学生が多いものと思われる。グループ活動の改善に関する記述内容等を参考にすると、主な理由は次の二点にあるのではないかと考えられる。

- ① 担当者が、発表会の準備をする時期に長期（3週間）海外出張のため不在であったため、準備に対する指導・助言が不十分のまま発表会に望むこととなったこと。
- ② 活動の中心が上勝町のシイタケ摘み取り作業（職場体験）とその振り返りであったことから、活動内容をうまく発表へとつなげることができなかった。

このようなことから、今年度の総合演習では、最初の段階で活動成果の具体的なイメージを持つことができるよう配慮する必要があるものと考えている。

授業科目名：「総合演習」

評価実施日：平成 19 年 2 月 16 日

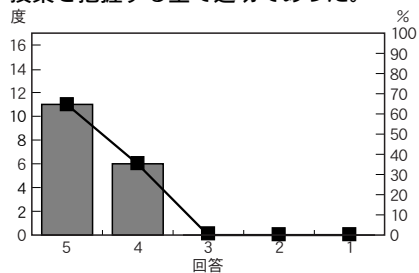
担当教員名：小西 正雄

(有効な合計17)

■ 度 ■ %

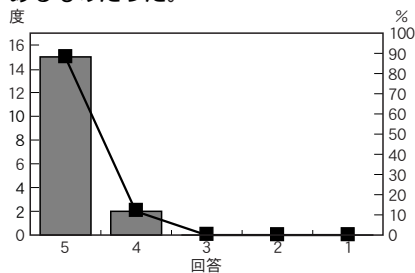
項目分析：(1)

授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。



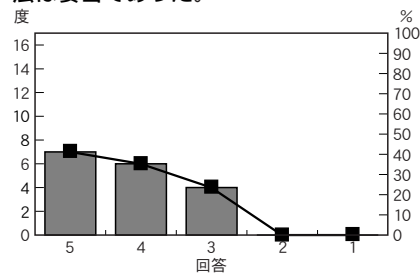
項目分析：(2)

授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。



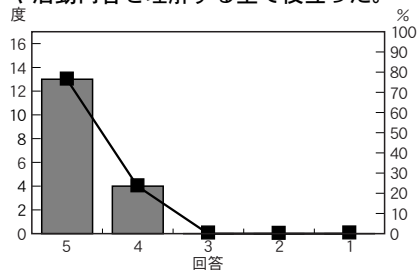
項目分析：(3)

授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。



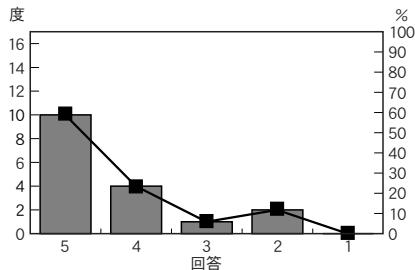
項目分析：(4)

オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。



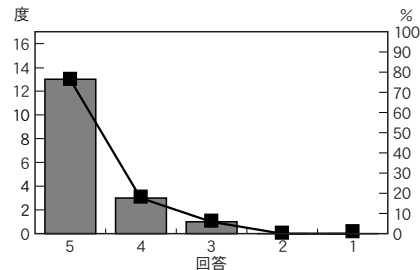
項目分析：(5)

グループ決定までの時間が十分だった。



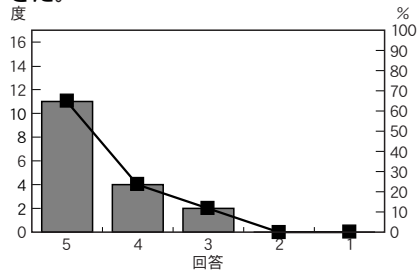
項目分析：(6)

グループ配属の結果に満足している。



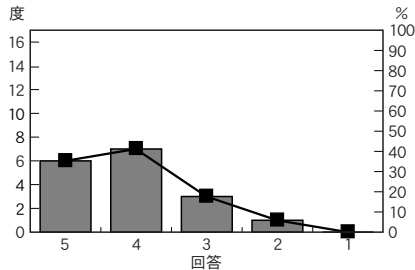
項目分析：(7)

他のグループの取り組みの様子が理解できた。



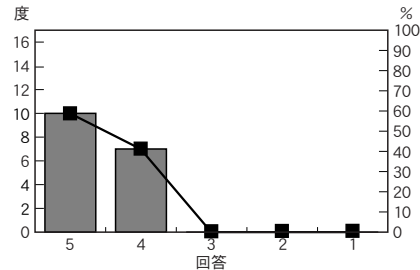
項目分析：(8)

発表の準備を十分に行うことができた。



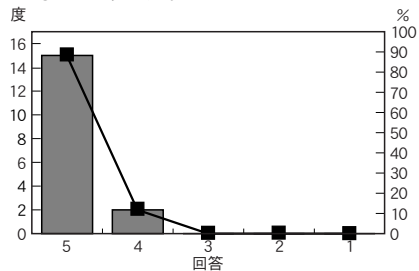
項目分析：(9)

発表をうまく行うことができた。



項目分析：(10)

「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

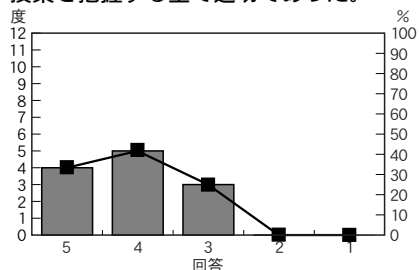
総合演習小西グループ「八重山の自然と歴史に学ぶ」も今回で5回目となり、学生からの評価もある程度かたまってきた感がある。八重山の大自然や人々とのふれあいが学生たちに非常に感動を与えたことは今回も確かなようである。滞在日数を増やすようにとの声もあるが、準備する側からすればこれ以上のプログラムは無理というほかはない。また研修旅行と全体発表会との間に時間的余裕がないために、発表準備に心残りがあったという意見についても当初から予想されていたことで、これは本学の行事との関係上やむを得ないことであった。これまで4回の実施で、可能な改善点はすでに実行済みであり、企画としてはほぼ完成の域に達してしまったと思われる。しかしながら、今後もこの「八重山の自然と歴史に学ぶ」という体験学習を続けられるかどうかは未定である。指導者の経済的、体力的な負担を考慮しなければならない時期に来ているからである。19年度の総合演習に際しては、これまで寄せられた多くの受講生の声を参考にして、新たな企画に取り組みたい。

授業科目名：「総合演習」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 16 日
 担当教員名：村川 雅弘

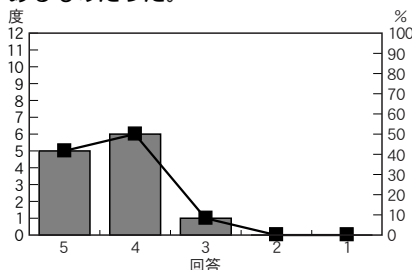
(有効な合計 12)

■ 度 ■ %

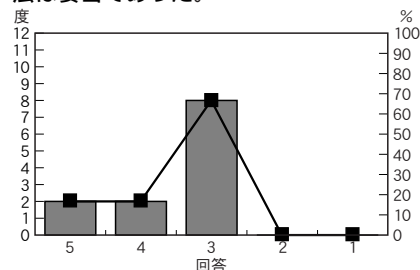
項目分析：(1)
 授業概要に書かれた授業計画や内容は、
 授業を把握する上で適切であった。



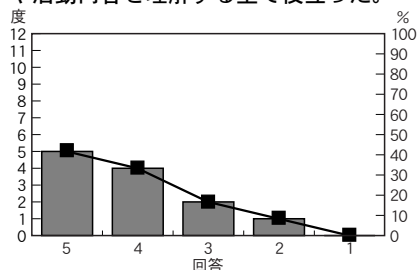
項目分析：(2)
 授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。



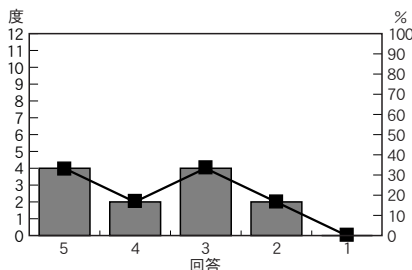
項目分析：(3)
 授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。



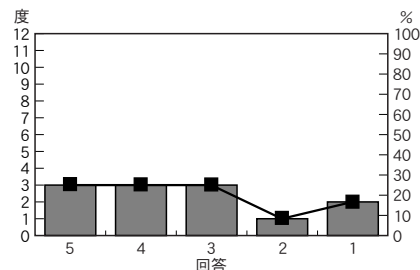
項目分析：(4)
 オリエンテーションは各グループの趣旨
 や活動内容を理解する上で役立った。



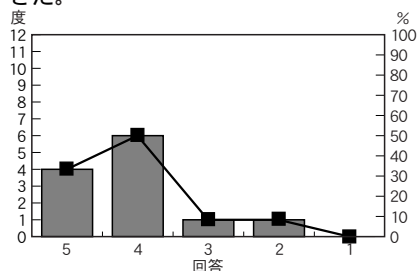
項目分析：(5)
 グループ決定までの時間が十分だった。



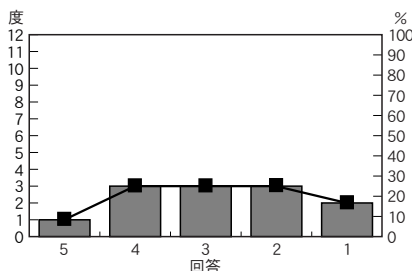
項目分析：(6)
 グループ所属の結果に満足している。



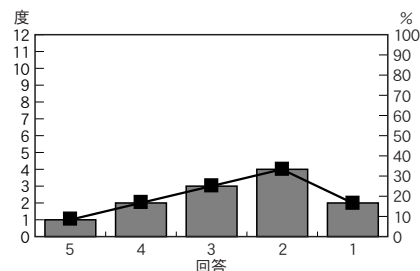
項目分析：(7)
 他のグループの取り組みの様子が理解できた。



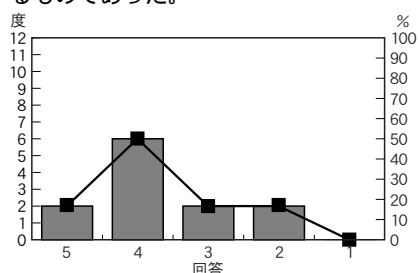
項目分析：(8)
 発表の準備を十分に行うことができた。



項目分析：(9)
 発表をうまく行うことができた。



項目分析：(10)
 「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

①合宿前に計画を立て、1泊2日の合宿で既成の遊びを体験すると共に新しい遊びの開発・実施・評価・改善をグループで行い、吟味・修正を繰り返し最終的に子ども向けのマニュアルを作成するという活動の負荷が大きい演習であった。それにもかかわらず、2/3の学生が満足と回答している。「遊びを体験し開発する展開がよかった」「子どもの立場に立って開発できた」「合宿が充実していた」「遊びの中にどう学びを入れるかについて考えることができた」など趣旨を理解した感想が多かった。やや不満と回答している学生が2名存在するが、以下の③④がその要因と考えられる。②当初は開発した遊びを小学生に実際に体験しその上で改善する計画だったが、時間的問題から取りやめたが「実際に子どもたちと触れ合う機会が欲しかった」という積極的な意見もみられた。③全体を興味関心別に6つのグループに分けて活動したが、「グループ分けに不満を抱えたまま半年活動するのはしんどかった」とグループ分けに不満を抱えていた学生が一人存在している。グループ分けの難しさを実感した。④発表準備を十分に行えなかったとの回答が4割、発表をうまく行えなかったとの回答が5割存在する。一部の学生による発表にとどまったことが原因である。自由記述にも「みんなで発表すべきだった」「発表の役割分担が不十分だった」「準備の時間が十分にとれなかった」と書かれていた。また、発表の表現の一部に気になる点があった。発表の内容・方法に関しては学生の主体性を重視したが、昨年度までのように教員から全員による発表を行うように指示したり、内容についてチェックするべきであった。主体性と指導性のバランスの難しさを実感した。

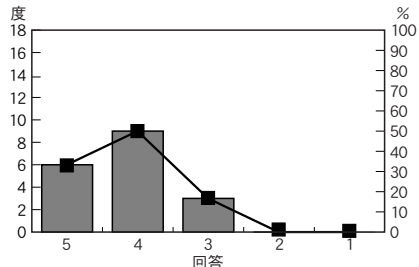
授業科目名：「総合演習」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 16 日
 担当教員名：太田 直也

(有効な合計 18)

■ 度 ■ %

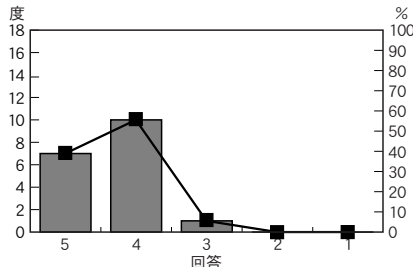
項目分析：(1)

授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。



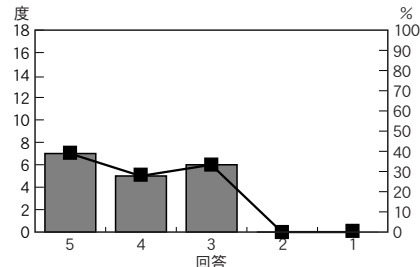
項目分析：(2)

授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。



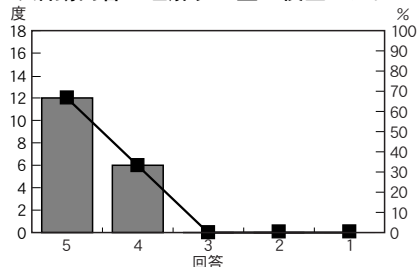
項目分析：(3)

授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。



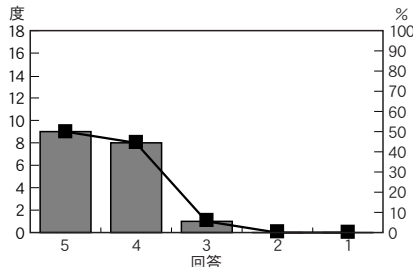
項目分析：(4)

オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。



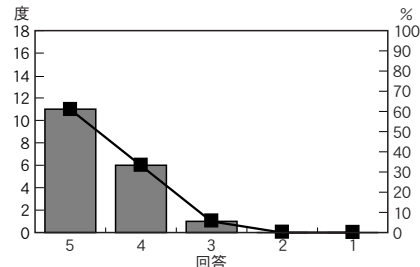
項目分析：(5)

グループ決定までの時間が十分だった。



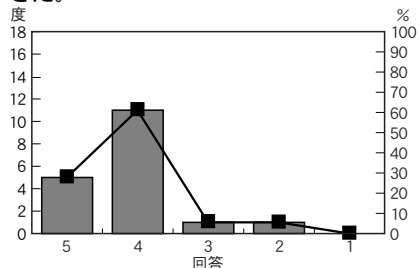
項目分析：(6)

グループ配属の結果に満足している。



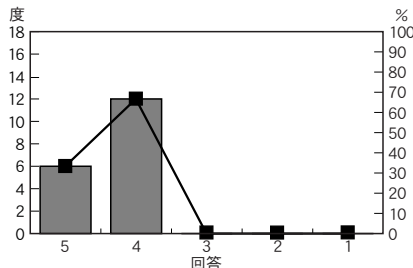
項目分析：(7)

他のグループの取り組みの様子が理解できた。



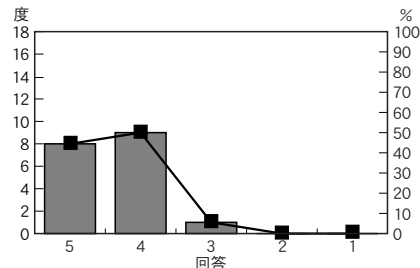
項目分析：(8)

発表の準備を十分に行うことができた。



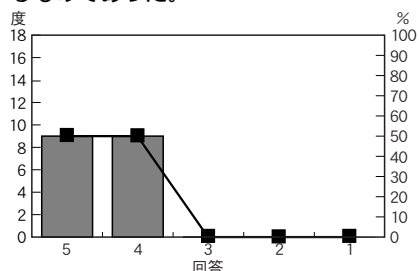
項目分析：(9)

発表をうまく行うことができた。



項目分析：(10)

「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

総合演習太田グループでは、前年度に続き、自己表現の手段としての詩の鑑賞と創作を行った。今回も特に創作に関しては受講生の高い支持を得ることができ、担当者としては満足している。言うまでもなく若干の改善点はあるが、基本的に受講者が活動の意義を理解し、自己を高めることができれば、それ以上を望むことはできないだろう。担当者にとっての最大の喜びは、自己を自らの心の痛みと対峙する受講生の姿を見ることができたことである。また授業に対する担当者の想いも伝わり幸いであった。

具体的には、全体発表会準備と並行して行った詩集を編む作業（自己の想いを「形」として残す行為）が受講生のモチベーションを高めることに役立ったと思われる。出来上がった詩集を見て感動したとの声が多かったが、その気持ちをやがて教壇に立った時に思い出して欲しいと願っている。自己表現にこだわるという事柄がこれほどまでに受講生に受け入れられた背景には、受講生たちにとって自己表現の機会が少ないという事実があるのかもしれない。

19年度の総合演習において何を行うかは未定であるが、受講生からは「何度やっても同じものはできないゆえ、この活動を続けるべきだ」との声もあり、もう一度詩集を編んでも良いかと考えている。

授業科目名：「総合演習」

評価実施日：平成 19 年 2 月 16 日

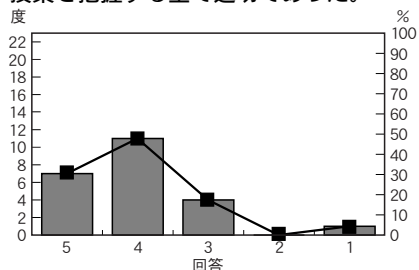
担当教員名：谷村 千絵

(有効な合計23)

■ 度 ■ %

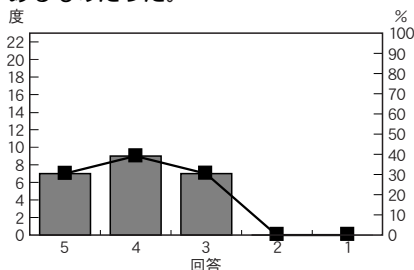
項目分析：(1)

授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。



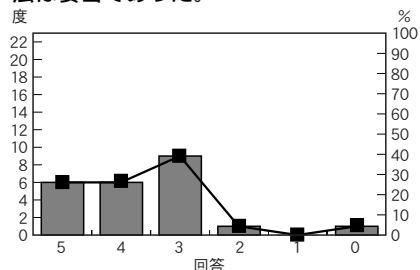
項目分析：(2)

授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。



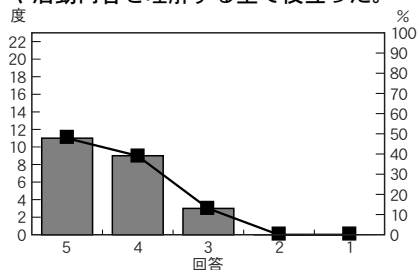
項目分析：(3)

授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。



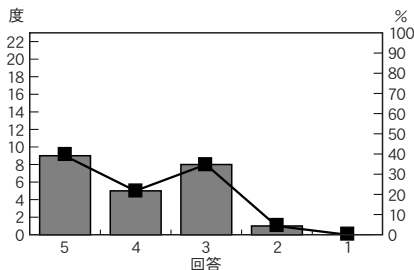
項目分析：(4)

オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。



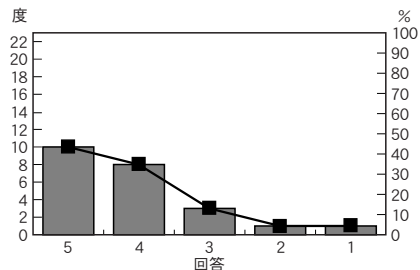
項目分析：(5)

グループ決定までの時間が十分だった。



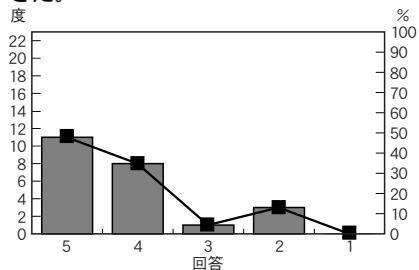
項目分析：(6)

グループ配属の結果に満足している。



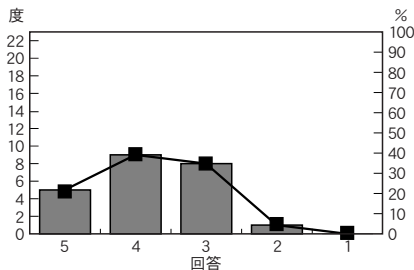
項目分析：(7)

他のグループの取り組みの様子が理解できた。



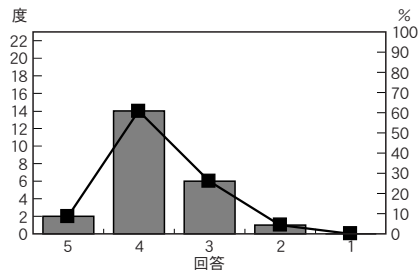
項目分析：(8)

発表の準備を十分に行うことができた。



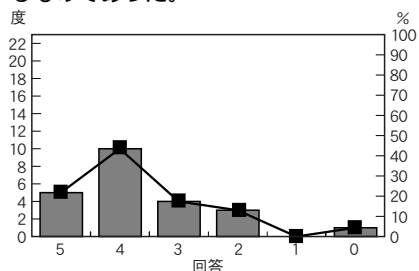
項目分析：(9)

発表をうまく行うことができた。



項目分析：(10)

「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

担当グループへの評価の「よかったこと」には、テーマ設定を自分たちの意見を活かして行ったのがよかった、身近なことで興味のあることを自分たちのペースで調べることができてよかった、みんなで協力してできてよかった、それぞれがよく調べてがんばった、団結力があつた、という意見が多かつた。パソコンやソフトの使い方を実践的に覚えた、という意見もあつた。「改善したほうがよいこと」については、授業時間の配分を計画的にするべきだという意見が多く、その理由として、学生にまかせすぎ、学生の「腰が重い」、グループの人数が多すぎる、といった意見があつた。また、パソコンが苦手な苦勞した、協力することが少なかつたという意見もあり、学生主体の班活動において生じた困難がそのままになつたケースがあつたことが推測される。

今年度は、1グループの人数が増える一方、授業開講日の金曜に学内行事が入り数週間の間隔があくことが数回あつた。最初に、それらを考慮して3つのテーマ別に班を形成したが、班活動の多くの面が学生自身に委ねられ、そのことによって、他の班とのつながりや、班によっては教員との関係が薄くなつた。授業時間数に合わせた内容の精選と、教員のかかわり方について今後さらに検討したい。

S A（顕微鏡実習）については肯定的な意見が多数を占め、全体発表についても他グループの活動が理解できてよいなど、肯定的な意見が多かつた。

授業科目名：「総合演習」

評価実施日：平成 19 年 2 月 16 日

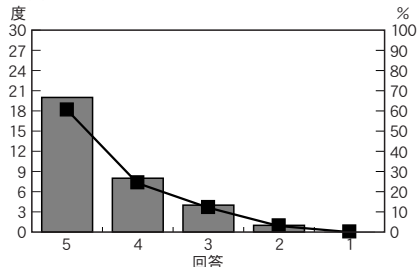
担当教員名：藤村 裕一

(有効な合計33)

■ 度 ■ %

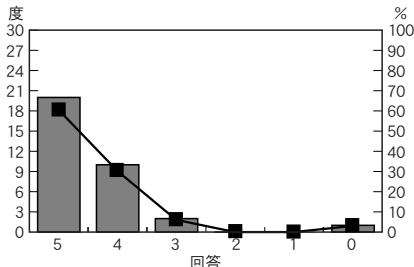
項目分析：(1)

授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。



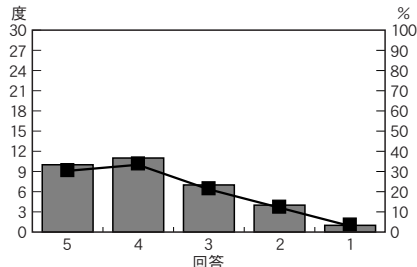
項目分析：(2)

授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。



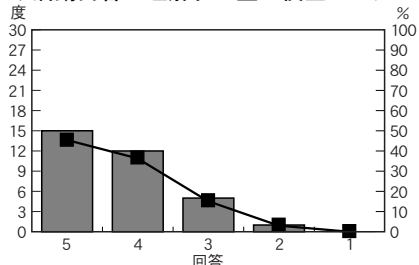
項目分析：(3)

授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。



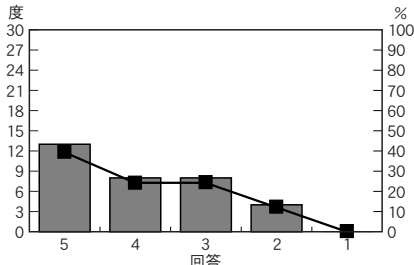
項目分析：(4)

オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。



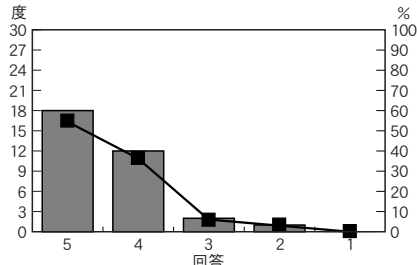
項目分析：(5)

グループ決定までの時間が十分だった。



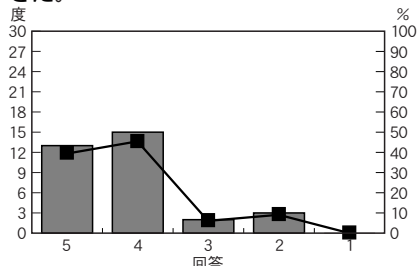
項目分析：(6)

グループ配属の結果に満足している。



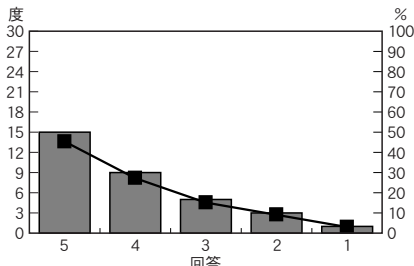
項目分析：(7)

他のグループの取り組みの様子が理解できた。



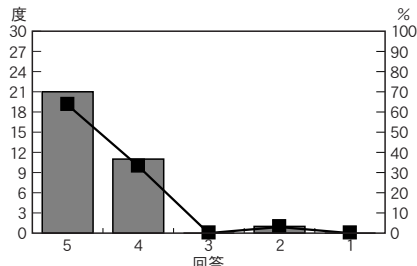
項目分析：(8)

発表の準備を十分に行うことができた。



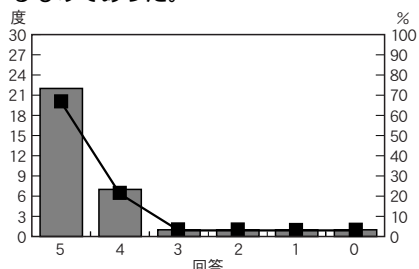
項目分析：(9)

発表をうまく行うことができた。



項目分析：(10)

「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

藤村グループでは、地域を愛し、地域の文化を創造していける子どもを育むために、「ふるさと鳴門・徳島を誇りに思える教材を開発しよう！」という目標を掲げ、学生の選択により、大鳴門橋、大塚国際美術館、徳島空港、鳴門金時の4グループに分かれて、調査活動、教材作成活動を行った。本グループは、他グループの1.5倍の人数を要しているため、各地の見学活動も複数回行う必要があり、現地調査・見学にかなりの時間を要した。

しかし、自由記述から、普段見学できない舞台裏見学や当事者からのヒアリング調査ができると共に、その依頼・コーディネートまですべて自力で行ったことなどが、現場に出たときに役立つ力を身につけられたと好評であった。また、全体発表会へ向けてビデオ教材を作成する活動を行ったが、上述の通り調査・見学に時間を要したため、(8)の通り十分な時間を取ることができなかった。そのため、逆に受講者は一致団結して力を合わせ、深夜に渡って教材製作活動を行い、大変充実したビデオ教材を完成させ、大変工夫した発表をした。そのことが(10)の全体に対する非常に高い満足度に結びついたものと考えられる。

今後は、見学先を絞り込み、グループ配当人数を削減して、調査・見学時間を削減し、教材制作活動の時間にゆとりを持たせたい。また、教材開発の実践力を厳しく育成するため、楽な活動を期待する学生には不向きである。来年度は、その旨を事前に説明したい。

授業科目名：「実地教育VI（附属校園実習事前事後指導）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日

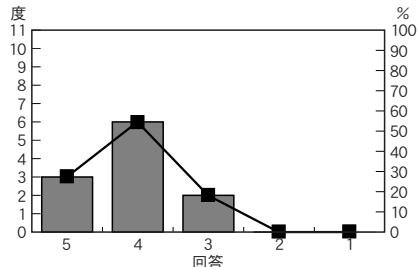
担当教員名：安藤 幸

(有効な合計11)

■ 度 ■ %

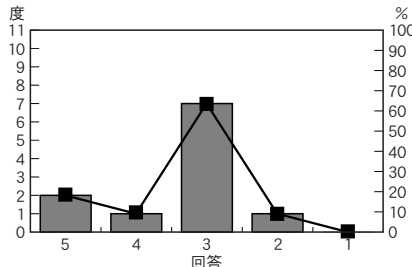
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



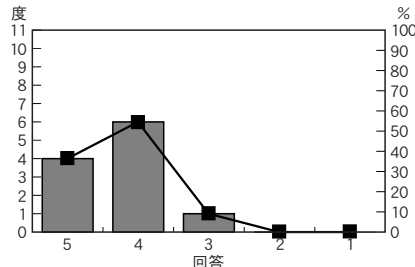
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



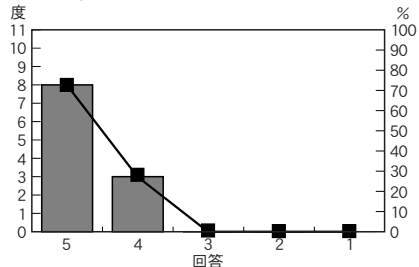
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



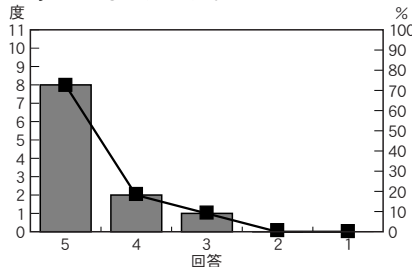
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



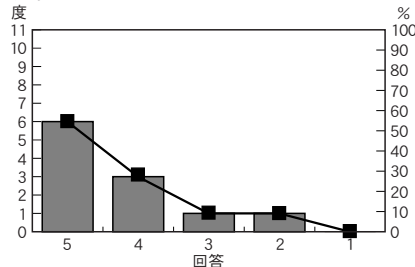
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



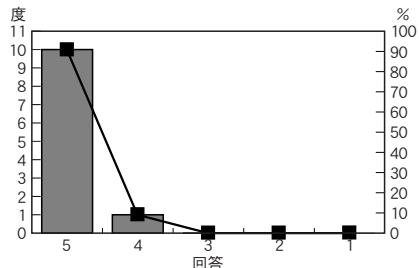
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



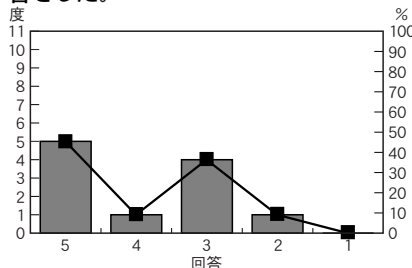
項目分析：(7)

授業によく出席した。



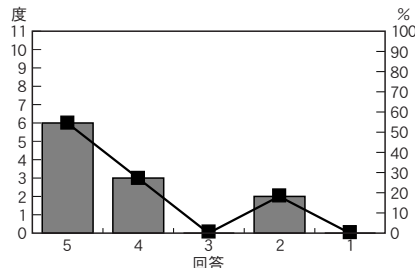
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



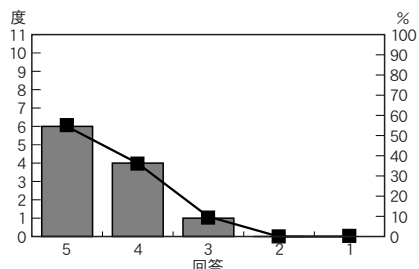
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



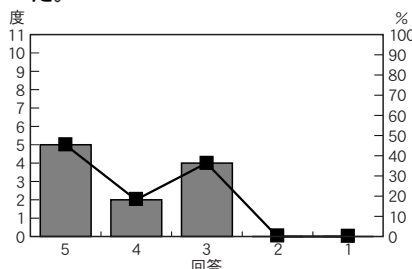
項目分析：(10)

積極的に課題に取り組んだ。



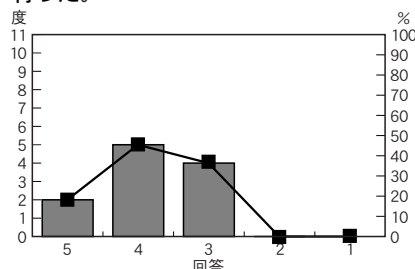
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



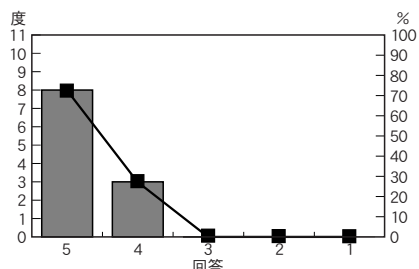
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



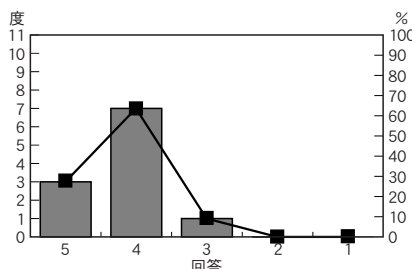
項目分析：(13)

学生参加型の授業だった。



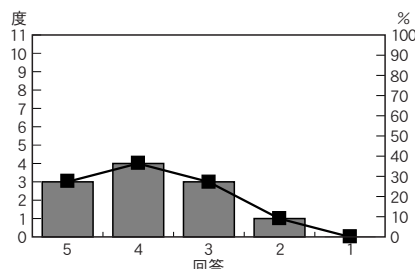
項目分析：(14)

熱心に指導した。

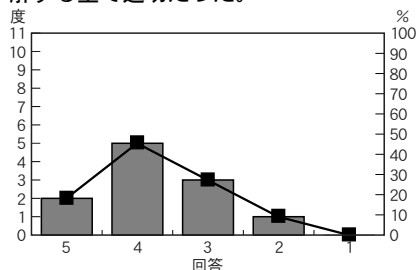


項目分析：(15)

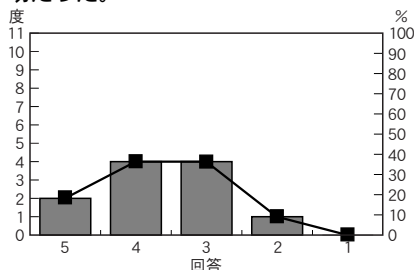
授業内容を分かりやすく説明した。



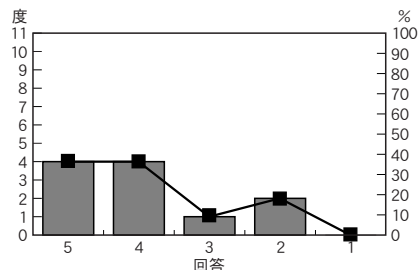
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



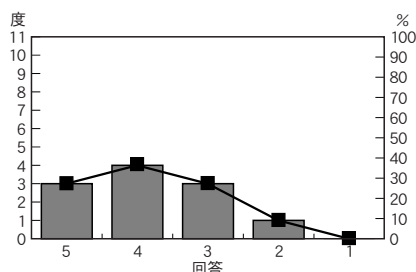
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



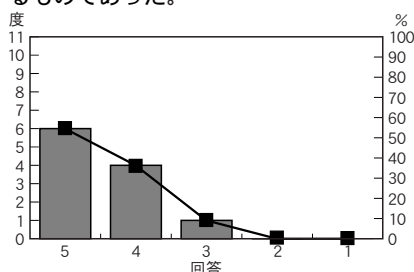
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

実地教育VIは、学部3年生を対象とした授業であった。附属学校教育実習に備えて、授業内容を構成した。実習直前の準備としての授業であったので、受講生は積極的に授業に参加し、課題に取り組んだ。授業内容は、授業開始時に提示したが、実習形式が多くその進捗によって変更をしたので、評価は「かなりそうである」が55%と大半を占める結果となった。しかし「非常にそうである」がおよそ27%であったので、合算した肯定的な評価が、77%となり、学生は授業についてきたと言えよう。また、「成績評価の方法を明確に示したか」については、「どちらともいえない」が64%を示した。実習形式なので、明確に示すことができなかったが、学生にとってはその評価基準を示して欲しいことを願っていたことが明らかとなった。授業内容は、「教養や専門性を高めるものであった」「教育に対する見方や考え方を学べるものであった」「授業内容は、興味・関心を引くものであった」の項目で、「非常にそうである」がおよそ70%、「かなりそうである」がおよそ、30%弱であった。両項目を合算した肯定的な評価が、90%であった。授業内容は、適切であったと言えよう。学生の授業に参加した態度は、90%がよく授業に出席したと回答した。授業への取り組みも「積極的に発言したり」「積極的に取り組んだり」した項目が、「非常にそうである」「かなりそうである」を合算すると80%に達して、学生が授業に積極的に取り組んだことが窺える。教師の授業に対する取り組みについては、「熱心に指導した」項目で、「非常にそうである」「かなりそうである」を合算すると90%になり、肯定的にとらえていた。「分かり易く説明した」の項目で、「どちらともいえない」と30%近くが回答していた。もう少し、学生に合わせて説明する必要性を反省した。実地教育VIは、「自分にとって満足できるものであった」の項目で、「非常にそうである」がおよそ55%、「かなりそうである」がおよそ、36%弱であった。両項目を合算した肯定的な評価が、91%であった。授業のねらいは、学生に届いたと思う。

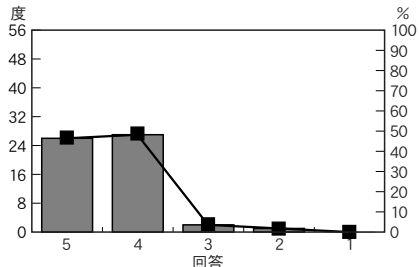
專 修 專 門 科 目

授業科目名：「学校の組織と集団」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 21 日
 担当教員名：弓削 洋子，佐古 秀一

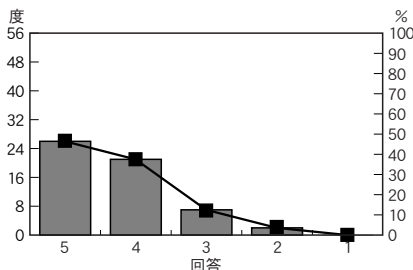
(有効な合計56)

■ 度 ■ %

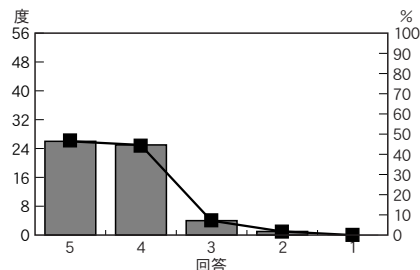
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



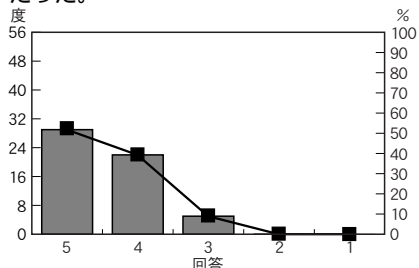
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



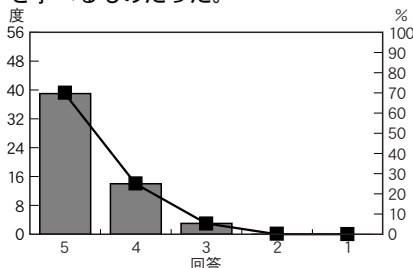
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



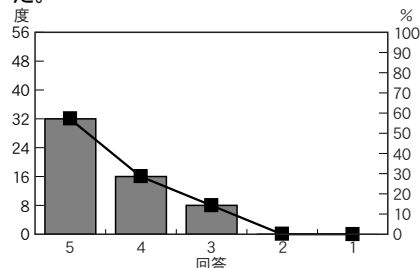
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



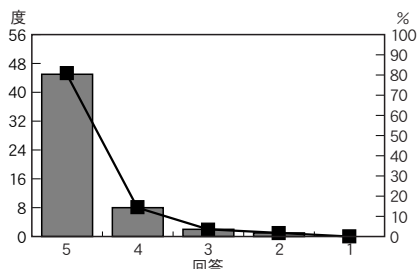
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



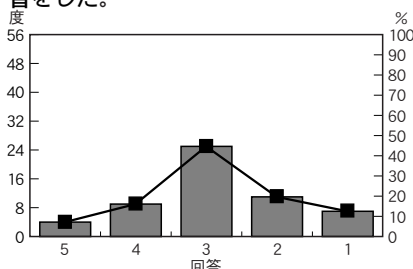
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



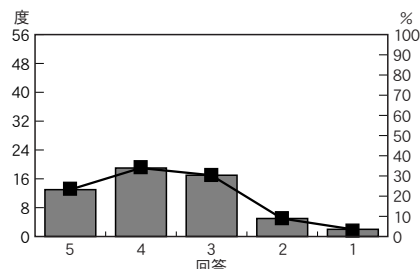
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



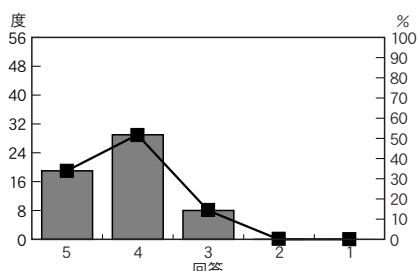
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



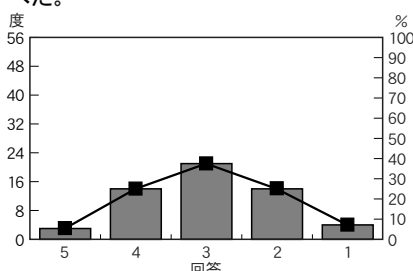
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



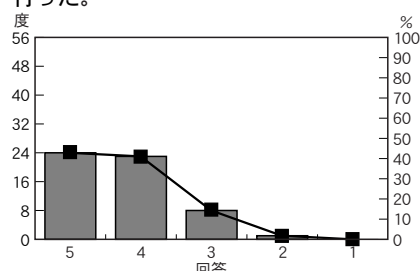
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



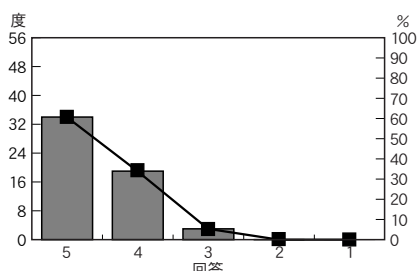
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



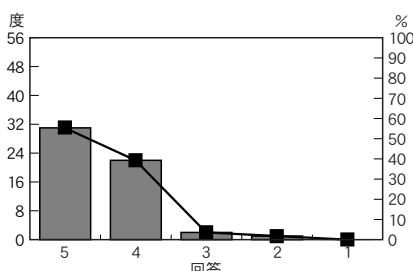
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



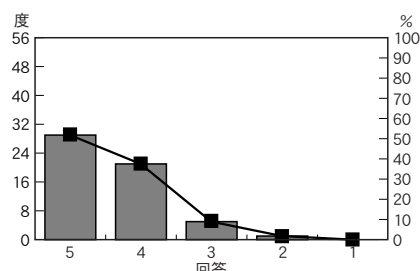
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



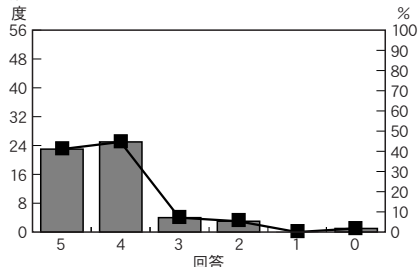
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



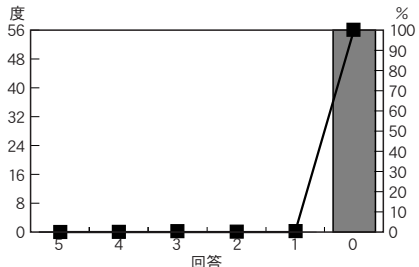
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



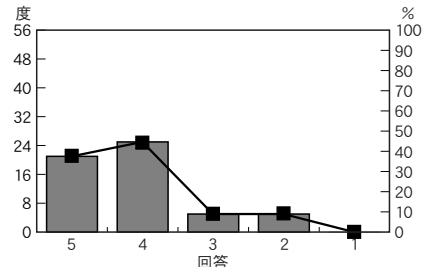
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



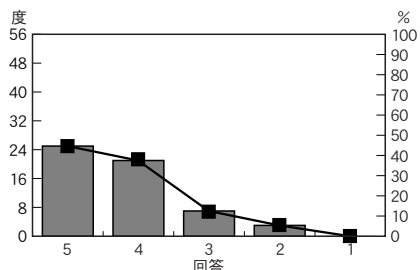
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



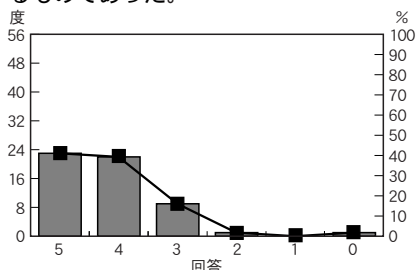
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

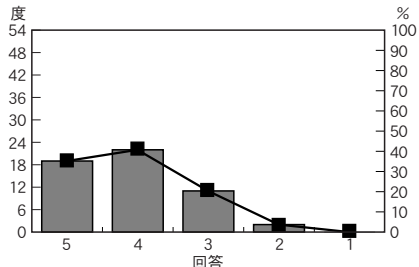
- ・授業内容に関してはおおむね肯定的な評価を得た。「教養や専門性を高める」、「教育に対する見方、考え方を学べた」、「興味を引くものだった」の各項目については、肯定的な回答がいずれも85%を越えている。また評点が2以下の回答も0であり、本授業で取り上げた内容について、学生の満足度は高いものであったと思われる。
- ・授業のすすめ方については、「参加しやすい授業」では約90%が肯定的な回答であった。また「学生の理解を確かめながら授業を行った」も約80%が肯定的な回答であった。これは、できるだけ一方的な講義にならないよう、小集団での討議等を取り入れた授業展開を行ったことによると考えられる。学生側の授業への参加度を示す「積極的に質問や発言をした」についても、60%弱が肯定的な回答であった。受講生（回答者）数が56人であることを考慮すれば、授業時間中の発言、質問を積極的に行ったとするこの比率は、決して低いとはいえないであろう。これも小集団での討論を組み入れた授業形態によるものと思われる。
- ・学生の自主的な学習に関しては、「予習復習を行った」、「わからないことや疑問に思ったことを調べた」に対しては、肯定的な回答は30%を下回った。
- ・全体的な授業満足度「満足できる授業だった」については、約80%が肯定的であり、評点2以下は1名だけであった。

授業科目名：「学習指導評価論」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 31 日
 担当教員名：川上 綾子

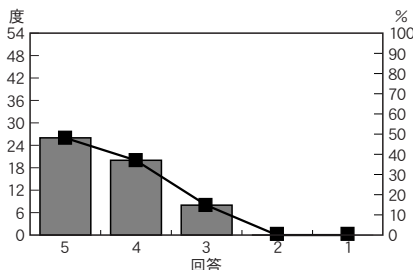
(有効な合計54)

■ 度 ■ %

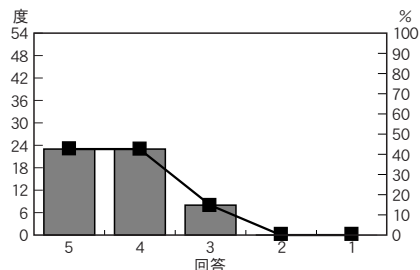
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



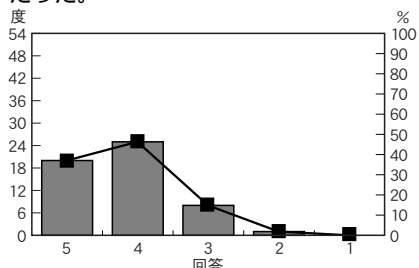
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



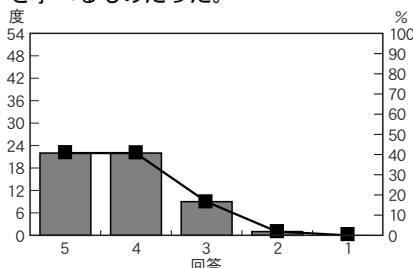
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



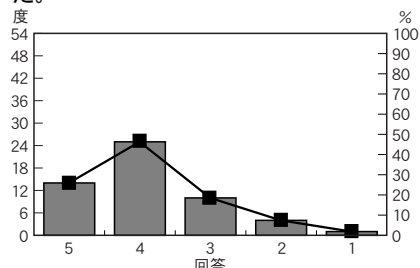
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



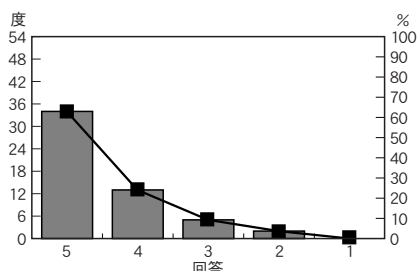
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



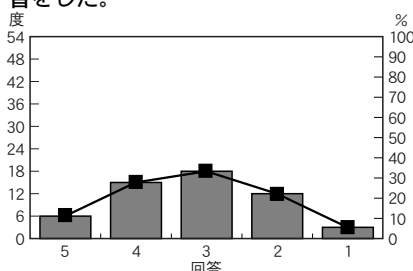
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



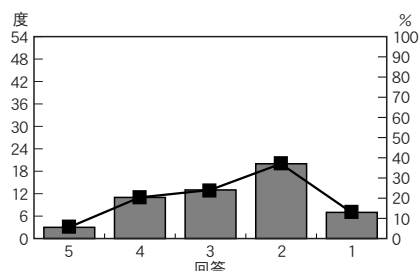
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



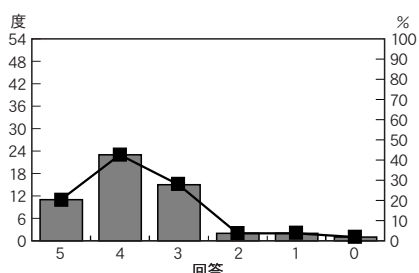
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



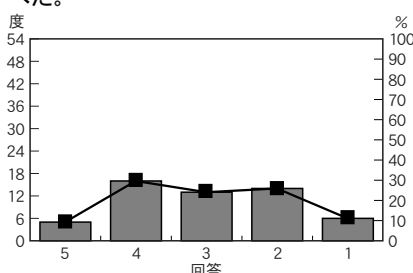
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



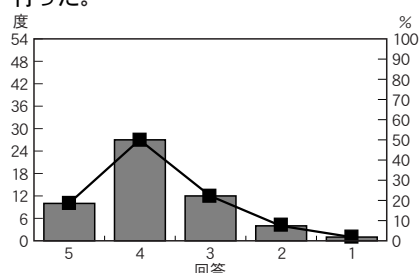
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



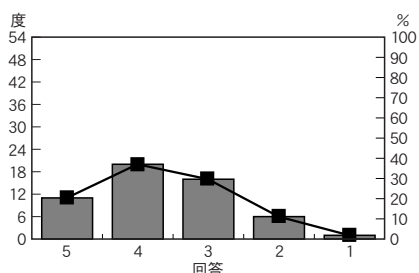
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



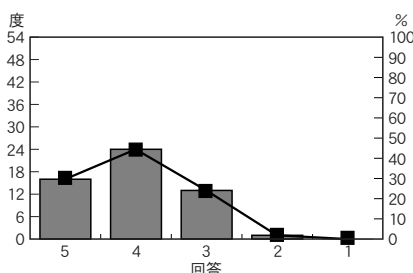
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



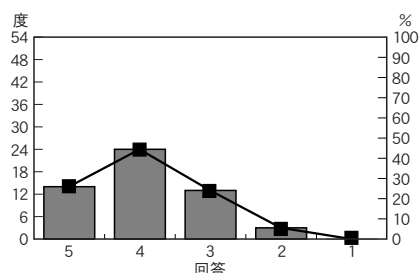
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



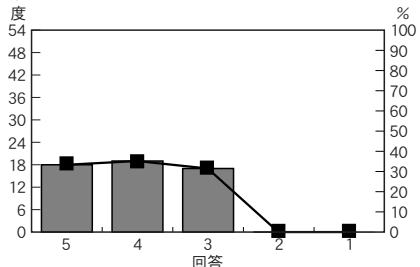
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



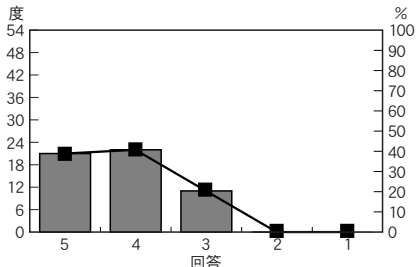
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



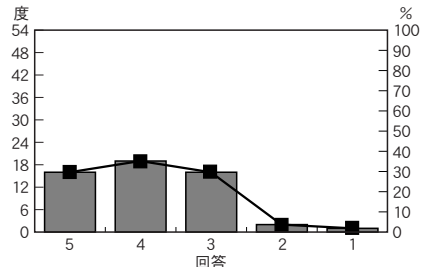
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



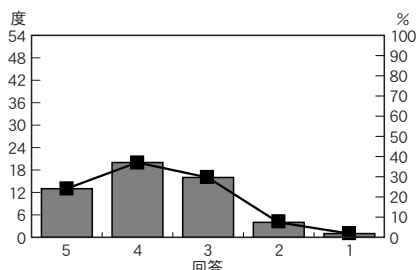
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



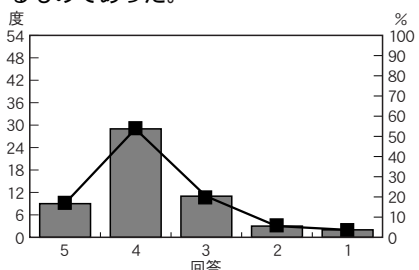
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

「1 授業概要について」「2 授業の内容等について」の項目に関しては、約70～80%強の受講生が肯定的な回答(回答番号5ないし4)をしており、概ね良好な評価を得られた。それらに比べ、「3 あなたの授業への取り組みについて」の項目では、項目(7)・(10)を除き、相対的に低い評価となっていた。具体的には、項目(8)・(11)の結果から授業時間外に自ら積極的に本授業の学習に取り組んでいる者は少数派であること、項目(9)の結果から約75%の受講生が授業中に積極的に発言や質問をできなかったということがわかる。項目(9)については「4 教員の授業の進め方について」の項目(13)で肯定的な回答の割合が他の項目よりも少なかったこととも関連していると思われる。例年、受講生の自我関与や授業への参加意識を高めようと、ワークシートに自分の考えを記入させたりグループ活動の機会を設けたりしており、項目(8)・(9)・(11)についても昨年度より若干の改善は見られるが、受講生の主体的な参加をさらに促せるよう一層の工夫を心がけたい。

自由記述で「改善したほうがよいと思うこと」としては、テストの日程に関するもの以外には、もっと教科に絞った内容にしてほしい、との意見があった。授業の目的や性格から特定の教科のみを取り上げることはできないが、学校現場での具体的な例をもっと提示する等、留意していきたいと思う。

授業科目名：「臨床心理学」

評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日

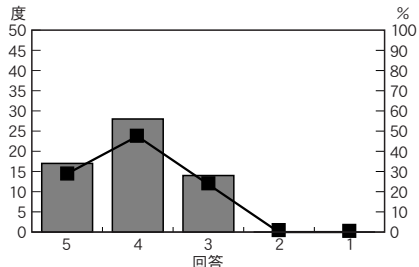
担当教員名：佐藤 亨，粟飯原 良造

(有効な合計59)

■ 度 ■ %

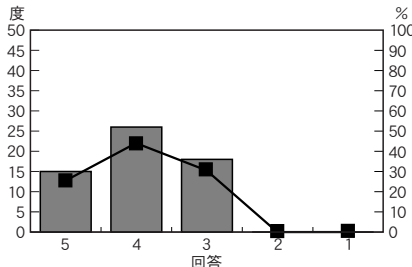
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



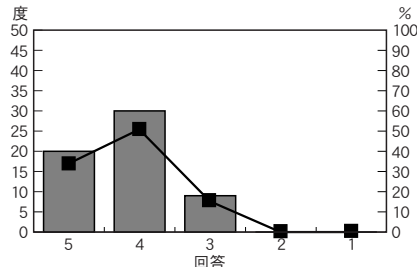
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



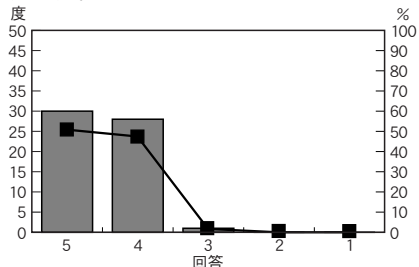
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



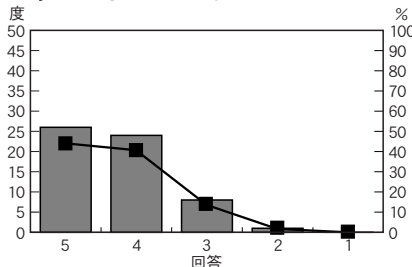
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



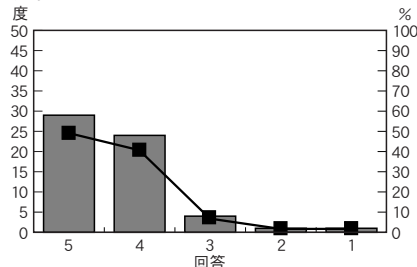
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



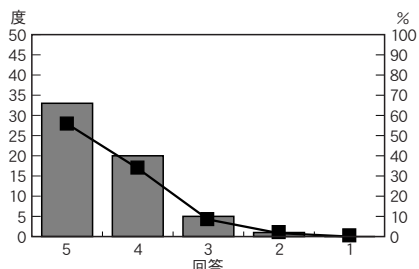
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



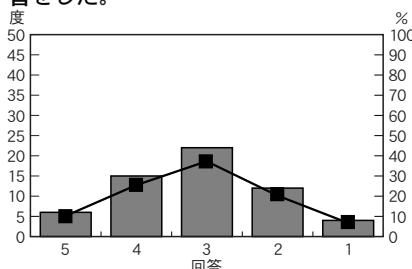
項目分析：(7)

授業によく出席した。



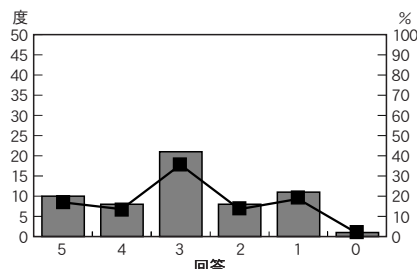
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



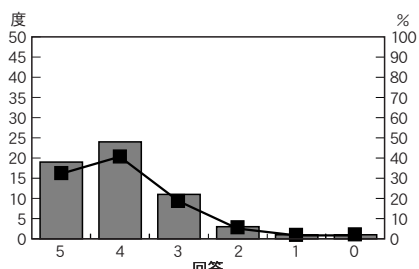
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



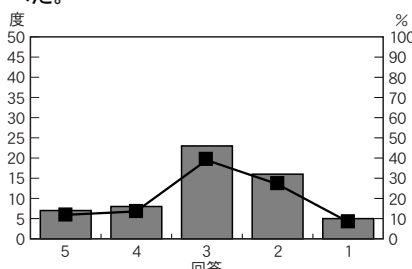
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



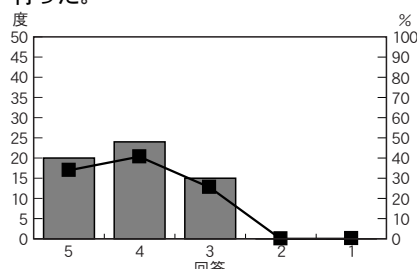
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



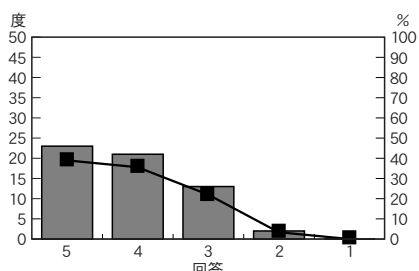
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



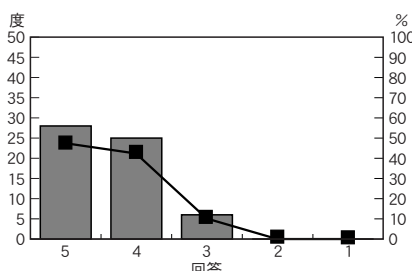
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



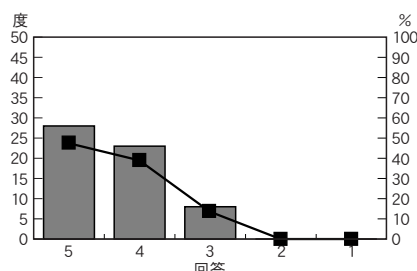
項目分析：(14)

熱心に指導した。

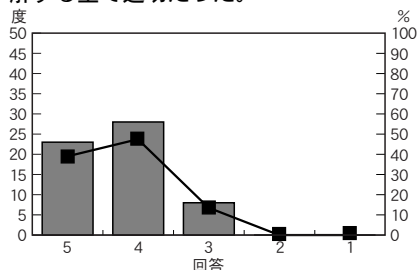


項目分析：(15)

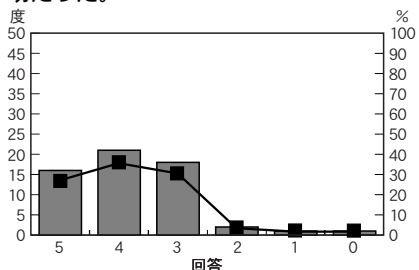
授業内容を分かりやすく説明した。



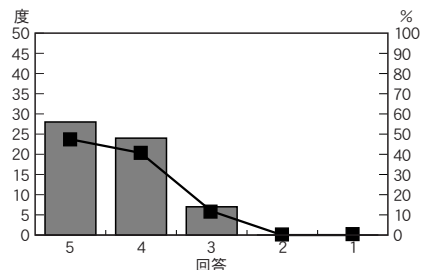
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



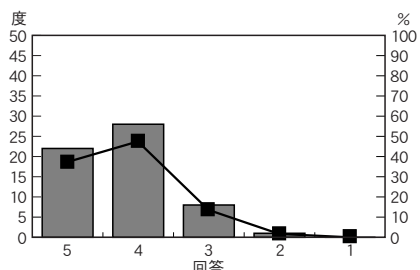
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



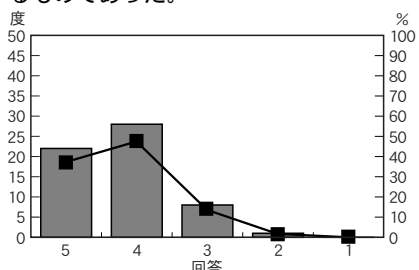
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

授業内容に関する項目（項目1～項目6）では、全ての項目で約7割の学生が4以上の評価をしており、おおむね適切であったと考えられる。一方、学生の自主的な取り組みを示す項目（項目7～項目11）に関しては、出席（項目7）及び授業への集中度（項目10）では4以上の評価が70%以上を占めているが、それ以外の項目（予習復習や授業中の積極的な発言等）では4以上の評価は少なく（約20%～30%）、大教室での講義形式の授業であるため、止むを得ない面もあると考えられるが、何らかの工夫は必要かもしれない。次に実際の授業の進め方に関する項目（項目12～項目19）に関しては、視聴覚教材の使用に関する項目以外では、70%以上の学生が4以上の評価を示しており、おおむね適切であったと考えられる。視聴覚機器については、より視覚的な形で学生の理解を深めるような工夫が必要と思われる。最後に、全体的な授業の満足度を聞く項目（項目20）では、80%以上の学生が4以上の評価をしており、学生の多くは満足感を得たと考えられる。自由記述欄（6 あなたからの提言）を見ても、具体例や実体験に基づく話が興味深く、わかりやすかった旨の記載が多く、おおむね学生に満足を与えられるものであったと考えられる。

授業科目名：「発達臨床心理アセスメント」

評価実施日：平成 19 年 1 月 26 日

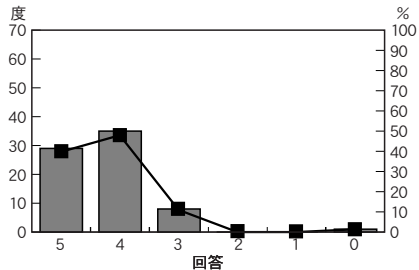
担当教員名：今田雄三, 粟飯原良造, 久米禎子, 小坂浩嗣, 佐藤 亨, 末内佳代, 中津郁子, 吉井健治

(有効な合計73)

■ 度 ■ %

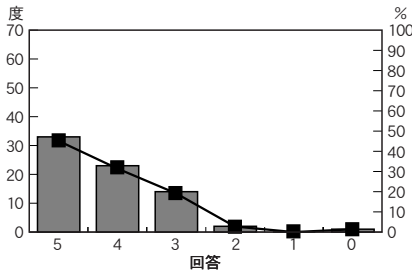
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



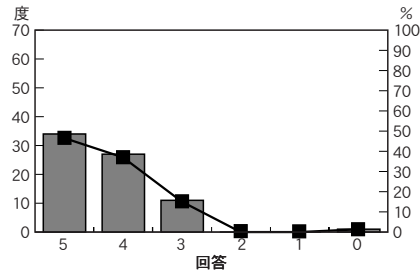
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



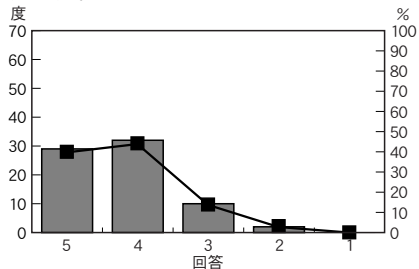
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



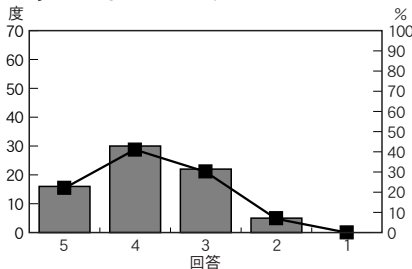
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



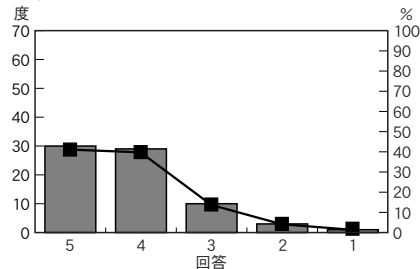
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



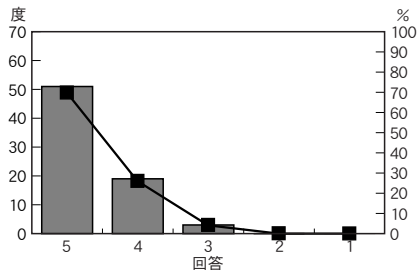
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



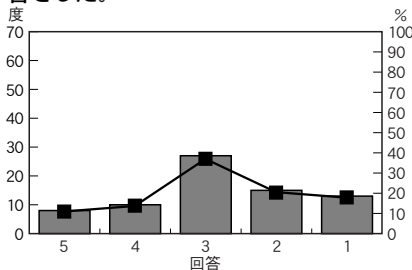
項目分析：(7)

授業によく出席した。



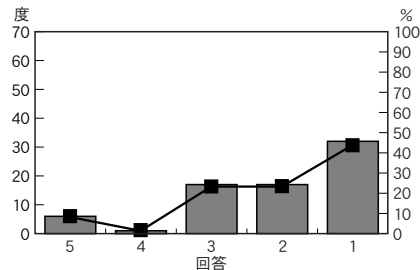
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



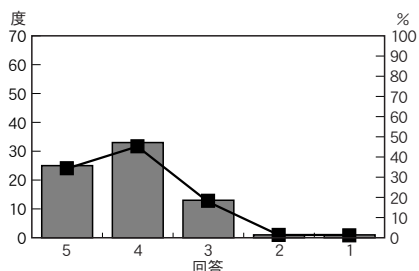
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



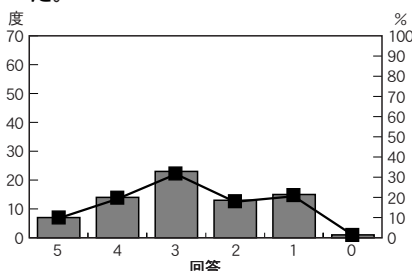
項目分析：(10)

積極的に課題に取り組んだ。



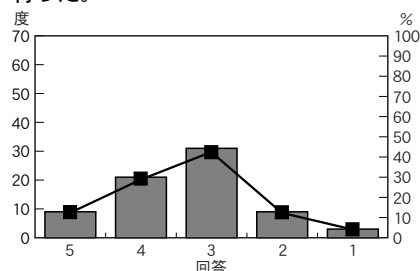
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



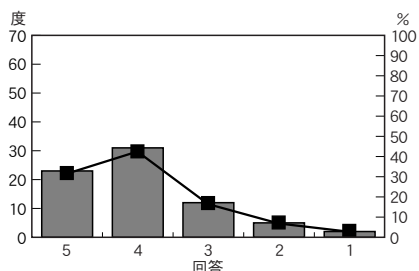
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



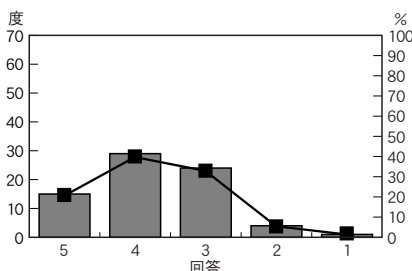
項目分析：(13)

学生参加型の授業だった。



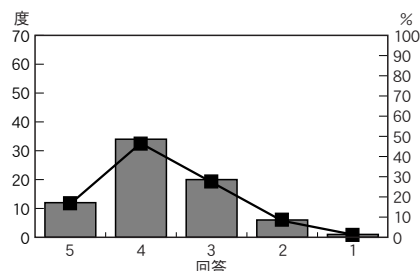
項目分析：(14)

熱心に指導した。

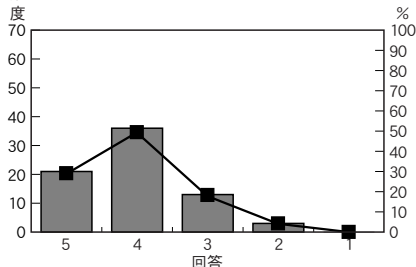


項目分析：(15)

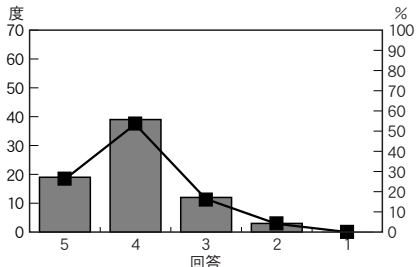
授業内容を分かりやすく説明した。



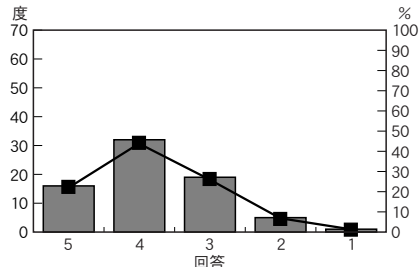
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



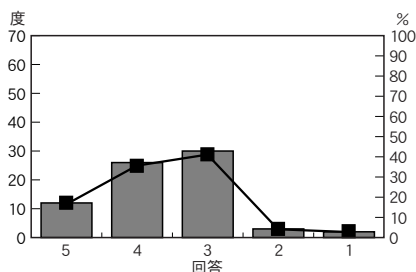
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



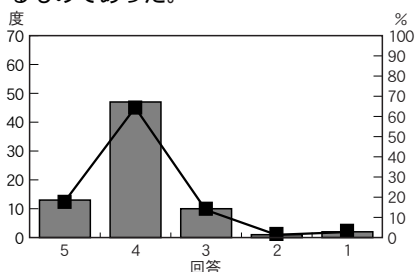
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

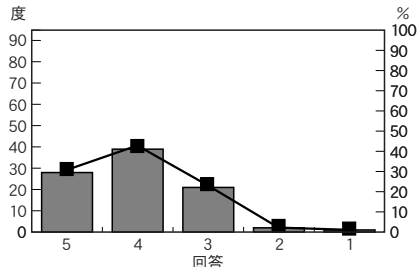
質問(1), (2), (3), (4), (6), (7), (10), (16), (17), (20), および本授業で設定した「心理アセスメントが被験者に与える負担が理解できた」、「演習を通して自分自身を知ることができた」の12項目で、受講者の約8割が5「非常にそうである」または4「かなりそうである」と評価していた。よって授業概要、授業の目標、授業の内容等、および授業に対する満足度については非常に高い評価が得られたと考えられる。また質問(5), (13), (14), (15), および(18)の5項目で、受講者の6割以上が5または4と評価していた。よって教員の授業の進め方についても一定の評価が得られたと思われる。一方で(8)「授業内容をよく理解するため予習や復習をした」、(9)「授業中に積極的に発言や質問をした」、(11)「分からないことや疑問に思ったことは調べた」、など学生の授業への取り組みについての項目では、3「どちらともいえない」と答えた受講者が1/4～1/3程度、2「あまりそうではない」または1「全くそうではない」と答えた受講者が1/3～2/3程度みられた。よって今後の課題として、受講者がより積極的に取り組めるような授業の進め方を考える必要がある。従来は心理アセスメントの施行法、および解釈の説明に時間が費やされがちだったが、今後は適宜疑問や質問に対する質疑応答を取り入れるなどの工夫をしたい。

授業科目名：「初等国語」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 19 日
 担当教員名：村井 万里子

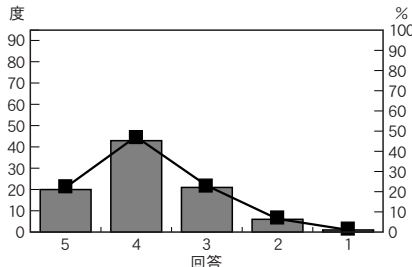
(有効な合計91)

■ 度 ■ %

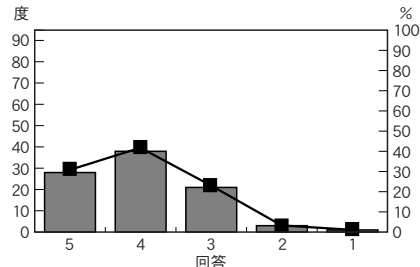
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



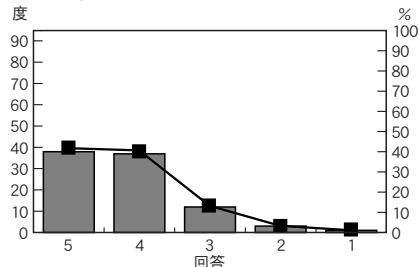
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



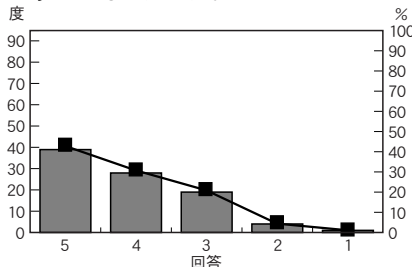
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



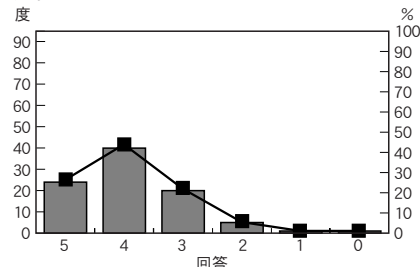
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



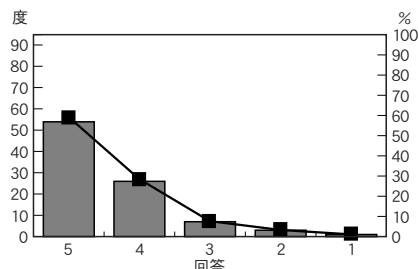
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



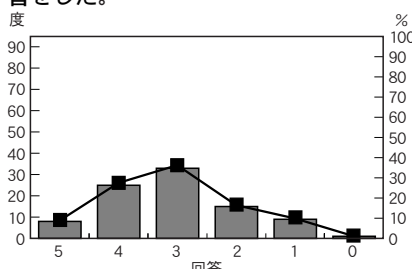
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



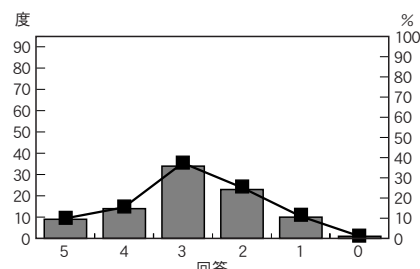
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



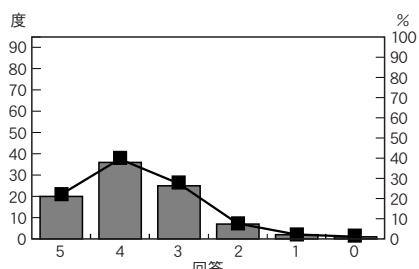
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



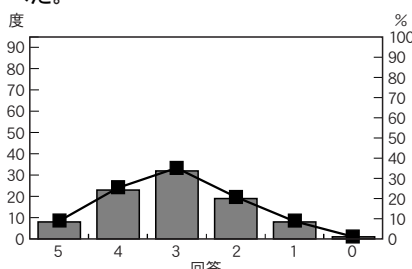
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



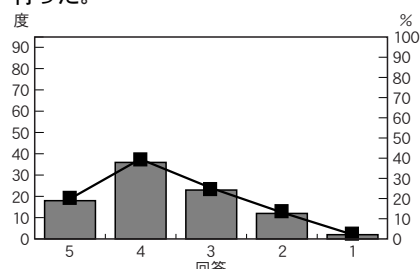
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



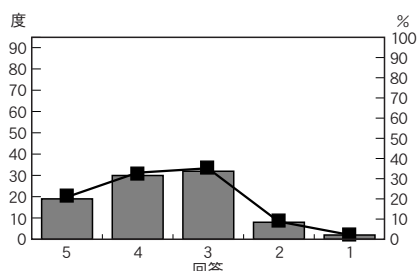
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



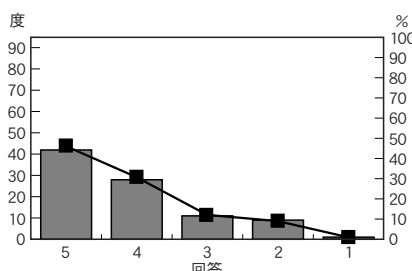
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



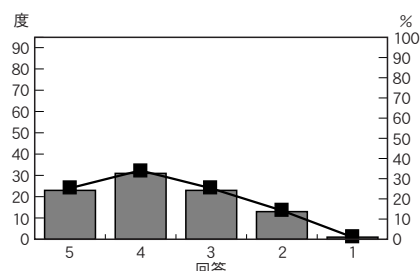
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



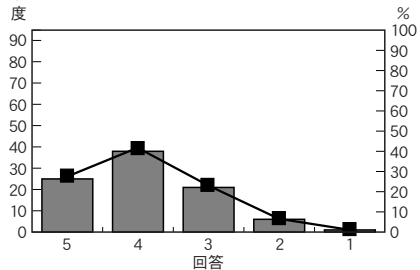
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



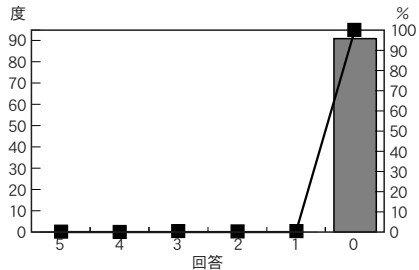
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



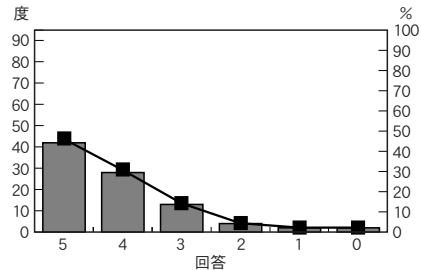
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



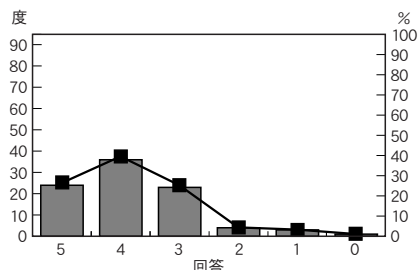
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



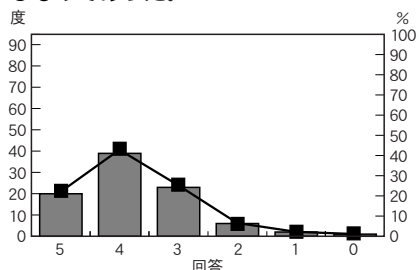
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

この授業は、小学校国語科指導の考え方や、指導力の基礎・基本となる「作文評価力」を磨くために開発した授業である。従来は50名台の人数であったが、大学院3年プログラム生を30名超えて受け入れたために、90名超の大人数になった。このためアンケートの自由記述に記された「改善点」で9名が教室の狭さを指摘している。(同時並行の他クラスも人数が多かった。)
「9 授業中の発言質問」の評点「3」「2」が多いのもこれに関係する。

内容については「言語モデルが難しい」3名、「試験が難しい・時間が短い等」3名の記述があったが、おおむね授業のねらいは達成されていると判断される。「現場に出て子どもの作文を読むのが楽しみ」「国語指導のポイントを学んだ」等のコメントには学習への手応えが表明されている。教師教育の仕事に就いて以来20年余りをかけこの授業内容の基本をほぼ定め得た。(なおシラバス通りには(わざと)進まない場合もあることを予め断っているが、意味がわからないらしく改善要望に挙げている学生がいる。)

評点「3」最多項目は「8 予習復習」「11 疑問調べ」2つである。この授業は授業中に「疑問」を起こさせ、それをミニレポートで考えさせて次時に考察するサイクルで進むので授業外にこの2項目を課すことはない。「8 予復習」に「4」が多いのは嬉しい驚きであった。

授業科目名：「初等理科」

評価実施日：平成 19 年 2 月 5 日

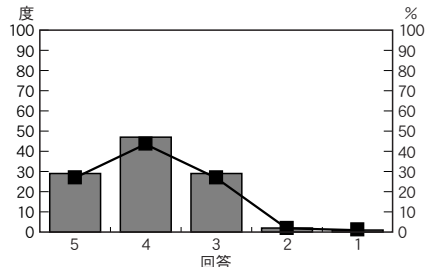
担当教員名：本田 亮, 米澤 義彦, 今倉 康宏, 村田 守

(有効な合計 108)

■ 度 ■ %

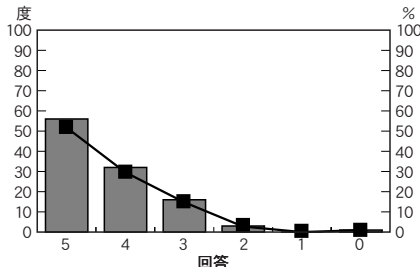
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



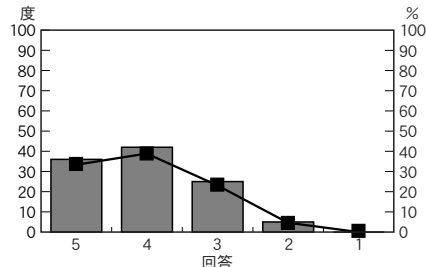
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



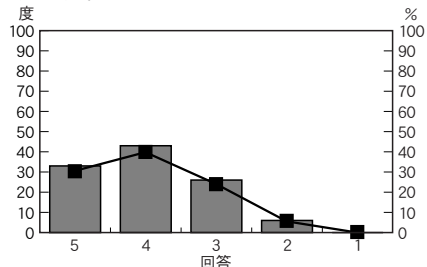
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



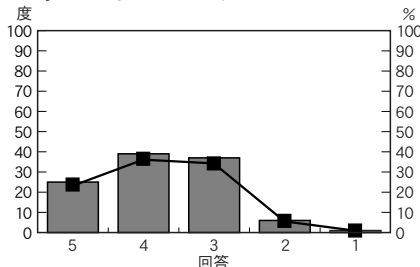
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



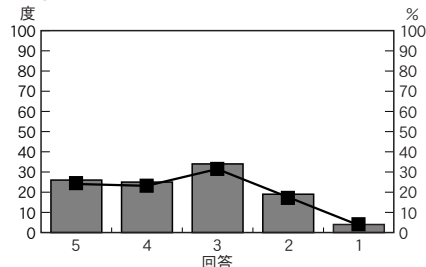
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



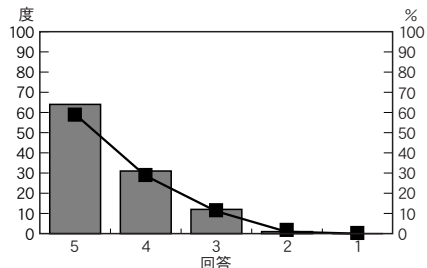
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



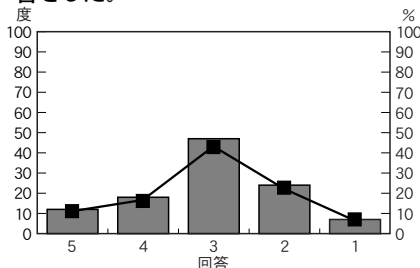
項目分析：(7)

授業によく出席した。



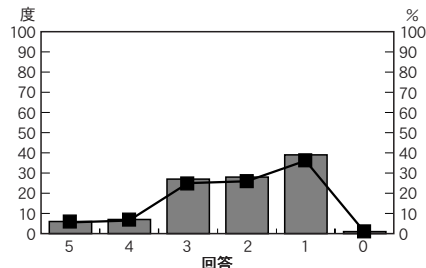
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



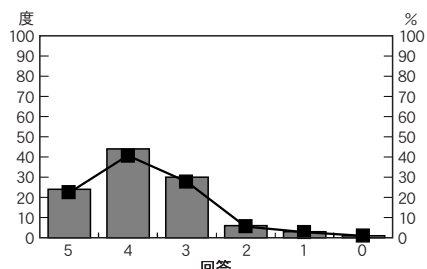
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



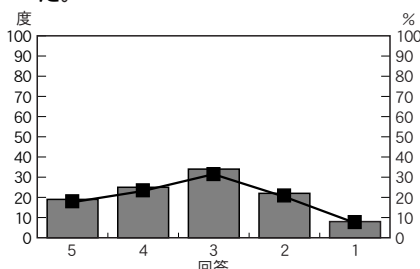
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



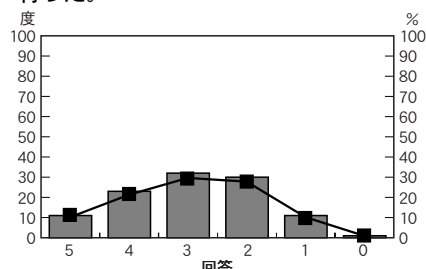
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



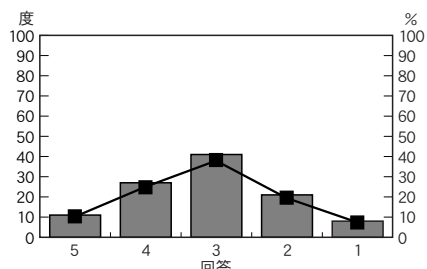
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



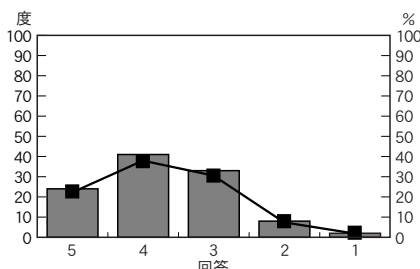
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



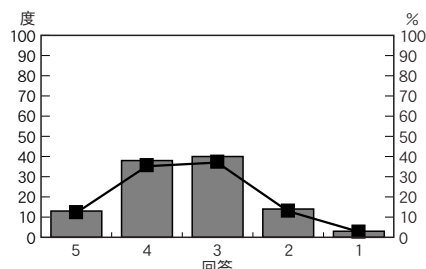
項目分析：(14)

熱心に指導した。

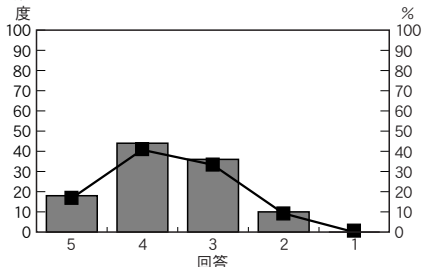


項目分析：(15)

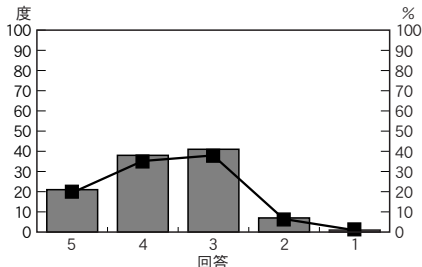
授業内容を分かりやすく説明した。



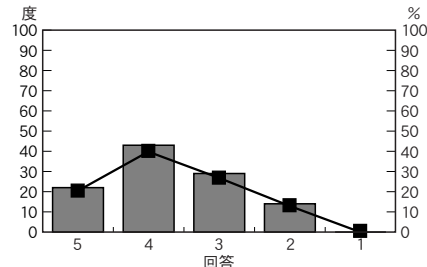
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



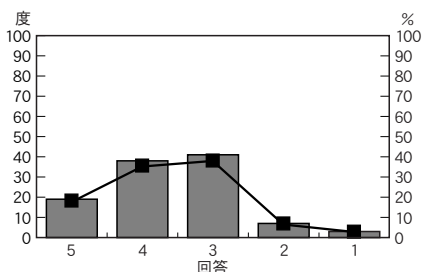
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



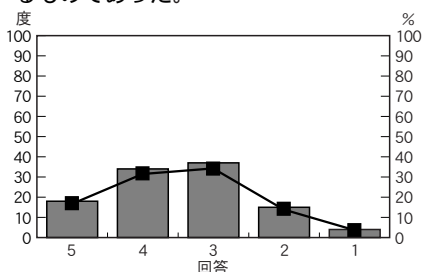
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

初等理科は物理・化学・生物・地学の4分野を各3コマ講義し、初等教員としての最低限の知識や、今後の自学自習の手助けとなる講義を行っている。高校での未履修分野の補償教育は「各分野の基礎」で行われているので、高校で習ってないとか、文系で理科は苦手とか、難しいとか自ら限界を設定する前に、努力して貰いたい。一部からは、もっと専門的な講義を希望されているが、科目の性格上それには応えられない。

アンケートのマークから、学生の評価を読み取ることが難しいので、自由記述から彼等の評価をみてみよう。

<全般>単に教員採用試験用の知識を増やせたと評価するのではなく、理科という授業は生徒の興味関心を高めるものだ実感しつつ、理科を教える難しさも気づいている。子どもたちを教えるためには、多くの知識も必要となるであろうから、初等理科で単位を貰ったから、もう理科を学ばなくて良いとは思っていないようだ。

<個別>例年通り、地学が高い評価を得た。化学は昨年に比べ分かりやすくなったと評価された。化学は昨年と同一教員が教えているが、昨年のアンケートの結果を踏まえ、授業改善の結果と思われる。

<苦情>試験は物理・生物を第7週に、化学・地学を第14週に行ったが、物理・生物の試験結果を早く知りたいとの意見が多かった。来年度は、対応するようにしたい。また、化学分野で出題すると言った問題が出題されなかったという苦情が複数あったが、このような苦情が正当なものであるかどうか学生自身に考え直して貰いたい。

授業科目名：「初等音楽Ⅰ」

評価実施日：平成19年2月15日ほか

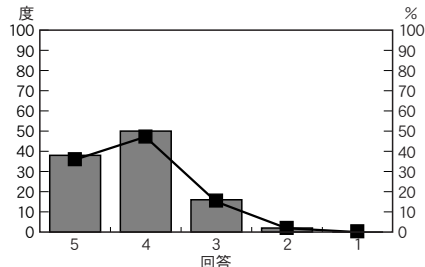
担当教員名：木村正邦, 草下 實, 村澤由利子, 頃安利秀, 森 正, 山田啓明, 山根秀憲, 松岡貴史

(有効な合計106)

■ 度 ■ %

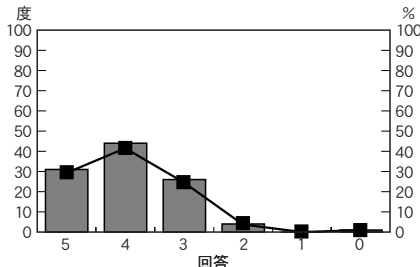
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



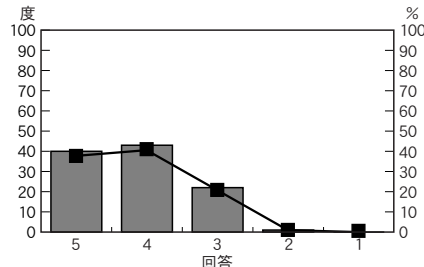
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



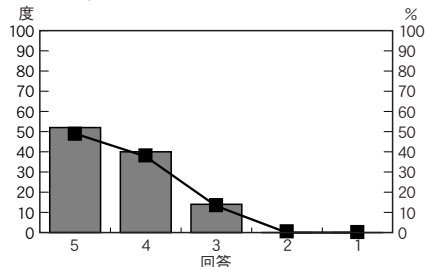
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



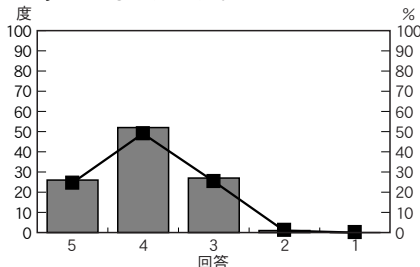
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



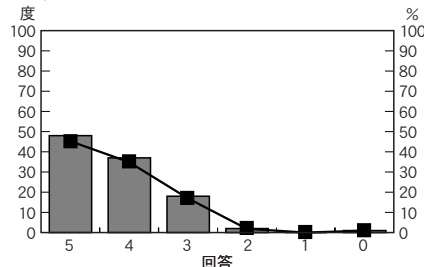
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



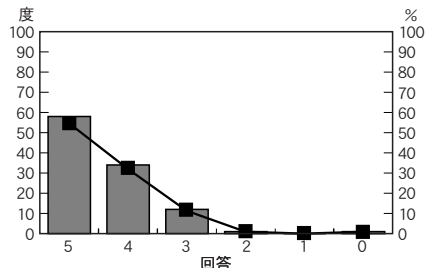
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



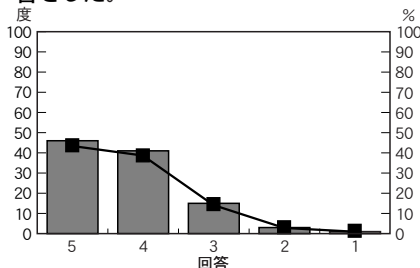
項目分析：(7)

授業によく出席した。



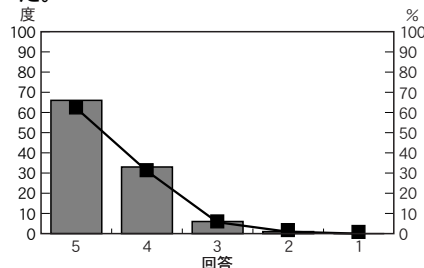
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



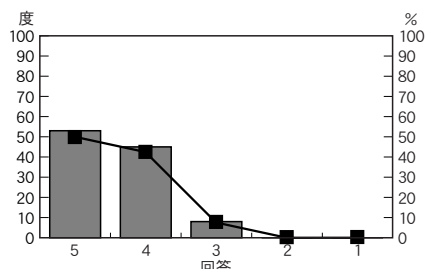
項目分析：(9)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



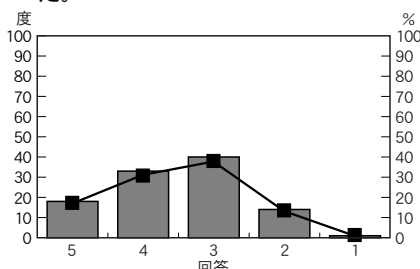
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



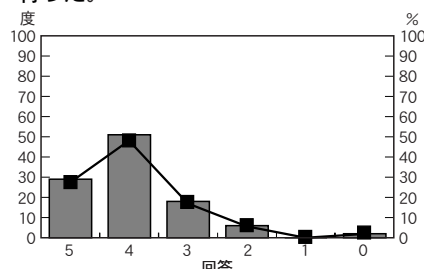
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



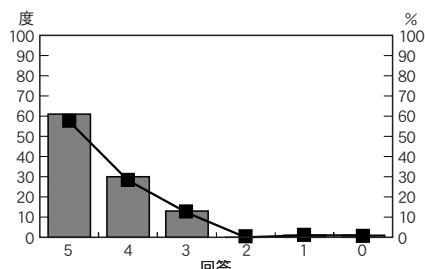
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



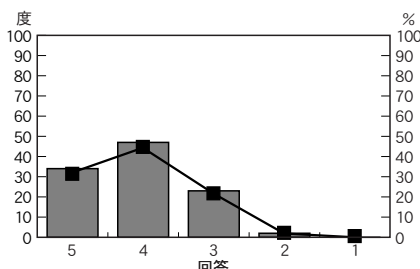
項目分析：(13)

熱心に指導した。



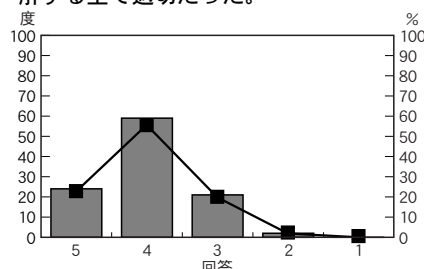
項目分析：(14)

授業内容を分かりやすく説明した。

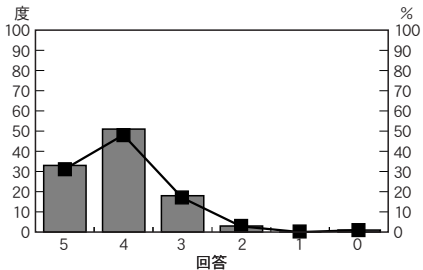


項目分析：(15)

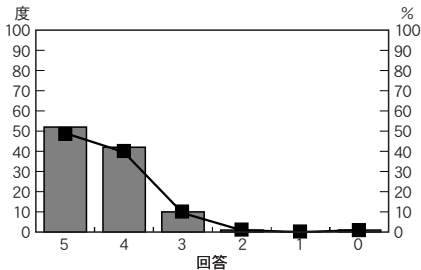
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



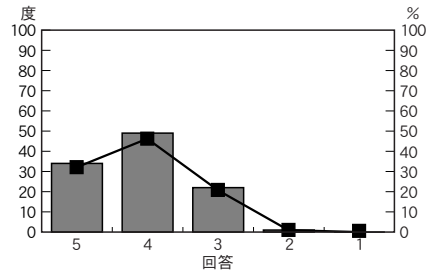
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



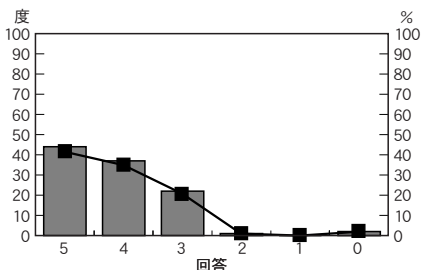
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



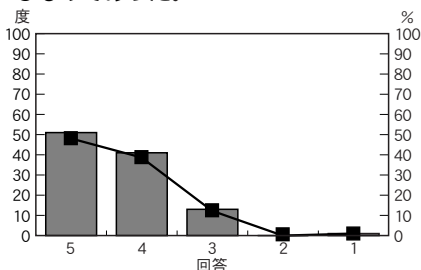
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

この表の結果を見る限り、初等音楽Iの授業が大方の学生にはほぼ満足できるものであったことが分かる。しかしながら、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」の回答率が低いのが気になる。個人差が著しい授業なので、分からないこと（特に読譜）や、疑問に思ったことを質問できる環境をつくる必要があるであろう。また、大学院長期履修者の履修が40～50名増加し、後半の実技指導（ピアノ・声楽）では十分な指導を行うには、担当教員の数にも限りがあり、今後の対策について検討が急務である。

授業科目名：「初等音楽Ⅱ」

評価実施日：平成19年2月19日

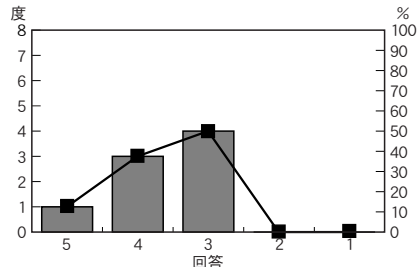
担当教員名：木村正邦，草下 實，村澤由利子，頃安利秀，森 正，山田啓明，山根秀憲

(有効な合計8)

■ 度 ■ %

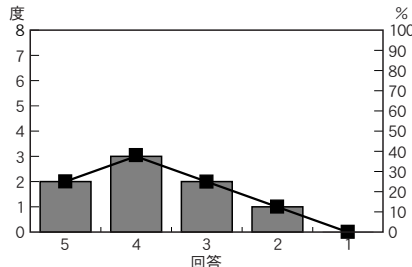
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



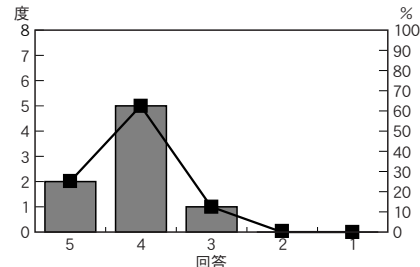
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



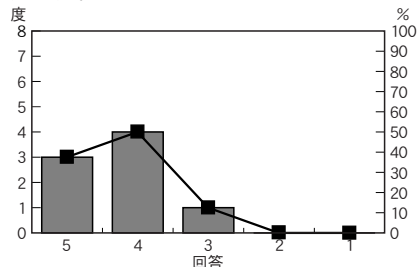
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



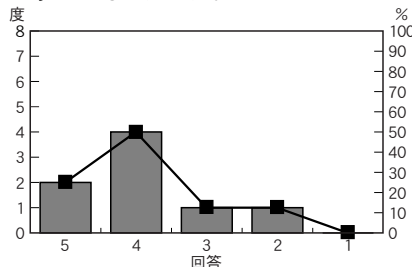
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



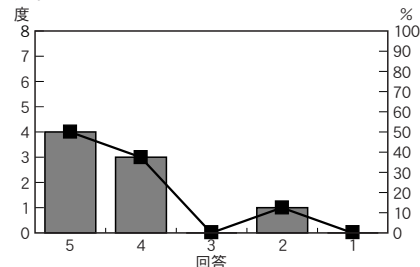
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



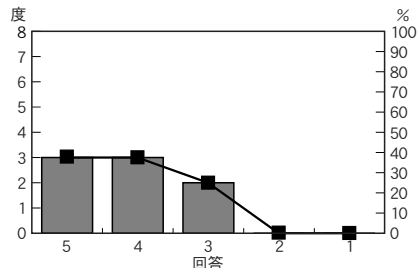
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



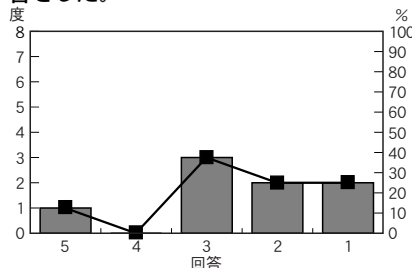
項目分析：(7)

授業によく出席した。



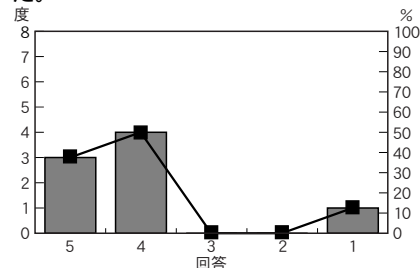
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



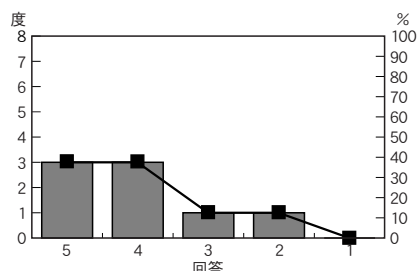
項目分析：(9)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



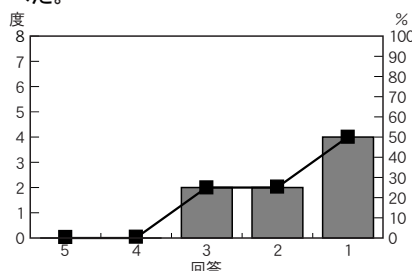
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



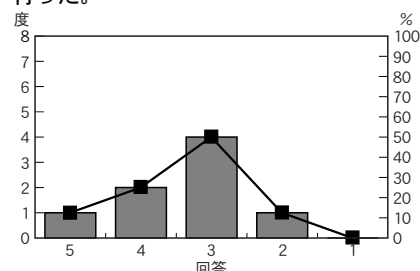
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



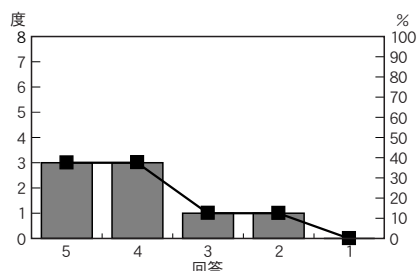
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



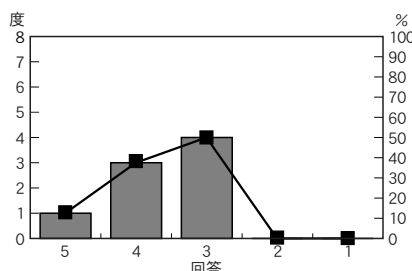
項目分析：(13)

熱心に指導した。



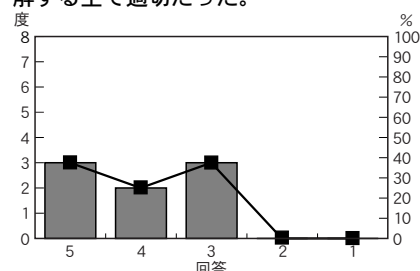
項目分析：(14)

授業内容を分かりやすく説明した。

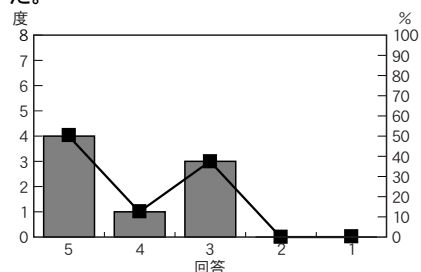


項目分析：(15)

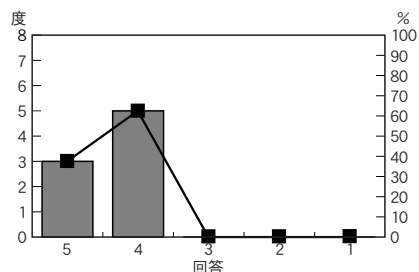
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



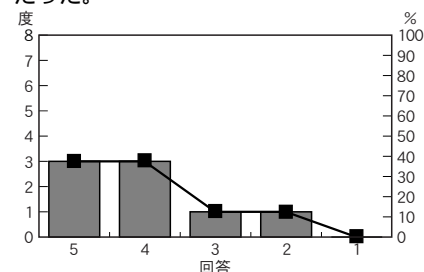
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



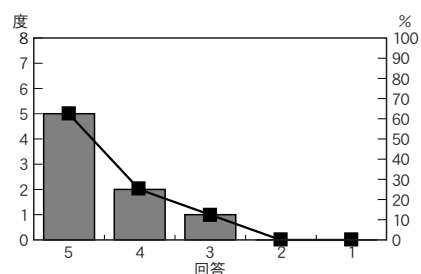
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



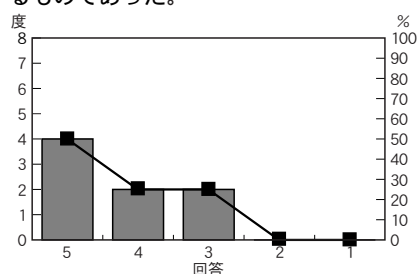
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

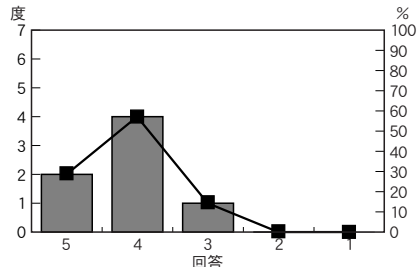
受講生はこの授業によく出席し、満足したと思われる。最後のアンサンブルの発表では、受講者の大多数が「楽しく演奏できた」と述べ、各自が熱心に取り組んだ姿勢が窺える。個々の能力に適した徹底した個人指導の結果であったと考えている。今後の、授業改善の方向としては課題等の選択を検討していきたい。

授業科目名：「初等体育Ⅱ」
 評価実施日：平成18年7月13日
 担当教員名：賀川 昌明

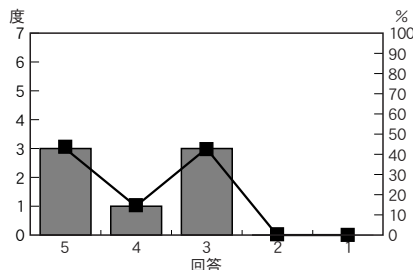
(有効な合計7)

■ 度 ■ %

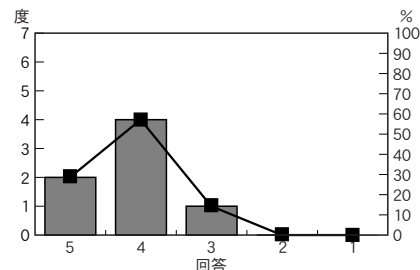
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



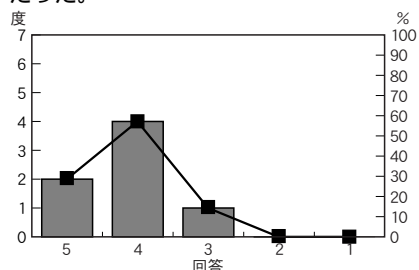
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



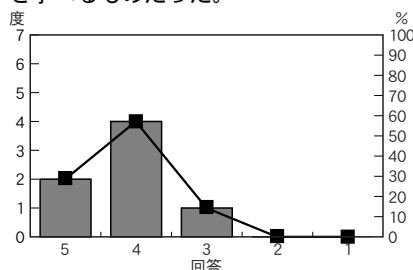
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



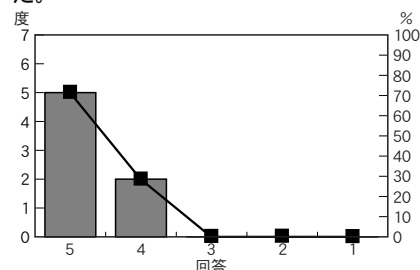
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



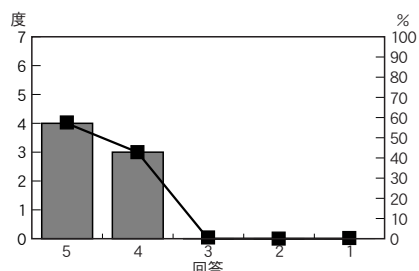
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



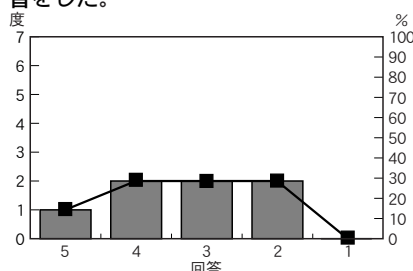
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



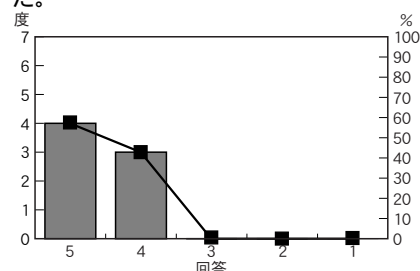
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



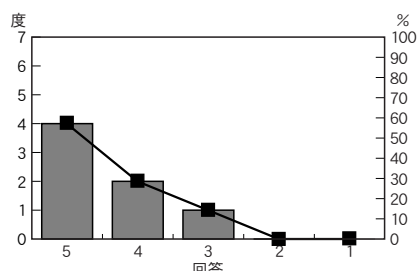
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



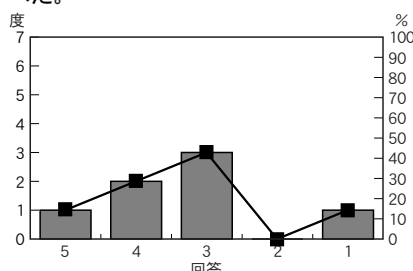
項目分析：(9)
 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



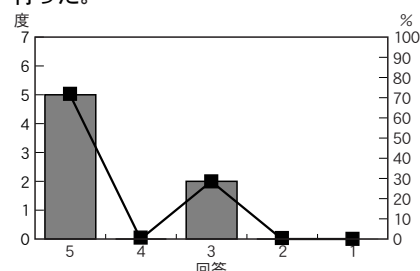
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



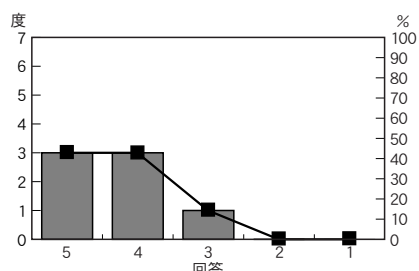
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



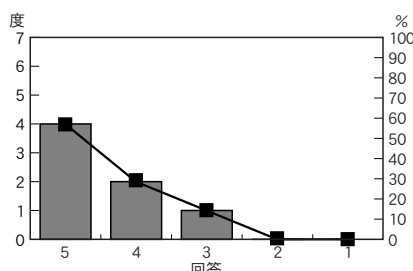
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



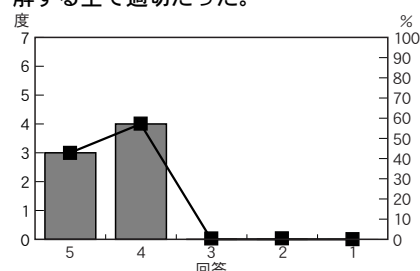
項目分析：(13)
 熱心に指導した。



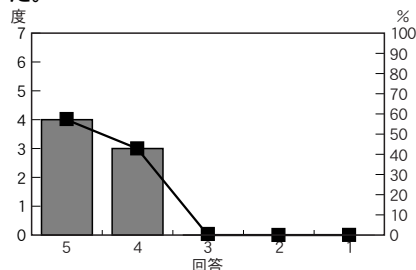
項目分析：(14)
 授業内容を分かりやすく説明した。



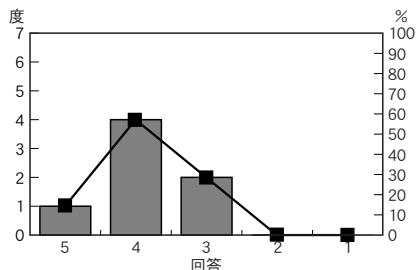
項目分析：(15)
 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



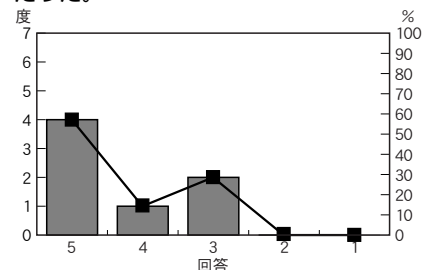
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



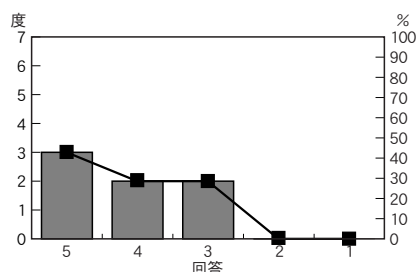
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



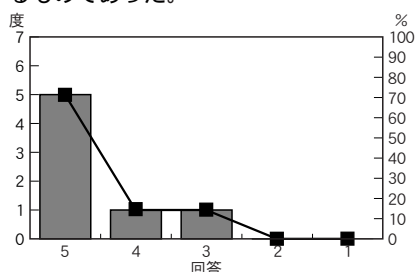
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全体としては、ほぼ肯定的な評価を得られたと考えられる。特に「学生の理解状況を確認しながら授業を行った。」「この授業は、自分にとって満足できるものであった。」については、7人の受講生中5名が「非常にそうである」と回答した。また、「授業内容は、興味・関心を引くものだった。」についても、5名が「非常にそうである」、2名が「かなりそうである。」と回答した。その他の回答においても、教員の指導に対しては概ね肯定的な回答が示された。

一方、受講生側の学習に対する自己評価のうち、「積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。」「教員の説明をよく聞いた。」等に対しては肯定的な回答が多かったが、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」「分からないことや疑問に思ったことは調べた。」等に対しては、それほど積極的でなかった旨の回答が示された。また、自由記述のなかで「学外での体験や幼児との触れ合い」を肯定する意見とともに「休日等の授業時間外に行う活動」に対する否定的な意見も見られた。学外での活動を授業時間内だけで実施するのは困難であるが、今後検討したい。

授業科目名：「国語学概論（音声言語・文章表現を含む。）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日

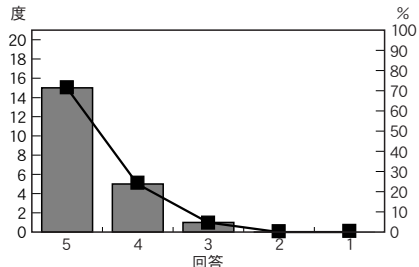
担当教員名：茂木 俊伸

(有効な合計21)

■ 度 ■ %

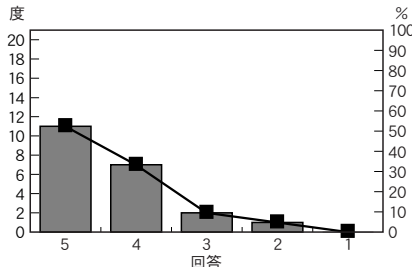
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



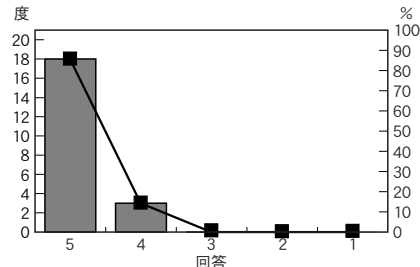
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



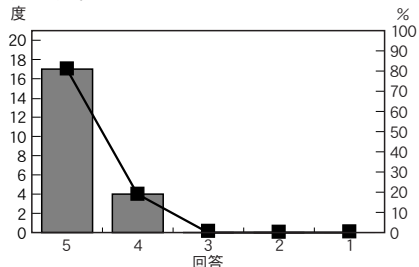
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



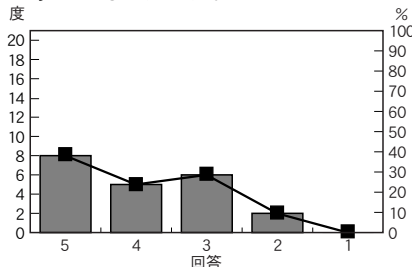
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



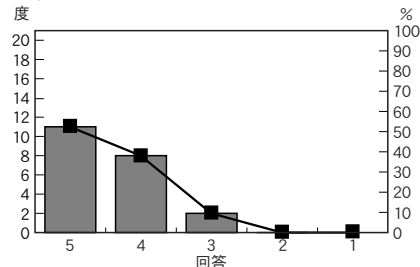
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



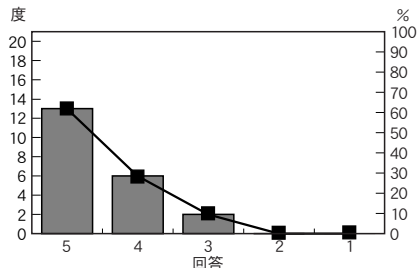
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



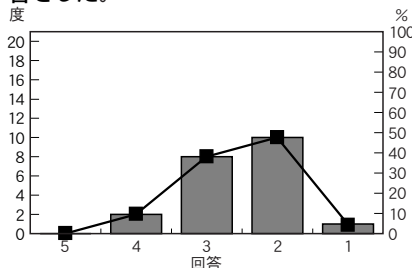
項目分析：(7)

授業によく出席した。



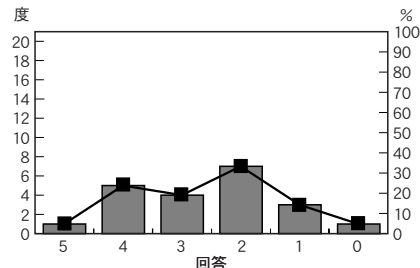
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



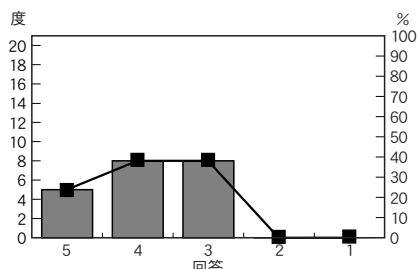
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



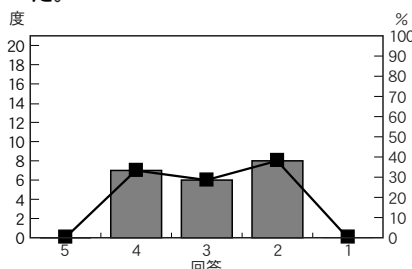
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



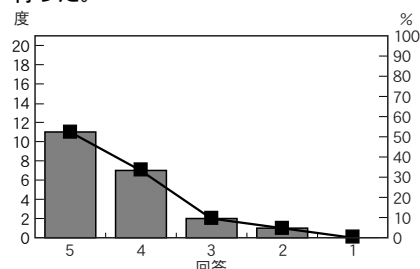
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



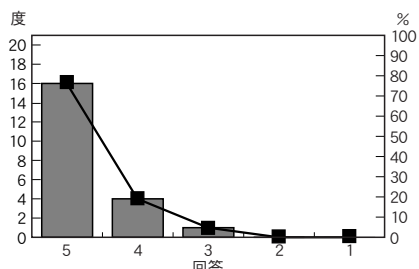
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



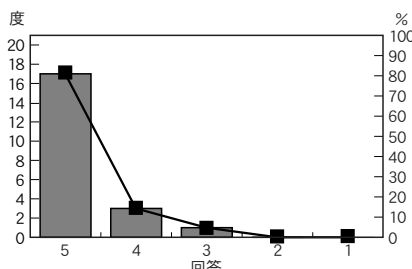
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



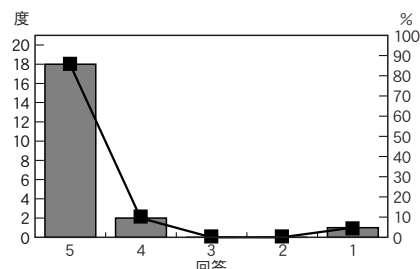
項目分析：(14)

熱心に指導した。

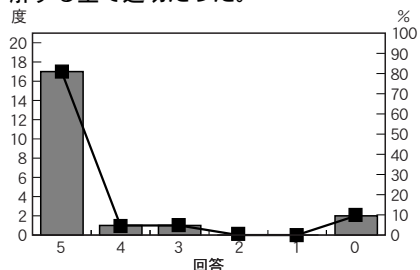


項目分析：(15)

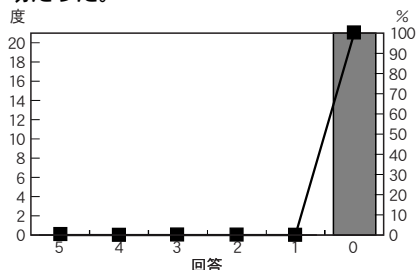
授業内容を分かりやすく説明した。



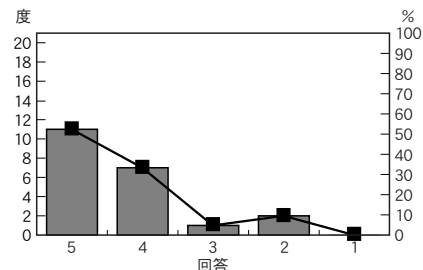
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



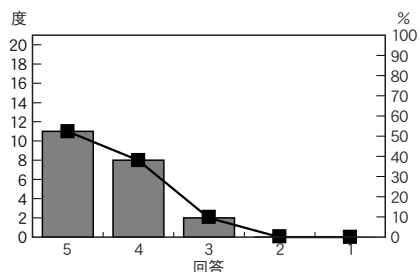
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



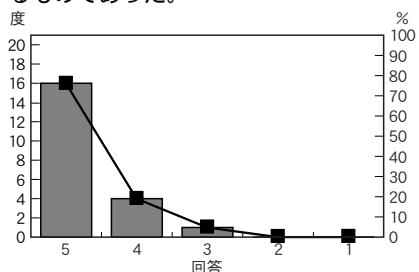
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

評価の平均が4.23であったこと、9項目（質問項目1・3・4・7・13～16・20）で高い評価（4.5以上）が得られたことから、概ね好意的な評価がなされたと思われる。

一方、昨年度と同様、質問項目8・9・11は評価が低く、受講者の自発的な学習活動をいかに促すが大きな課題となっている。毎回の授業で質問メモの提出を受け、翌週回答するという方式には肯定的な意見（9人）が寄せられているが、これをどのように授業外の主体的な学習につなげていくか、さらに考えたい。

そのほか受講生のコメントとして、「普段何気なく使っている日本語について改めて考えてみる良い機会になりました」「いままでの自分の日本語に対する考え方が変わって、こういう研究をしたいなとも思うことができました」など、シラバスの到達目標に合致するものが得られた。「声が少しききとりにくかった」という指摘（2人）については、改善したい。

授業科目名：「国語学Ⅱ」

評価実施日：平成 18 年 7 月 25 日

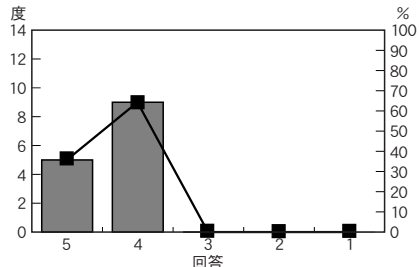
担当教員名：原 卓志

(有効な合計 14)

■ 度 ■ %

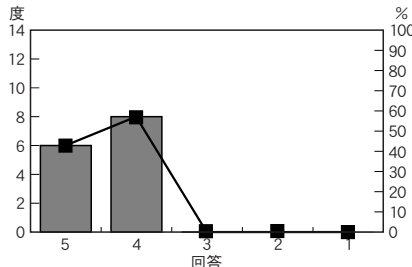
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



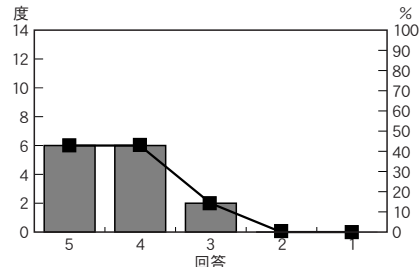
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



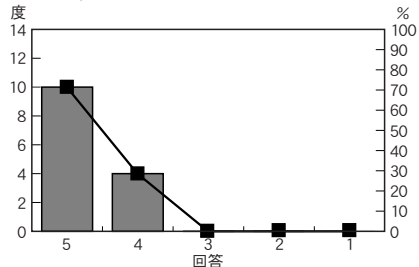
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



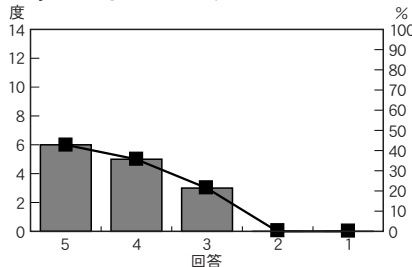
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



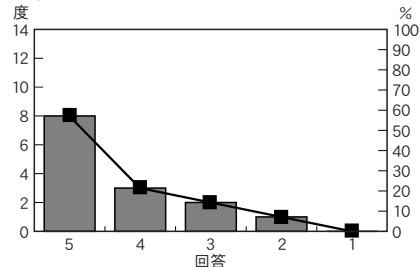
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



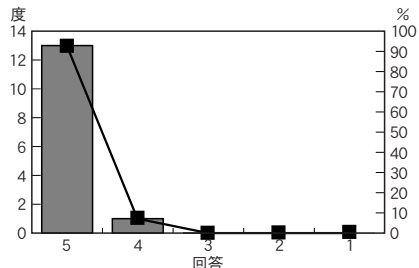
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



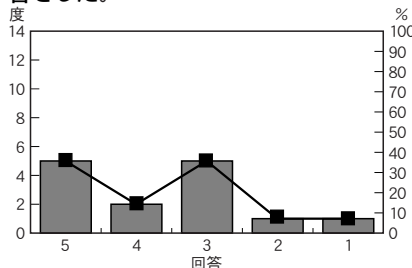
項目分析：(7)

授業によく出席した。



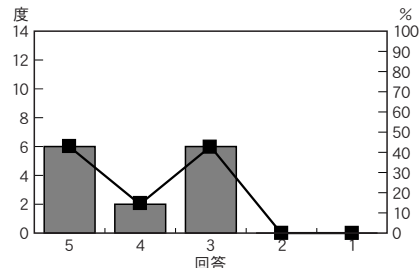
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



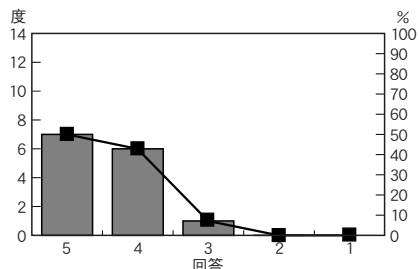
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



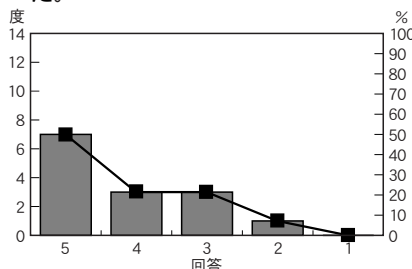
項目分析：(10)

積極的に課題に取り組んだ。



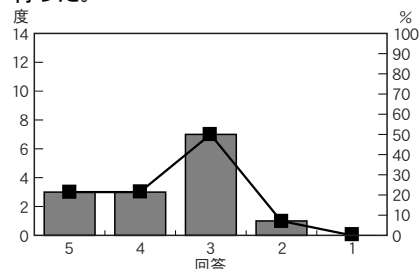
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



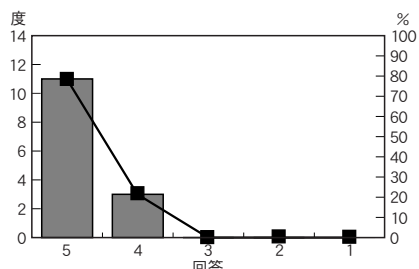
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



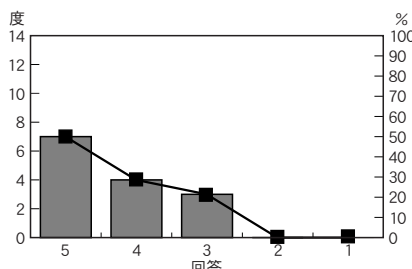
項目分析：(13)

学生参加型の授業だった。



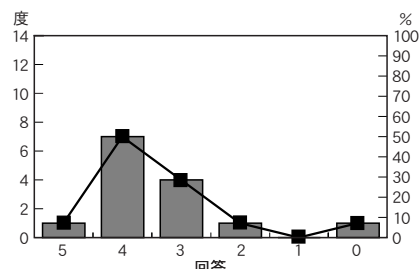
項目分析：(14)

熱心に指導した。

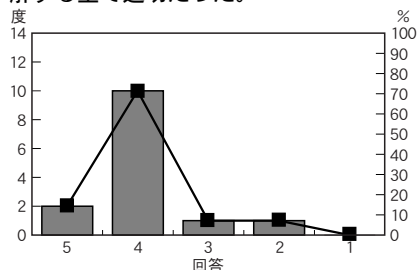


項目分析：(15)

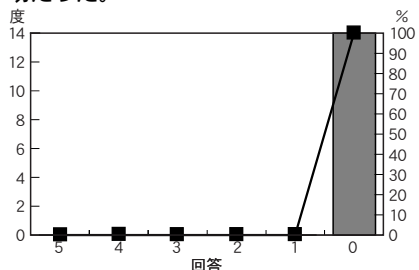
授業内容を分かりやすく説明した。



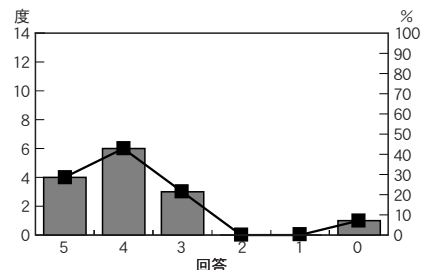
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



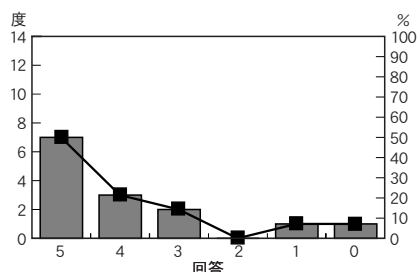
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



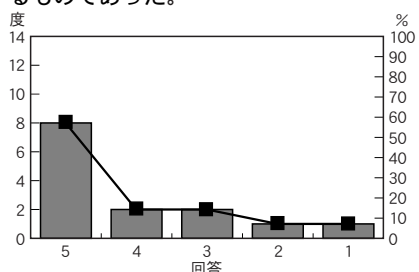
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

古典教科書教材から自由に教材を選ばせ、傍注テキストを作成し、それをもとに模擬授業を行い、その後にディスカッションするという形態で進めた。受講生の評価はおおむね良好であった。

自由記述欄には、「たくさんの古文を読み、たくさんの傍注テキストを作ることができたこと。また、板書の書き方、授業の進め方を教えてもらうことができてよかった」「自分たちで古典を深く読んでいくことができた。今までにないくらい言葉・表現について考えることができた」「授業の進め方がわかった」「実際に授業することで、授業の進め方や発問の仕方など学ぶことができた」といった感想があり、授業作りに苦勞しながらも得るところがあったと評価している者が多いようである。改善して欲しいという記述に、「教師の個人的な意見が多い」「結局教師の意見を言って終わるところ」という感想を記した受講生が2人あり、いずれも項目(20)満足度評価が1, 2と低い。この2人の学生が何を求めていたのか、真意を汲み取れないままになったのが残念である。

来年度は、傍注テキストの作成を徹底して指導するとともに、事前指導を充実させ、その中で受講生とのコミュニケーションをはかっていきたい。

授業科目名：「国語学特論Ⅰ」

評価実施日：平成19年2月5日

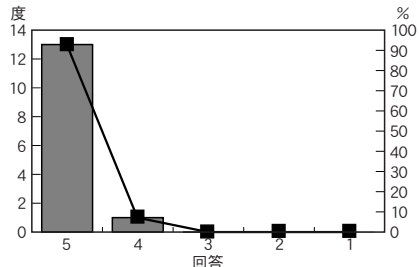
担当教員名：原 卓志， 茂木 俊伸

(有効な合計14)

■ 度 ■ %

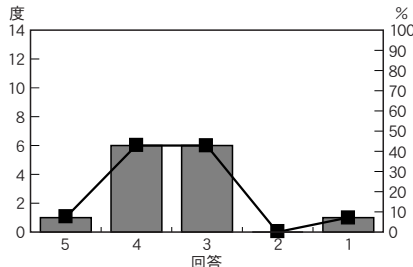
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



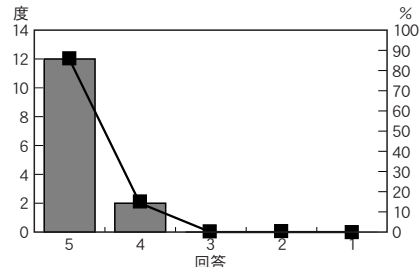
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



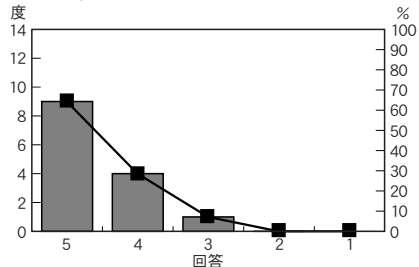
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



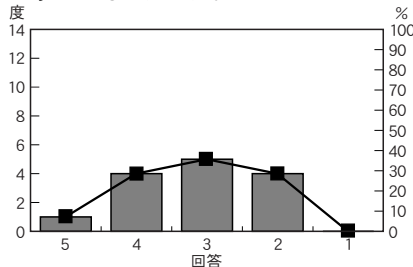
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



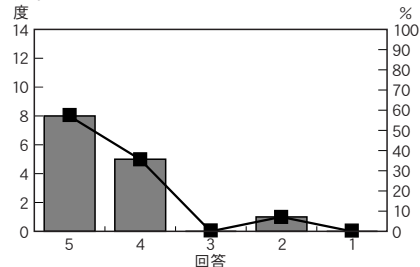
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



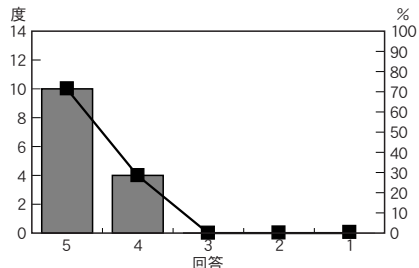
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



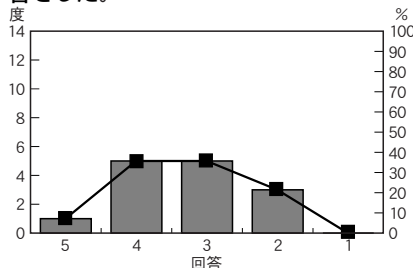
項目分析：(7)

授業によく出席した。



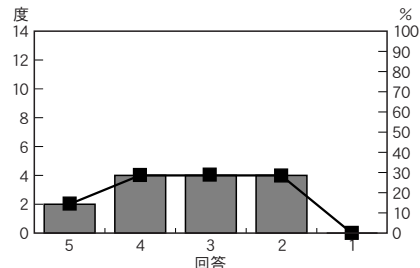
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



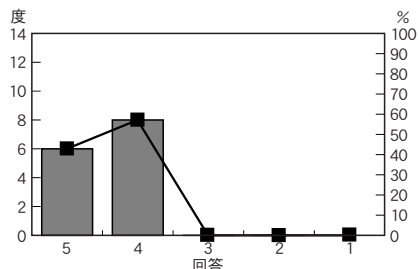
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



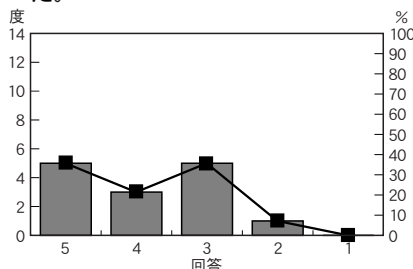
項目分析：(10)

積極的に課題に取り組んだ。



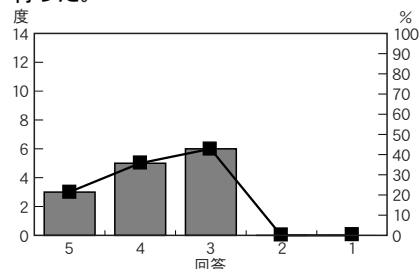
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



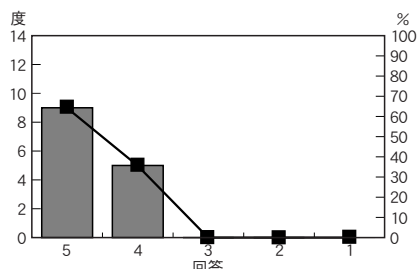
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



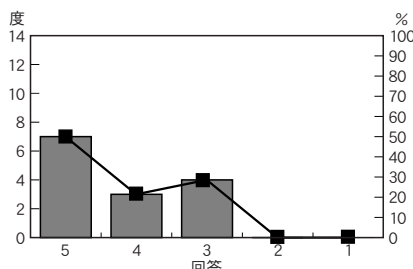
項目分析：(13)

学生参加型の授業だった。



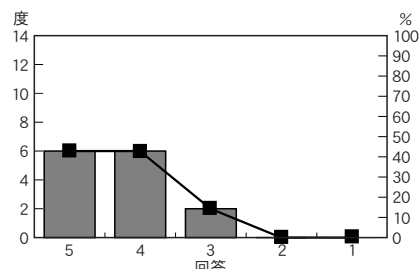
項目分析：(14)

熱心に指導した。

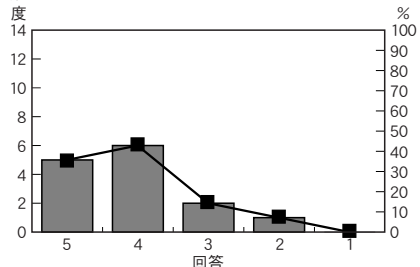


項目分析：(15)

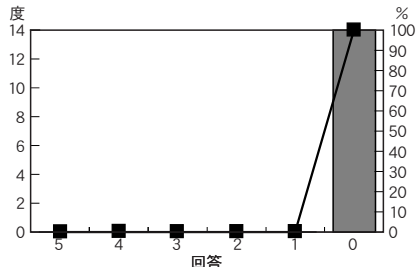
授業内容を分かりやすく説明した。



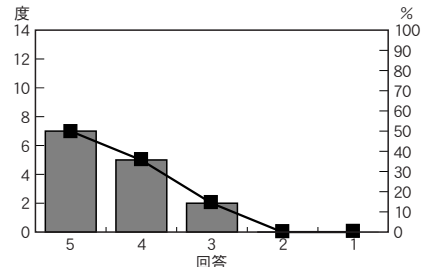
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



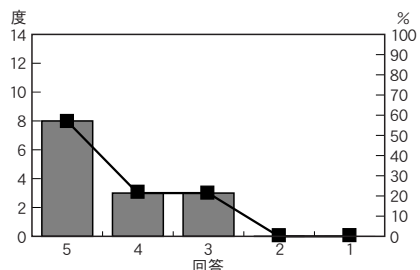
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



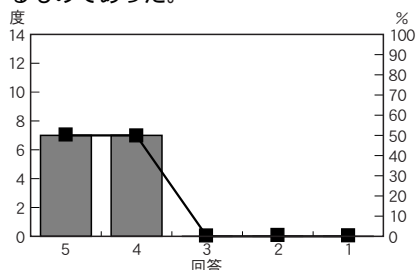
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全項目の評価の平均が4.17であったこと、質問項目1・3・4・7・13・20で高い評価（平均4.5以上）が得られたことから、概ね好意的な評価がなされたと思われる。

一方、演習形式であるにもかかわらず、昨年度同様、項目8・9・11は評価が低い。項目7・10との差から、自分が担当する発表が終わった後の主体的な取り組みが問題となっている。

受講生のコメントの多くは、日本語の面白さの再発見・言語感覚の変化（7人）と分析や発表のスキルの習得（8人）に言及しており、シラバスの到達目標は達成できたと考えられる。「とても労力のいる授業だったけど、それだけの力はずいぶんついたと思う」という学生の達成感を授業実践にどのようにつなげ、活かしていくのかは、教員・学生双方の課題である。項目5の改善とあわせ、カリキュラムの中で方策を考えたい。

授業科目名：「国文学Ⅱ」

評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日

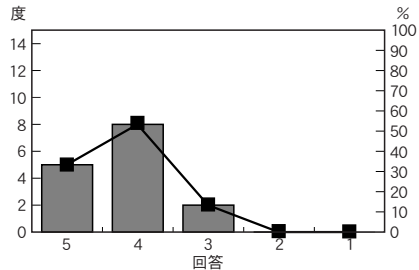
担当教員名：赤松 万里

(有効な合計 15)

■ 度 ■ %

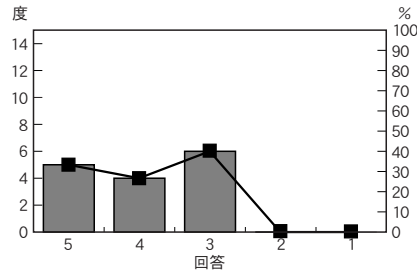
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



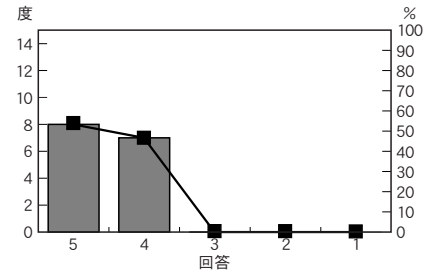
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



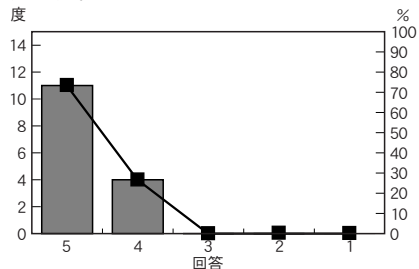
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



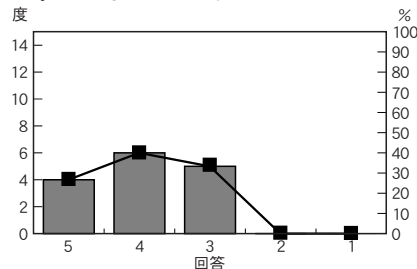
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



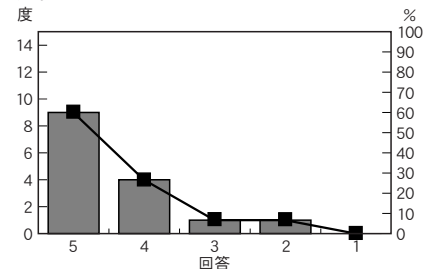
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



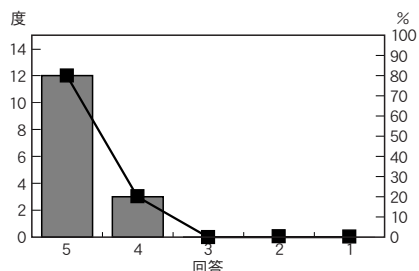
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



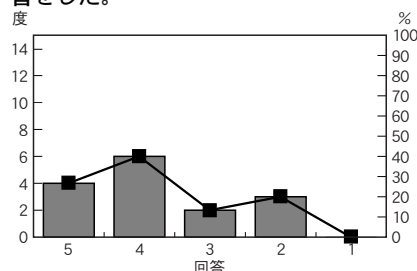
項目分析：(7)

授業によく出席した。



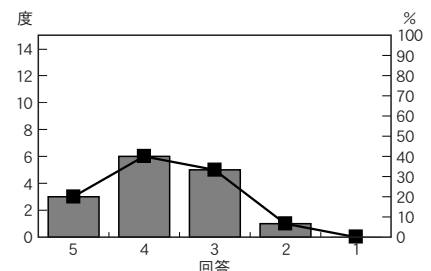
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



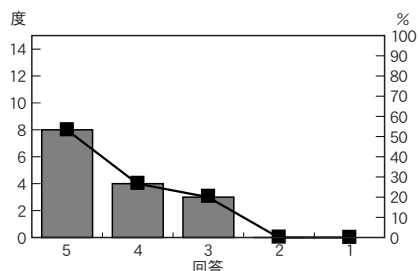
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



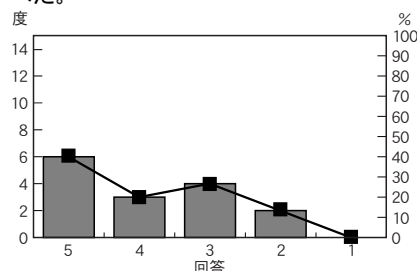
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



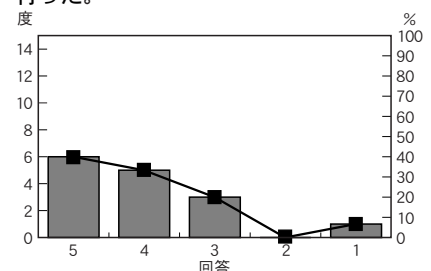
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



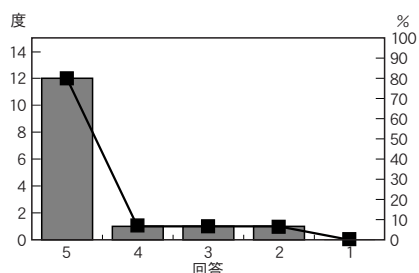
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



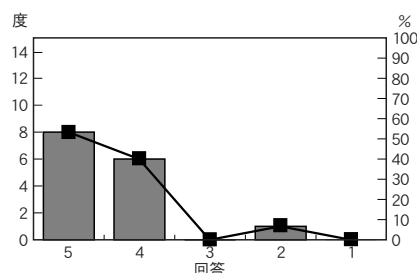
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



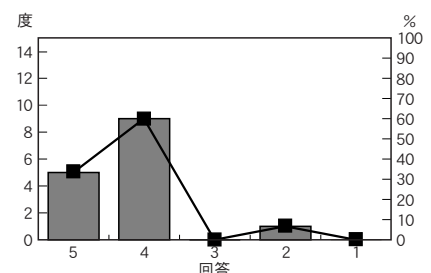
項目分析：(14)

熱心に指導した。

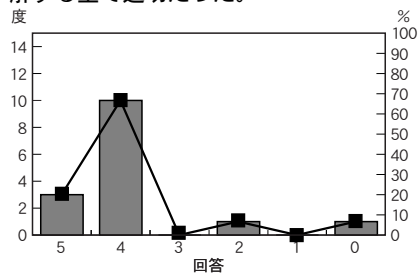


項目分析：(15)

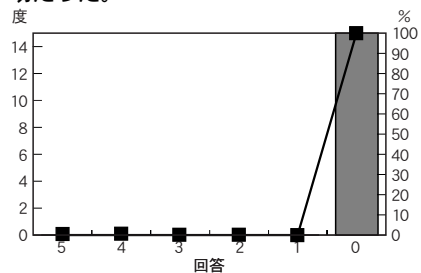
授業内容を分かりやすく説明した。



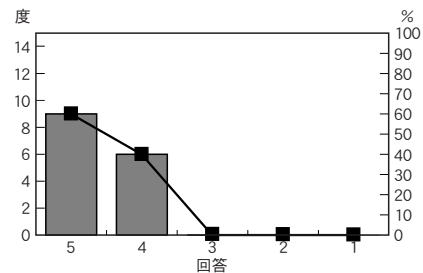
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



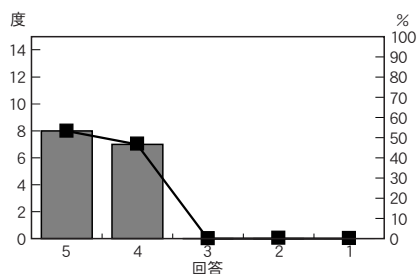
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



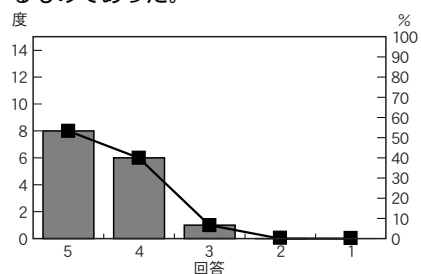
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

国文学Ⅱについては以下のとおりである。

学生の本授業についての満足度はおおむね高かったと考える。

特に項目分析(3)(4)(6)(7)(10)(11)(12)(13)(14)(18)(19)(20)に5が最多であったことは学生の満足度、理解度、教員の教授のやり方がかなりの程度肯定されると考えている。

授業科目名：「国文学特論Ⅱ」

評価実施日：平成19年2月21日

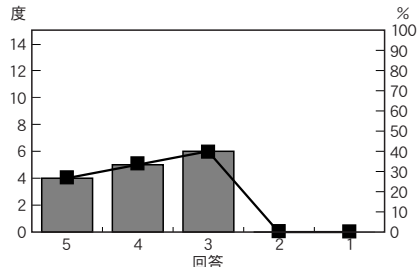
担当教員名：赤松 万里, 田辺 健二

(有効な合計15)

■ 度 ■ %

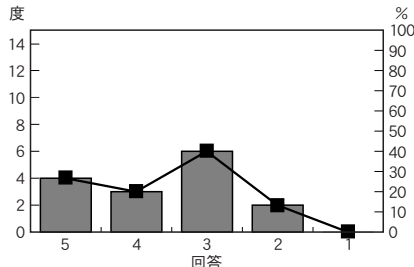
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



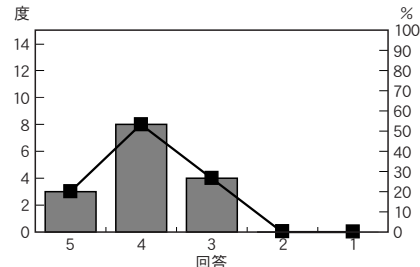
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



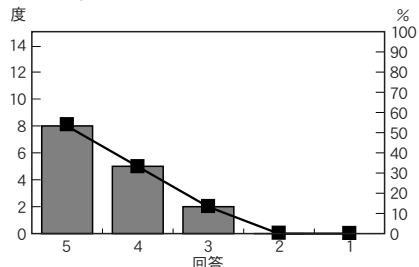
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



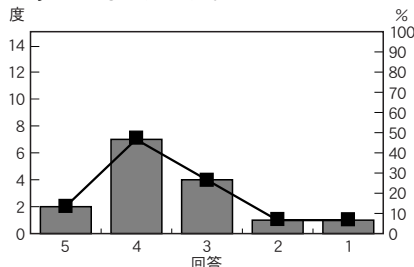
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



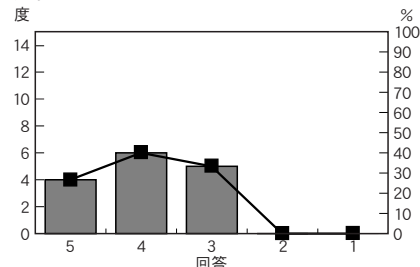
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



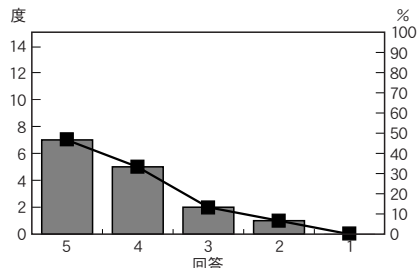
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



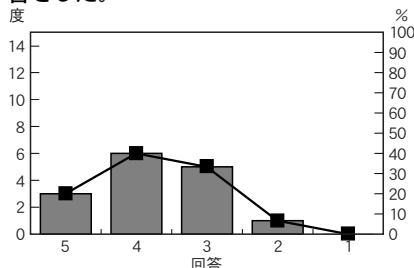
項目分析：(7)

授業によく出席した。



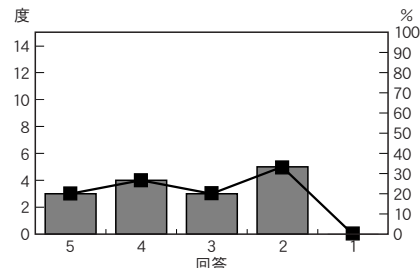
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



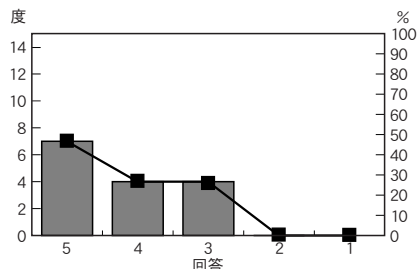
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



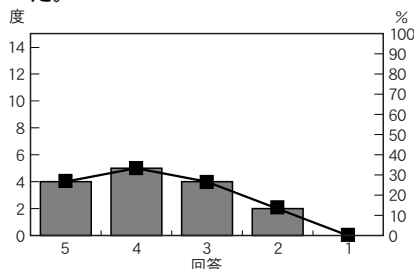
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



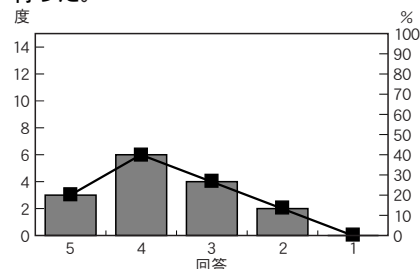
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



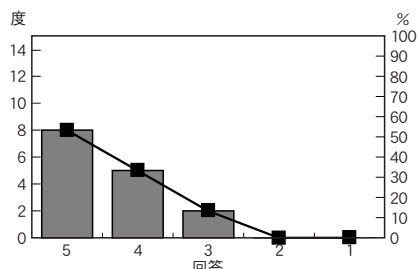
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



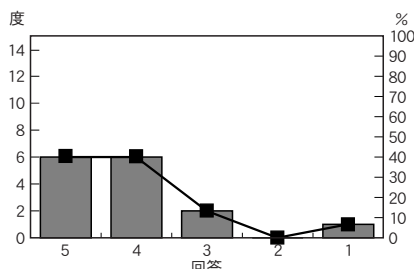
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



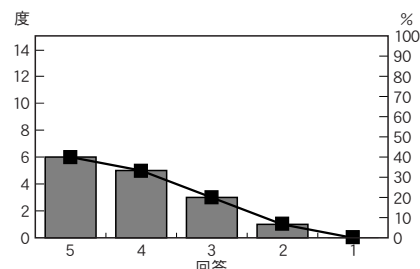
項目分析：(14)

熱心に指導した。

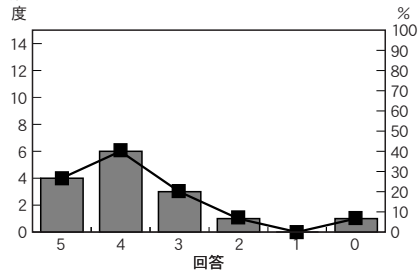


項目分析：(15)

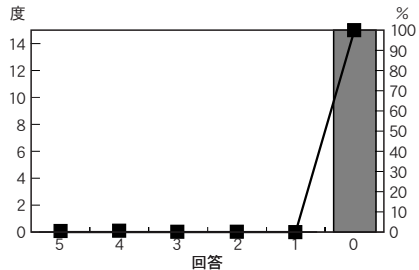
授業内容を分かりやすく説明した。



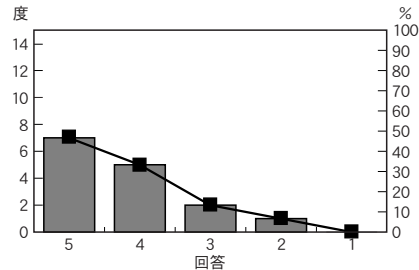
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



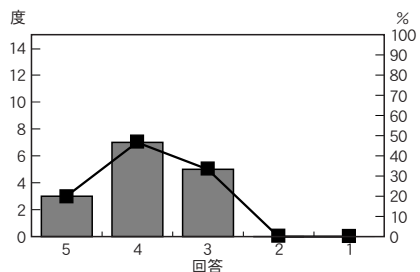
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



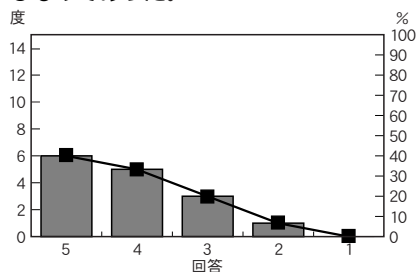
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

国文学特論Ⅱについては以下のとおりである。

学生の本授業についての満足度はおおむね高かったと考える。

特に項目分析(4)授業内容は、教養や専門性を高めるものだった、項目分析(7)授業に良く出席した。項目分析(13)学生が参加しやすい授業だった。項目分析(14)熱心に指導した、項目分析(15)授業内容をわかりやすく説明した、項目分析(18)教員の声は、聞き取りやすかった、項目分析(20)この授業は、自分自身にとって満足できるものであった、等に5が最多であったことは学生の満足度、理解度、教員の教授のやり方がかなりの程度肯定されると考えている。

授業科目名：「書写Ⅲ」

評価実施日：平成 18 年 7 月 24 日

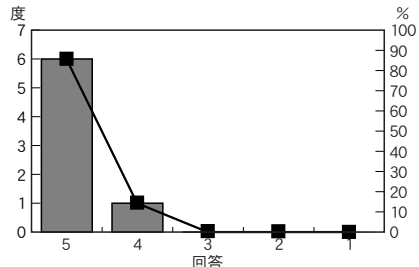
担当教員名：蓑毛 政雄

(有効な合計 7)

■ 度 ■ %

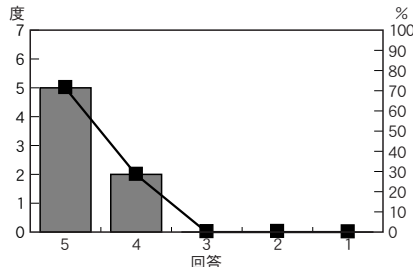
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



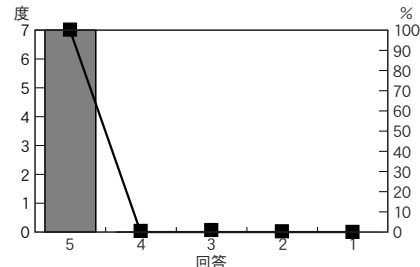
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



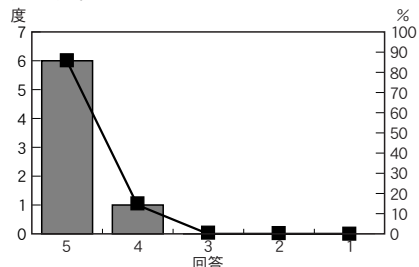
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



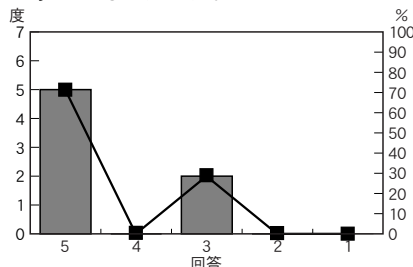
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



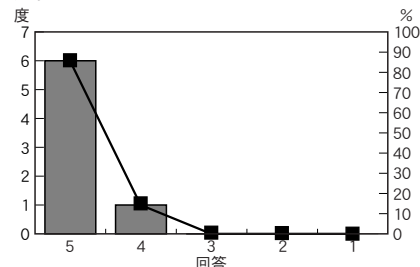
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



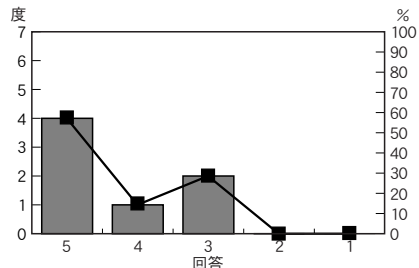
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



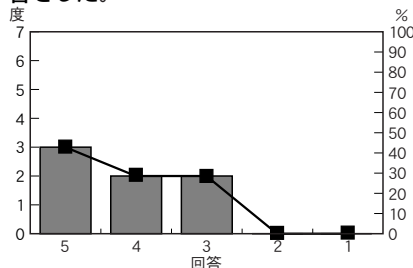
項目分析：(7)

授業によく出席した。



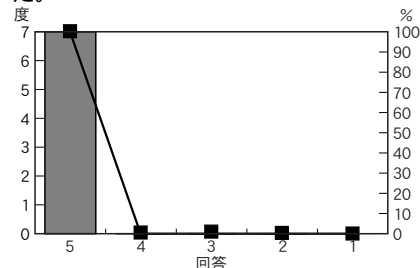
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



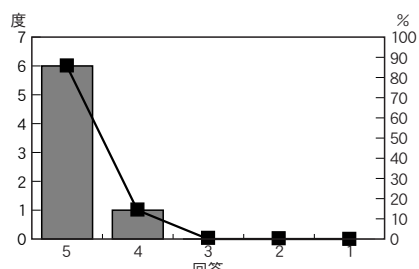
項目分析：(9)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



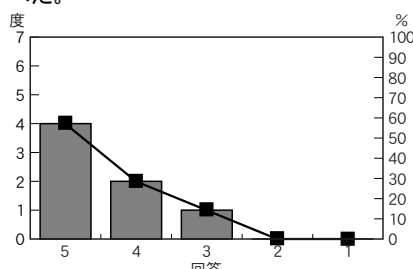
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



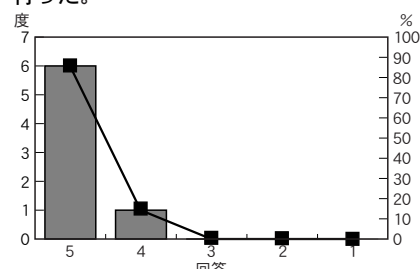
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



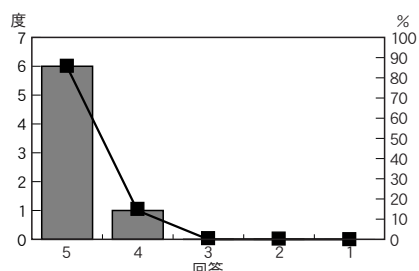
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



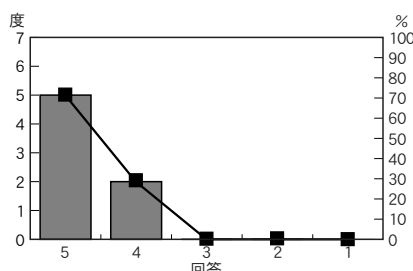
項目分析：(13)

熱心に指導した。



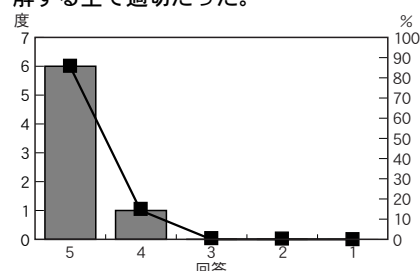
項目分析：(14)

授業内容を分かりやすく説明した。

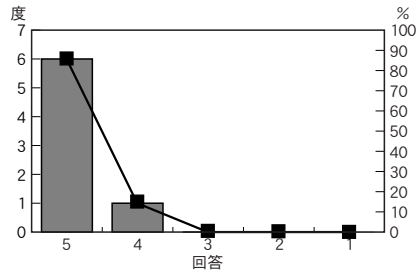


項目分析：(15)

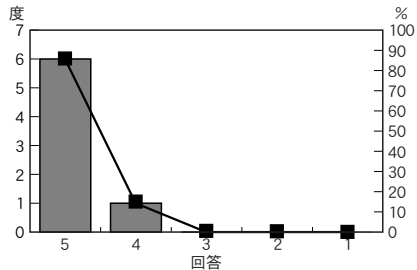
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



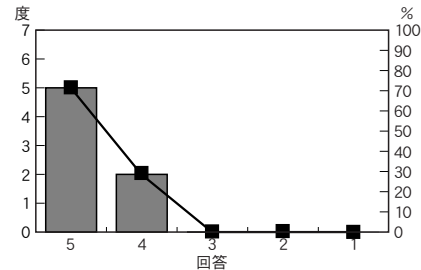
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



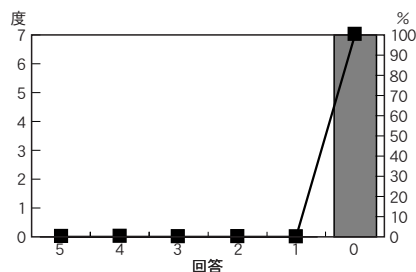
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



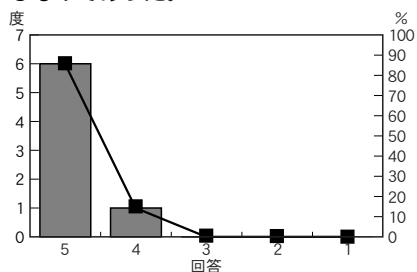
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

各評価項目とも5または4の評価であり、授業内容としては特に問題はないように思われる。

ただ、授業の評価項目の中に、「授業によく出席した」や「予習や復習をした」「教員の説明をよく聞いた」などの学生自身に関する項目を入れるのには疑問を感じる。

授業科目名：「学習英文法」

評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日

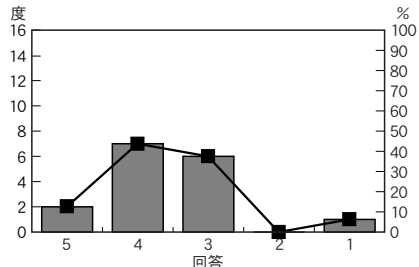
担当教員名：太田垣 正義

(有効な合計16)

■ 度 ■ %

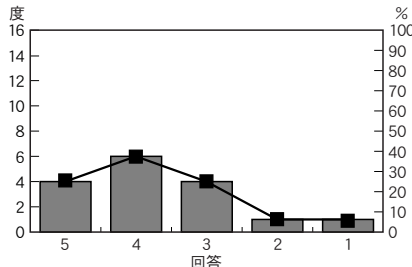
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



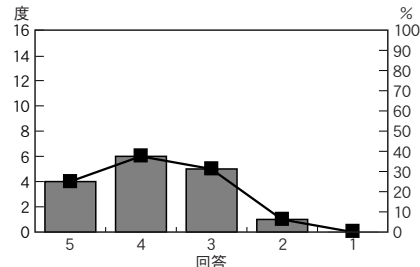
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



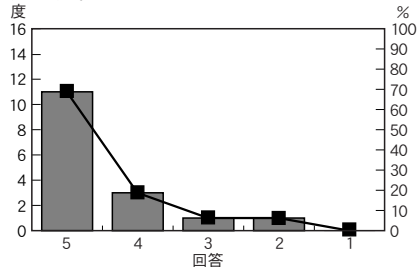
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



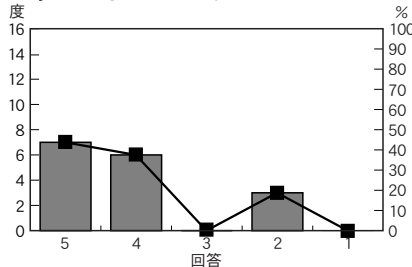
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



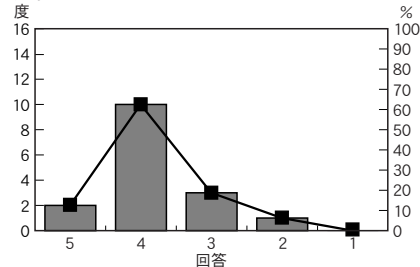
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



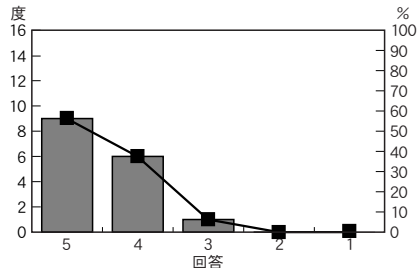
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



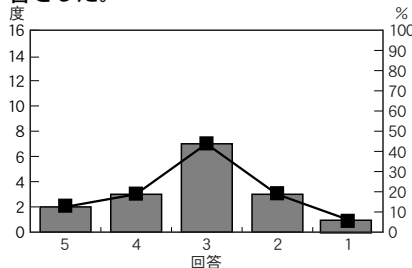
項目分析：(7)

授業によく出席した。



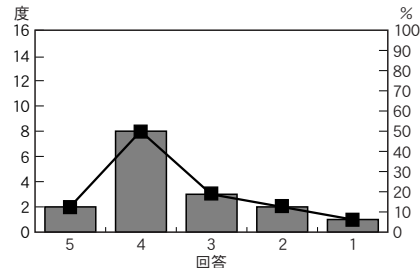
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



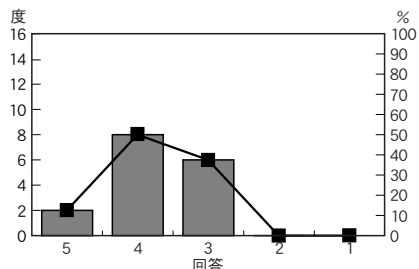
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



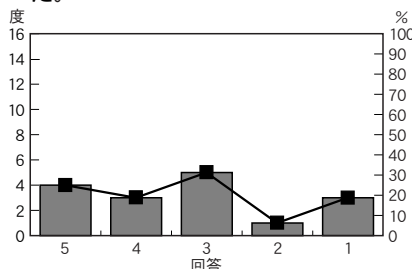
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



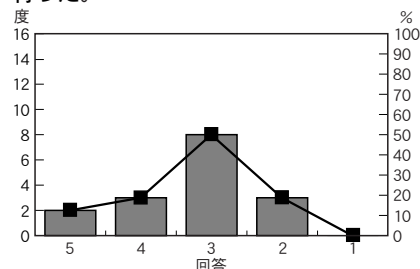
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



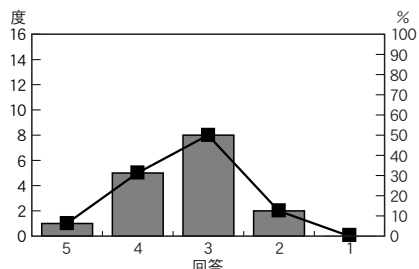
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



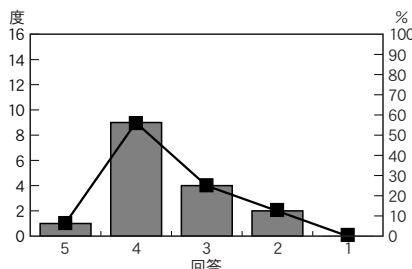
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



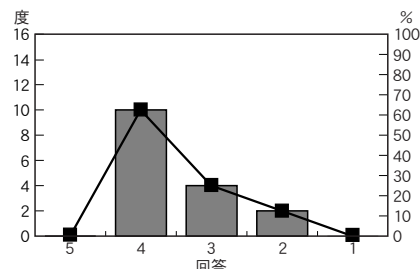
項目分析：(14)

熱心に指導した。

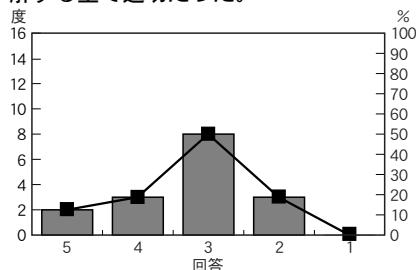


項目分析：(15)

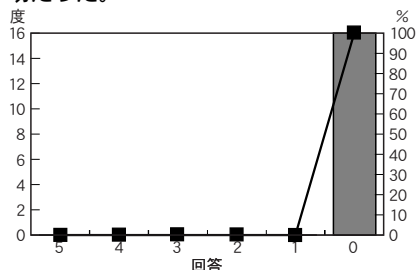
授業内容を分かりやすく説明した。



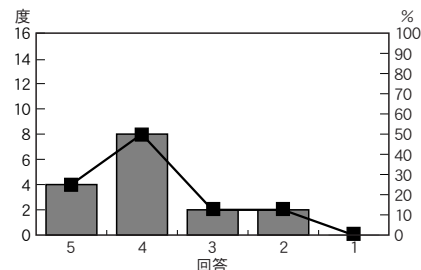
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



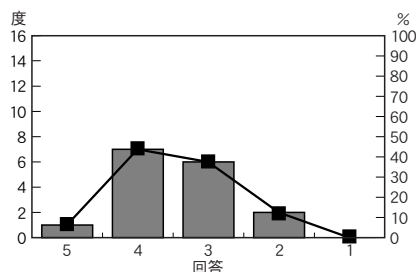
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



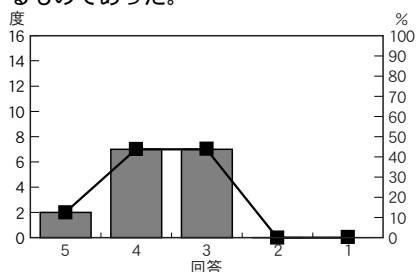
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業科目は2つの目的をもって行われた。1つは、英文法をどういう場面でどのように指導すればよいかという教師側の視点からである。もう1つは、高校で学びながらそろそろ忘れかけている文法知識を、もう一度確認するという学習者側からの視点である。

受講生は2年生ということで、まだ教師側の視点を持つ準備ができておらず、提示される内容をそのまま解釈、記憶しようとする受け身的態度の者が多かった。教育への問題意識をまだ持っていないということである。

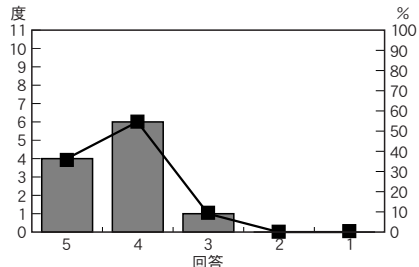
しかし、受講生の中に数名の大学院長期履修生がおり、流石に彼らはその内容について深く考える能力を有しており、授業内容への確かなコメントや質問を行った。それに触発されて学部生もそういう考え方をする必要にせまられたところがあり、本授業は大学院生と学部生と一緒に受講する形式の良い面が出たように思われる。

授業科目名：「英米文学研究Ⅰ」
 評価実施日：平成19年2月20日
 担当教員名：前田 一平

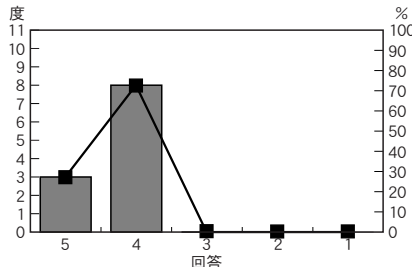
(有効な合計11)

■ 度 ■ %

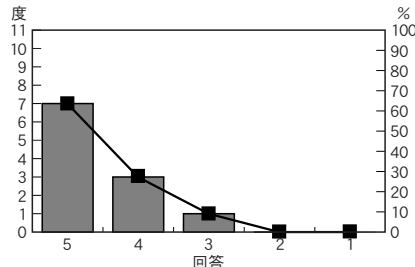
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



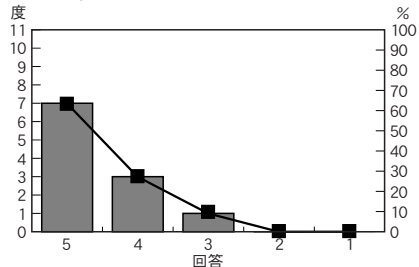
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



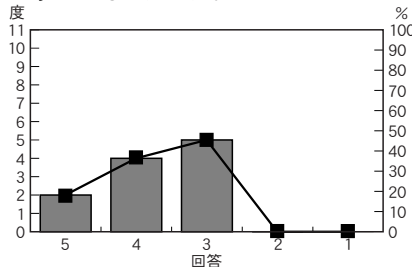
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



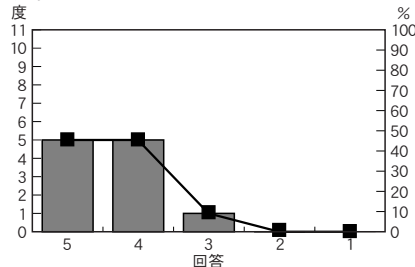
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



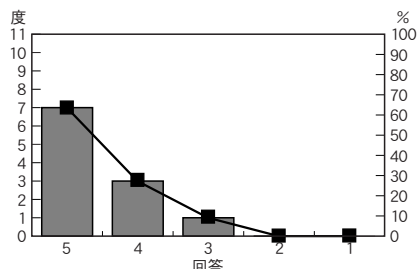
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



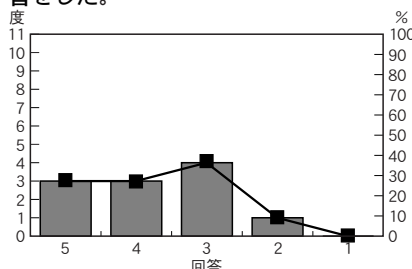
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



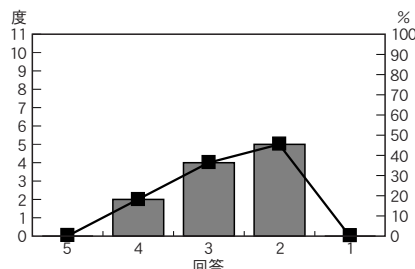
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



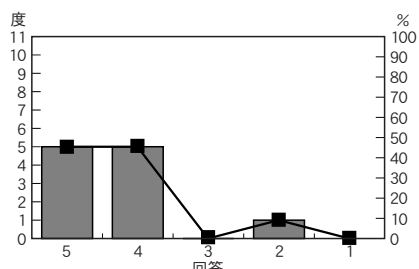
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



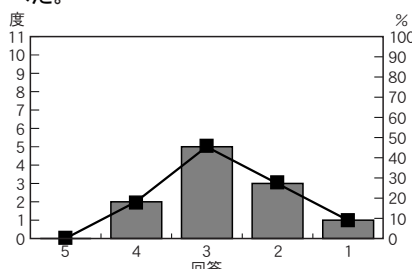
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



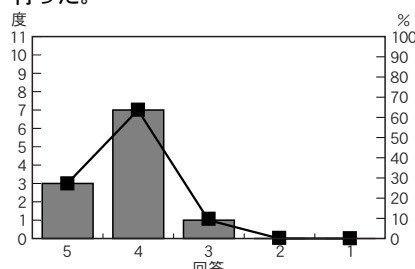
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



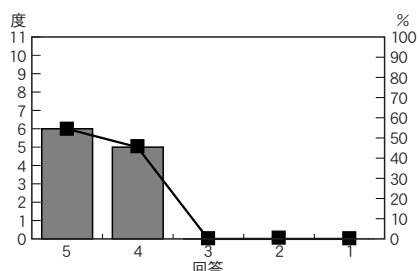
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



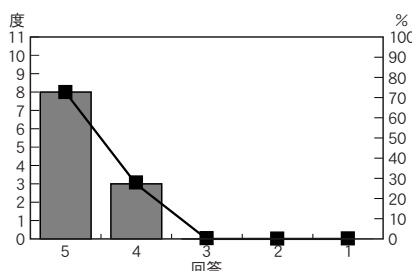
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



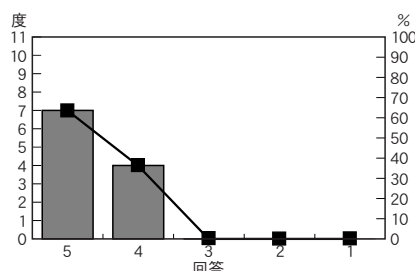
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



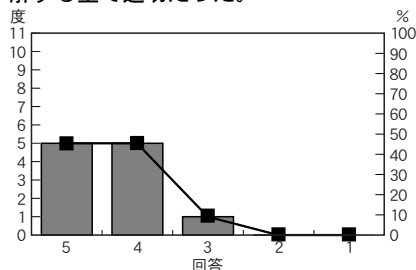
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



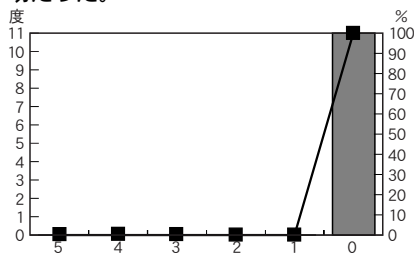
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



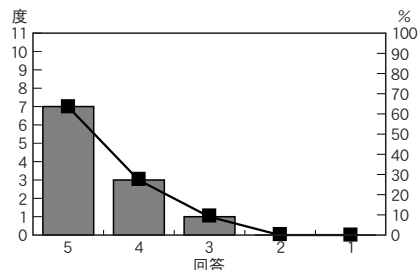
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



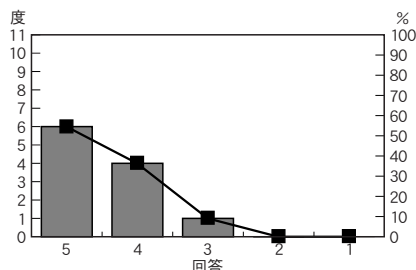
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



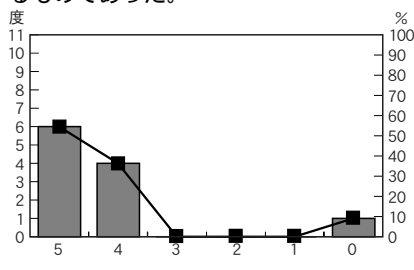
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

総合評価は回答5が44%、回答4が38%で、合わせて82%であった。高い評価が得られ、特に問題はないと思える。回答3は項目(7)~(11)に集中し、受講生自身の勉学態度に関わるものであった。ここには回答2も若干みられるので、受講生の自発的な学習を促す工夫が必要と思える。項目(20)の授業の満足感を問う質問では、回答5が54.55%、回答4が36.36%であった。1名記入漏れがあるものの、回答5と4を合わせて90%以上の評価を得た。授業者としても満足感が得られる授業であった。

受講生からの提言(2)の「この授業でよかったこと」については、文学理解が深まった、英語の文章の読み方が変わった、興味・関心をもてる授業であったなど、極めて好意的なコメントばかりであった。(2)の改善点を求める声については、視聴覚教材の増加希望とビデオをDVDに焼いたらどうかという助言があっただけで、特に問題はないと思える。

学校現場に直結する実践的な授業が求められている一方で、大学生としての基本的な学習の必要性は相変わらず必要である。むしろ今日こそ本授業である文学教育などの「教養主義」は、「実践」と両輪を成すものとしてもっと価値をおかれてしかるべきであろう。事実、受講生たちからの高い評価がその証明になっているように思える。

授業科目名：「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」

評価実施日：平成19年1月31日

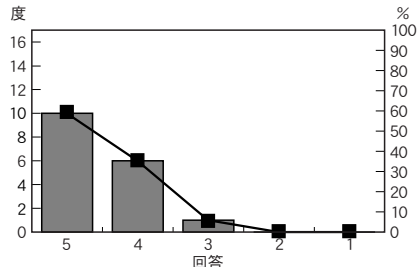
担当教員名：山森 直人

(有効な合計17)

■ 度 ■ %

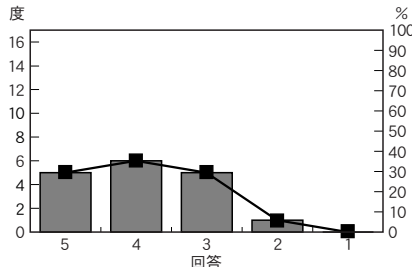
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



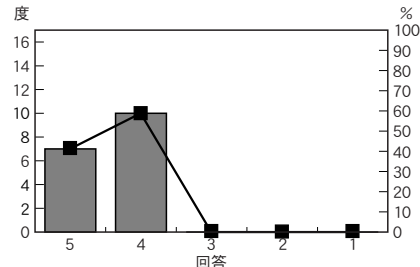
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



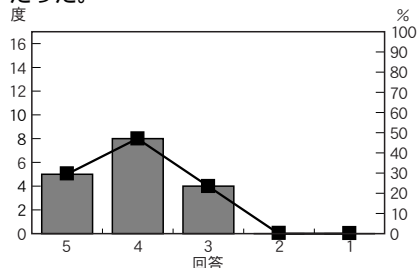
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



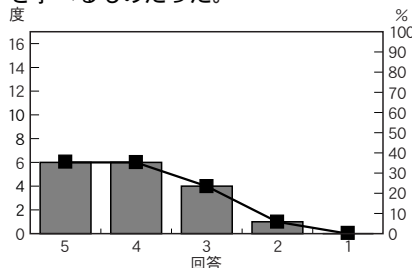
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



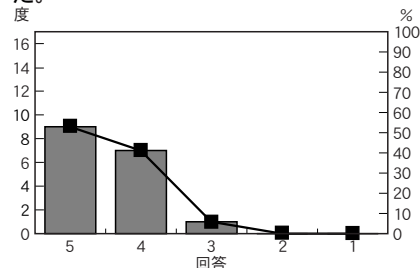
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



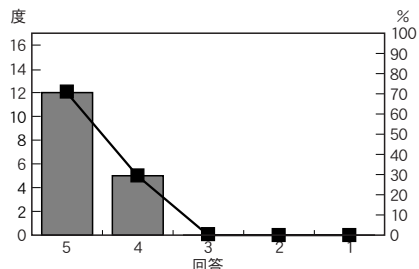
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



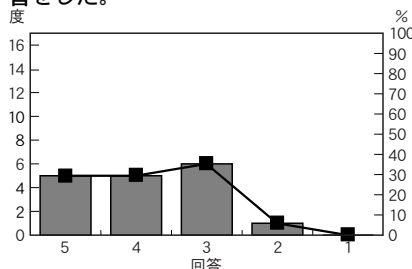
項目分析：(7)

授業によく出席した。



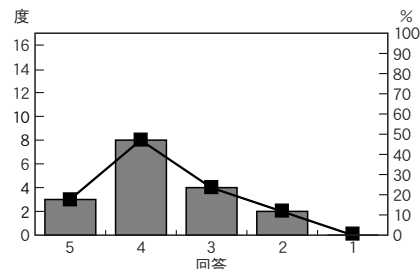
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



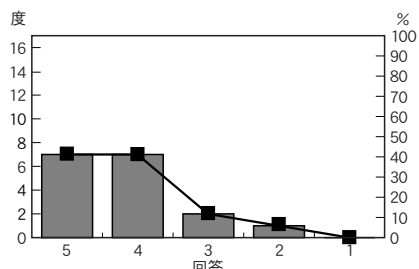
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



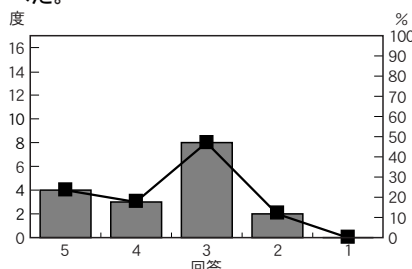
項目分析：(10)

積極的に課題に取り組んだ。



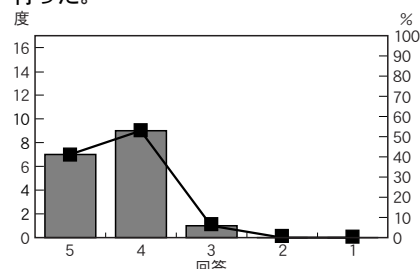
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



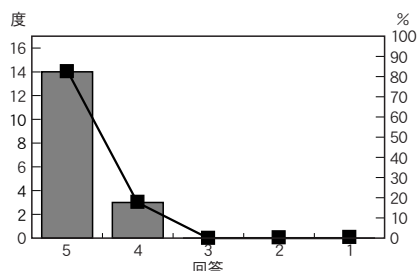
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



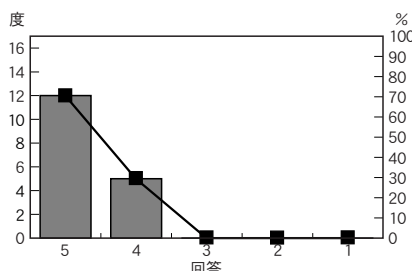
項目分析：(13)

学生参加型の授業だった。



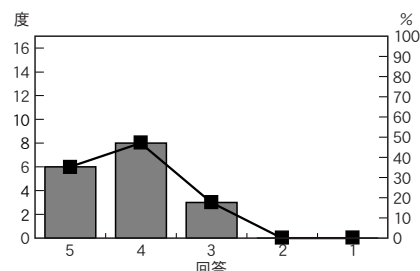
項目分析：(14)

熱心に指導した。

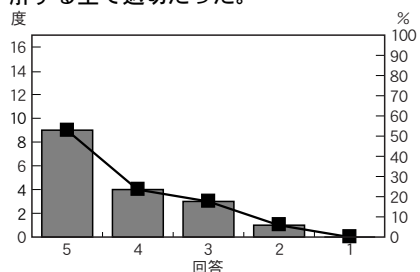


項目分析：(15)

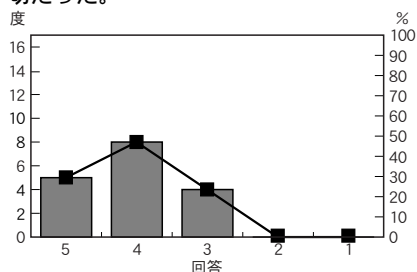
授業内容を分かりやすく説明した。



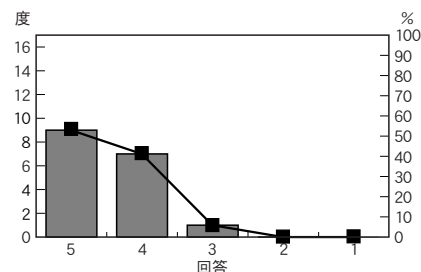
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



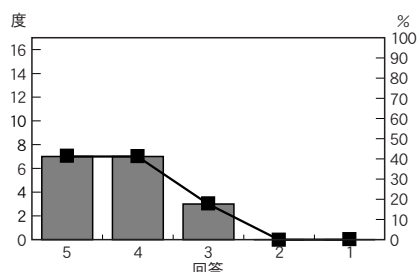
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



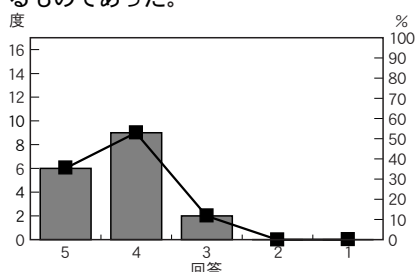
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

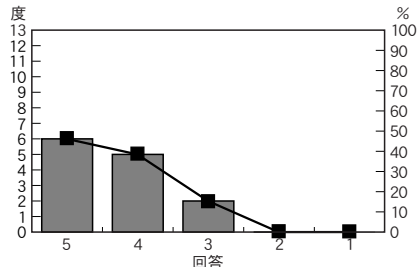
項目 11 以外はすべて過半数の受講生が評定 4 以上を示していることから、本授業はおおむね良好であったと判断できる。特に授業の満足度(項目 20)に関しては受講生の 9 割近くが評定 4 以上を選んでおり、参加型の楽しい授業であるという点では成功しているようである。この理由については、自由記述欄に書かれた学生のコメントから、英語で話す機会が多く得られたことが起因していると考えられる。そのような機会を通して英語で話すことに慣れたという学生や自身の英語力の現状や不十分さを実感した学生もいるなど、英語学習に関する教育的効果を与えることができた。しかし、その反面で、どのような方向で英語力を伸ばしていけばよいかというフィードバックを十分に与えることができなかった。特に今回の本授業では前年度の反省を踏まえ、英語力と教育実習との関連性について意識づけするために、教育実習中に先輩たちがどのような点で自身の英語に困難を感じ、それを克服するためにどのような技能が必要かについて授業を通して話した。しかし、本授業の何がどのように教育実習で求められる技能とつながっていくのか十分な見通しを与えることができなかったように思う。この点が整理され、教育実習前に培うべき英語力の具体像が明確になれば、本授業の数年来の課題でもある学生自身の授業への取り組み状況(項目 7 - 11)の改善にもつながっていくと考えられる。それが本授業の今後の重点課題である。

授業科目名：「比較文化研究Ⅱ」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日
 担当教員名：前田 一平

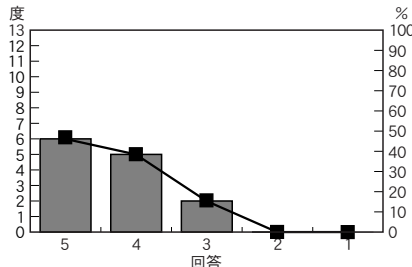
(有効な合計13)

■ 度 ■ %

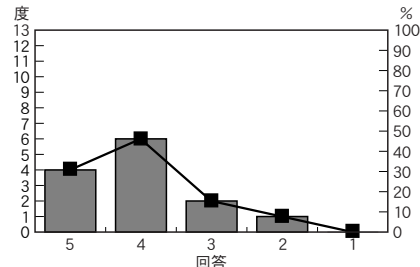
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



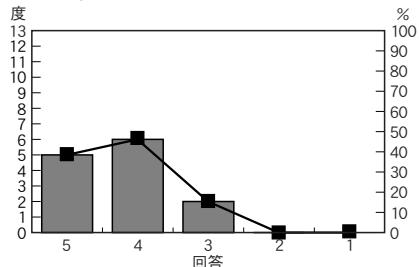
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



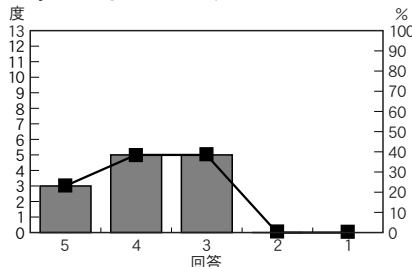
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



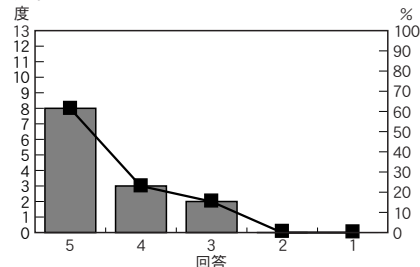
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



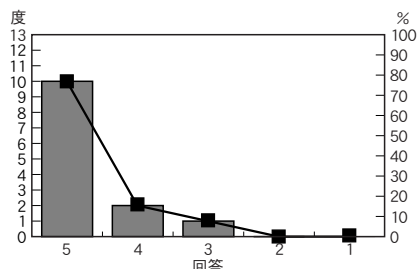
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



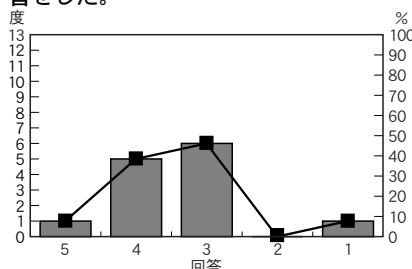
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



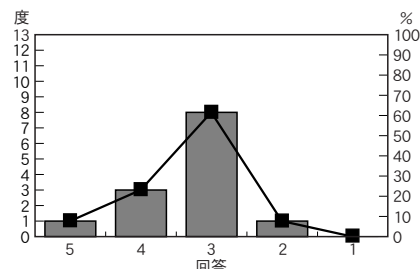
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



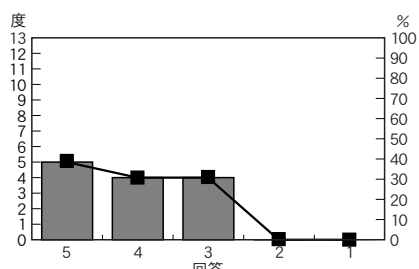
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



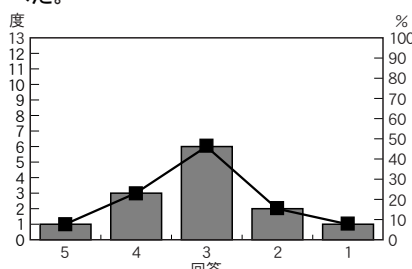
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



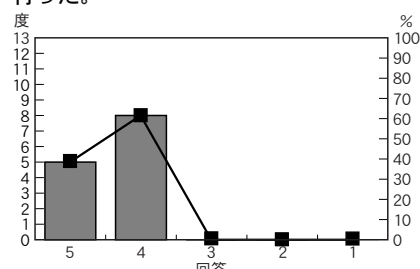
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



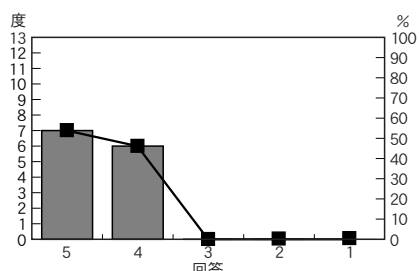
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



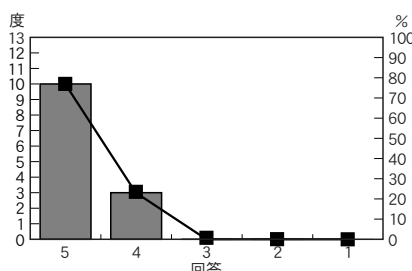
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



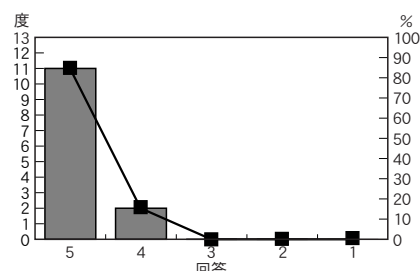
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



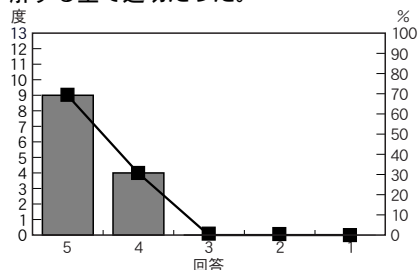
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



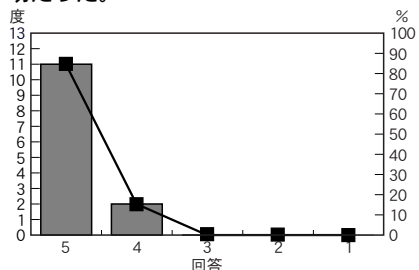
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



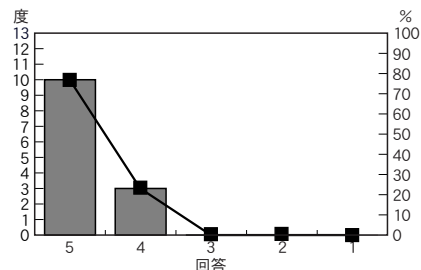
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



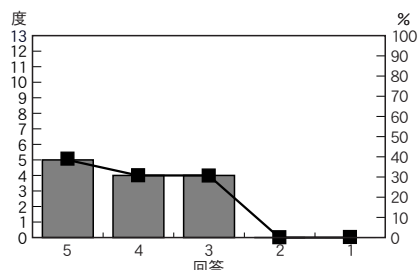
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



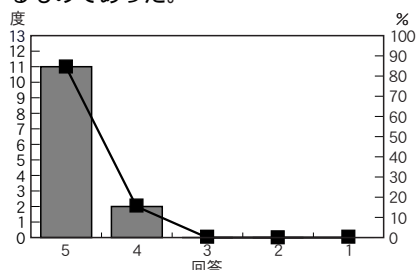
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全体的に好評であったと判断する。20の質問項目のうち、5ないし4の評価を80%得たのが13項目あった。特に、「教員の授業の進め方」に関わる12～19項目については、18番の項目を除いて、5ないし4の評価が100%であった。また、授業の満足度に関わる20番の項目でも5ないし4の評価が100%であった。

ただ、受講生自らの予復習・質問発言・調べに関する項目については3の評価が増え、2ないし1の評価も若干あった。この授業評価から学ぶことは、受講生の主体的な学習を促す工夫と努力をしなければならないという課題であろう。

受講生からの自由記述「助言」では、ビデオ教材を多く使用したことへの高い評価と、教員と受講生の体験を交えながらのアメリカ文化の学習に覚えた満足感がほとんどであった。改善点は特に指摘はなかった。

授業科目名：「日本史学特論Ⅰ（古代・中世）」

評価実施日：平成18年7月24日

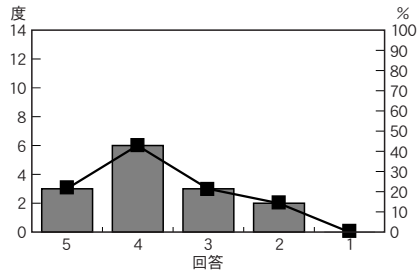
担当教員名：大石 雅章

(有効な合計14)

■ 度 ■ %

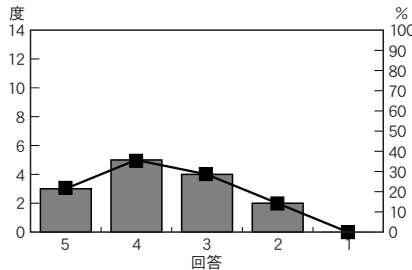
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



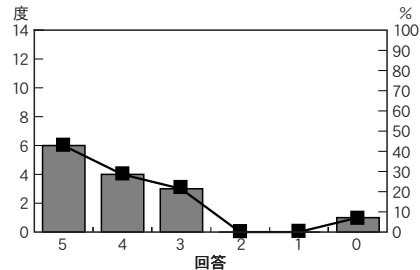
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



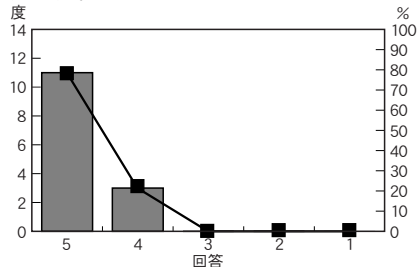
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



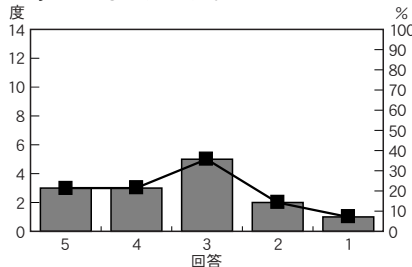
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



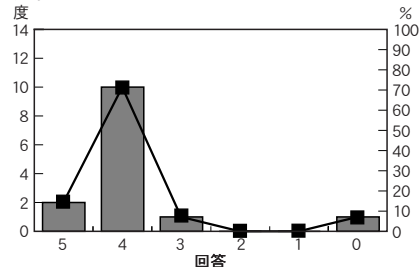
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



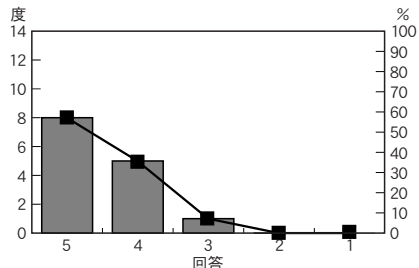
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



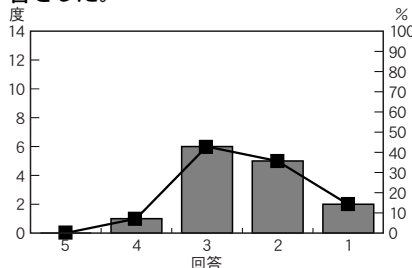
項目分析：(7)

授業によく出席した。



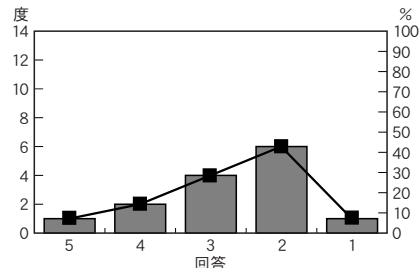
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



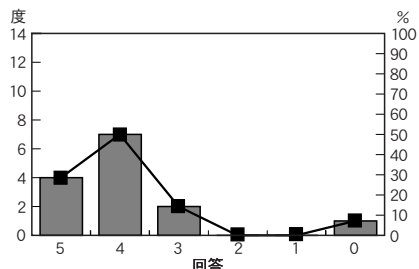
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



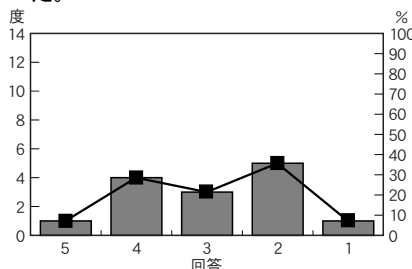
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



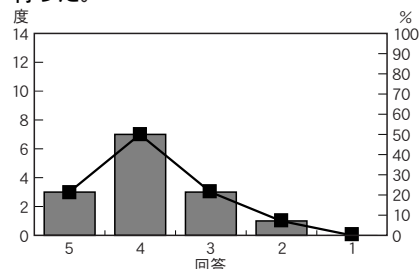
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



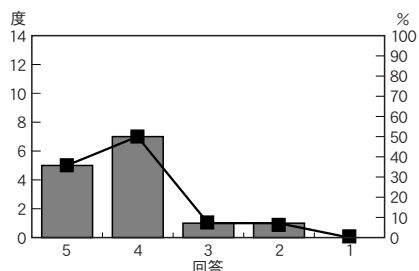
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



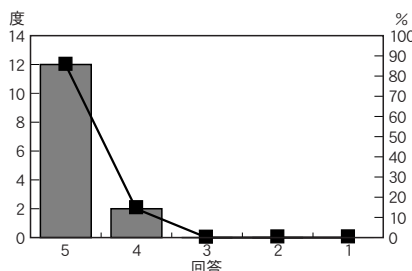
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



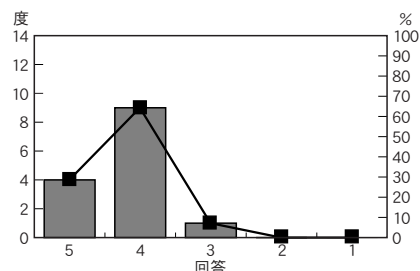
項目分析：(14)

熱心に指導した。

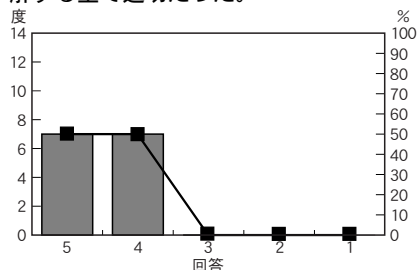


項目分析：(15)

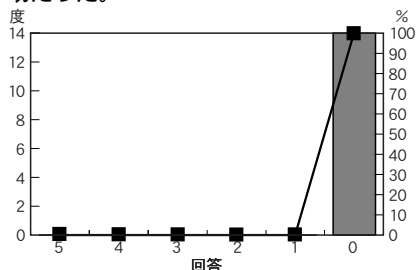
授業内容を分かりやすく説明した。



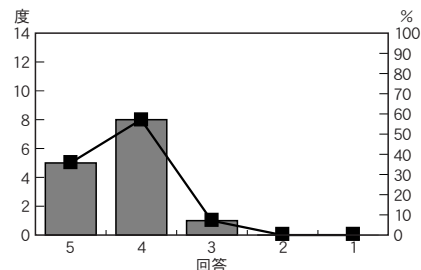
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



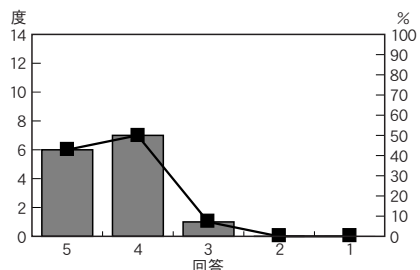
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



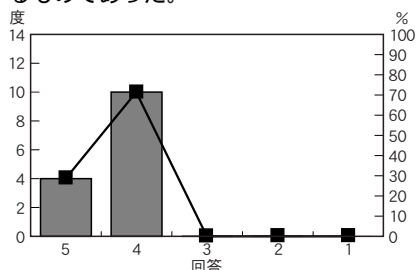
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

項目(4)の教養や専門性を高めるという点や項目(6)の興味・関心を引くという点では5・4の評価を得たが、項目(5)の教育に対する見方や考え方を学べるものであったという点では、2が15%弱あった。授業内容では中学校の日本史において理解が難しく教えるのが困難なところをテーマにしたが、十分に学生に伝わっていなかったことなど今後の課題となった。また、項目(8)の受講生の予習・復習の点についてはほとんどが3と2であった。学生のカリキュラムの実態からみて、予習・復習を課せることがよいのか迷っており、現在のところは授業で習得する方向で進めている。そのことは、教員の指導の熱意や説明内容を問う点では受講生から高い評価を得ながらも、項目(9)の受講生が積極的に発言や質問をしたという点においての評価が低調であったこととも関連していると思われる。今後授業のやり方についてもこの点を念頭に置きながら改善することが課題となったようだ。

授業科目名：「日本史学特論Ⅱ（近世・近代）」

評価実施日：平成18年7月26日

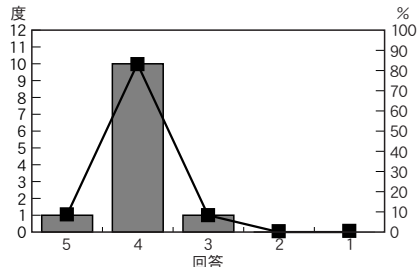
担当教員名：町田 哲

(有効な合計12)

■ 度 ■ %

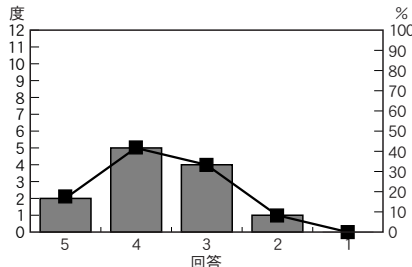
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



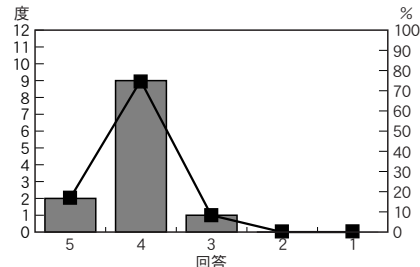
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



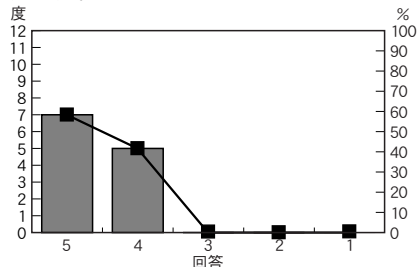
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



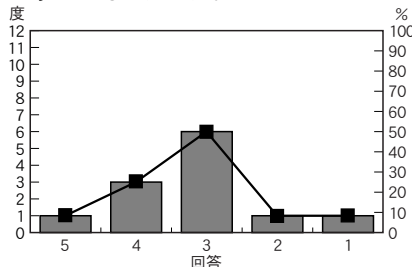
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



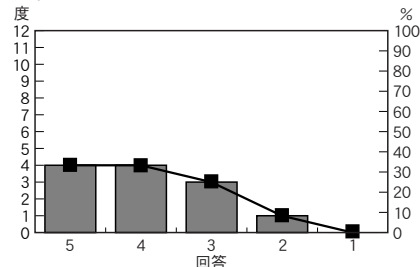
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



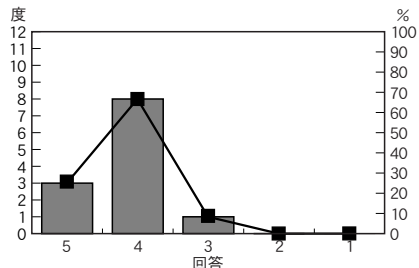
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



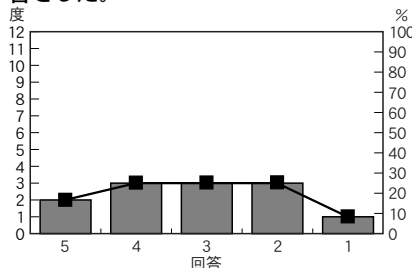
項目分析：(7)

授業によく出席した。



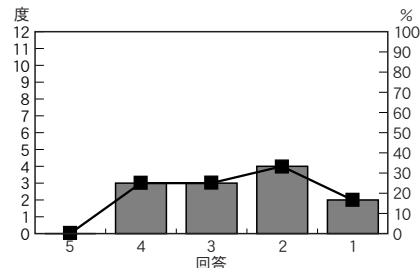
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



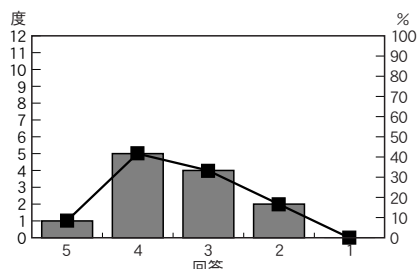
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



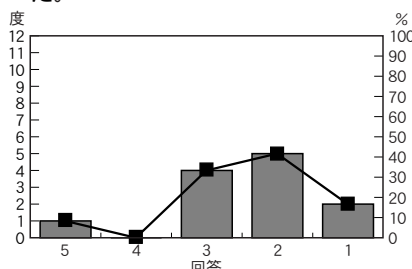
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



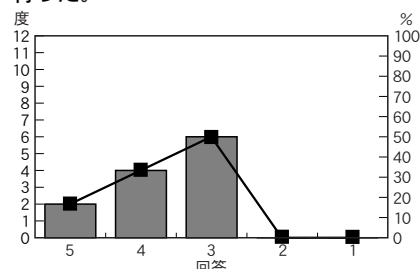
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



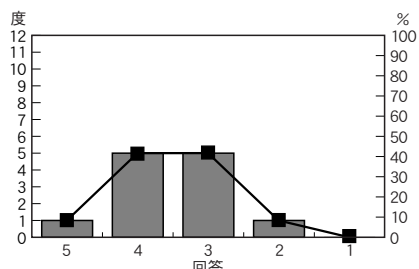
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



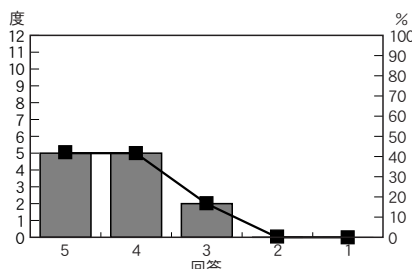
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



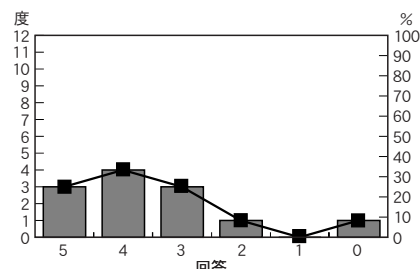
項目分析：(14)

熱心に指導した。

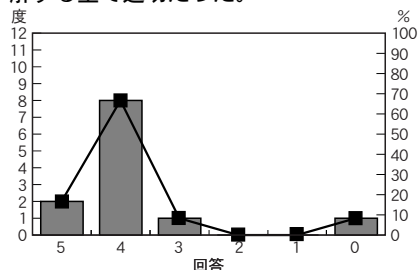


項目分析：(15)

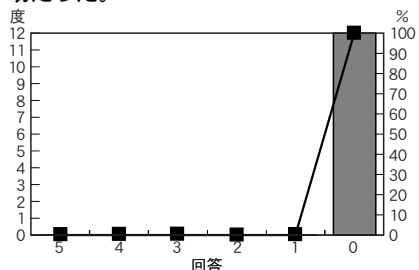
授業内容を分かりやすく説明した。



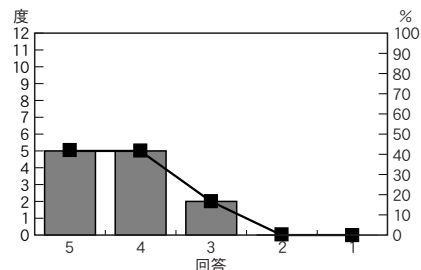
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



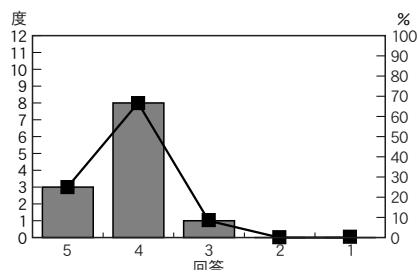
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



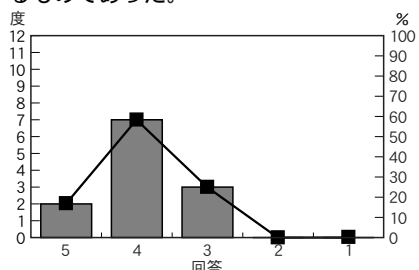
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

日本史学特論Ⅱは、日本近世史を題材としながら、歴史的諸事実を知識として獲得するだけでなく、これを構造的に把握したり、現在との関連を理解したりすることで、社会科教員として必要かつ応用可能な「歴史を見る眼」を養うことを目的としている。

アンケート内容によれば、授業内容についてはある程度の理解・関心を得ることができたといえる。「近世－近代での日本の構造などが、とてもわかりやすく解説して頂けた」「江戸時代に関する深い知識を得ることができた」等と、好意的な意見も多くみられた。また、授業計画・成績評価等についても概ね周知できていたと考えられる。学生もまた授業によく参加していた。

この講義では、山口啓二『鎖国と開国』を読み進め、その内容を教員が解説していくというスタイルをとったが、アンケートによれば、「自身でレジュメを作成し、発表形式で授業を行ったので、理解が深まった」という好意的な意見もあったが、その反面で学生の疑問・理解状況を教員が十二分には把握できておらず、また学生による予習・復習や、疑問を自ら調べることなどは、人により差がみられる結果となった。

今後も、学生の意欲を喚起し、その疑問をうけとめ、理解不足等を補うような努力・工夫を、よりすすめていきたい。

授業科目名：「外国史概論」

評価実施日：平成 18 年 6 月 15 日

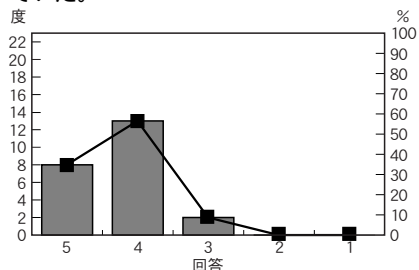
担当教員名：原田 昌博

(有効な合計23)

■ 度 ■ %

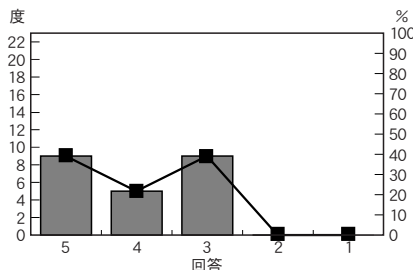
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



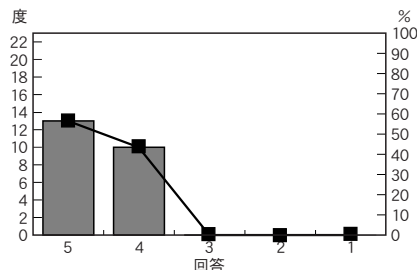
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



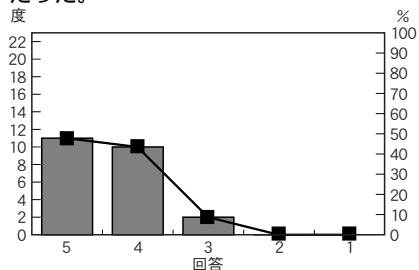
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



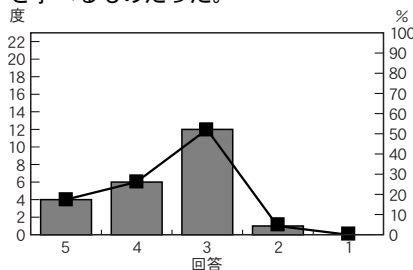
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



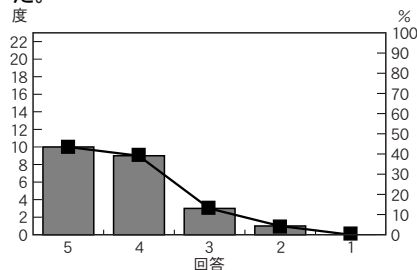
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



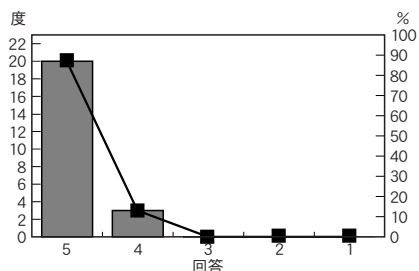
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



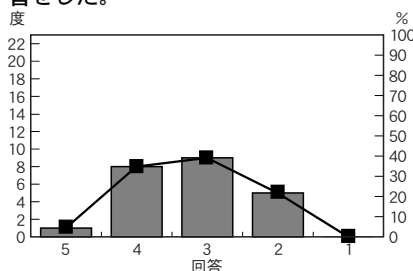
項目分析：(7)

授業によく出席した。



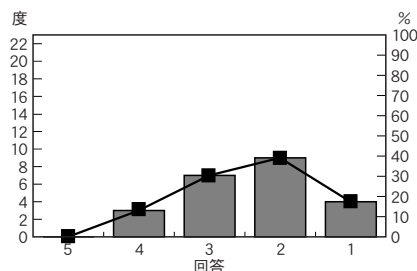
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



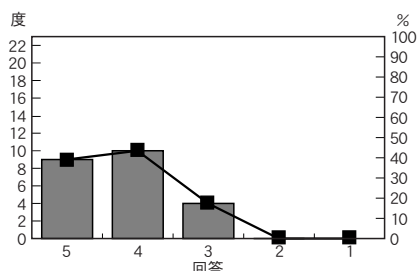
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



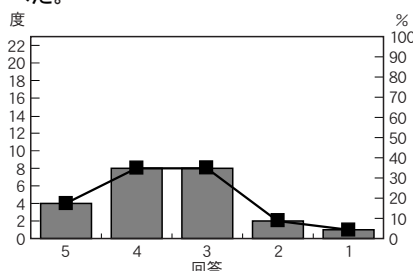
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



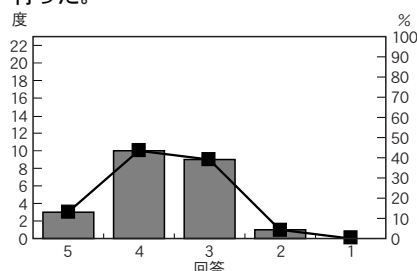
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



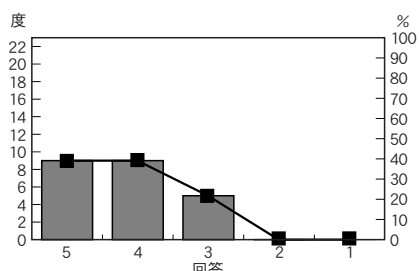
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



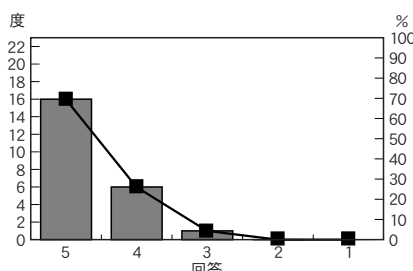
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



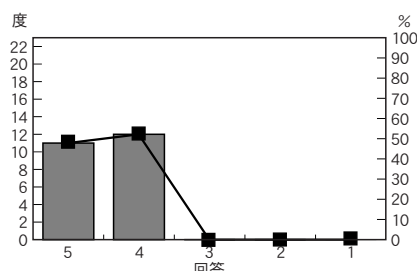
項目分析：(14)

熱心に指導した。

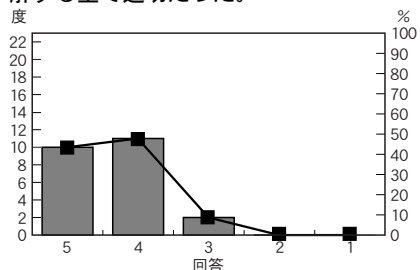


項目分析：(15)

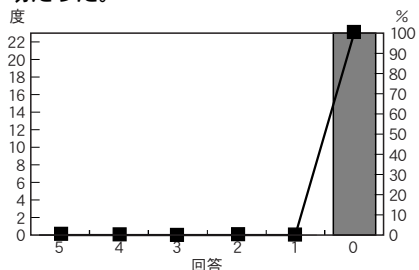
授業内容を分かりやすく説明した。



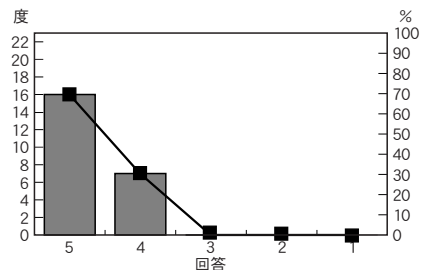
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



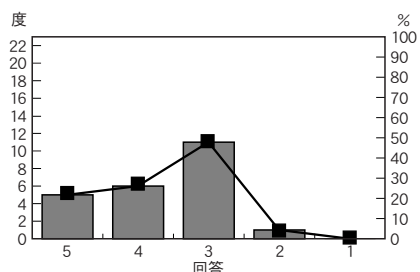
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



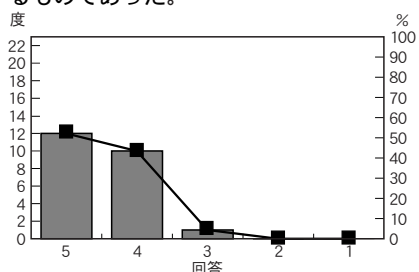
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

「外国史概論」は1年次生を対象とした専門科目であり、「日本史概論」とあわせて半期で開講されている。「概論」という性格上、外国史に関する一通りの説明を盛り込む必要があるが、講義回数との関係でフランス革命から冷戦期までの近現代史を講義内容とした。この講義の「満足度」を問う質問では、95%以上の学生が「5」もしくは「4」の評価を下しており、さらに講義の「分かりやすさ」に関する問いでは全員が「4」以上と評価している。欠席者も極めて少なかった。講義では内容レジメをB4サイズで5枚、資料レジメを9枚配布したが、「プリントが見やすかった」という感想からも学生の内容理解にある程度は役立ったと考えられる。ただし、学生は講義に臨むにあたり予習・復習はあまりしていなかったようであり、次回からは講義だけで補うことのできない部分を学生自ら調べさせ、積極的な質問を促していきたい。また、限られた時間数の中で講義内容を急いで消化せざるを得ず、このため一部の学生には講義の進行（特に講義後半の20世紀の部分）が「速く」感じられたようである。半期（7回）の講義のために止むを得ない面があるとはいえ、この点ではできる限り改善する必要があると考えられる。

授業科目名：「外国史特論 I（西洋史）」

評価実施日：平成 19 年 2 月 7 日

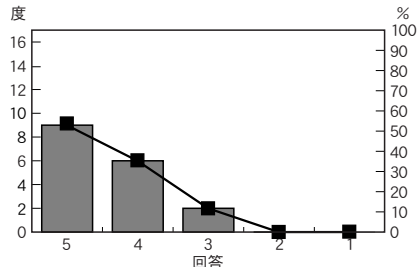
担当教員名：原田 昌博

(有効な合計17)

■ 度 ■ %

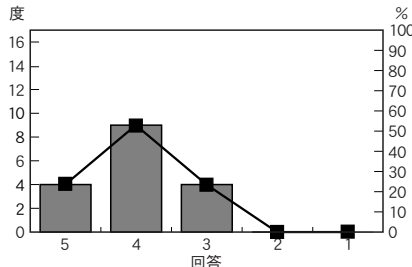
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



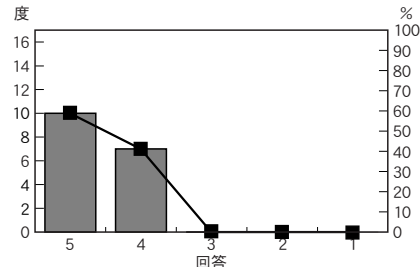
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



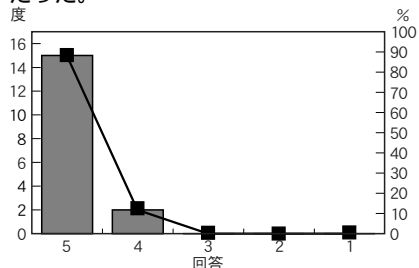
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



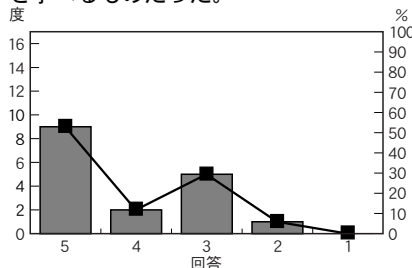
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



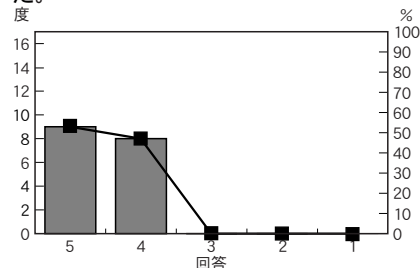
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



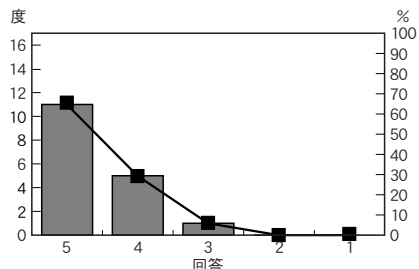
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



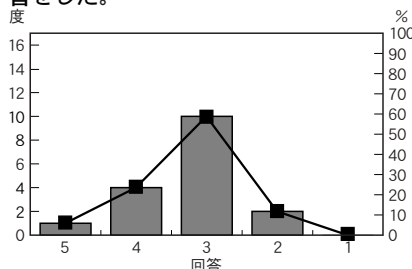
項目分析：(7)

授業によく出席した。



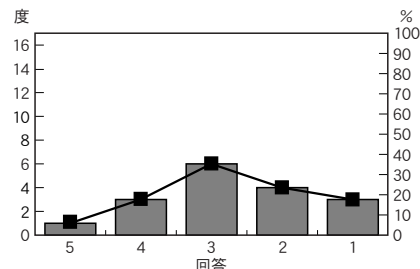
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



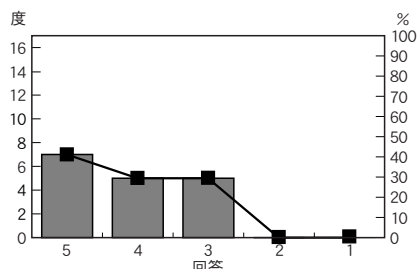
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



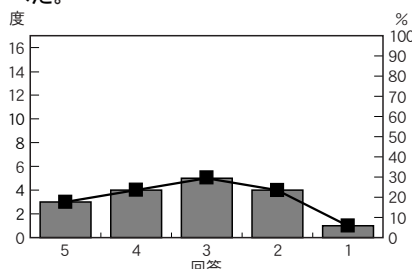
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



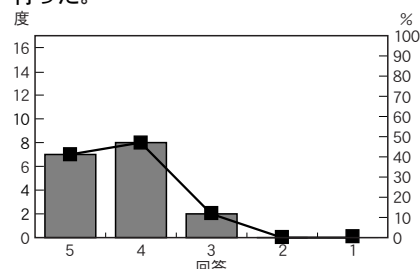
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



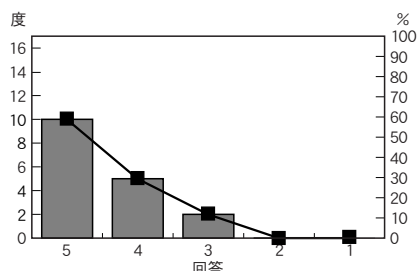
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



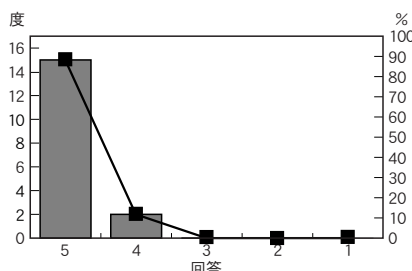
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



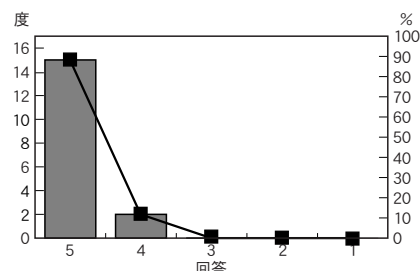
項目分析：(14)

熱心に指導した。

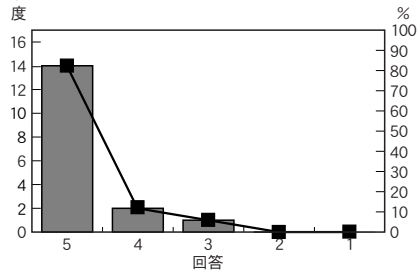


項目分析：(15)

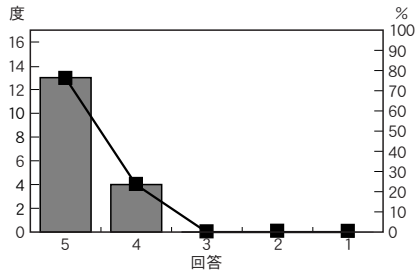
授業内容を分かりやすく説明した。



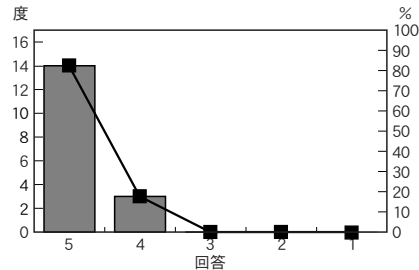
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



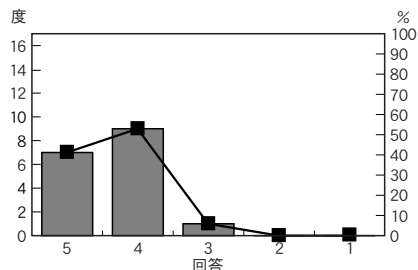
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



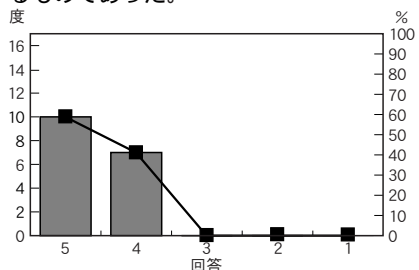
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

「外国史特論Ⅰ（西洋史）」は2年次生を対象とした専門科目である。今回は1930年代から第2次世界大戦期までのヨーロッパの状況を、ナチス・ドイツの動向を中心に取り上げ、終盤にはナチズムの過去を背負った戦後（西）ドイツの「過去の克服」にも言及した。

この講義の満足度を問う項目(20)では、アンケート回答者17人全員が「5」または「4」の評価を下しており、学生は概ねこの講義に満足したといえる。項目(6)・(7)の結果が示すように、学生は講義内容に興味・関心を示し、ほとんど欠席者はいなかった。また、授業の進め方に関する8つの質問についてもすべての質問でほぼ90%が「5」または「4」の評価を下しており、この点についても概ね目標は達成されたものとみなすことができる。学生のコメントも概ね好意的なものが多かった。講義レジュメをB4判で10枚、資料を同じくB4判で20枚以上配布したが、これらは学生の講義理解の一助となり、また学生は興味を持って資料に接したようである。また、ビデオや現地で授業者自身が撮影した写真などを盛り込んだことも受講者には好評であり、印象に残ったようで、この点は来年度も継続したい。ただし、「すこし（授業の）速度が速い」というコメントがあり、この点については今後配慮する必要がある。

授業科目名：「考古学」

評価実施日：平成 19 年 2 月 15 日

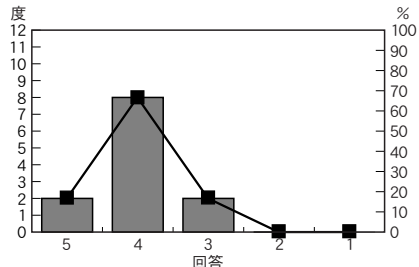
担当教員名：木原 克司

(有効な合計12)

■ 度 ■ %

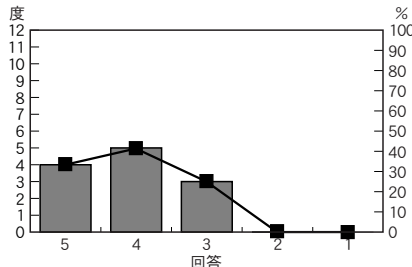
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



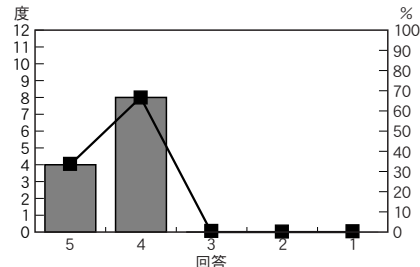
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



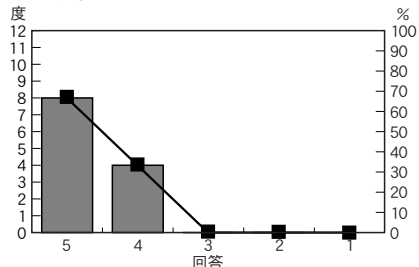
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



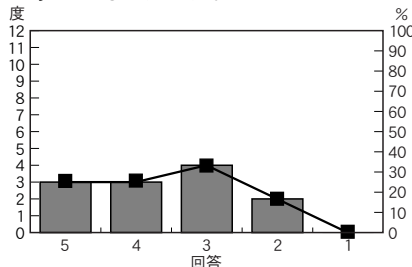
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



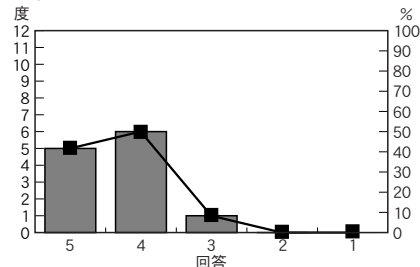
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



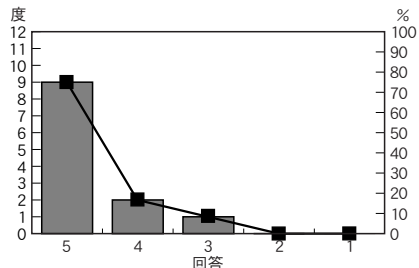
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



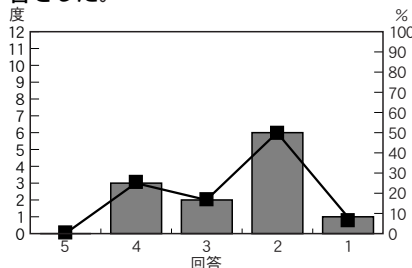
項目分析：(7)

授業によく出席した。



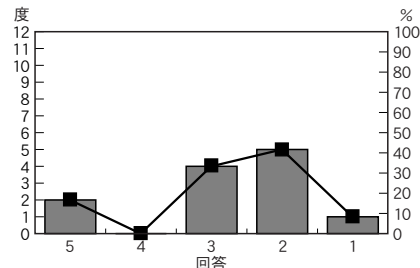
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



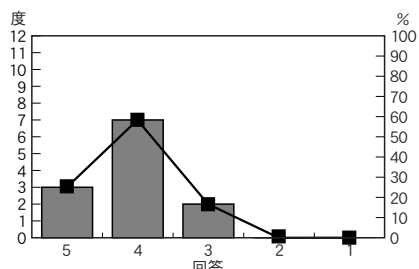
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



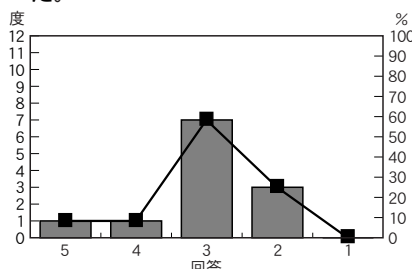
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



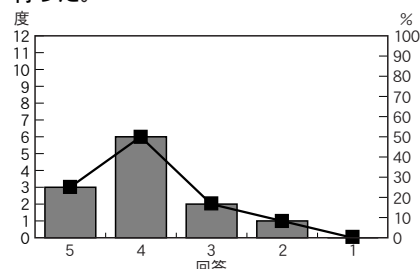
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



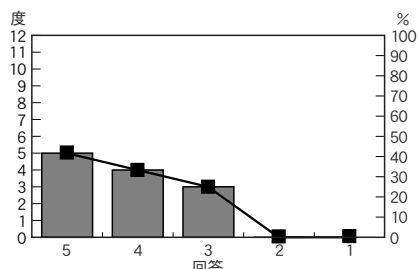
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



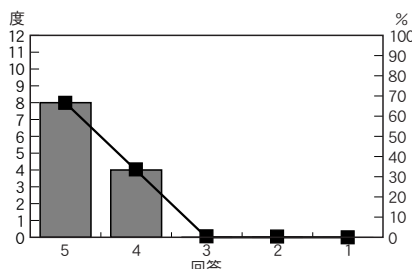
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



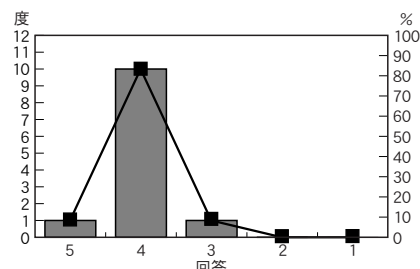
項目分析：(14)

熱心に指導した。

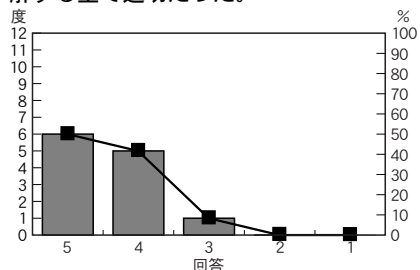


項目分析：(15)

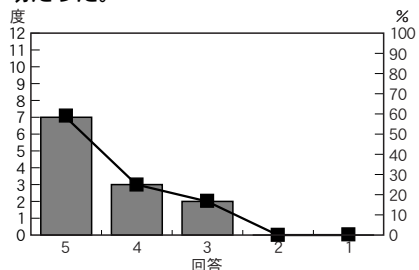
授業内容を分かりやすく説明した。



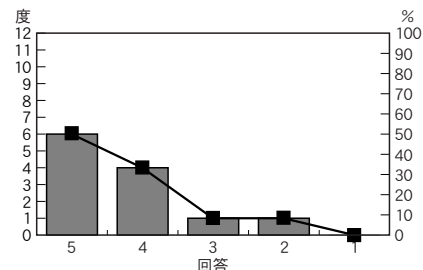
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



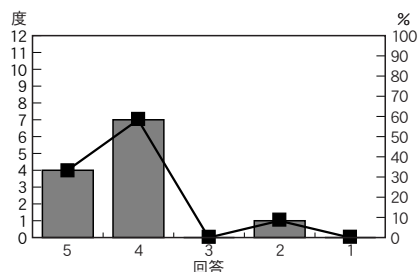
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



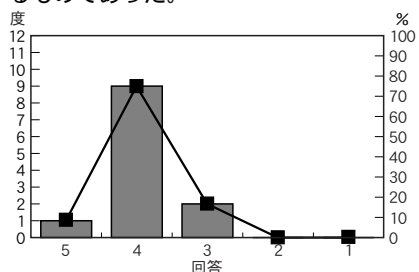
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

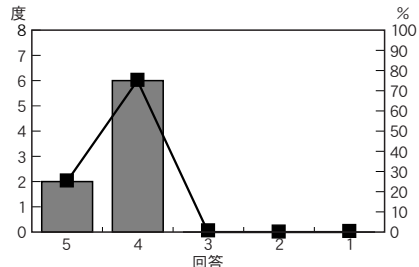
20項目中、80%以上の学生が4以上の評価を示したのは、13項目にのぼる。そのうち授業内容についての評価項目である(3)・(4)や授業の進め方についての項目(4)ではすべての学生が高い評価を与えていた。よって授業内容および進め方については学生の大部分を満足させることができたと理解している。しかし、例年のことであるが、著しく低い評価が出ている項目として、予習・復習に関する項目(8)、発言・質問に関する項目(9)や調べ学習に関する項目(11)がある。これらの3項目の結果は、本学学生の特性を如実に示すものである。すなわち、授業にはよく出席するが、授業に関する勉強はほとんどしない。また、毎年改善すべき点と私自身考えている項目(5)については、自分なりに意識して授業を展開した効果が少し見られたようであり、今年度は50%の学生が4以上の評価を与えてくれた。さらに、10名の学生から提言があった。授業の中でよかったこととして、ほとんどの学生が鳴門市内の古墳の発掘調査現場を土曜日であるが見学できたことをあげている。大学院授業で毎年実施してきた授業内容と関連する巡検を学部授業にも取り入れた成果と言える。

授業科目名：「史料講読」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 7 日
 担当教員名：大石 雅章

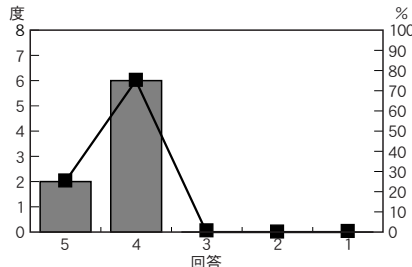
(有効な合計 8)

■ 度 ■ %

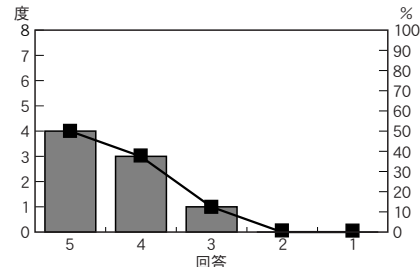
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



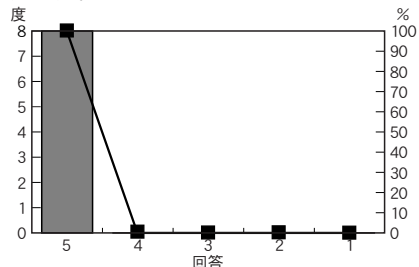
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



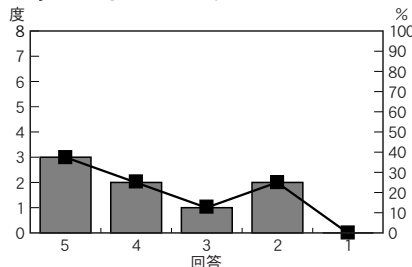
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



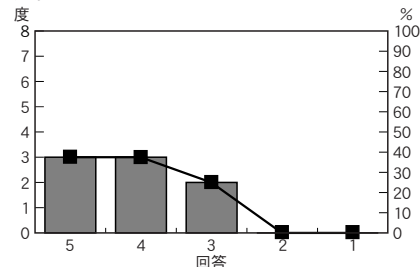
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



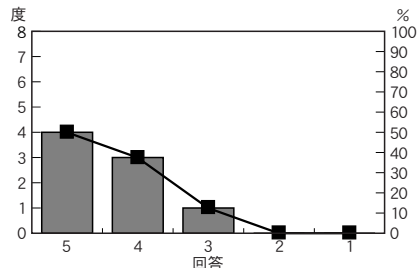
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



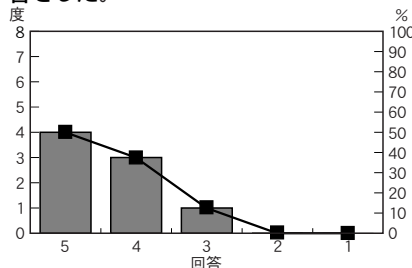
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



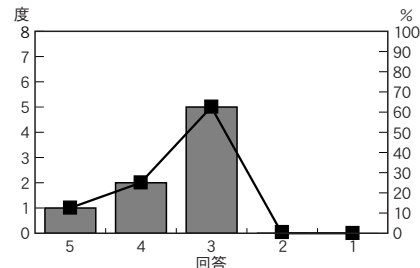
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



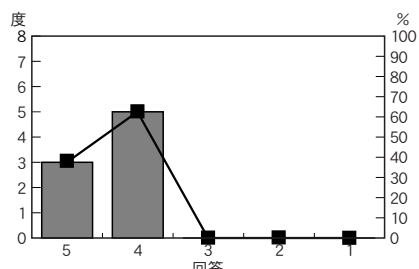
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



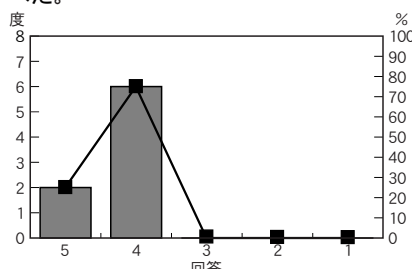
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



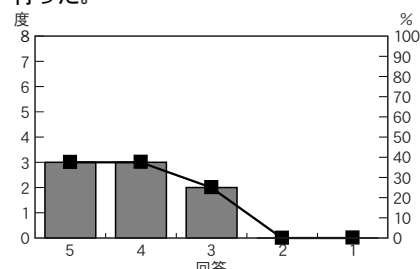
項目分析：(10)
 積極的に課題に取り組んだ。



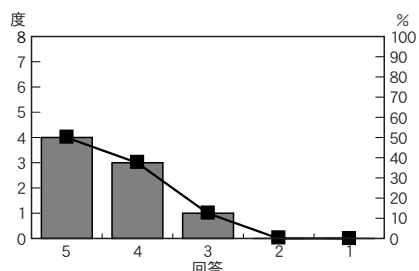
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



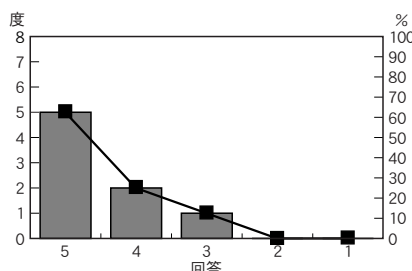
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



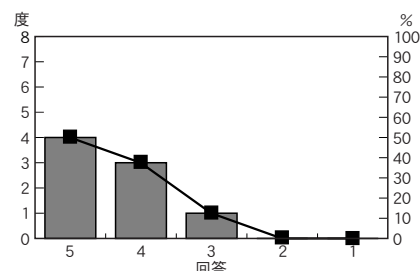
項目分析：(13)
 学生参加型の授業だった。



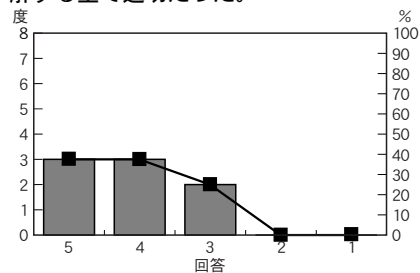
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



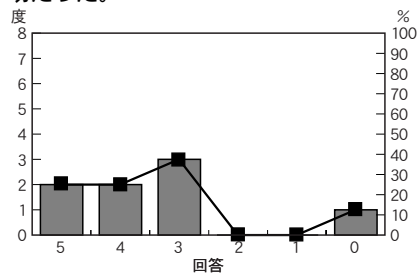
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



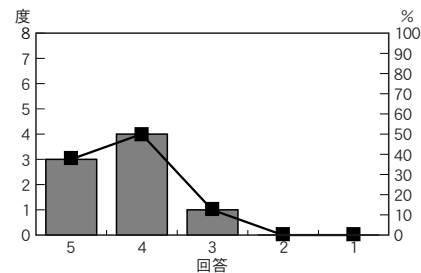
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



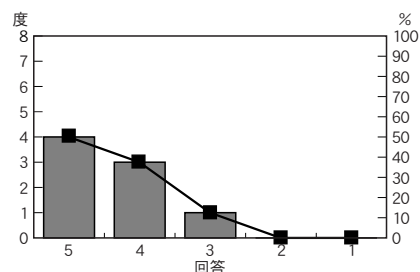
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



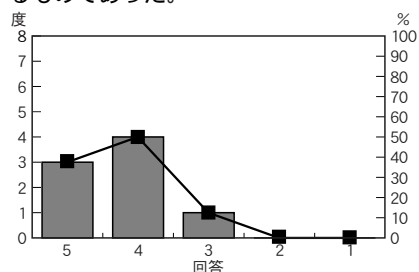
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

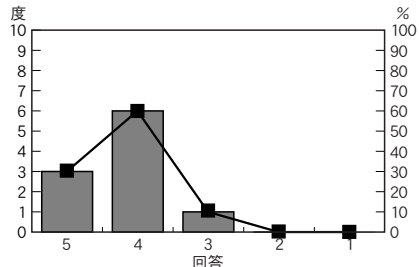
史料講読という授業内容から、教養や専門性を高める点では高い評価を得たが、教育に対する見方や考え方という点では評価にバラツキがでた。この点をどのように改善していくか検討する必要がある。項目分析(9)の授業中に積極的に発言や質問をした点では半数以上が3の評価であり、学生が発言しやすい学生参加型の授業づくりにさらに努める必要がある。

授業科目名：「人文地理学特論」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日
 担当教員名：木原 克司

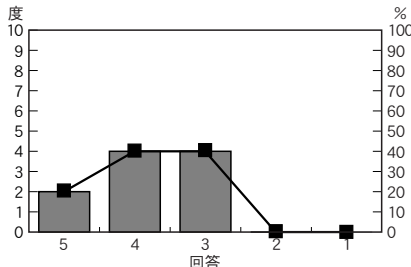
(有効な合計10)

■ 度 ■ %

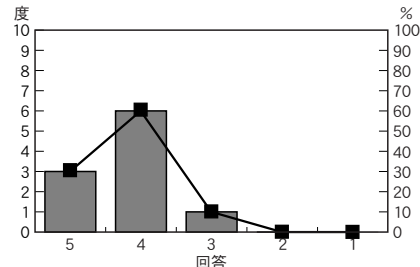
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



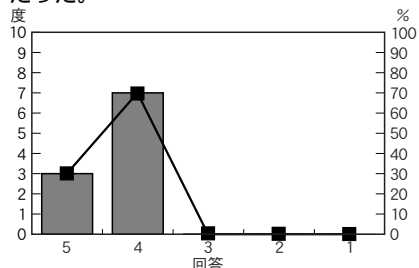
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



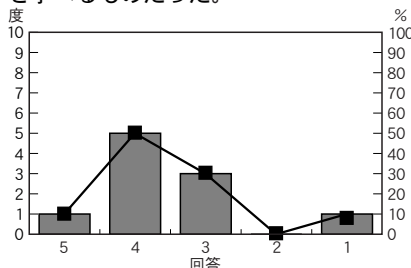
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



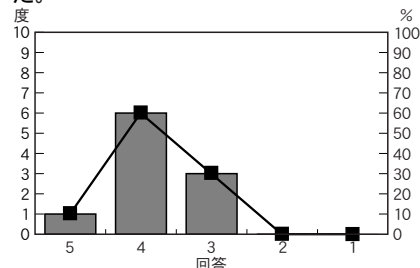
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



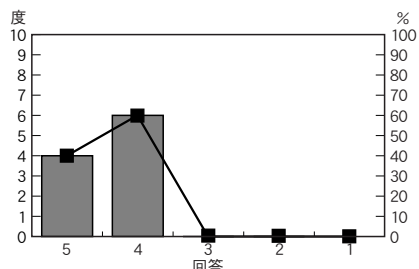
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



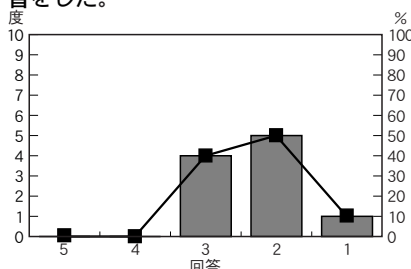
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



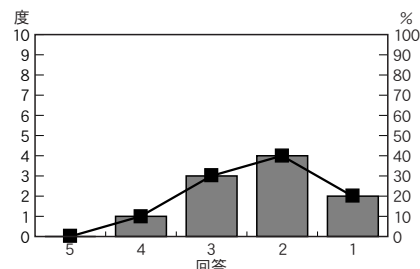
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



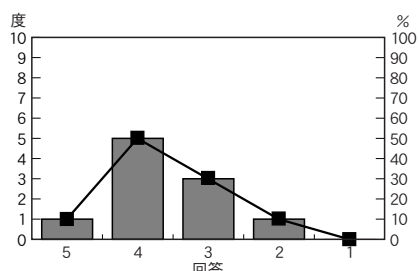
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



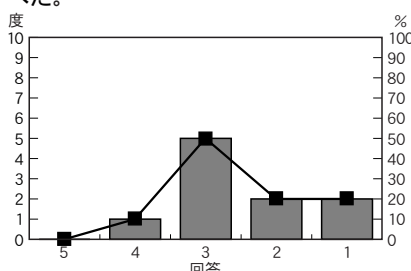
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



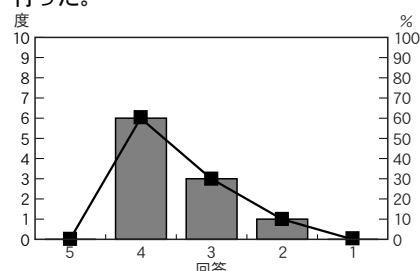
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



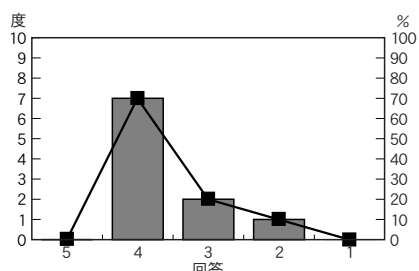
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



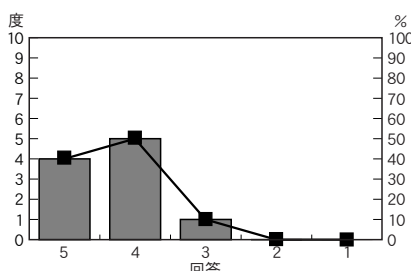
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



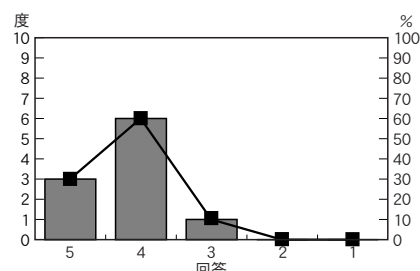
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



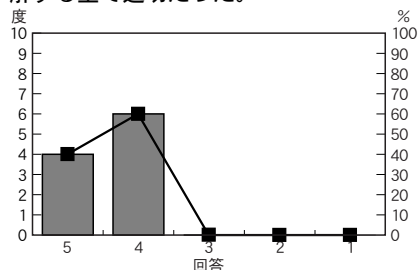
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



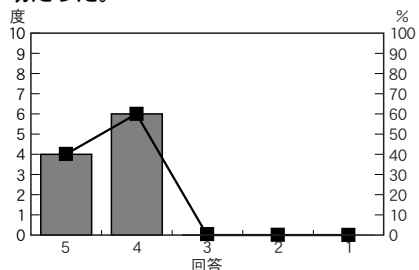
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



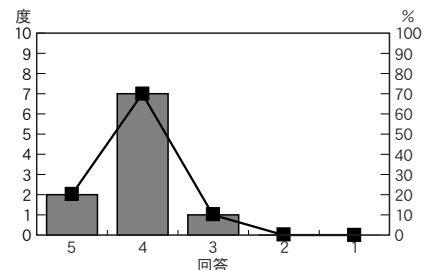
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



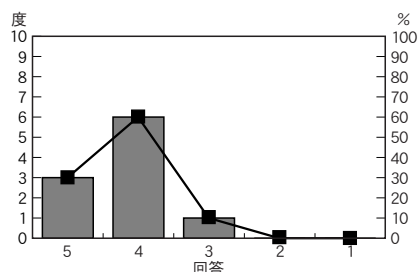
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



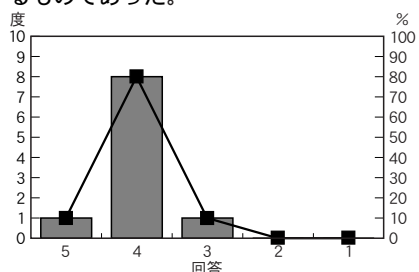
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

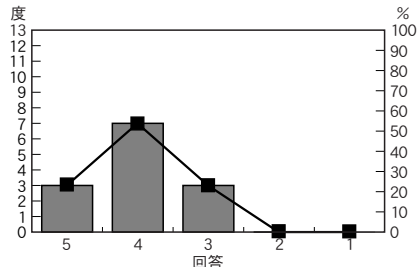
20項目中、80%以上の学生が4以上の評価を与えたのは11項目にのぼる。中でも5つの項目で100%の評価を得た。すなわち、授業内容に関する項目(4)、出席に関する項目(7)、配布資料に関する項目(16)、視聴覚機器の利用に関する項目(17)と満足度に関する項目(20)である。よって学生の大部分は授業内容をよく理解し、自己の専門的知識を習得することができ満足したと解することができる。しかし、一方では例年と同じく、予習・復習、授業中の質問や調べ学習に関しては、4以上の評価を与えたのは10%以下ときわめて低い。質問については授業中に何度も促したのだが、ほとんど反応がなかったため、私の方から指名して理解度を何度か確かめたこともある。なんとか改善すべき方法はないかと検討している。地理学概論などで取り入れているようにすべての学生が積極的に授業に参加できる実習的な授業を採用する必要があるかもしれない。

授業科目名：「社会学特論」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 15 日
 担当教員名：山本 準

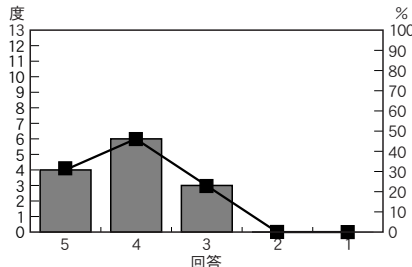
(有効な合計13)

■ 度 ■ %

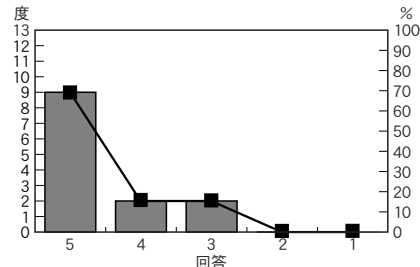
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



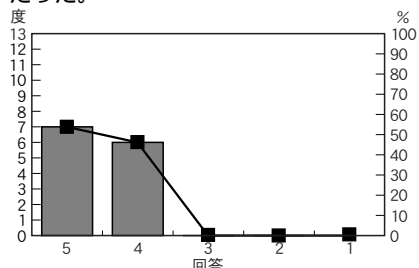
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



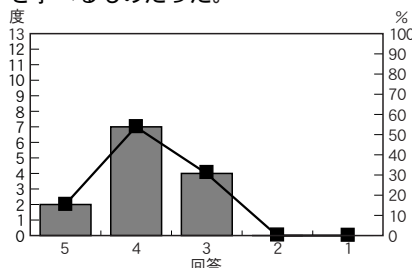
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



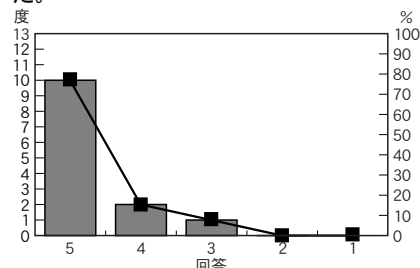
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



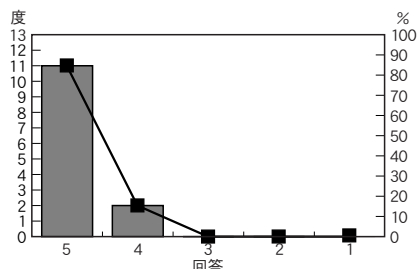
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



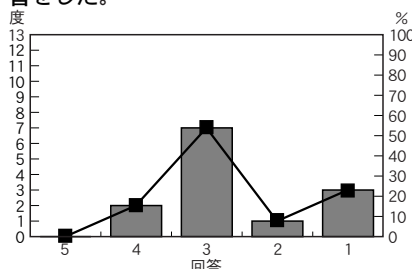
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



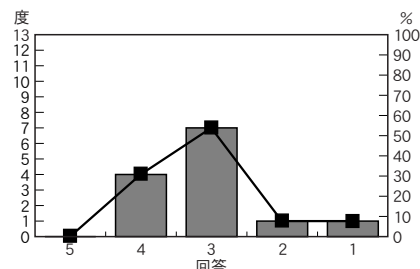
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



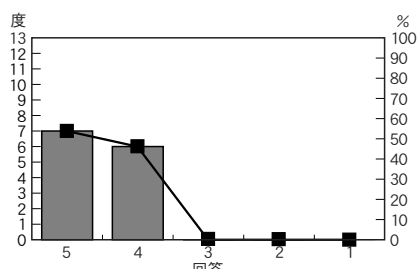
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



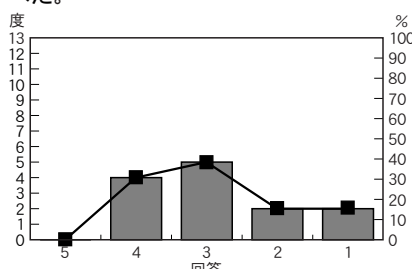
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



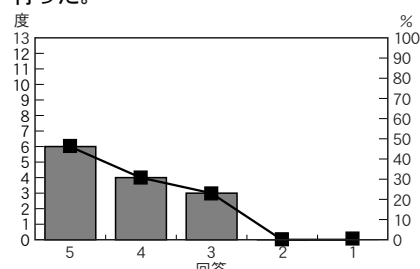
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



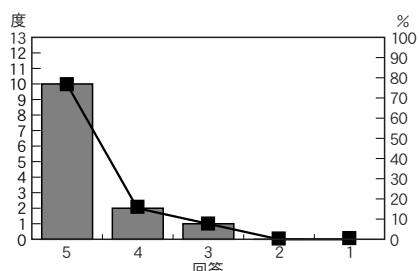
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



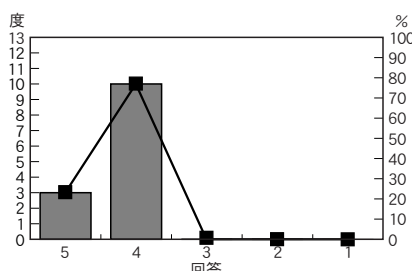
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



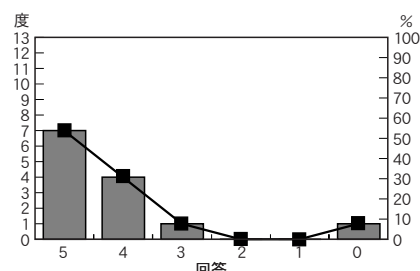
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



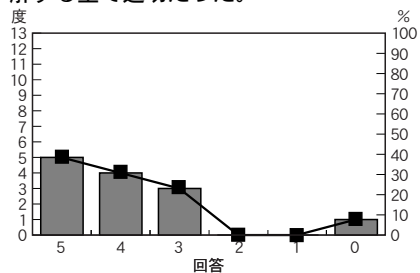
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



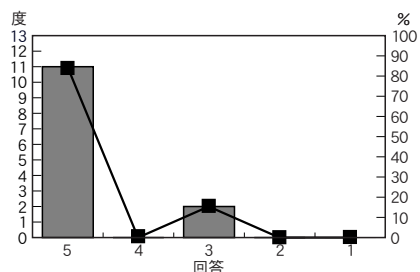
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



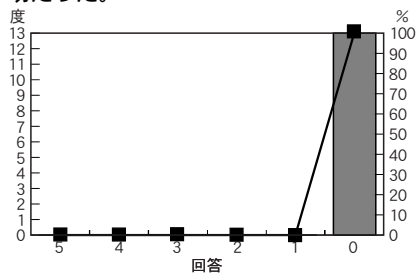
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



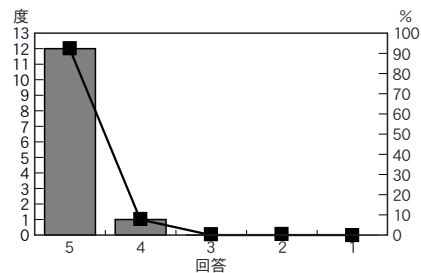
項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



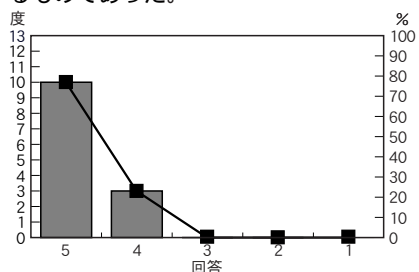
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全体として授業は好評であったように思える。ただ「予習復習をしたか」という問に対して、ほとんどの学生が3と解答していた。「授業内容は興味・関心を引くものであったか」という問にはほぼ8割の学生が5と答えていたので、その興味・関心を伸ばすためにもう少し、読んでおくべき文献などを指示していく必要があろう。

授業科目名：「哲学・倫理学概論」

評価実施日：平成 18 年 8 月 1 日

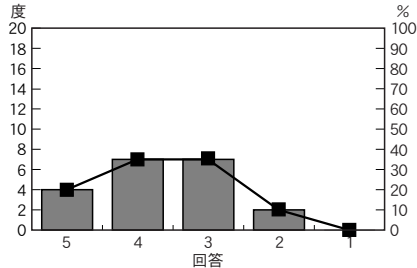
担当教員名：齋木 哲郎

(有効な合計20)

■ 度 ■ %

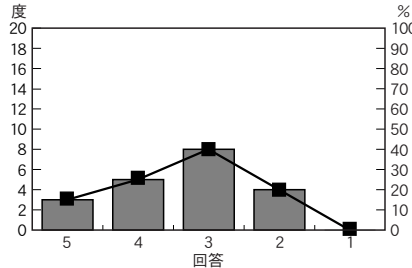
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



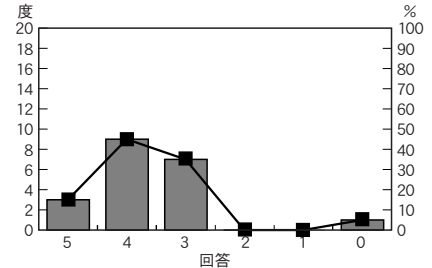
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



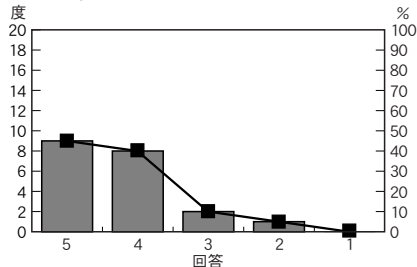
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



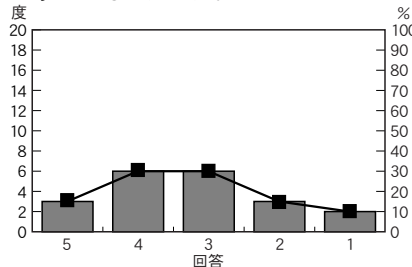
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



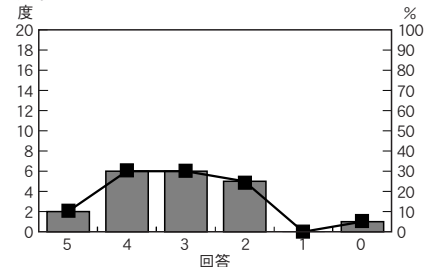
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



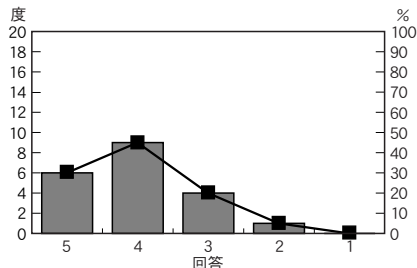
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



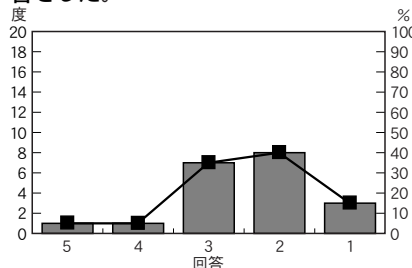
項目分析：(7)

授業によく出席した。



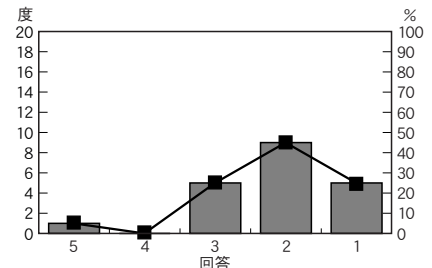
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



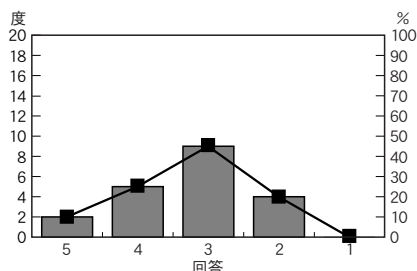
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



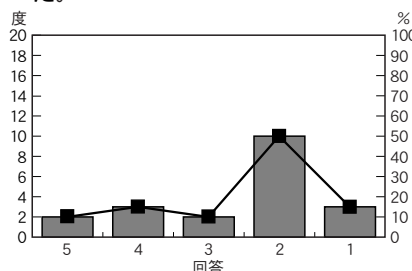
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



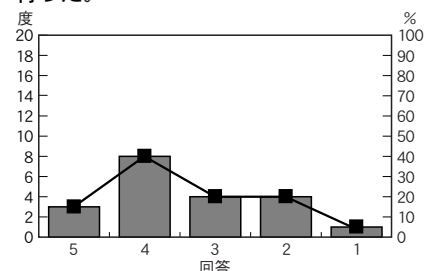
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



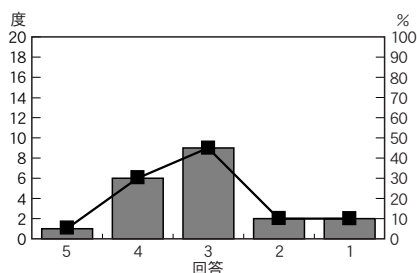
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



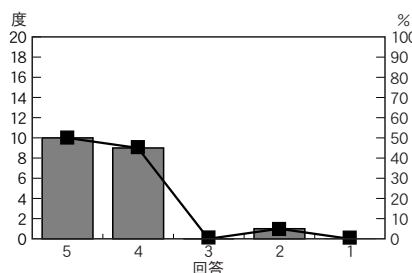
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



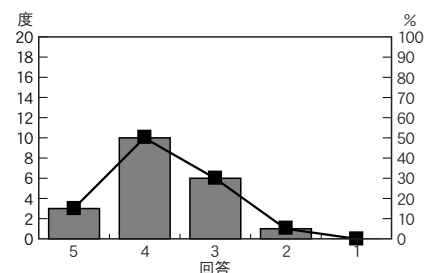
項目分析：(14)

熱心に指導した。

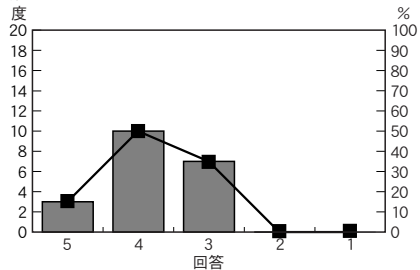


項目分析：(15)

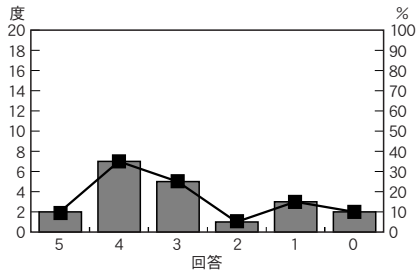
授業内容を分かりやすく説明した。



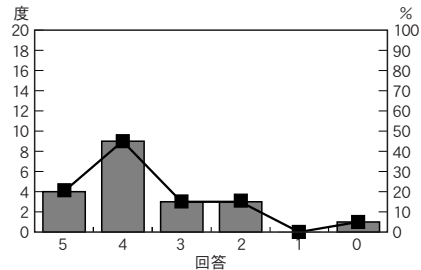
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



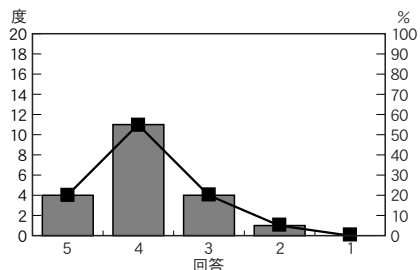
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



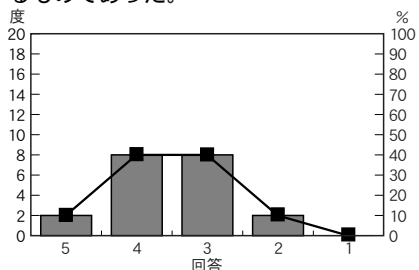
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全体的な傾向として、授業はよく理解できたが、授業をよりよく理解するための取り組みは怠った、というのが今年度の受講生の特徴のようである。授業は資料に原文（漢文）を用いており、その分受講生の理解を妨げるといのが、この講義を行う上でのアポリアであった。けれども今回はそれに対する抵抗はなかったようである。学生に理解しやすいような訳語での説明が功を奏したのであろう。次年度以降も、本年度の形式で授業を行ってみたい。また受講生の積極的な取り組みを促すために、学生の興味を惹くことを目的に、次年度以降には今日の視野からの授業構築も試みる必要があるように思われる。

授業科目名：「代数学Ⅰ」

評価実施日：平成19年2月1日

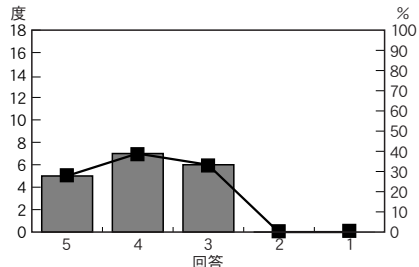
担当教員名：平野 康之

(有効な合計18)

■ 度 ■ %

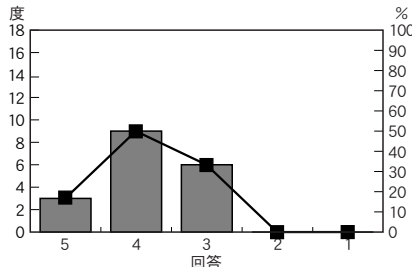
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



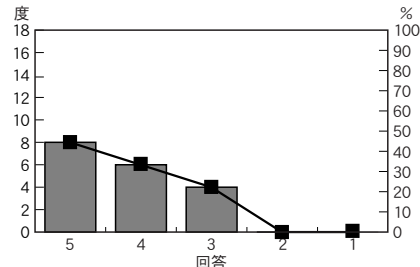
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



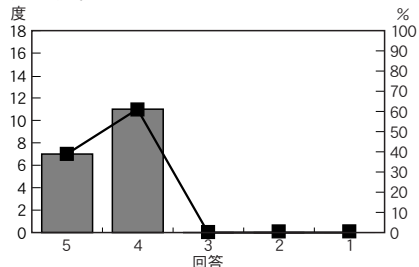
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



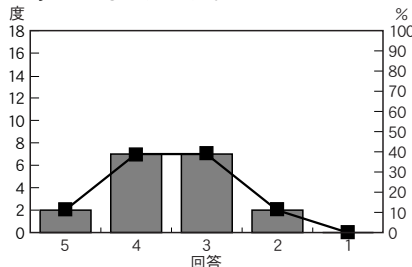
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



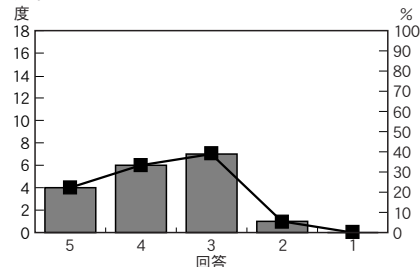
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



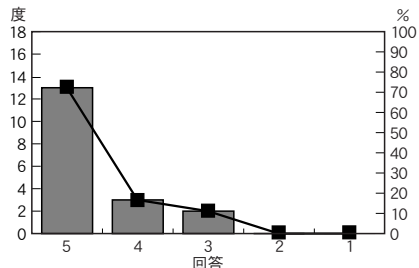
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



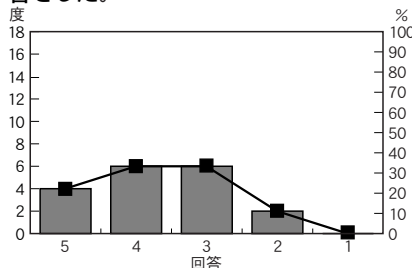
項目分析：(7)

授業によく出席した。



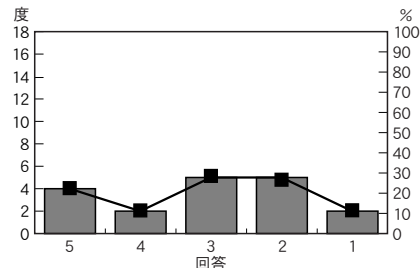
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



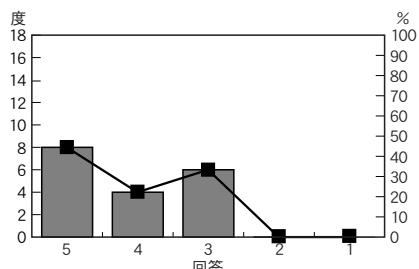
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



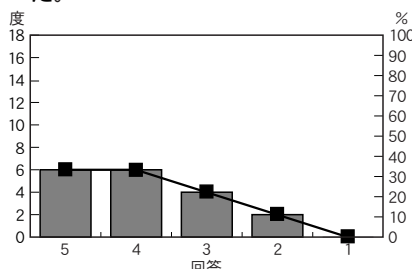
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



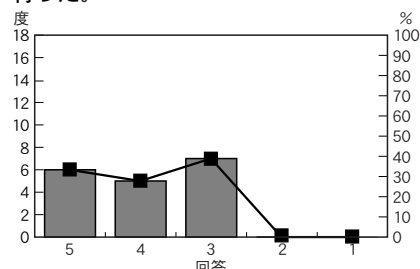
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



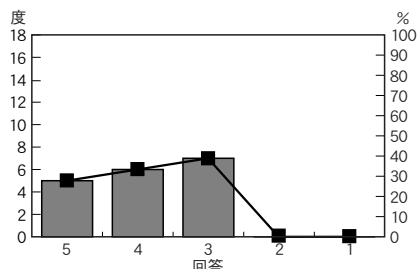
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



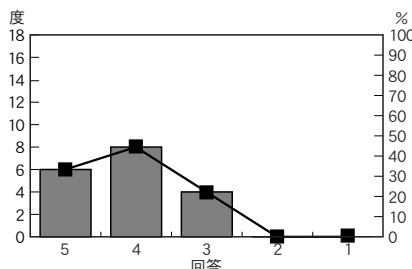
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



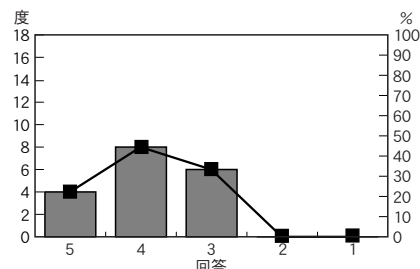
項目分析：(14)

熱心に指導した。

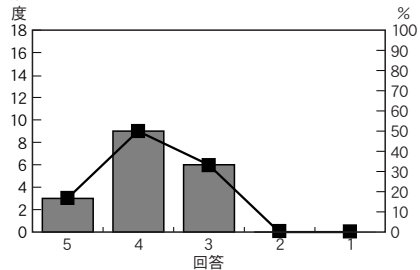


項目分析：(15)

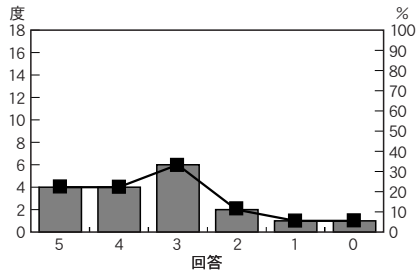
授業内容を分かりやすく説明した。



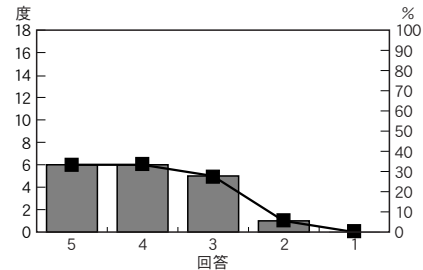
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



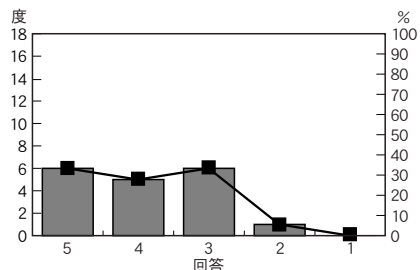
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



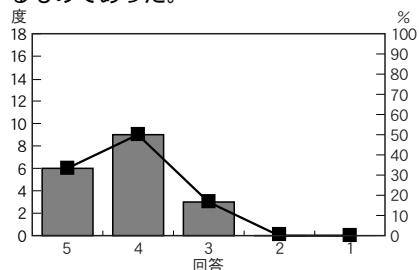
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全般的に値が3～5に集中しており、「この授業は自分自身にとって満足のいくものであったか」という問いに対する項目分析20では4, 5が83%以上を占めていたこと、熱心に指導したこと、授業内容を分かりやすく説明したことに対する評価が良かったので、受講者が概ね、この授業に満足しているものと思われる。学生が授業によく出席し、適度に予習、復習をし、教員の説明をよく聞いてくれたことに対しては感謝したい。視聴覚機器や教育用機器をあまり利用しなかったこと、受講生の発表、発言する場をあまり与えなかったことは反省すべきかも知れない。数学は講義を聴くだけでなく、受講生が自ら問題を解くことが理解する上で大切であるので、小テストを度々行なった。このことを通して、学生の理解を確かめながら授業できたが、受講生自身もこのことを評価してくれたことは喜ばしい。

授業科目名：「幾何学Ⅱ」

評価実施日：平成 19 年 1 月 31 日

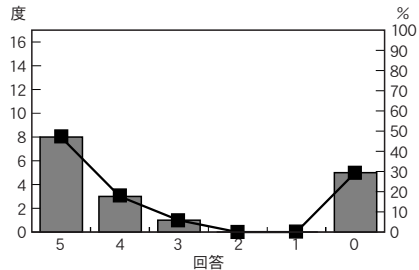
担当教員名：松岡 隆

(有効な合計17)

■ 度 ■ %

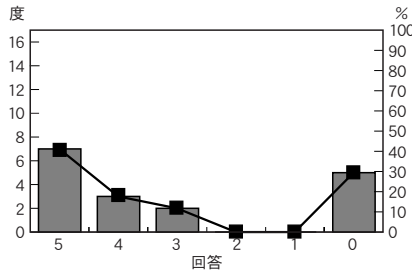
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



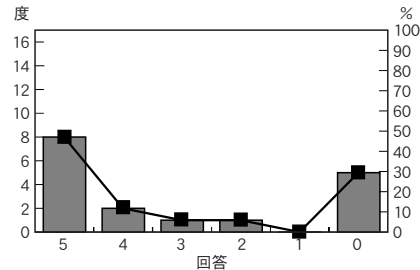
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



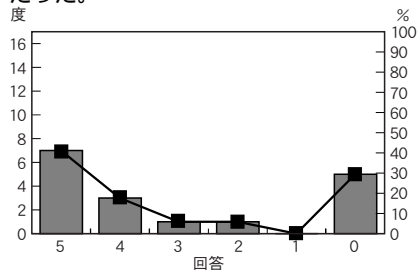
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



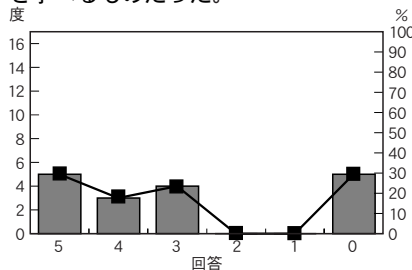
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



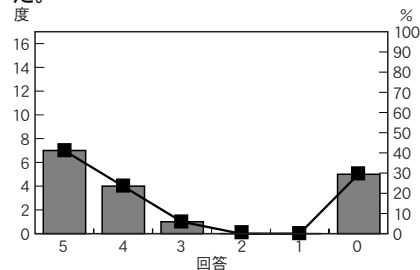
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



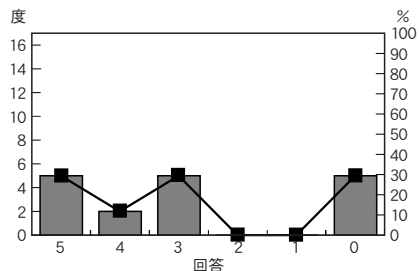
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



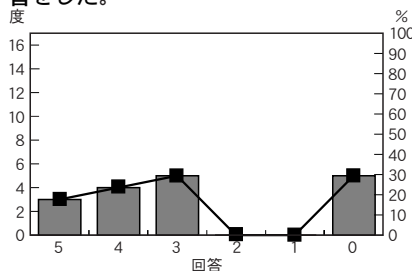
項目分析：(7)

授業によく出席した。



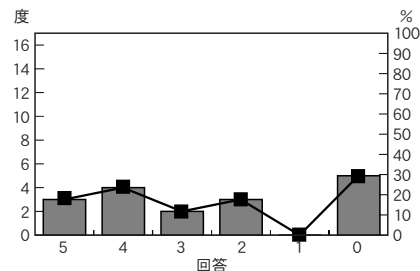
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



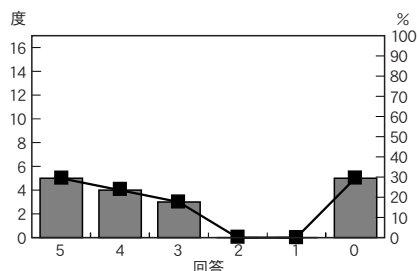
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



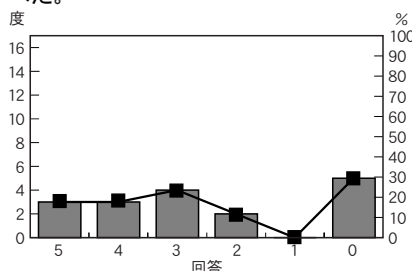
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



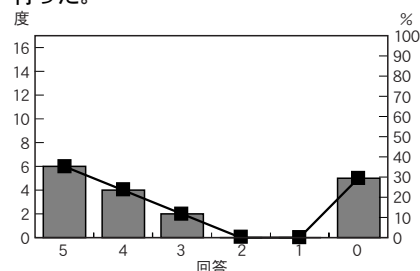
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



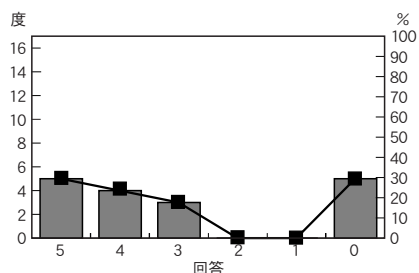
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



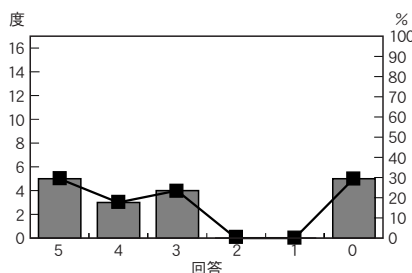
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



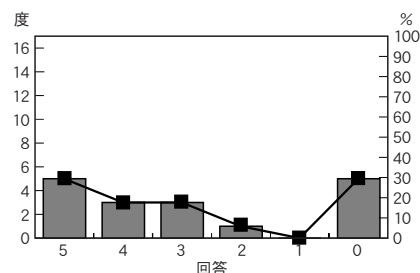
項目分析：(14)

熱心に指導した。

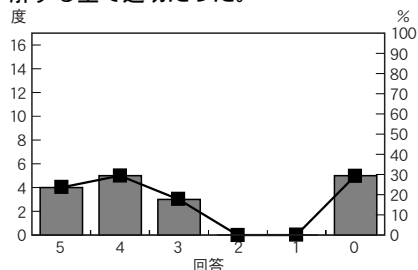


項目分析：(15)

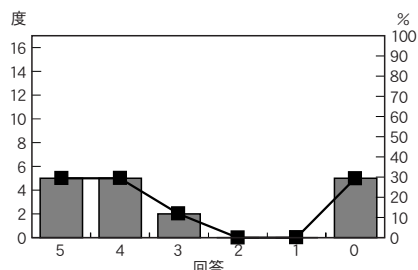
授業内容を分かりやすく説明した。



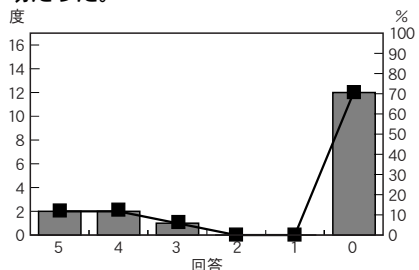
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



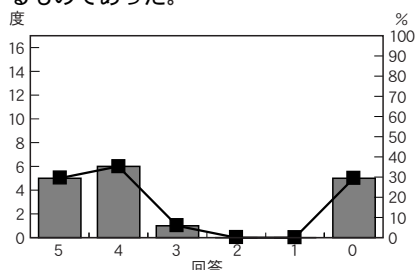
項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



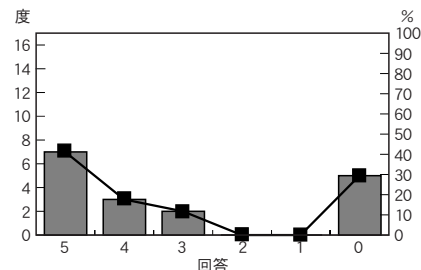
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



教員のコメント

昨年も同じ授業でアンケートを取ったが、昨年に比べ評価平均値が増加した項目は、1 (0.6), 3 (0.5), 6 (0.4), 9 (0.3), 16 (0.3) であった (括弧内の数値は、評定平均値の上昇分を表す)。項目1については、授業概要をより明確化した効果が現れたと考える。項目3については、前回、授業の大幅な遅れを生じる原因となった中学図形領域の内容分析において、受講生が用いる分析の視点・手法に改良を加えたため、より速やかな分析が可能となり授業が計画通り進んだことによると思われる。6, 16の上昇も改善を加えた効果であろう。一方、平均値が減少した項目は、7, 11, 15 (いずれも0.3ポイントの減少) であったが、実際、例年より出席状況が悪かった印象がある。項目15の結果は授業の分かりやすさをさらに改善すべきことを示している。

なお、今回17名中5名の回答が白紙であったため、約3分の1の受講生の評価については不明である。白紙回答があったことはこれまでに経験の無いことであるが、アンケートの実施方法でこれまでと特に変えた点はなく原因は分からない。

「授業でよかったこと」欄には以下の記述があった。「今まで知らなかった知識が多かったので新しく知ることができてよかったです」、「幾何に対する専門性が高まったこと」。「改善すべき点」欄には記述が無かった。

授業科目名：「幾何学Ⅲ」

評価実施日：平成 18 年 7 月 24 日

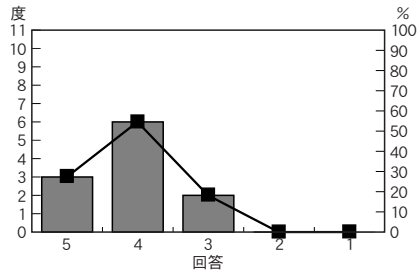
担当教員名：松岡 隆

(有効な合計11)

■ 度 ■ %

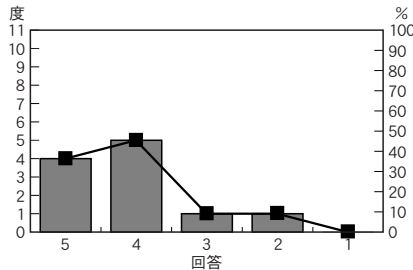
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



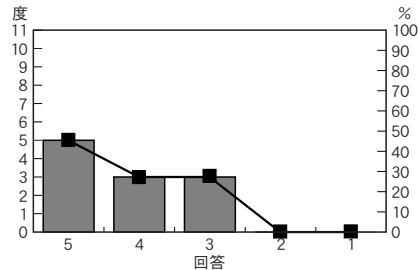
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



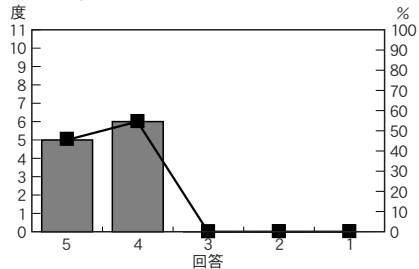
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



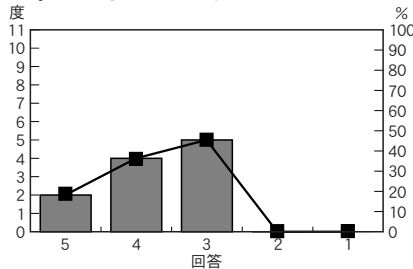
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



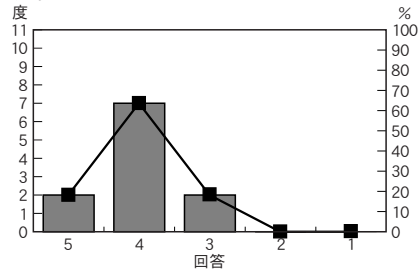
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



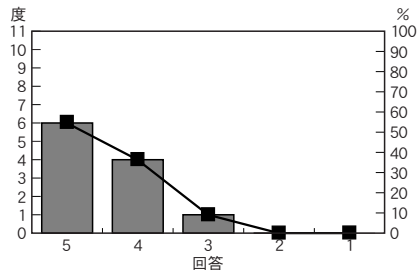
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



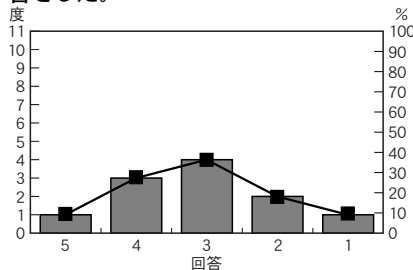
項目分析：(7)

授業によく出席した。



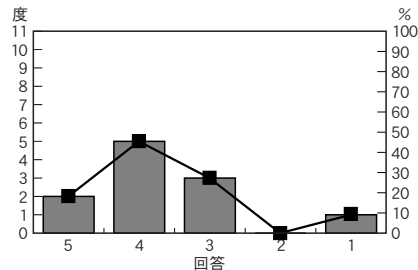
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



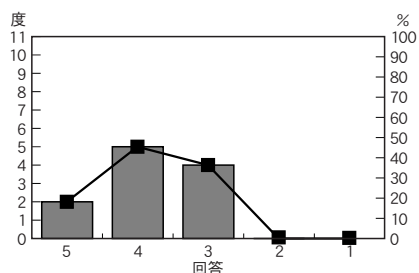
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



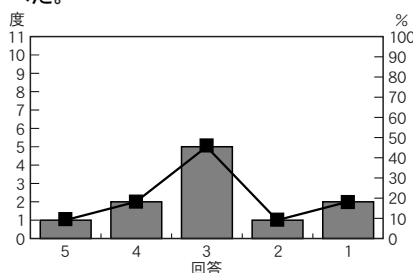
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



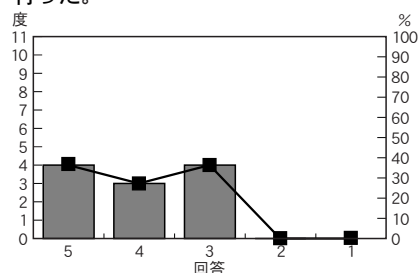
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



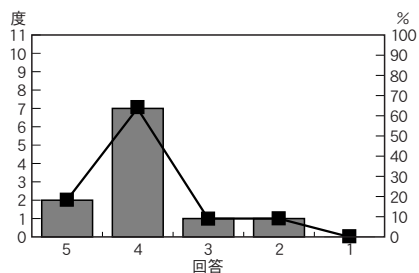
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



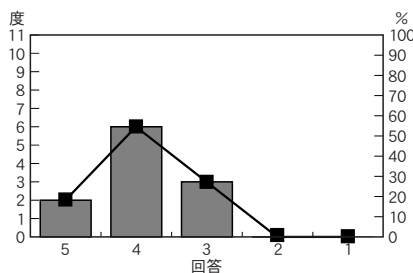
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



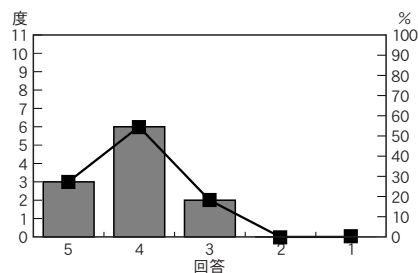
項目分析：(14)

熱心に指導した。

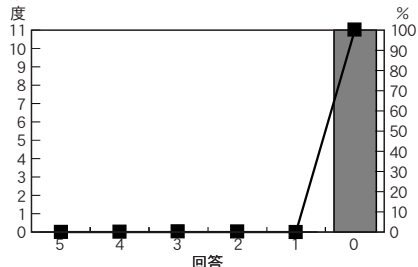


項目分析：(15)

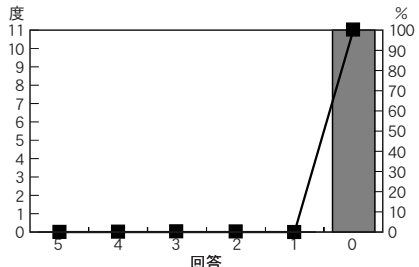
授業内容を分かりやすく説明した。



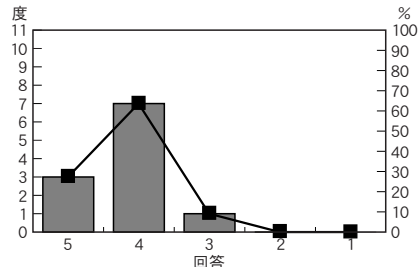
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



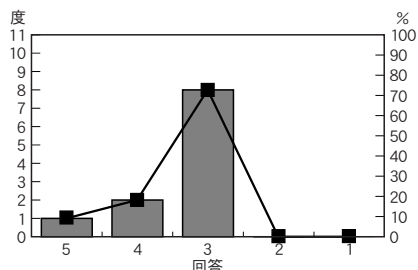
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



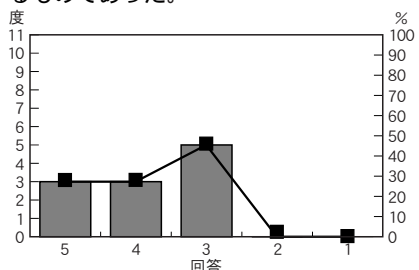
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

昨年度の評価では、評点の平均値が4未満の項目は、自学自習に関するもののみであり、改善点を記す欄への記入も無かったので、授業に大きな問題は無いと考え、今年も同じ内容で授業を行った。しかし、結果は予想外で、4未満の項目が5, 8～14, 19, 20と大幅に増加し、改善点欄に難しいとの印象を伝える回答が5件記入されていた。単に年度によって受講生の反応がかなり異なるためとも考えられるが、他に考えられる原因として、これまではこちらが解説していた内容の一部を、今年は受講生が自ら考え見つけ出す形態に変えたが、この際、理解不足の受講生に対する配慮が不十分であったのかもしれない。適当な演習問題を宿題に出すなど何らかの手立てを考えていく必要がある。

自由記述の「よかったこと」欄の回答：「図形によるイメージが多く楽しんで受けられるものだった。知識が増えた」、「実際に図形を作ることで、具体的にその図形を理解することができた」、「自分で作ったりして視覚的にも考えることができた」、「まったく新しい観念が身について少し頭の構造も変わったと思う」、「今まで知らなかった新しいことを学べた。発想力を問われた」、「新しい見方ができるようになった」、「楽しくできたのがよかったです。まわりと相談しながらできたのがよかった」、「知識が増えたかも」。

改善欄の回答：「難しい」(2名)、「もう少しゆっくりがいいです」、「もっと分からない人も分かるようになるようにしてほしい」、「もう少し演習問題を解いてほしい」

授業科目名：「解析学Ⅰ」

評価実施日：平成19年2月28日

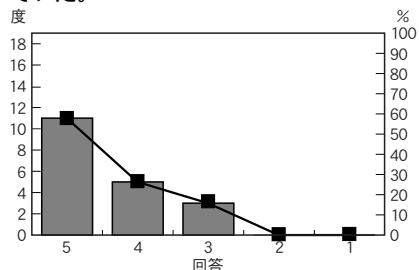
担当教員名：成川 公昭

(有効な合計19)

■ 度 ■ %

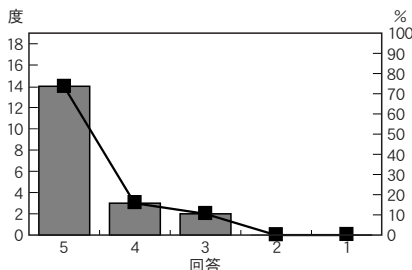
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



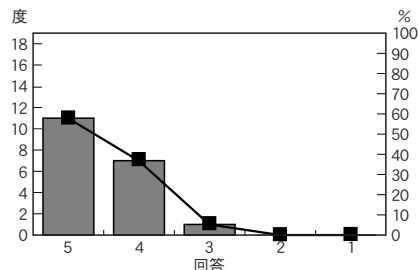
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



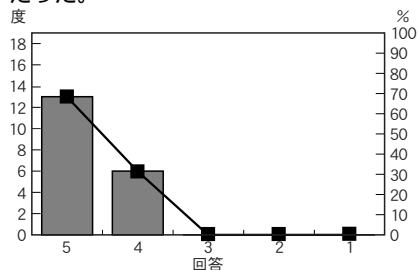
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



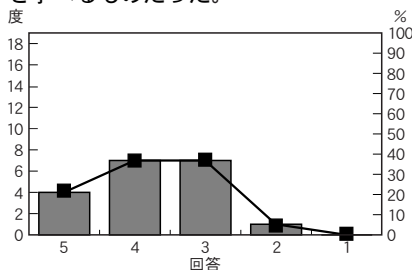
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



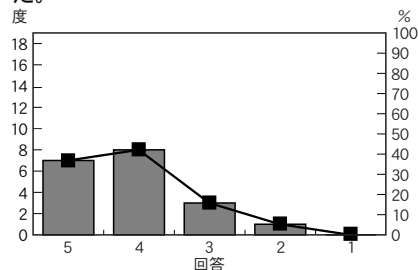
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



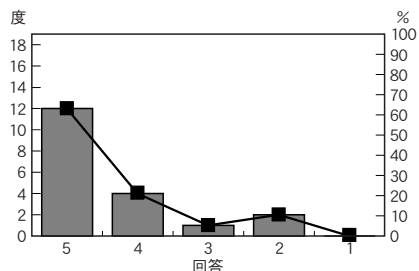
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



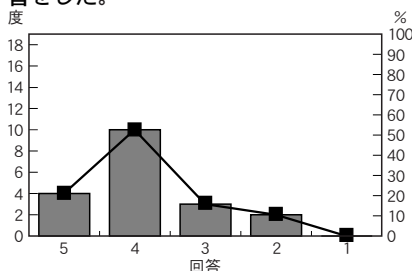
項目分析：(7)

授業によく出席した。



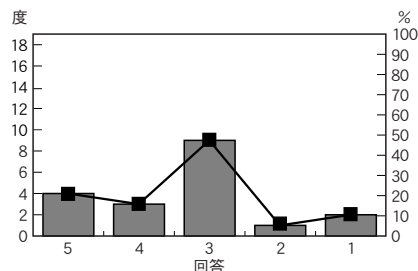
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



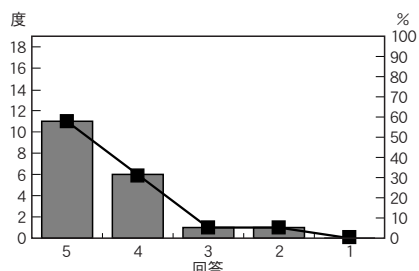
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



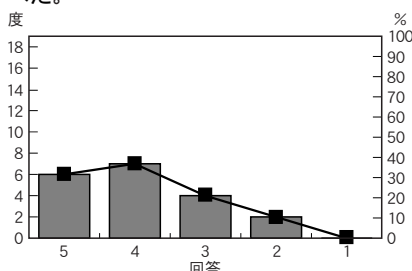
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



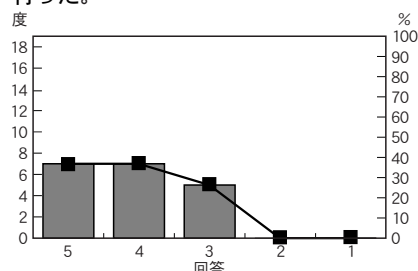
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



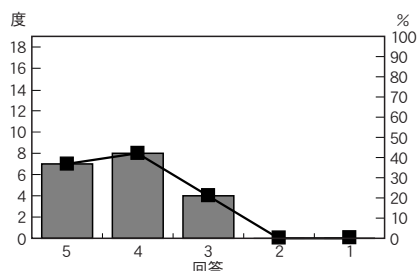
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



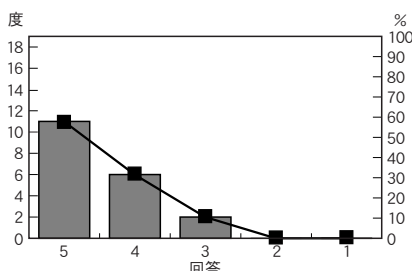
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



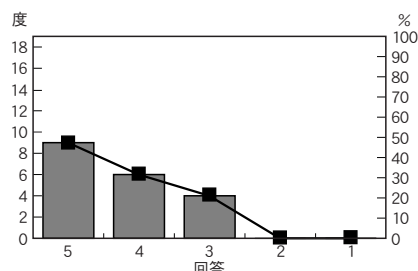
項目分析：(14)

熱心に指導した。

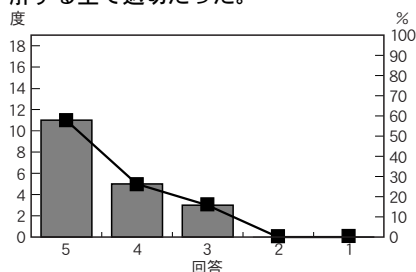


項目分析：(15)

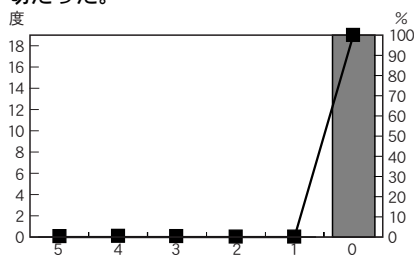
授業内容を分かりやすく説明した。



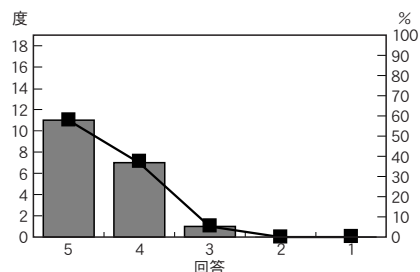
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



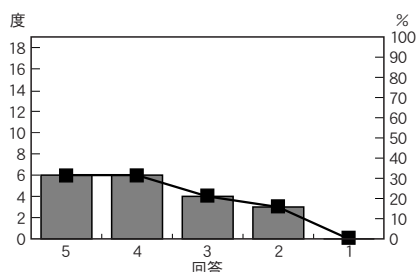
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



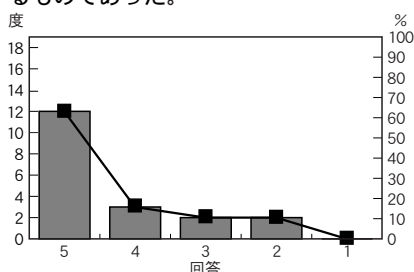
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

質問項目(5)(9)(11)を除いておおむね3/4以上のものが5または4の回答をしており、ほぼ当所の目的に沿った授業が展開できたと考えられる。特に、質問(4)の「教養や専門性を高める授業であったか」の問いに対しては全員が5または4の評価をしており専修専門科目としての目的が十分に果たされたと考えられる。一方で、教育に対する見方や考え方については、半数強(57.9%)のものが4または5の評価をしているものの、評価3の「どちらともいえない」と答えた学生が37%であった。専門科目におけるこの数字をどう見るかは難しいところではあるが、もう少し現場数学との関わりを導入して授業を進めるべきであったかも知れない。(9)(11)の数字にしてもほとんどが3以上と特に問題だとと思われる数字ではないものの、できれば今回以上に演習、課題等を与えることにより、更にいっそう学生の自主的学習を促すよう努力したい。質問6(2)の項目に関しては、「専門的知識を深めることが出来た」、「よく理解できた」、「専門性を高めることが出来た」「解析は面白い、難しいが楽しめた」等の記述がありこちらの意図が十分に伝わった授業であったと評価できる。その一方で、(2)の改善点では「講義中の演習の程度を上げるとよい」「テラー展開をもっと詳しく」との意見があった。学生の理解度を見ながらの結果ではあるが今後の参考にしたい。

授業科目名：「解析学Ⅲ」

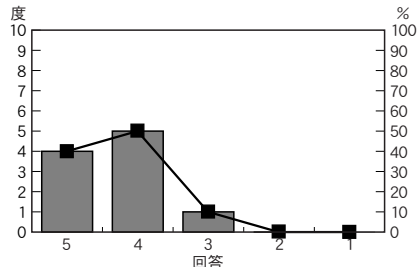
評価実施日：平成 18 年 7 月 25 日

担当教員名：成川 公昭

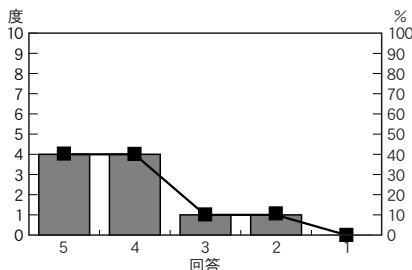
(有効な合計10)

■ 度 ■ %

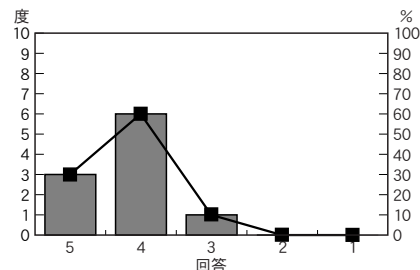
項目分析：(1)
目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



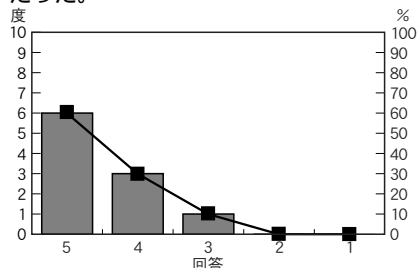
項目分析：(2)
成績評価の方法は、明確に示されていた。



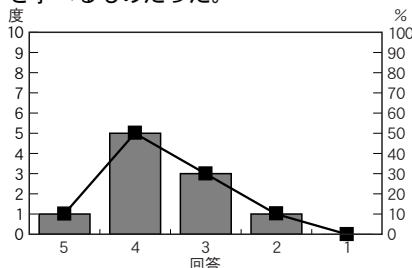
項目分析：(3)
授業内容は、授業概要に沿っていた。



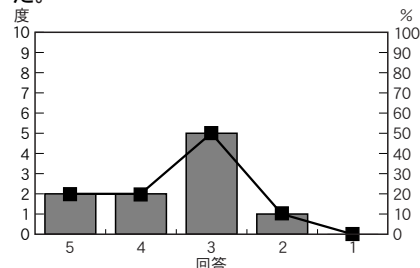
項目分析：(4)
授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



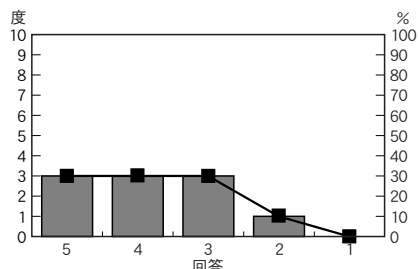
項目分析：(5)
授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



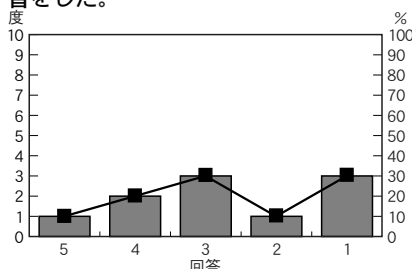
項目分析：(6)
授業内容は、興味・関心を引くものだった。



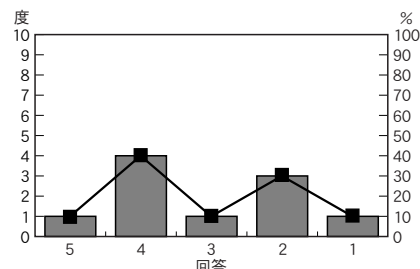
項目分析：(7)
授業によく出席した。



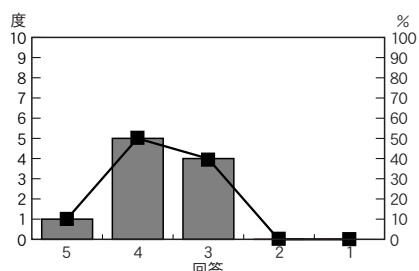
項目分析：(8)
授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



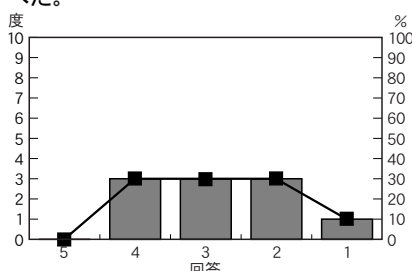
項目分析：(9)
授業中に積極的に発言や質問をした。



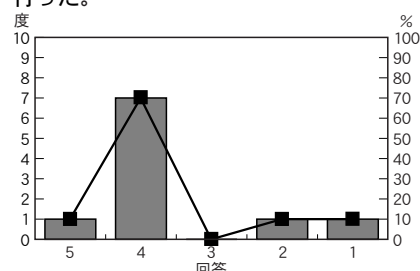
項目分析：(10)
教員の説明をよく聞いた。



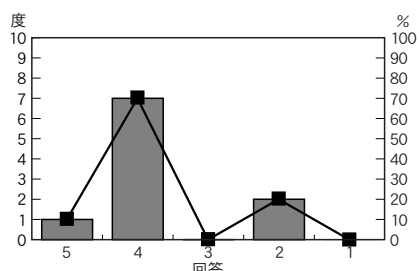
項目分析：(11)
分からないことや疑問に思ったことは調べた。



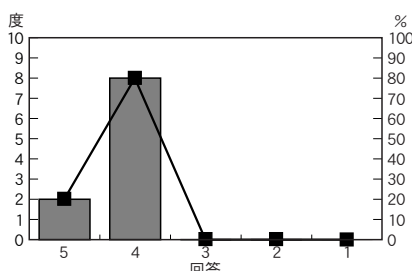
項目分析：(12)
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



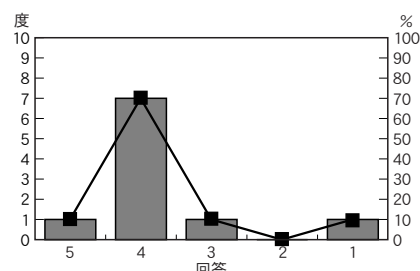
項目分析：(13)
学生が参加しやすい授業だった。



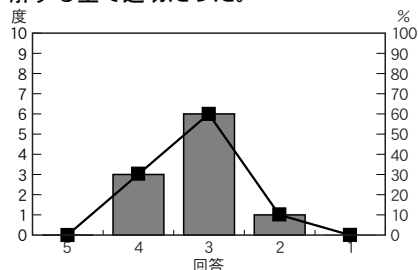
項目分析：(14)
熱心に指導した。



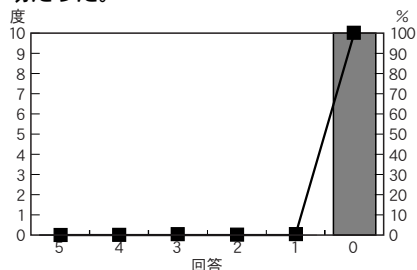
項目分析：(15)
授業内容を分かりやすく説明した。



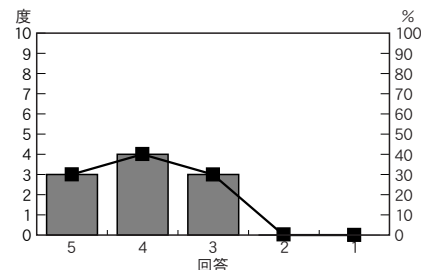
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



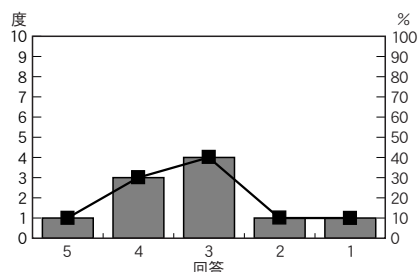
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



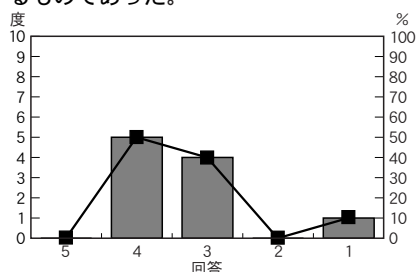
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

質問項目(1)～(4), (12)～(15)において80%以上が5または4の評価がなされており、おおむねこちらの意図は伝わった講義であると評価できる。また、教育との関わり、興味関心については、3の評価以上が90%であり、高く評価は出来ないものの悪くはない。専門の科目であり、なかなか実際の教育との関わりがつかめなかったのが原因であろう。しかしながら、教育のバックボーンを固めるものとして是非とも身につけておいて欲しい内容であり、今後このことを認識させる工夫が必要であると思われる。一方、質問項目(8), (9), (11)の予習・復習、授業中の発言、自らの調査といった積極的に授業に取り組もうとする姿勢にかかわる評価があまり高くないのが気になる。例年のことであり、本学の学生気質が現れているが、もっと引き込まれ、一人ひとりが興味を持って理解したい、知りたいという気持ちを引き出す授業にしなければならないと反省している。この授業にかかわらず、それぞれの授業でこうすることにより学生気質も変化してくるように思われる。自由記述の項目では、「進度が速すぎる」と書いた学生がいる一方で、「適度であった」、「復習を何度もやってくれたのでしっかり理解できた」という学生もいる。各個人の理解度に応じて感じ方が異なるのは当然であるが、昨年の反省をふまえ、大分改善されてきたと自己評価できる。ただ、演習も授業の中はかなり入れたつもりであるが、「例題をもっと解いて欲しい」との意見があった。時間との関係で難しい問題であるが、更に今後検討しなければならないと思っている。

授業科目名：「確率・統計学」

評価実施日：平成 19 年 2 月 14 日

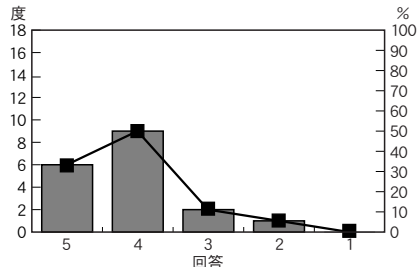
担当教員名：鳥巢 伊知郎

(有効な合計 18)

■ 度 ■ %

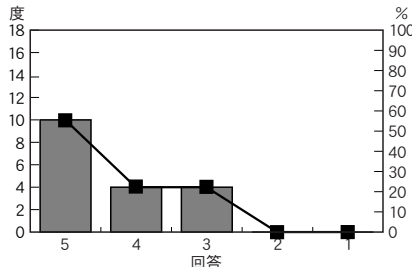
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



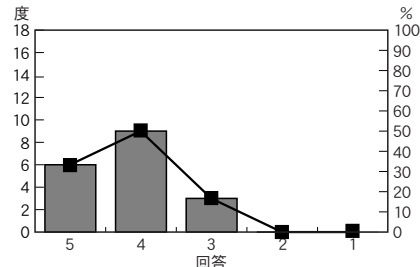
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



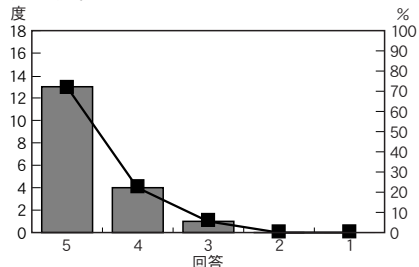
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



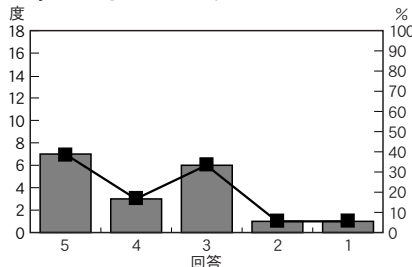
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



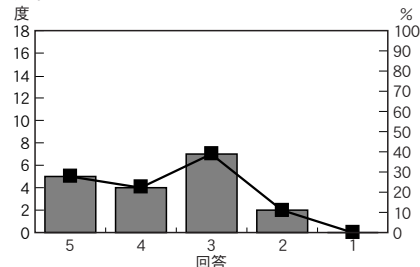
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



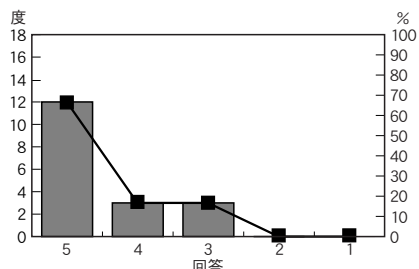
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



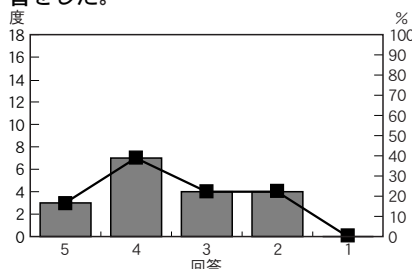
項目分析：(7)

授業によく出席した。



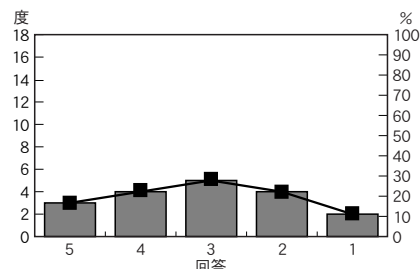
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



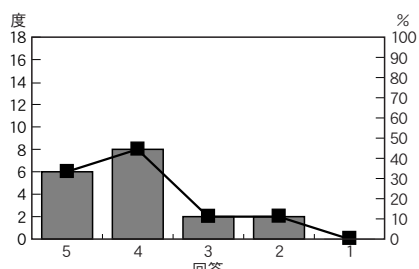
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



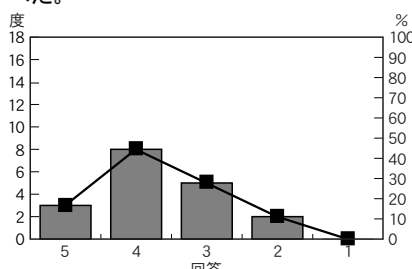
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



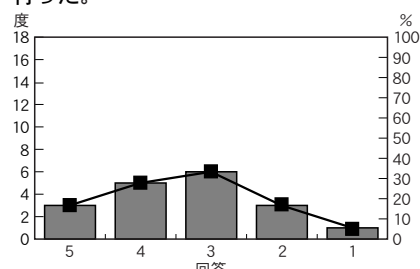
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



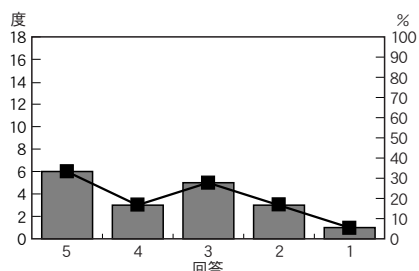
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



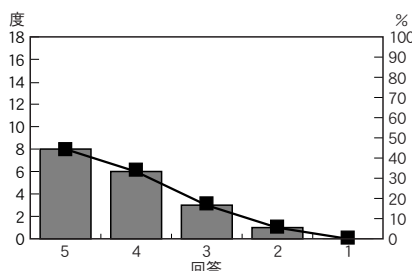
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



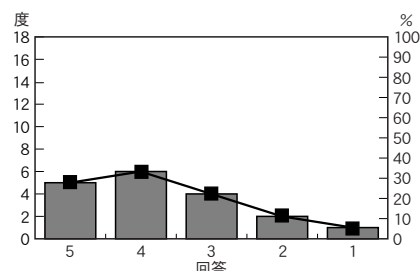
項目分析：(14)

熱心に指導した。

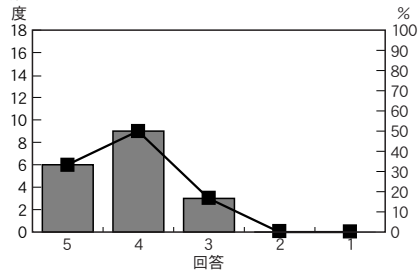


項目分析：(15)

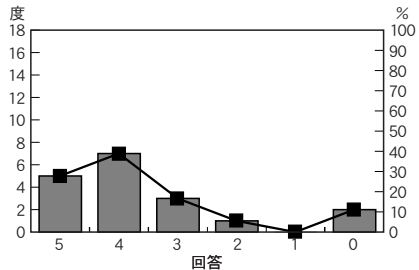
授業内容を分かりやすく説明した。



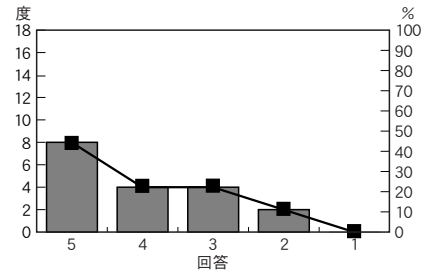
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



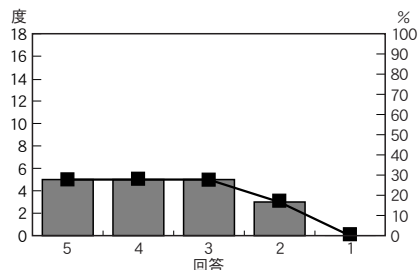
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



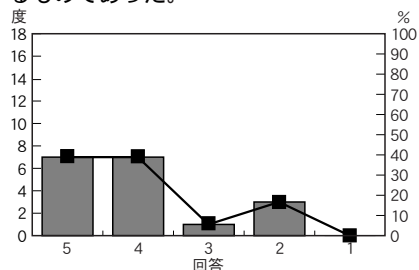
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

項目(4)の評価が高いので、授業者としては確率・統計学の専門的基礎事項を教えるという本講義の第一の目的は一応達成できたと思う。項目(20)において授業満足度の高くない者が2割程度いることについては、改善のために今後検討する必要がある。

授業科目名：「中等理科（物理学分野）」

評価実施日：平成 18 年 12 月 10 日

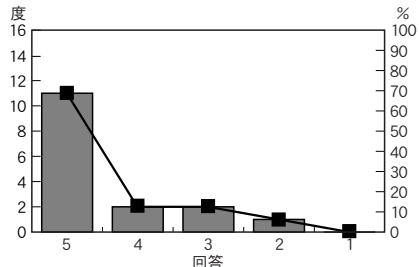
担当教員名：栗田 高明

(有効な合計16)

■ 度 ■ %

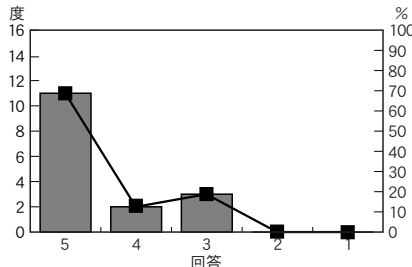
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



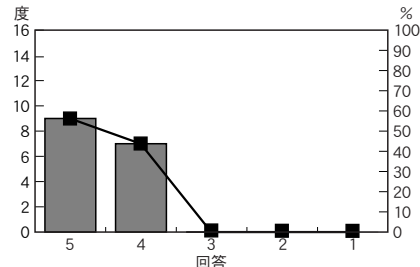
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



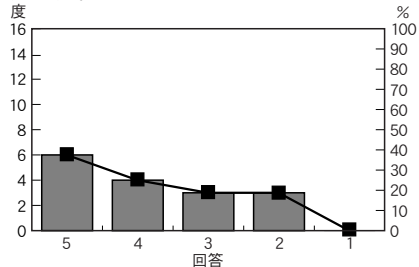
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



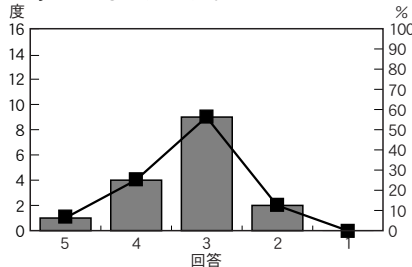
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



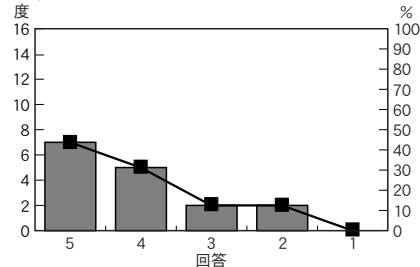
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



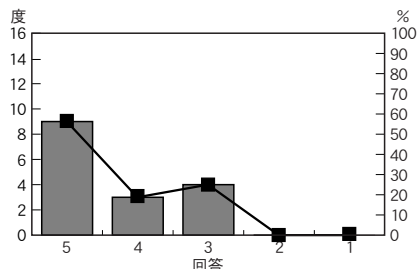
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



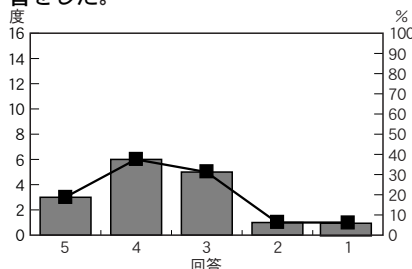
項目分析：(7)

授業によく出席した。



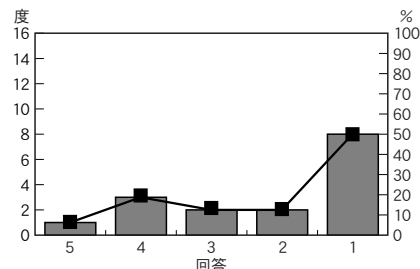
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



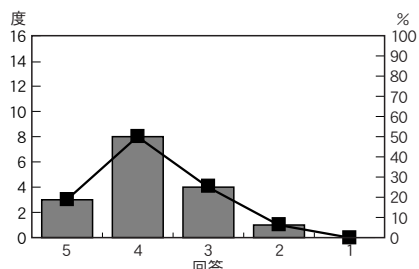
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



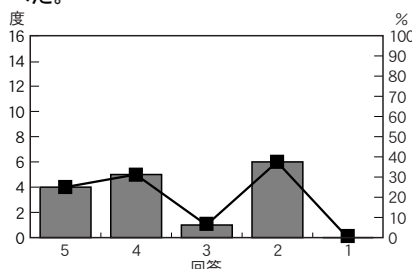
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



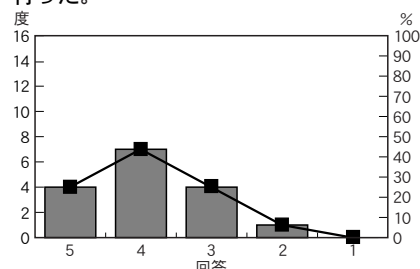
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



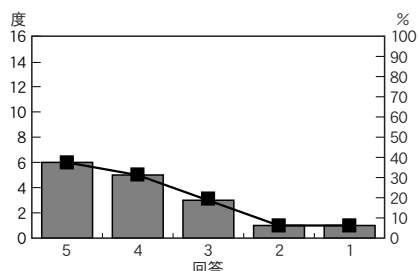
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



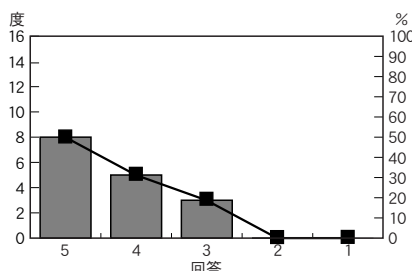
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



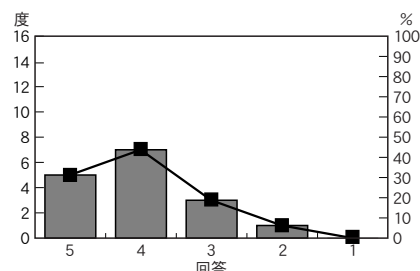
項目分析：(14)

熱心に指導した。

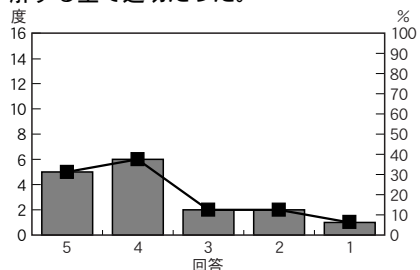


項目分析：(15)

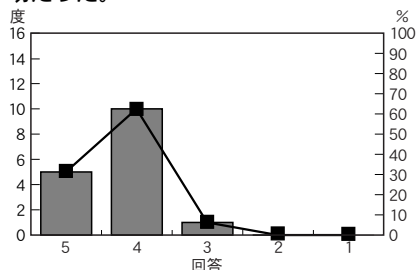
授業内容を分かりやすく説明した。



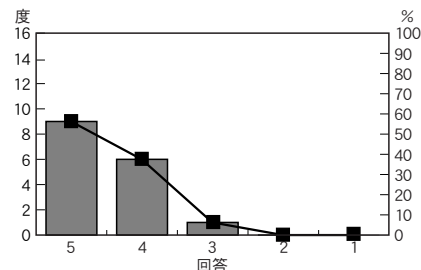
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



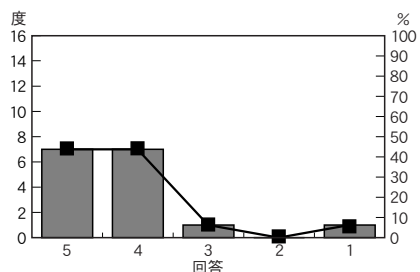
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



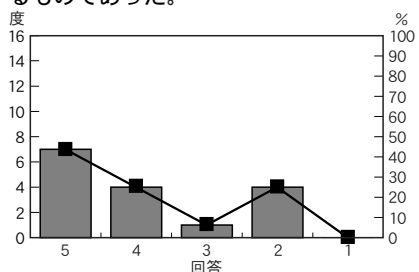
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

初めて担当する授業で、加えて集中講義ということもあり、学生の反応を探りながらの授業であった。本授業は、中学校理科の教科書の内容を単元毎に、専門的な知識や関連する実験および観察の内容等を取り入れた事柄を講義するものである。全般的に、本授業に対する評価は概ね良好であった。但し、学生自身の授業への取り組みについて、授業内容に対する予習や復習などの評価が低かった。また、授業に対する満足度について「あまりそうでない」を選んだ者が4名いた。提言の項目内容から、その理由として、「(集中講義のため) 授業の進むスピードが速かった。」「もうすこし発展的な内容でも良かった。」等の指摘があった。これらの指摘は今後の授業に活かしていきたい。

授業科目名：「物理学Ⅰ」

評価実施日：平成18年7月31日

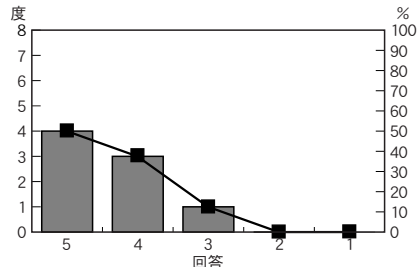
担当教員名：本田 亮

(有効な合計8)

■ 度 ■ %

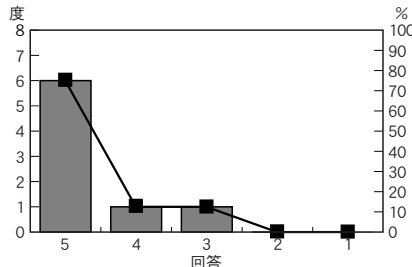
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



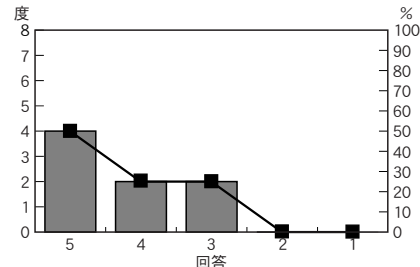
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



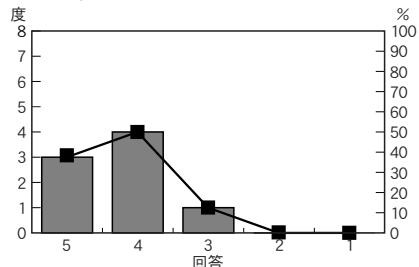
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



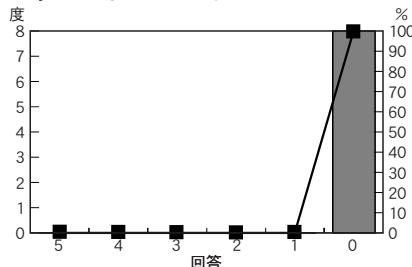
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



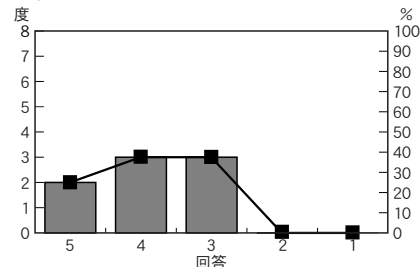
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



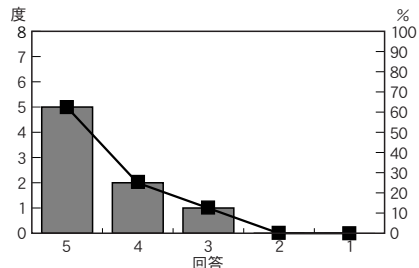
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



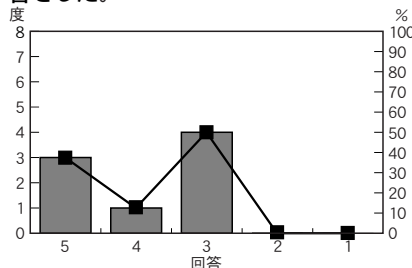
項目分析：(7)

授業によく出席した。



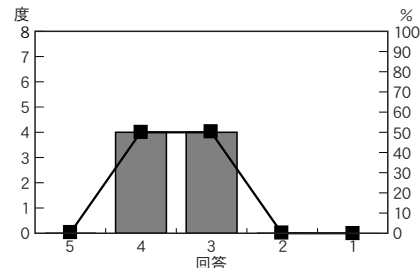
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



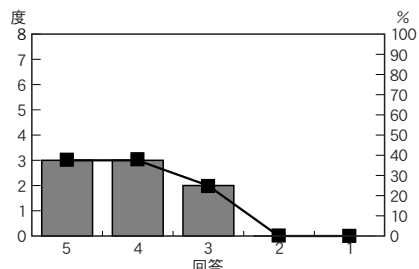
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



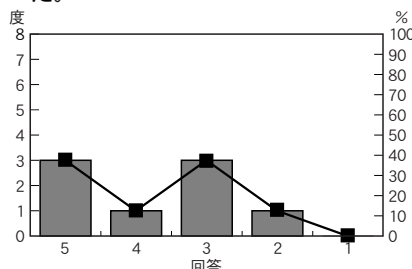
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



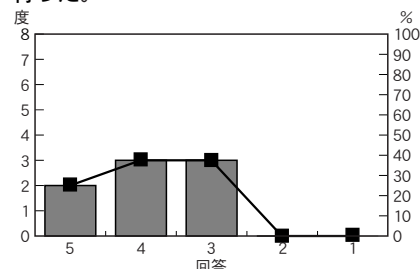
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



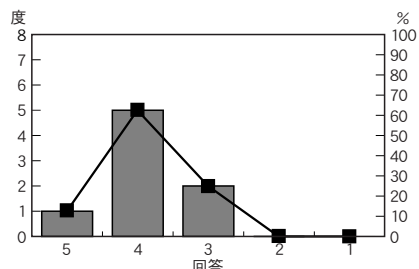
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



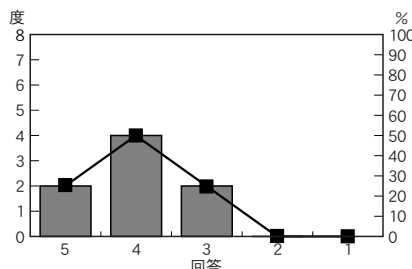
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



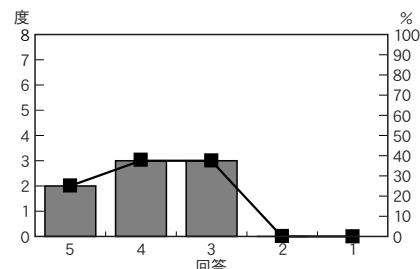
項目分析：(14)

熱心に指導した。

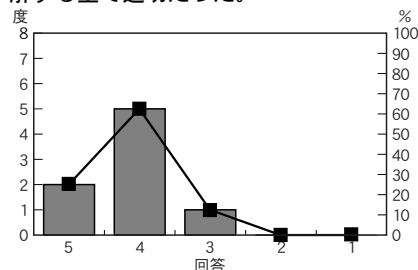


項目分析：(15)

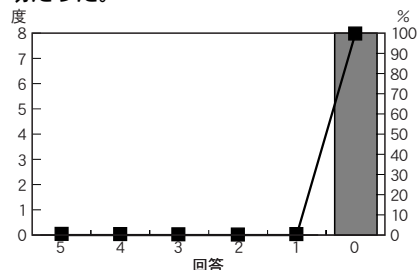
授業内容を分かりやすく説明した。



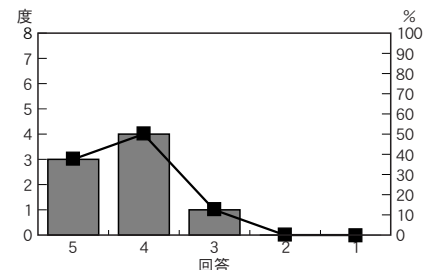
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



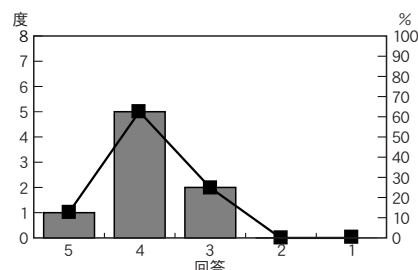
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



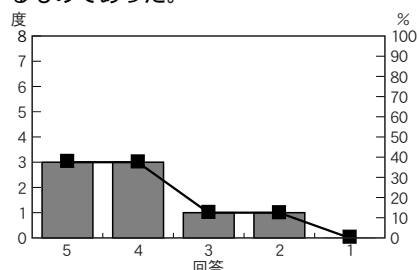
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

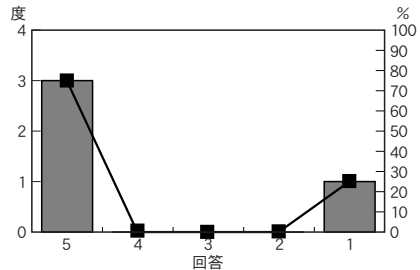
本授業は、教科の専門である力学を内容とするものである。受講生に関しては、高等学校で物理を履修していない者がほとんどであるが、少しでも大学レベルに近いものを勉強できるように教科書を選定して授業を構成した。授業は受講生の予習および復習を前提として進められた。細かなところは受講生の自学に任せ、授業担当者は考え方の道筋が明確になるように心掛けた。しかし、高等学校での数学的内容の理解不足のため、時おり物理学の本質から逸れることがあった。シラバスで予告してある通り、受講者はこの点を事前に習得して授業に臨んでほしいものである。成績は毎週提案される課題に対するレポート内容で行なわれたため、受講生は継続的な勉強をしなければ単位が得られないという状況にあった。このためか、受講生の出席率はよく、授業内容を理解するための予習・復習をしたことが、アンケート結果から読み取れる。その反面、レポート提出が無く、途中で受講を断念する学生もいた。また、「授業内容は、興味・関心を引くものだった。」「教員の説明を良く聞いた。」のアンケート項目についても肯定的な回答が多かった。受講生からのコメントには、「非常に専門的なことまで学べたのでよかったです。」「物理の難しさを知った。」というものがあるように、教科の専門内容を学ぶことに対する抵抗感の排除にもこの授業が貢献できたようだ。

授業科目名：「物理学Ⅱ」
 評価実施日：平成18年7月20日
 担当教員名：松川 徳雄

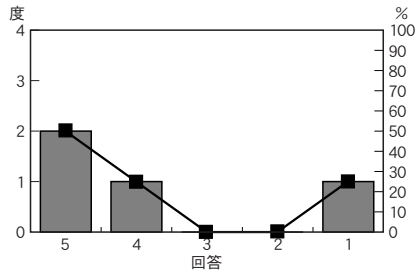
(有効な合計4)

■ 度 ■ %

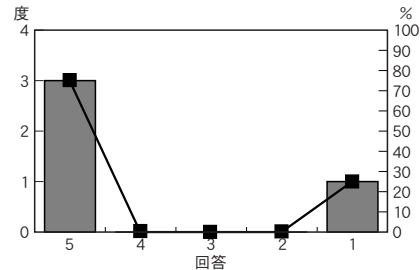
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



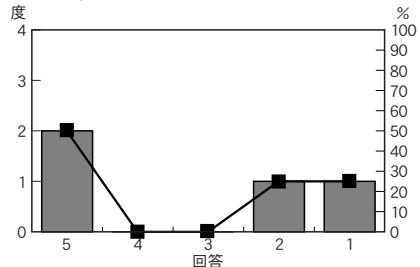
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



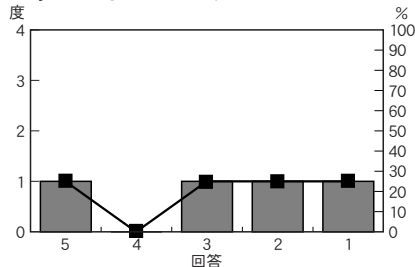
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



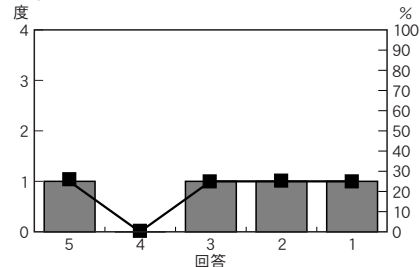
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



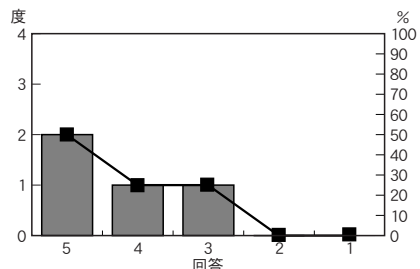
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



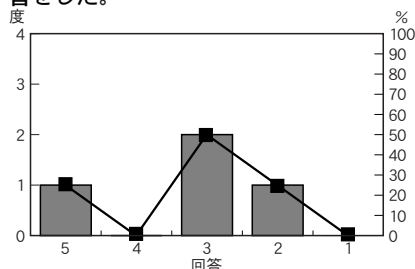
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



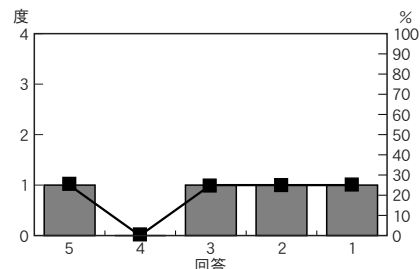
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



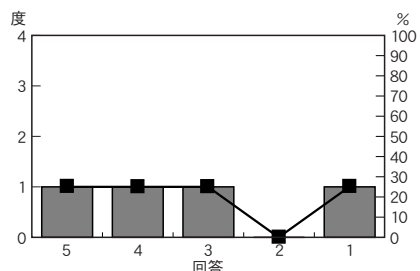
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



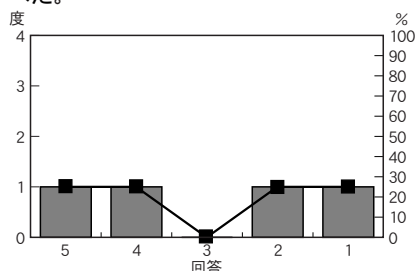
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



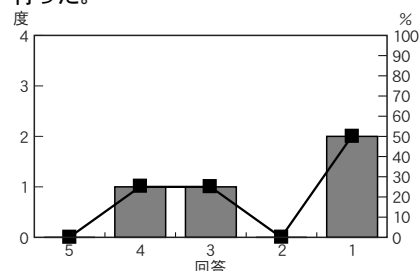
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



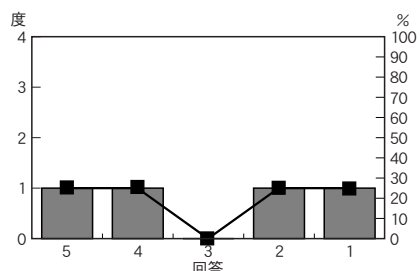
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



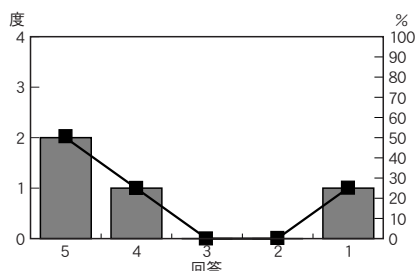
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



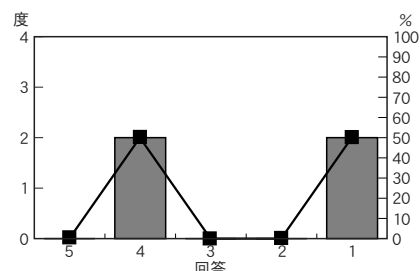
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



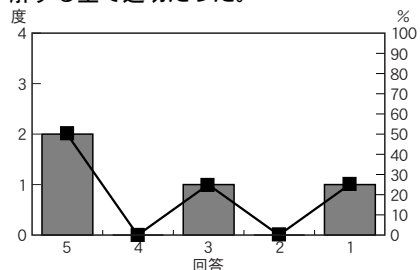
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



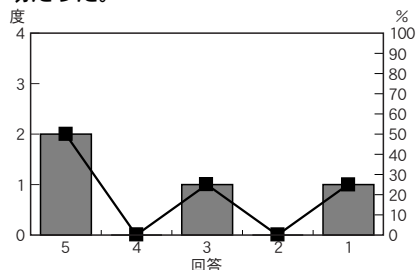
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



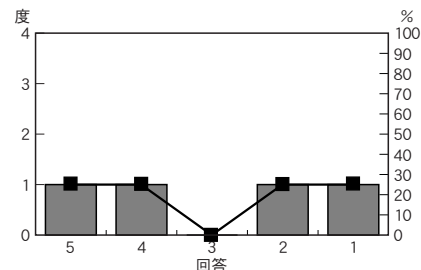
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



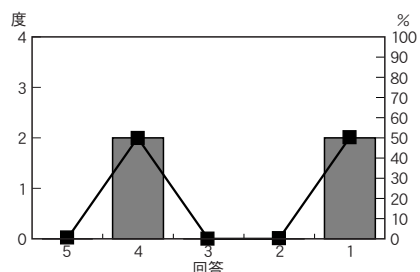
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



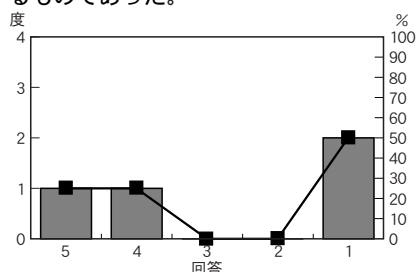
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本年度より授業方針を変えて、時間の半分を演習にあて、時間内での自学・自習を促し、質問はその場で指導するようにした。高校で履修経験がない者にとってなにを質問して、なにをどのように学ぶか方策が想像できない面があるからである。

演習結果は回収し次週に添削して返却するようにした。

学生の評価は明確に2つにわかれた。成績評価でみると、高校物理の履修歴の少ない者の方が優れてのびている。むしろなまじの経験がある者がのびていないように思われる。

本年度は履修生が少なかったため指導が行き届いたが、受講生が10名を越えるとこの種の授業方式を維持するには相当の負担になりうる。

授業科目名：「化学の基礎」

評価実施日：平成 18 年 6 月 12 日

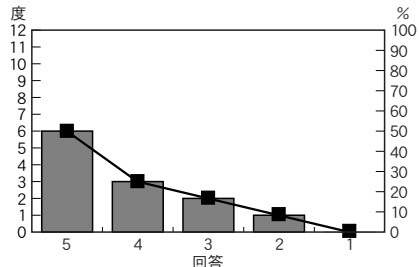
担当教員名：今倉 康宏

(有効な合計12)

■ 度 ■ %

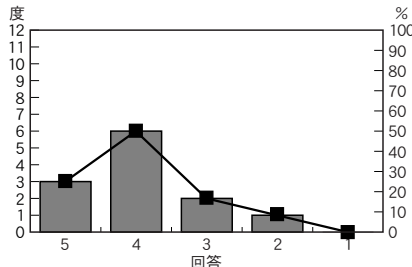
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



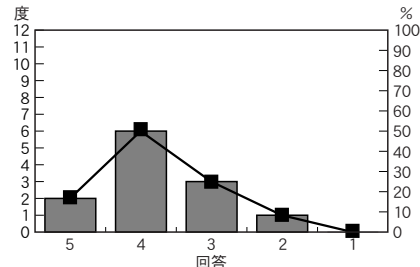
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



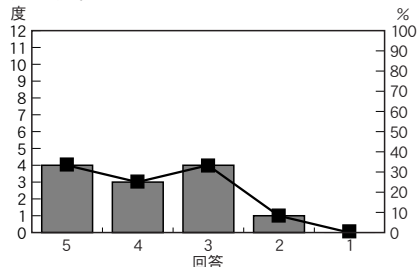
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



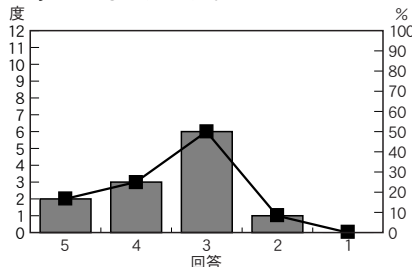
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



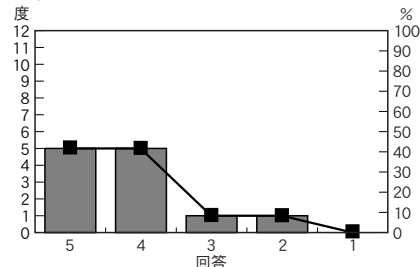
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



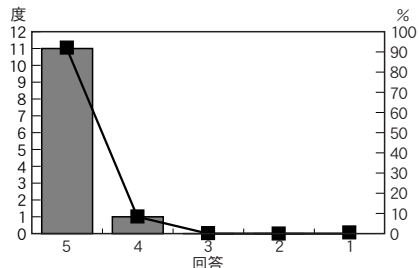
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



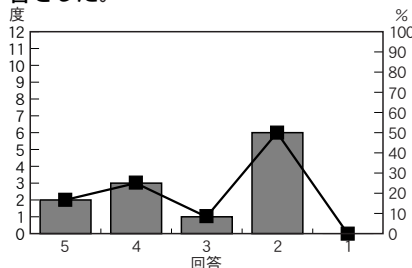
項目分析：(7)

授業によく出席した。



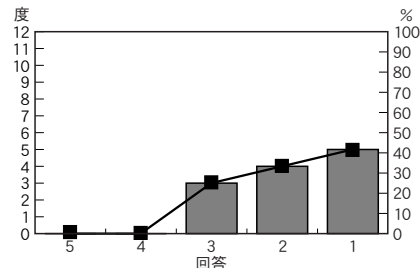
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



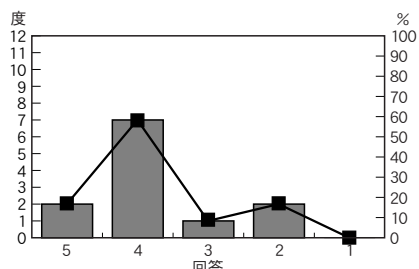
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



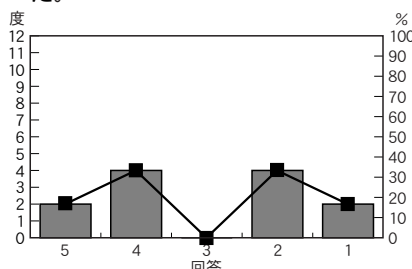
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



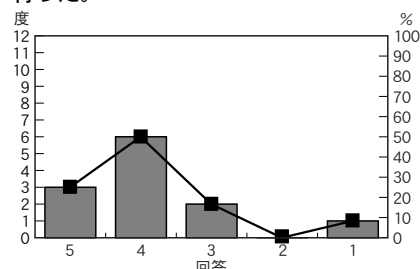
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



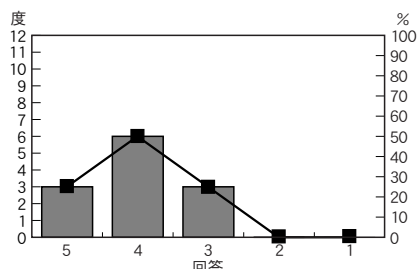
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



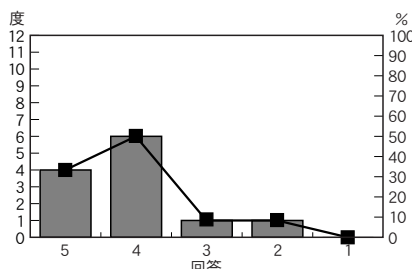
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



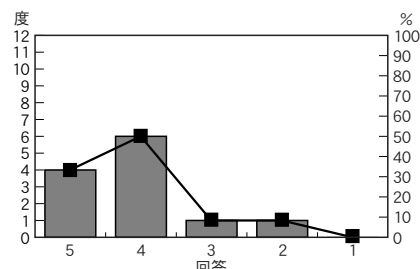
項目分析：(14)

熱心に指導した。

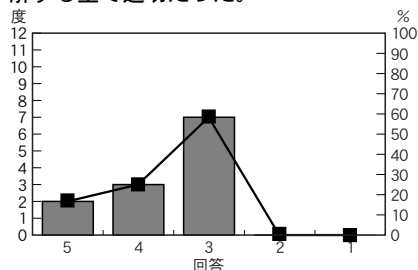


項目分析：(15)

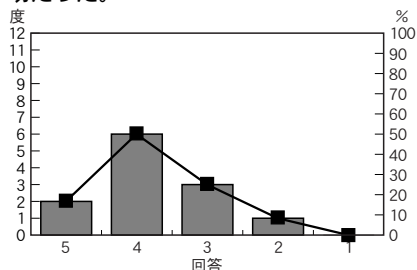
授業内容を分かりやすく説明した。



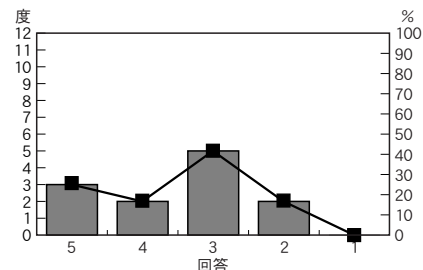
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



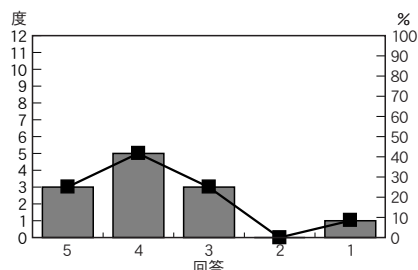
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



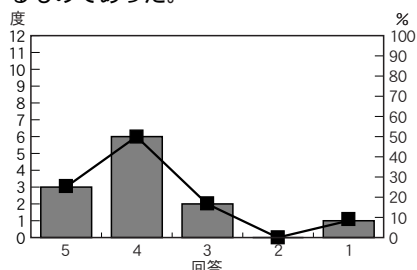
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

1. 授業概要について

約75%の学生が4以上の評価をしている。80%以上となるよう努力したい。

2. 授業の内容について

興味・関心度は約84%の学生が4以上の評価をしているが、教育に対する見方や考え方を学べる評価は41%と低く、次年度は、工夫が必要である。

3. あなたの授業への取り組みについて

出席率は約92%が4以上と高く、話をよく聞いたに関しては、74%が4以上の評価をしていた。学生自身の予習・復習・理解のための調査などに関しては、4以上の評価は41～49%と低くあまり勉強していないことを示し、特に学生の授業に対する積極性に関する4以上の評価は0%と非常に低かった。次年度はこれらの項目に関して工夫が必要である。

4. 教員の授業の進め方について

約70%の学生が4以上の評価をしている。80%以上となるよう努力したい。

5. 授業に対する満足度

約75%の学生が4以上の評価をしている。80%以上となるよう努力したい。

授業科目名：「中等理科（化学分野）」

評価実施日：平成 19 年 3 月 1 日

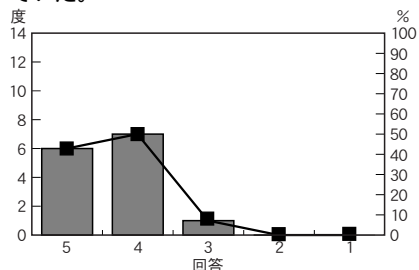
担当教員名：武田 清

(有効な合計 14)

■ 度 ■ %

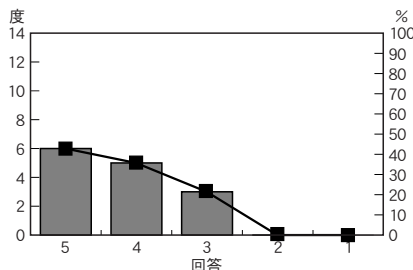
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



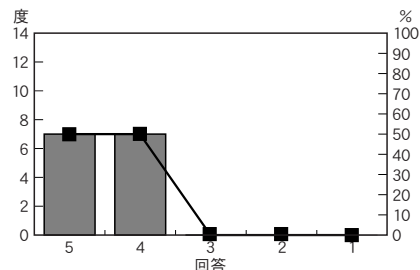
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



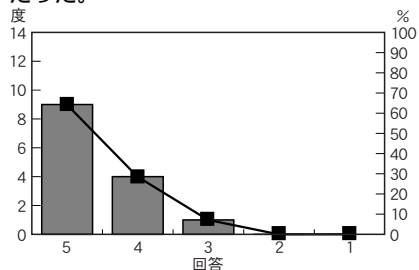
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



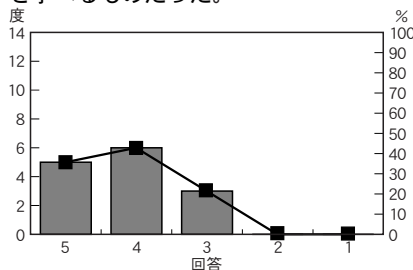
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



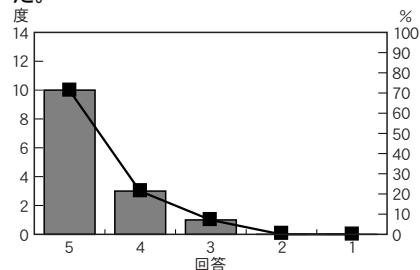
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



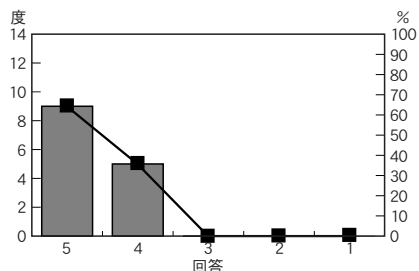
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



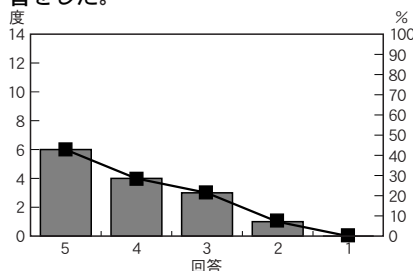
項目分析：(7)

授業によく出席した。



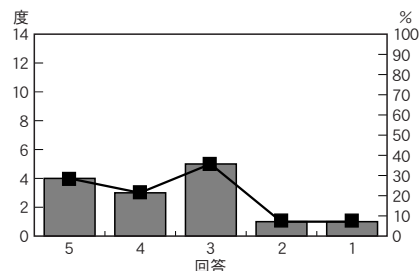
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



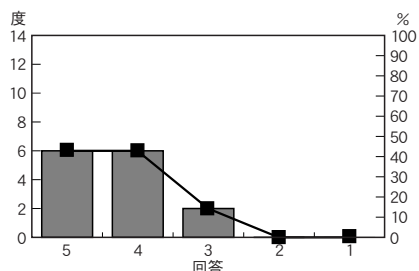
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



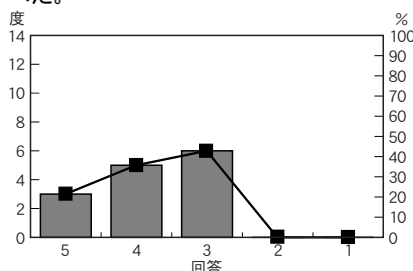
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



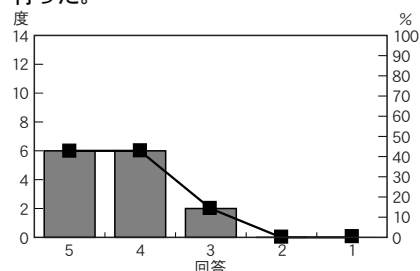
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



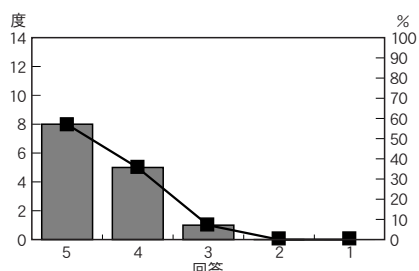
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



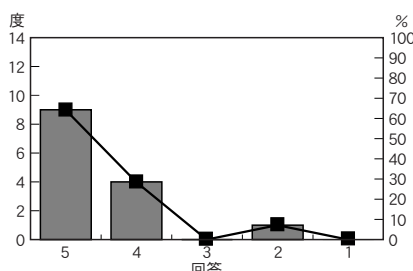
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



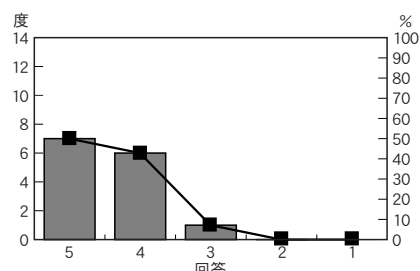
項目分析：(14)

熱心に指導した。

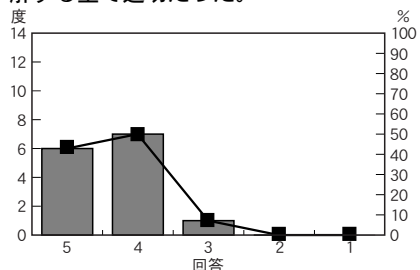


項目分析：(15)

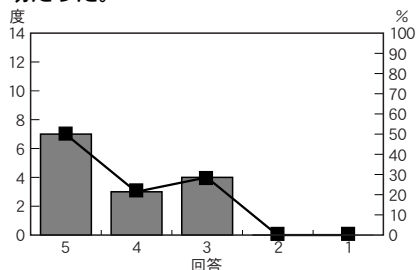
授業内容を分かりやすく説明した。



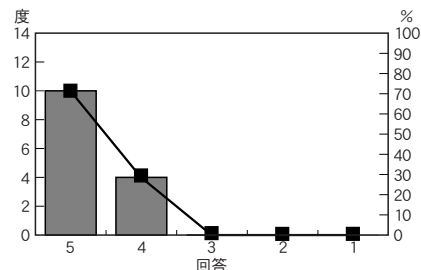
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



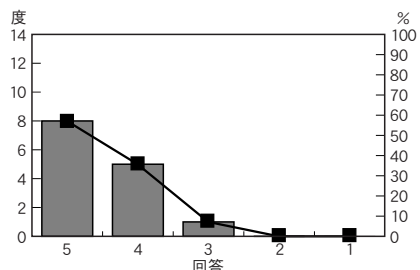
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



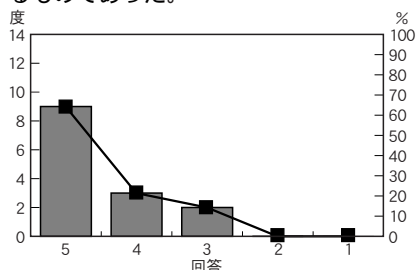
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本科目は1年次後期の専門科目である。また、大学の授業を評価するのになれていない可能性もあるが、授業内容・方法についてはおおむね良い評価を受けている。視聴覚機器はほとんど使用していないので、質問17の回答にばらつきがある。また、専門科目の常として、項目5の評価がややばらつきがある。授業では、中学校レベルの知識からスタートして大学低学年レベルの内容へと導くよう留意しており、学校教育の内容との関わりもよくわかるようには説明していることが伝わりにくいのかもかもしれない。私見であるが、本学の学生にとって、教科の専門科目では、扱う内容と教育との関わりがあまりにも自明であって、それが教育そのものに対する見方や考え方に結びつくことに却って気がつかないのではないかと考える。

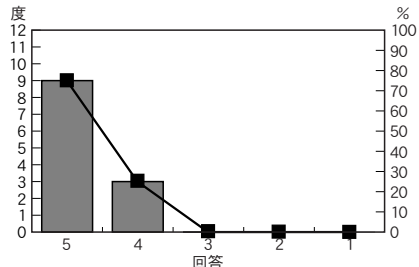
自由記述では、毎行った演示実験に興味を感じたとの記述が数件あった。演示実験を入れることにより興味喚起を図るという目的をある程度達成したものと思われる。一方、少数ながら、話す速度が速すぎるとの指摘もあった。予定の内容をこなすためにしばしば早口になることは自覚しているので、この要望に応えることができるとすれば、内容を精選する以外にないであろう。次年度への検討課題である。

授業科目名：「化学実験Ⅱ」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日
 担当教員名：今倉 康宏

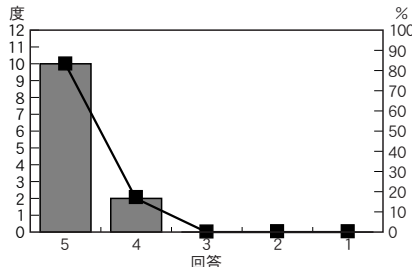
(有効な合計12)

■ 度 ■ %

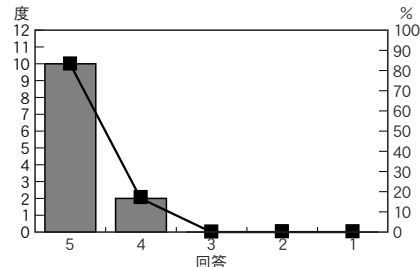
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



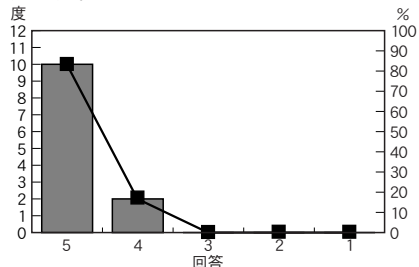
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



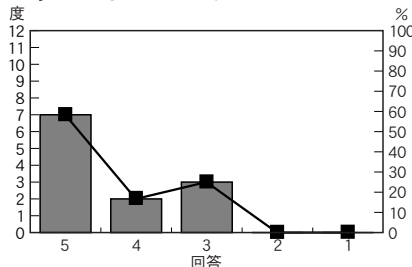
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



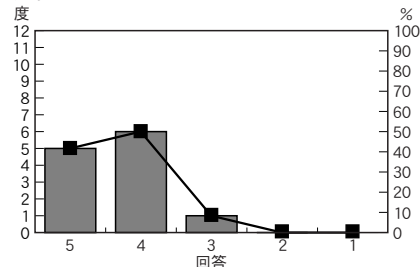
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



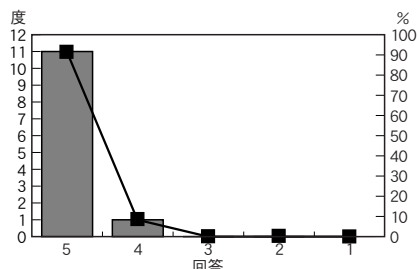
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



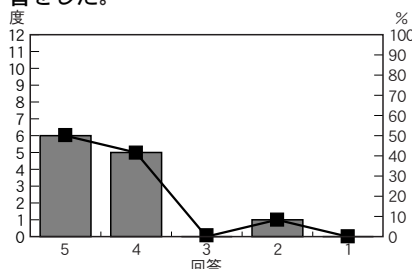
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



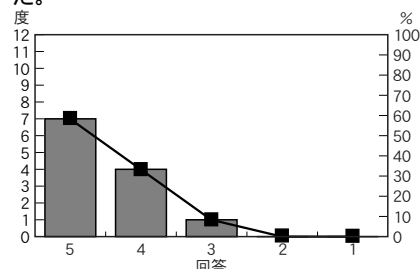
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



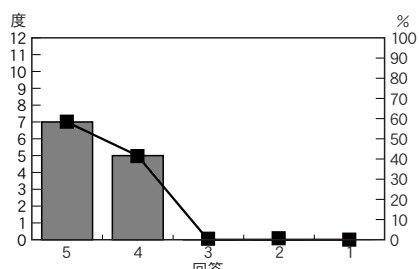
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



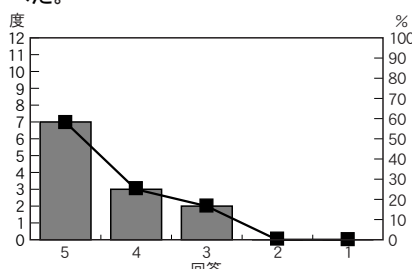
項目分析：(9)
 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



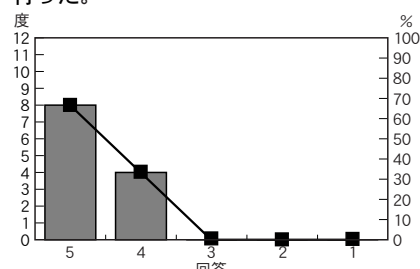
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



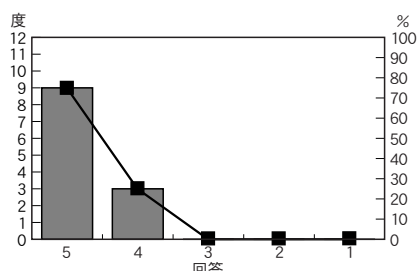
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



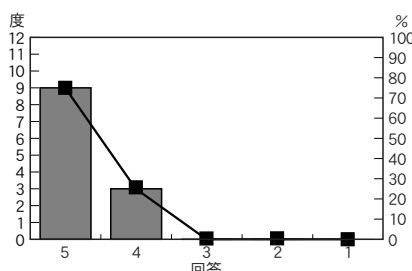
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



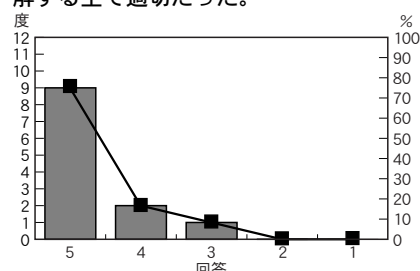
項目分析：(13)
 熱心に指導した。



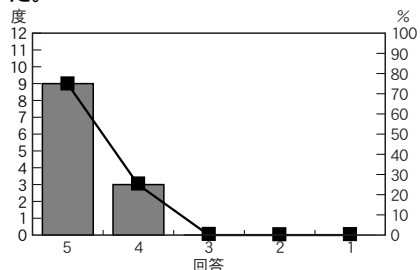
項目分析：(14)
 授業内容を分かりやすく説明した。



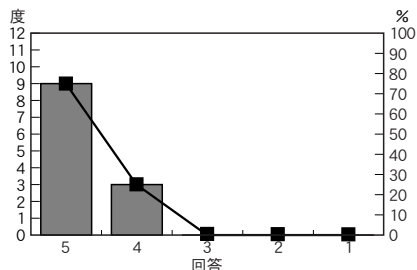
項目分析：(15)
 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



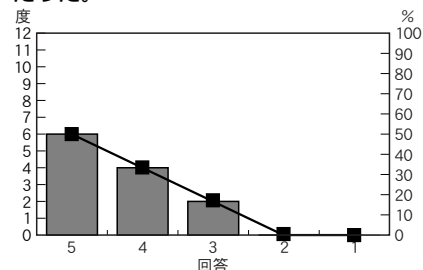
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



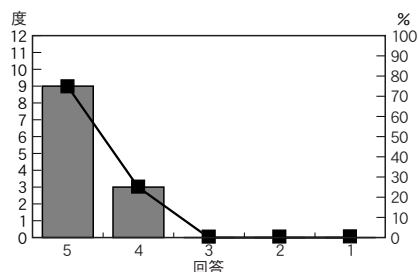
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



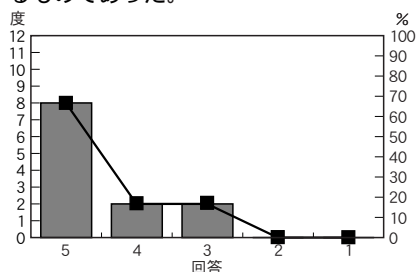
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

殆どの学生が本実習への満足度に関する項目 5, 6, 20 を高く評価し、「とても専門的な知識が身についた」「レポートの書き方を見直す事ができた」「実験手順などを丁寧にわかりやすく説明してくれた」という学生の感想から全体として本実習の好意的な評価を受けている。

最後には集団面接を実施し、学生の実習内容に関する理解度を確認すると共に、実習への積極的に取り組む要因になり、項目 4, 9, 12 が高評価に繋がったと考えられる。

実習の取り組みに関する項目 8, 11 では、予習・復習や事後の課題解決に対する学生の自主性や意識は高いものの、実習後に実施した有機化合物の酸化還元の確認テストにおける正答率は約 50% と低く、実習の理解度を向上させる実験毎のテストの導入など実習形態の充実が今後の課題として挙げられる。

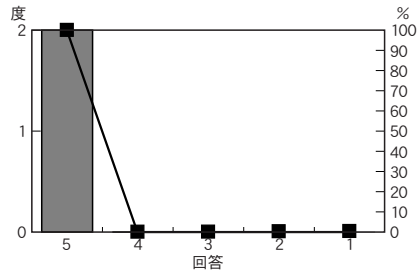
今後も学生の化学（有機・無機）に関する強い興味・関心の持てる実習形態を充実させていきたいと考えている。

授業科目名：「生物学Ⅲ」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日
 担当教員名：清水 宏次

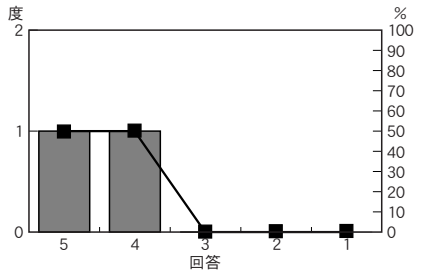
(有効な合計 2)

■ 度 ■ %

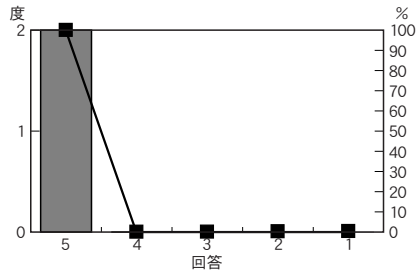
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



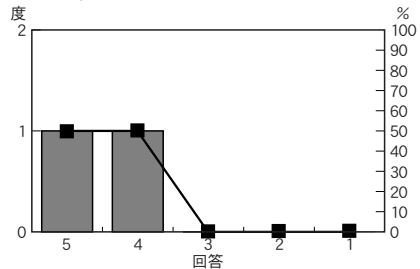
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



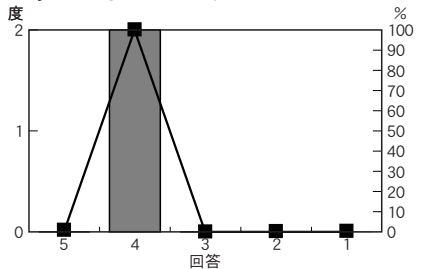
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



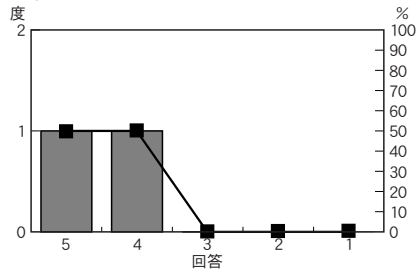
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



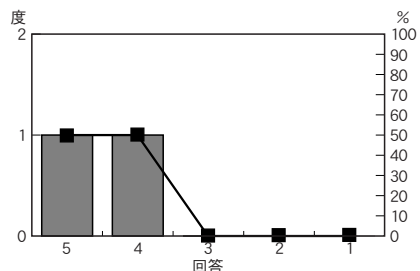
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



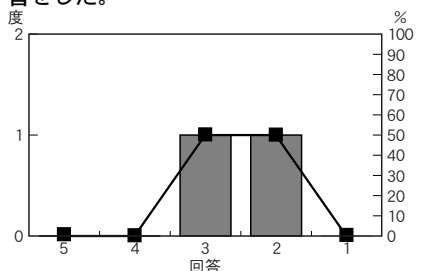
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



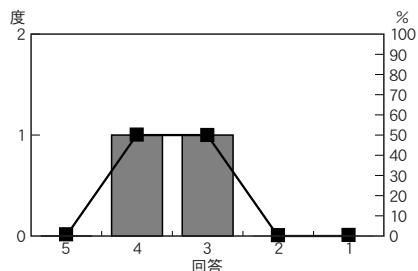
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



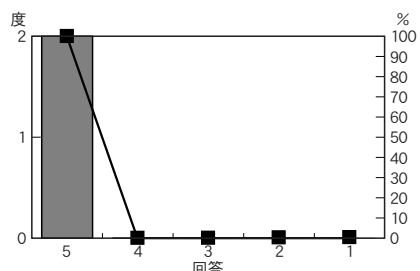
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



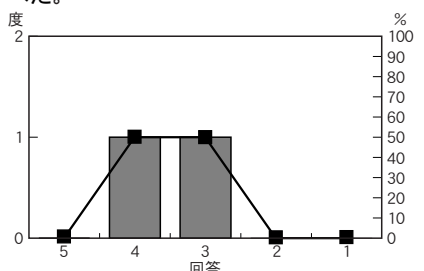
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



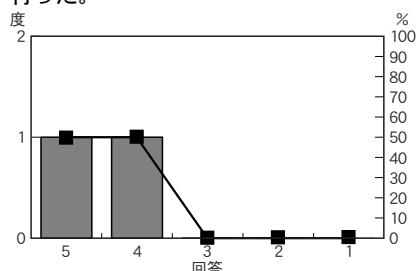
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



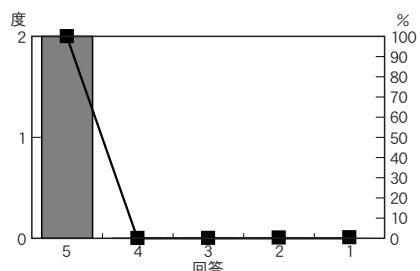
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



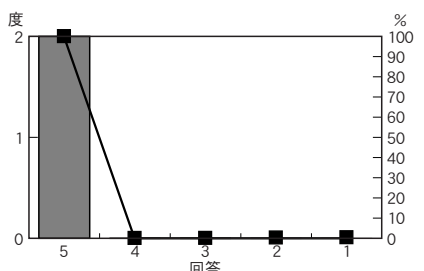
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



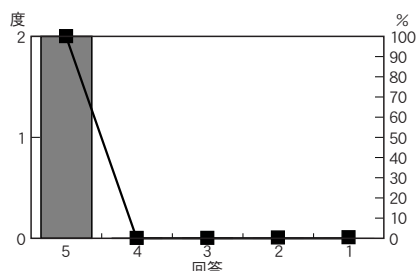
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



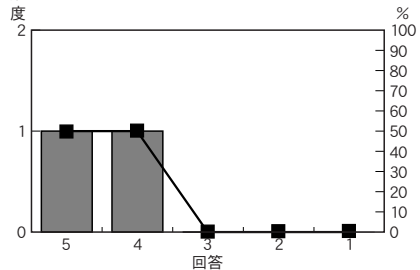
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



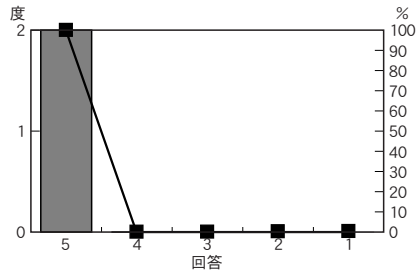
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



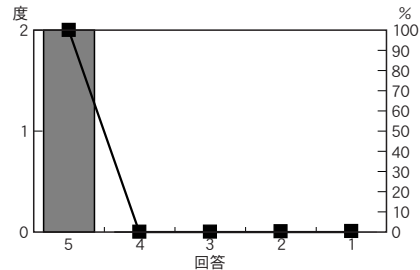
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



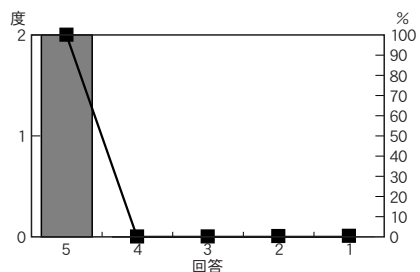
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



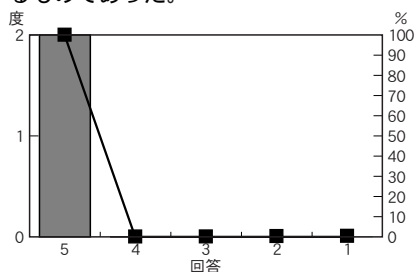
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

受講者2名はいずれも長期履修による修士課程1年生で生物学の基礎を学習していない者であったが、理解力はかなり良い方で授業について来れたと思う。ただし、単位修得のために忙しかったようで、とても「生物学Ⅲ」の予習復習に時間を割けなかったようである。そのために、残念ながら授業で見聞きしたものを超えてより生物学に取り組むことは出来なかったと思う。

授業科目名：「地学の基礎」

評価実施日：平成 18 年 8 月 7 日

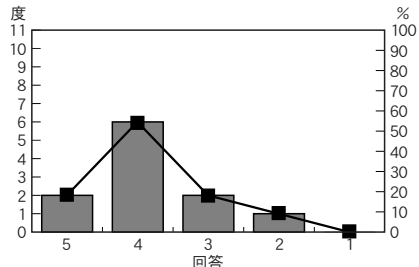
担当教員名：村田 守，西村 宏

(有効な合計11)

■ 度 ■ %

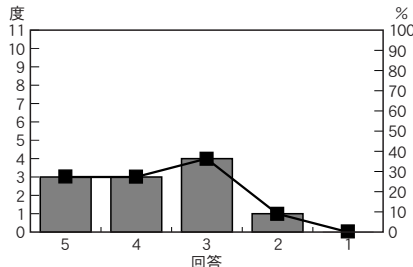
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



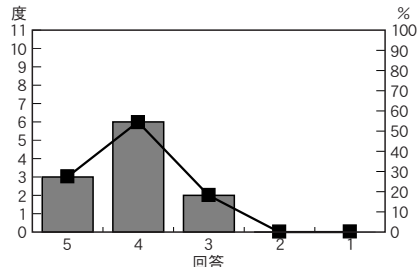
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



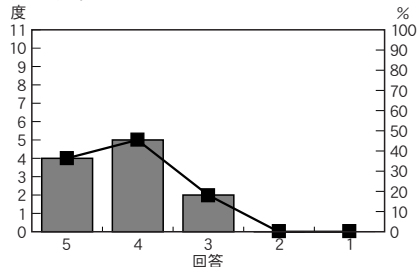
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



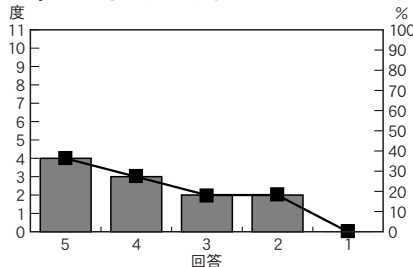
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



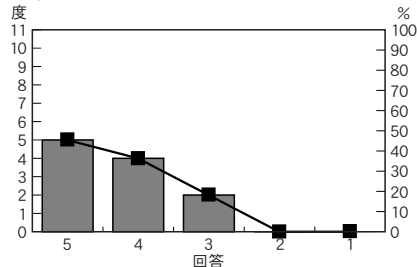
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



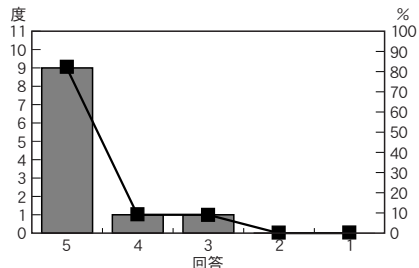
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



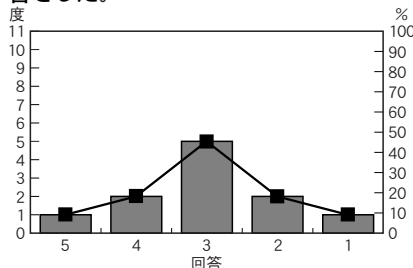
項目分析：(7)

授業によく出席した。



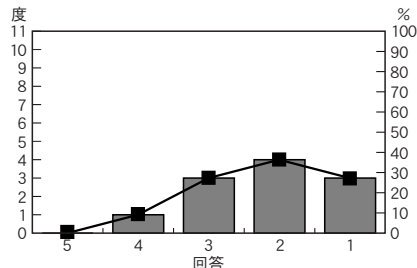
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



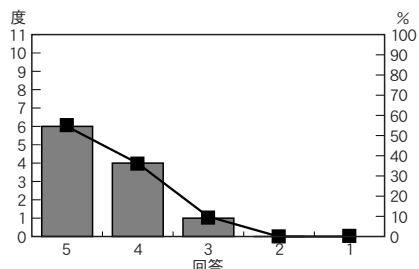
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



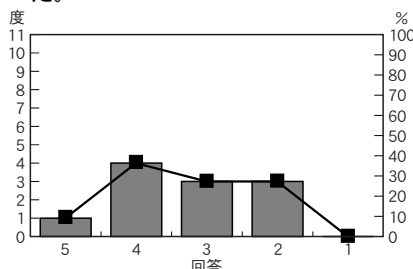
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



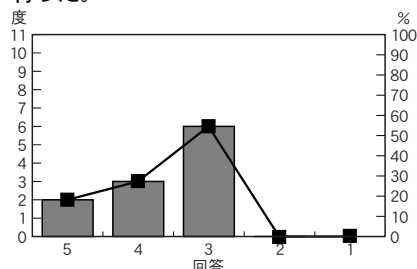
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



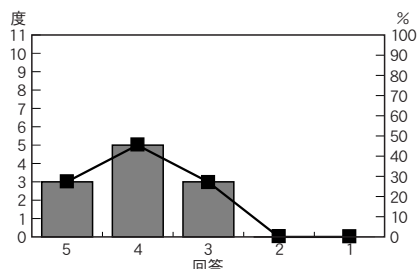
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



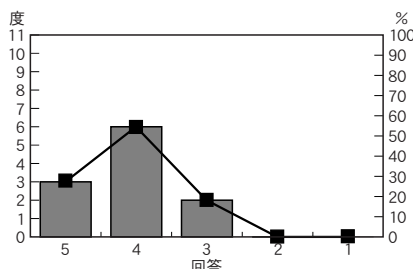
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



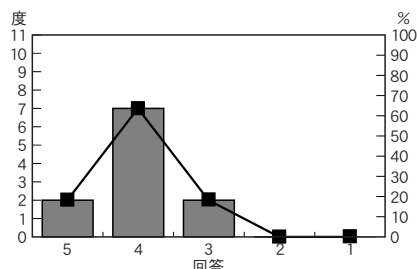
項目分析：(14)

熱心に指導した。

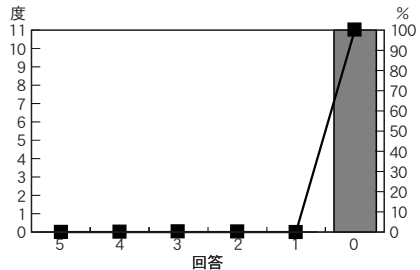


項目分析：(15)

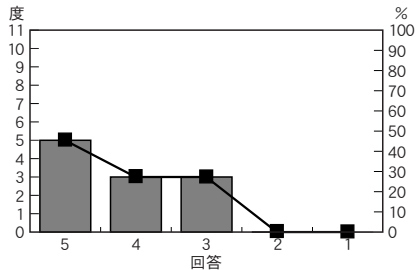
授業内容を分かりやすく説明した。



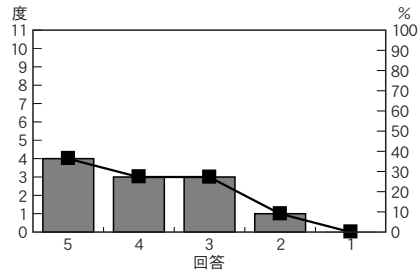
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



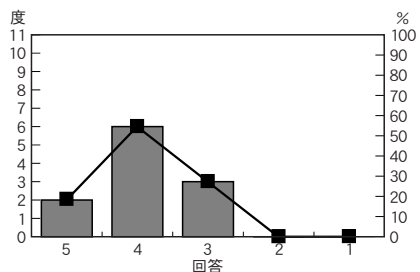
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



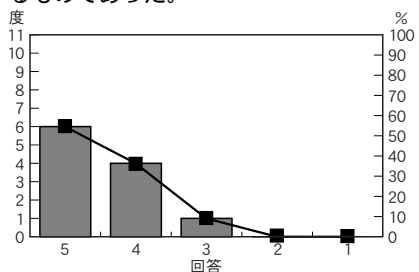
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

受講生（11名）より、以下の評価を得た。当初の目的は達成されているようである。

- “地学”を理解できた。
- 写真・図を多く用いていた。
- 地学に対する興味や関心が湧いてきた。丁寧に教えてくれて分かりやすかった。
- 写真を見せた。資料をうまくつかい、プレゼンした。
- 良かったことは、大陸について知ることができたこと。
- 出席も評価に入れてほしい。
- 話の流れを知る事ができ、将来につなげられる授業だったと思う。
- できれば、もう少し他の所も聞きたかった。（天体や天気など）
- 基本的なことがらだったので分かりやすかった。
- 地学に対する考え方が変わった。とても興味がわいて、自分でも、もっと調べたいと思うようになった。
- テーマが明確で、教養が高まったことが実感できる。

授業科目名：「中等理科（地学分野）」

評価実施日：平成 19 年 2 月 19 日

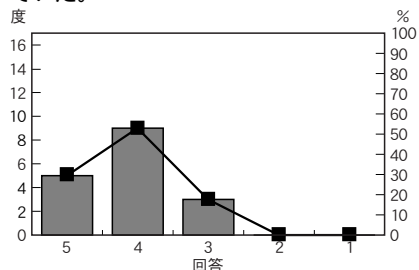
担当教員名：西村 宏，村田 守

(有効な合計17)

■ 度 ■ %

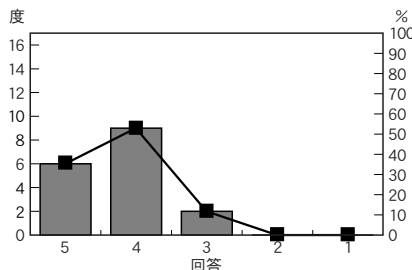
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



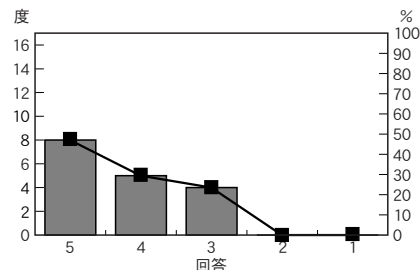
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



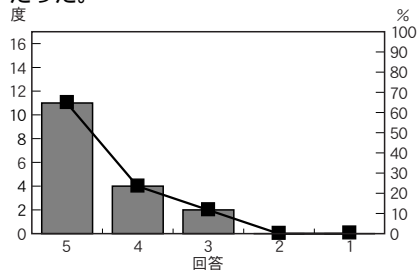
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



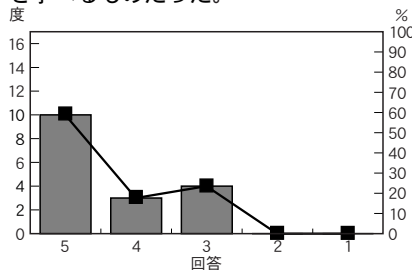
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



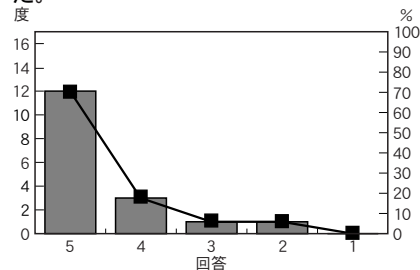
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



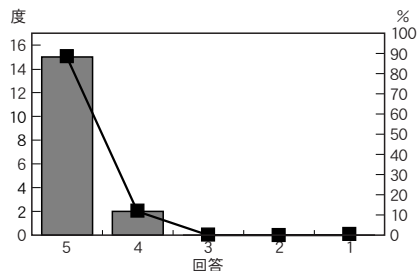
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



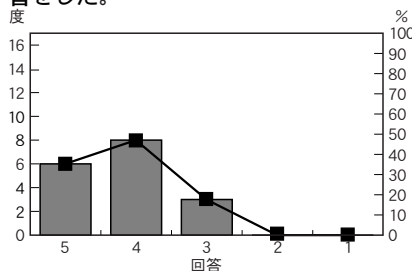
項目分析：(7)

授業によく出席した。



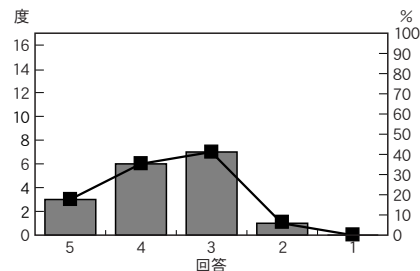
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



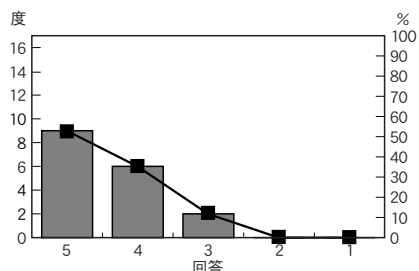
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



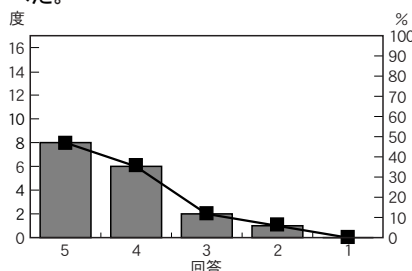
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



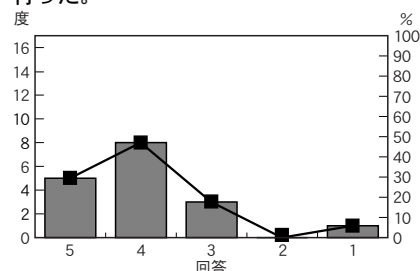
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



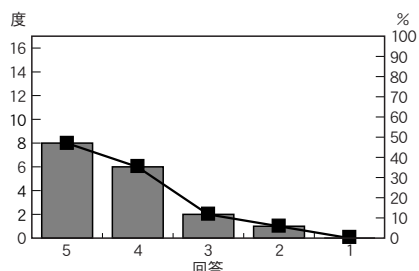
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



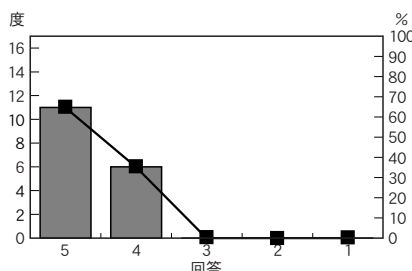
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



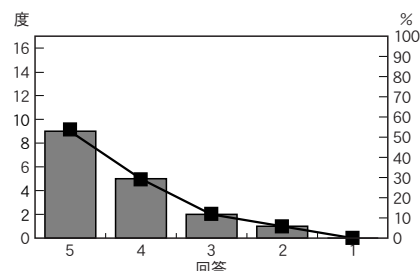
項目分析：(14)

熱心に指導した。

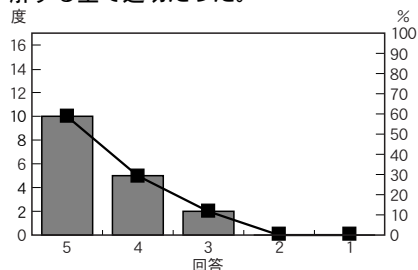


項目分析：(15)

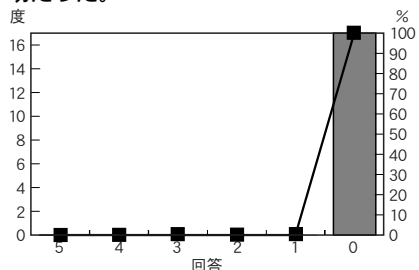
授業内容を分かりやすく説明した。



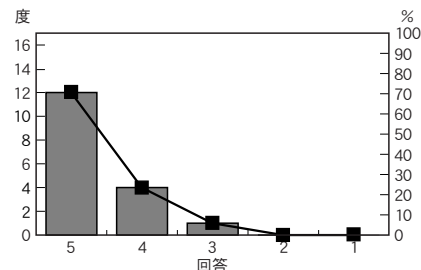
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



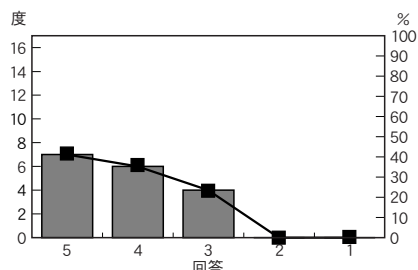
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



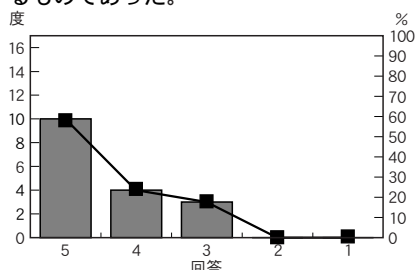
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

学部1年次生用で、後期後半0.5学期1単位の講義として位置づけられた授業である。2単位授業とは異なり、十分な時間をとることはできないが、短期集中型で、教員となるために必要不可欠と思われる天文分野に関する基礎知識の修得を促す内容と、将来の卒業研究などに役立たせるため英文の教科書抜粋を用いて英文に慣れさせる内容の2本立て授業とした。項目ごとの評価は概ね5および4であったが、学生自身の態度に関する項目(9)授業中積極的な発言をしたかどうかという内容については、メジアンが3であり、授業時間中に問題提起の発言ができるほどの理解に達していないことを示している。また項目(12)授業者が学生の理解状況を確認しながら授業をしたかどうかでは、モードが4であり、項目(9)とは表裏一体的内容で、評価もこれを反映している。1単位という短期間での授業であるために、内容をこなすことに意識が向きすぎて、学生の理解度把握が無意識のうちにややおろそかになったことによると思われる。今後この点での改善が必要であると感じた。

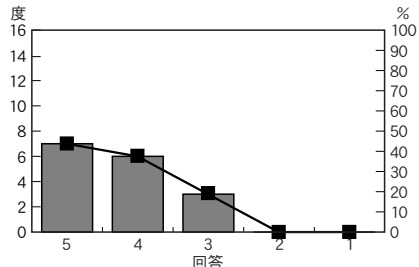
しかし、自由記述の意見として「教員になる際に必要な知識を丁寧に説明してくれた。」「とても分かりやすかった。」「説明が詳細で専門的且つ実用的な内容だった。」「採用試験を意識した内容で非常に勉強になった。」「地学に興味を持った。」などが見られ、所期の目標は十分に達成できたものと思われる。

授業科目名：「地学実験Ⅱ」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 1 日
 担当教員名：小澤 大成

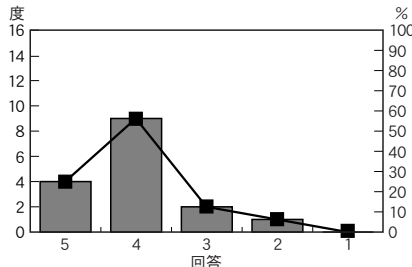
(有効な合計16)

■ 度 ■ %

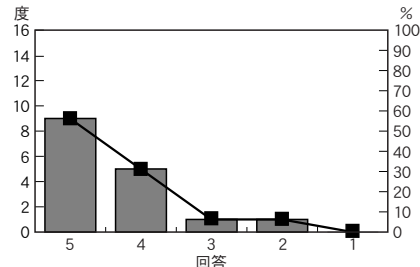
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



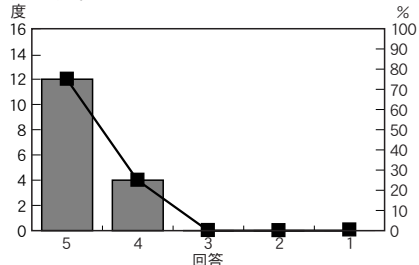
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



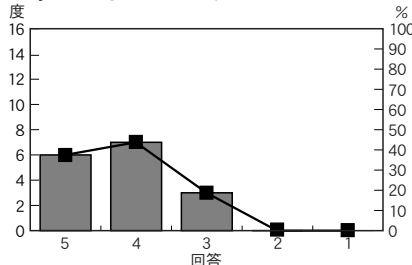
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



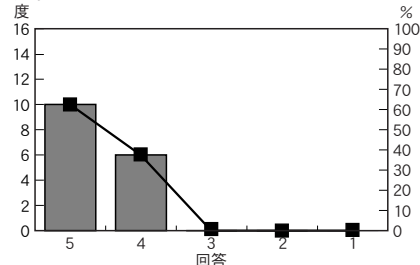
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



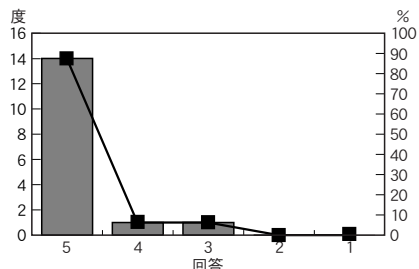
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



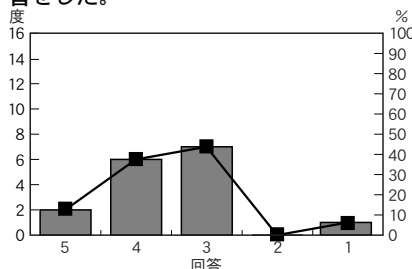
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



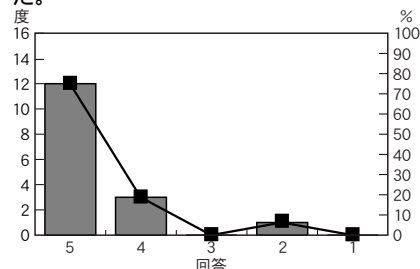
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



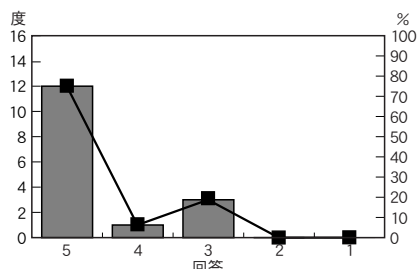
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



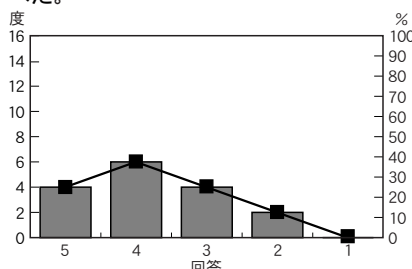
項目分析：(9)
 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



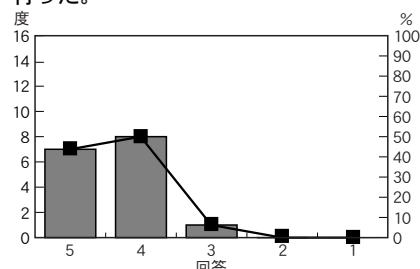
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



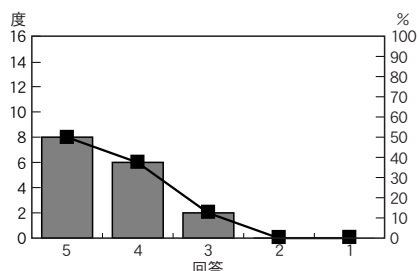
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



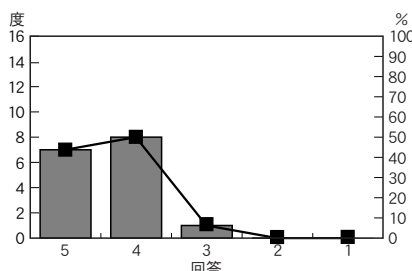
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



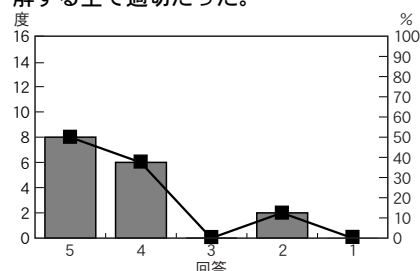
項目分析：(13)
 熱心に指導した。



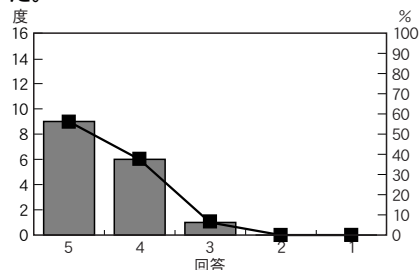
項目分析：(14)
 授業内容を分かりやすく説明した。



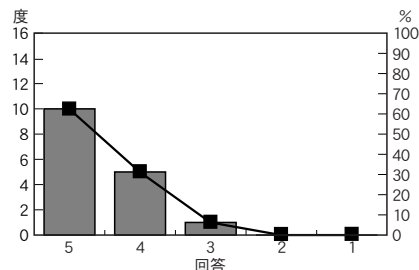
項目分析：(15)
 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



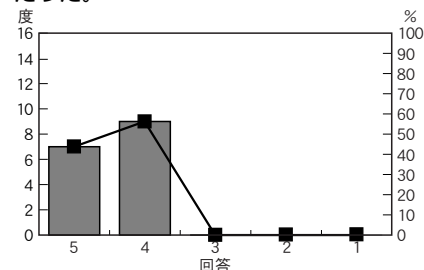
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



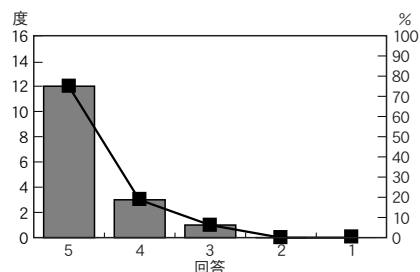
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



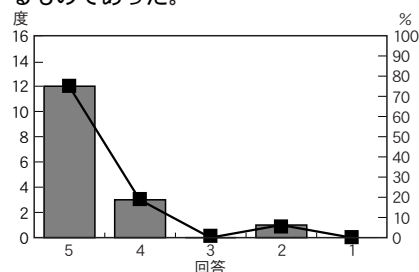
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

(1)～(3)の授業概要については平均4以上の評価が与えられている。実際の授業内容についての項目である(4)～(6)では(5)を除き、平均4.5以上の評価が与えられ、(5)の教育に対する見方・考え方に関しても平均4以上の評価であった。授業に対する取り組みでは、授業時間中の熱心さに対して平均4.5以上の高い評価をつけているのに対し、予習復習や自ら調べるといった時間外の活動が若干低く平均3.5～3.75であった。教員の授業の進め方についての項目(12)～(19)は平均4以上の評価が与えられている。そして授業に対する満足度は平均4.6と高く、おおむね授業に満足していることがわかる。

個別コメントとして、授業の良かった点では「今まで習うことがあまりなかった地学に触れた」「教員が丁寧に説明した」「実際に観察する体験が多いこと」等を、改善してほしい点として「教員に常についてもらって指導を受けたい」「スケッチの量を減らしてほしい」というコメントがあった。

時間外の活動についてあまり行っていない印象を持っているようなので、課題を与えるなど、学習を促進する手立てをとるようにしたい。安全上問題がない場合は学生の自主性を重んじて観察などを任せているが、より親身な指導を心がけていきたい。

授業科目名：「声楽基礎Ⅱ」

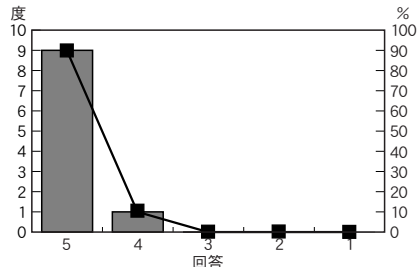
評価実施日：平成 18 年 7 月 25 日

担当教員名：草下 實，頃安 利秀

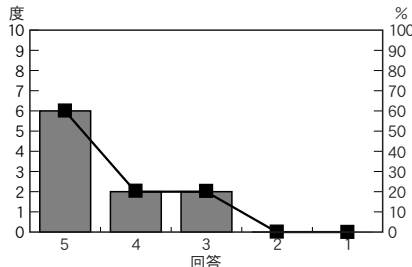
(有効な合計10)

■ 度 ■ %

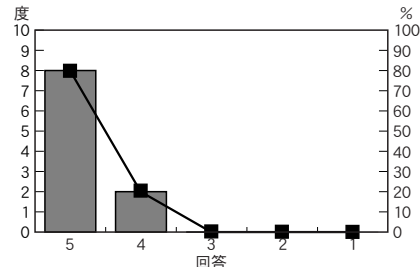
項目分析：(1)
目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



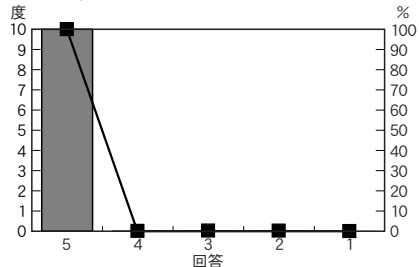
項目分析：(2)
成績評価の方法は、明確に示されていた。



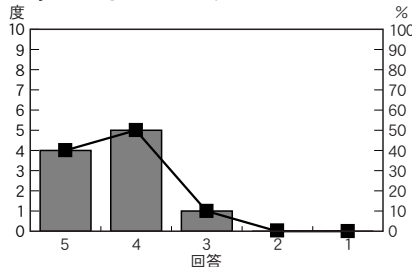
項目分析：(3)
授業内容は、授業概要に沿っていた。



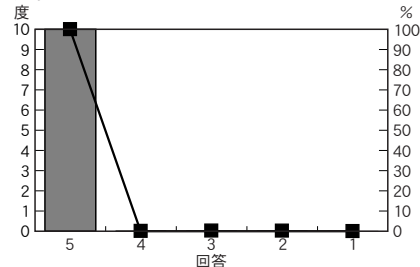
項目分析：(4)
授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



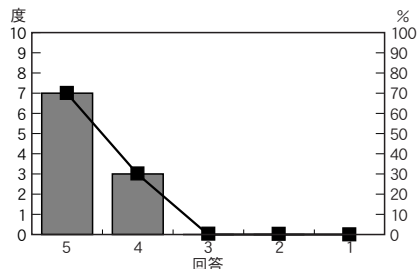
項目分析：(5)
授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



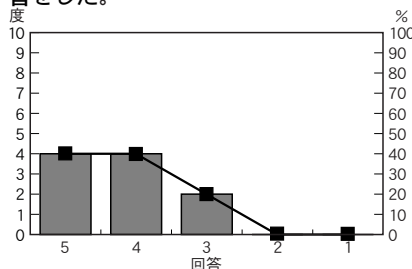
項目分析：(6)
授業内容は、興味・関心を引くものだった。



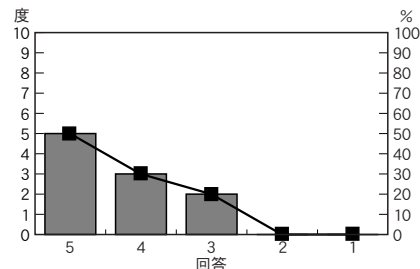
項目分析：(7)
授業によく出席した。



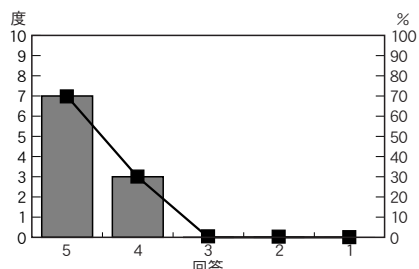
項目分析：(8)
授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



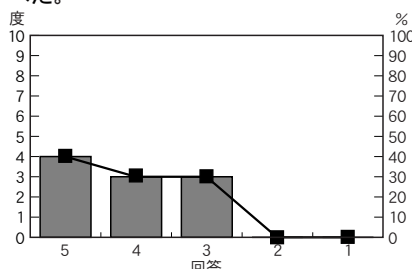
項目分析：(9)
授業中に積極的に発言や質問をした。



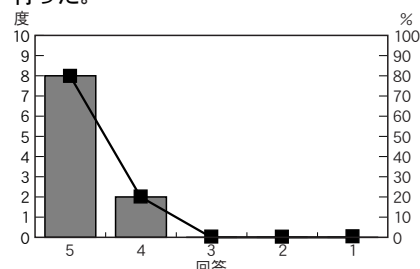
項目分析：(10)
積極的に課題に取り組んだ。



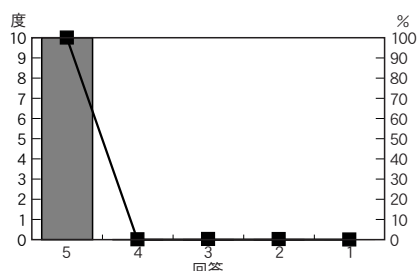
項目分析：(11)
分からないことや疑問に思ったことは調べた。



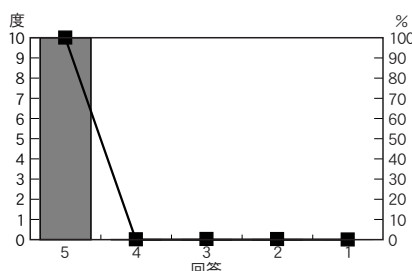
項目分析：(12)
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



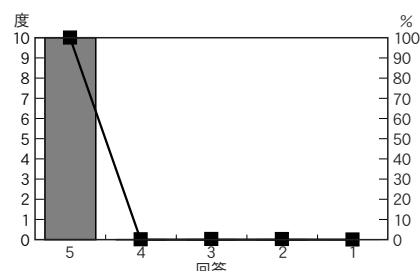
項目分析：(13)
学生参加型の授業だった。



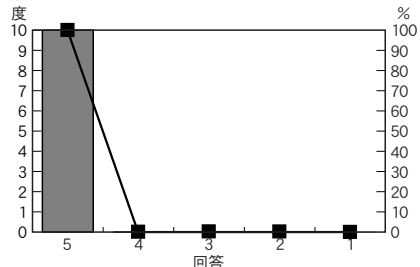
項目分析：(14)
熱心に指導した。



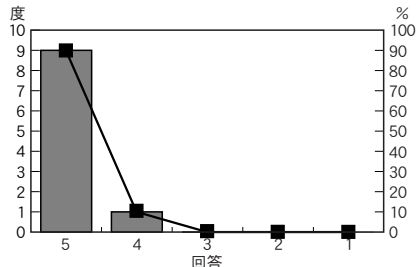
項目分析：(15)
授業内容を分かりやすく説明した。



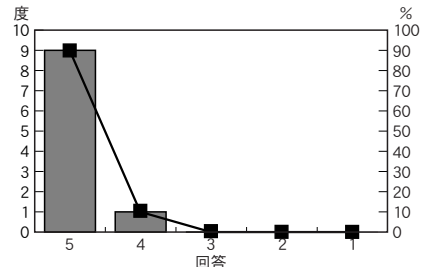
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



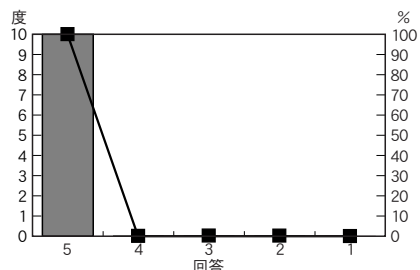
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



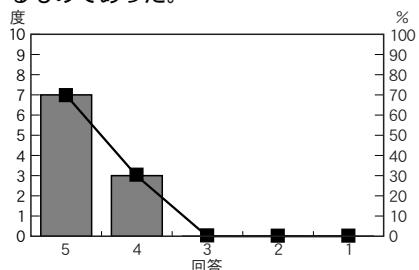
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

1. 授業概要について：成績評価についてはシラバスにより周知している。
2. 授業の内容等について：「教育に対する見方や考え方を学べるものだった」という点について、やや満足度が他に比べて低くなっているが、この授業では実技指導が中心になっており、子どもへの歌唱指導が十分にできる力の育成をねらいとしている。
3. あなたの授業への取り組みについて：予習や復習、また授業中の発言や質問などが十分なされていなかったようである。実技ということで、学生が授業に対して受動的になっていた面が大きい。
4. 教員の授業の進め方について：授業の進め方については、概ね満足されていたものと認められる。
5. 授業に対する満足度：授業の進め方に対する満足度に比べ若干低くなっているが、受講生自身の取り組み方に、もう少し積極性が必要ではないのだろうか。

授業科目名：「ピアノ基礎Ⅱ」

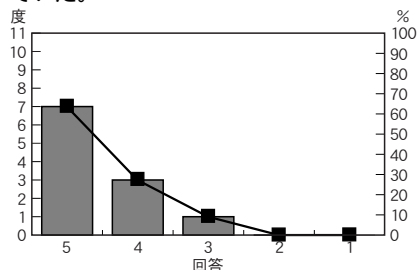
評価実施日：平成18年7月20日

担当教員名：村澤 由利子，森 正

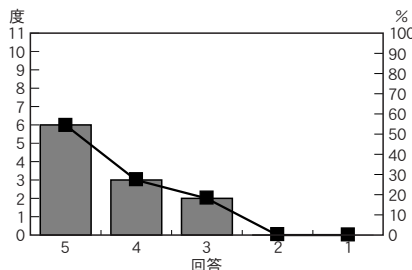
(有効な合計11)

■ 度 ■ %

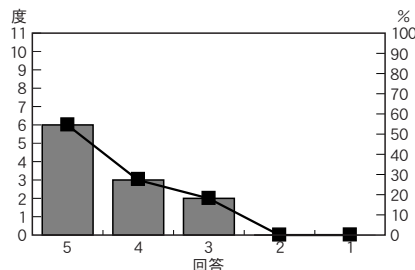
項目分析：(1)
目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



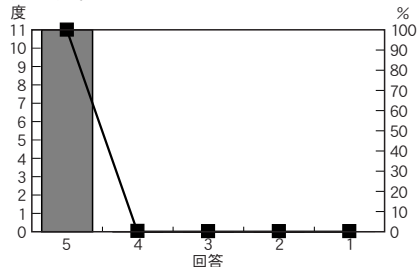
項目分析：(2)
成績評価の方法は、明確に示されていた。



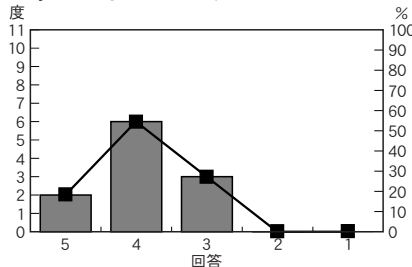
項目分析：(3)
授業内容は、授業概要に沿っていた。



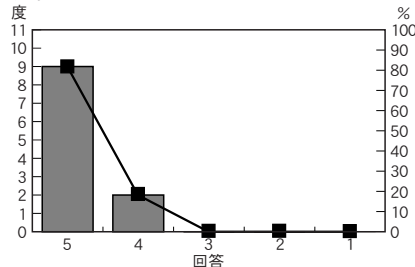
項目分析：(4)
授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



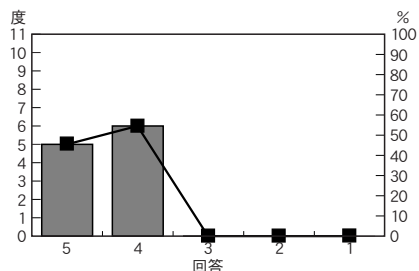
項目分析：(5)
授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



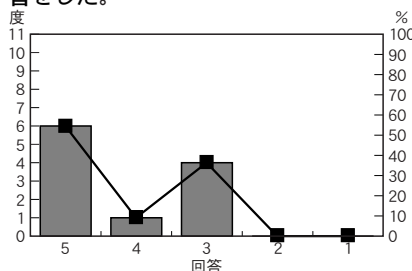
項目分析：(6)
授業内容は、興味・関心を引くものだった。



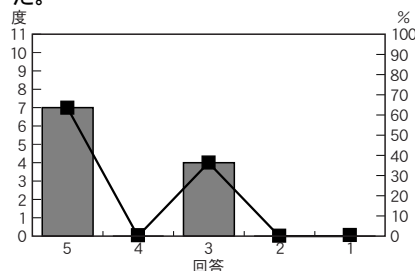
項目分析：(7)
授業によく出席した。



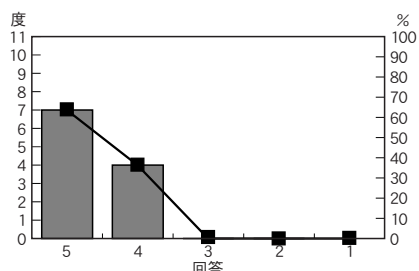
項目分析：(8)
授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



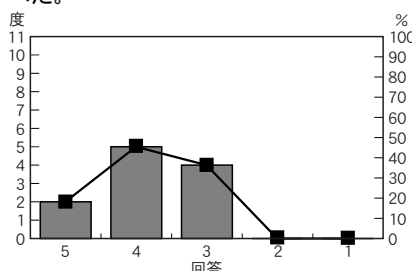
項目分析：(9)
積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



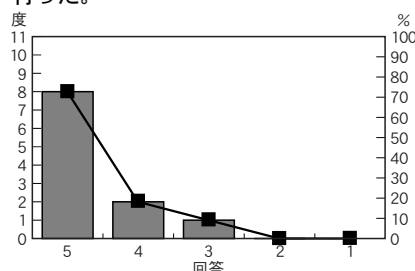
項目分析：(10)
教員の説明をよく聞いた。



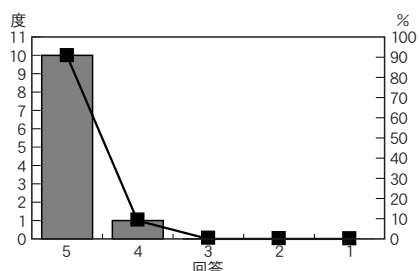
項目分析：(11)
分からないことや疑問に思ったことは調べた。



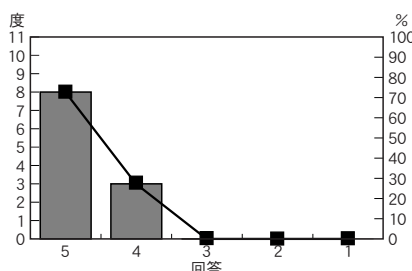
項目分析：(12)
学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



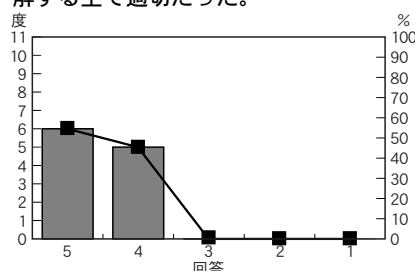
項目分析：(13)
熱心に指導した。



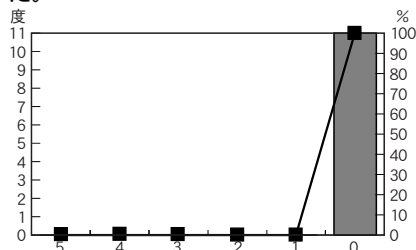
項目分析：(14)
授業内容を分かりやすく説明した。



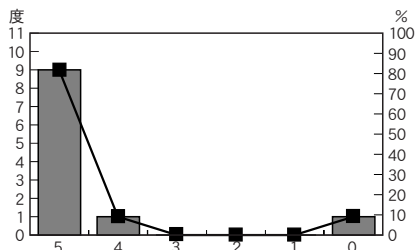
項目分析：(15)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



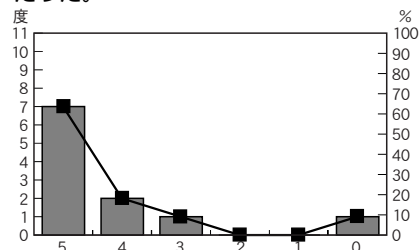
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



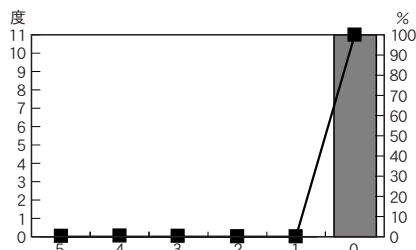
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



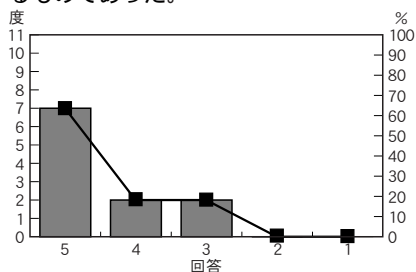
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

受講した学生からは概ね高く評価された授業であった。

個人個人の進度に応じた実技指導のため、その点を学生がどのように感じていたのかについて指導する立場から非常に興味があったが、それぞれの受講生に適した課題、進度により授業を行うことができ、成果も上がったようである。

設問9及び11から、授業に対して積極的に取り組んだかどうかについて若干消極的な回答があった。この点については我々の課題とし、練習の方法や様々な資料の使い方などについても折に触れ話をし、今後はさらに自発的な学生の研究が促せるような授業の進め方を考えていきたい。

授業科目名：「指揮法」

評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日

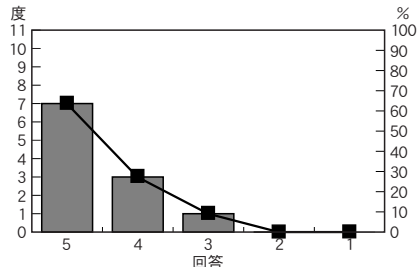
担当教員名：山田 啓明

(有効な合計11)

■ 度 ■ %

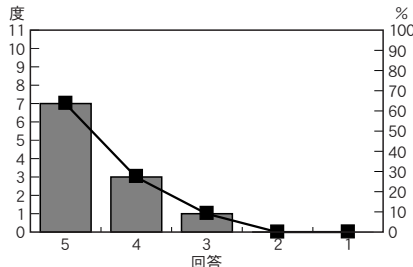
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



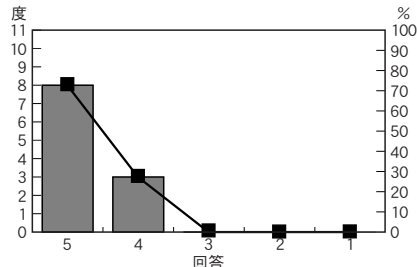
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



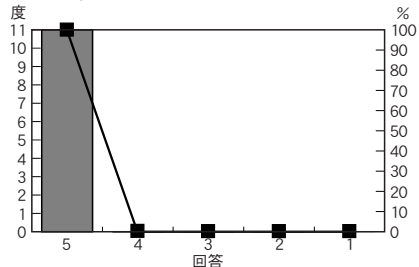
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



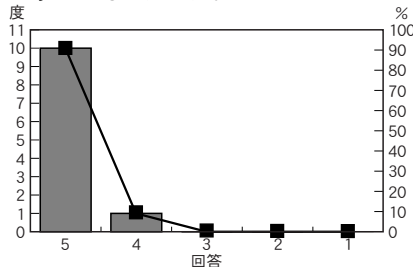
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



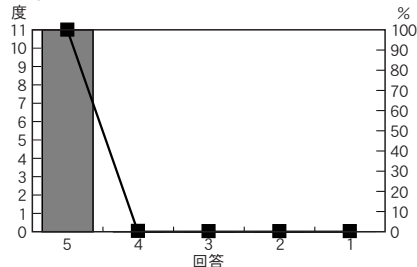
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



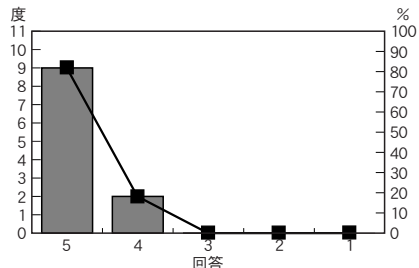
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



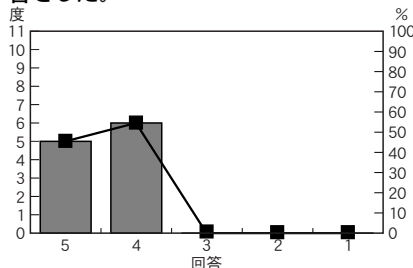
項目分析：(7)

授業によく出席した。



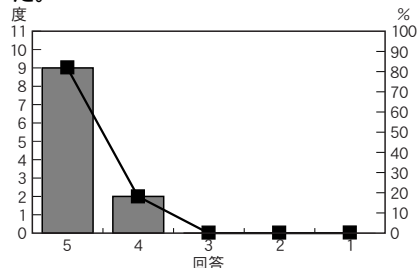
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



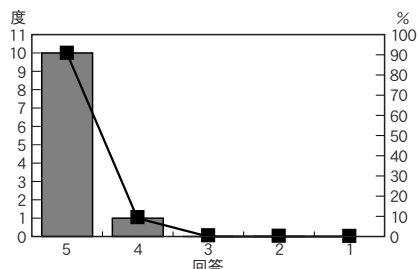
項目分析：(9)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



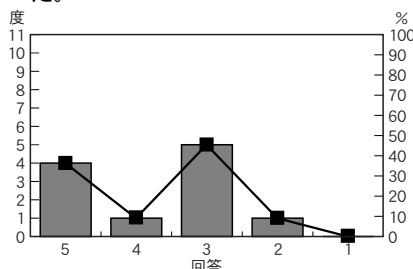
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



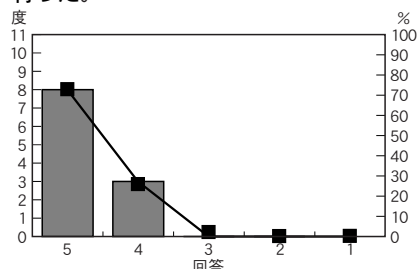
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



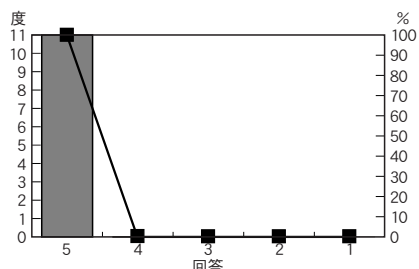
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



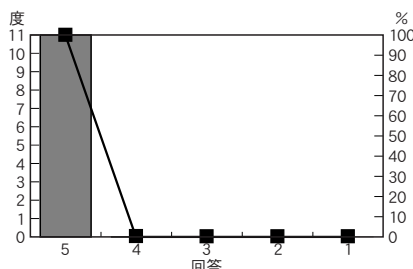
項目分析：(13)

熱心に指導した。



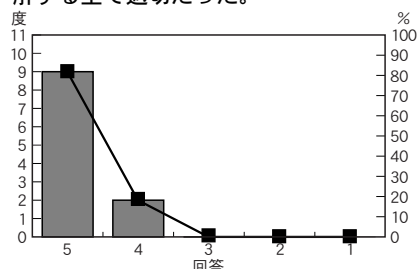
項目分析：(14)

授業内容を分かりやすく説明した。

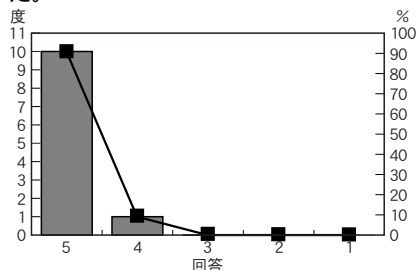


項目分析：(15)

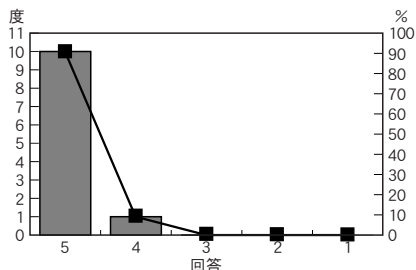
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



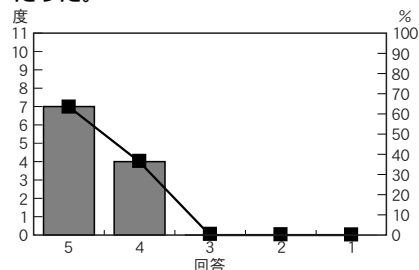
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



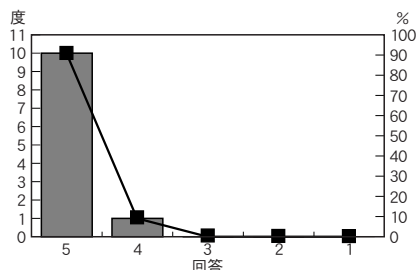
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



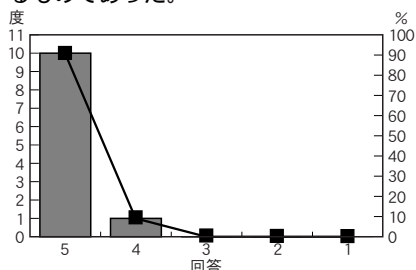
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は、指揮法という音楽における特殊な一分野を扱っている。この分野の特殊さは、純粋に指揮法=バトンテクニックに関する限り、それまでの音楽上の学習、つまりピアノが弾けるとか歌が歌えるとか、譜面が読める等といった事とは全く別の能力、それも学生が今まで使った事の無い能力をためられる、という事にある。したがって学生達は他の授業における能力の優劣とは全く関係なく授業に臨むことができ、また事実指揮をする能力は「見かけ上は」音楽的能力と無関係に発現するかに見える、つまり音楽が得意な学生が無様な指揮をすることがあるかと思えば、それまで音楽関連の授業でうだつの上からなかった学生が表面上とはいえ見事な指揮をしてみせるという事がしばしば起こる。そういった事情がこの授業に対する学生の動機付けの高さにつながっている。加えて「ソルフェージュ」や「保育内容」とは違い、授業者はこの分野の専門家である。実践の場に生じるであろう様々な tips が授業にちりばめられている事も学生の満足度の高さにつながっているであろうと考えられる。

授業科目名：「音楽の理論と歴史（作曲法・編曲法及び日本伝統音楽・諸民族音楽を含む。）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日

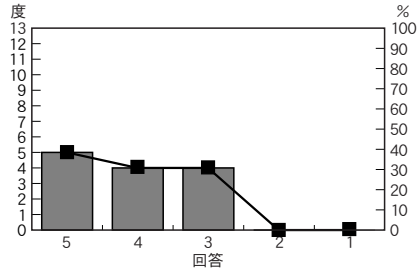
担当教員名：松岡 貴史

(有効な合計13)

■ 度 ■ %

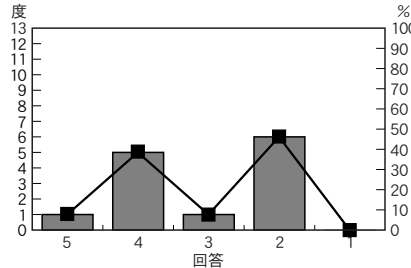
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



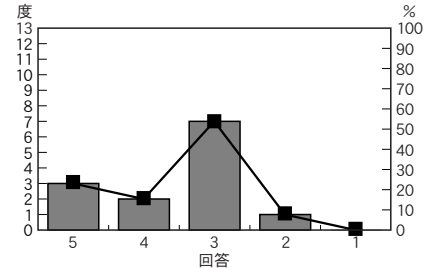
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



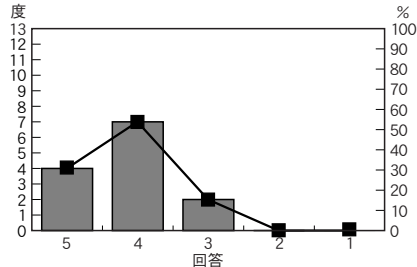
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



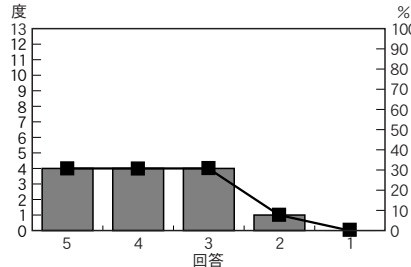
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



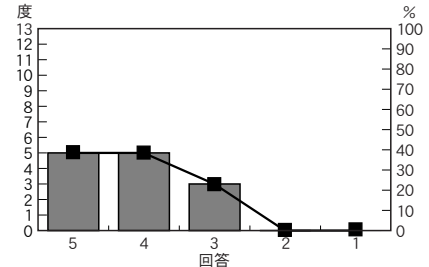
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



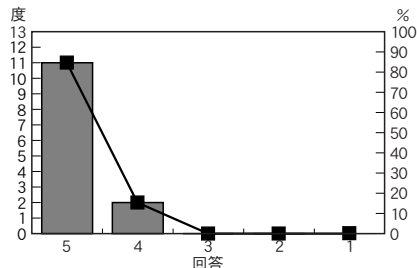
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



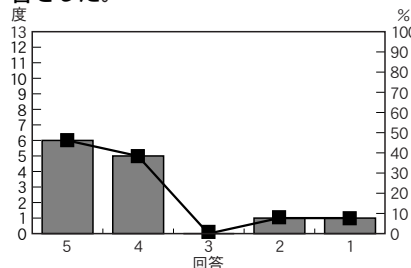
項目分析：(7)

授業によく出席した。



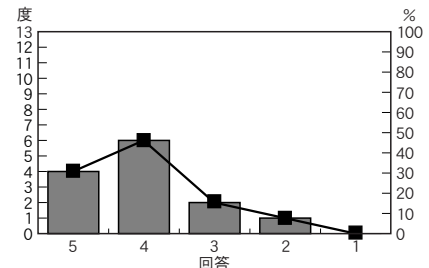
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



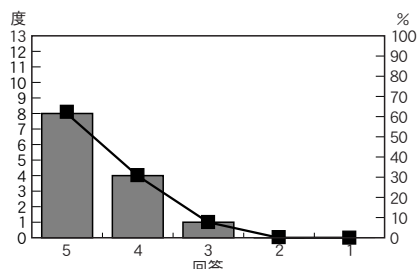
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



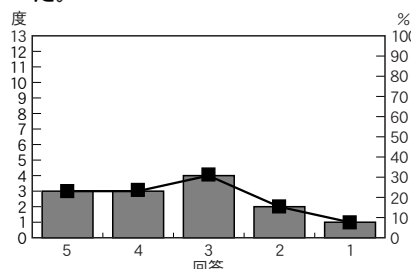
項目分析：(10)

積極的に課題に取り組んだ。



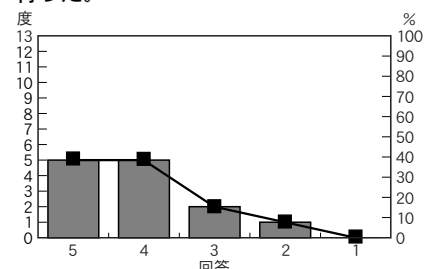
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



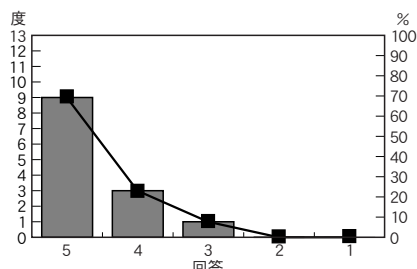
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



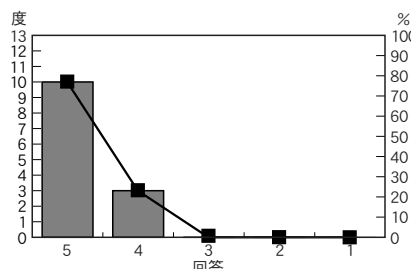
項目分析：(13)

学生参加型の授業だった。



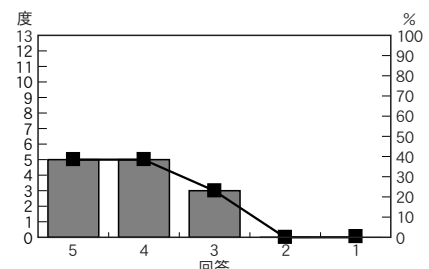
項目分析：(14)

熱心に指導した。

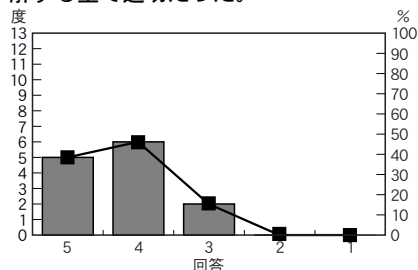


項目分析：(15)

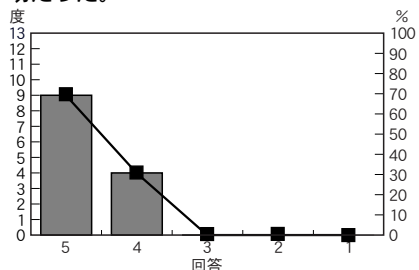
授業内容を分かりやすく説明した。



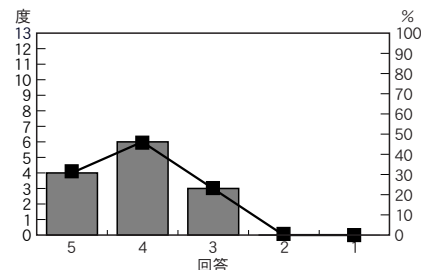
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



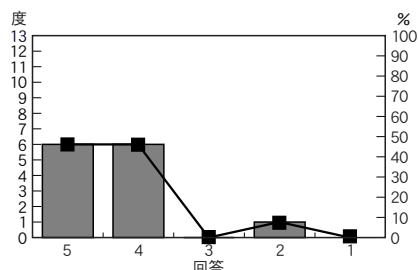
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



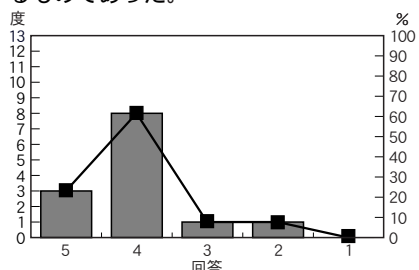
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

「音楽の理論と歴史」の授業は、音楽の理論（前期・松岡担当）と音楽の歴史（集中講義・非常勤講師担当）で構成されている。このうち今回授業評価を行ったのは、前期・松岡担当部分（15コマ）である。「理論」といっても、むしろ鍵盤和声等の実践や創作活動をとおして、直観力や創造性に訴えかけながら音楽理論の理解を促してきた。

履修者13名全員がよく出席し、アンケートに答えた。アンケート結果から、学生たちが興味・関心をもって積極的に授業に臨み、内容をよく理解し、専門性を深めることができたことが分かる。とくに作曲課題については、「はじめて本格的に作曲したのが楽しかった。」「和音の響きを体で感じる点がとても良かった。」「作曲は大変だけど、自分の作った曲を実際に演奏したり、歌ったりしたのが楽しかった。」「みんなの作品を前で発表してくれたのが良かった。」「自分の作品を皆に評価してもらえたのが良かった。」「自由な作曲に先生が理論で裏付けしてくれたのが良かった。」等のたくさんの自由記述が示すように、探求する喜びとコミュニケーションの喜びを味わうことができたと思われる。音楽に対するこうした自発的・求心的な姿勢は、今後の学修のための大切な基礎となる。

またその一方で、「キーボード・ハーモニーや理論をもっとやりたかった。」という声もあり、今後は、全体のバランスにもっと配慮したい。

授業科目名：「音楽通論Ⅱ」

評価実施日：平成 18 年 7 月 24 日

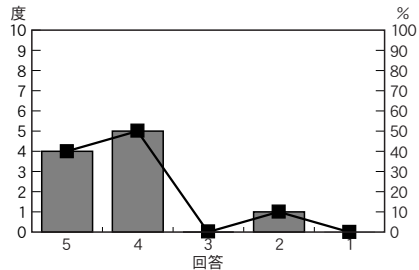
担当教員名：長島 真人, 山田 啓明

(有効な合計10)

■ 度 ■ %

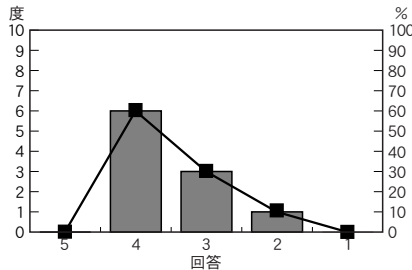
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



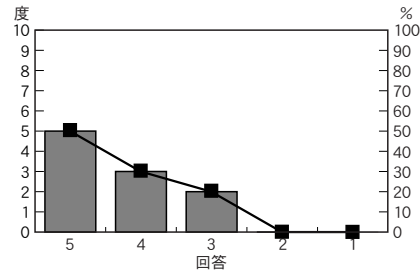
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



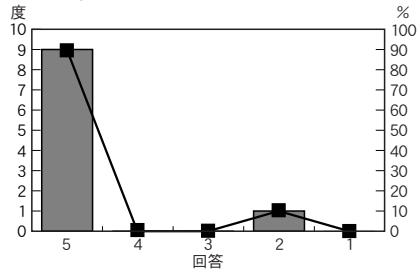
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



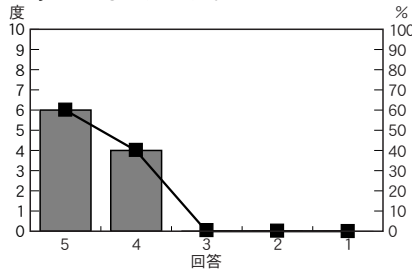
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



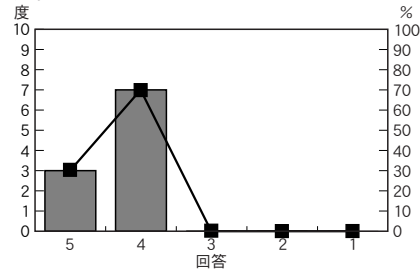
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



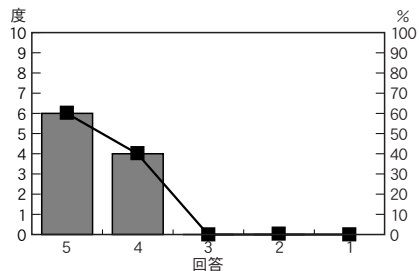
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



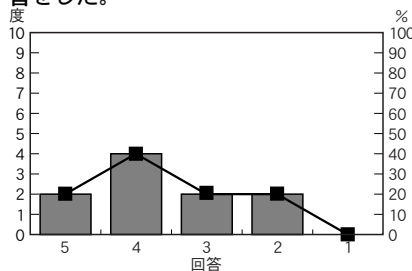
項目分析：(7)

授業によく出席した。



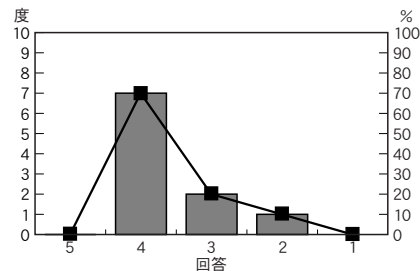
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



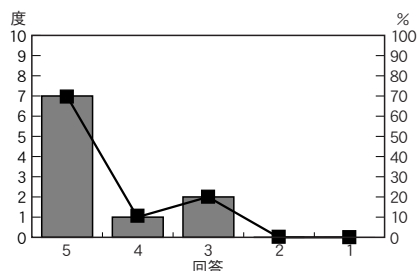
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



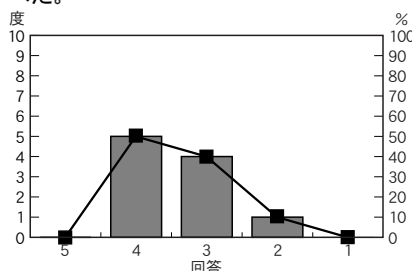
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



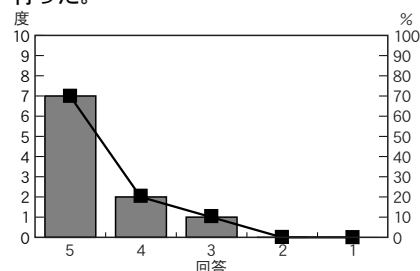
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



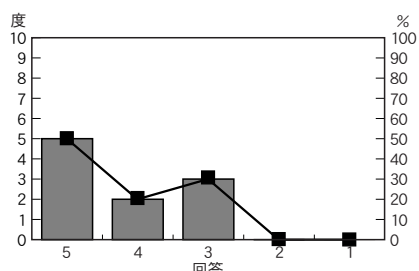
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



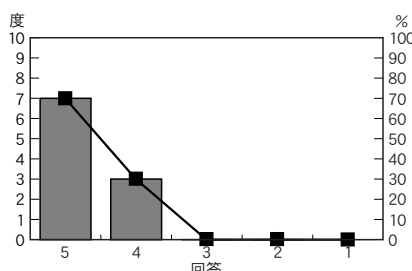
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



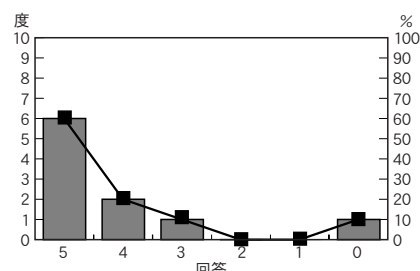
項目分析：(14)

熱心に指導した。

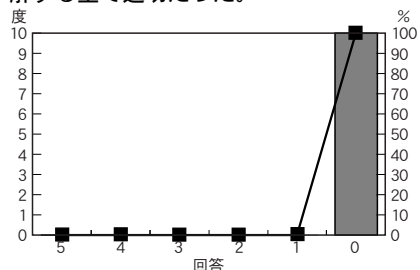


項目分析：(15)

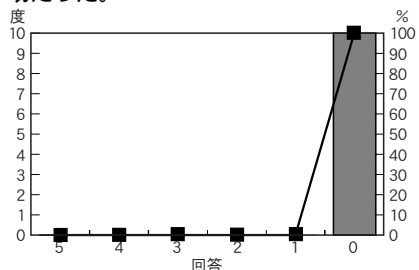
授業内容を分かりやすく説明した。



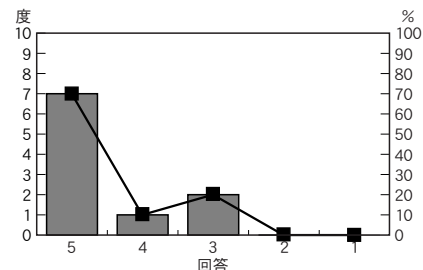
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



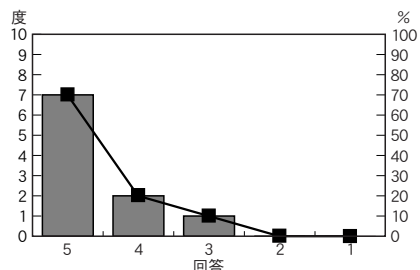
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



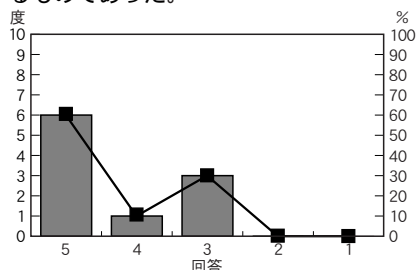
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

新しいカリキュラムになってから、最初に試みた授業であり、内容の構成や展開の方法に関して、手探り状態で開始した講義であった。大多数の学生たちが、講義に熱心に取り組み、自分なりに満足していることが確認できた。また、内容や指導の方法に関する酷評は見られなかった。しかし、今回の講義は、初めてであったため、やや情報量が多すぎたように反省している。今後は、内容を精選して、さらに充実した講義になるように工夫していきたい。

授業科目名：「**絵画材料研究**」

評価実施日：平成 19 年 2 月 15 日

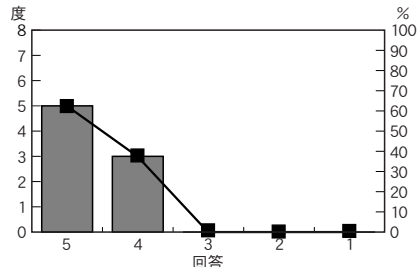
担当教員名：鈴木 久人

(有効な合計 8)

■ 度 ■ %

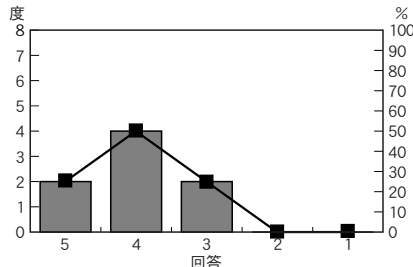
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



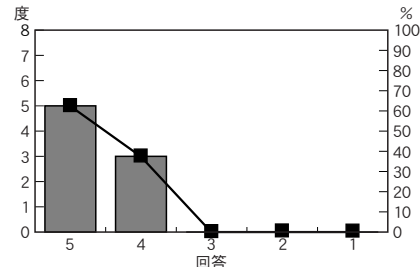
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



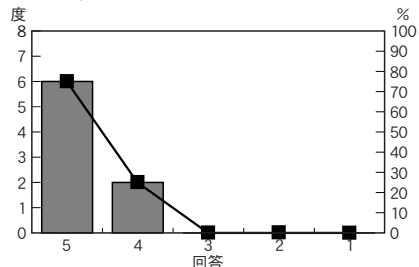
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



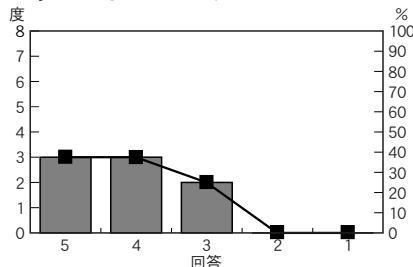
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



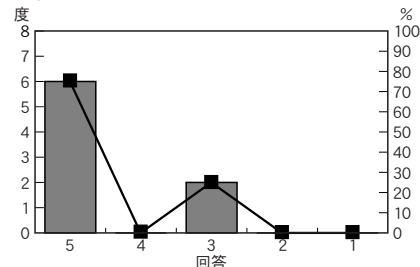
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



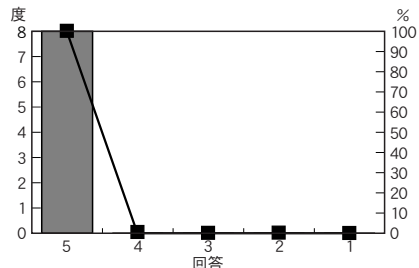
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



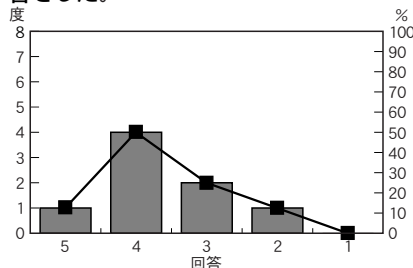
項目分析：(7)

授業によく出席した。



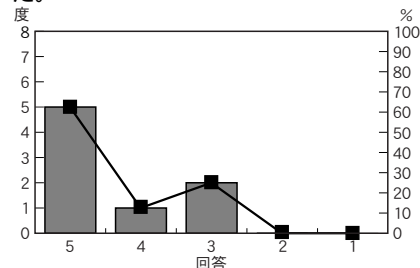
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



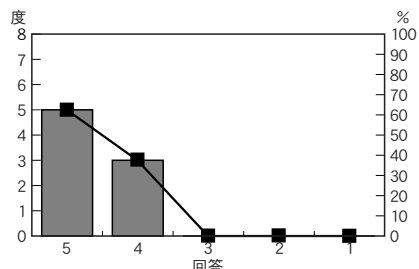
項目分析：(9)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



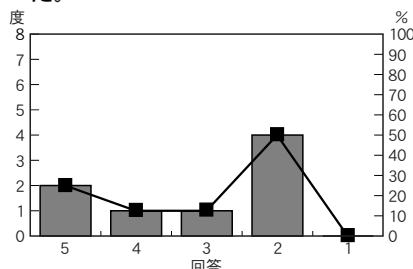
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



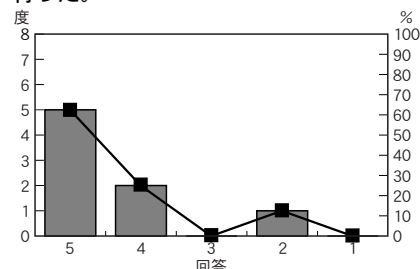
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



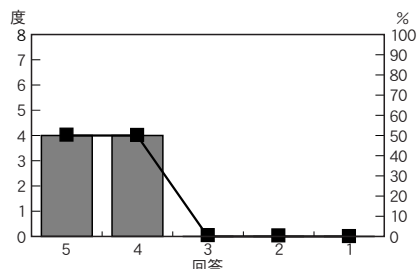
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



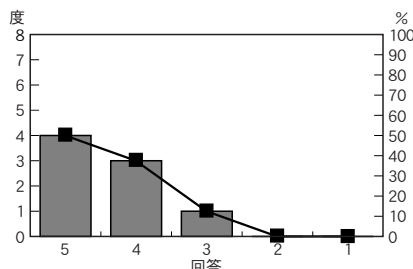
項目分析：(13)

熱心に指導した。



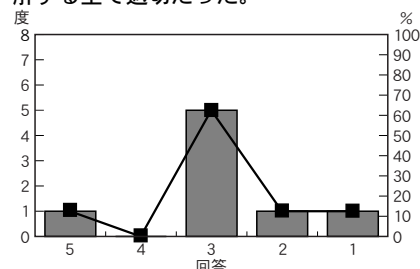
項目分析：(14)

授業内容を分かりやすく説明した。

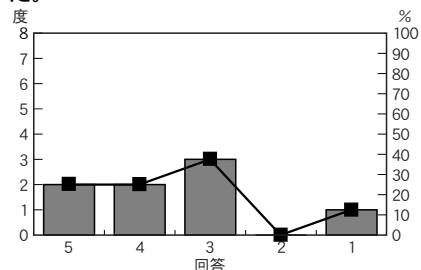


項目分析：(15)

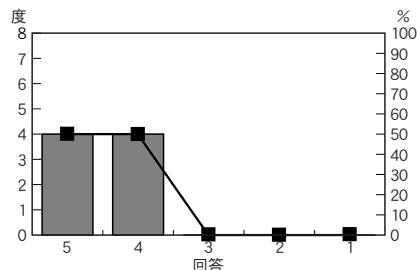
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



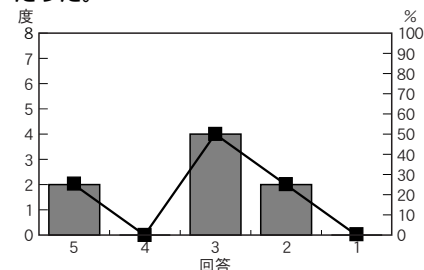
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



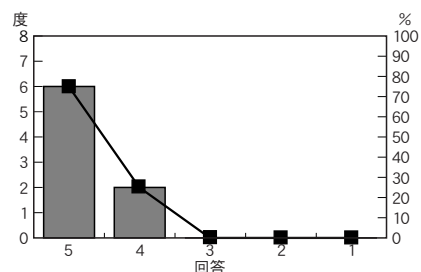
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



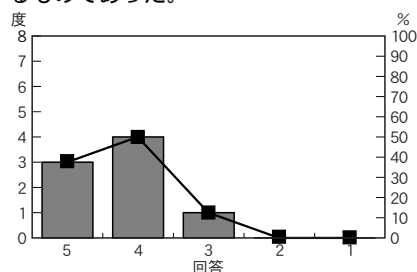
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

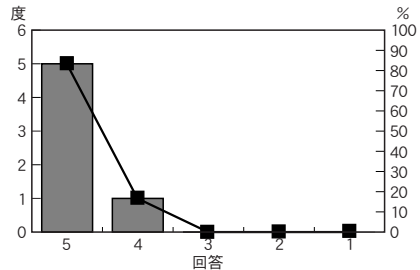
本授業は支持体や絵画材料となる様々な素材を実際に扱い、研究し絵画の表現の幅を広げ、また教育現場での教材開発能力の向上を目的とした。回答で目に付くのは問 11, 15, 16, 18 である。問 11 については後半、実習中心で教師側からの説明が多くこのような結果となったのであろう。前半だけではなく後半部分でも調査を行うなど改善が必要であろう。問 15 は教科書を使用せず、参考文献の紹介と文献コピーの資料配布にとどめたためと思われる。より多くの資料配布など改善に務めたい。問 16 は設備についての設問であるが専用の実習室をもたず、共用の実習室で仮設テーブルなどを使用しているためと思われる。今後設備の充実に努めたい。問 18 についてはテンペラ制作をおこなうには本授業の時間数はあまりにも短く、オリエンテーションでも作品の完成は教師側も求めていると伝えているが、やはり学生は授業時間内で完成させたいのであろう。今後時間内でも無理なく完成させられるテンペラ教材の開発をおこないたい。問 21, 問 22 でも概ね好意的記述がほとんどであり、多くの学生が絵画材料に対する知識の獲得と技法体験に満足している。しかしやはり、本授業は通年開講にしてほしいなどテンペラ制作において時間の少なさをあげる学生 3 人がいた。

授業科目名：「**絵画特別演習Ⅱ**」
 評価実施日：平成18年7月14日
 担当教員名：武市 勝

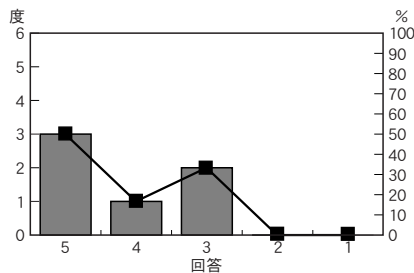
(有効な合計6)

■ 度 ■ %

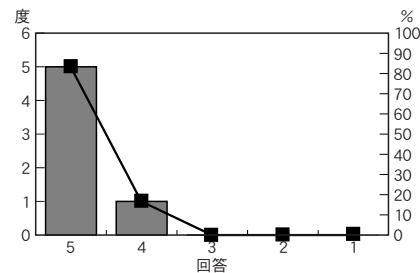
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



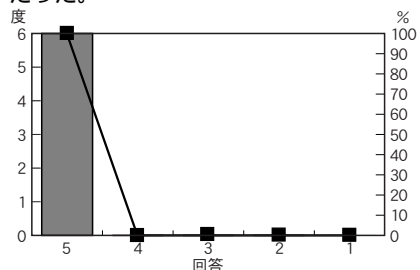
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



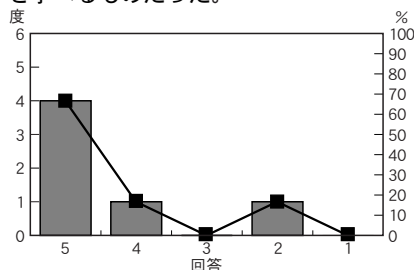
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



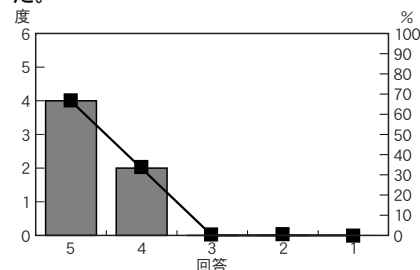
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



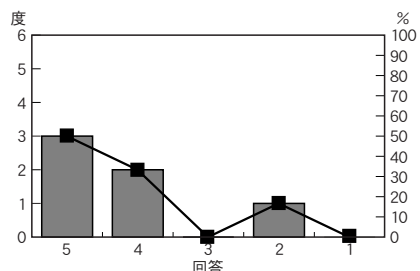
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



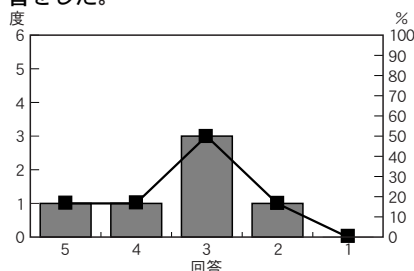
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



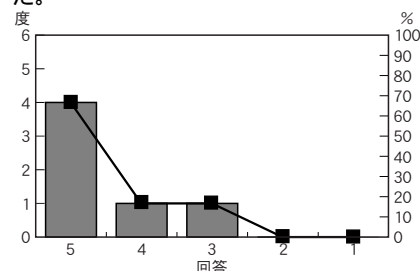
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



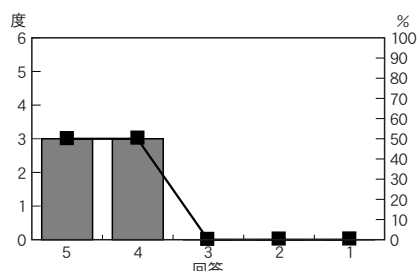
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



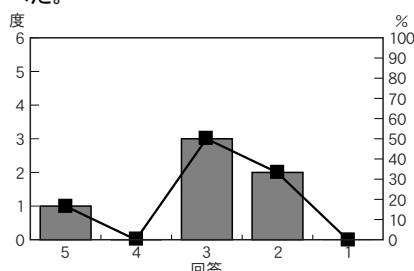
項目分析：(9)
 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



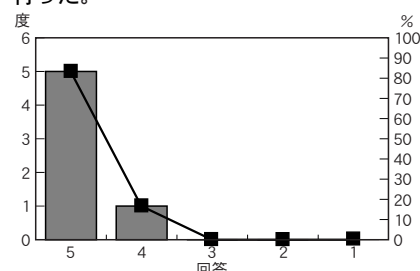
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



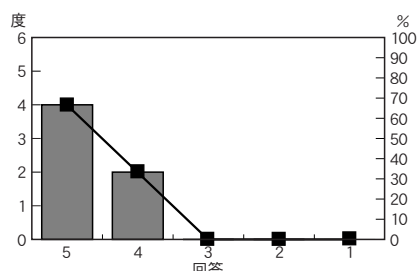
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



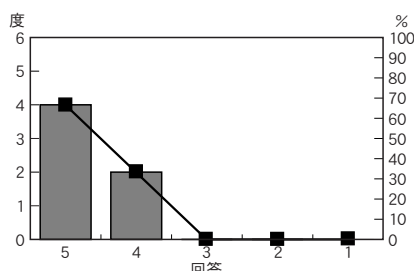
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



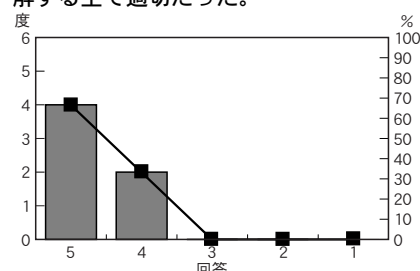
項目分析：(13)
 熱心に指導した。



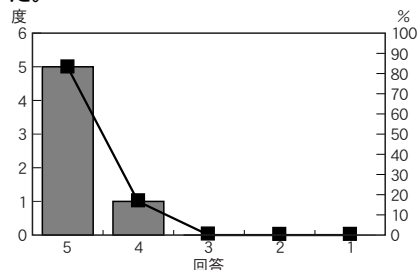
項目分析：(14)
 授業内容を分かりやすく説明した。



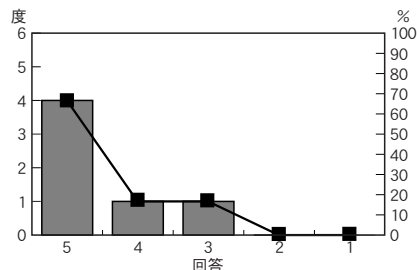
項目分析：(15)
 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



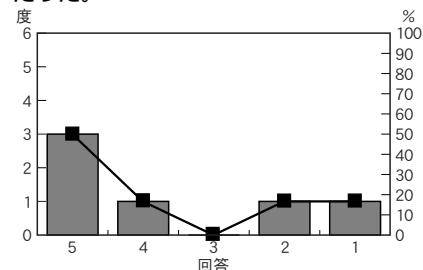
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



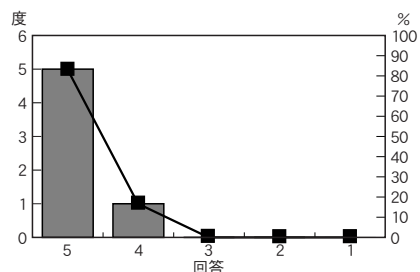
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



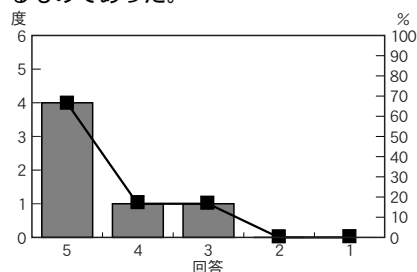
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

今年度の反省

従来は15週の中で3種の版画を盛り込んだが、どうしても無理があるということで今年度は2種に絞った。選定は中学校教員として必須技法ということで木版画及び銅版画とした。

ところが、受講生から「シルクスクリーンも」という希望が出た。前年度まで行っていたTシャツプリントの技法をやりたいというのだ。やむをえずきわめて短い時間の中で行うこととしたが、結果的には補講を行ったり、学生の自主制作に任せたりすることとなった。その経緯の中で機器の故障が出たりし、学生の仕上がりも（教師としては）満足できるものではない。

版画技法は自主制作では必ず失敗することを痛感した。次年度も学生の希望がある場合、最低でも4コマはとりたい。ただ、他の技法の習熟が阻害されることもあり、意欲の度合いにもよるがあまり内容に入れたくないと考えている。

授業科目名：「彫刻Ⅰ」

評価実施日：平成19年2月19日

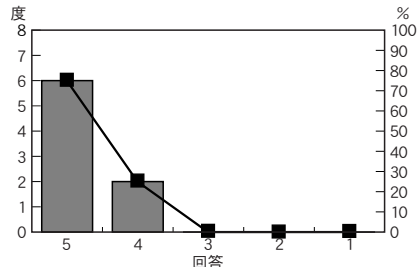
担当教員名：長岡 強

(有効な合計8)

■ 度 ■ %

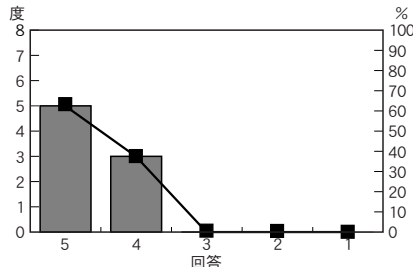
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



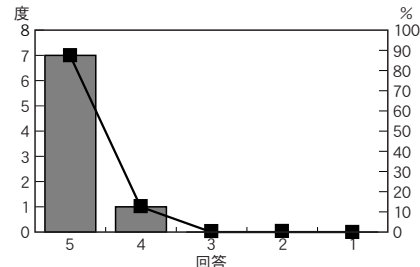
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



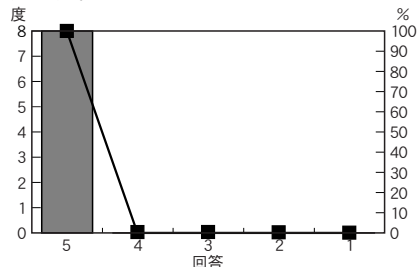
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



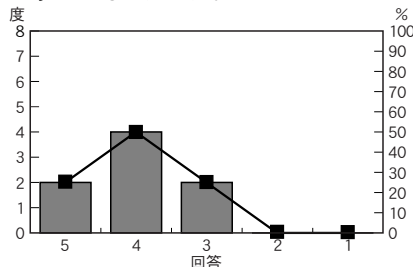
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



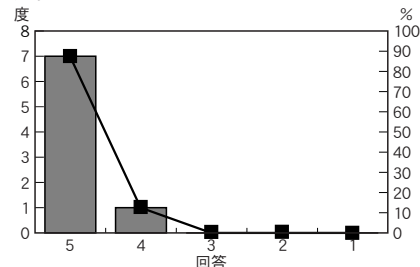
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



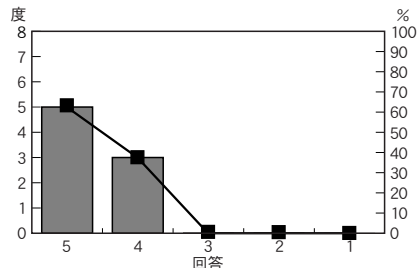
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



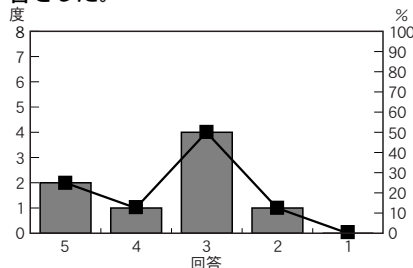
項目分析：(7)

授業によく出席した。



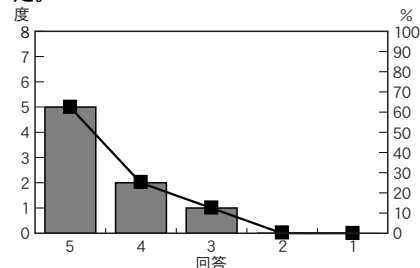
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



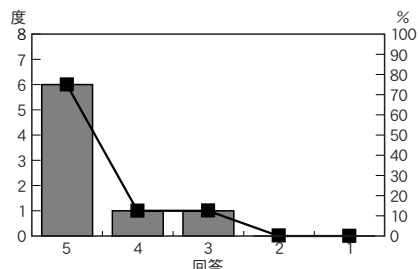
項目分析：(9)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



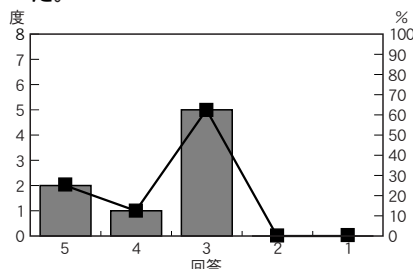
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



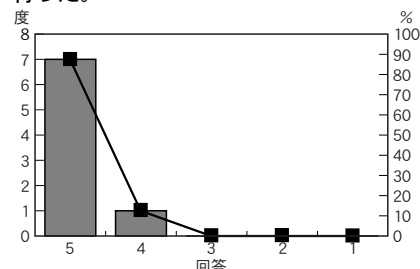
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



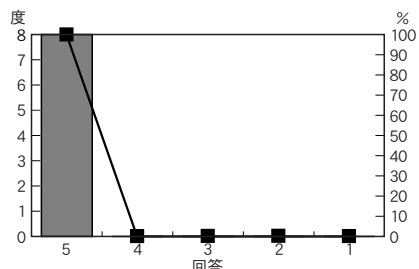
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



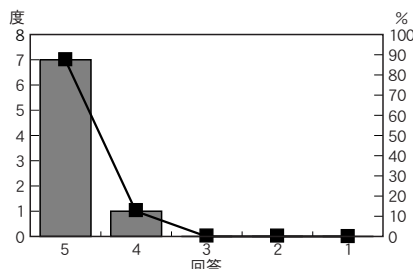
項目分析：(13)

熱心に指導した。



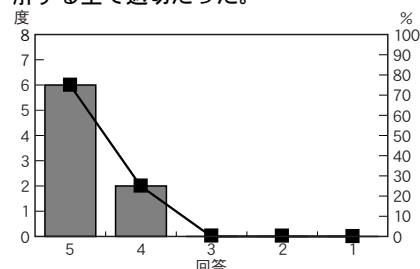
項目分析：(14)

授業内容を分かりやすく説明した。

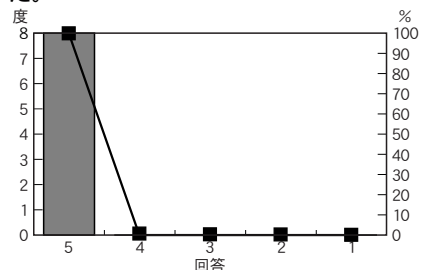


項目分析：(15)

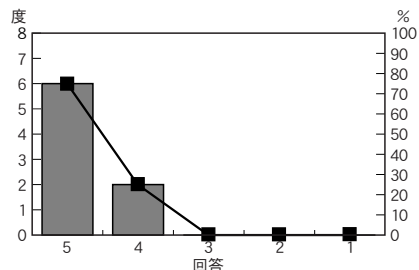
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



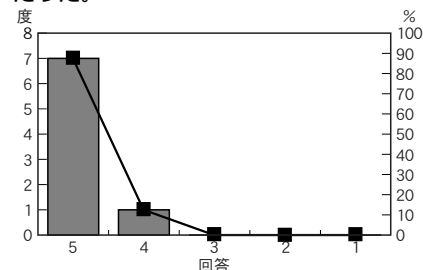
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



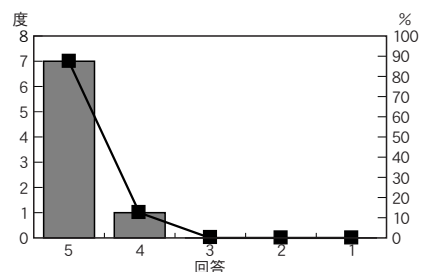
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



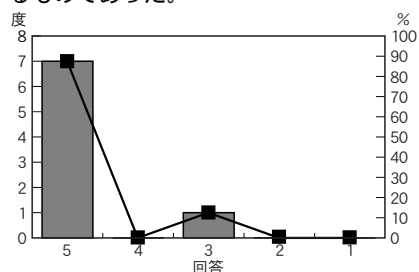
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

専門科目であるため、受講生は、全員美術・図画工作の学生であった。

少人数で指導が徹底したため、肯定的な評価を得た。

この「頭像を作る」授業は、彫刻分野の基礎・基本の授業として、必修科目として位置づけてある。

高校では受講生全員彫刻の体験はなく、従って石膏やポリエステルの材料を扱うのも初めての経験であった。

この授業では、粘土による原型制作に加えて、石膏型取り、FRP成型と様々な工程において、かなりのオーバーワークを仕向けたけれども、受講生にとっては十分満足のいく授業であったようだ。

今後さらに授業改善を図り、充実した授業にしていきたいと考える。

授業科目名：「彫刻Ⅱ」

評価実施日：平成18年7月27日

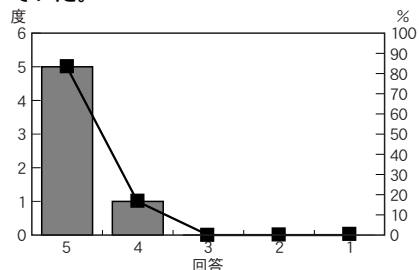
担当教員名：野崎 窮

(有効な合計6)

■ 度 ■ %

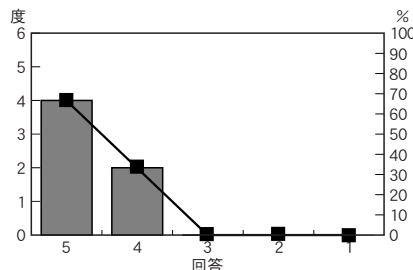
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



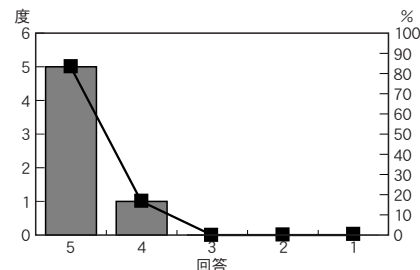
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



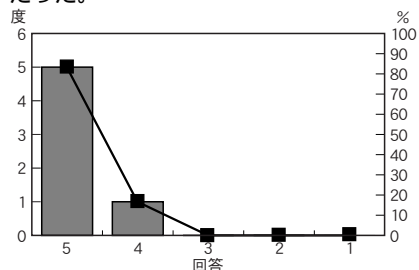
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



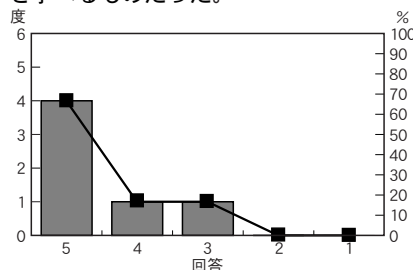
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



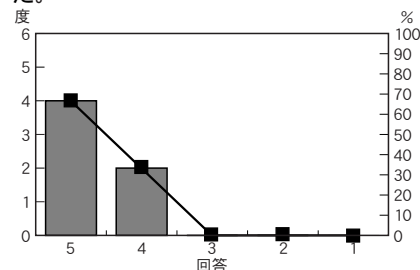
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



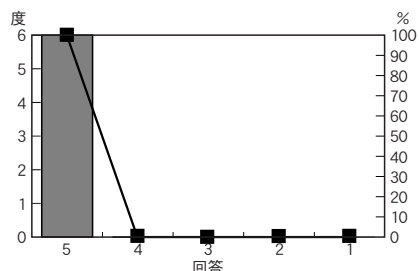
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



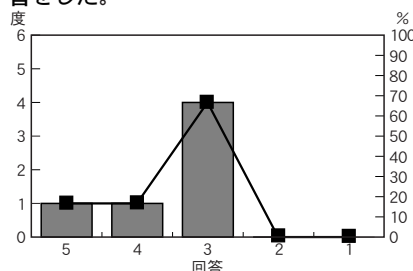
項目分析：(7)

授業によく出席した。



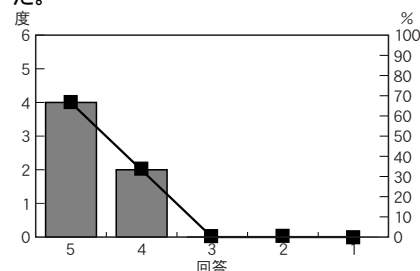
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



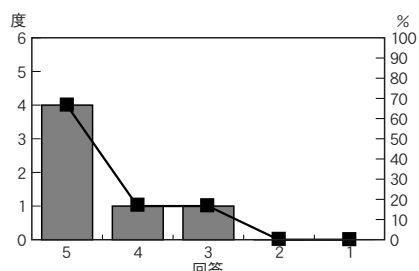
項目分析：(9)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



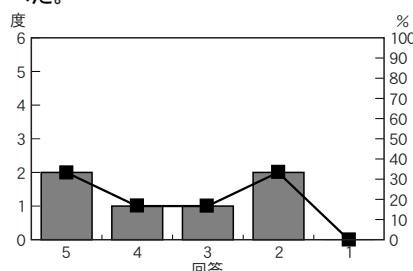
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



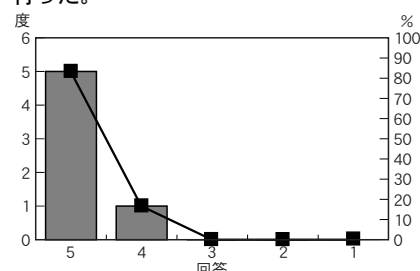
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



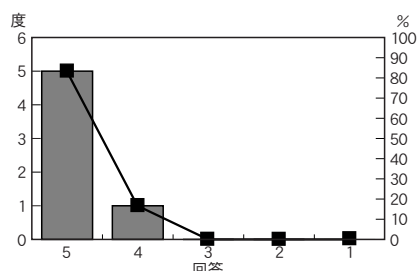
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



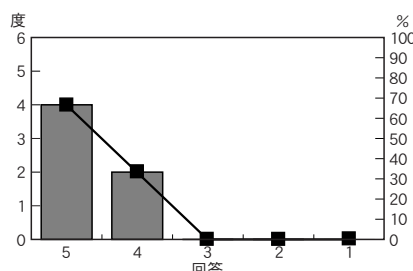
項目分析：(13)

熱心に指導した。



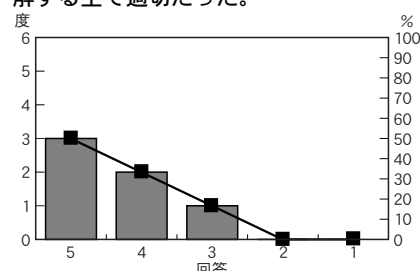
項目分析：(14)

授業内容を分かりやすく説明した。

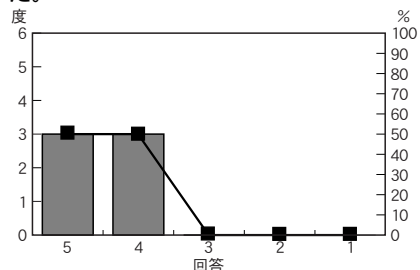


項目分析：(15)

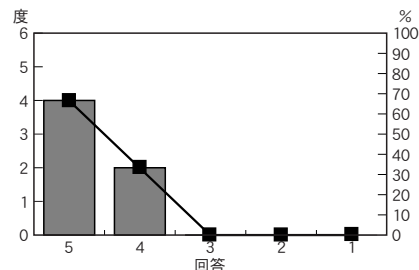
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



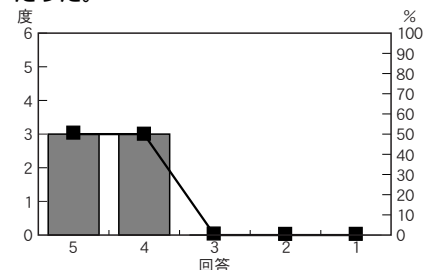
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



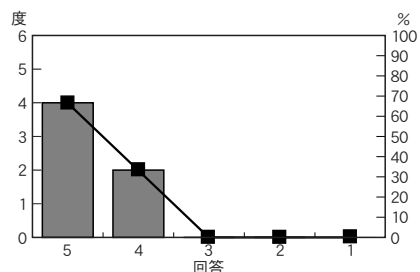
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



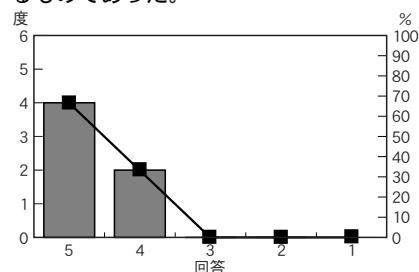
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

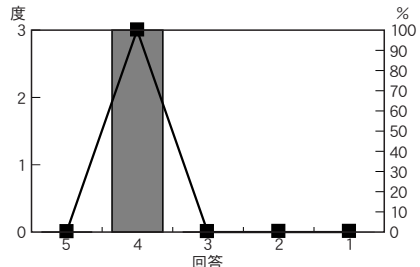
全体的な評価としておおむね高いものであると判断している。問題としてあげるならば、アンケート項目の3の(II)であり、宿題等を与えたりして主体性を学生にもたせる工夫が必要であったかもしれない。今後の課題である。アンケート項目の4の(5)については、配付資料が多すぎたと思っている。次年度より説明や解説に必要な分だけに精選していこうと考えている。

授業科目名：「彫刻材料研究」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日
 担当教員名：野崎 窮

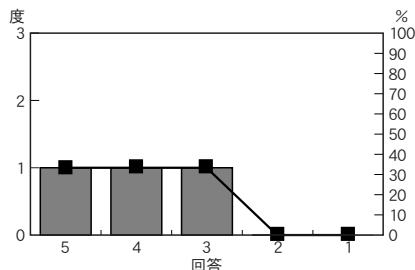
(有効な合計 3)

■ 度 ■ %

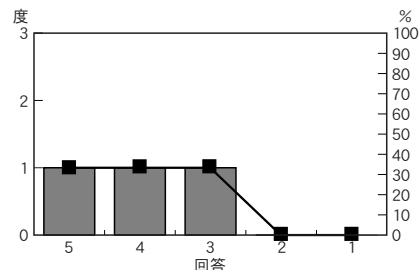
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



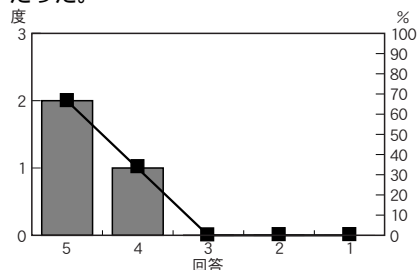
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



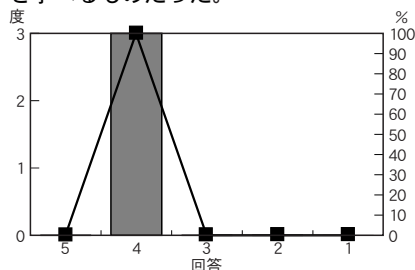
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



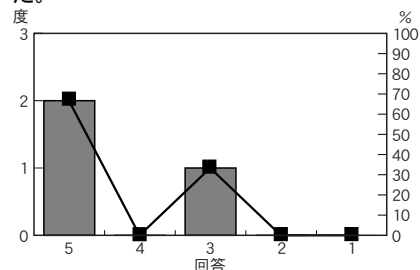
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



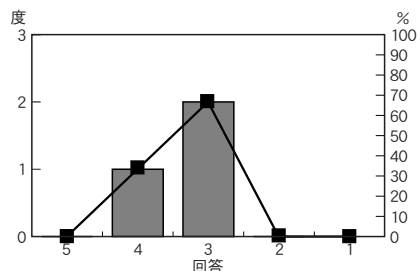
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



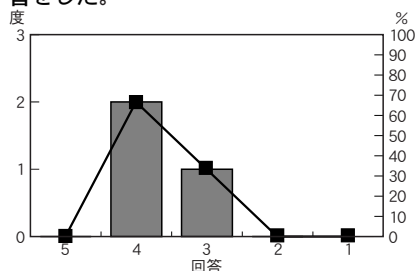
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



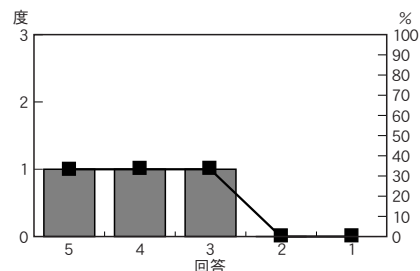
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



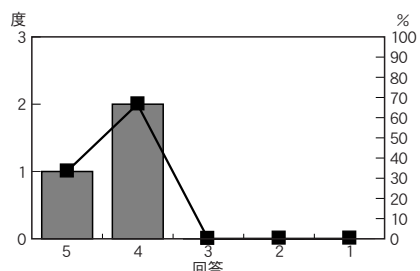
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



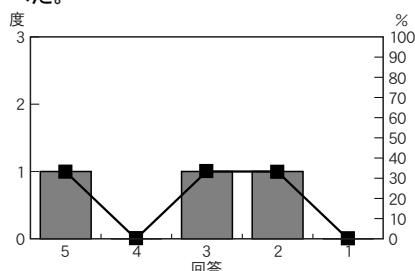
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



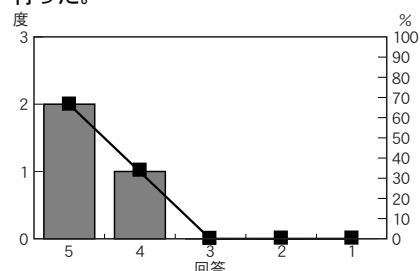
項目分析：(10)
 積極的に課題に取り組んだ。



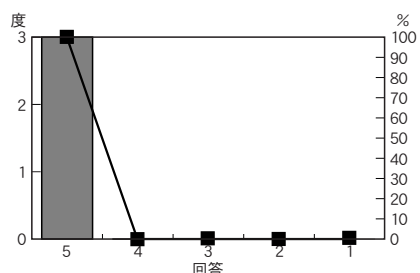
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



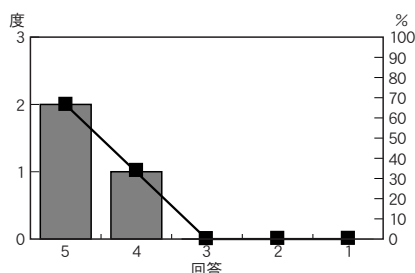
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



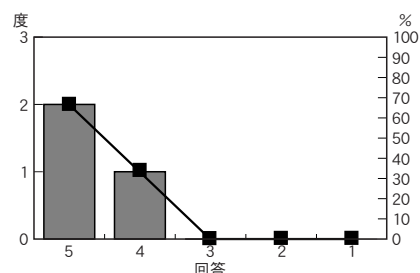
項目分析：(13)
 学生参加型の授業だった。



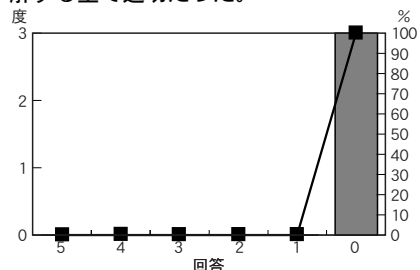
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



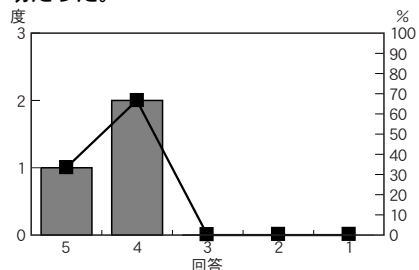
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



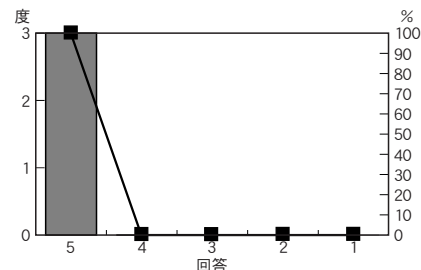
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



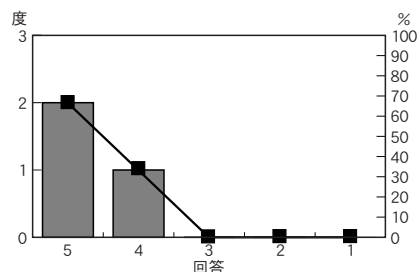
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



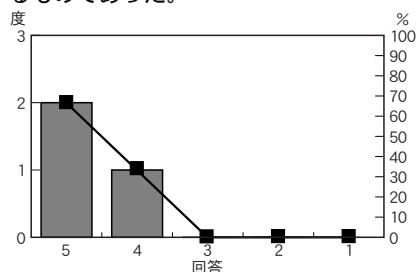
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

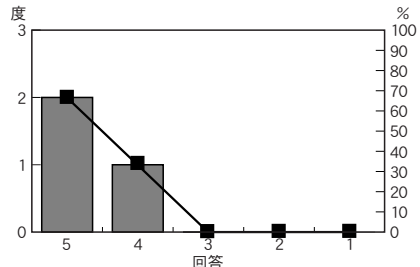
全体的な評価として、おおむね高い評価を得ていると判断している。問題点としてあげるならば、アンケート項目における1の(2)と2の(3)である。その年度により、現代美術をテーマにしている点や受講生の人数等のことを考慮に入れるとき、授業内容等を少し変更した方が多い場合が多い。今後はそのような説明をシラバスに入れ、誤解が生じないようにしたい。

授業科目名：「彫刻特別演習」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日
 担当教員名：長岡 強

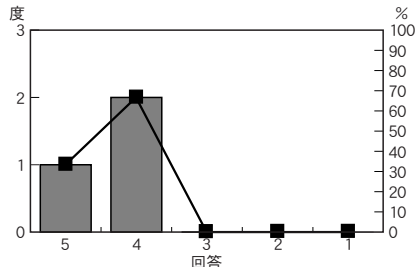
(有効な合計 3)

■ 度 ■ %

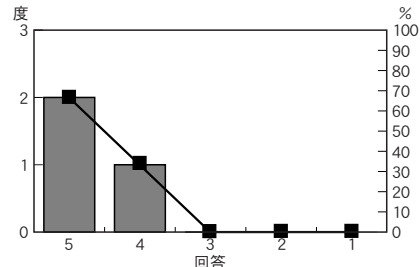
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



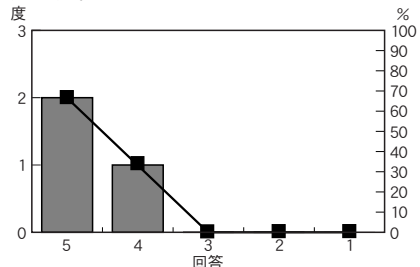
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



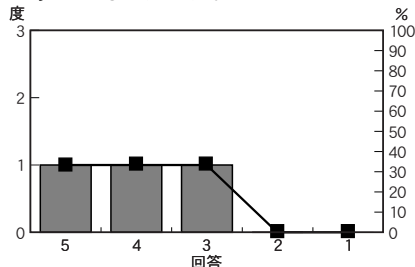
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



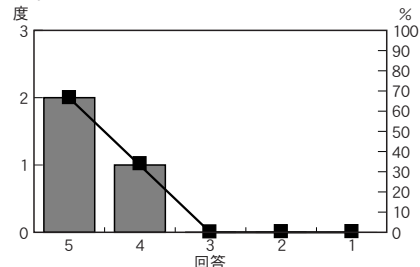
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



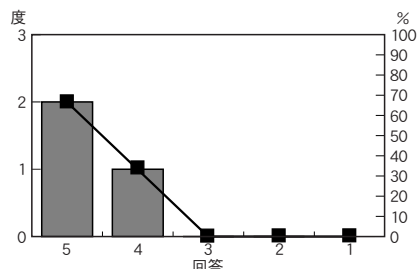
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



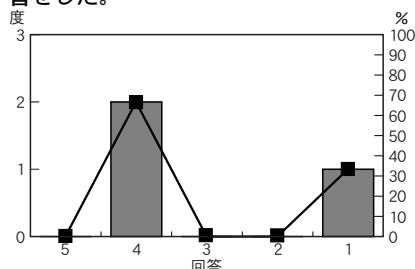
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



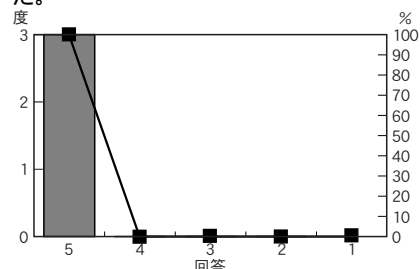
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



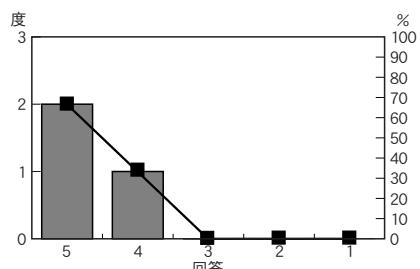
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



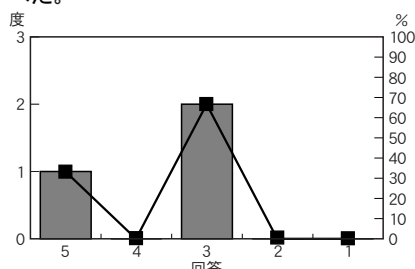
項目分析：(9)
 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



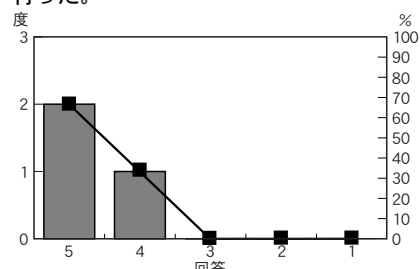
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



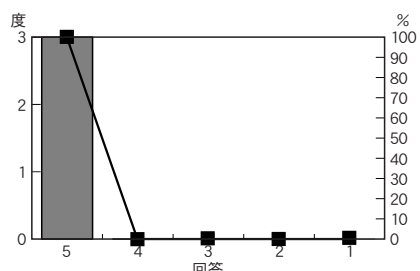
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



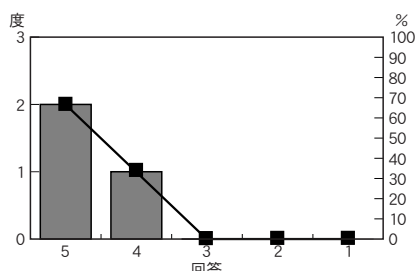
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



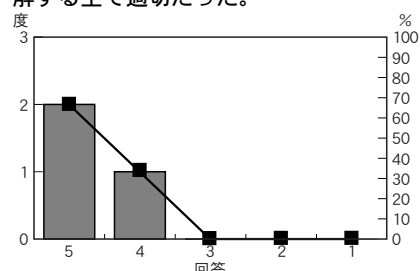
項目分析：(13)
 熱心に指導した。



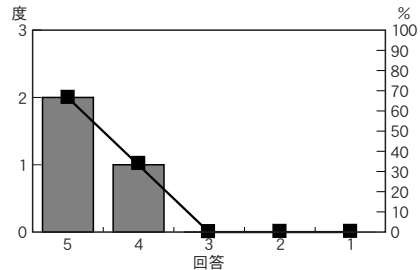
項目分析：(14)
 授業内容を分かりやすく説明した。



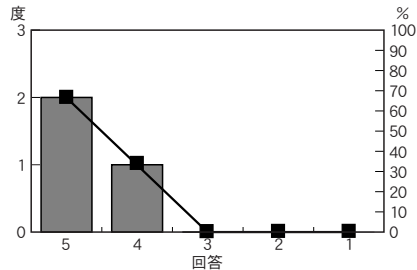
項目分析：(15)
 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



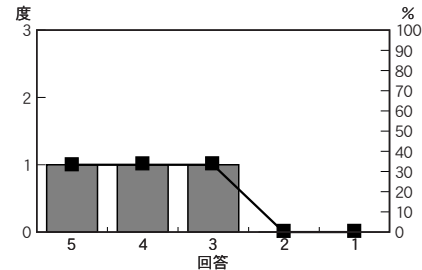
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



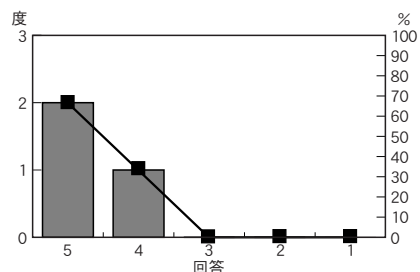
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



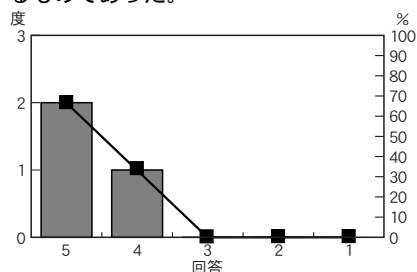
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

わずか3名の受講生のため、個別指導が徹底し概ね肯定的な評価を得た。

ほとんどの項目で4、5の評価が多く、受講生にとって十分満足のいく授業であったようだ。この授業は、授業時間に加えて、その3倍ぐらいの自主制作を必要としたが、受講生全員よく頑張って作品を完成させた。

この授業は、過重負担を強いることになるが、今後も立像制作である本授業を塑造制作の根幹として位置づけ、3年生のゼミ選考の足がかりとなるようにしたい。

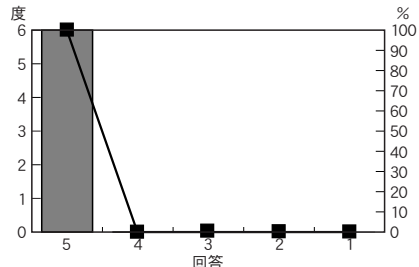
自由記述欄の回答としては、「21 この授業でよかったことを書いてください。」の欄に、「より専門的に彫刻のことを知ることが出来た。」「普段行えない作業が出来て良かった。」「完成した喜びが大きい。」と感想を述べており、今後もこの内容を進めていきたいと考えている。

授業科目名：「構成・デザインⅠ」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日
 担当教員名：内藤 隆

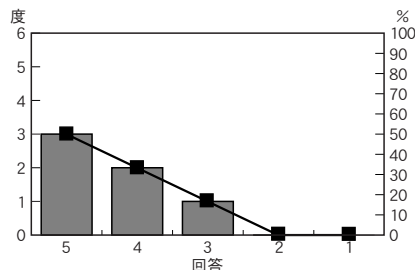
(有効な合計 6)

■ 度 ■ %

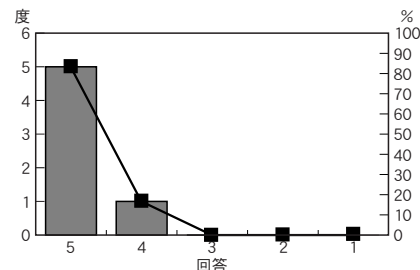
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



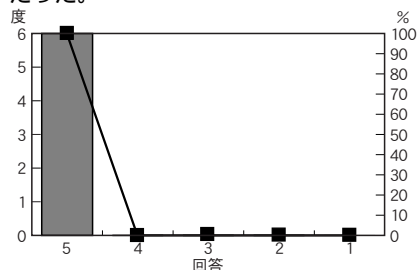
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



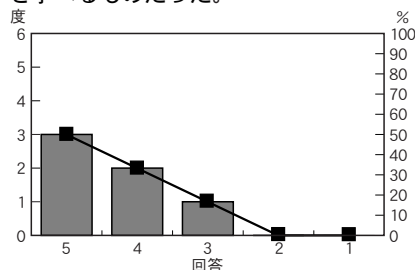
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



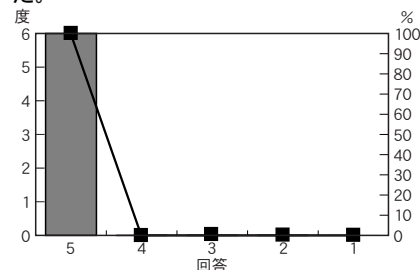
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



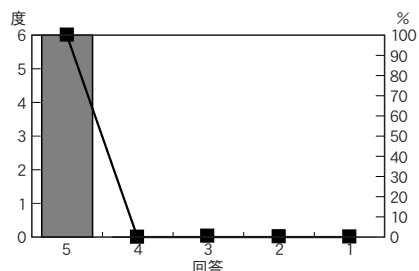
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



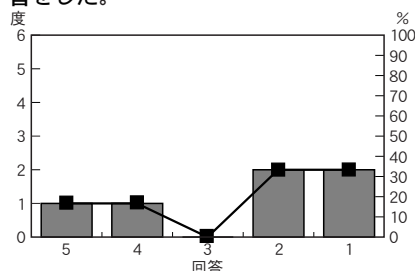
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



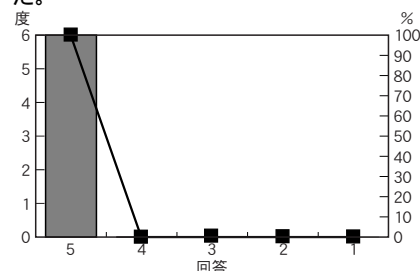
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



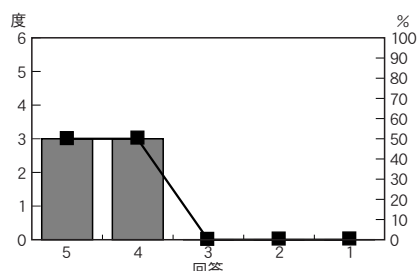
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



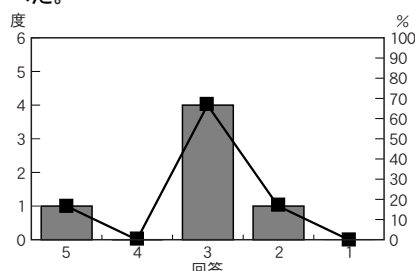
項目分析：(9)
 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



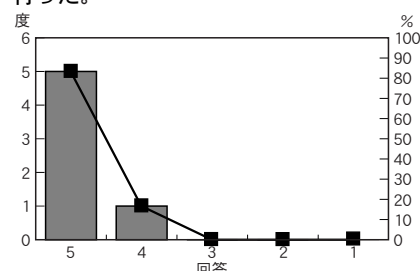
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



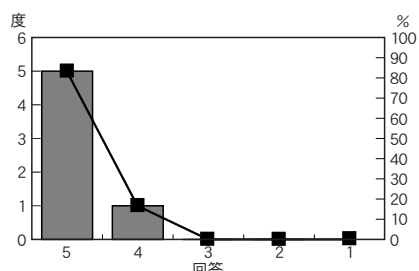
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



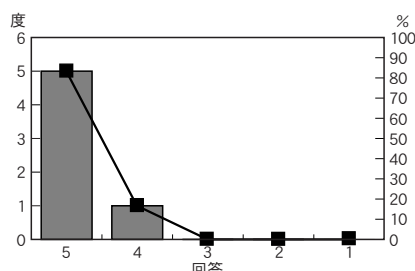
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



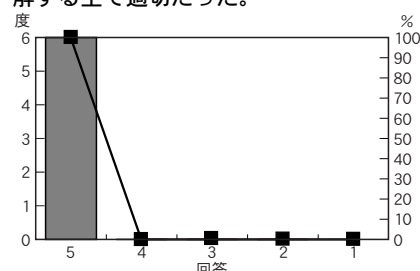
項目分析：(13)
 熱心に指導した。



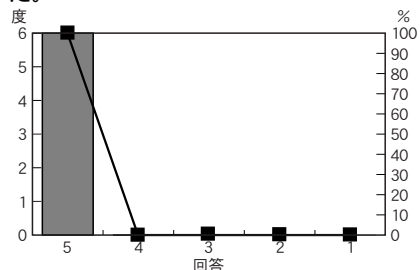
項目分析：(14)
 授業内容を分かりやすく説明した。



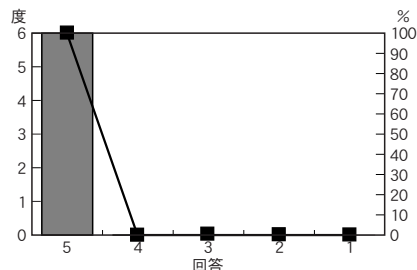
項目分析：(15)
 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



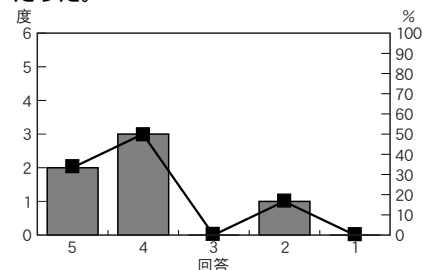
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



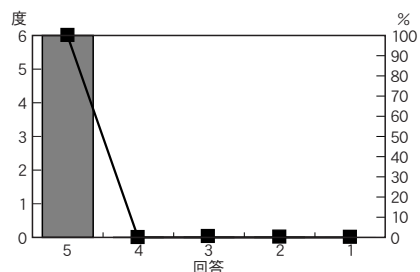
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



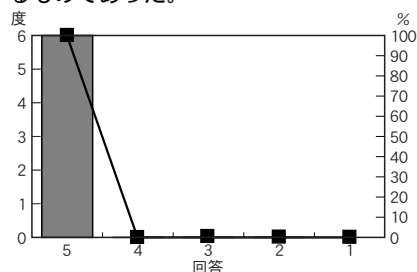
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本年度は、授業の運営が非常に容易な印象があった。受講生は質問等適切に行ってくれ、作業も全員が真面目に集中してこなしてくれた。まずはこのことに感謝したい。本年度は昨年から一カ所変更を加えている。従来フォトショップを使った gif アニメを対象としていた部分にフェナキスティスコープという古典映像玩具の制作を加えた点である。課題のレベルと量については、例年も挙げている通りだが、「最低限この程度は教育者として必要」と思える内容を前期のみに詰め込んであるので、譲歩は難しい。一方で、受講満足度に満点を付けて頂けたのは有り難い限りである。

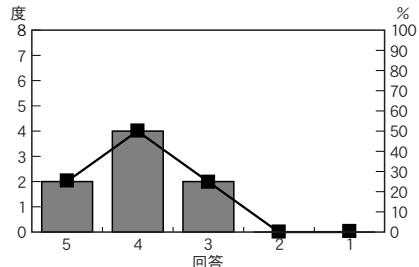
自由筆記欄については、良かった点として「デザインに関心は無かったが興味を持つようになった。説明等判りやすく楽しかった」「平面、立体と様々な分野でデザインの知識・技術が得られた」「とても楽しかった。もっと色々なことをやってみたい」「多くの作品を作ることができた」「授業中もそれ以外でも熱心に指導してくれた」が記された。改善したほうがよい点の記述は「なし」「特になし（2名）」のみ。

授業科目名：「構成デザインⅡ」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 8 日
 担当教員名：松島 政矩

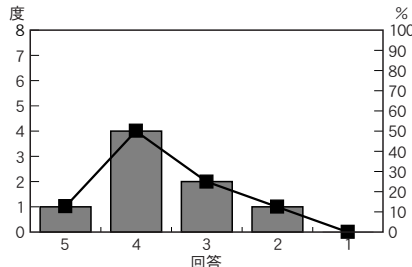
(有効な合計 8)

■ 度 ■ %

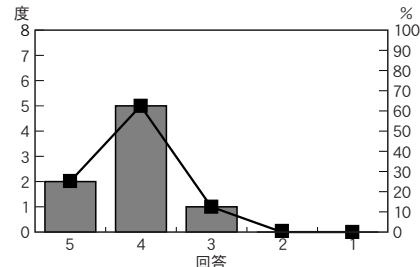
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



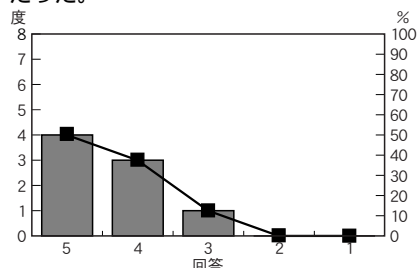
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



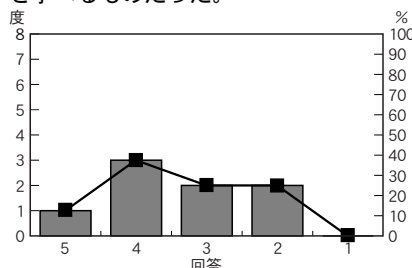
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



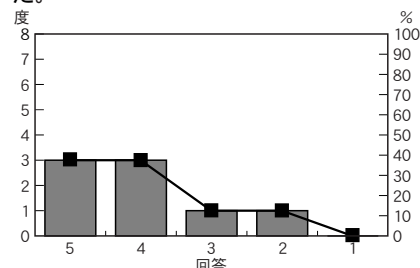
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



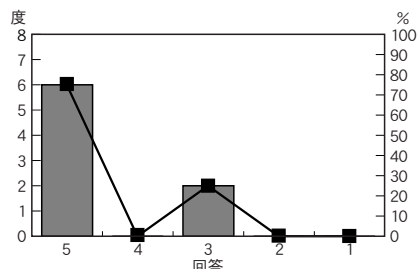
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



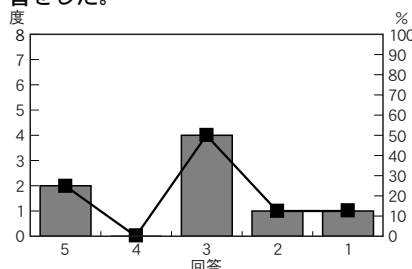
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



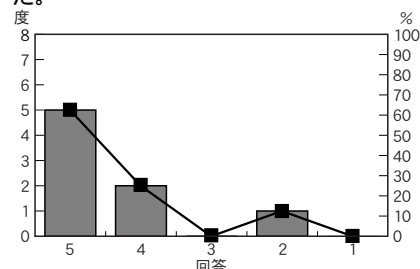
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



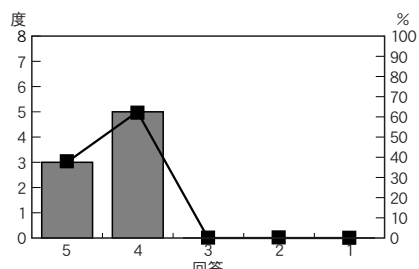
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



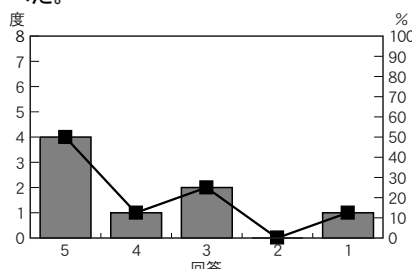
項目分析：(9)
 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



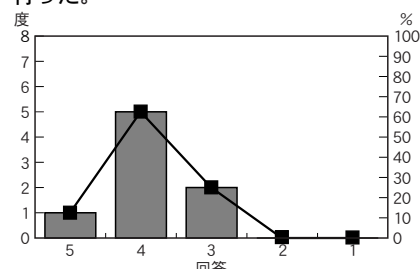
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



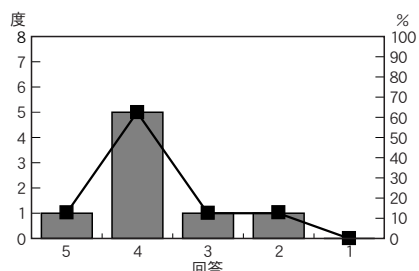
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



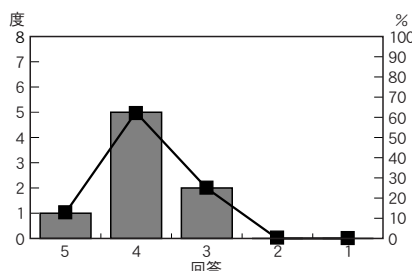
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



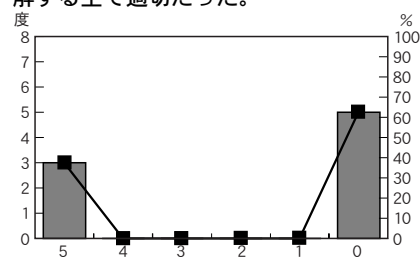
項目分析：(13)
 熱心に指導した。



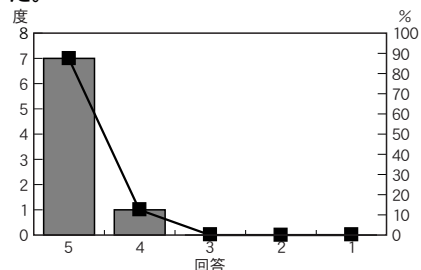
項目分析：(14)
 授業内容を分かりやすく説明した。



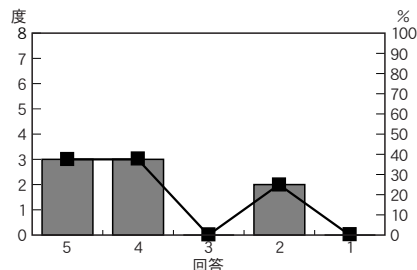
項目分析：(15)
 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



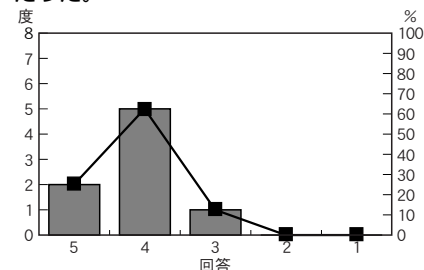
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



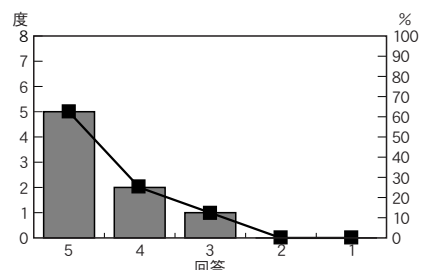
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



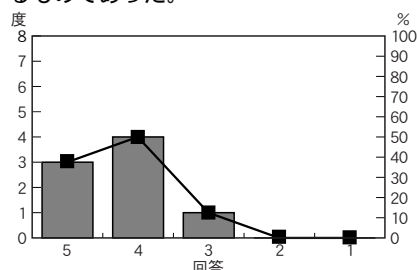
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

この授業は、美術の2年次の学生全員と韓国からの留学生1名が受講してくれた。2コマ連続のコンピュータを使用した演習であるが、完璧といえる出席率で、例年よりも活気があり、予定どおりの授業内容をこなすことができた。

アンケート集計結果で気になるのは、5番、8番、17番の項目である。5番に関しては、この授業は制作に重点を置いているため仕方ないと考えている。8番の結果があまりよくないのは、この授業で使用したドロー系の図形制作ソフトは高価であり、学生が自分のパソコンにインストールして課題を練習することが無理であることから、できるだけ授業時間内に完成させるようにし、疑問点は授業時間内に解決するように指導したためである。17番の結果は意外であるが、ほとんどの学生が教卓の近くの席に着く中で、2名だけが常に離れた席に着いていたのが原因と思われる。20番の項目からは、ほぼ全員がこの授業に満足してくれたことがうかがえるので、よい評価をもらえたと思っている。

学生のコメントの中に下記のものがあったので、来年は課題の時間配分に留意しようと考えている。

- ・ いろんな技術を学べた。時間がたっぷりあってよかった。
- ・ 課題によって、暇なときと時間が足りないときがあった。

授業科目名：「構成・デザイン材料研究」

評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日

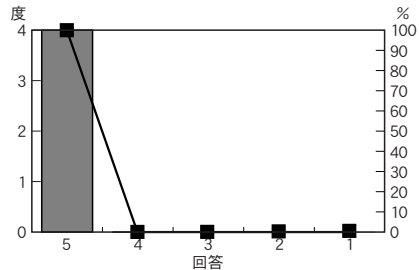
担当教員名：松島 正矩

(有効な合計 4)

■ 度 ■ %

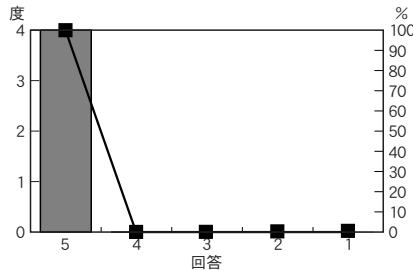
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



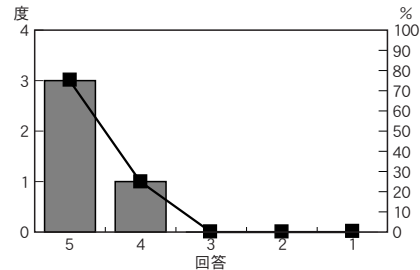
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



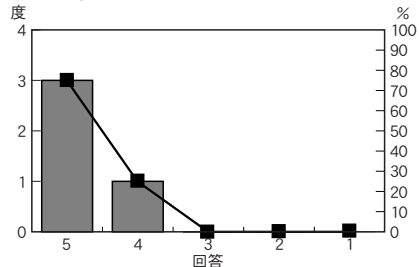
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



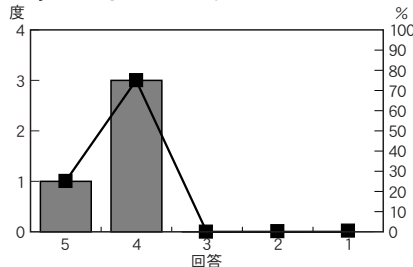
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



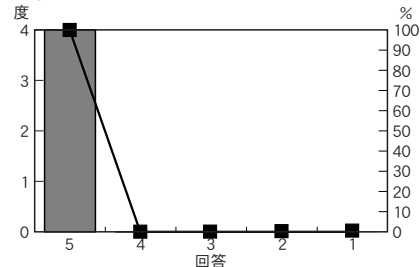
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



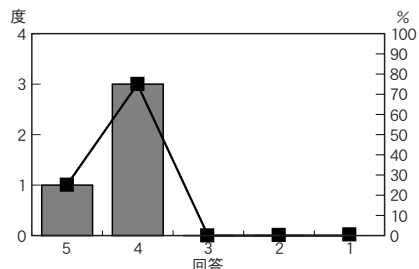
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



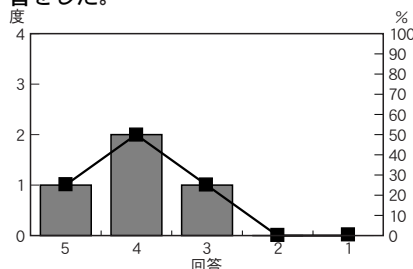
項目分析：(7)

授業によく出席した。



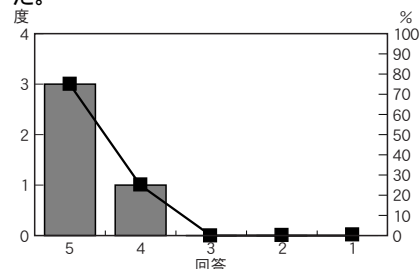
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



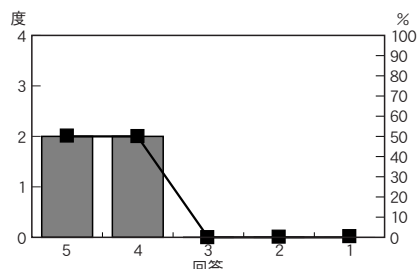
項目分析：(9)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



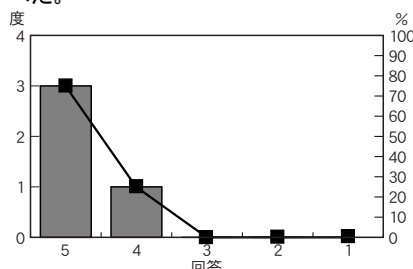
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



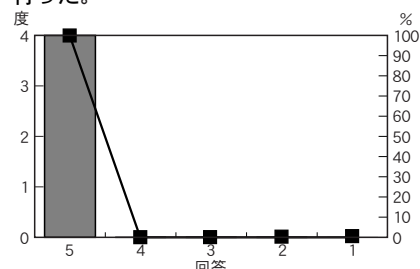
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



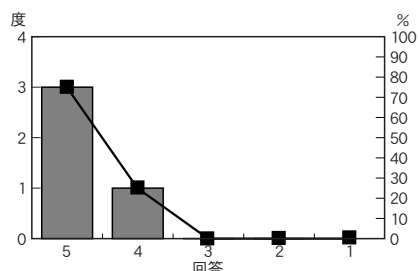
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



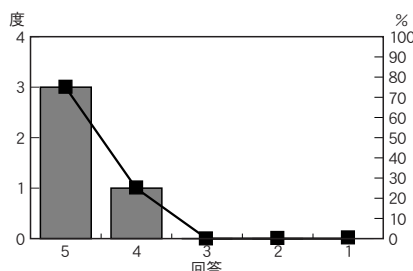
項目分析：(13)

熱心に指導した。



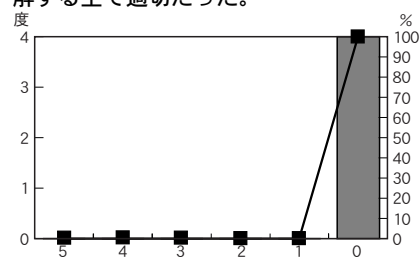
項目分析：(14)

授業内容を分かりやすく説明した。

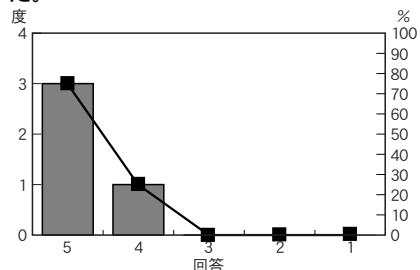


項目分析：(15)

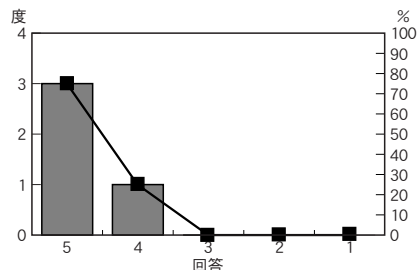
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



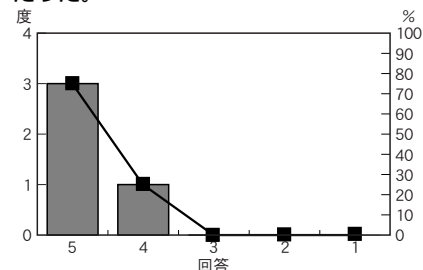
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



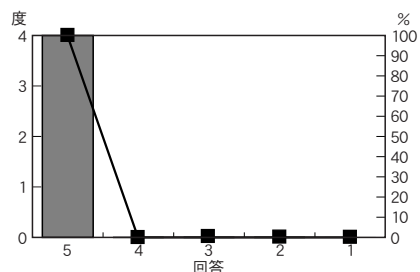
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



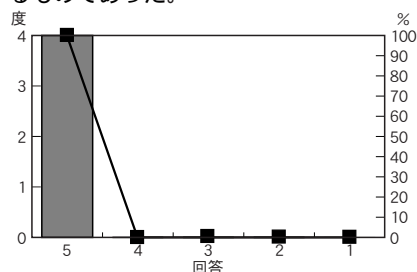
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

わずか5名の受講生であったのであるが、途中で1名が脱落してしまっている。未だにその理由は不明であり今でも気になっている。少人数であったため個別指導が十分にできたせいも、また、私が全員の学年担当であったことが影響しているのか、概ね肯定的な評価を得ることができた。設問8において、予習や復習があまりされていないような結果が出ているが、これは、この授業がマルチメディア教育実習室のコンピュータを利用しており、特殊なアプリケーションを使うため、授業時間内で完結するように授業を行ったことが影響していると思われる。

今年度から、マルチメディア教育実習室のコンピュータが更新され、使用している画像編集ソフトも最新のものになって、果たして学生が使いこなすことができるかどうか危惧していたのであるが、その心配は全く無用であった。学生は前年より多い新しい課題にチャレンジし、満足する結果を出してくれた。

授業科目名：「構成デザイン特別演習」

評価実施日：平成 19 年 3 月 1 日ほか

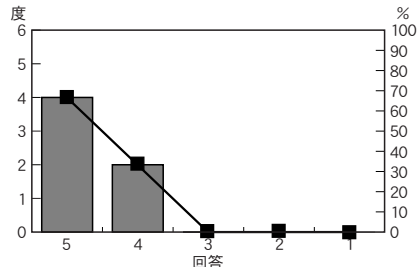
担当教員名：内藤 隆

(有効な合計 6)

■ 度 ■ %

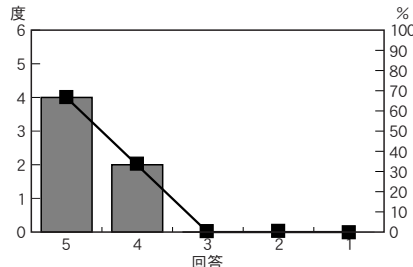
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



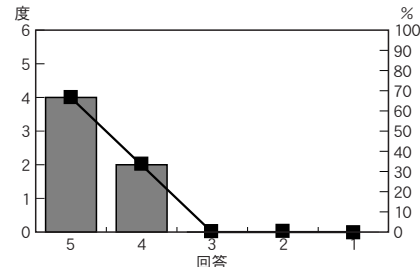
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



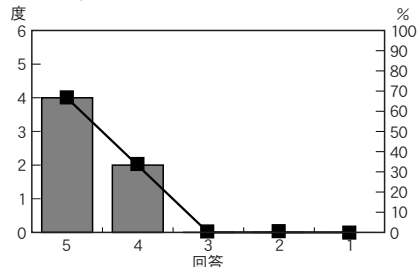
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



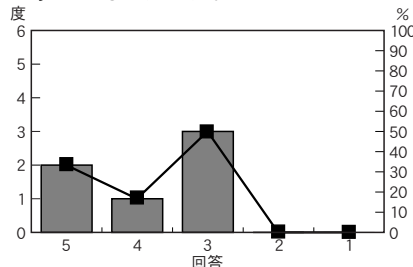
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



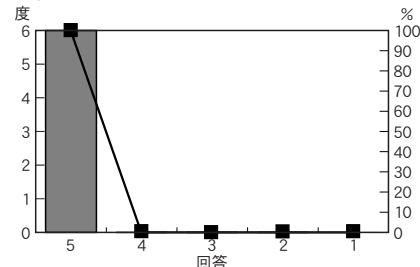
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



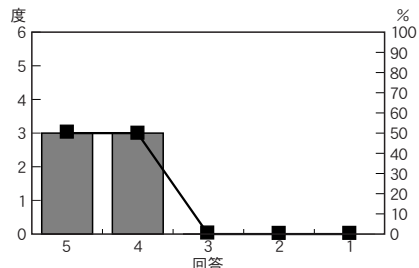
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



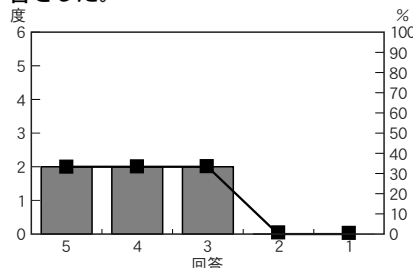
項目分析：(7)

授業によく出席した。



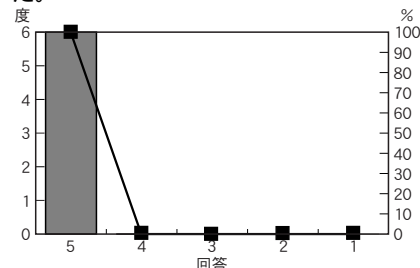
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



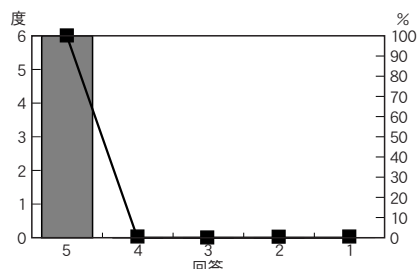
項目分析：(9)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



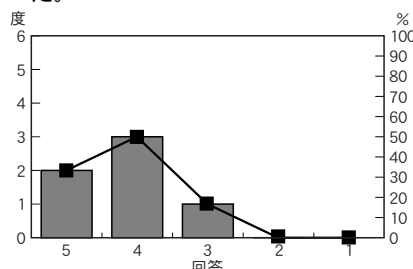
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



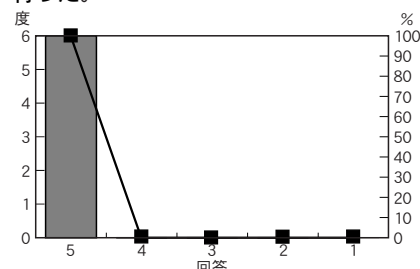
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



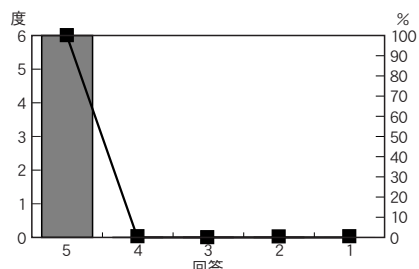
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



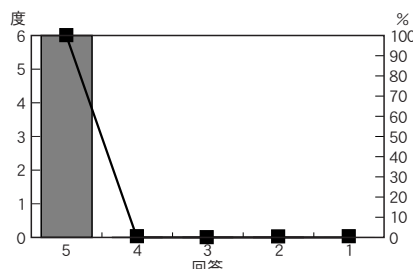
項目分析：(13)

熱心に指導した。



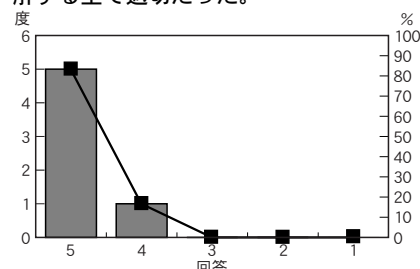
項目分析：(14)

授業内容を分かりやすく説明した。

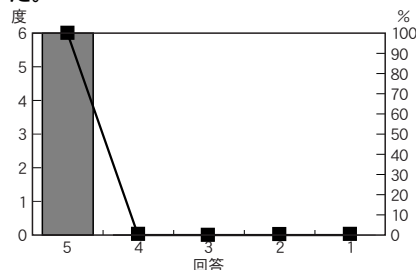


項目分析：(15)

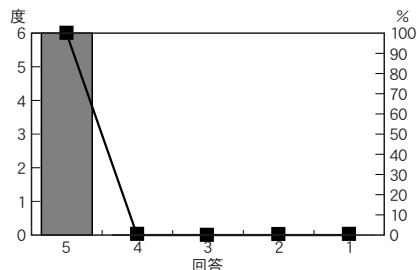
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



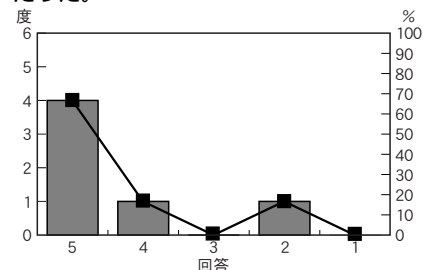
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



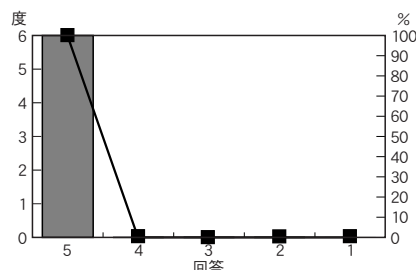
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



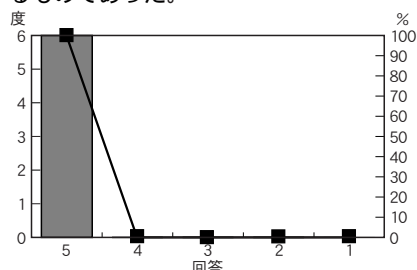
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は技術講座の尾崎教授との協働により運営される授業で、内容は木材を素材とした小型家具のデザインとその制作である。条件として、加湿熱によって加工された曲げ材を使用する事となっており、この曲げ加工も各自で行っている。

例年のことながら、「教育に対する見方や考え方を学べるものだったか」という項目のみ評価が分かれた。しかし実技分野の特性として、工作の精度や感性、加工能力・計画性を実際に作業する事によって修得して行く（本人の資質を高める）タイプのものであり、これをもって教育現場へ還元していくことを目標としており、教育現場への「即席転用」向けのものとして計画していない。

これ以外の点では受講生から高い評価を得ることができていると感じている。

一方、受講生は自己に対しては厳しく採点する傾向がある。しかし、この授業は木材発注の手間などから大変作業時間を要し、授業外でも教員と各受講生のスケジュールを摺り合わせては、少しずつ作業の積み重ねを行い、多くは完成が翌年の前期にかかる（連休前後が並）。やや負担と訴える者もあるが、これに対して満足してついてきてくれている受講生に感謝をしたい。

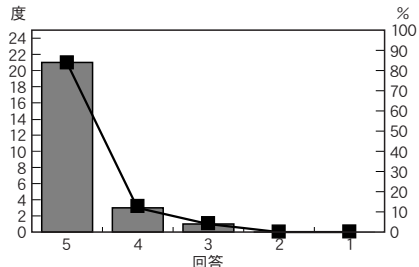
自由記述では「授業への良い感想」は3件あったが「改善点」の記述はなかったため、特にコメントしない。

授業科目名：「運動方法実習Ⅱ」
 評価実施日：平成19年2月1日
 担当教員名：藤田 雅文

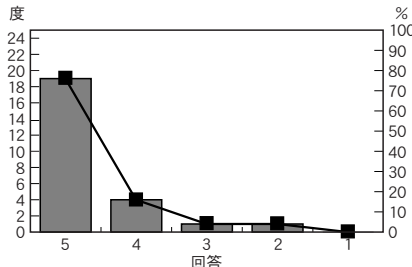
(有効な合計25)

■ 度 ■ %

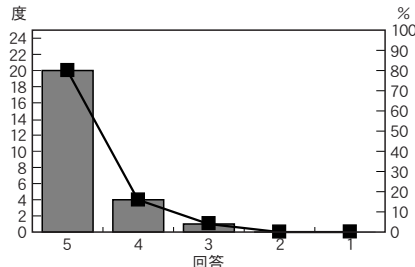
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



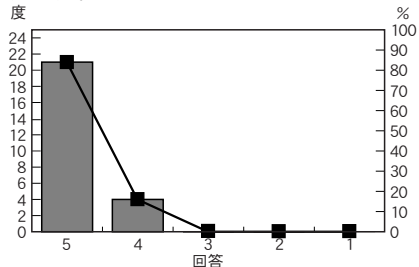
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



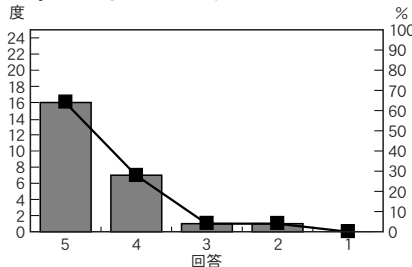
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



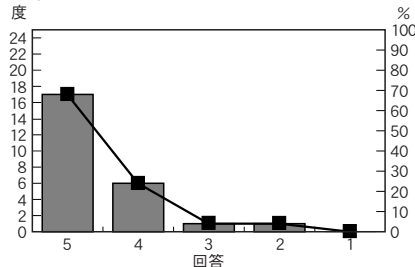
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



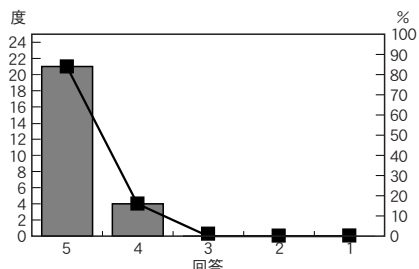
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



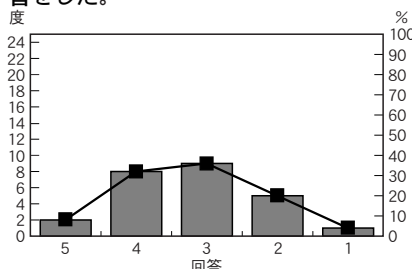
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



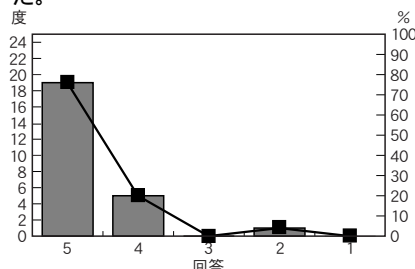
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



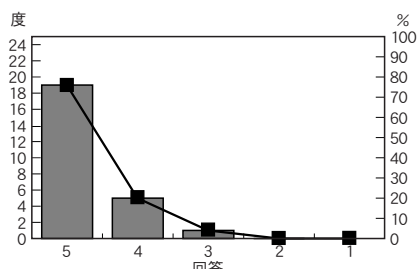
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



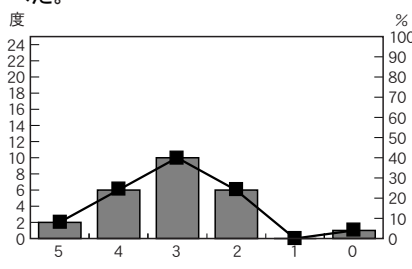
項目分析：(9)
 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



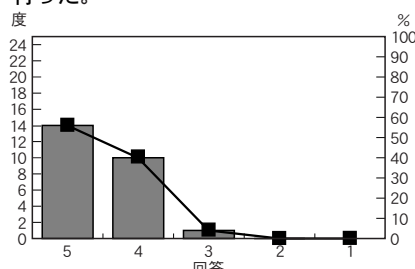
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



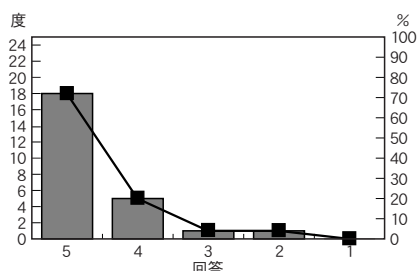
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



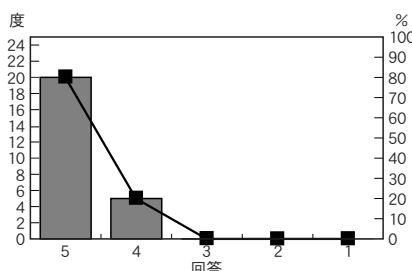
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



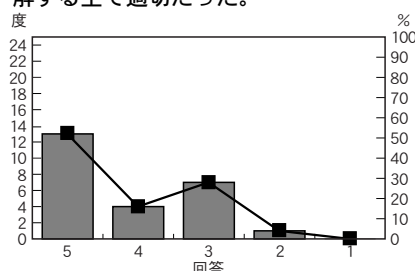
項目分析：(13)
 熱心に指導した。



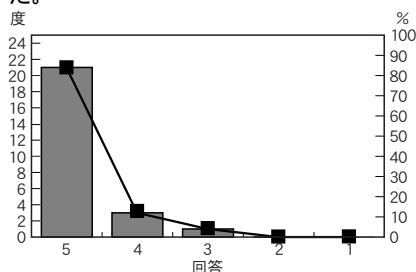
項目分析：(14)
 授業内容を分かりやすく説明した。



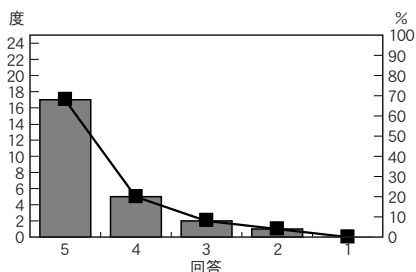
項目分析：(15)
 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



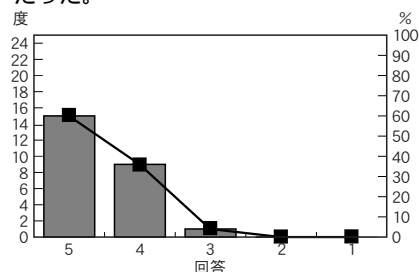
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



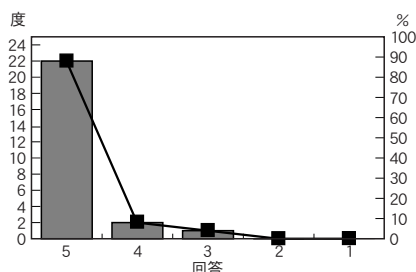
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



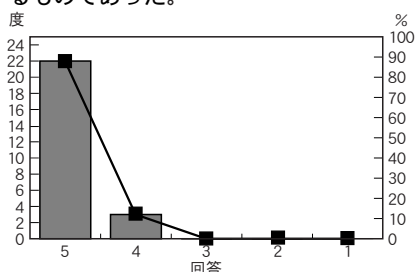
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

項目ごとの平均値は、以下の通りである。授業に対する満足度が4.88であることから、総合的には高い評価を得たと考えている。

- | | | |
|---|------------------|--------|
| 1 | 授業概要について | (4.72) |
| 2 | 授業の内容等について | (4.67) |
| 3 | あなたの授業への取り組みについて | (4.10) |
| 4 | 教員の授業の進め方について | (4.64) |
| 5 | 授業に対する満足度 | (4.88) |

「この授業でよかったこと」について、25名中22名が、単一または複数回答していた。

その内容は以下の通りである。

- | | |
|---------------------|-----------|
| 「できなかった技ができるようになった」 | 10名 (40%) |
| 「指導法に関する多くの知識を得た」 | 9名 (36%) |
| 「多様な技に挑戦できた」 | 4名 (16%) |
| 「安全に十分な配慮がされていた」 | 3名 (12%) |

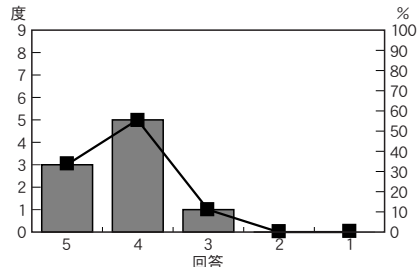
要望として、けが防止の方法の詳細な説明、個人指導の徹底を望む声があったので、次回の開講時にはこれらについて改善していきたい。

授業科目名：「運動方法実習Ⅹ」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 31 日
 担当教員名：安藤 幸

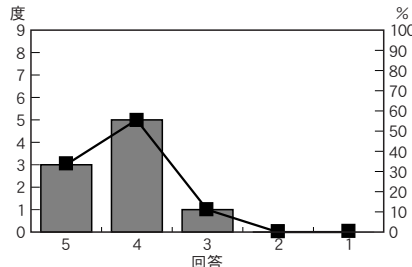
(有効な合計 9)

■ 度 ■ %

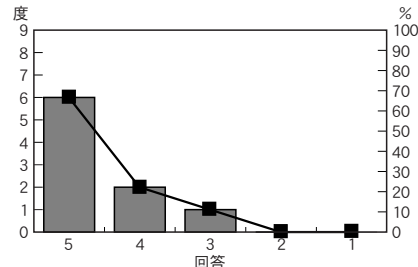
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



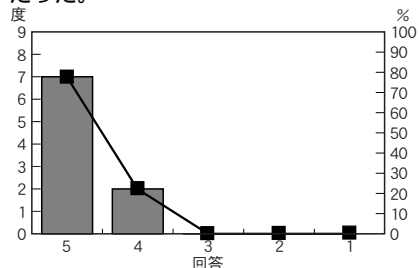
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



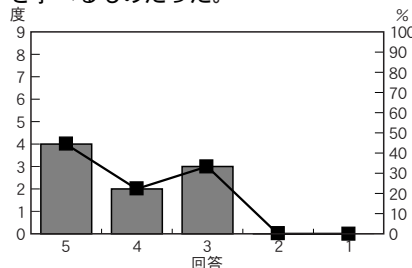
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



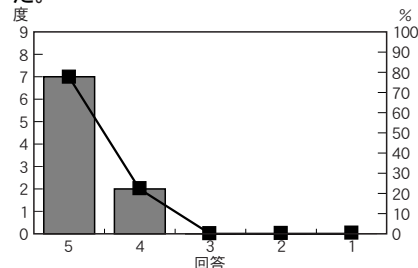
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



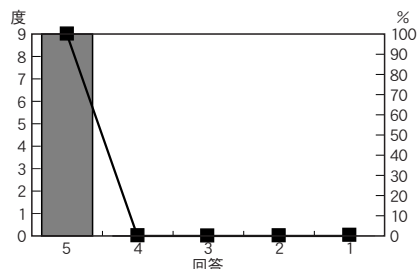
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



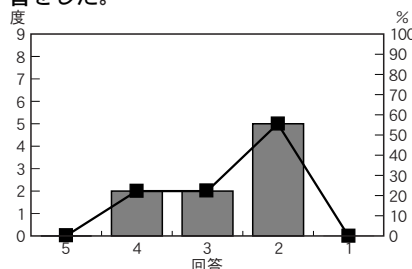
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



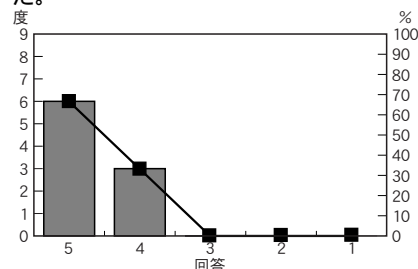
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



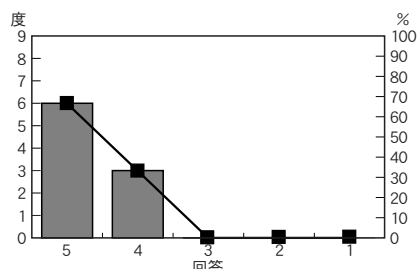
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



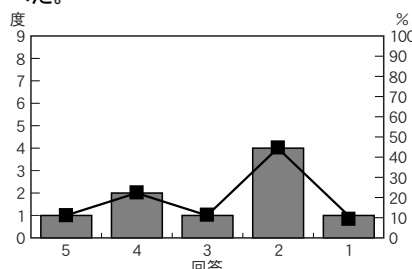
項目分析：(9)
 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



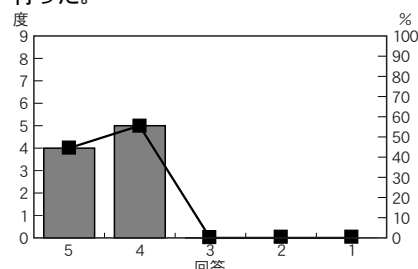
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



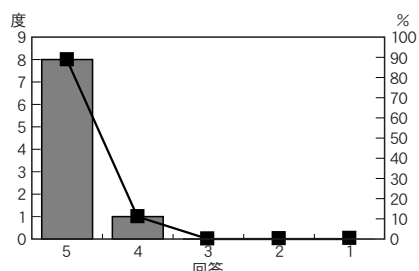
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



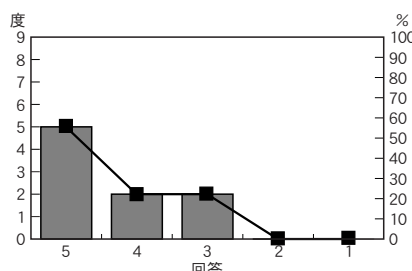
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



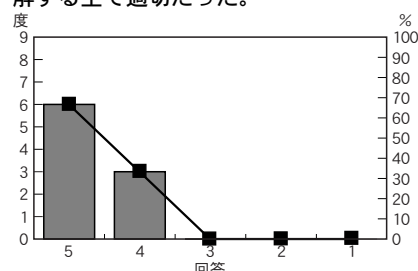
項目分析：(13)
 熱心に指導した。



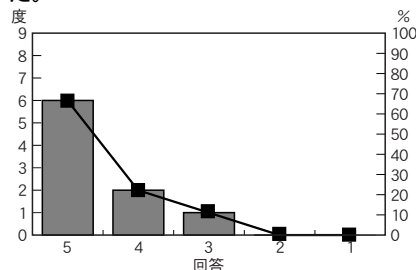
項目分析：(14)
 授業内容を分かりやすく説明した。



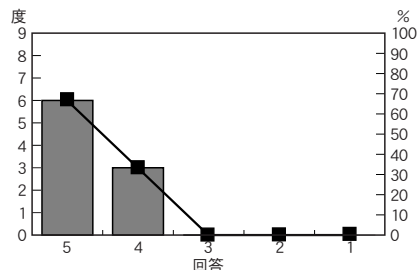
項目分析：(15)
 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



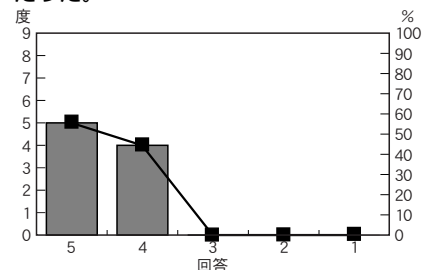
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



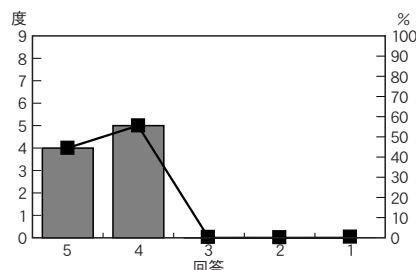
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



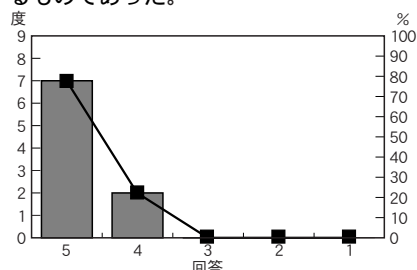
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

運動方法実習Xは、学部3年生と4年生を対象とした授業であった。4年生にとっては、教員採用試験直前であり、実技が必要であるという意識が強かったので、クラスの雰囲気は、全ての課題に対して積極的でとてもよい雰囲気であった。その結果、授業の内容について「概要に沿っていた・教養や専門性を高めるものであった・興味関心を引くものであった」の項目において70%以上が「非常にそうである」と回答した。「かなりそうである」を加えると90%以上が、肯定的に回答した。学生の授業に参加した態度は、100%がよく授業に出席したと回答した。しかし、実技であるので、予習や復習に対しては、消極的であった。教員の授業に対する態度については、熱心に指導した項目に対して「非常にそうである」と90%近くが回答したが、「分かり易かったか」の項目と「配布資料や機器の使用」についての項目は、66%であった。もう少し丁寧に指導する必要があったと反省している。この授業で創作した作品「蜘蛛の糸」は、平成19年2月12日に実施した「鳴門教育大学第21回創作舞踊公演」で発表した。講演は、授業が終わってからの発表であったが、クラス全体で作品を作り、それを発表するという機会があり、「運動方法実習X」を履修してよかったという声が多かった。

授業科目名：「体育哲学Ⅱ」

評価実施日：平成 18 年 7 月 20 日

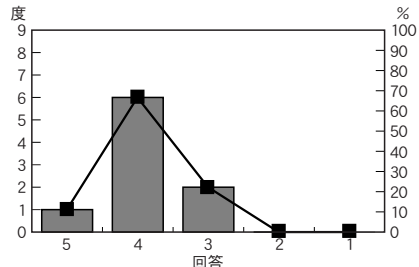
担当教員名：綿引 勝美

(有効な合計 9)

■ 度 ■ %

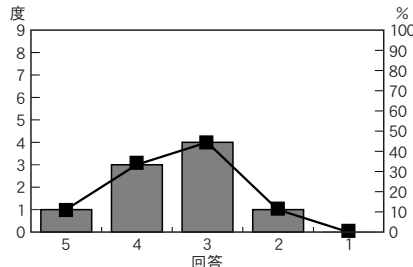
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



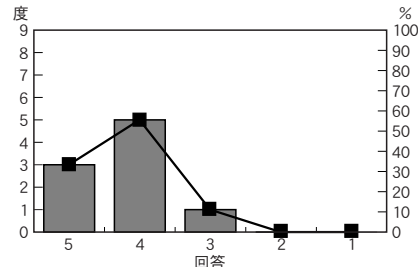
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



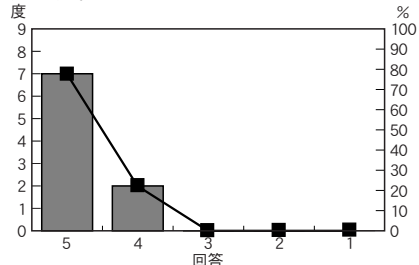
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



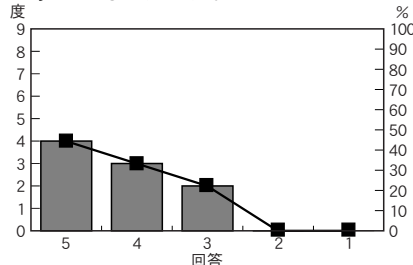
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



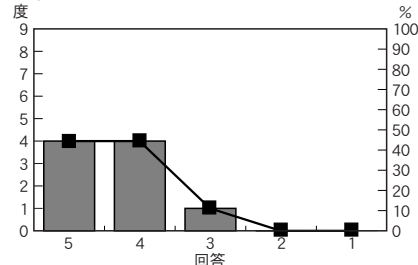
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



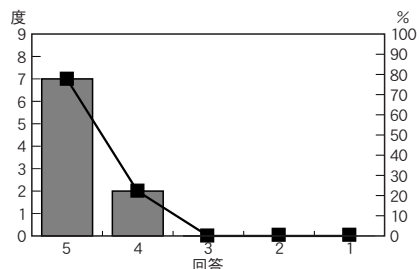
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



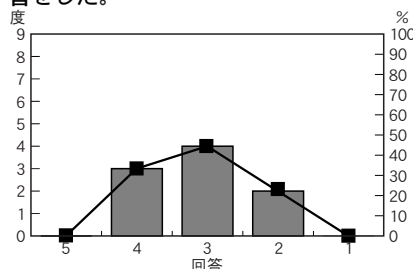
項目分析：(7)

授業によく出席した。



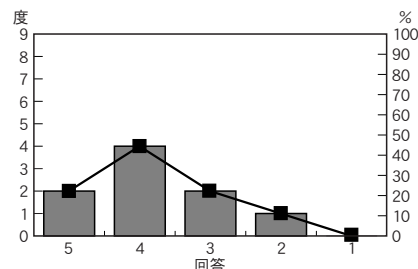
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



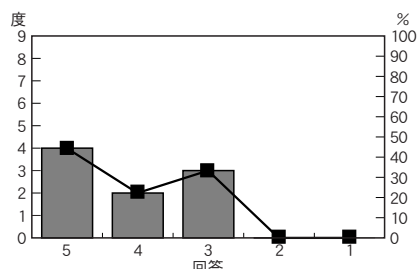
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



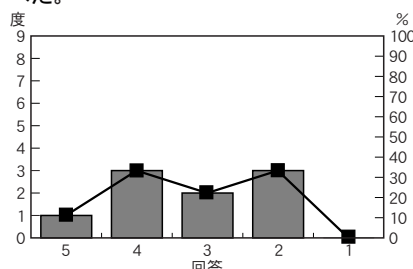
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



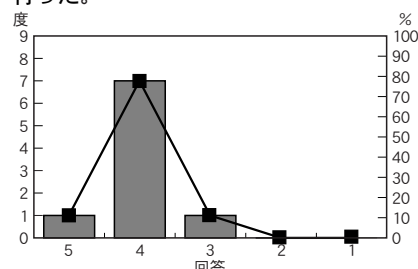
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



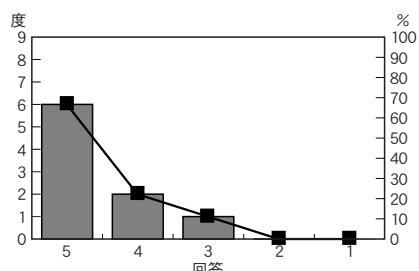
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



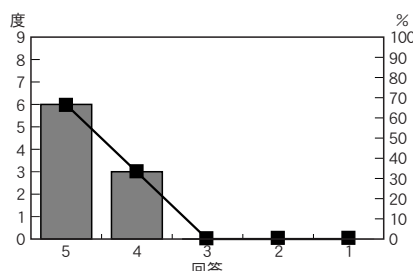
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



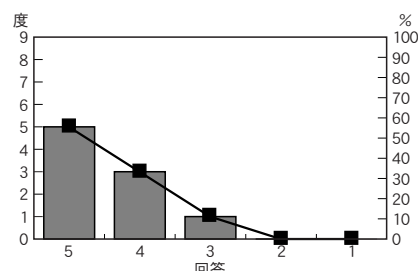
項目分析：(14)

熱心に指導した。

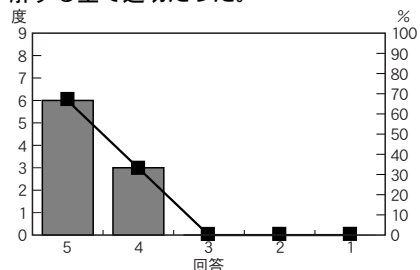


項目分析：(15)

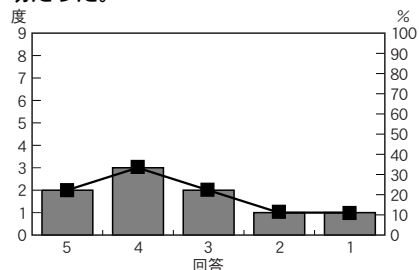
授業内容を分かりやすく説明した。



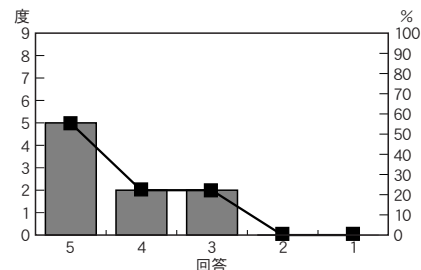
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



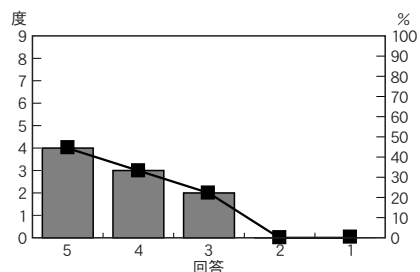
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



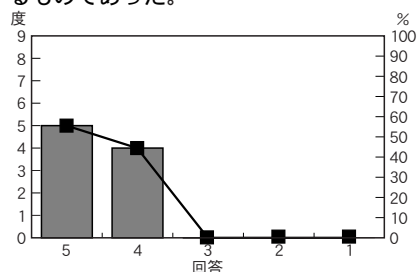
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

Moodleサイトをつくり、授業のなかで使う資料やWebサイトを利用できるように工夫した。とくに、「身体の私的な専有」という考え方をいろいろな側面から検討するという意味で役だったと考えている。

Moodleサイトにアクセスし、フォーラムなどへの投稿という作業をとおして、自分の考え方を文字にすることによって、考え方の深まりや学習すべき内容の面で不十分性を確認することが容易になったようである。入力内容も、履歴として残されることから、考え方がどのように変化してきたか、ということについての気づきも促すことができた。

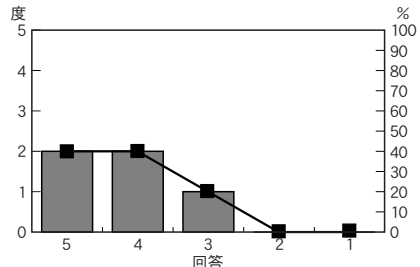
今後は授業時間以外での作業課題を明確にするとともに、授業で実際に顔を合わせた状態での課題を明確にすることをあわせて、身体や運動、スポーツについての幅広い理解とその情報を駆使できる能力とはなにか、という点についての具体的な像を提示していきたいと考えている。

授業科目名：「体育社会学Ⅱ」
 評価実施日：平成18年7月27日
 担当教員名：木原 資裕

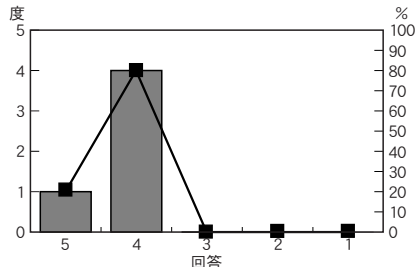
(有効な合計5)

■ 度 ■ %

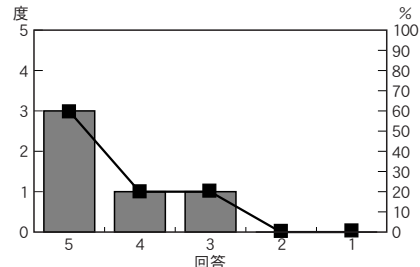
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



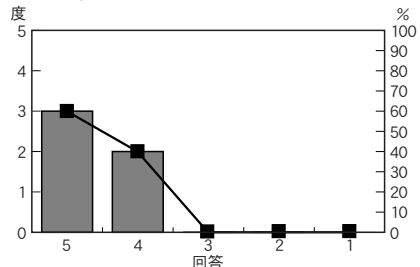
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



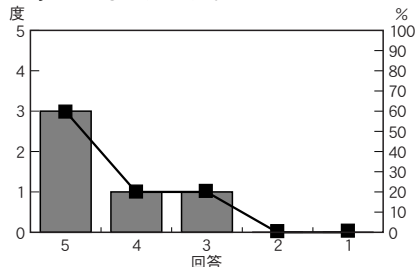
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



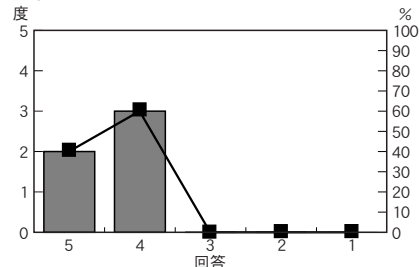
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



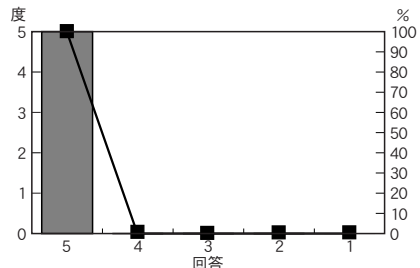
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



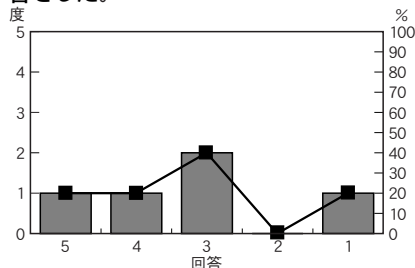
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



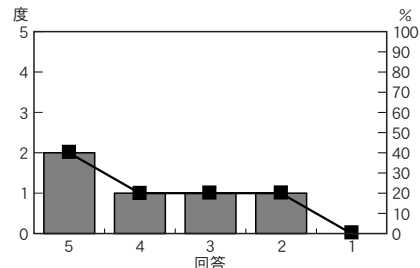
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



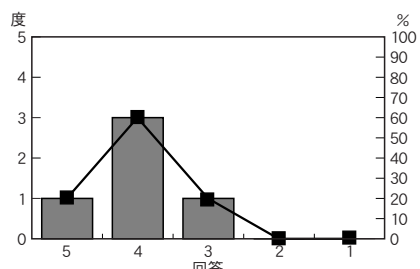
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



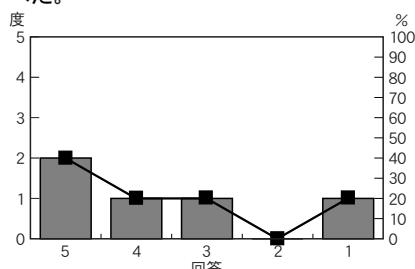
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



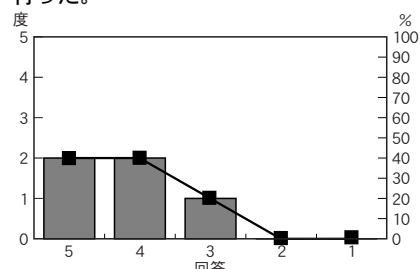
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



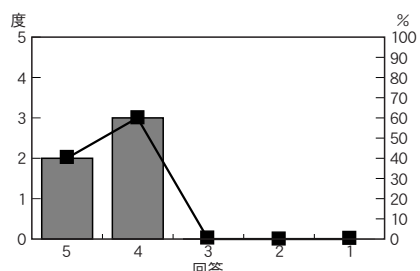
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



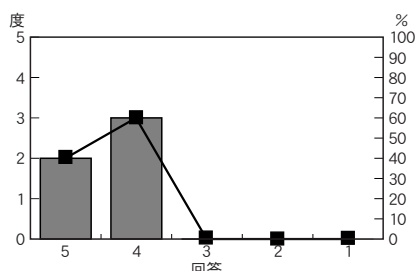
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



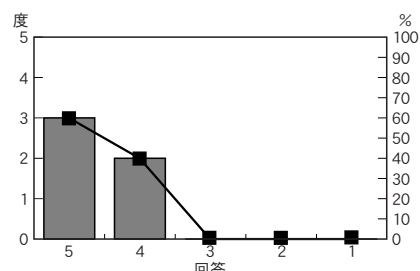
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



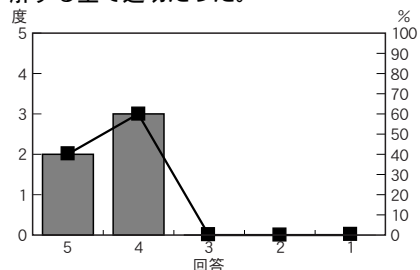
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



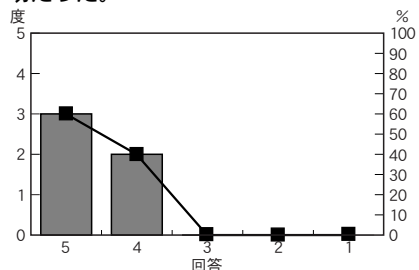
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



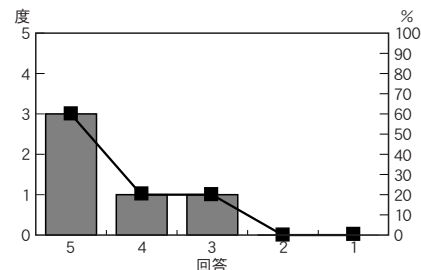
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



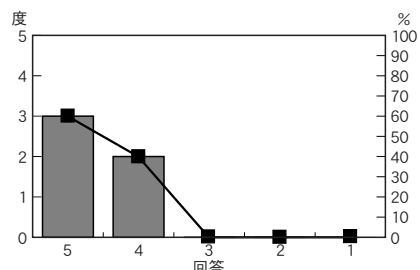
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



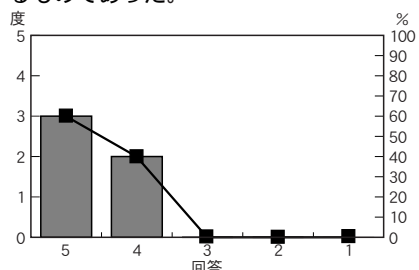
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

「20. この授業は自分自身にとって満足できるものであった。」の項目に対して、平均値 4.6 であり、受講生の満足度としては、まずまずであったと思う。全項目中、平均値 5.0 と最も高い値を示したものは「7. 授業によく出席した」であった。このことは、毎回出席をとり、成績評価の要点としたことが、大きく影響しているものと推察できる。また、次に高い平均値を示した項目として「15. 授業をわかりやすく説明した」（平均値 4.6）、「17. OHP やビデオなどの視聴覚機器の利用が適切だった」（平均値 4.6）「19. 授業の進む速さは自分にとって適切だった」（平均値 4.6）があるが、私自身が授業実施上、留意している分かりやすく話をし、視聴覚教材をできるだけ多く使用することを受講生がそれなりに評価してくれているように思える。

一方、全項目中、最も低い平均値を示した項目は、「8. 授業内容をよく理解するために予習や復習をした」（平均値 3.2）であった。次いで「11. 分からないことや疑問に思ったことは調べた」（平均値 3.6）であり、授業にはよく出席するが、授業以外では、授業に関する勉強はしない実態が読みとることができる。このことは、私自身が受講生に予習復習をあえて要求することもなく、授業時間の中で理解し得る程度の内容と授業展開に起因することかもしれない。

授業科目名：「運動学Ⅰ」

評価実施日：平成18年11月27日

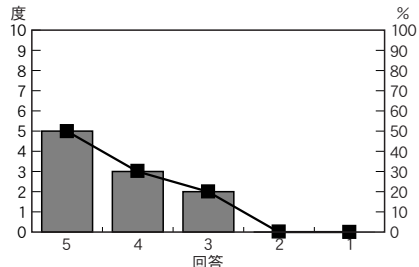
担当教員名：乾 信之

(有効な合計10)

■ 度 ■ %

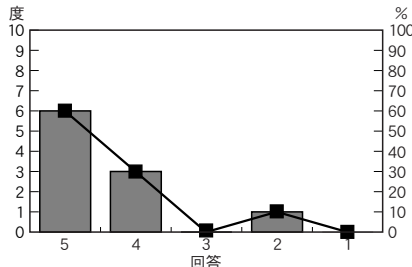
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



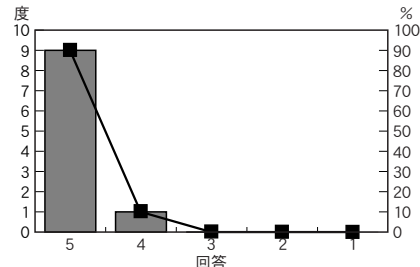
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



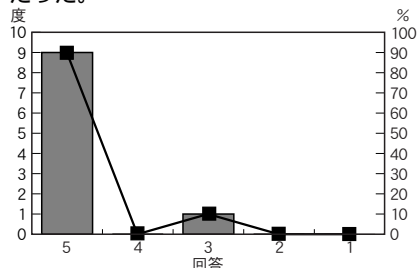
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



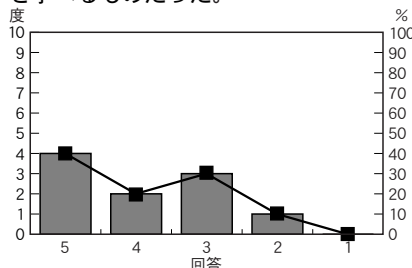
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



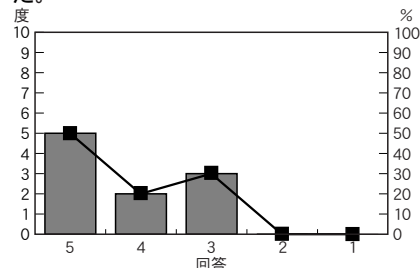
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



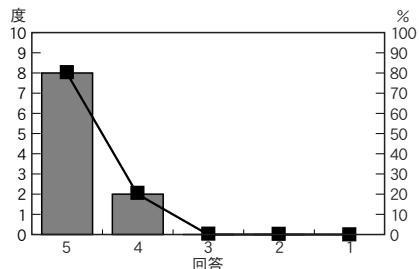
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



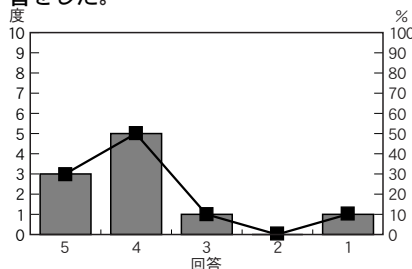
項目分析：(7)

授業によく出席した。



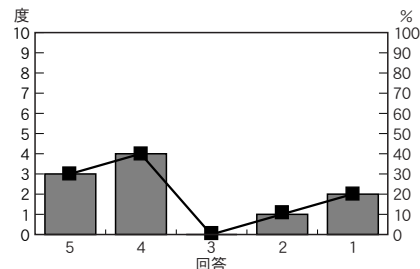
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



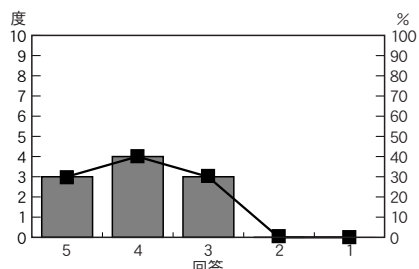
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



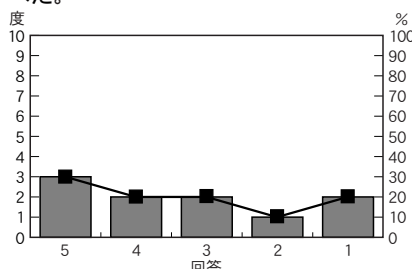
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



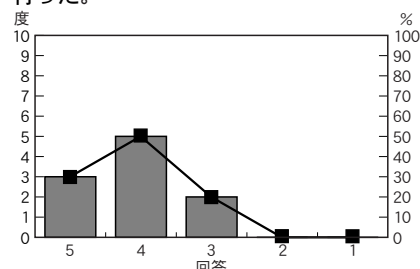
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



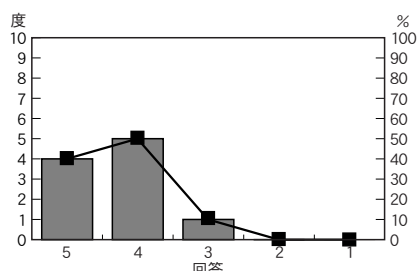
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



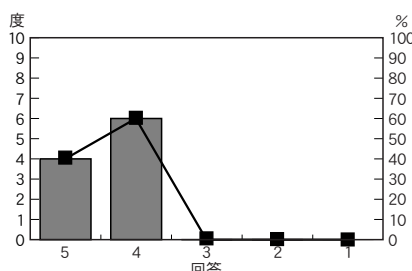
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



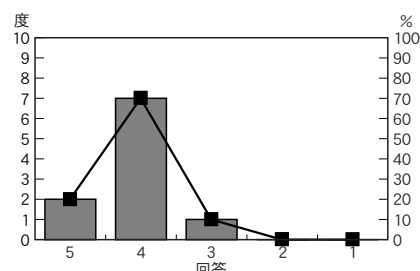
項目分析：(14)

熱心に指導した。

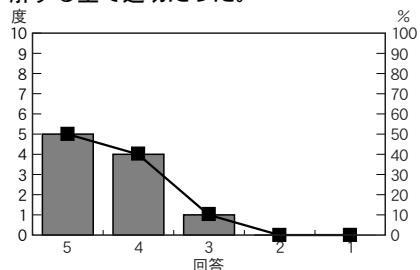


項目分析：(15)

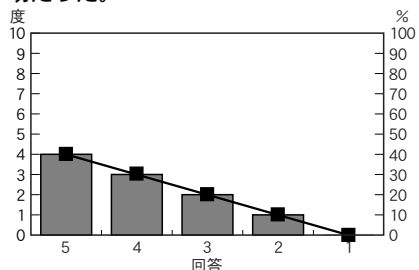
授業内容を分かりやすく説明した。



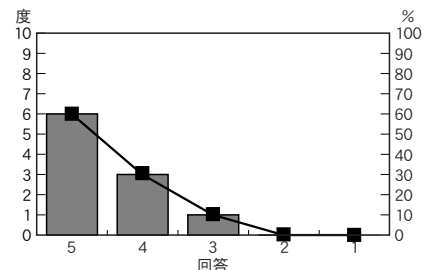
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



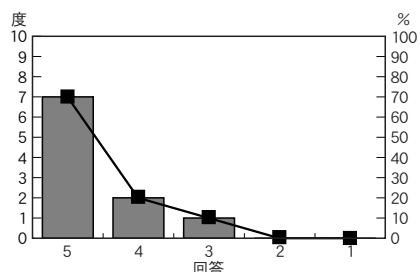
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



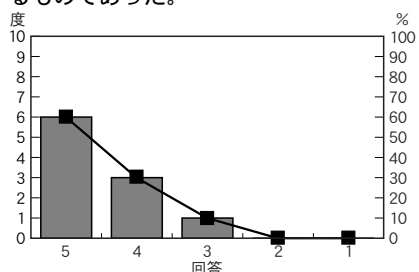
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

受講生の出席率は高く、こちらの講義に対する熱意も受け取っている。しかし、「講義内容への興味と関心」と「受講生の聴講の仕方」の項目は3～5に分布し、幾分質の低下がみられる。さらに、「予習・復習」と「さらなる自己学習」の項目は1～5に分布し、かなりの質的低下を示している。

講義の前後の自己学習はあまり期待できないので、こちらから課題を出すようにしていかないと、講義の前後の学習は活性化されないと思われる。

授業科目名：「生理学 I・II」

評価実施日：平成 19 年 2 月 22 日

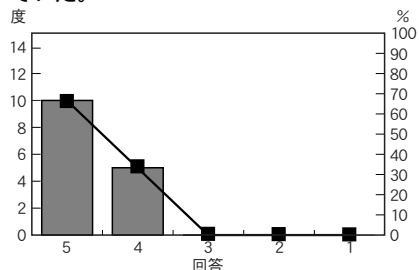
担当教員名：田中 弘之

(有効な合計 15)

■ 度 ■ %

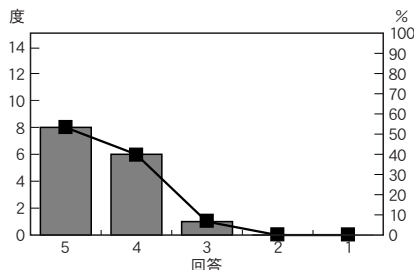
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



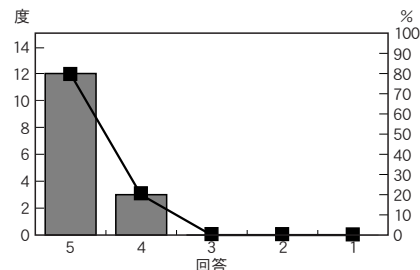
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



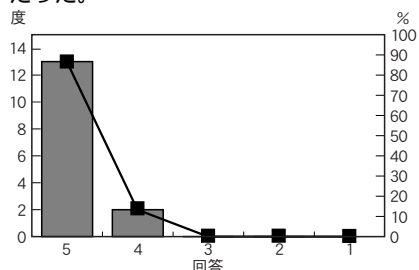
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



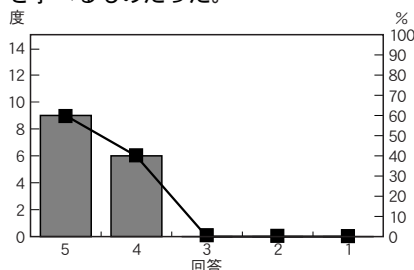
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



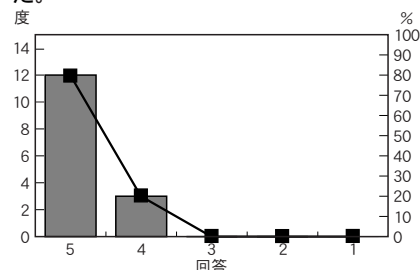
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



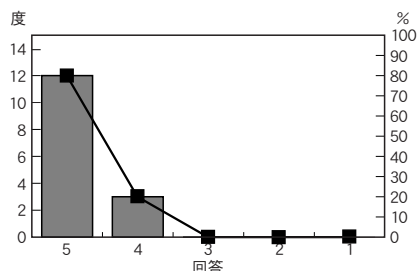
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



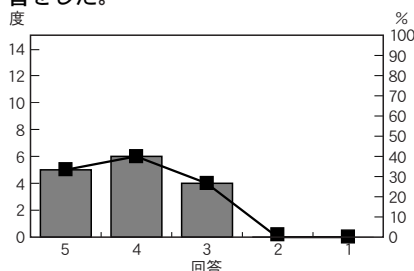
項目分析：(7)

授業によく出席した。



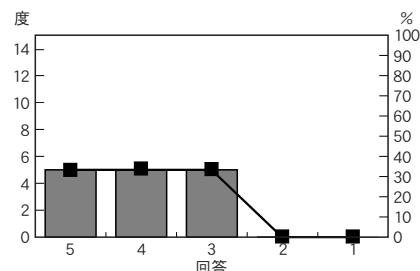
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



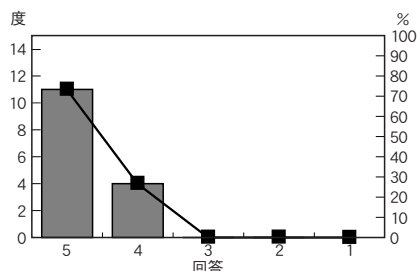
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



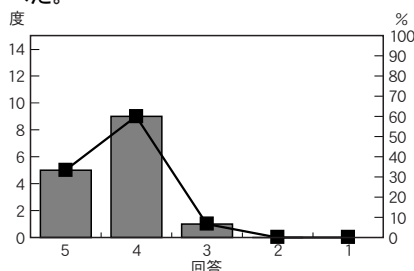
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



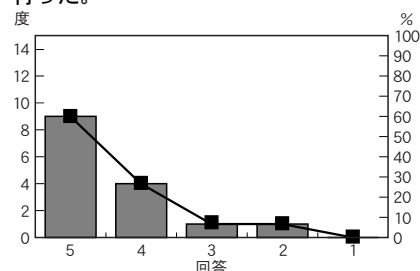
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



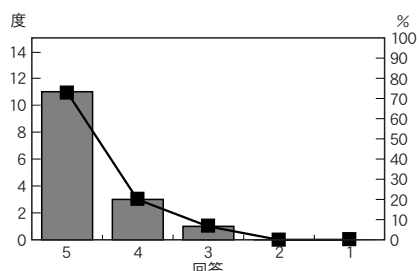
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



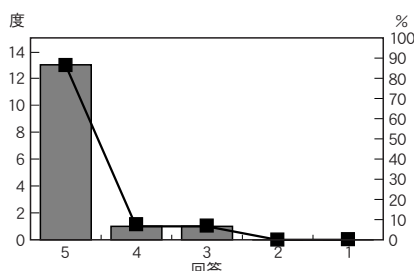
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



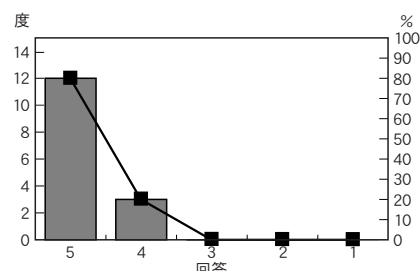
項目分析：(14)

熱心に指導した。

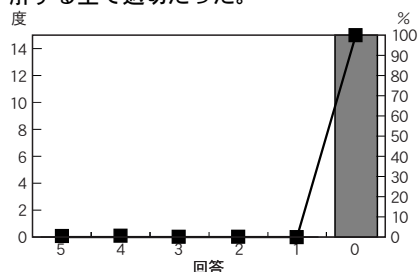


項目分析：(15)

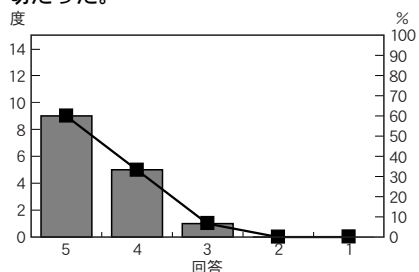
授業内容を分かりやすく説明した。



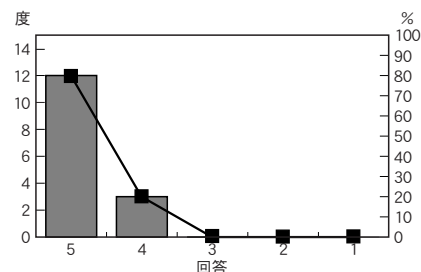
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



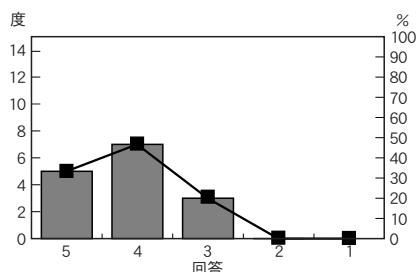
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



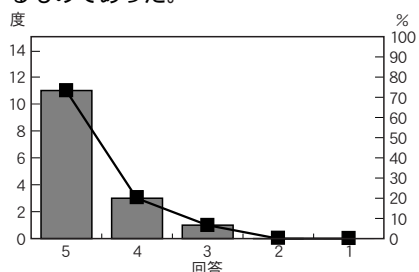
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全体の集計結果における平均値は、4.56 であり、概ね良い評価が得られたものと推察される。

学生による自由記述の概略では『専門性を深めることができた』『分かりやすく面白かった』『必要な知識を身につけることができた』『学生に発言する機会をよく与えた』『日常生活に活かせる』『規律のある授業でとても充実していた』などを‘よかったこと’と評価し、『授業時間が足りない』『授業の進行が速い』『もう少し具体例が欲しい』『難しい』などを‘改善したほうがよいと思うこと’と評価していた。

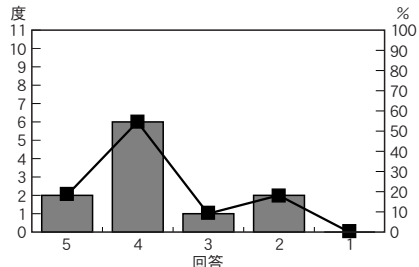
これらの‘改善したほうがよいと思うこと’の記述について、授業時間が足りないために授業の進行速度が速くなつて具体例を挙げる余裕がなく、その結果として難しいと評価されると類推され、授業内容の厳選等を今後の改善課題としたい。

授業科目名：「学校保健Ⅱ」
 評価実施日：平成19年2月15日
 担当教員名：吉本 佐雅子

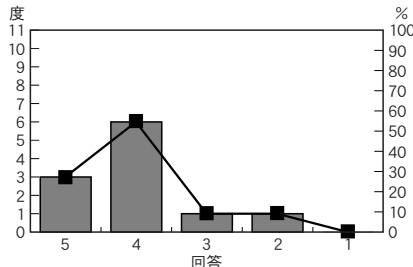
(有効な合計11)

■ 度 ■ %

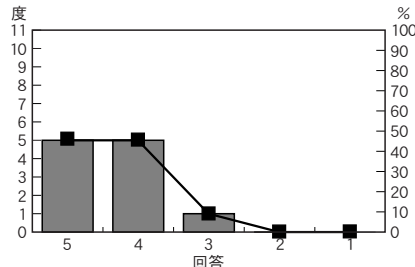
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



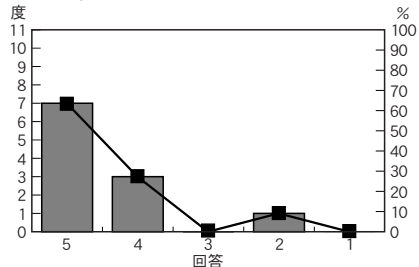
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



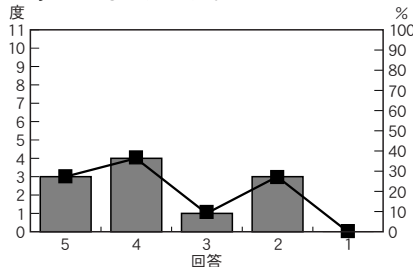
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



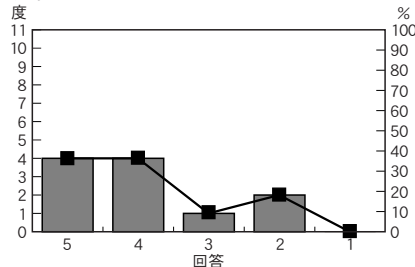
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



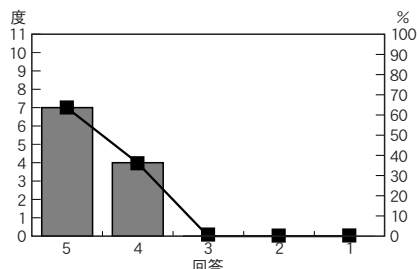
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



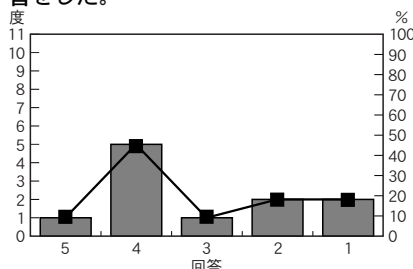
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



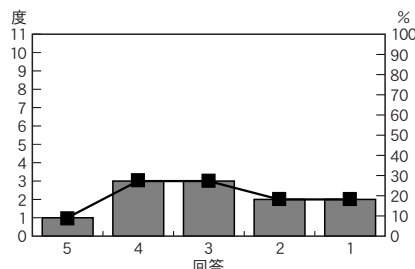
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



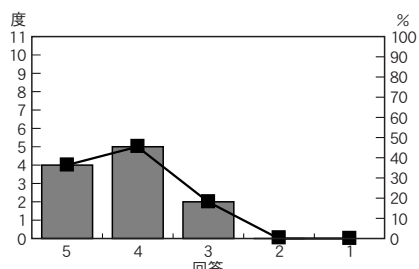
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



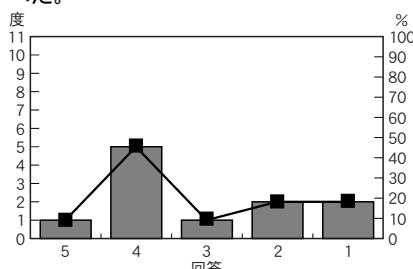
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



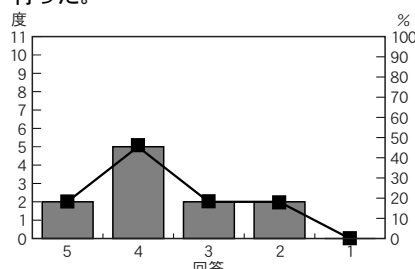
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



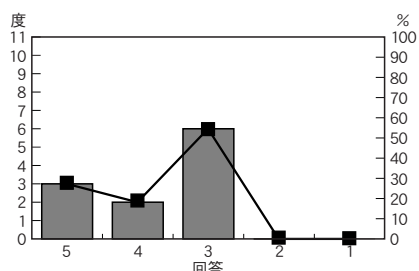
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



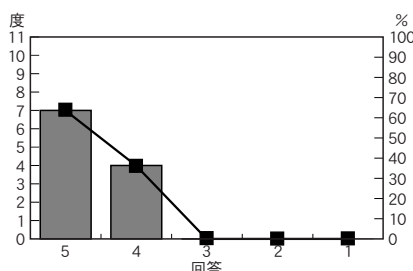
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



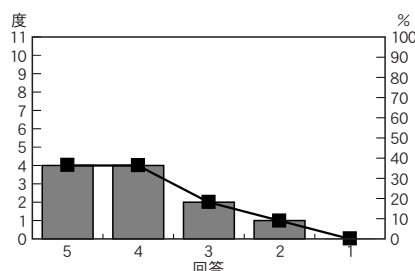
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



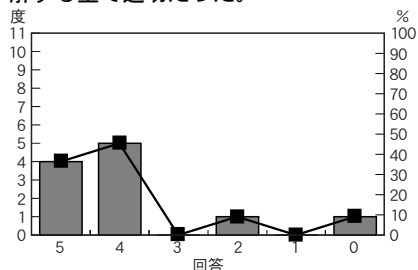
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



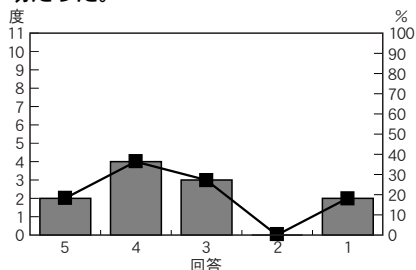
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



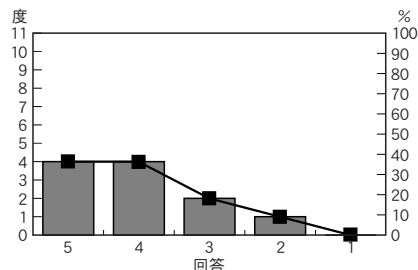
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



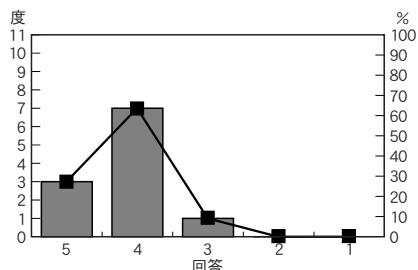
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



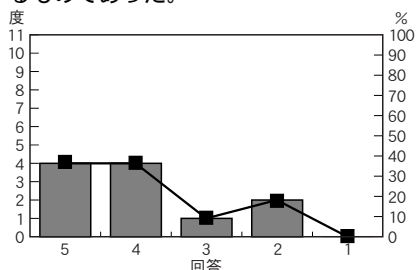
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

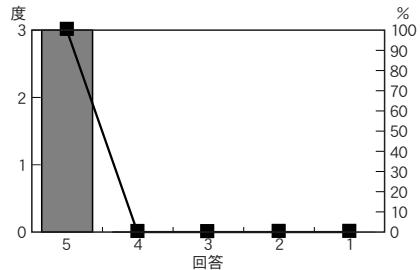
今回の評価は全体として、昨年度と比べ、低い傾向があったが、「授業内容は教養や専門性を高めるものだった」に関しては高い評価が示された。また、授業の良かったこととして「保健に関する専門的な事が学べた」、「学校保健の現状がよく分かった」等の好評が見られたが、一方で「用語がむずかしかった」「学生参加型にして欲しかった」などの苦言もあった。本年度この授業では、保健の理論、体系的な理解に関する内容を意図的に例年より多くした。そのため、専門性を高める一方で、全体的な満足度は若干を低くしていたものとする。この授業形態を来年度も継続する予定であるが、全体的な満足度を高めるよう、また、学生が参加しやすい授業に改善して行くつもりである。

授業科目名：「学校体育経営論」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 26 日
 担当教員名：藤田 雅文

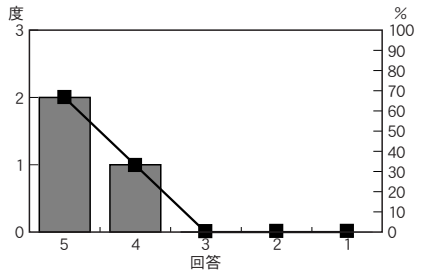
(有効な合計 3)

■ 度 ■ %

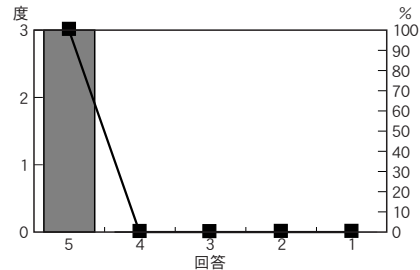
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



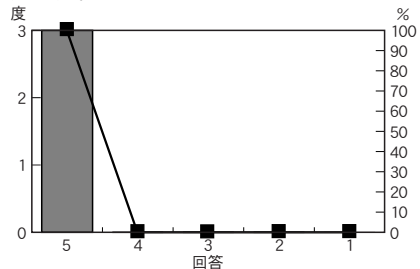
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



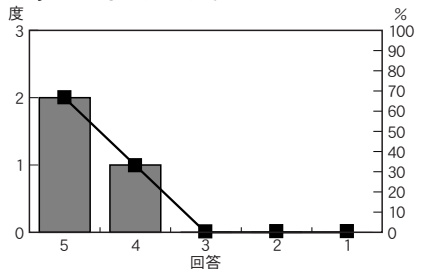
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



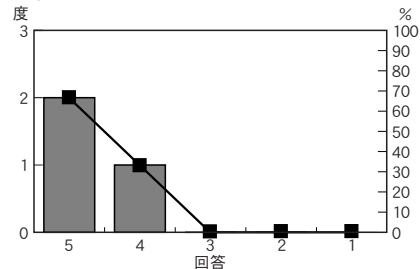
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



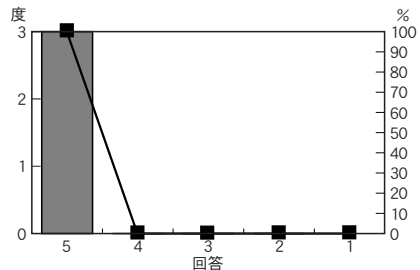
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



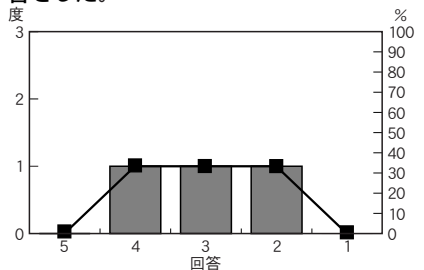
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



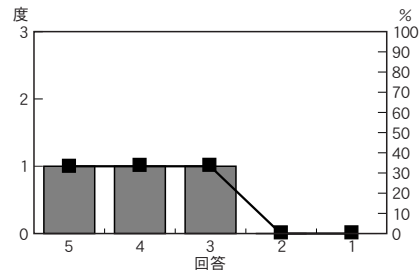
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



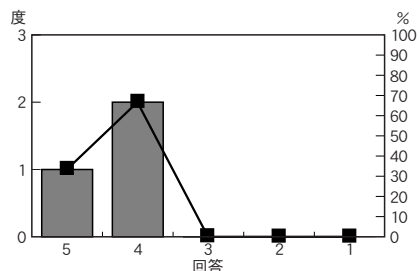
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



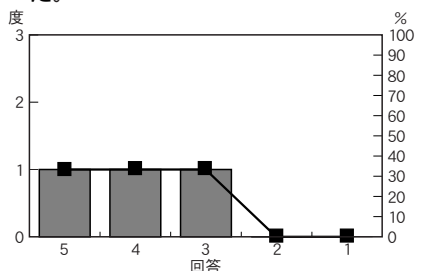
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



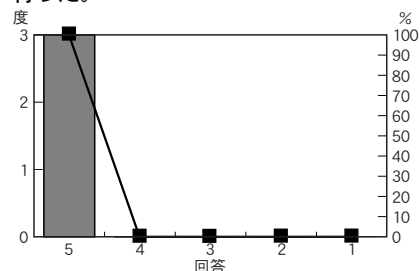
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



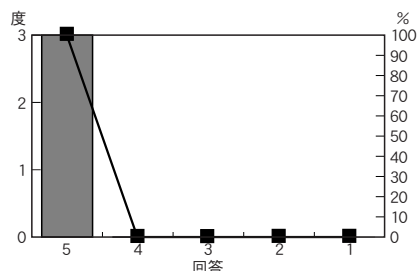
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



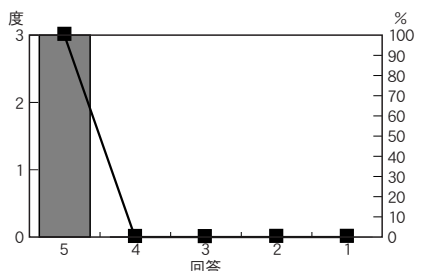
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



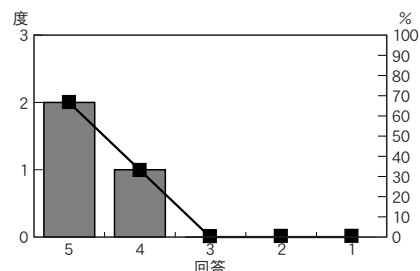
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



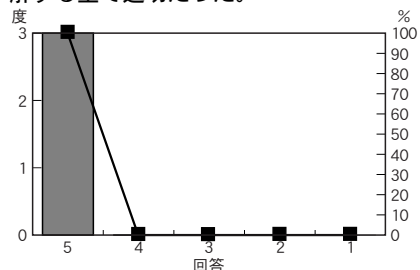
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



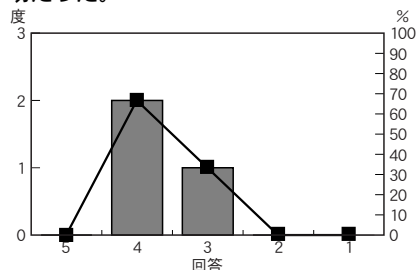
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



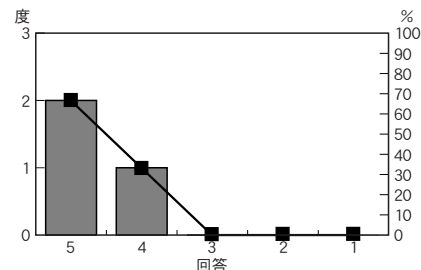
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



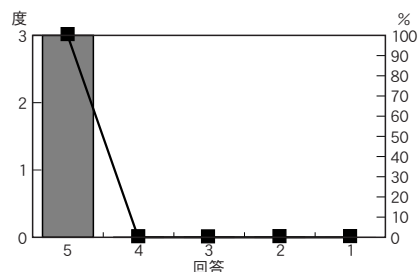
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



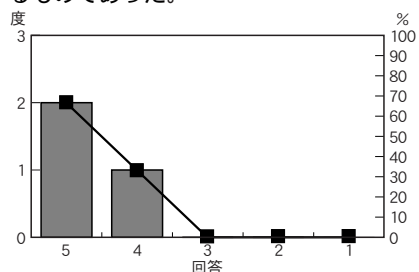
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

以下は、3名の受講生の回答について、項目ごとに平均値を算出した結果である。

1 授業概要について	4.8
2 授業の内容等について	4.8
3 あなたの授業の取り組みについて	4.1
4 教員の授業の進め方について	4.8
5 授業に対する満足度	4.7

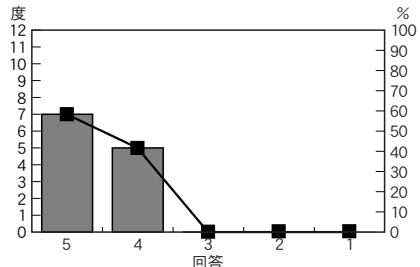
授業の概要・内容・進め方が4.8、満足度が4.7であることから、良い評価を得たと考えている。ただし、受講生の取り組みの予習・復習の評価が3.0であり、やや低いため、今後は小テストを行うなどの改善をしていきたい。

授業科目名：「バイオメカニクス」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 14 日
 担当教員名：松井 敦典

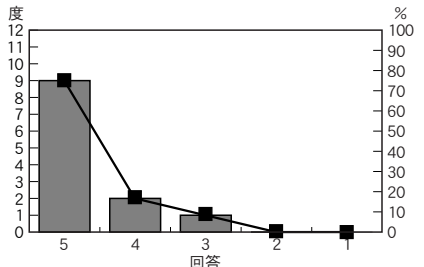
(有効な合計12)

■ 度 ■ %

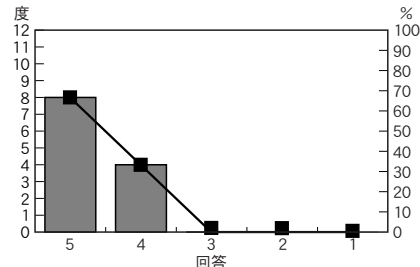
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



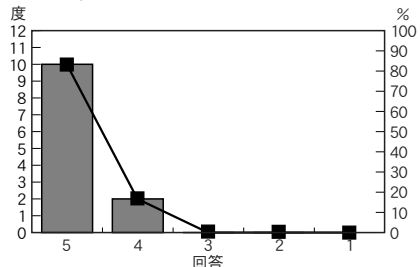
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



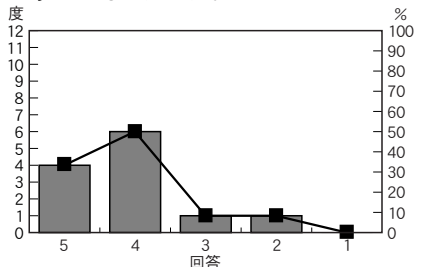
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



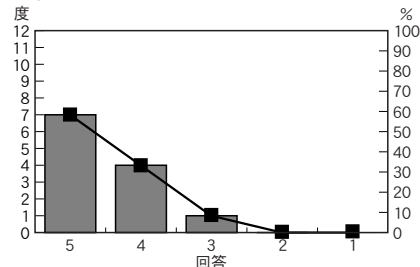
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



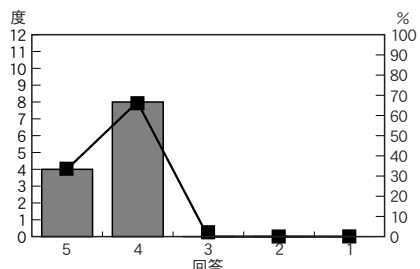
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



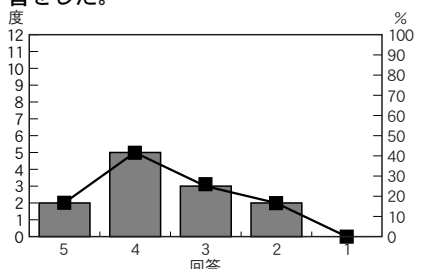
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



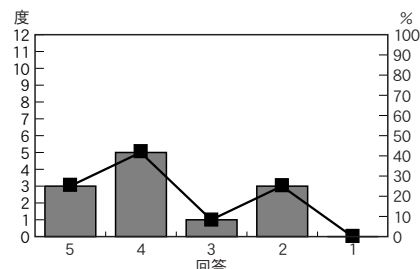
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



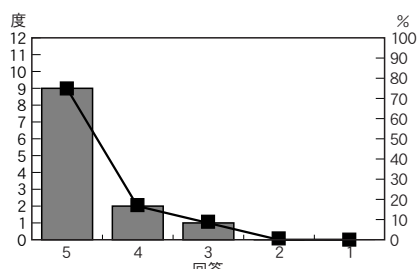
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



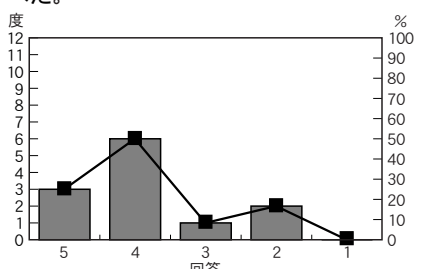
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



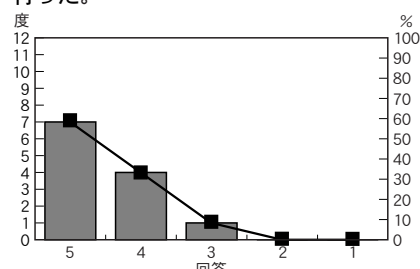
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



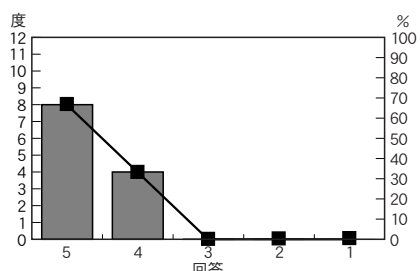
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



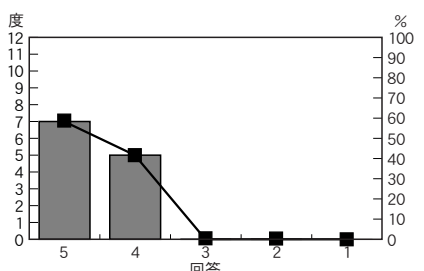
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



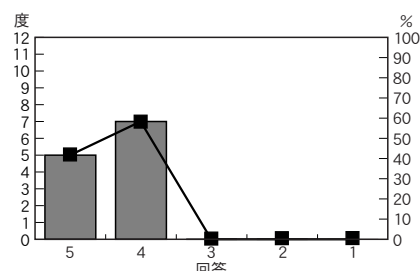
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



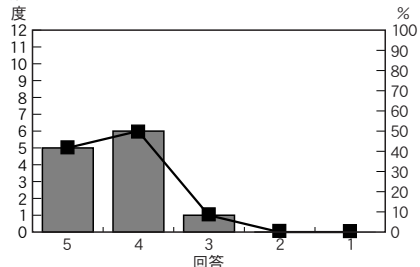
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



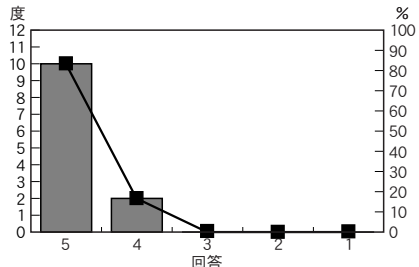
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



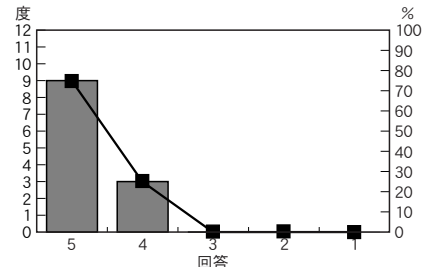
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



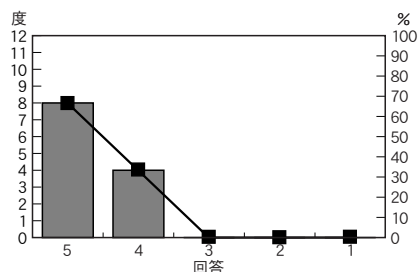
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



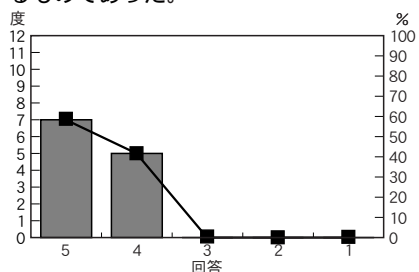
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業は、体育科専修・保健体育科専攻の専門科目として開講されている選択授業である。対象学部生 10 名のうち 10 名全員に、長期履修大学院生 2 名を加え、合計 12 名の受講生であった。いままでの授業評価の反省をふまえ、受講生個々が主体的に授業内容を学習するためのプレゼンテーション課題を課した。このことが受講生の好意的な評価に反映していると思われる。授業の良かった点として回答のあったものは次のとおりである。

- 物理が好きなので、体育を物理的に見ること、活かすことができてよかった。
- 運動の仕組みについて知ることができた。
- 専門性が高まる授業であった。(同類 2 件)
- バイオメカニクスの重要性がよくわかった。
- 様々な知識が身につけてよかった。(同類 3 件)
- シューズのプレゼンがよかった。プレゼンのためにいろいろなことを調べることができた。
- 具体的な例でわかりやすかった。

さらに受講生の自発的な学習を促す対策を講じつつ、内容を深めていきたい。

授業科目名：「スポーツトレーニング論」

評価実施日：平成 18 年 6 月 28 日

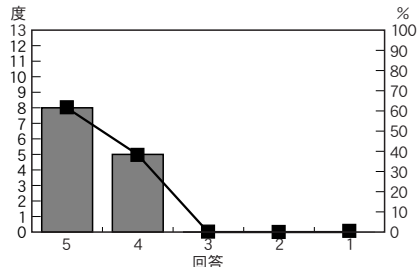
担当教員名：南 隆尚

(有効な合計13)

■ 度 ■ %

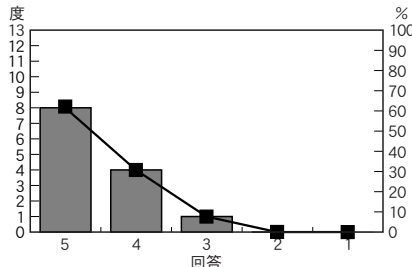
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



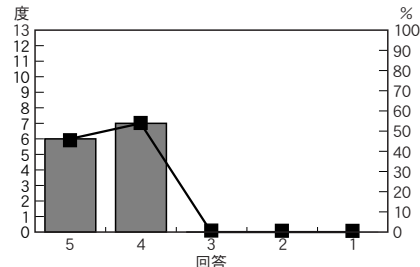
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



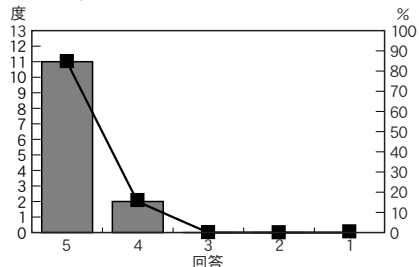
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



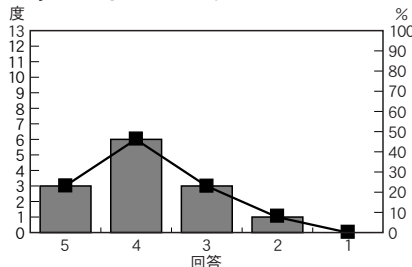
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



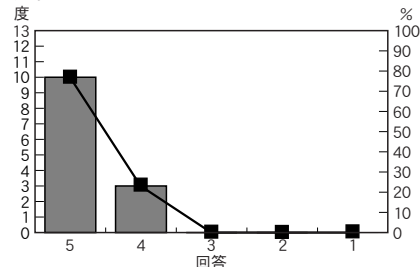
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



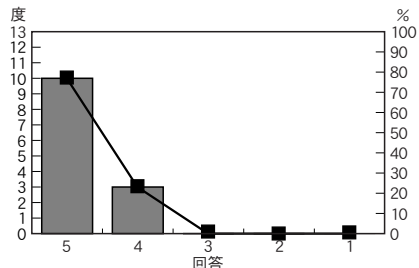
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



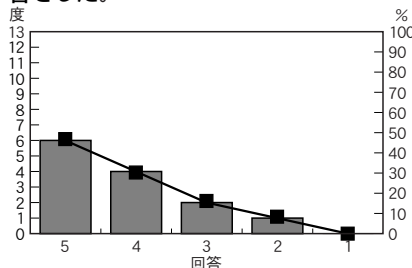
項目分析：(7)

授業によく出席した。



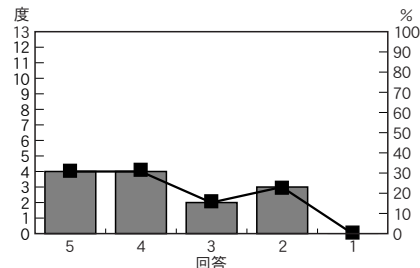
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



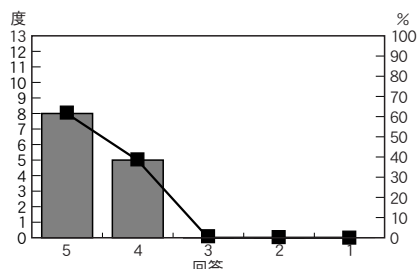
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



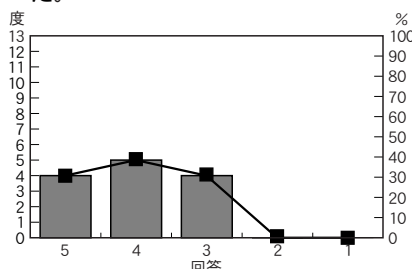
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



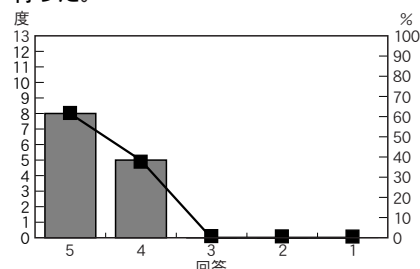
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



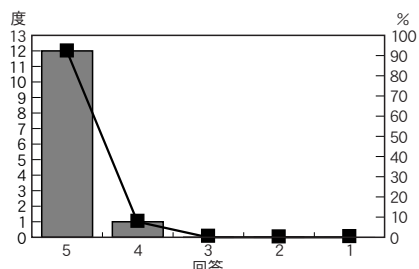
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



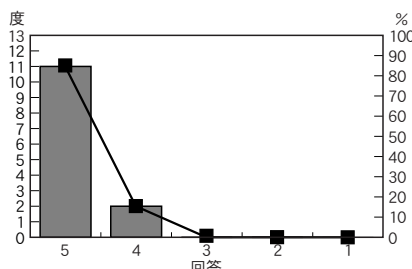
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



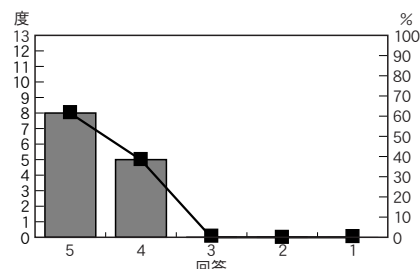
項目分析：(14)

熱心に指導した。

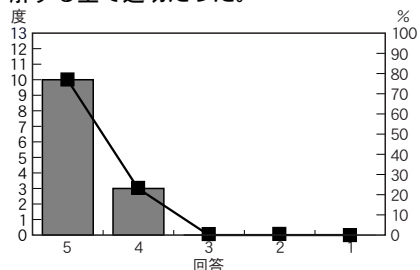


項目分析：(15)

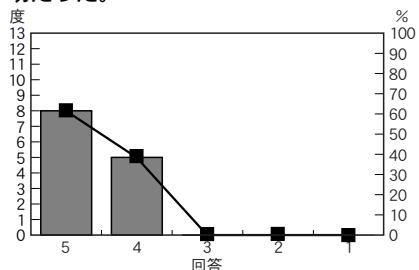
授業内容を分かりやすく説明した。



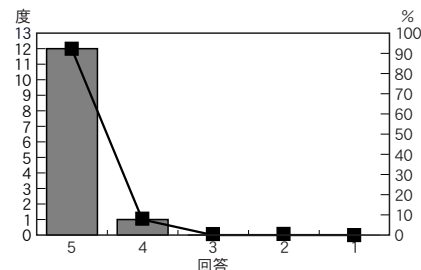
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



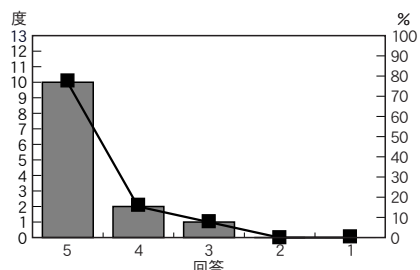
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



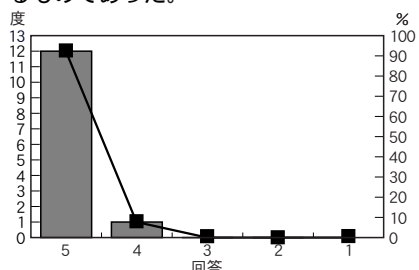
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

スポーツ・トレーニングに付随する内容についてテーピングやマッサージ、救急処置等の実技を加えた演習形式で授業を行った。

学生からの評価1 授業概要については、概ね良好であったと考えられる。2 授業内容については、「(5)教育に対する見方や考え方を学べるものであった」の最頻値は4であるが、3の評価も複数名いたことは、実技面だけでなく、基礎的な考え方や原理などについて考える場面を設定する必要がある。また「(9)授業中に積極的な発言をした」「(12)わからないことや疑問に思ったことを調べた」等の評価もわかれ、学生の自発的な活動の場面の提供が必要であると考えられる。3 あなたの授業への取り組みや4 教員授業の進め方については概ね好評であった。特に5 授業に対する満足度は92%の評価が5であり、昨年より向上した。昨年より、授業進度を調整し、学生の問題意識を授業当初に聞いた点が授業改善に繋がったものと考えられる。

学生からのコメントについても、テーピング実技についての者が多く、より実地的な内容を求めていることがうかがえる。

授業科目名：「木材及び木質材料学」

評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日

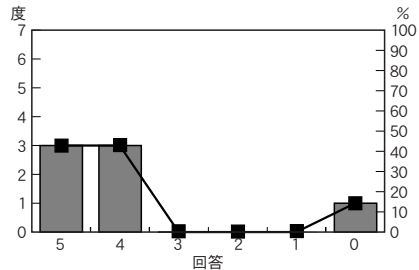
担当教員名：尾崎 士郎

(有効な合計 7)

■ 度 ■ %

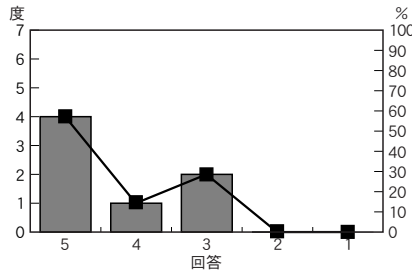
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



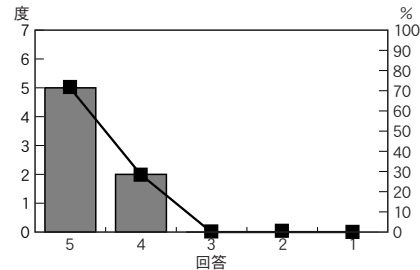
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



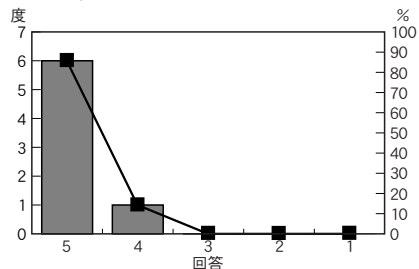
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



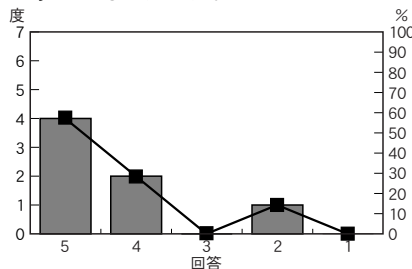
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



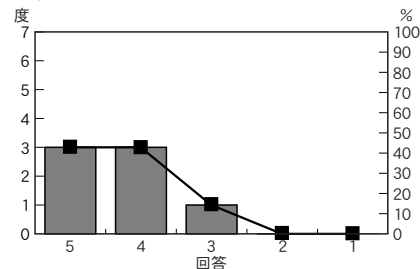
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



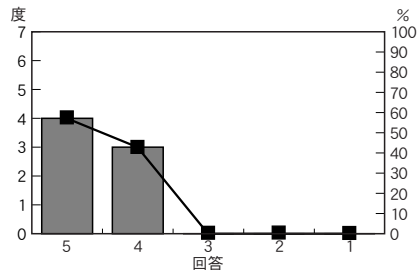
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



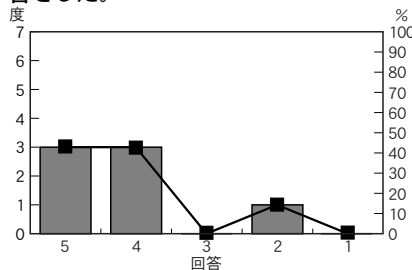
項目分析：(7)

授業によく出席した。



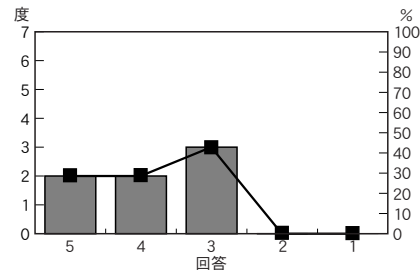
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



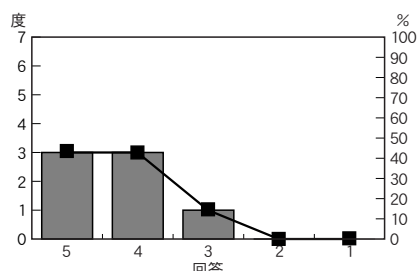
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



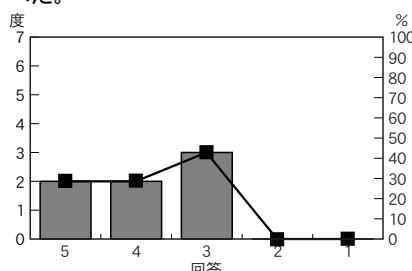
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



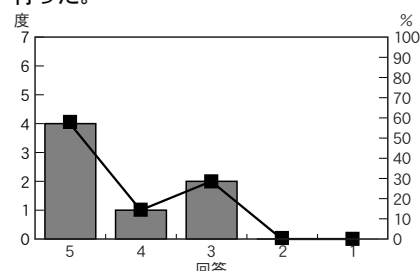
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



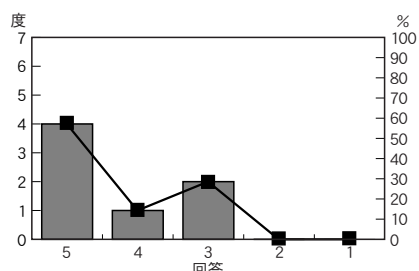
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



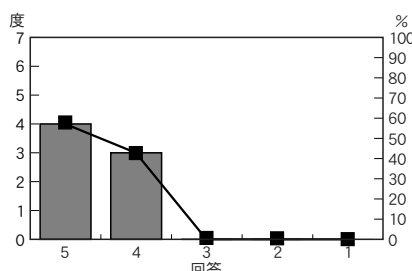
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



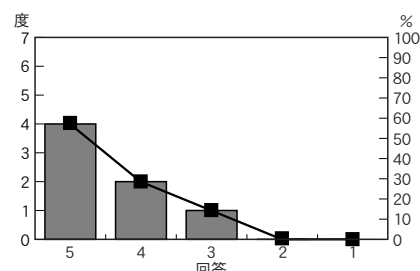
項目分析：(14)

熱心に指導した。

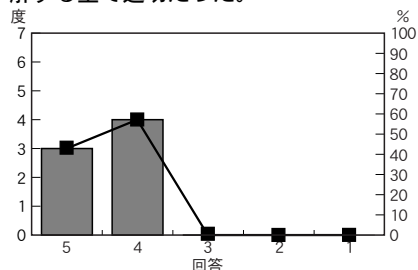


項目分析：(15)

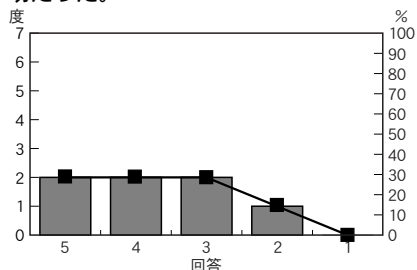
授業内容を分かりやすく説明した。



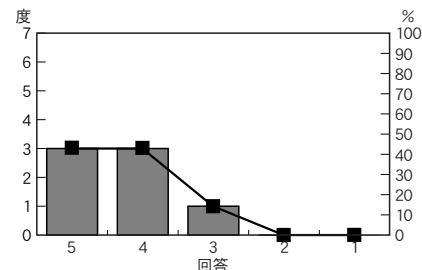
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



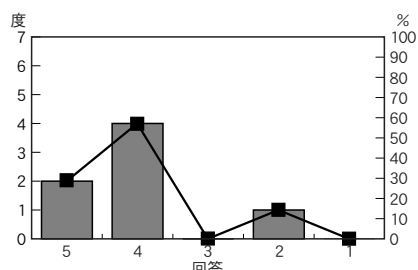
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



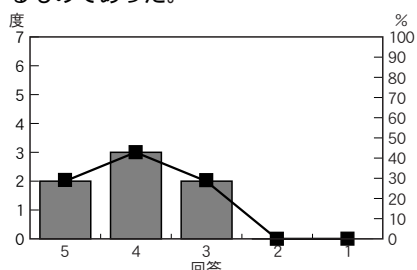
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業科目では、材料の組織構造、各種力学的特性等物性や材料学各論ほか指導しようとする内容が多く、また組織構造や力学的関係等物性を三次元的に理解しなければならないために、丁寧に分かりやすく説明することを心がけているつもりであるが、どうしても欲張ってしまい、説明や板書を急ぎがちになるなど受講者の理解が十分ではない。このことが授業評価の結果の一部に反映していると感じる。

授業の概要については、「目標・授業計画・内容は明確に示されていた。」「成績評価の方法は、明確に示されていた。」では評価が高いが、後者では一部に十分に伝わっていない場合がある。シラバスで到達目標とその評価方法をもう少し分かりやすく工夫して示し、講義の冒頭でももっと詳しく説明すべきかと思う。

授業の内容については、「授業内容は、授業概要に沿っていた。」「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。」の評価が高く、「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。」「授業内容は、興味・関心を引くものだった。」も中位より高い評価であった。本授業科目の授業では将来に卒業研究で材料を取り扱う場合に必要な知識や考え方を指導することに重点を置いているが、教育実践において材料加工の指導を行う際には、本講義の内容は重要である。受講者に対して、この点の動機付けをさらに図りたい。

授業への取り組みでは、一部の評価が芳しくないが、昨年に比べると評価の値は少し改善されている。改善の中身は不明。「授業によく出席した」、「教員の説明を聞いた」では評価が高い側にあるが、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」「授業中に積極的に発言や質問をした。」「分からないことや疑問に思ったことは調べた。」は分布が散らばっており、一部に能動的に学習に取り組めていない場合が認められる。講義の前半で材料の組織構造や物性について立体的に把握できず、これが原因となって、その後の具体的な各論の学習で挫折する場合がある。前者の基礎的な内容の把握を十分にできるように、随所で受講者の理解に応じて説明を繰り返し、講義中に授業者の方から質問をし理解を図ることを行っているが、さらに工夫が必要である。

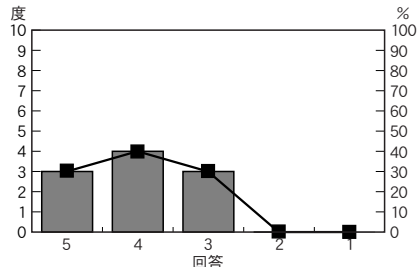
授業の進め方と満足度については、「学生の理解状況を確認しながら授業を行った。」「学生が参加しやすい授業だった。」「熱心に指導した。」「教員の声は聞き取りやすかった。」「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。」のほか評価が高いが、「視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。」「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。」では、担当者が考えるよりも評価が高くない。授業中に担当者が学生の理解の程度をさらに改善して満足度を高めたい。

授業科目名：「金属材料・加工学」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日
 担当教員名：坂本 智

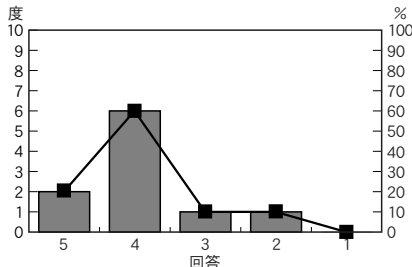
(有効な合計10)

■ 度 ■ %

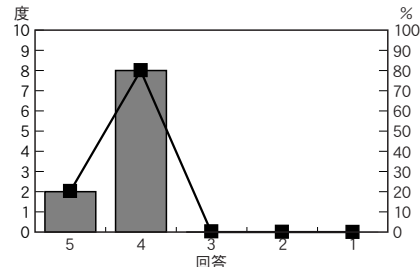
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



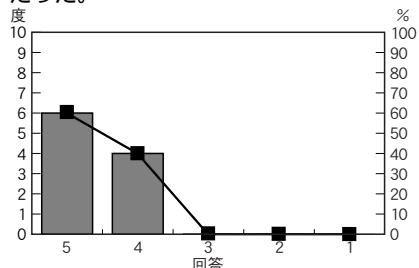
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



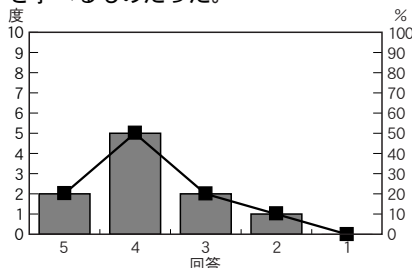
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



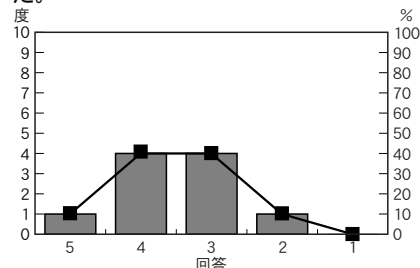
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



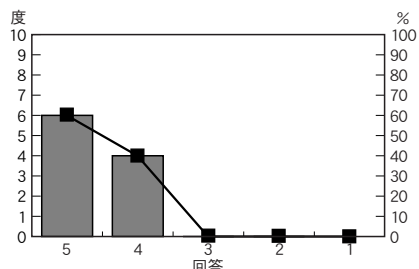
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



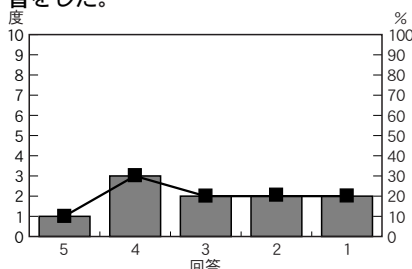
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



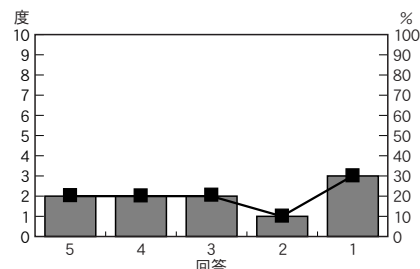
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



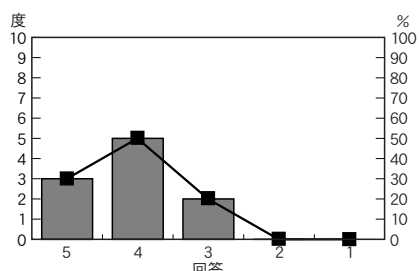
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



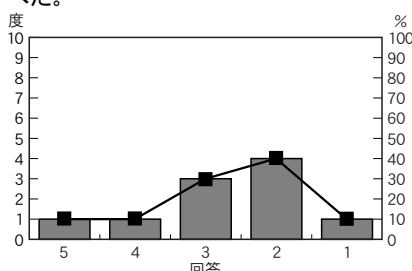
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



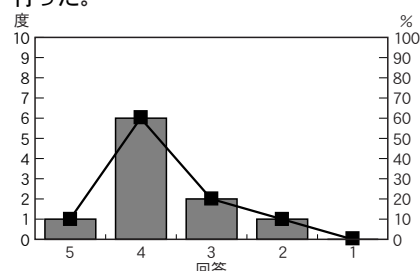
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



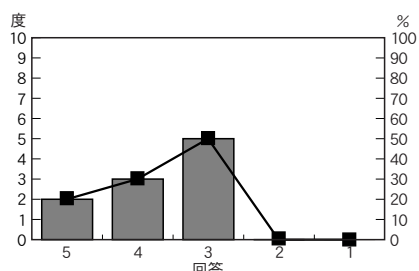
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



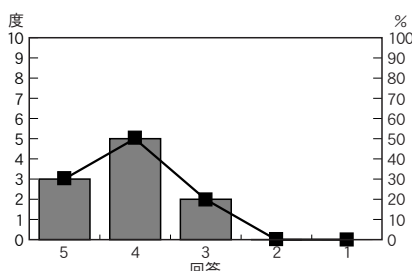
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



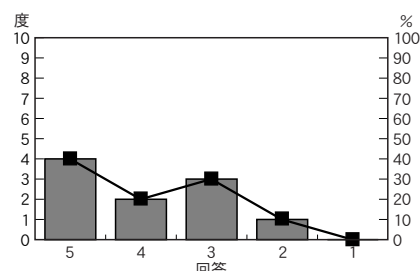
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



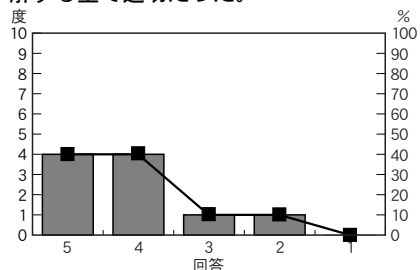
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



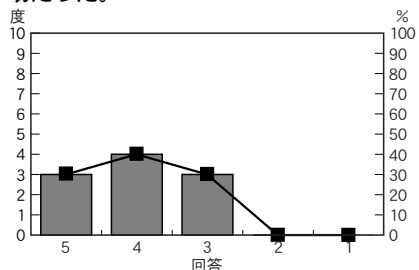
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



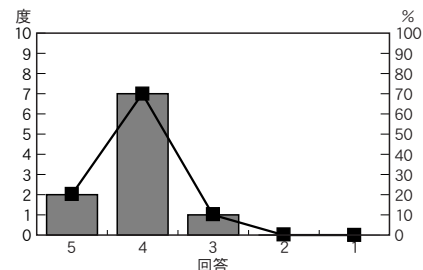
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



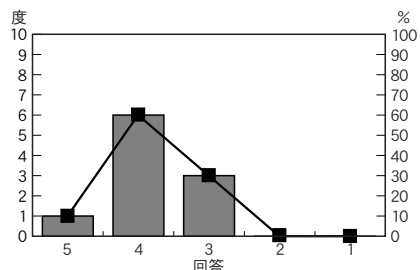
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



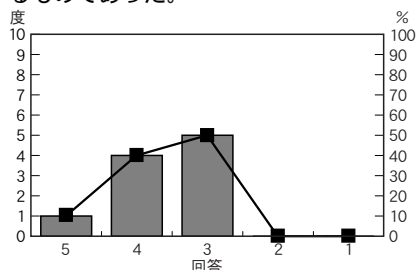
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本講義は中学校（技術）および高等学校（工業）に関連する講義内容であるにもかかわらず、受講生は小学校志望の学生が中心であったため、講義内容が少し専門的すぎたのではないかと反省している。今後は、もう少し基礎的な内容を中心に講義を進めた方がよいのではないかと考えている。

設問8の結果より、予習・復習をしない学生の割合が高いことが明らかとなった。もう少し学生が講義内容に興味を持てるように配慮する必要がある。専門知識を学ぶことの大切さを教えていきたい。

総合的に4、5の回答が多かったことからほぼ満足のいく講義ではなかったかと考えている。

授業科目名：「機械基礎（実習を含む）」

評価実施日：平成 19 年 2 月 23 日

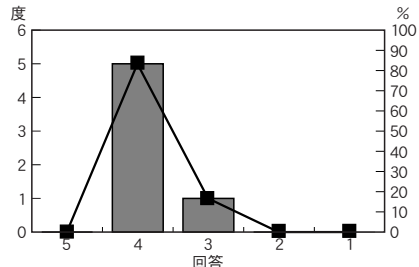
担当教員名：宮下 晃一

(有効な合計 6)

■ 度 ■ %

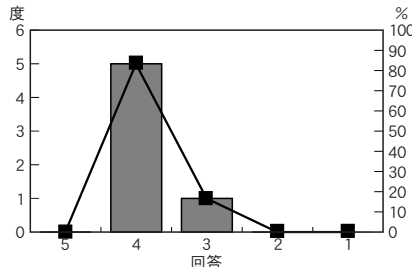
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



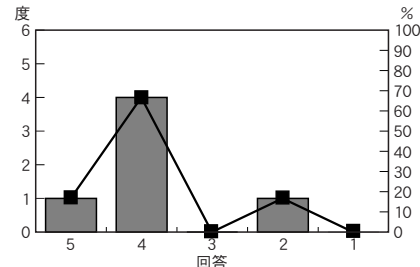
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



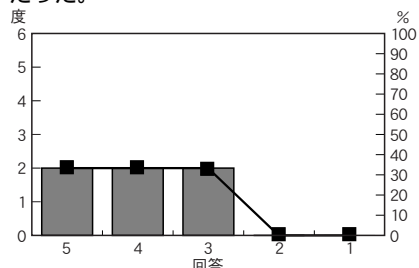
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



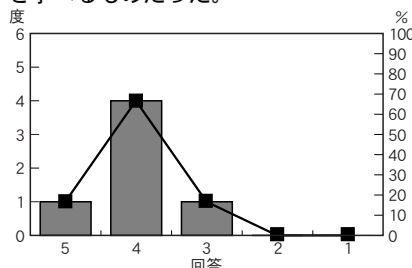
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



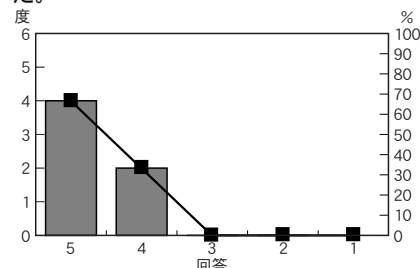
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



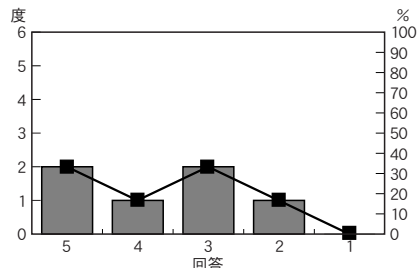
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



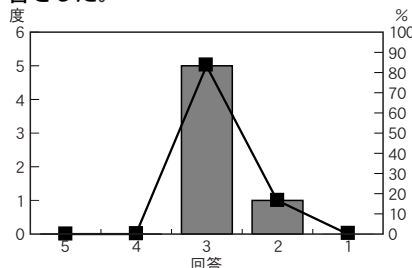
項目分析：(7)

授業によく出席した。



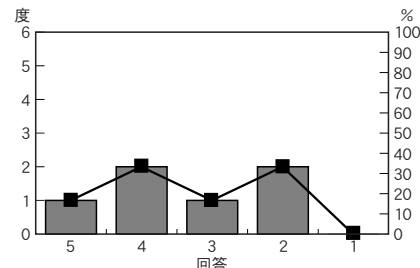
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



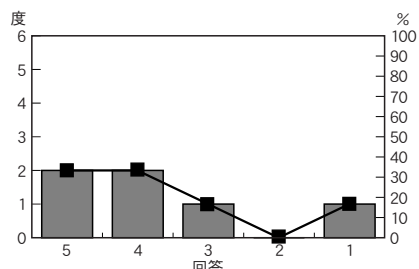
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



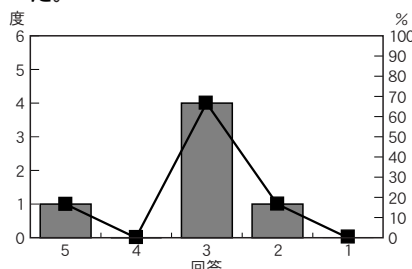
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



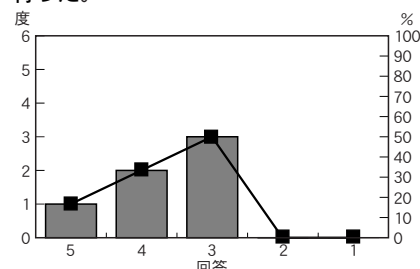
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



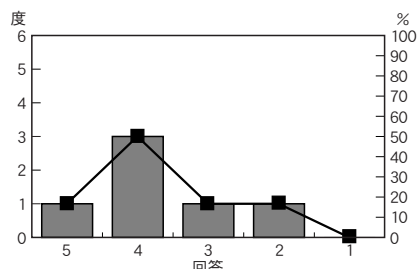
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



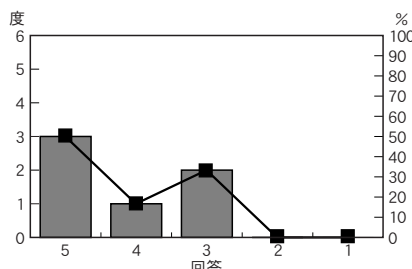
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



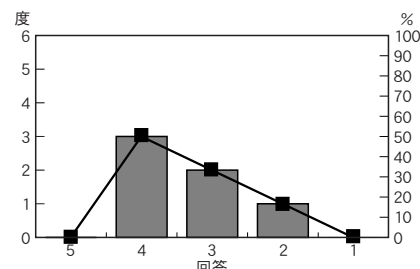
項目分析：(14)

熱心に指導した。

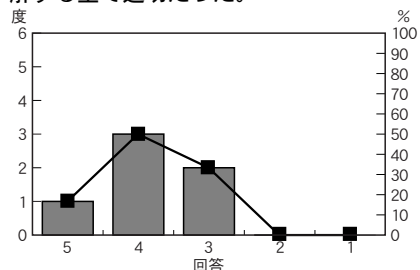


項目分析：(15)

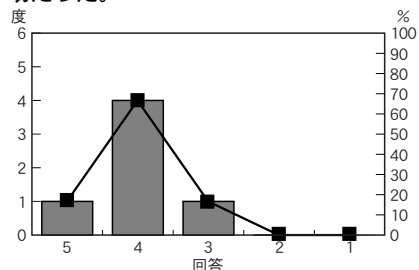
授業内容を分かりやすく説明した。



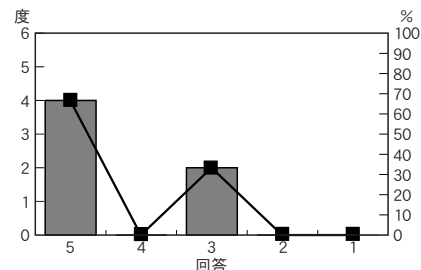
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



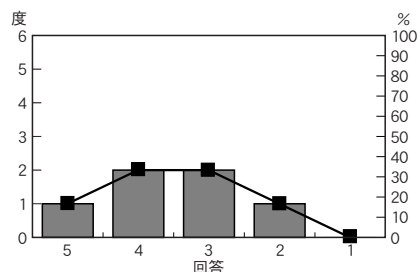
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



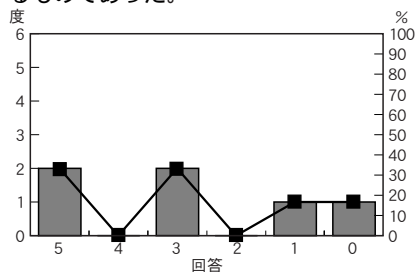
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

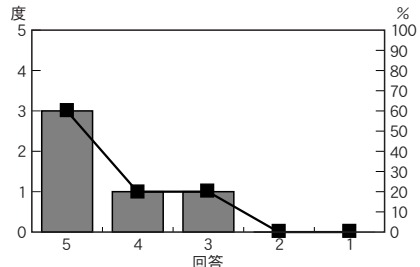
授業の実施方法についての各項目は概ね良好な評価を得ている。一方、学生による授業への取り組みに関する各項目では中庸な評価となっている。このことから、学生にとっては受身となる授業であったと反省している。もう少し学生の質疑を促したり、課題を与えることによって、学生がより能動的・積極的に受けられる授業形態を模索したい。

授業科目名：「材料力学」
 評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日
 担当教員名：宮下 晃一

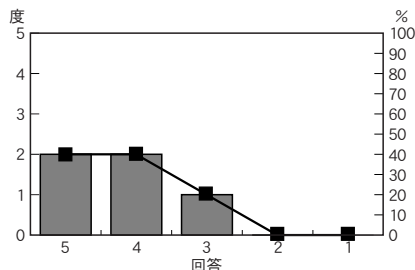
(有効な合計 5)

■ 度 ■ %

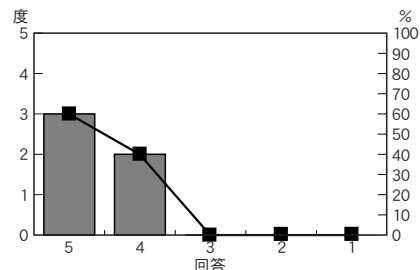
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



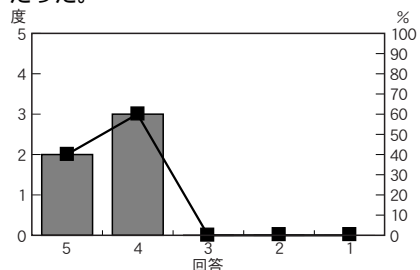
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



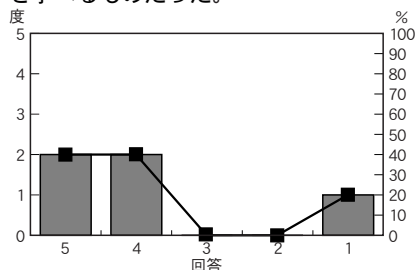
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



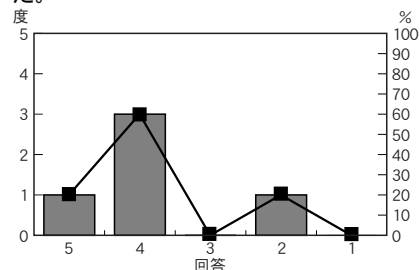
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



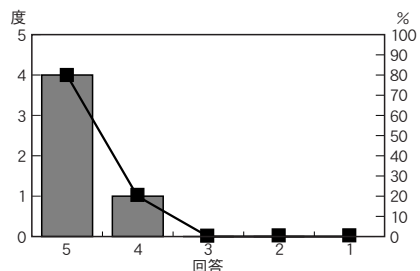
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



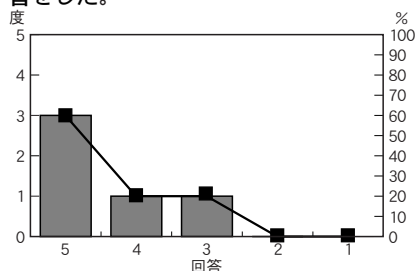
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



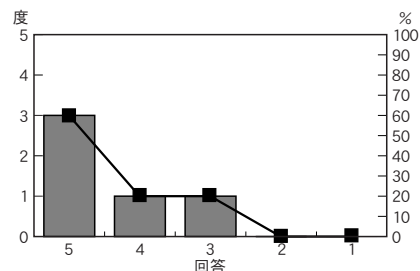
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



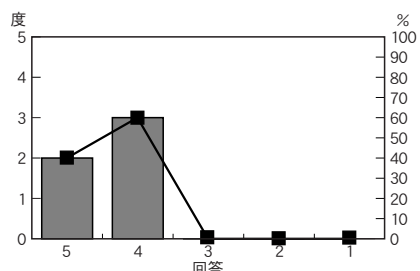
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



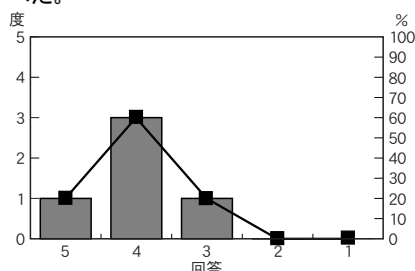
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



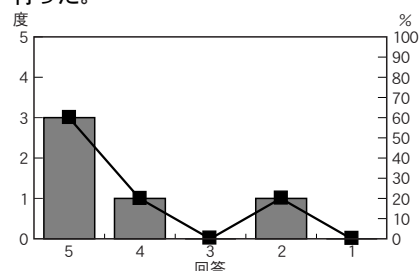
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



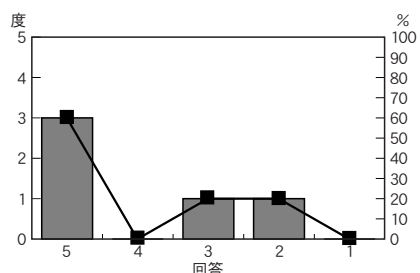
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



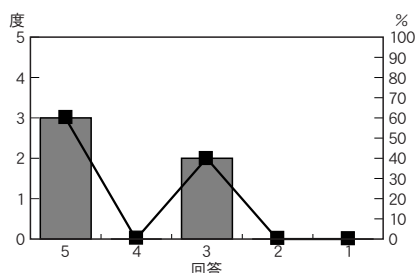
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



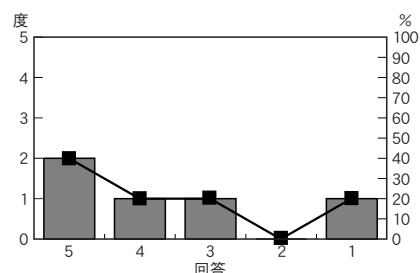
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



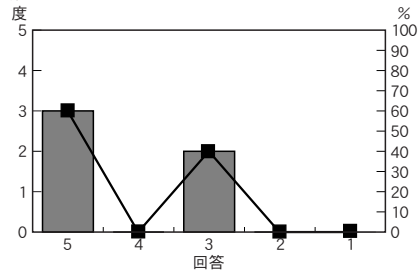
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



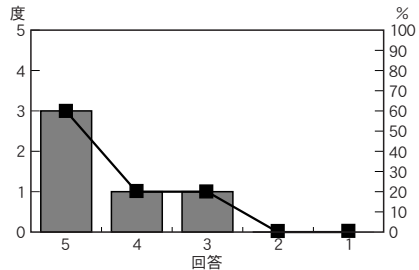
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



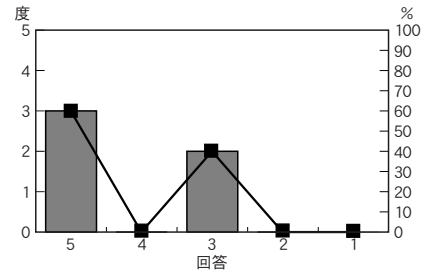
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



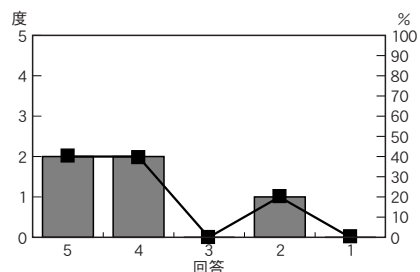
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



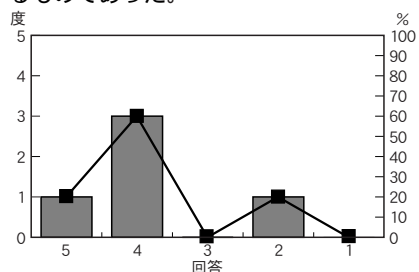
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

この講義は材料や構造物の強度計算を行う手法に関する内容であり、合理的で安全なものづくりを行う上で非常に重要である。基本的には中学校の理科でも習うフックの法則を応用して計算するが、材料や構造物全体の強度を算出する性格上、微積分を使う場面が多く、一部の学生には親しみ難い面があると思われる。

この調査においても一部の学生から授業内容、授業の方法、満足度で低い評価を受けている。その原因が微積分を含む計算が難解であったことにあると推察している。本来の授業内容を削減して微積分をしっかりと学習させることはできるが、それで良いのか悩ましい点である。

授業科目名：「エネルギー変換工学」

評価実施日：平成 18 年 7 月 27 日

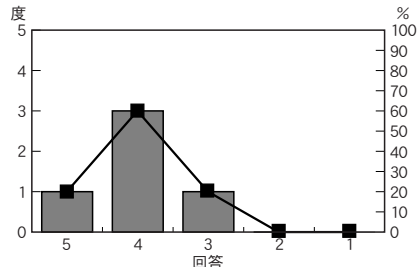
担当教員名：木下 凱文

(有効な合計 5)

■ 度 ■ %

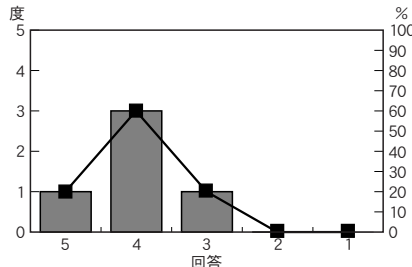
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



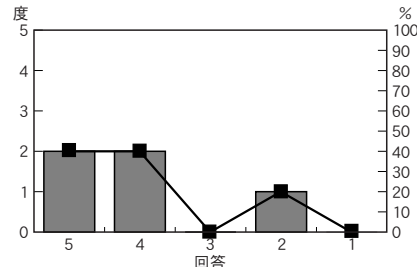
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



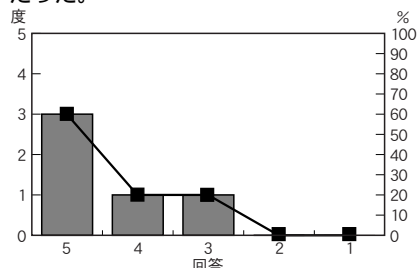
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



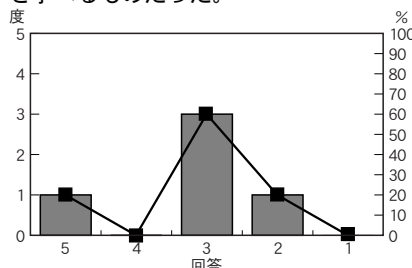
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



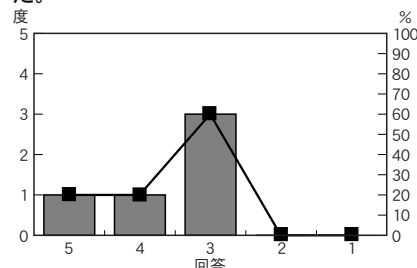
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



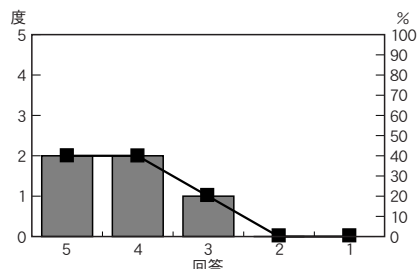
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



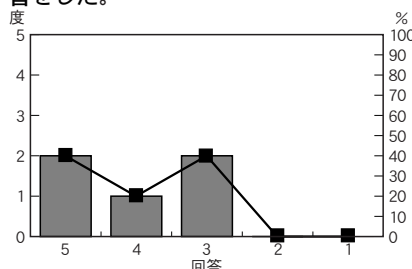
項目分析：(7)

授業によく出席した。



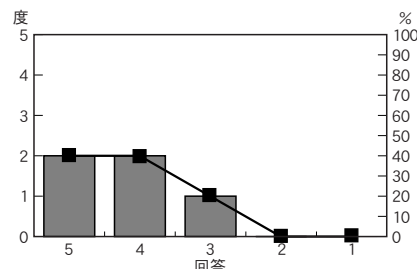
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



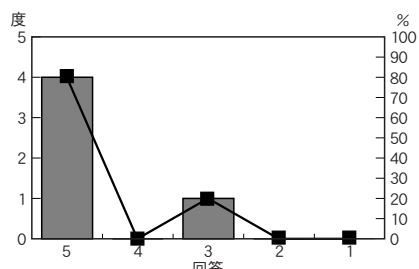
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



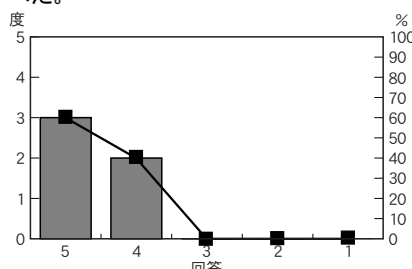
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



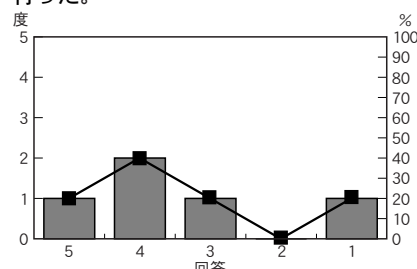
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



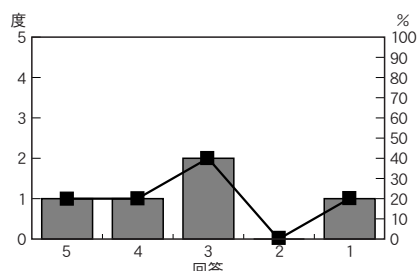
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



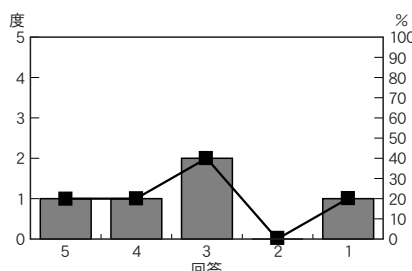
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



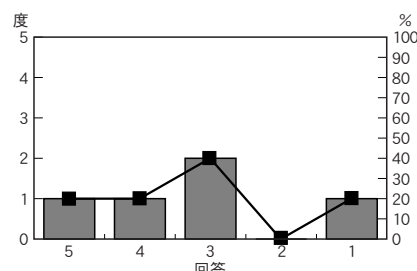
項目分析：(14)

熱心に指導した。

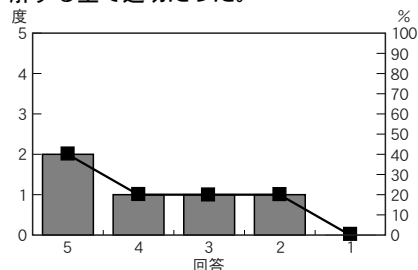


項目分析：(15)

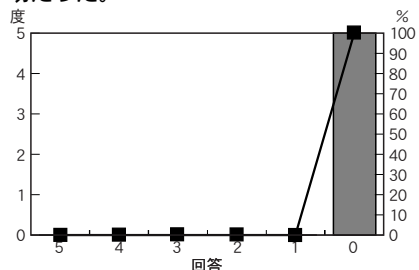
授業内容を分かりやすく説明した。



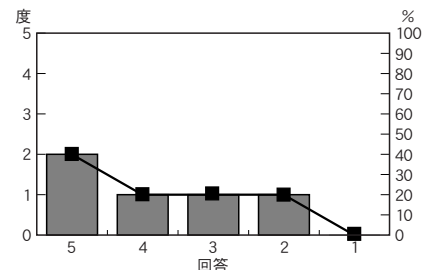
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



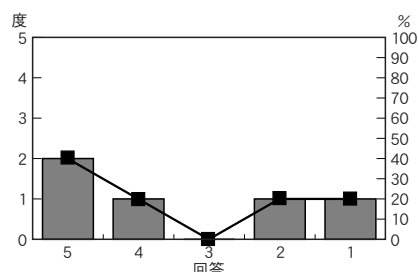
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



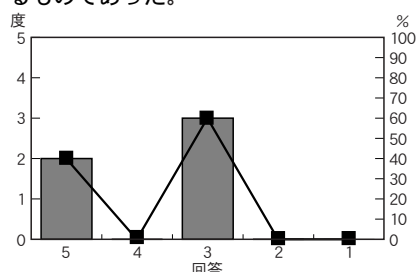
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

受講生の力学に関する基礎知識が乏しい中、エンジンやエアコン等の原理や仕組みを真に理解させるため、力、エネルギー、状態変化等の基礎的な熱力学諸関係をできるだけ平易に例を挙げて演習を重視した講義を行った。その結果、受講生の授業評価は関心のあるグループと関心のないグループの二つに別れたようである。関心を持ったグループは、

- (1) 少人数だったのでわからないことが聞きやすかった。
- (2) 専門性が高まった。
- (3) 自分の身近で知らないことを教えてくれて良かった。

との記述があり、演習結果、試験結果も大変良かった。

一方関心を持たなかったグループは欠席も多く、熱力学等の基礎から積み上げていく講義は苦手のようなであった。講義中に判らないことがあれば何時でも研究室に来て何でも相談して欲しいと何度も言ったが、欠席した受講生が相談に訪れることはなかった。

今後は関心を持たない受講生に如何に関心を持たせるかをさらに追求して講義を行いたい。

授業科目名：「情報技術基礎（実習を含む）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 31 日

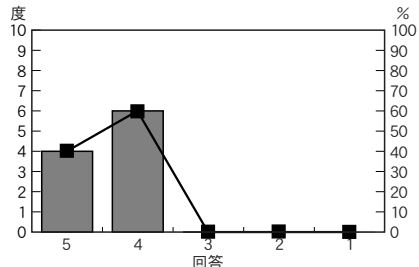
担当教員名：伊藤 陽介，菊地 章

(有効な合計10)

■ 度 ■ %

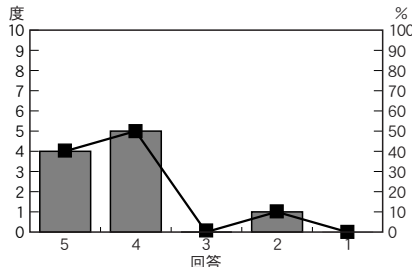
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



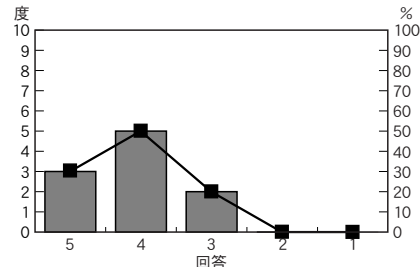
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



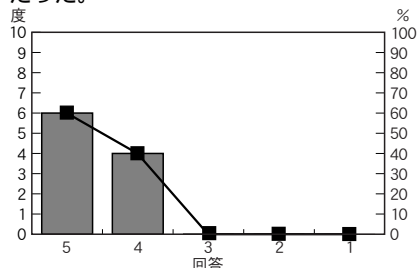
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



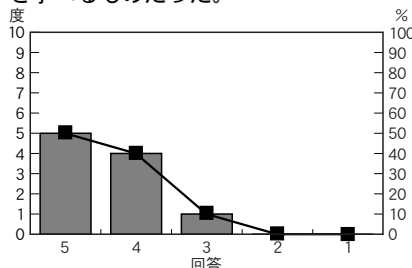
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



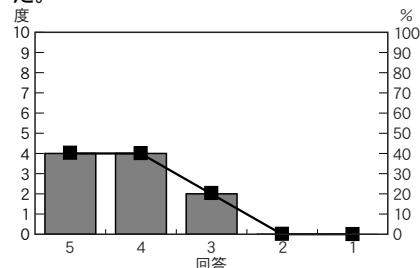
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



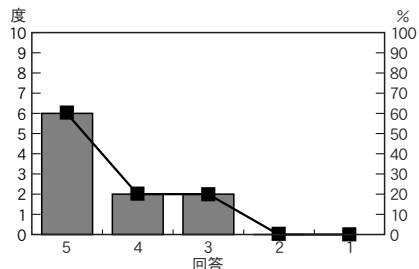
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



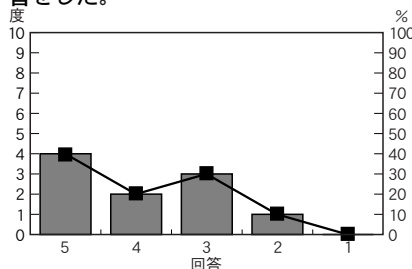
項目分析：(7)

授業によく出席した。



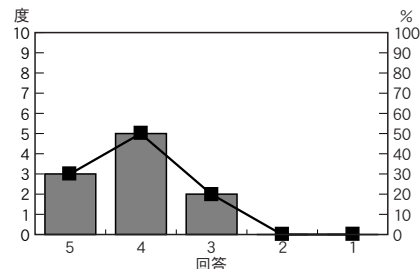
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



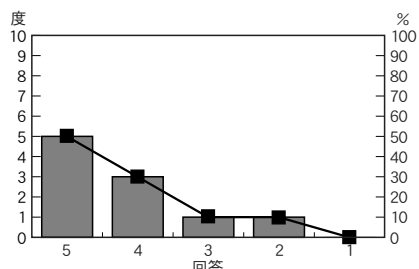
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



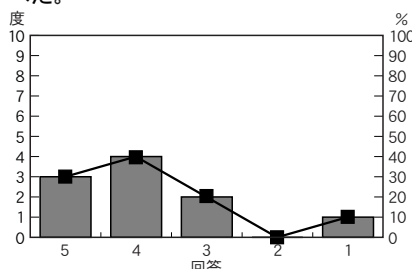
項目分析：(10)

積極的に課題に取り組んだ。



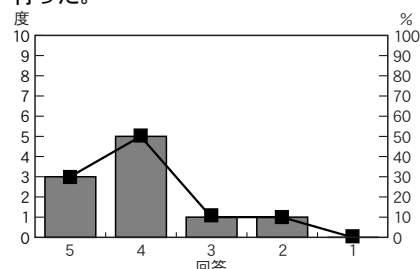
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



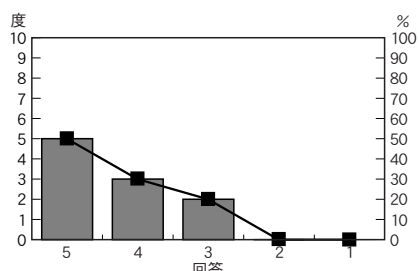
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



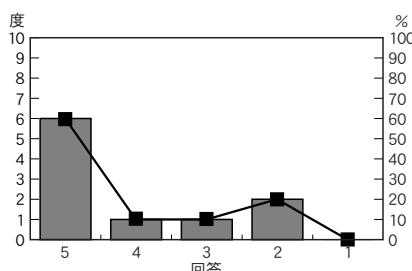
項目分析：(13)

学生参加型の授業だった。



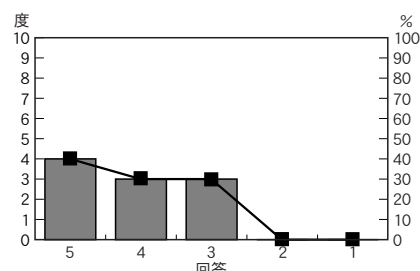
項目分析：(14)

熱心に指導した。

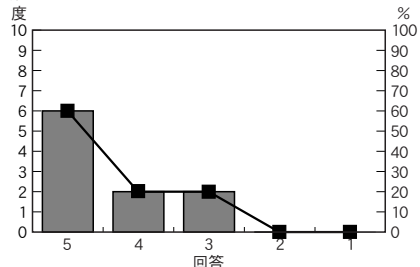


項目分析：(15)

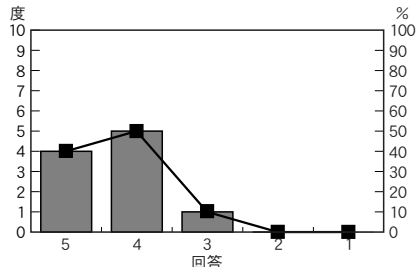
授業内容を分かりやすく説明した。



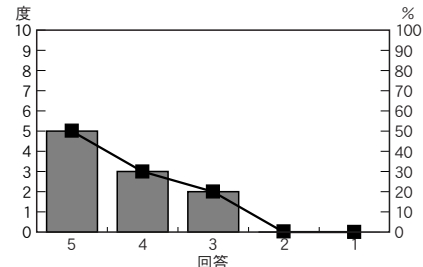
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



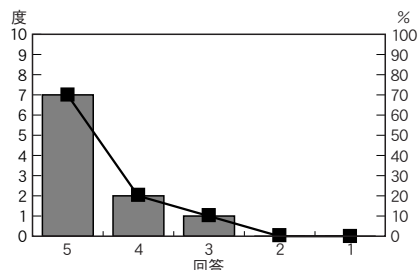
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



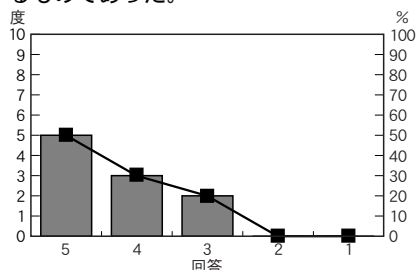
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

授業内容については、目標と計画を明示したこと、並びに、授業概要に沿って講義と実習を連携しつつ実施したため、ほぼ満足できる評価結果となっている。本授業で行ったパソコンを構成部品から組み合わせて製作する実習、及び、情報通信技術に関する基礎的な内容を習得するために実施したLANケーブルの自作実習に関しては、学生からの評価が高かった。

やや専門性の高い授業内容であったが、評価結果からもそれが達成されていることがうかがえる。受講生からの積極的な授業への取り組みとして発言や質問はやや少なかったように評価されているが、毎回のレポートに質問が記載されており、問題はないと考えられる。専門性の高い用語については、解説不足という指摘があったため、高等学校で標準的に履修している学習内容を考慮した上で解説とするように配布資料などを改善する予定である。

授業科目名：「情報処理」

評価実施日：平成 18 年 7 月 31 日

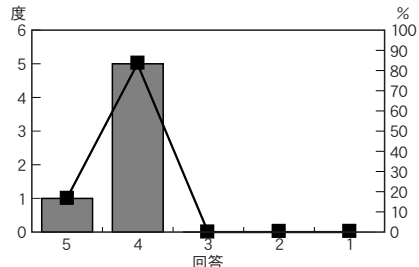
担当教員名：菊地 章

(有効な合計 6)

■ 度 ■ %

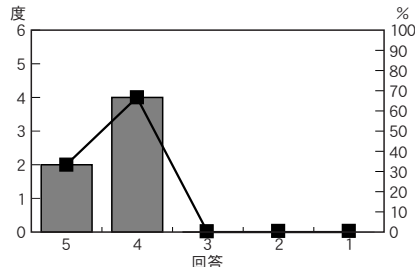
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



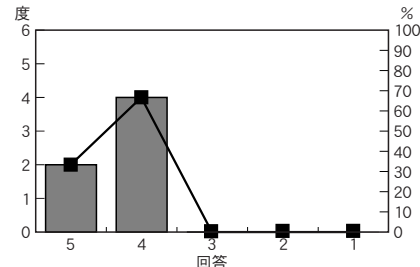
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



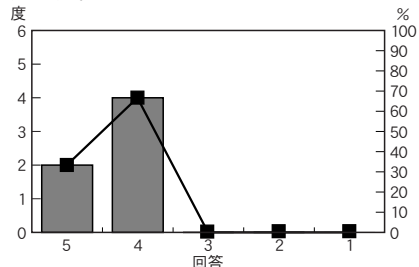
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



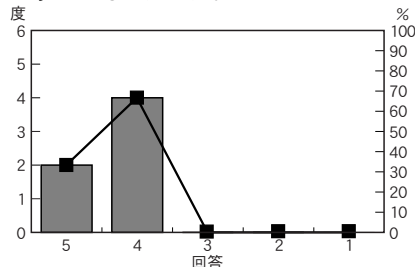
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



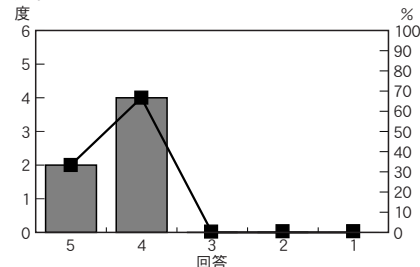
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



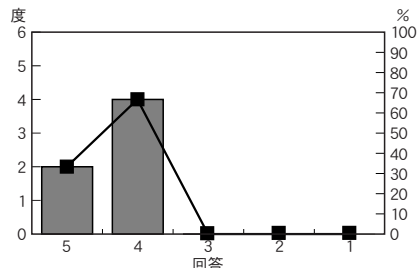
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



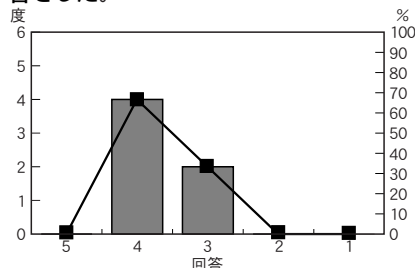
項目分析：(7)

授業によく出席した。



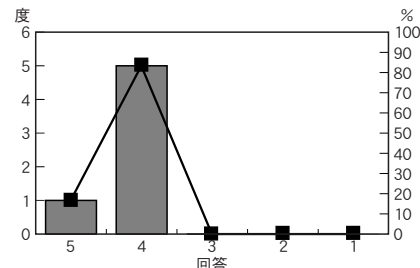
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



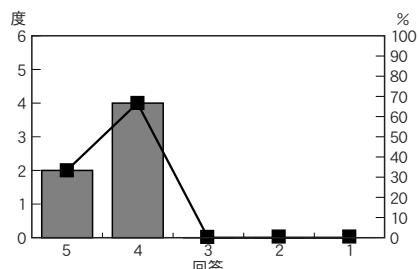
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



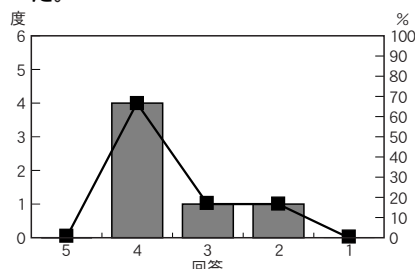
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



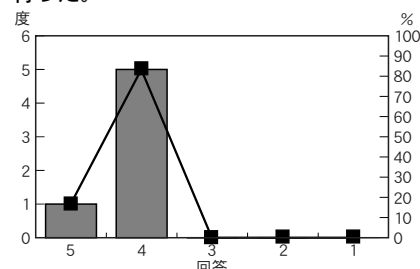
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



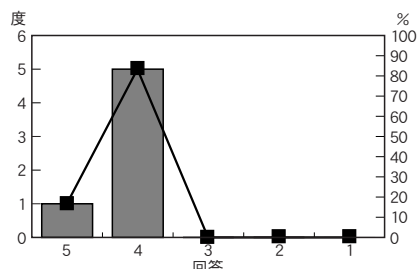
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



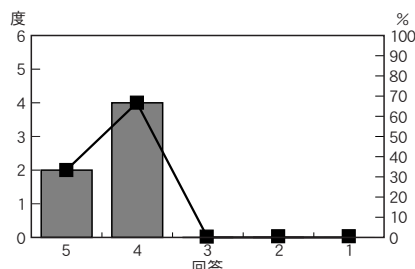
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



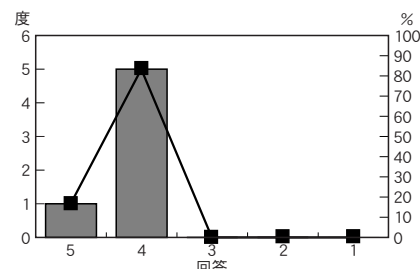
項目分析：(14)

熱心に指導した。

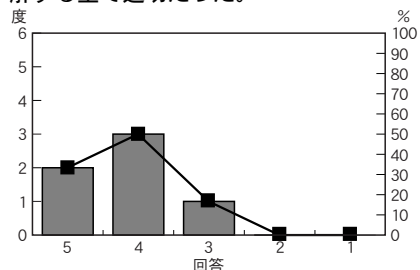


項目分析：(15)

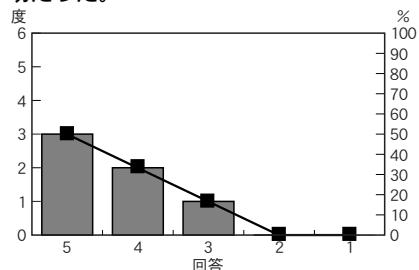
授業内容を分かりやすく説明した。



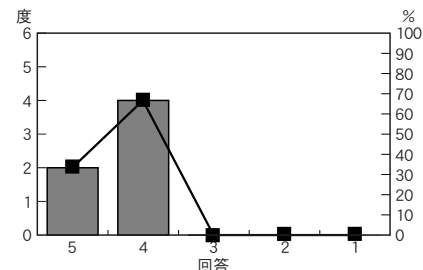
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



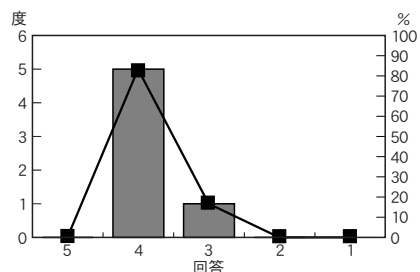
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



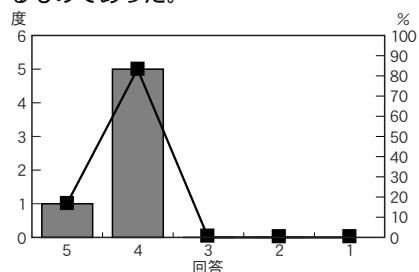
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

受講時の学生の反応は今ひとつであったが、アンケート回答に次の事項を記載していた。

「聞いたことがあるがそこまで知らなかったことを特に詳しく知れてよかった。」

「すごく分かり易く教えてくれました。」

ただ、一般的にアンケートのコメントを書く受講者が少なく、受講者の積極性に疑問を感じる。役に立つ学生と興味がない学生に大きく分かれるようである。

本授業科目は中学校技術における「情報とコンピュータ」内容の主要科目であるが、技術教員になる学生にコンピュータならびに情報処理にそれほど関心が高くないことは将来の日本の技術教育を危惧する。本人はワープロソフトやメール等をそれなりに使えるためあたかも情報処理に強いという錯覚を抱いており、授業進行とともに自分の優越感が崩れて行くようである。本授業では紀元前からの計算機機変遷も含めて現在の情報環境まで含む体系的な情報ならびに情報処理についての内容を含んでいるが、出席が悪く予習復習をしないなど学生自ら学習する姿勢ができていない。参加しやすい授業ではあったようであるが、教員免許法に縛られる教員養成学部での授業構成を再度検討する必要性を感じている。

授業科目名：「情報回路」

評価実施日：平成 19 年 2 月 27 日

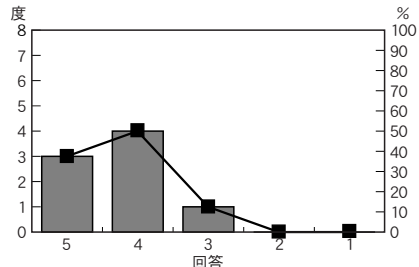
担当教員名：菊地 章

(有効な合計 8)

■ 度 ■ %

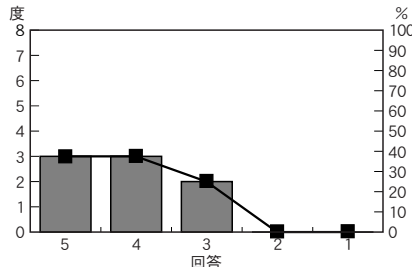
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



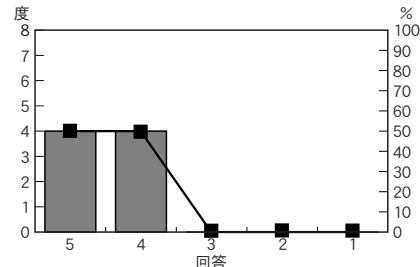
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



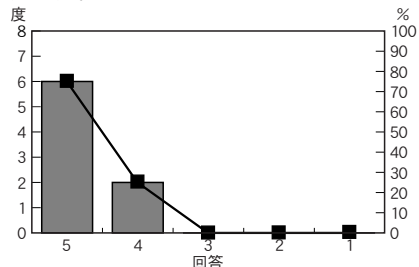
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



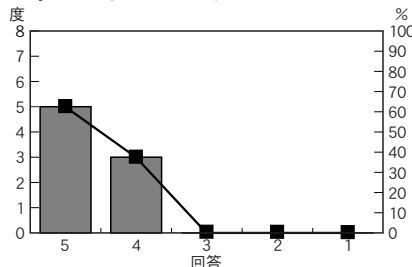
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



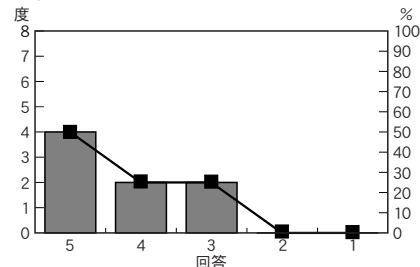
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



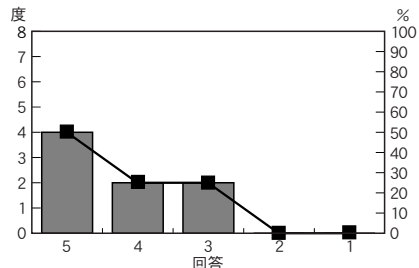
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



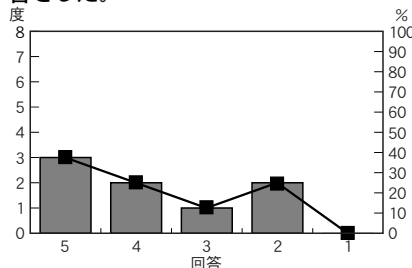
項目分析：(7)

授業によく出席した。



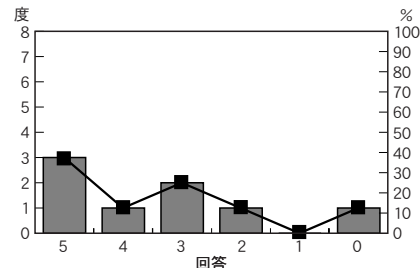
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



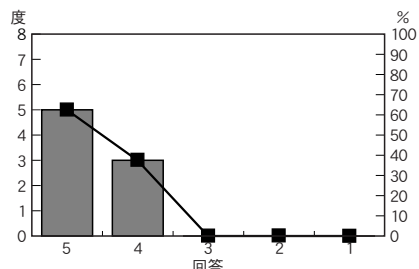
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



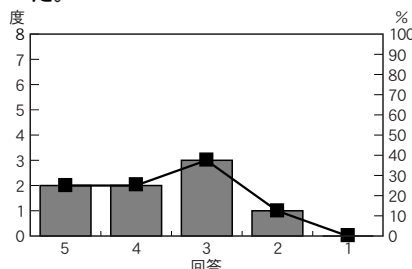
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



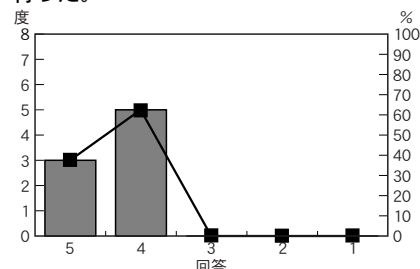
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



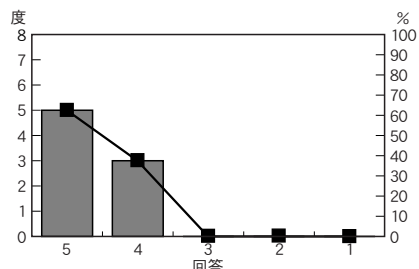
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



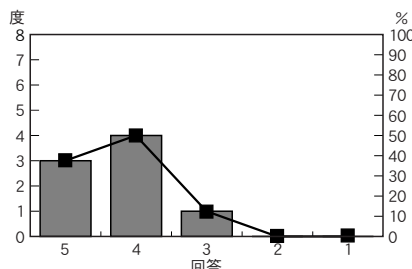
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



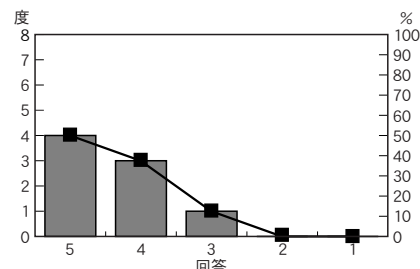
項目分析：(14)

熱心に指導した。

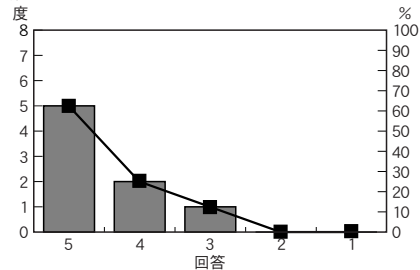


項目分析：(15)

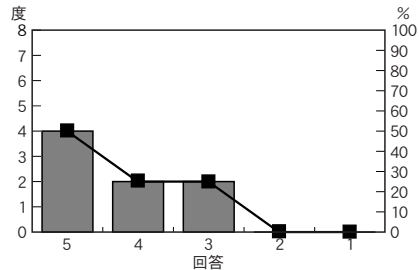
授業内容を分かりやすく説明した。



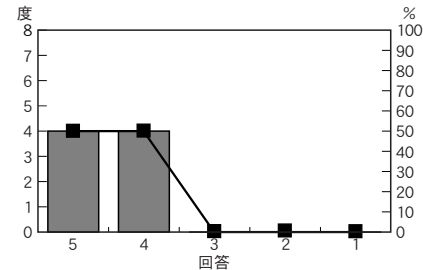
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



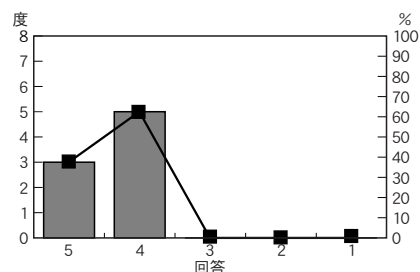
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



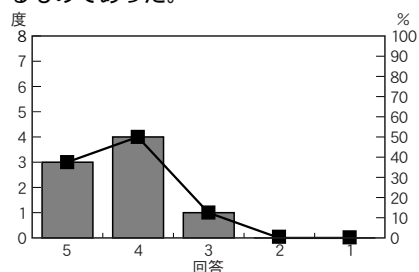
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

学生のコメントとしては、「回路構成の基礎を学べた。実物も見れたし。実験もあったので分かり易かった。」「実際に回路が動いて結果こうなるといった例を体験したかった。」があった。前者については好意的と感じられるが、後者については実験室がなく一般教室に計測器を運んで実習形態の授業をしているためこれ以上は教材の準備ができずどうしようもない状況である。

アンケートの結果については、目標や授業計画が明確との回答が思ったほど多くない。これについては今後学生から意見を聞きたいところであるが、このアンケート結果からではこれ以上改善の方策を見いだせない。今後徐々に改善して行きたい。

なお、本授業科目は高校情報の免許指定科目である。選択性の強い科目のため比較的積極的な学生が集まる傾向が強いが、今年度はそれほどでなかったようである。学生の授業科目への興味等の経年的な変化も今後検討していきたい。

授業科目名：「情報ネットワーク演習」

評価実施日：平成 19 年 2 月 19 日

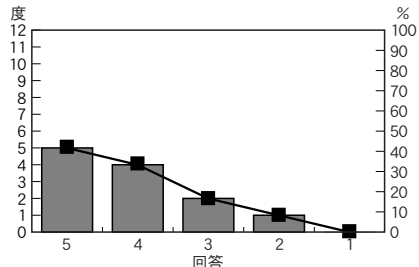
担当教員名：曾根 直人

(有効な合計12)

■ 度 ■ %

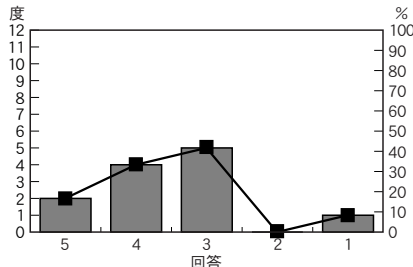
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



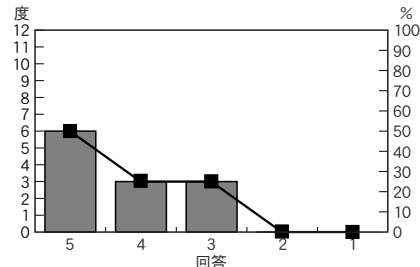
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



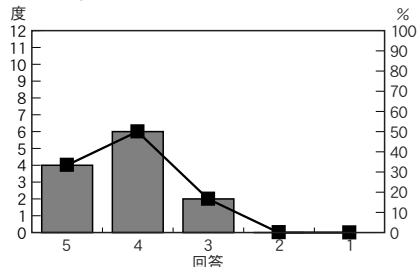
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



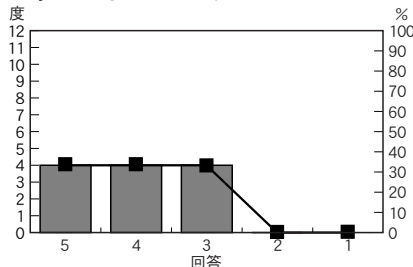
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



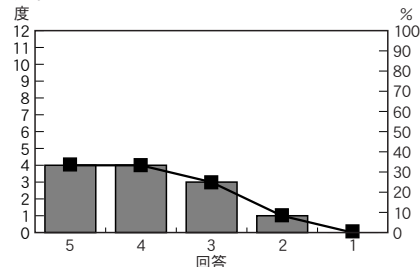
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



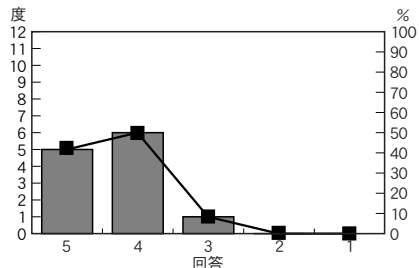
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



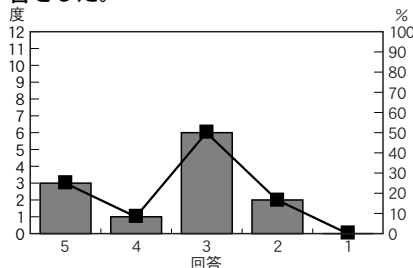
項目分析：(7)

授業によく出席した。



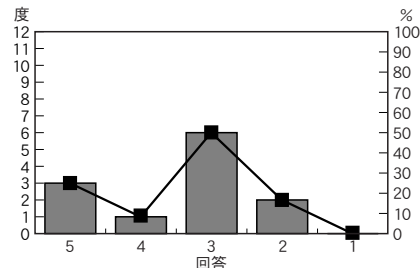
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



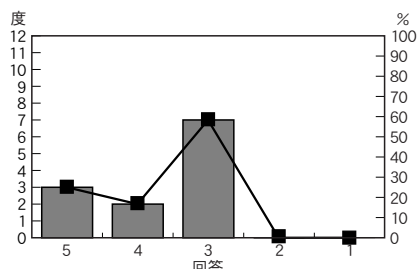
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



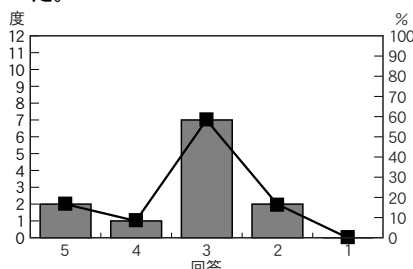
項目分析：(10)

積極的に課題に取り組んだ。



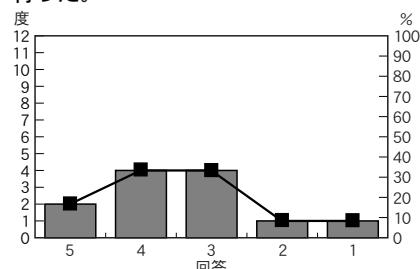
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



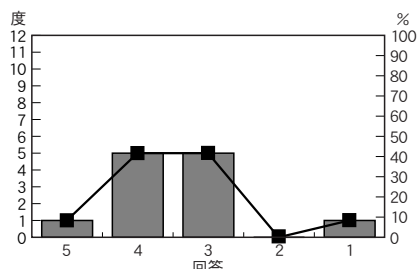
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



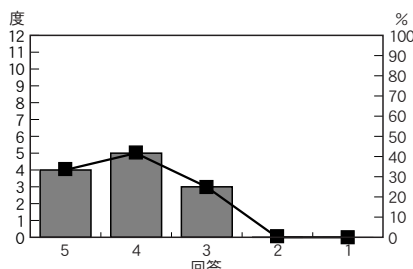
項目分析：(13)

学生参加型の授業だった。



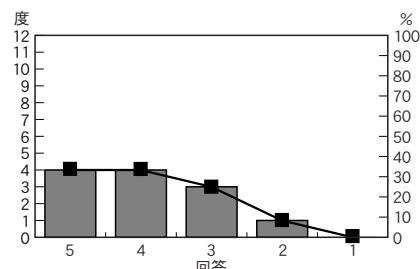
項目分析：(14)

熱心に指導した。

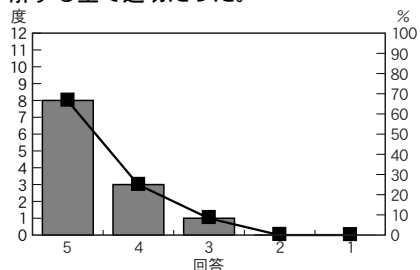


項目分析：(15)

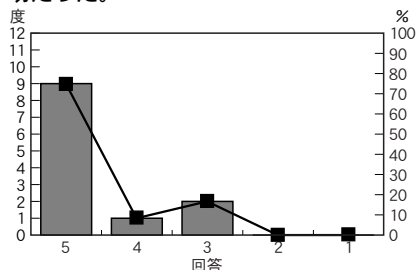
授業内容を分かりやすく説明した。



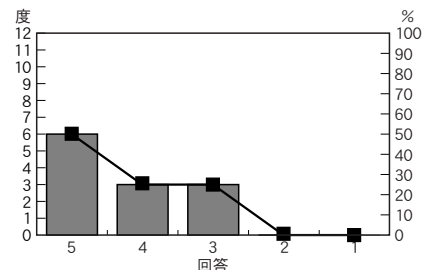
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



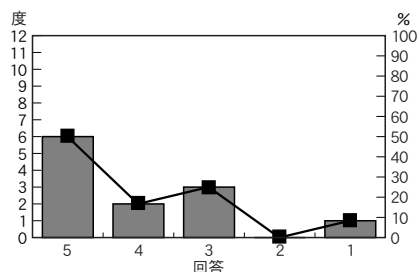
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



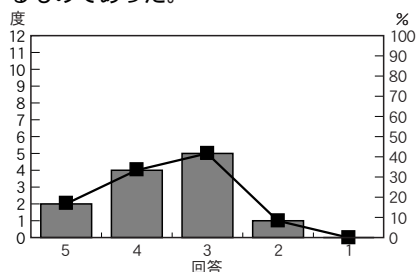
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

ネットワークの技術的な内容を扱うためか、授業によく出席しているわりに予習、復習や質問などが十分に行われていない。教員になっても直接ネットワークの内容を教えることは少ないと思うが、日頃使っている技術により興味・関心をもって授業に取り組んでもらえるように工夫する必要がある。

授業ではLMSを用いて授業用のスライドや参考資料をブラウザからアクセスできるように配慮した。そのためか、資料や視聴覚機器に対する満足度が高くなっている。今後もLMSの活用を進めていきたい。

インターネット上にはネットワークの仕組みを解説したページも多くあり、参考になるページへは授業用のページからリンクを張り、授業ではフォローできない高度な内容も自主学習できるように配慮していたが、予習、復習が十分に行えてないことから活用されていないことがわかる。日常的な話題などから、ネットワークへの興味を引き出すようなトピックを授業で扱い、関心を持ってもらうための工夫を今後は行いたい。

授業科目名：「家族論」

評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日

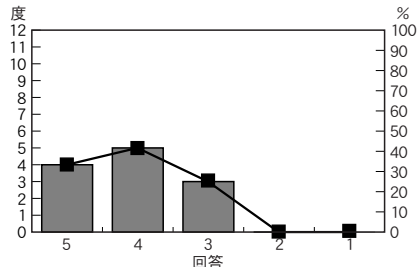
担当教員名：黒川 衣代

(有効な合計12)

■ 度 ■ %

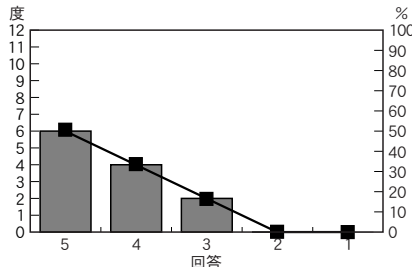
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



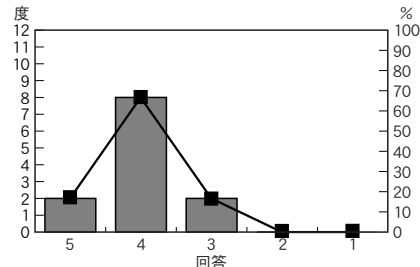
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



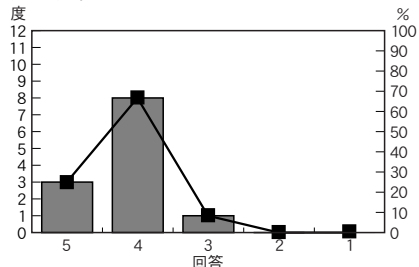
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



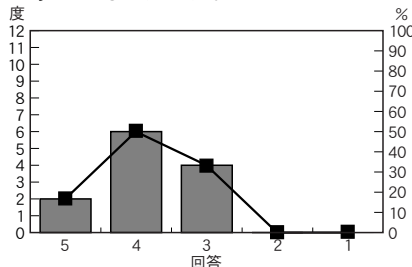
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



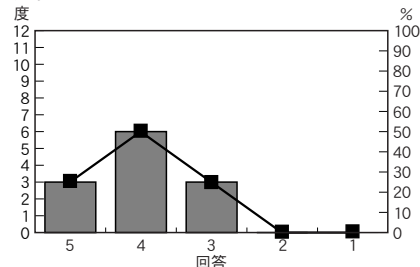
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



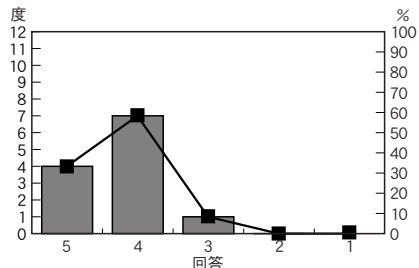
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



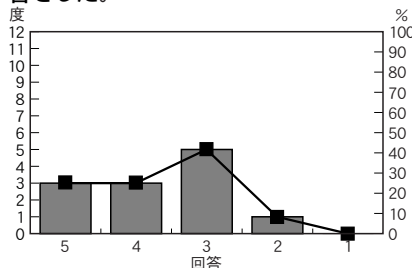
項目分析：(7)

授業によく出席した。



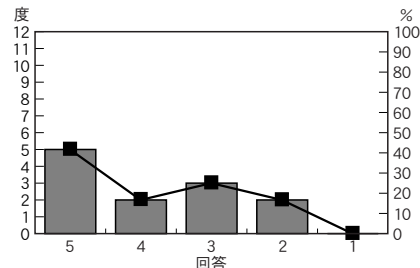
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



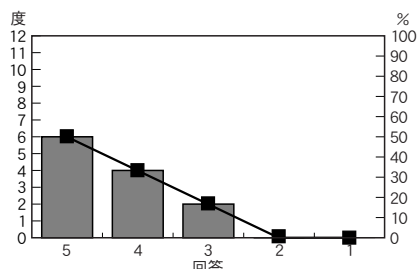
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



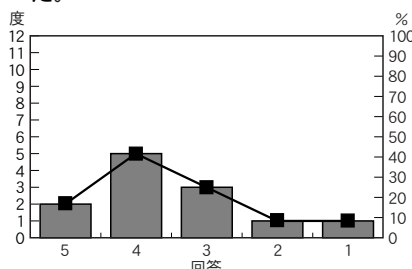
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



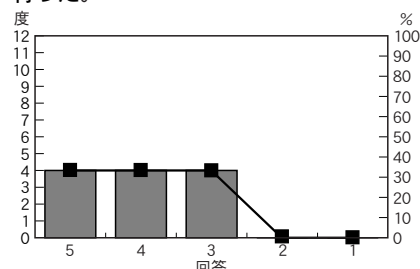
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



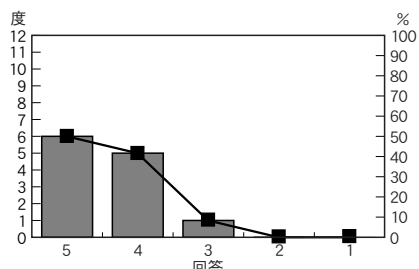
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



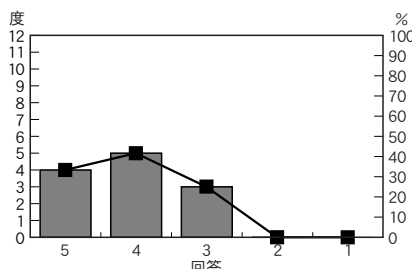
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



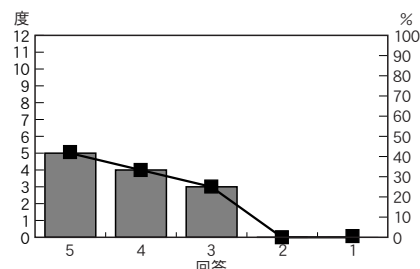
項目分析：(14)

熱心に指導した。

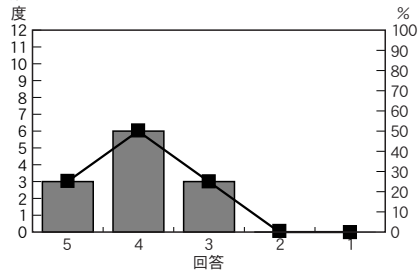


項目分析：(15)

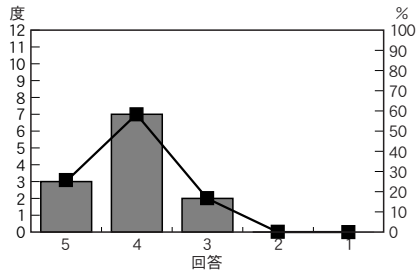
授業内容を分かりやすく説明した。



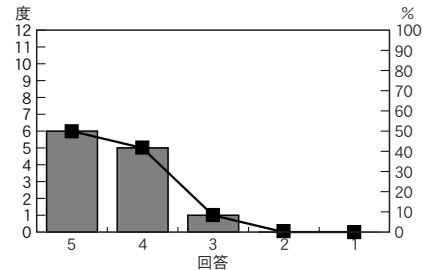
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



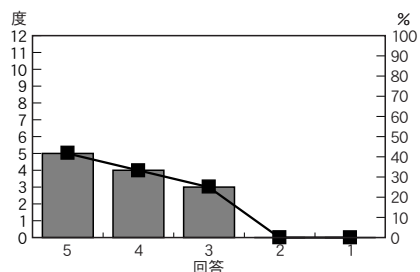
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



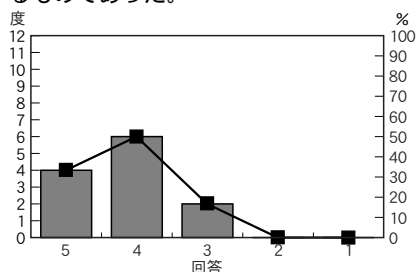
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全体的に見て肯定的な評価が得られている。

本授業は、家庭科教員免許取得のための選択科目であると同時に保育士免許のための必修科目に位置づけられている講義科目である。本来ならば、それぞれに当てる焦点が異なるため、講義内容の精選に苦慮している。そのことがある程度は評価にも反映されていると考えられる。

学生の評価を参考に、更なる改善に取り組みたい。

授業科目名：「消費者経済学」

評価実施日：平成 19 年 2 月 22 日

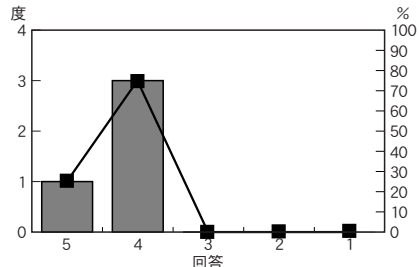
担当教員名：渡邊 廣二

(有効な合計 4)

■ 度 ■ %

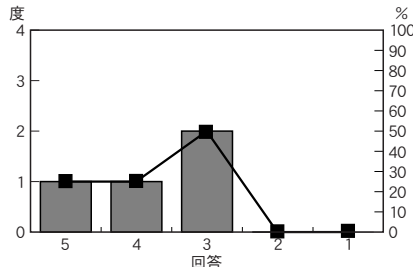
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



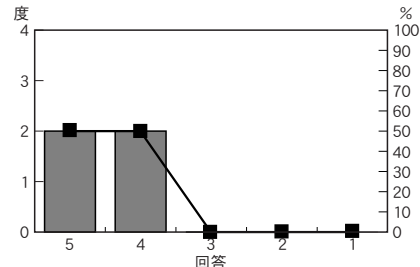
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



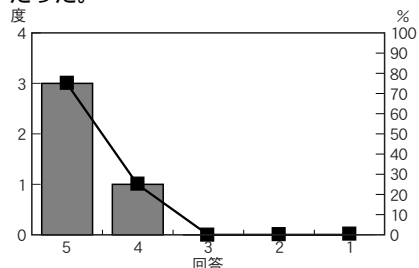
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



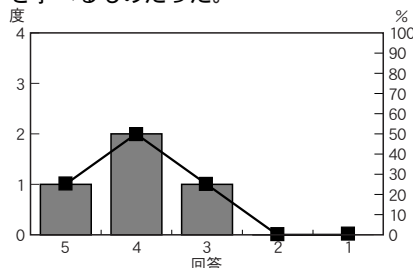
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



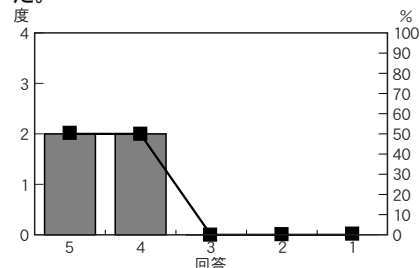
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



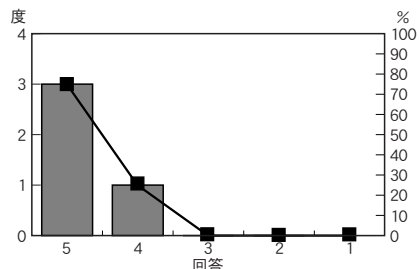
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



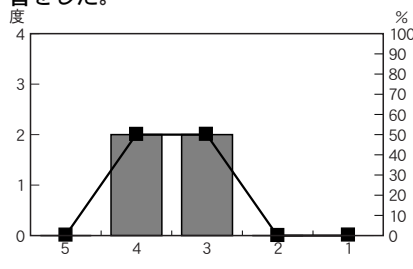
項目分析：(7)

授業によく出席した。



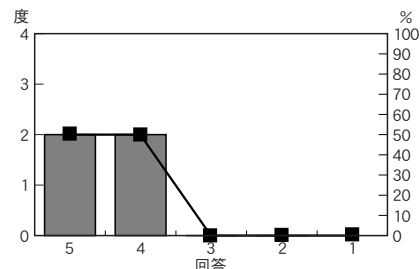
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



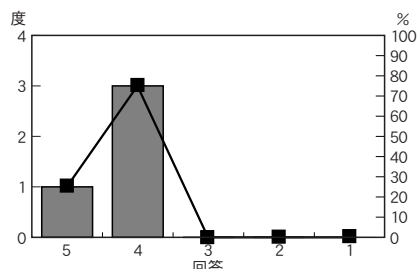
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



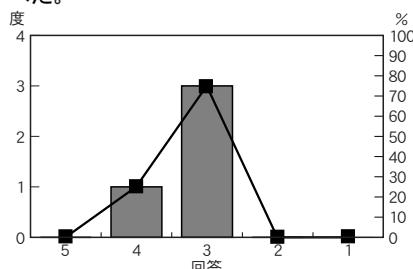
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



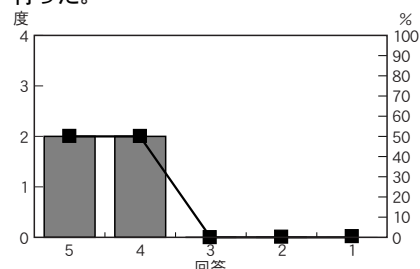
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



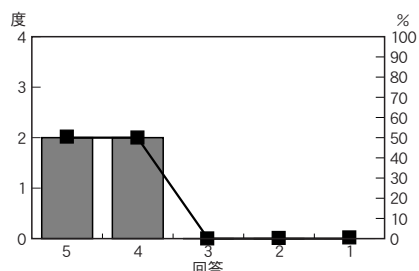
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



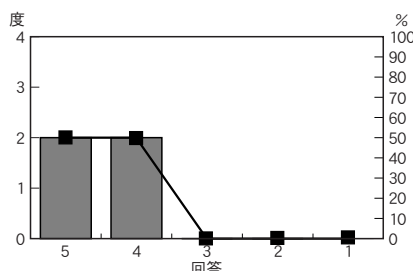
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



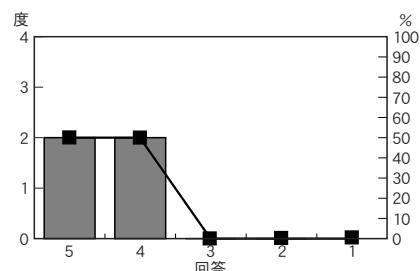
項目分析：(14)

熱心に指導した。

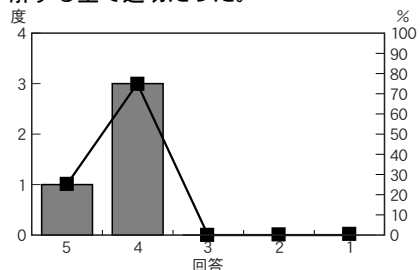


項目分析：(15)

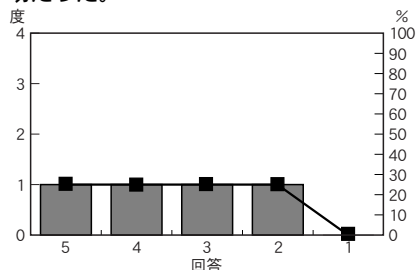
授業内容を分かりやすく説明した。



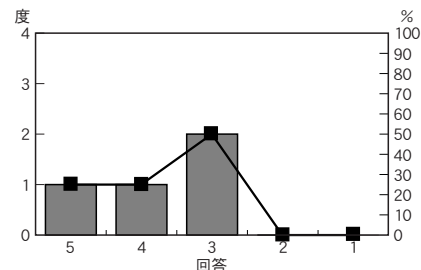
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



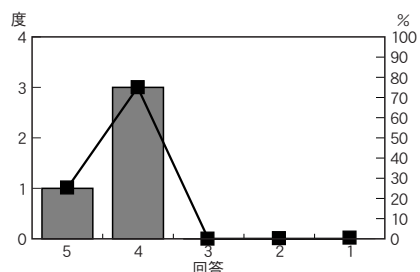
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



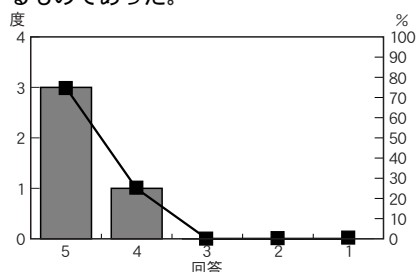
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全体として高い評価であった。4.5以上の評価が10項目で全体の50%になり、また4.0以上の評価が15項目で全体の75%になる。

まず、授業の内容については、専門性を高めるという評価が4.8であるが、これに対して教育に対する考え方を学べるという評価が4.0である。両者の評価にはやや開きがある。ここで評価されている授業は教科の専門科目なので、この程度の開きはある程度やむを得ないとも思うが、専門科目を通して教育に対する考え方を学べるような授業を行うという課題が残る。

次に学生の取り組みであるが、授業中に積極的に質問したという項目が4.5と高い評価が与えられており、これは質問を促す努力をした教員としても満足できる評価である。

教員の授業の進め方に対しては、理解状況を確認めながら授業を行った(4.5)とか、学生が参加しやすい授業だった(4.5)、あるいは熱心に指導した(4.5)という項目の評価は高かったが、視聴覚機器の利用に対する評価が3.5である。今後は、パワーポイントなどの視聴覚機器を授業に取り入れるように工夫したい。

全体としては、学生の満足度は高い(4.8)ので、いくつかの課題は残るが、教員としても満足できる授業であった。

授業科目名：「被服学概論（被服製作実習を含む。）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 31 日

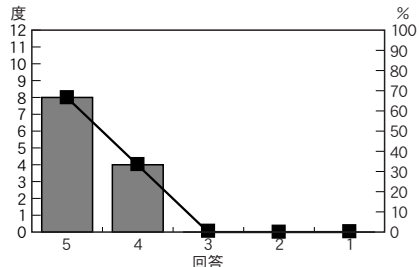
担当教員名：福井 典代

(有効な合計 12)

■ 度 ■ %

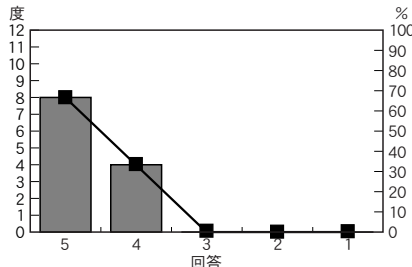
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



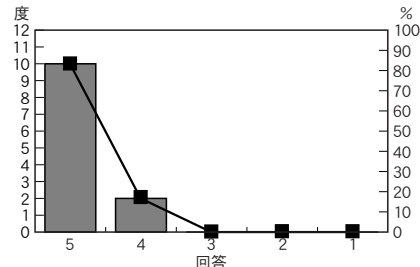
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



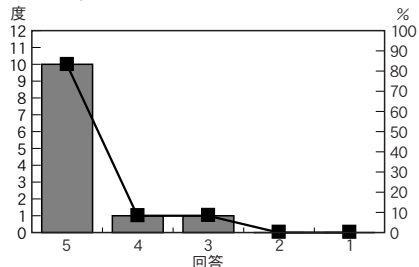
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



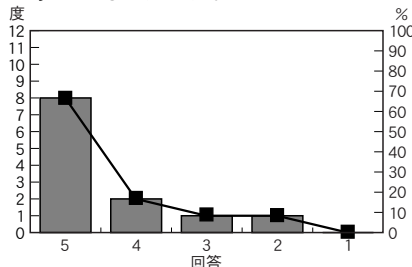
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



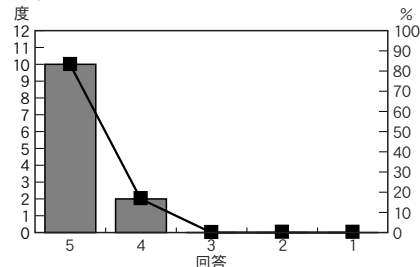
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



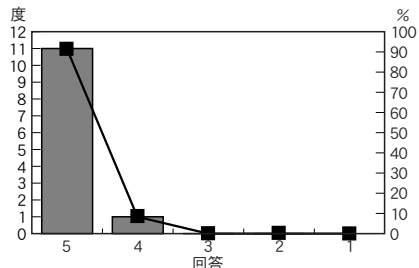
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



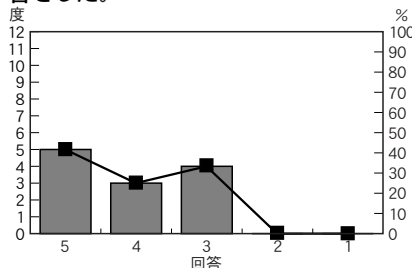
項目分析：(7)

授業によく出席した。



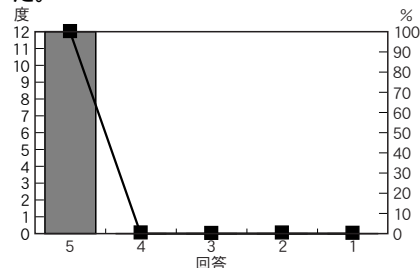
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



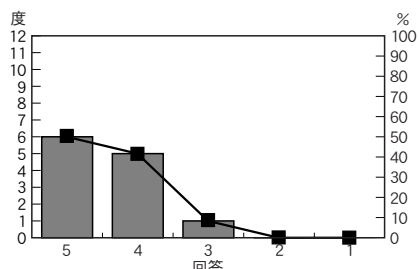
項目分析：(9)

積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



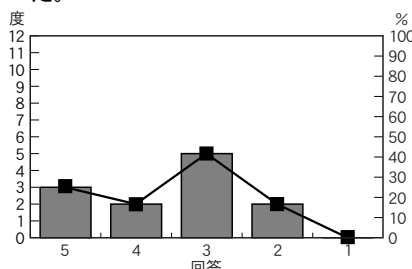
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



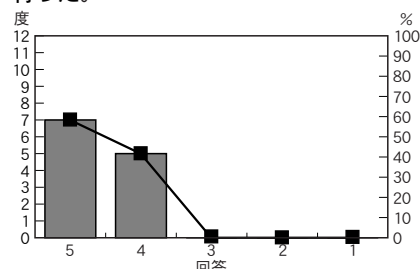
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



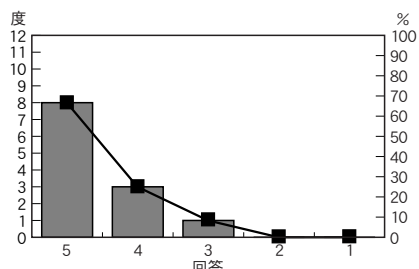
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



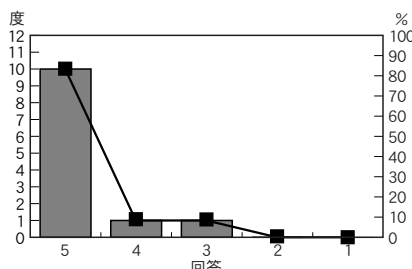
項目分析：(13)

熱心に指導した。



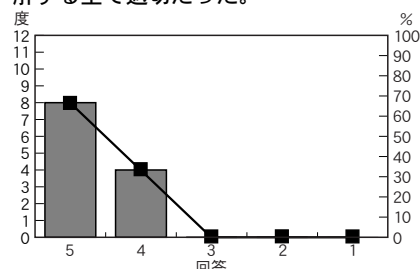
項目分析：(14)

授業内容を分かりやすく説明した。

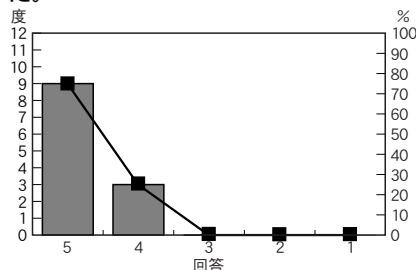


項目分析：(15)

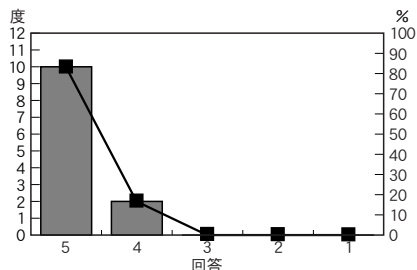
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



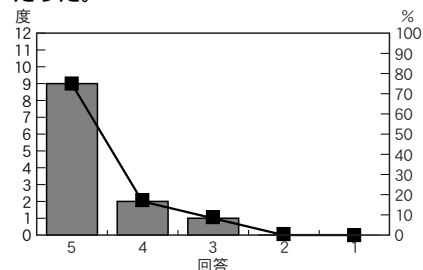
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



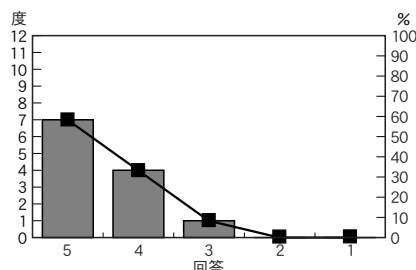
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



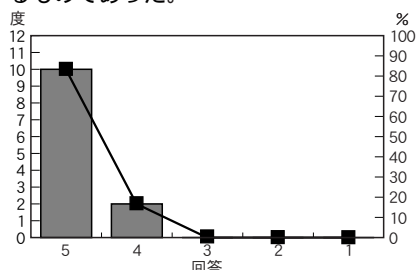
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業科目は講義の中に実習を含む授業形態を取っているため、ほとんどの学生が興味・関心を持って積極的に授業に取り組んでいた（項目6, 9）。授業の出席率も高い（項目7）が、予習や復習を行う学生は少なく（項目8）、わからないことを調べる学生も少ない（項目11）という、例年通りの結果が得られた。この点は毎年苦慮している部分であるが、来年度以降、学生が関心を持つ内容について、参考文献を明確に提示し、自主学習が可能な範囲で課題を与えていきたい。

授業の進度（項目12）や授業内容のわかりやすさ（項目14）、与えられた課題のレベルや分量（項目18）については評価が高いため、来年度もこの内容で授業を進めたい。

自由記述では、「苦手な製作についてちょっと積極的になれてよかった」、「ミシンとか苦手だったのに、ちょっとは上手くできました」と、「初めて自分で服が作れた」、「服が作れたので自信になった」、「ミシンがどんどんうまく使えるようになりました」、「個別に教えてくれること」など、少人数の授業であることの利点が多かったが、実習の課題が終わらないと授業を延長することが多く、その点についての指摘が見られた。本授業は実習を含むため多少の時間延長があることを、来年度の授業の最初に確認しておきたい。

授業科目名：「衣生活学」

評価実施日：平成 19 年 2 月 19 日

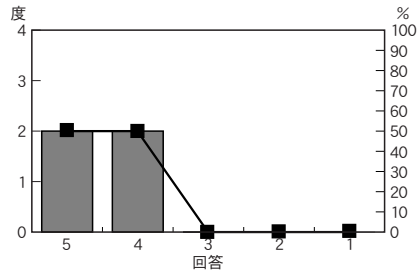
担当教員名：福井 典代

(有効な合計 4)

■ 度 ■ %

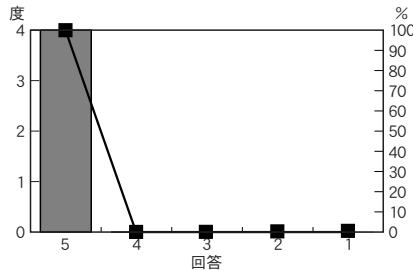
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



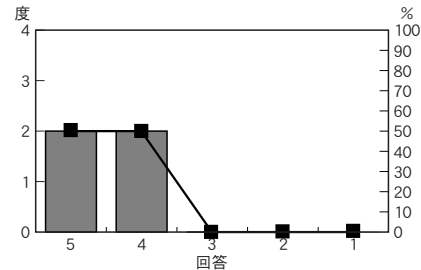
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



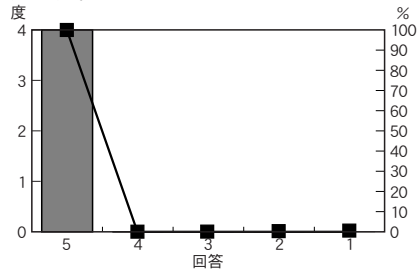
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



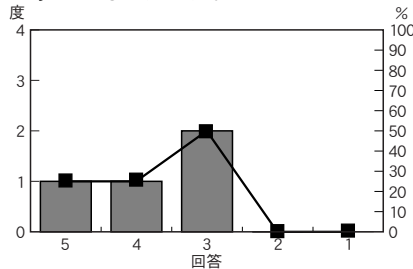
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



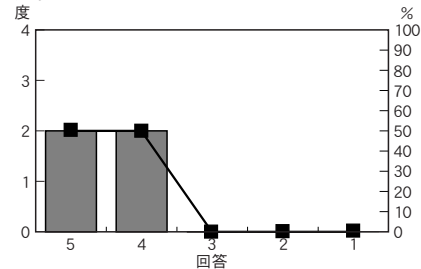
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



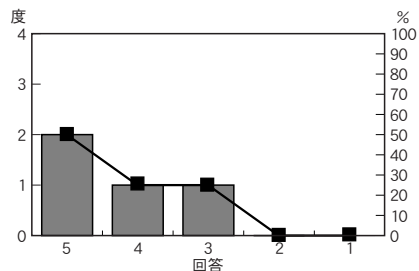
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



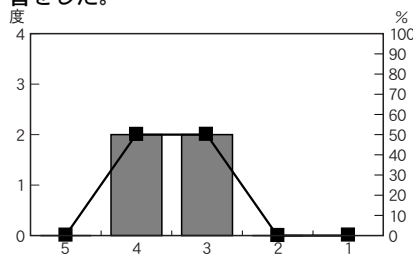
項目分析：(7)

授業によく出席した。



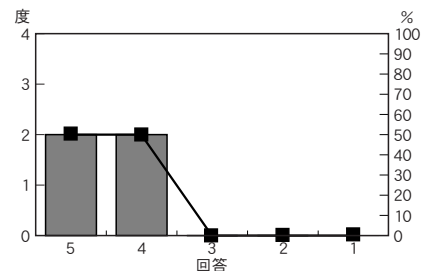
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



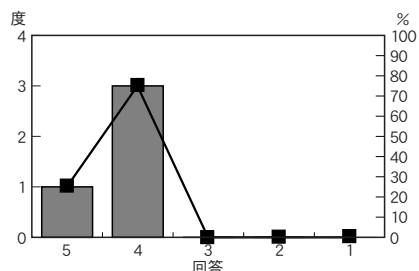
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



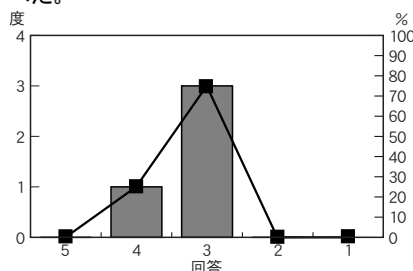
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



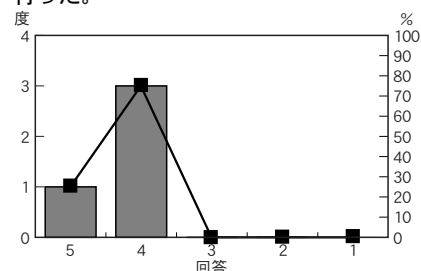
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



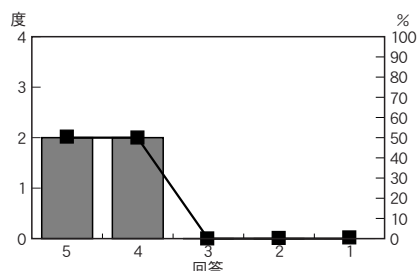
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



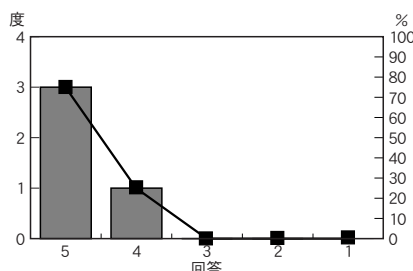
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



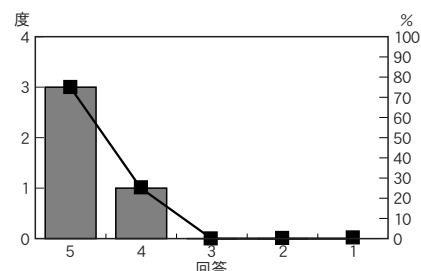
項目分析：(14)

熱心に指導した。

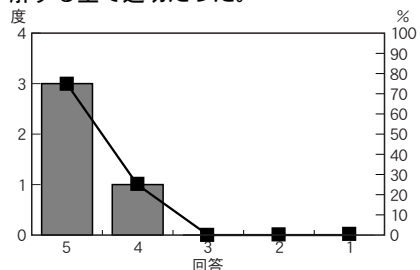


項目分析：(15)

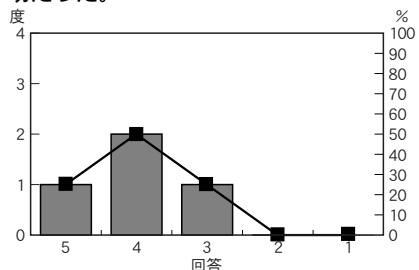
授業内容を分かりやすく説明した。



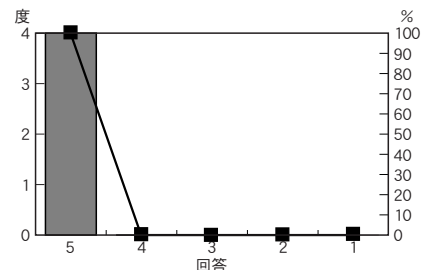
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



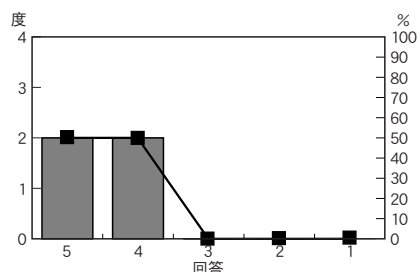
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



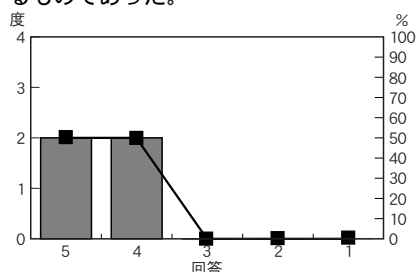
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

「衣生活学」は、平成17年度教育課程の改訂に伴い開設された専修専門科目である。旧課程の「被服学Ⅰ」と「被服学Ⅱ」を合わせた内容となっているため、これからの家庭科教員として必要である専門的な知識を厳選して授業を行った。

「成績評価の方法は、明確に示されていた」、「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった」、「教員の声は、聞き取りやすかった」の3項目において受講者全員が「非常にそうである」と回答した。反対に「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」の3項目において「どちらともいえない」と回答した受講者が多かった。

自由記述では「衣服についての知識がついてよかった」、「専門的な知識が身に付き、自分の生活の中で実践しようと思えた（自然に実践できていた）こと」、「知識が深まったこと」、「とても自分で勉強しました」と書かれており、実生活でも活用できる実践的な授業内容であることがわかった。

今後も専門的な授業内容を実験・実習を取り入れながら分かりやすく教えるとともに、予習や復習を促す工夫を考えていきたい。

授業科目名：「食物学概論（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）」

評価実施日：平成 18 年 7 月 20 日

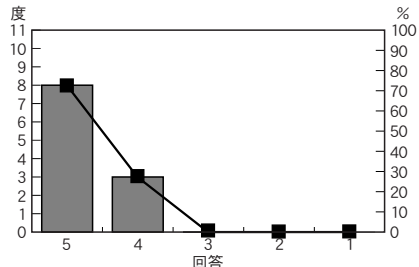
担当教員名：前田 英雄，西川 和孝

(有効な合計11)

■ 度 ■ %

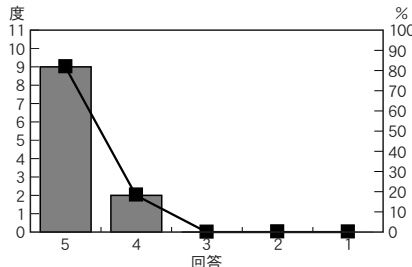
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は，明確に示されていた。



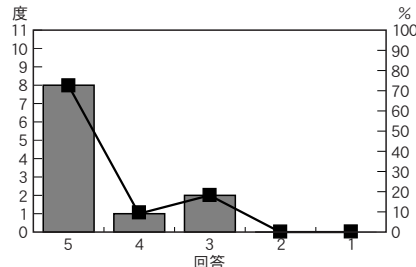
項目分析：(2)

成績評価の方法は，明確に示されていた。



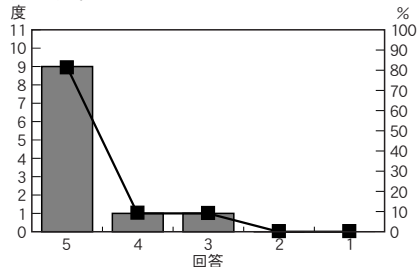
項目分析：(3)

授業内容は，授業概要に沿っていた。



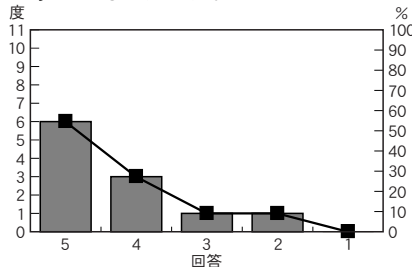
項目分析：(4)

授業内容は，教養や専門性を高めるものだった。



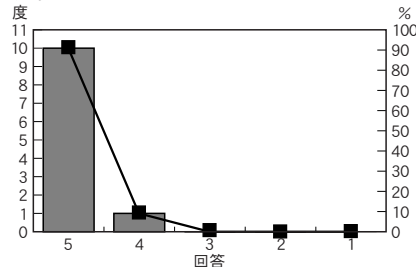
項目分析：(5)

授業内容は，教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



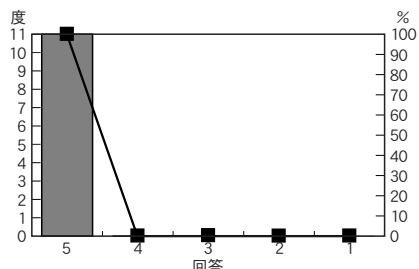
項目分析：(6)

授業内容は，興味・関心を引くものだった。



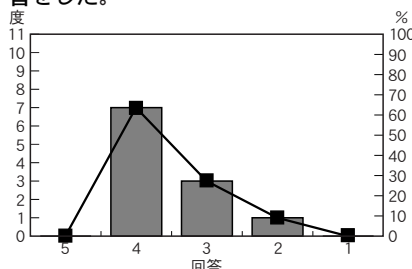
項目分析：(7)

授業によく出席した。



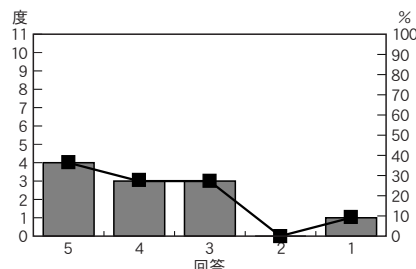
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



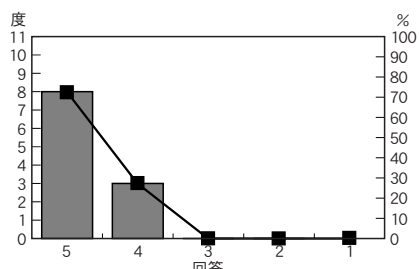
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



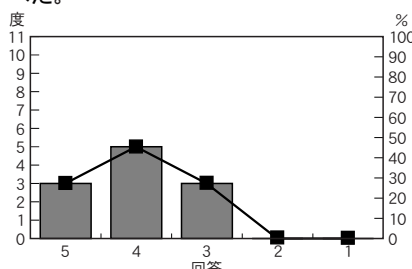
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



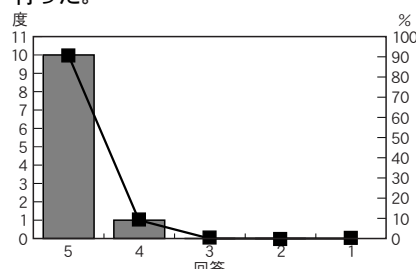
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



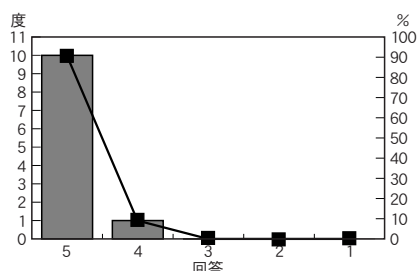
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



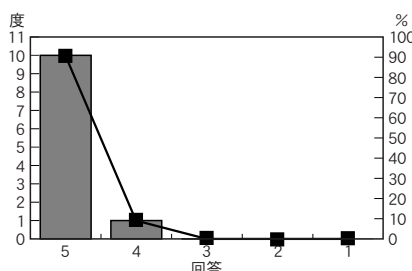
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



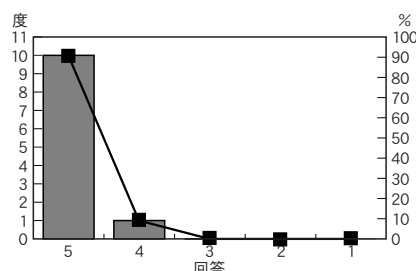
項目分析：(14)

熱心に指導した。

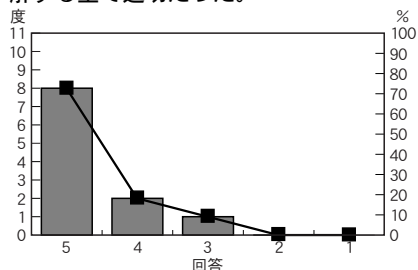


項目分析：(15)

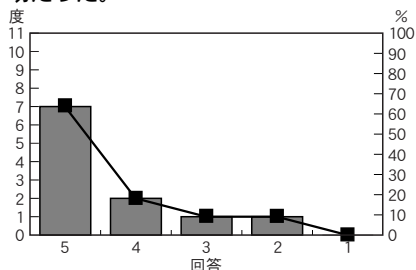
授業内容を分かりやすく説明した。



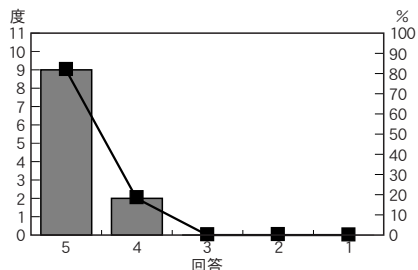
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



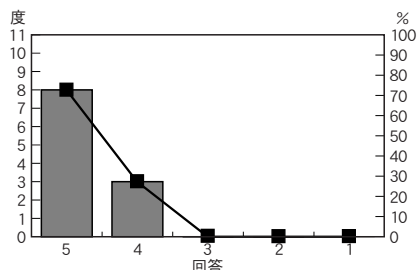
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



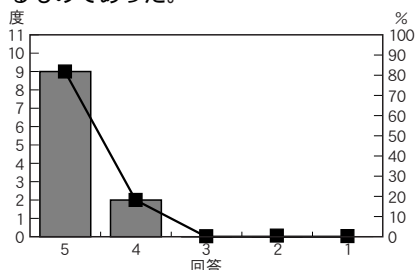
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本講義は、主に1年生を対象とした概論である。例年通り、調理実習を5回以上取り入れた。授業評価では、学生の取り組み（評価項目8, 9, 11）を除き、概ね高い評価であったと考えられる。特に、評価項目21のコメントの中に「参加型の授業で自分たちの意見を述べる事ができた。楽しんで受講できた。教採のために役立つ。」との記述があった。また、本講義の改善点（評価項目22）では、調理器具（コンロ、オーブン）の老朽化を指摘する意見もあった。さらに、今回課題となったところは、改善していきたいと考えている。

授業科目名：「食品学」

評価実施日：平成 18 年 7 月 31 日

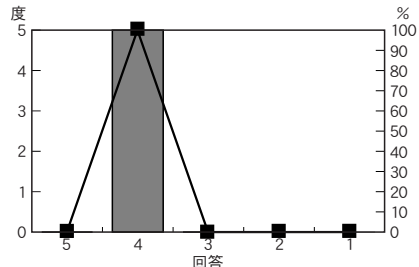
担当教員名：前田 英雄

(有効な合計 5)

■ 度 ■ %

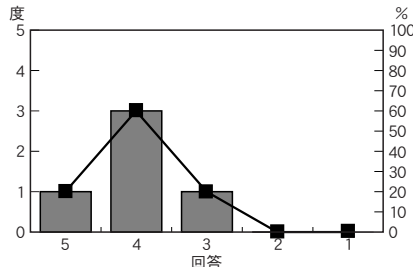
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



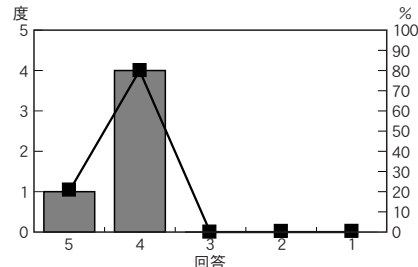
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



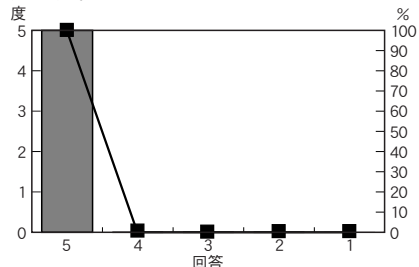
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



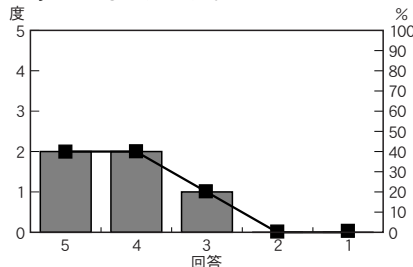
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



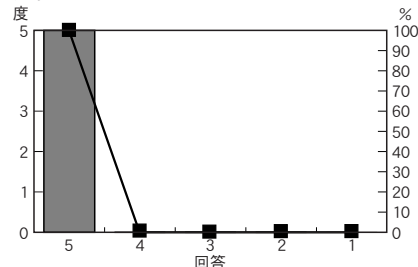
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



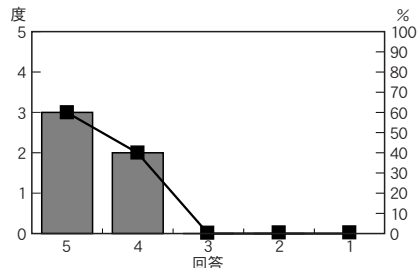
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



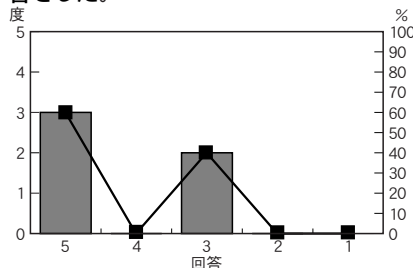
項目分析：(7)

授業によく出席した。



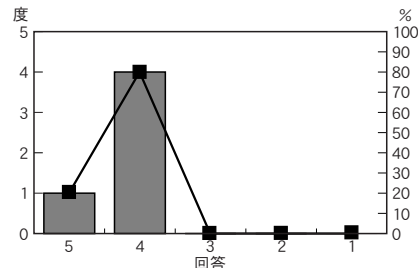
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



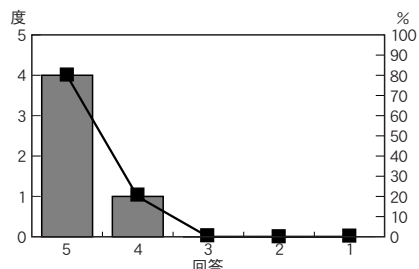
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



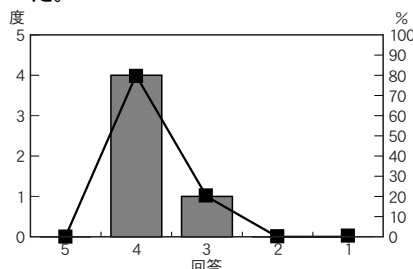
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



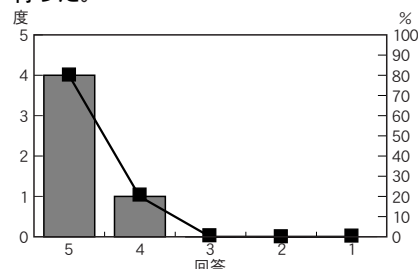
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



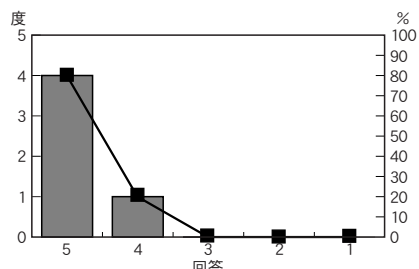
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



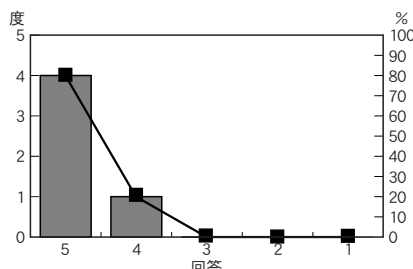
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



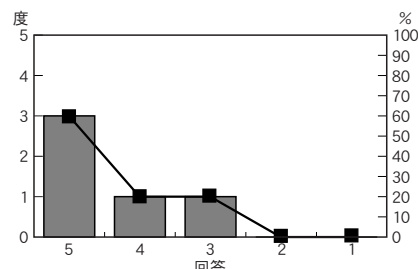
項目分析：(14)

熱心に指導した。

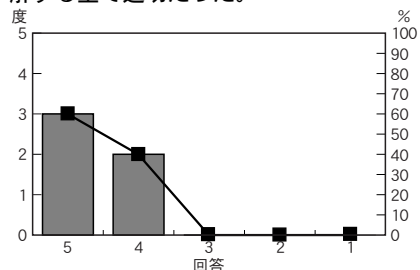


項目分析：(15)

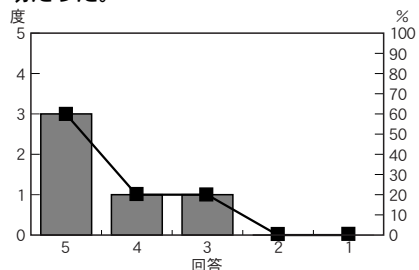
授業内容を分かりやすく説明した。



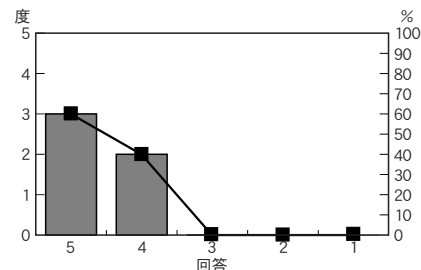
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



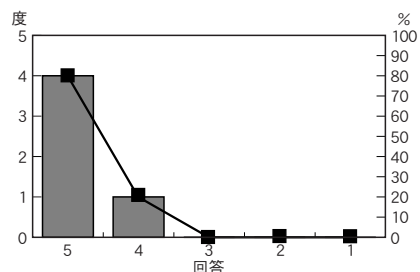
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



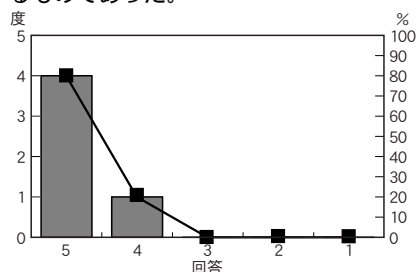
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業科目は家庭科の2年生が対象であるが、副免の関係で2名の学生は受講していなかった。受講生には授業前にその日の内容のプリントを配布している。その理由は学生がノートをとる時間に追われなく、講義内容を理解させることを重視しているからである。しかし、ノートができたと思い、授業中に眠る学生もいる。また、本授業科目は講義科目であるが別の家庭科の授業科目の関係上、2コマ連続の授業である。そのため毎回、1コマは講義、1コマはその日の講義内容に関する実験・実習を取り入れて授業を進めている。

授業評価アンケートを分析すると受講生から教員側の授業内容に関する項目（1. 3. 4. 6. 9. 10. 12. 13. 14. 16. 19. 20）については概ね高い評価を得られた。これは前述したように実験実習を取り入れて授業を展開することがその評価の対象になったものと思われる。

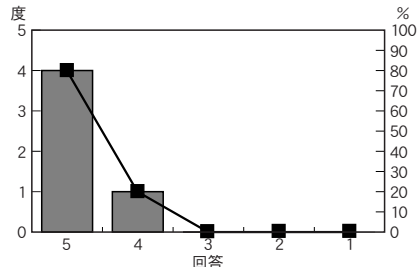
一方、改善する点として授業中にわからないことや疑問に思ったことを自主的に学習させる工夫、予習や復習をさせるための課題提供、またパソコンを用いた授業改善が来年度の検討課題として残った。

授業科目名：「調理実習」
 評価実施日：平成 18 年 5 月 29 日
 担当教員名：西川 和孝

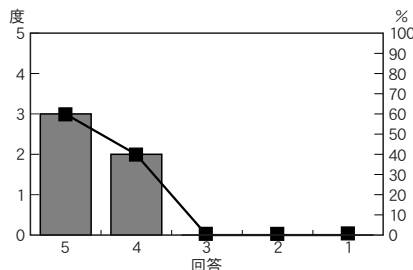
(有効な合計 5)

■ 度 ■ %

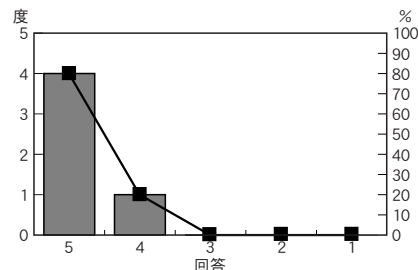
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



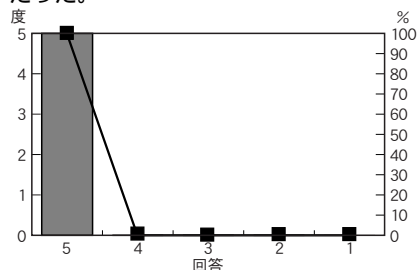
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



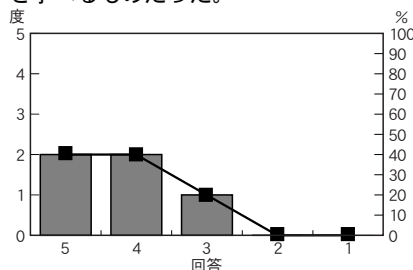
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



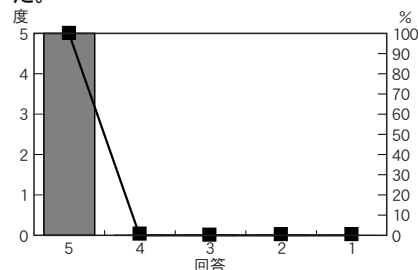
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



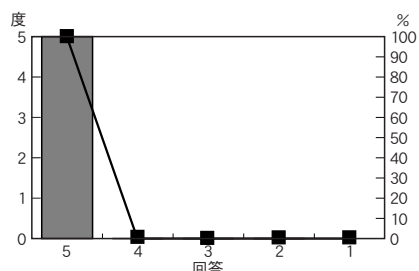
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



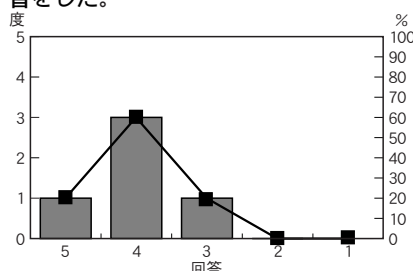
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



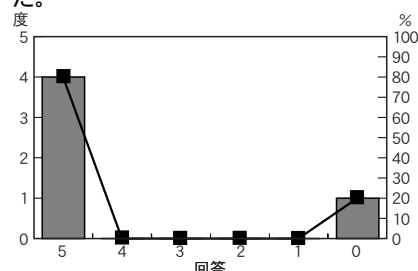
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



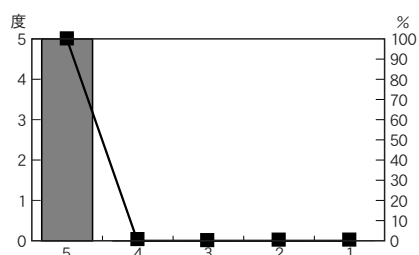
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



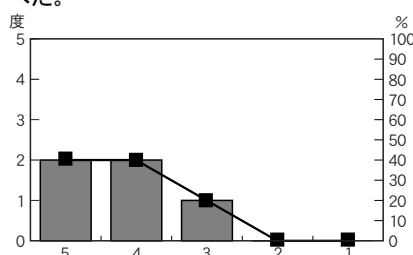
項目分析：(9)
 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。



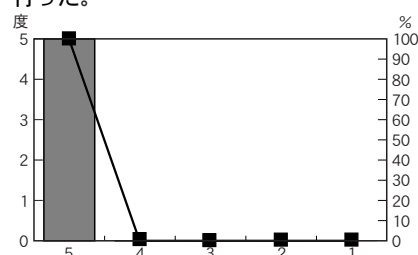
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



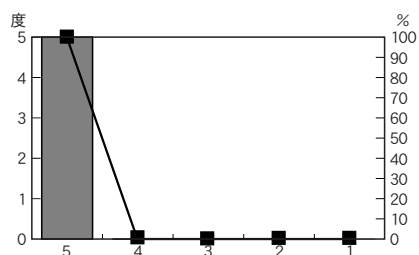
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



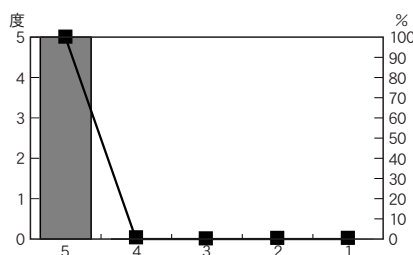
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



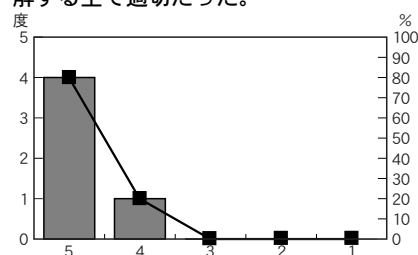
項目分析：(13)
 熱心に指導した。



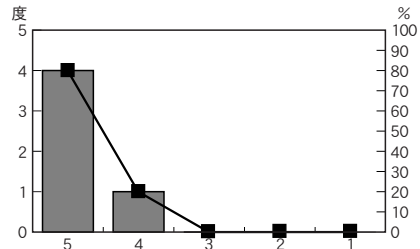
項目分析：(14)
 授業内容を分かりやすく説明した。



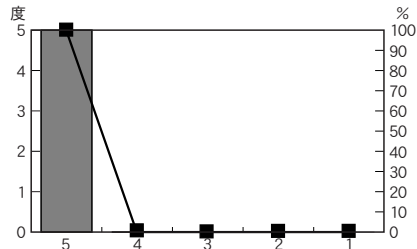
項目分析：(15)
 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



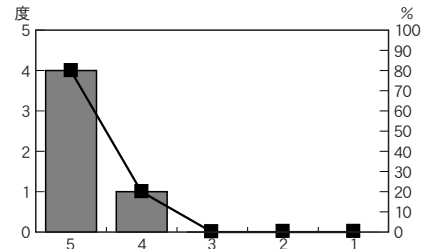
項目分析：(16)
設備、器材、用具等の利用は、適切だった。



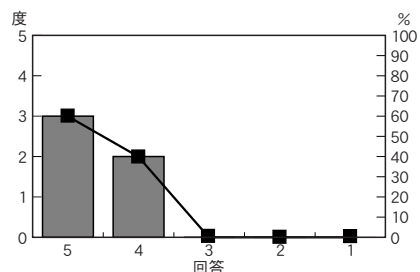
項目分析：(17)
教員の声は、聞き取りやすかった。



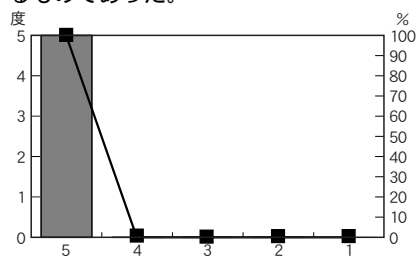
項目分析：(18)
与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。



項目分析：(19)
安全に対する指導と配慮は、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本実習は、主に2年生を対象としている。例年通り、学生の要望がある自由献立を1回取り入れた。また、毎回、プリントや資料を配布し、それに従って実習を行っている。授業評価では、一部（評価項目5、8、11）を除き、概ね5、4の高い評価であった。特に評価項目20は、すべて5の評価であったが、本実習は安全指導が最も重要であるので、今後も注意していきたい。さらに、今回課題となったところは、改善していきたいと考えている。

授業科目名：「住居学概論」

評価実施日：平成 19 年 2 月 22 日

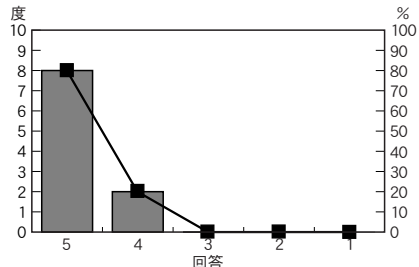
担当教員名：金 貞均

(有効な合計10)

■ 度 ■ %

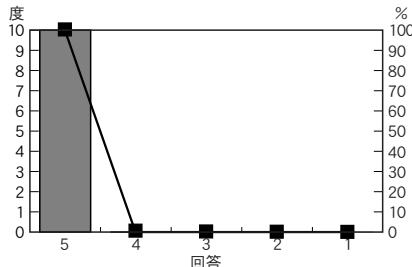
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



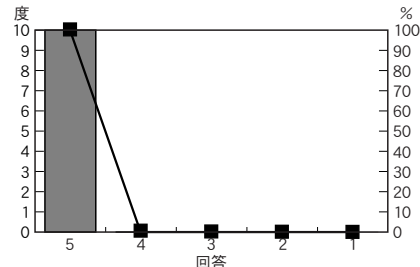
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



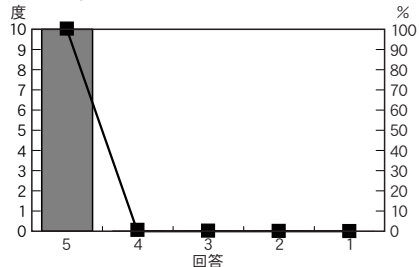
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



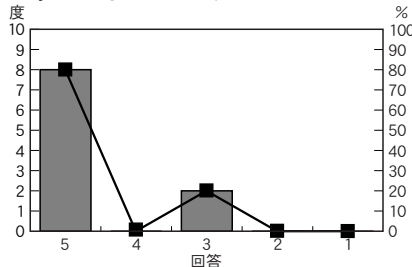
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



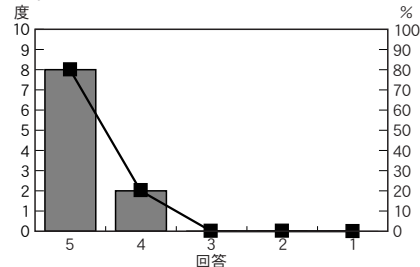
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



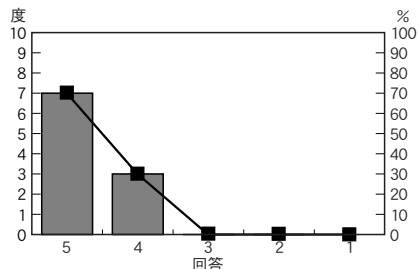
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



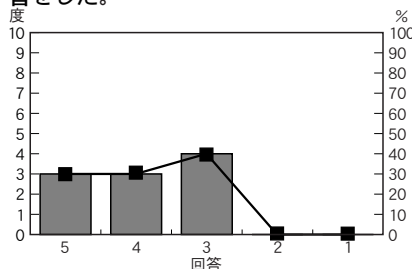
項目分析：(7)

授業によく出席した。



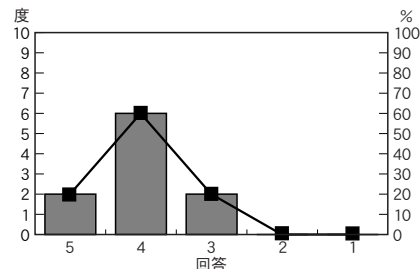
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



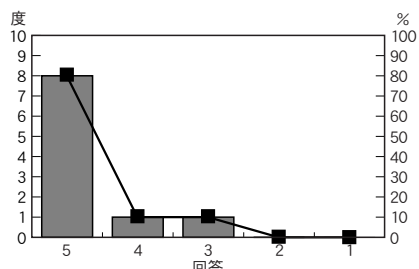
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



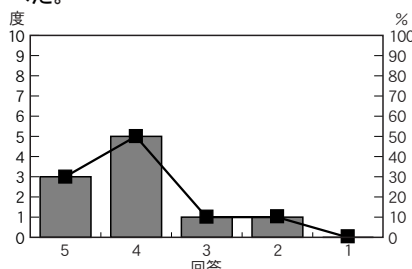
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



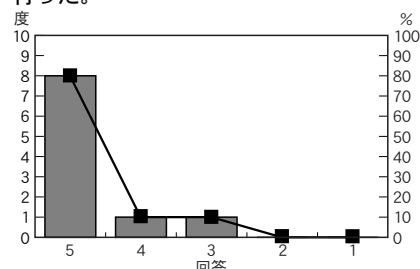
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



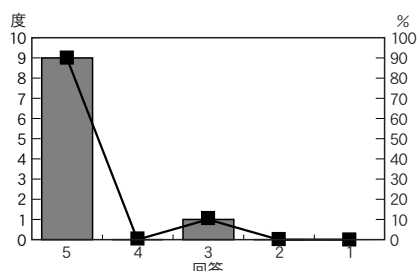
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



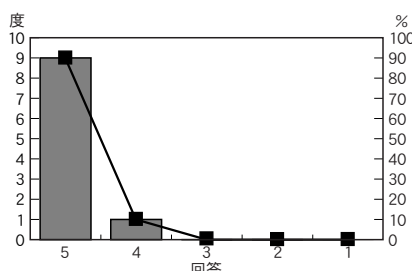
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



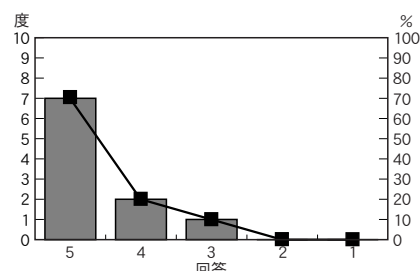
項目分析：(14)

熱心に指導した。

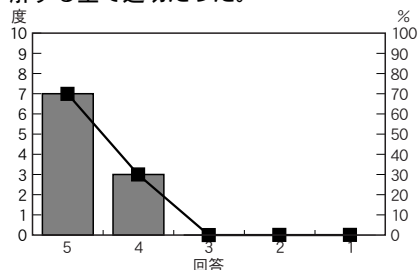


項目分析：(15)

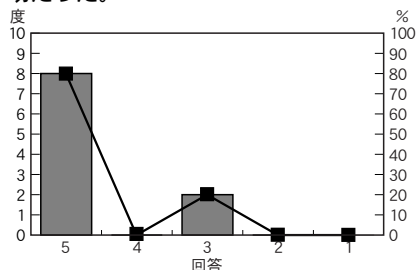
授業内容を分かりやすく説明した。



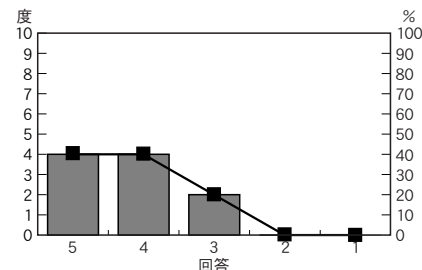
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



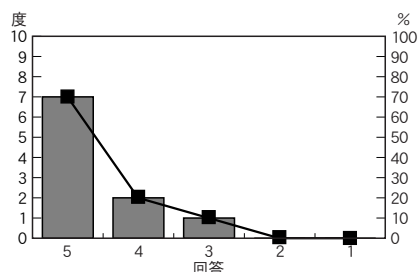
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



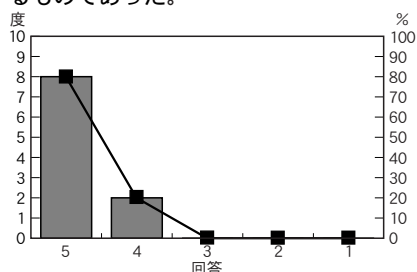
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業に対する受講生らの評価は全般的に高く、期待する授業成果を上げたと考える。但し、「問(5)授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」「問(12)学生の理解状況を確認めながら授業を行った。」「問(13)学生が参加しやすい授業だった。」「問(15)授業内容を分かりやすく説明した。」「問(17)視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。」「問(18)教員の声は、聞き取りやすかった。」「問(19)授業の進む速さは適切だった。」の諸項目において「3. どちらともいえない。」の評価をした受講生が1名または2名ほどおり、今後の授業の反省点とした。

受講生側の自己評価はポジティブなもので、受講生らの授業への取り組み姿勢を評価したい。本授業では課題設定型のまち探検・調査活動や報告、授業課題に関する発問に意見を述べるなどの形式を取り入れ、受講生の授業参加を高めることにつながったと考える。

「問(21)この授業でよかったこと」に対する自由記述では、「住環境についてこれから生きていく上で必要な知識を学ぶことができた。」「住居学について基礎的な知識・考え方を理解でき、現代社会の問題について分かった。」「専門性が高められ、実技能力もついた。」「設計課題は実際にこれから役に立つものであったし、考えるところもたくさんあって、楽しく取り組めた。」「住居に対する関心・興味が高まった。」「新しい発見があった。」などの意見が見られた。「問(23)改善点」としては「課題が多すぎる。」といった意見が一件あり、今後の参考にしたい。

授業科目名：「保育学」

評価実施日：平成 19 年 2 月 15 日

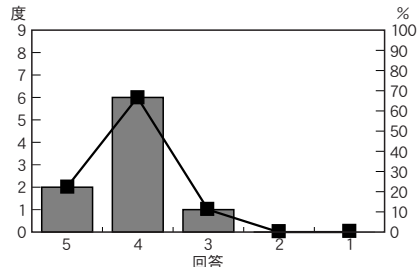
担当教員名：黒川 衣代

(有効な合計 9)

■ 度 ■ %

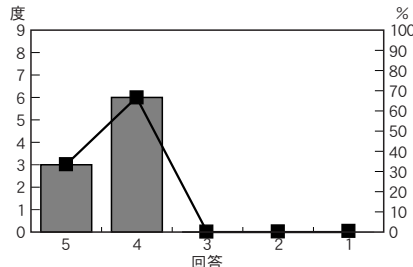
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



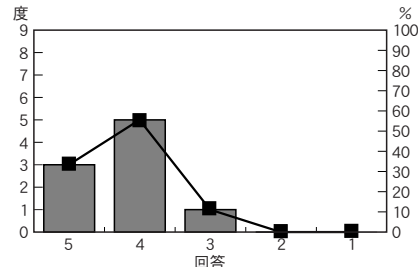
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



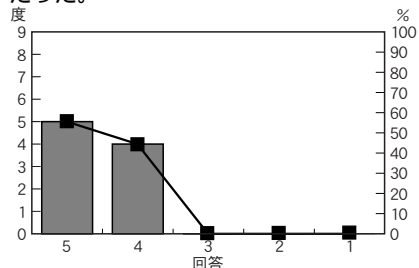
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



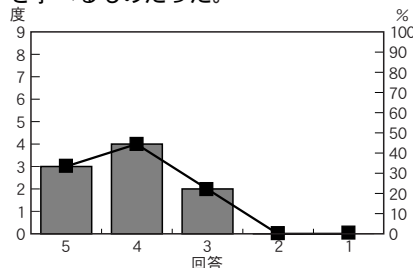
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



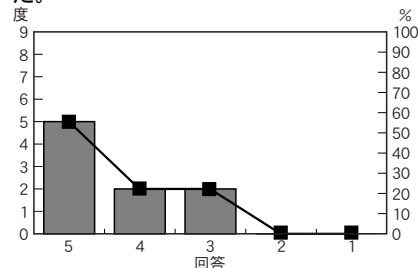
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



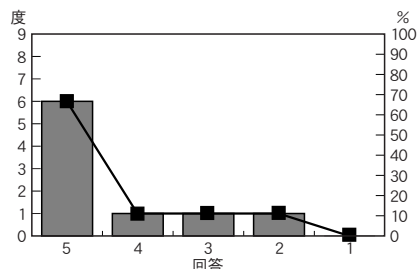
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



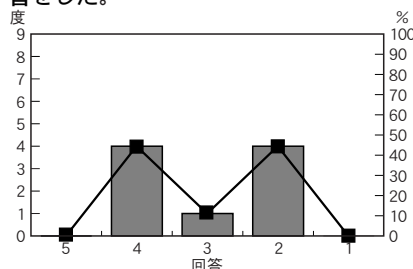
項目分析：(7)

授業によく出席した。



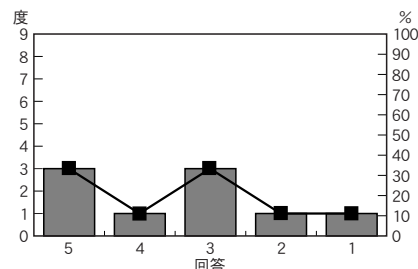
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



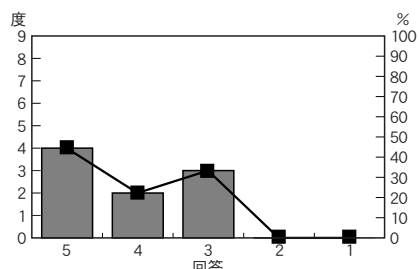
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



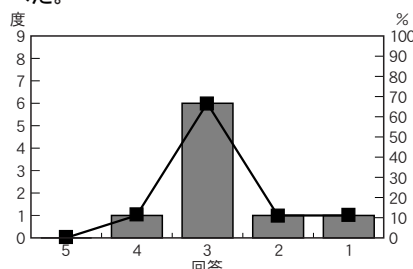
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



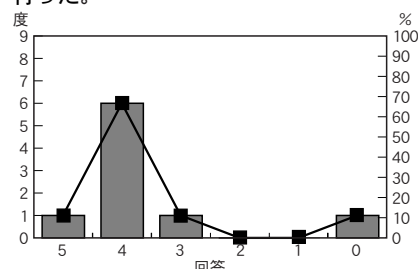
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



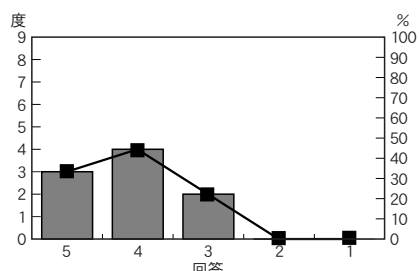
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



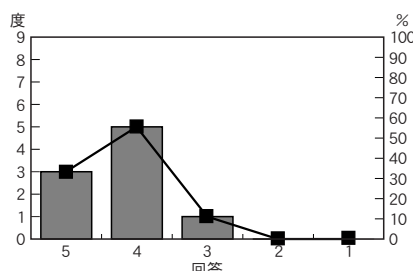
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



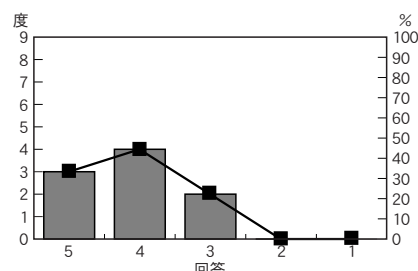
項目分析：(14)

熱心に指導した。

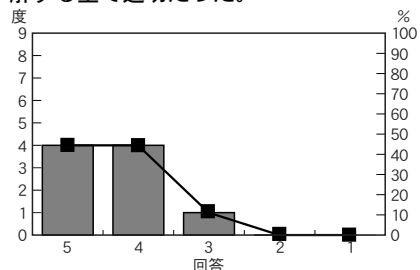


項目分析：(15)

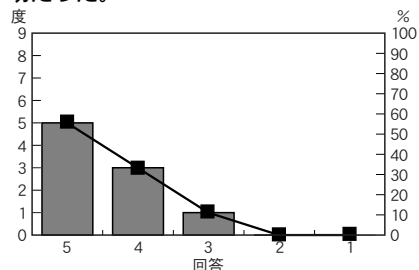
授業内容を分かりやすく説明した。



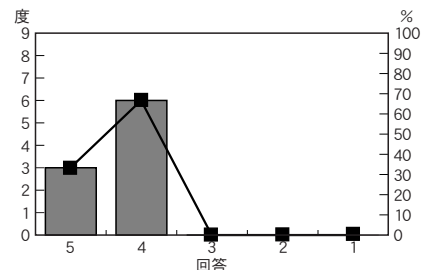
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



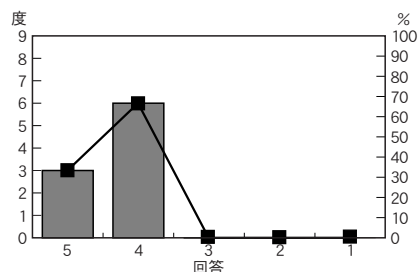
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



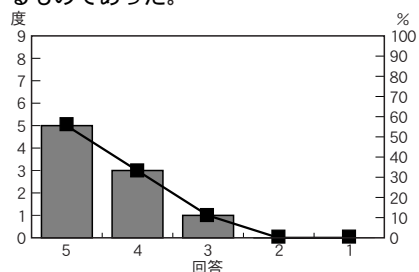
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

この授業は家庭科教員免許のための必修科目である。授業時間の割合から言えば講義中心の授業であるが、概ね肯定的な評価が得られている。

保育実習として保育所訪問を行ったが、どうしても訪問先の予定に合わせざるを得ないので、学生個人の都合により訪問できない者もいた。訪問日時を早めに確定し、全員参加をめざしたい。

また、授業は受講人数に比べてかなり余裕のある大きな部屋で行っているため、小さな教室での授業より意識して見回ったり、大きな声を出す必要があったかもしれない。

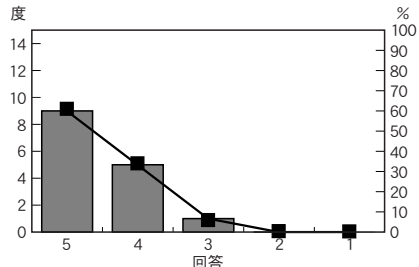
今後はさらなる授業内容の検討とともに、予習、復習や自発的学習を促す工夫を考えていきたい。

授業科目名：「保育原論」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 15 日
 担当教員名：橋川 喜美代

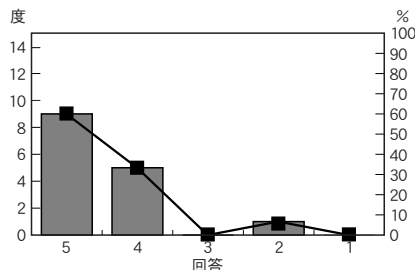
(有効な合計 15)

■ 度 ■ %

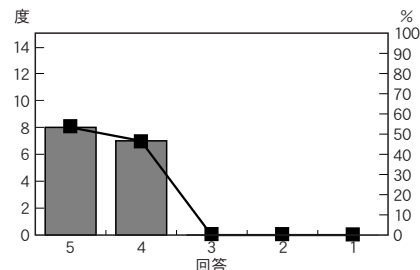
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



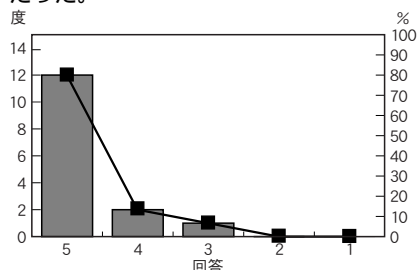
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



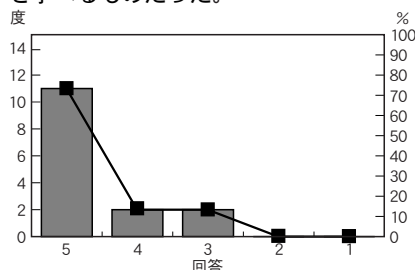
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



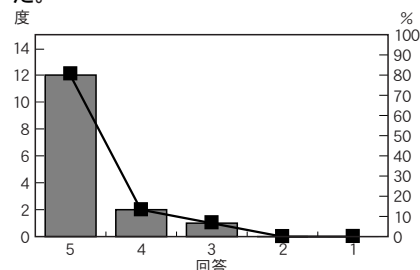
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



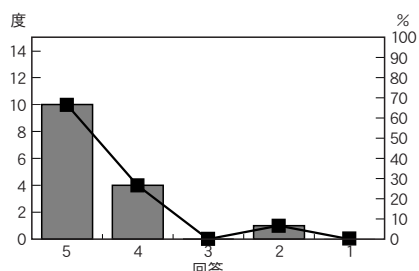
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



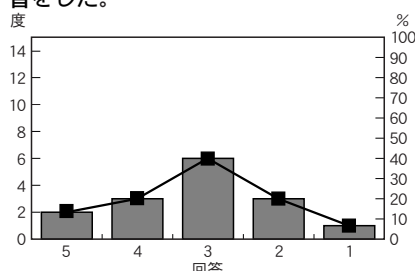
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



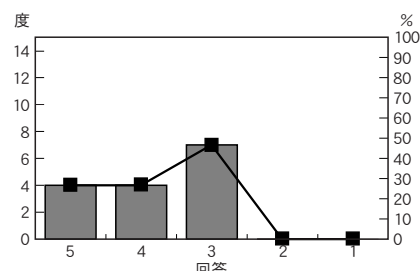
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



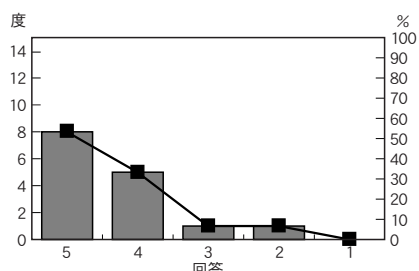
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



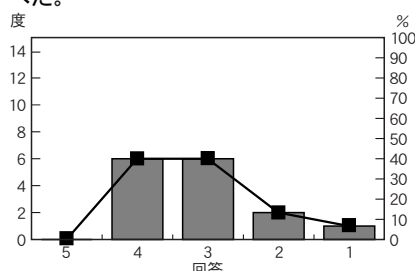
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



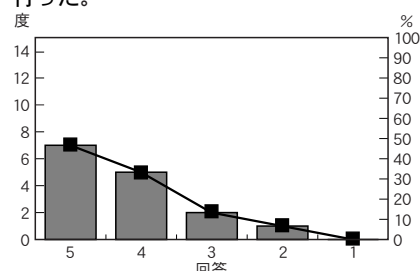
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



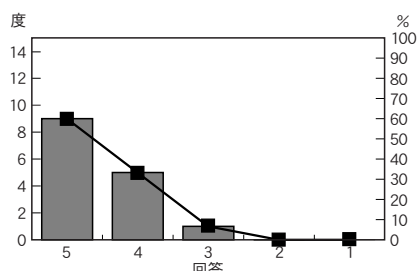
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



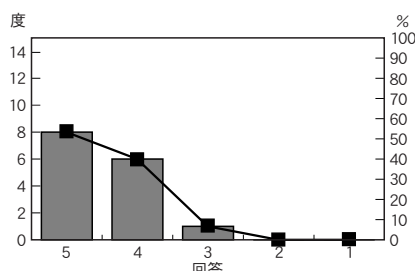
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



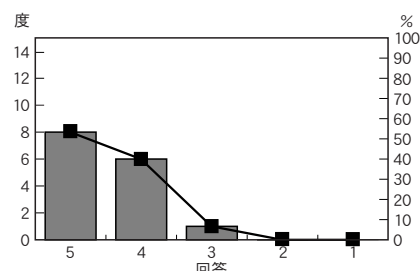
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



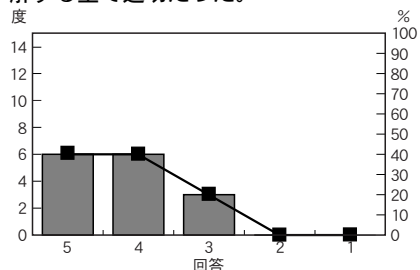
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



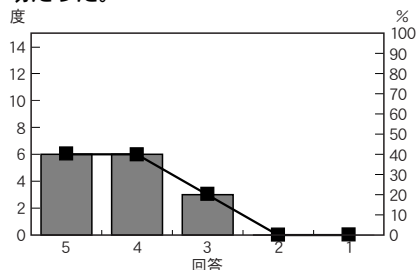
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



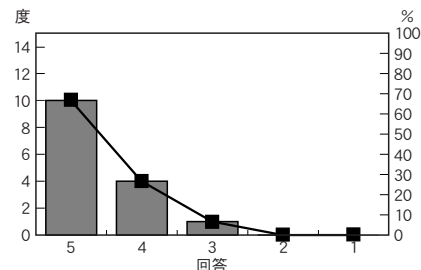
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



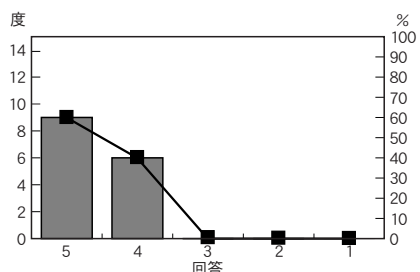
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



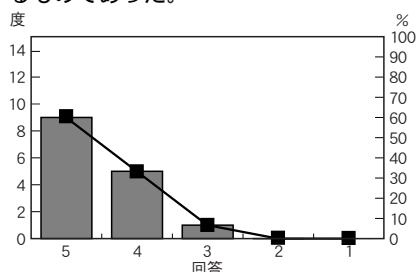
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

調査結果において、4および5の評価が、90%を越えた項目は、授業概要についての2項目、授業内容等についての3項目、授業の進め方についての5項目、授業に対する満足度の1項目であった。また、80%を越える項目を加えると、学生自身の授業への取り組み以外の項目において、概ね満足であると評価されているようである。

学生自身の取り組みでは、授業によく出席し、説明はよく聞いているが、積極的に発言や質問したりまでにはなっていない。したがって、授業内容を理解するための予習・復習などほど遠いといった状況が示されている。

学生からの提言において、保育所での観察実習が良かった点としてあげた学生が11名であった。さらに「保育を専門とする職業のために必要な知識だけではなく、自分自身の将来の子育てに役立つような知識を沢山得ることができた」「保育に関連する勉強が出来て良かった」「発言する機会を与えてくれることが多かった」「普段学ぶ機会のほとんどない乳幼児の保育に関する内容を知ることができた」などがあがっていた。一方、改善点として、保育の観点に加え、「教育面の充実」や理解度を考えた繰り返しを飽きないようにすることなどの指摘もあった。こうした指摘を踏まえ、来年度は予習や復習へとつながるための指導方法の改善に努めたい。

授業科目名：「養護原理」

評価実施日：平成 19 年 1 月 31 日

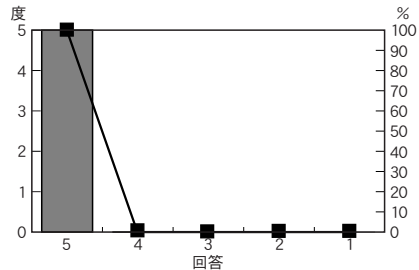
担当教員名：木村 直子

(有効な合計 5)

■ 度 ■ %

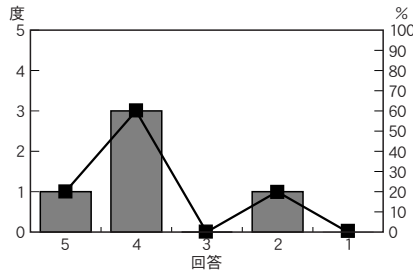
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



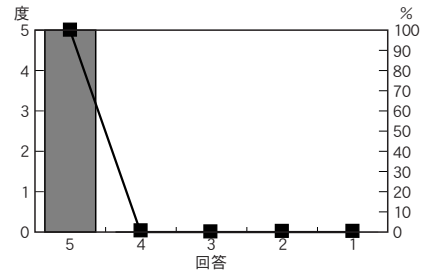
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



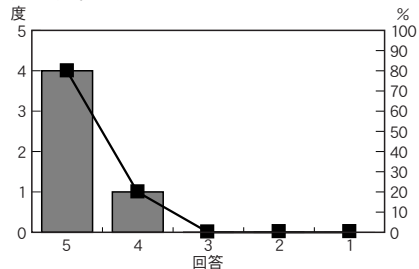
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



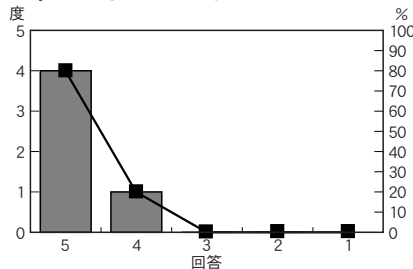
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



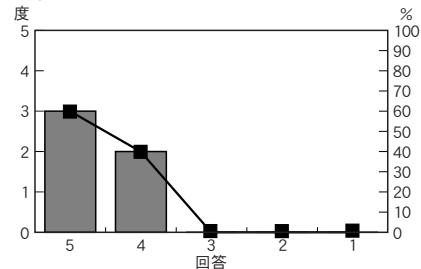
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



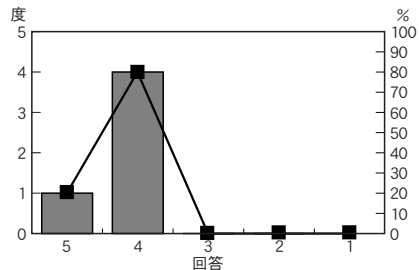
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



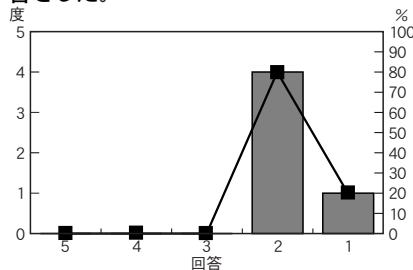
項目分析：(7)

授業によく出席した。



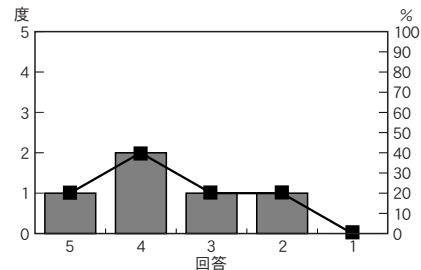
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



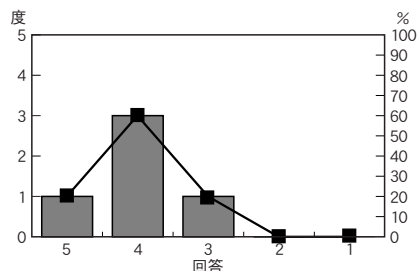
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



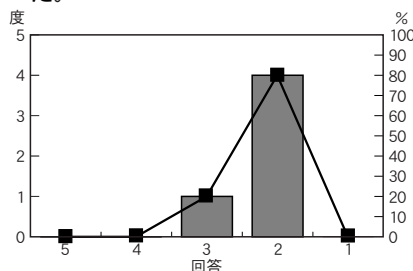
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



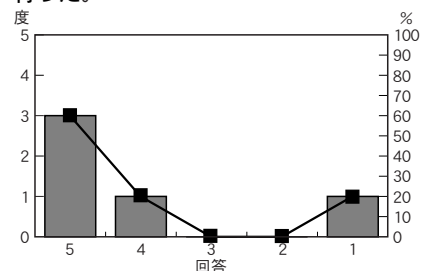
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



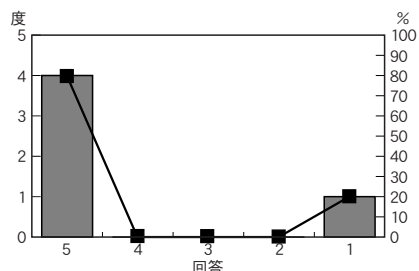
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



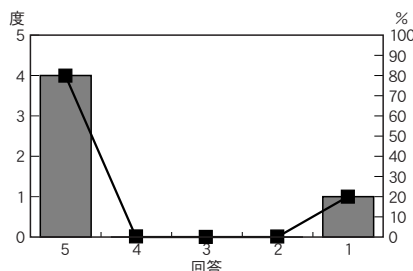
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



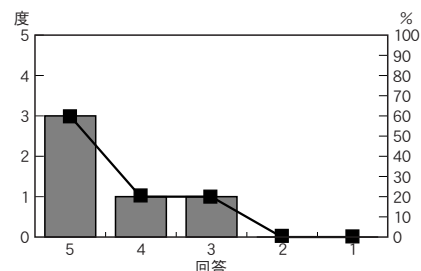
項目分析：(14)

熱心に指導した。

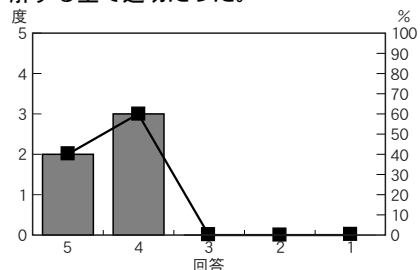


項目分析：(15)

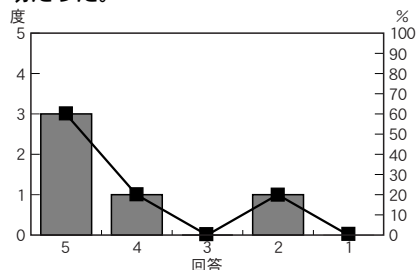
授業内容を分かりやすく説明した。



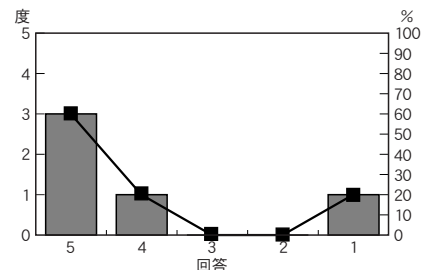
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



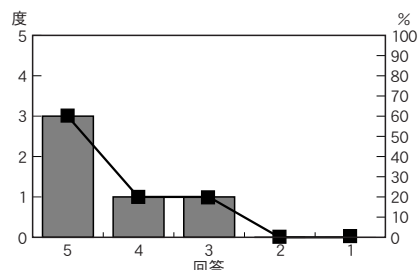
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



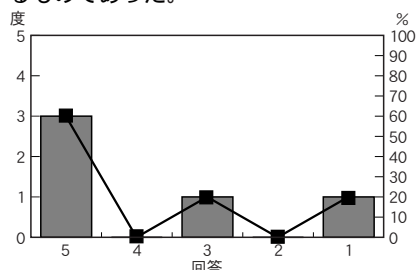
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

本授業の受講者数が少ないため一概には言えないが、「1 授業の概要」及び「2 授業の内容」については、相対的に高い評価がされていた。学生からの自由記述においても、「専門的知識がたくさん学べた」「専門性が高まった」といったコメントが寄せられた。しかし、「3 あなたの授業への取り組みについて」「4 授業の進め方」については、回答にばらつきが出ている。今後この授業をより良いものとしていくために、アンケートの結果から改善の余地が考えられる点を挙げ、それに対する授業の改善策について、記述しておく。

参加しやすい授業として出席はしているが、授業に積極的に参加したり、授業内容の予習、復習を行ったり、わからないことや疑問に思ったことを調べるなど、学生の主体的な授業参加や、学習意欲を高めるということには至っていない。このことは、授業の進め方として、教科書や配布資料など適切な教材を提供し、専門的な内容を分かりやすく説明することによって、学生の学習意欲を喚起することができ、改善される問題ではないかと推測される。そして、そのことが学生の授業に対する満足度を高めることに繋がるのではないかと考える。したがって、今後の改善策としては、教材を工夫し、専門的知識を学生たちの理解できる分かりやすい形で伝える努力をすることが挙げられる。

授業科目名：「小児保健」

評価実施日：平成 19 年 2 月 15 日

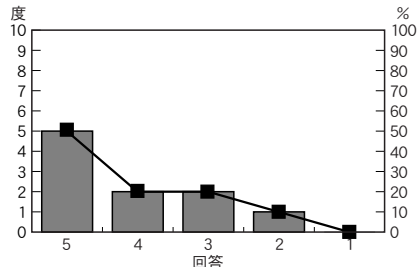
担当教員名：廣瀬 政雄

(有効な合計10)

■ 度 ■ %

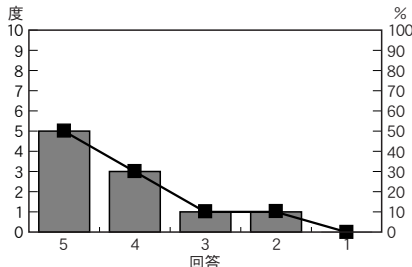
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



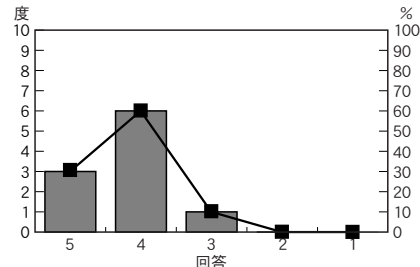
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



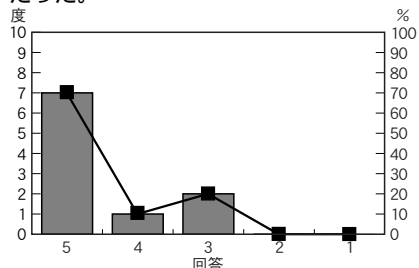
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



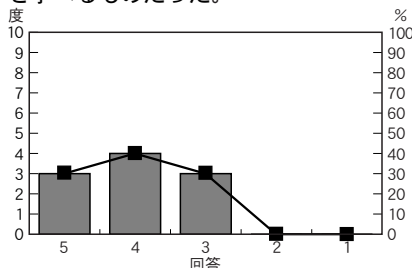
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



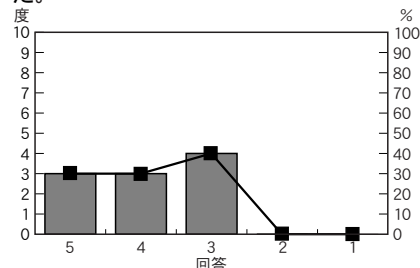
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



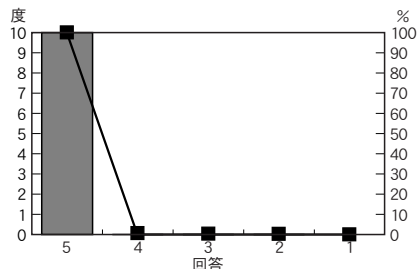
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



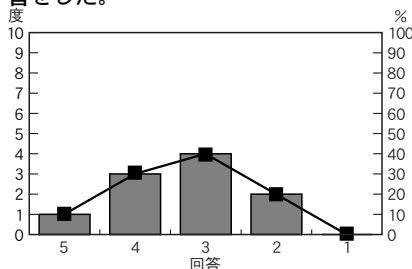
項目分析：(7)

授業によく出席した。



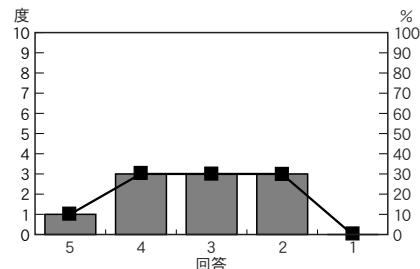
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



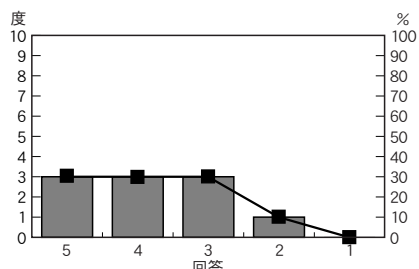
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



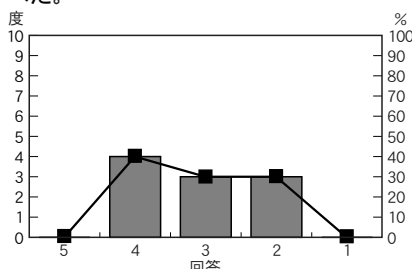
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



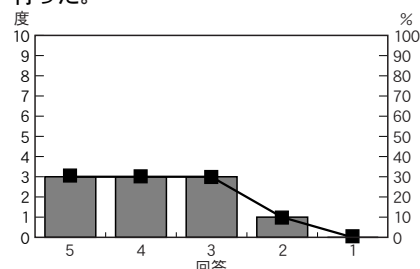
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



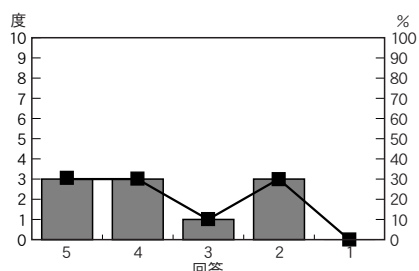
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



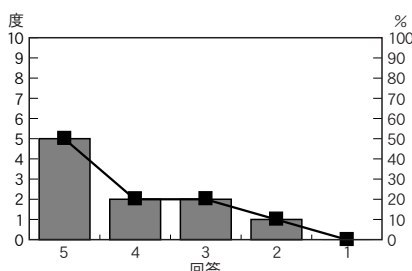
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



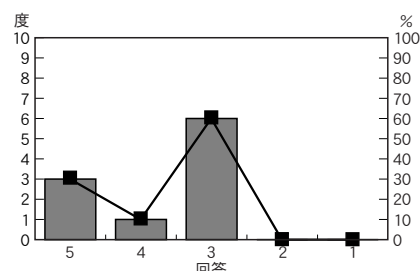
項目分析：(14)

熱心に指導した。

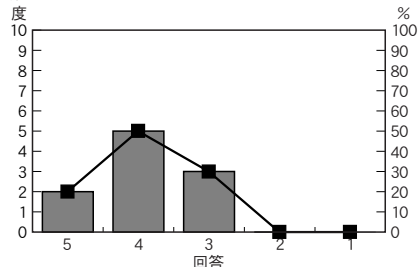


項目分析：(15)

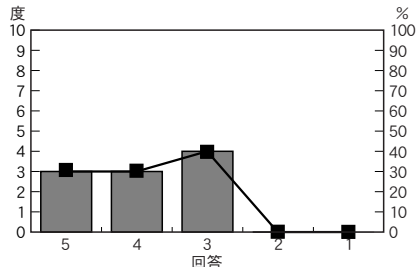
授業内容を分かりやすく説明した。



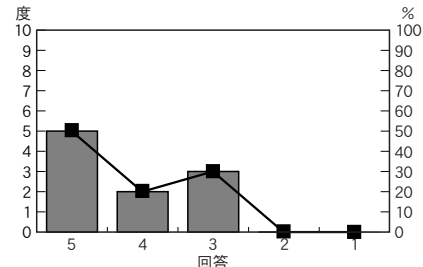
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



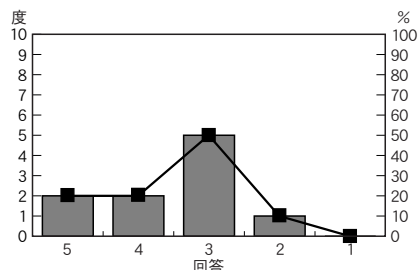
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



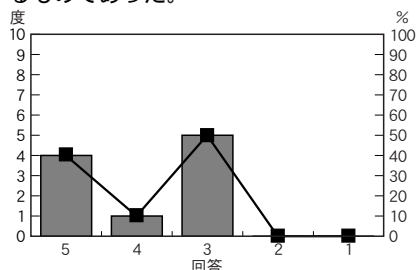
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

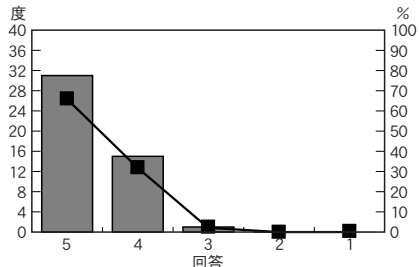
項目分析 (1, 2, 3, 4, 14, 18) は教員側の分析項目を含んでおり、高い評価である。学生側に共通する分析項目では、(8, 9, 10, 11) にみられるように、熱心に取り組んだ学生とほどほどの学生に別れた。興味を持って授業に参加させるためのもう一段の工夫が必要である。授業内容については専門性が高められると考える学生と、難易度が高く興味を持たないと考える学生に分かれた。将来、子どもの保健に関して専門的に関わるのに必須の授業だということを考えると、授業内容がある程度高度なものとなるのは致し方ない。授業の進め方についての分析項目では高い評価から中程度の評価に分かれている。また、学生にとっての満足度も高いものから中程度のものまで分かれた。他大学で、キーワードをカッコ抜きで作っておき、授業中に学生にカッコ内を埋めさせてテキストを完成させるという授業をしていると紹介したところ、学生の感想に興味を示すものがあるので、試みる価値があるかもしれない。

授業科目名：「障害児教育概説Ⅰ」
 評価実施日：平成19年2月15日
 担当教員名：八幡 ゆかり

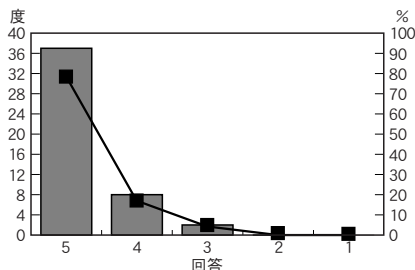
(有効な合計47)

■ 度 ■ %

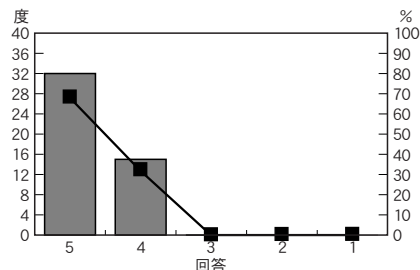
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



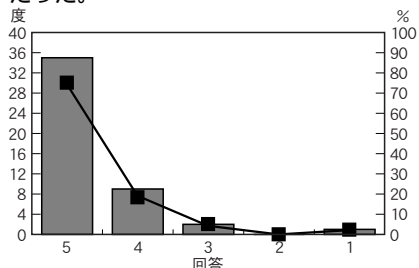
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



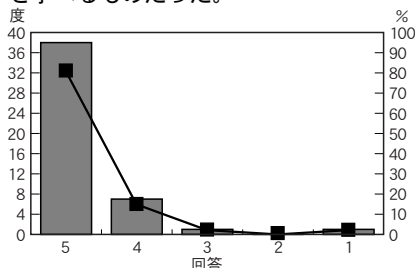
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



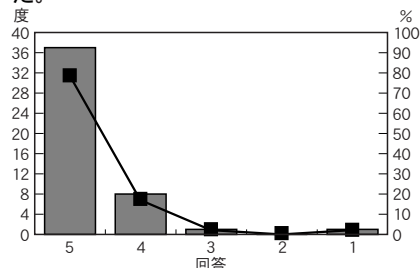
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



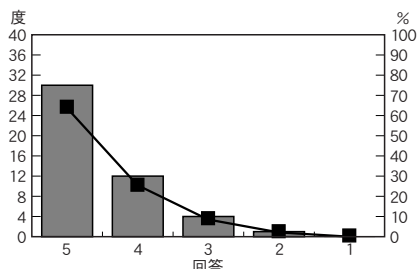
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



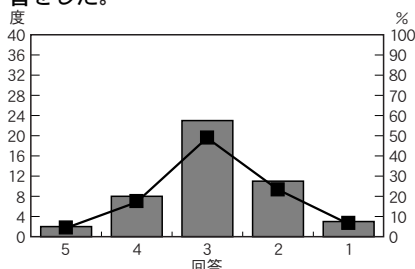
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



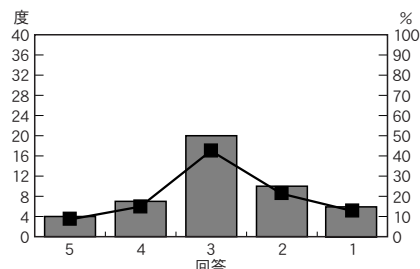
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



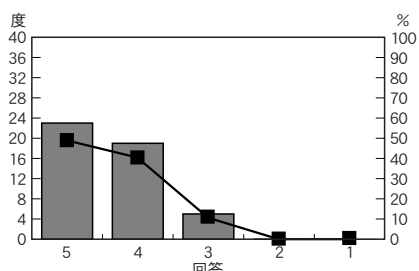
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



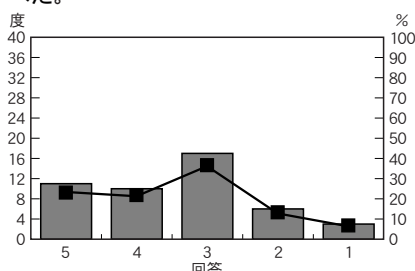
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



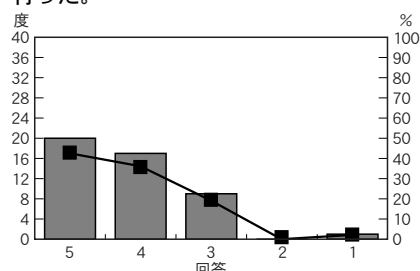
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



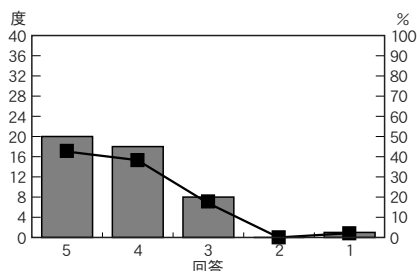
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



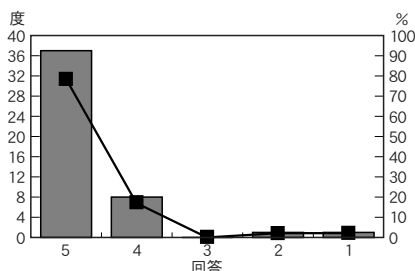
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



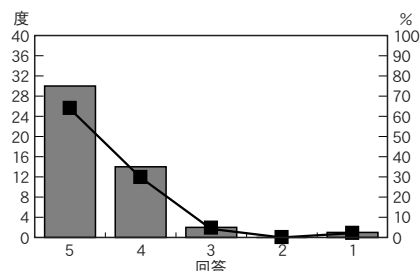
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



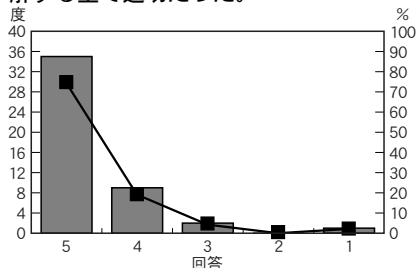
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



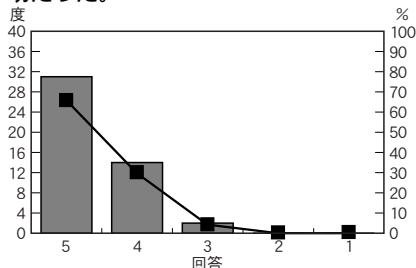
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



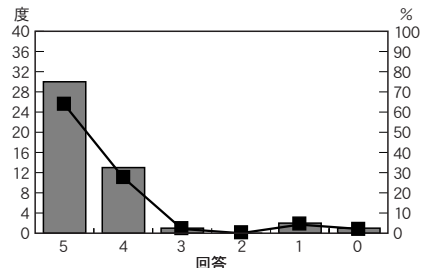
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



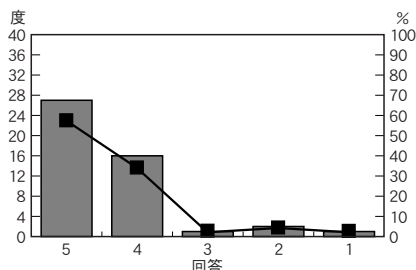
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



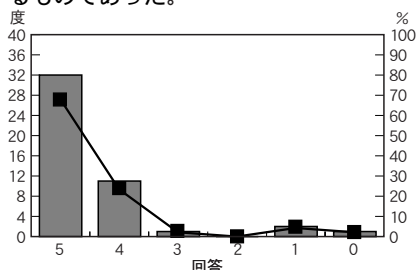
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

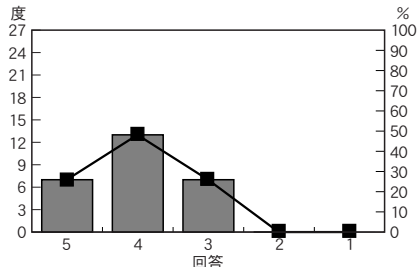
全体の評価を見ると、教員に対する評価は、全項目にわたって5の評価が最も多かった。そのうち、5の割合が最も高かったのは、設問5「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものであった」で約81%であった。ついで、設問2「成績評価の方法は明確に示されていた」、設問6「授業内容は、興味・関心を引くものだった」、設問14「熱心に指導した」が約79%であった。そして、設問20の「授業の満足度」については、5の割合が約68%、4の割合が約23%と、合計約91%であった。本授業に関して「よかったこと」の内訳は、『実際に保護者の話を聞いたこと』『ビデオによる視覚情報が得られた』『障害児教育の大切さやあり方を学べた』『歴史を学び、各々の時代の取り組みが学べた』『障害児教育の専門性を深めることができた』『自分自身いろいろと考えることができた』といった記述が見られた。これらのことから、本授業の進め方は適切であったといえる。一方、学生自らの評価については、高い評価であったのは設問7「授業への出席率」は5が約64%、4が約26%で合計約90%であった。設問10「教員の説明を聞く」は5が約49%、4が約40%で合計約89%であった。つぎに評価が集まっていたのは3の評価で、設問8「予習や復習をした」が約49%、設問9「積極的な発言や質問をした」が約43%、設問11「分からないことや疑問に思ったことを調べた」が約36%であった。このような3の評価をさらに上げるよう、今後より一層、学生の主体性や自主性を引き出す試みをしていく工夫を行っていきたい。

授業科目名：「障害児心理学Ⅱ」
 評価実施日：平成18年7月28日
 担当教員名：島田 恭仁

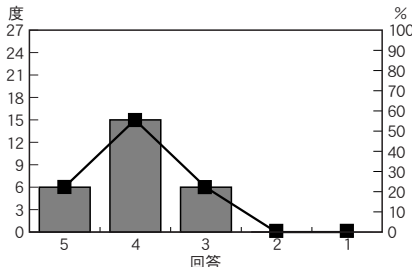
(有効な合計27)

■ 度 ■ %

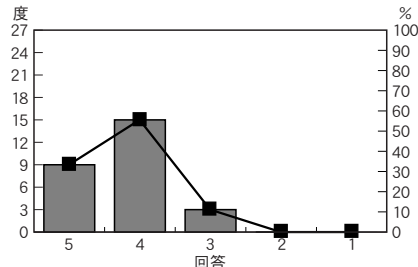
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



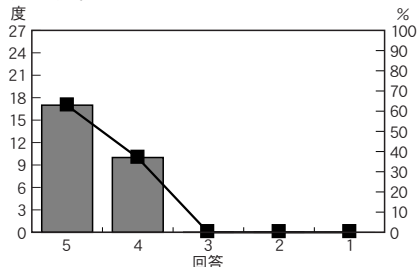
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



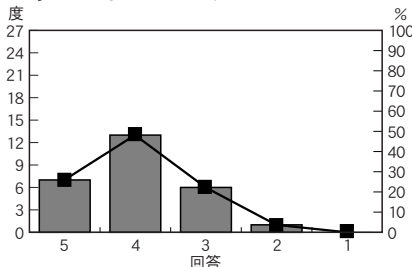
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



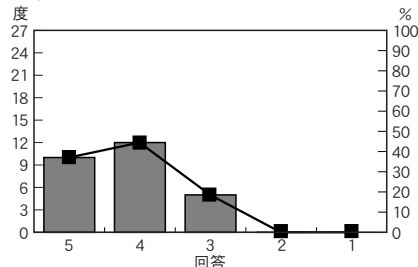
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



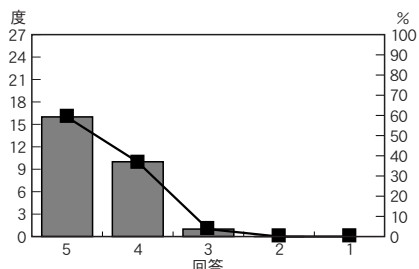
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



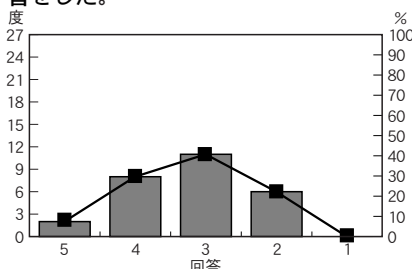
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



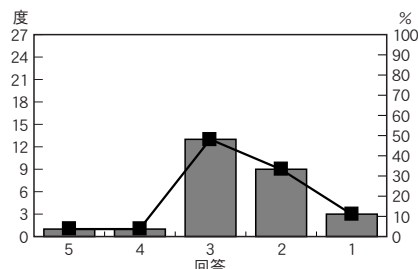
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



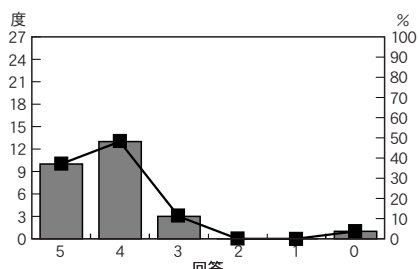
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



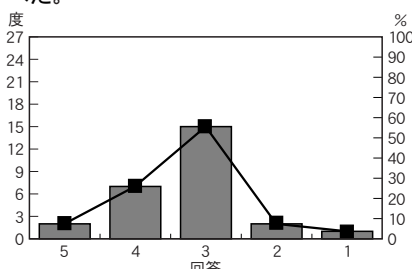
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



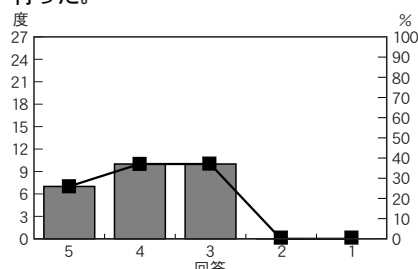
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



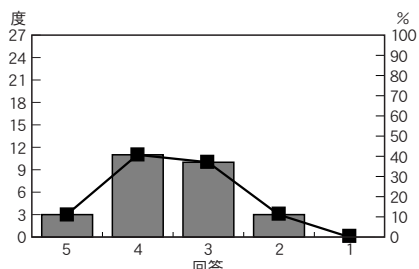
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



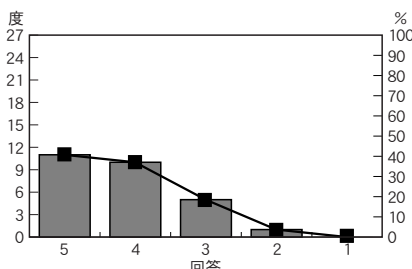
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



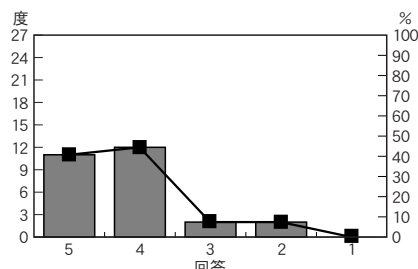
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



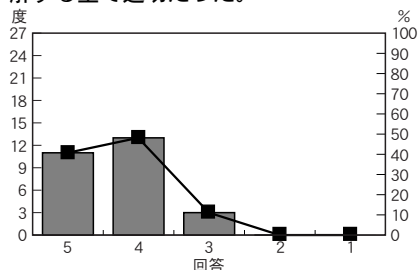
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



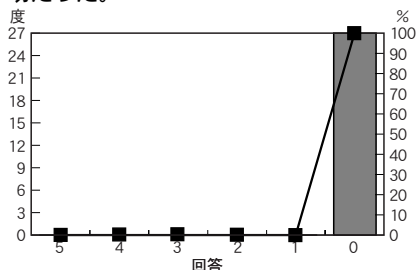
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



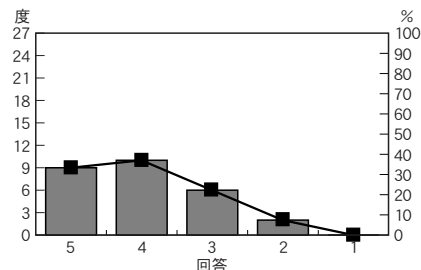
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



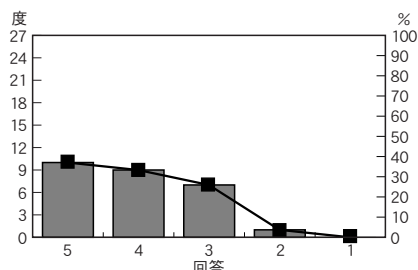
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



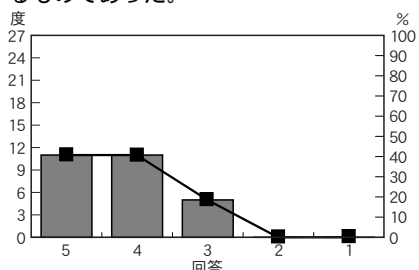
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

今年度の障害児心理学Ⅱの授業では、WISC-ⅢやK-ABC等の心理検査と記憶の情報処理モデルに基づいて、障害児の認知特性をアセスメントする方法について詳細に論じた。

授業評価アンケートの結果、問4「授業内容は教養や専門性を高めるものだった」、問15「授業内容を分かりやすく説明した」、問16「教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった」に高い評価値をつけた学生が多かった。従って、授業内容を浸透させることには成功したと思われる。特に問4では学生全員が5または4の評価をしたことから、アセスメントに必要な知識を分かりやすく伝えることができたと言える。

一方、問8「授業を理解するために予習や復習をした」、問9「授業中に積極的に発言や質問をした」に低い評価をした学生が多かったことより、学生はやはり受身的な姿勢であったことが示唆された。授業中に多くの資料を配布することは、内容を分かりやすくする上では有効だが、不明な点を調べようとする意欲を喚起するには、むしろマイナスに作用するのだろう。あるテーマについての参考資料を学生自らが収集し、授業中にその内容を発表するような授業形態も取り入れてみたい。

授業科目名：「障害児生理学」

評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日

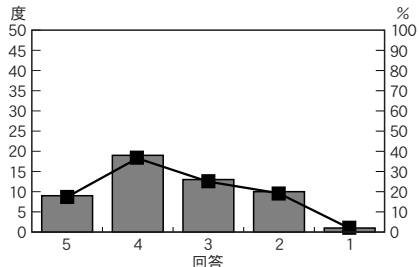
担当教員名：津田 芳見

(有効な合計52)

■ 度 ■ %

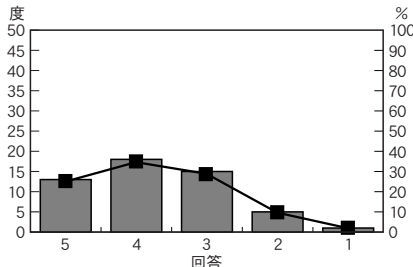
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



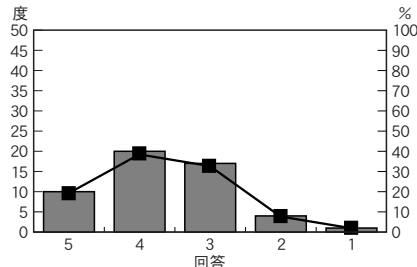
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



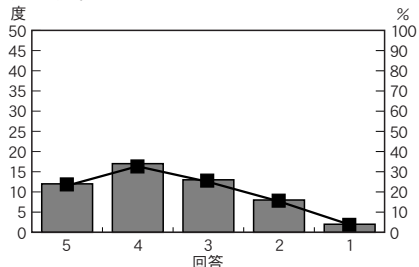
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



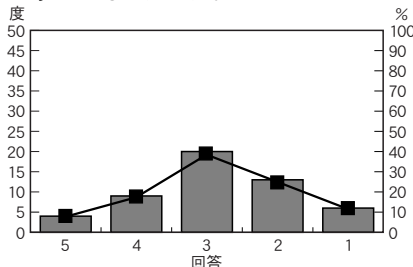
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



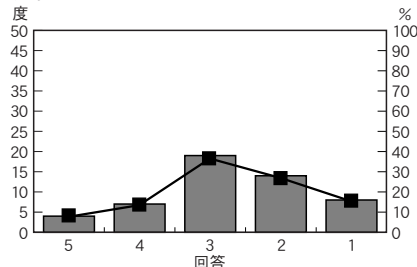
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



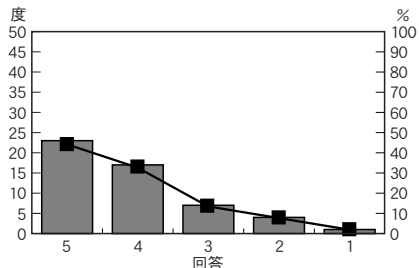
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



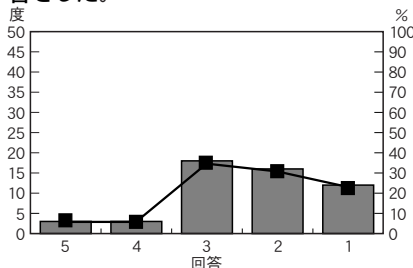
項目分析：(7)

授業によく出席した。



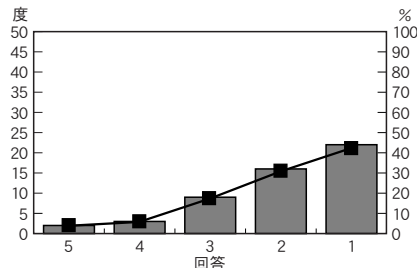
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



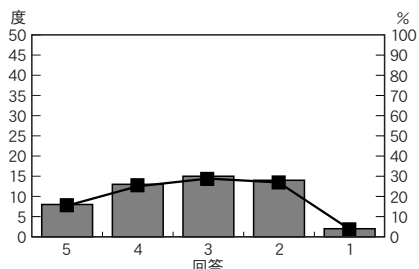
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



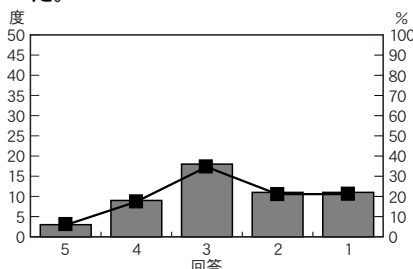
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



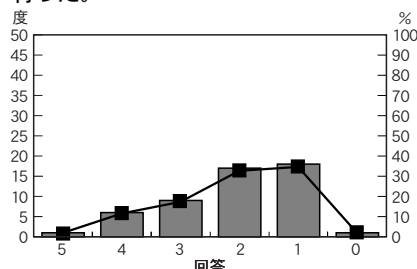
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



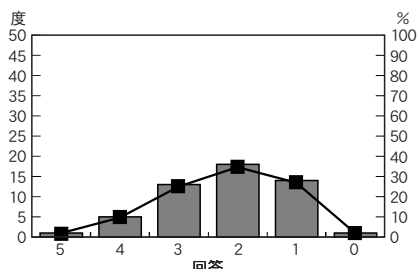
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



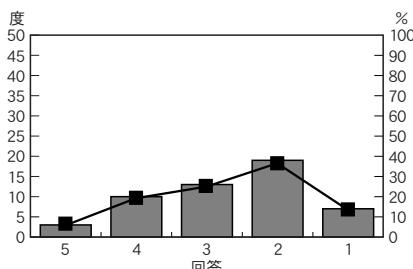
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



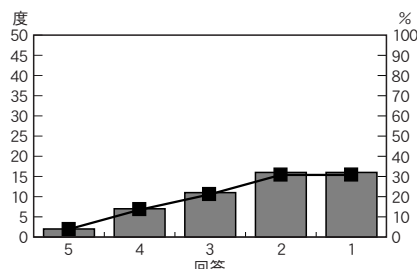
項目分析：(14)

熱心に指導した。

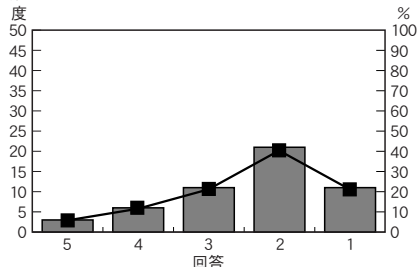


項目分析：(15)

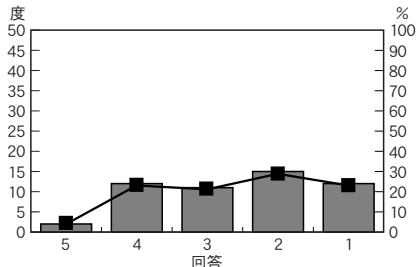
授業内容を分かりやすく説明した。



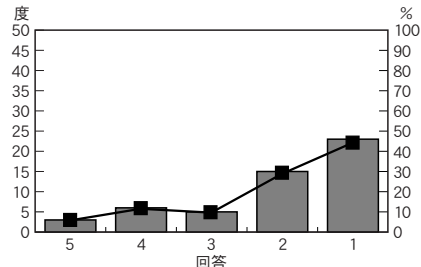
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



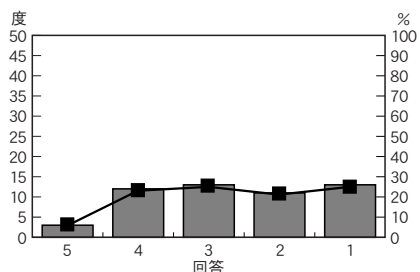
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



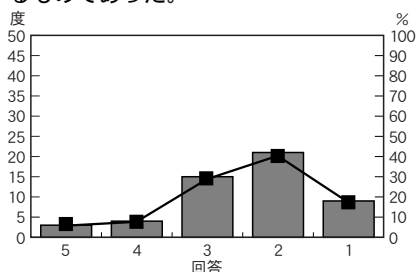
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

障害児生理学は障害児の教育に当たる上で、理解しておくべき障害児の生理学についての内容となるため、内容を理解し、興味を持つことについて、専修にするつもりがない場合、負荷がかかりすぎるように思われる。多数の受講生の背景となっている知識もさまざまであり、授業態度もさまざまである。次年度からは、特別支援教育となり、障害種別の講義内容となるため、もう少し、講義内容をしぼって、理解度、満足度、興味の持ち方などについて、改善を図りたいと考えている。

授業科目名：「障害児病理・保健学」

評価実施日：平成 19 年 2 月 23 日

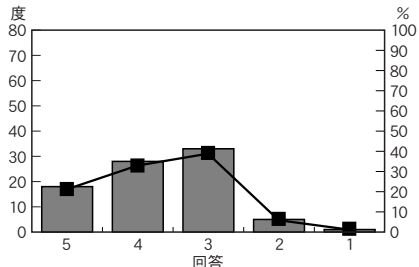
担当教員名：橋本 俊顯

(有効な合計85)

■ 度 ■ %

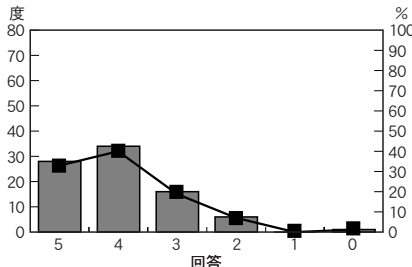
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



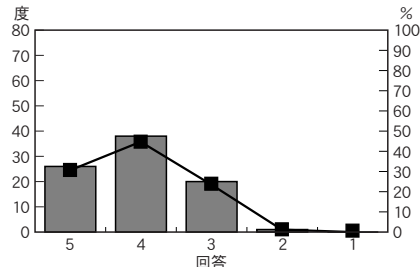
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



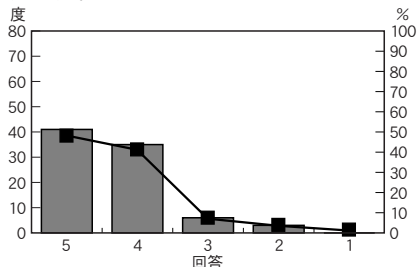
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



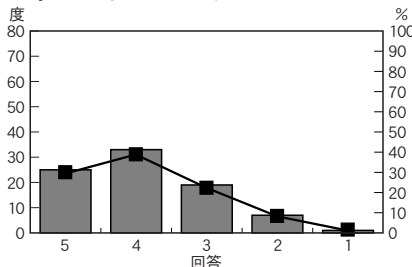
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



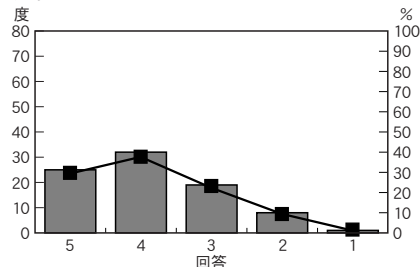
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



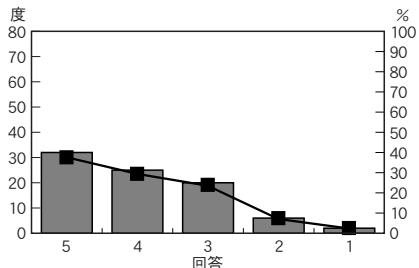
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



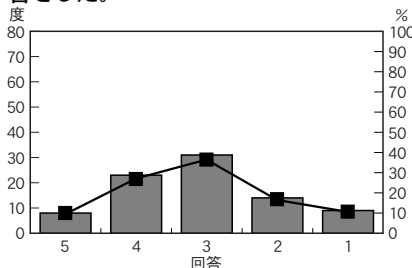
項目分析：(7)

授業によく出席した。



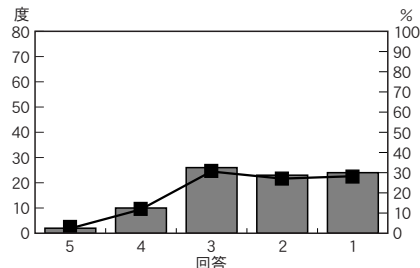
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



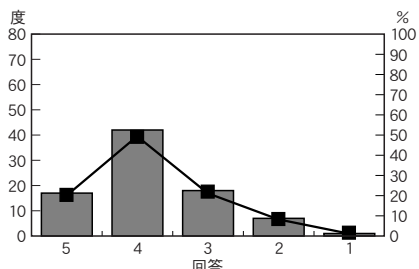
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



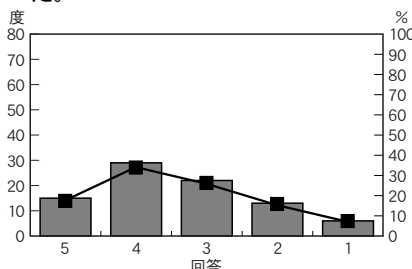
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



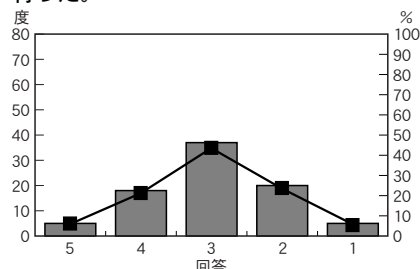
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



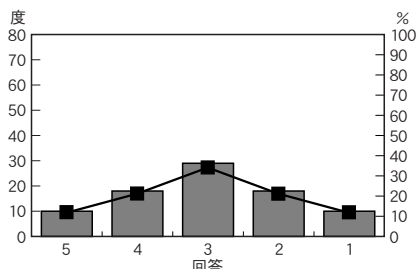
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



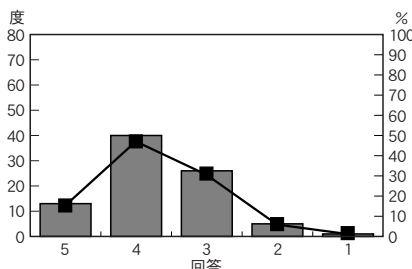
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



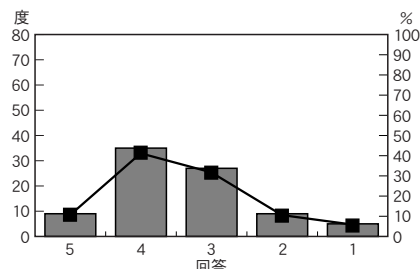
項目分析：(14)

熱心に指導した。

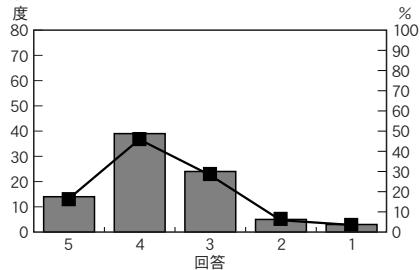


項目分析：(15)

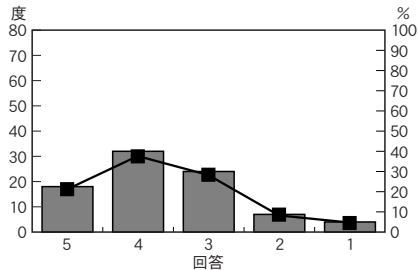
授業内容を分かりやすく説明した。



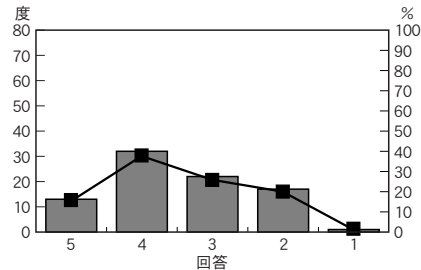
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



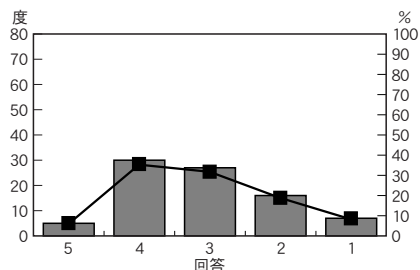
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



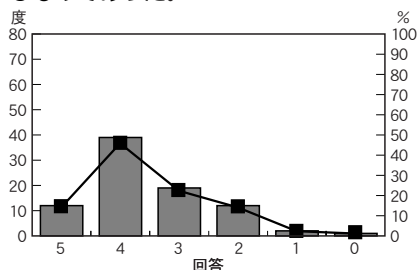
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

授業の概要については概ね了解されていたが、一部不十分なところがあり今後シラバスに記載された説明を再確認する必要があると思われる。

授業が医学的な専門性の高いものであるので、予習・復習、不明なことについての質問をするよう働きかけを促している。障害児の病理や保健という教育の基礎的なところであるが、その一端に触れさせ、今後の自主勉強に道を付けられたと思う。

授業科目名：「障害児生理・病理学演習」

評価実施日：平成 18 年 7 月 28 日

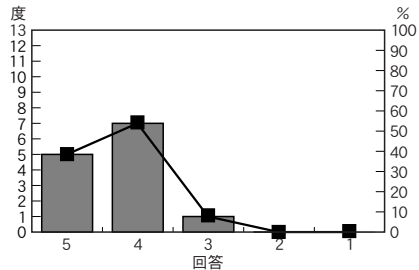
担当教員名：橋本 俊顯, 津田 芳見

(有効な合計13)

■ 度 ■ %

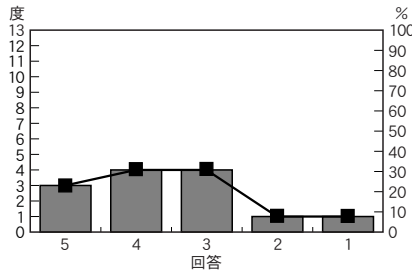
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



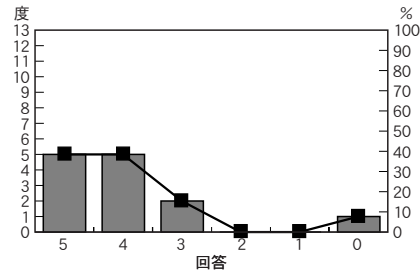
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



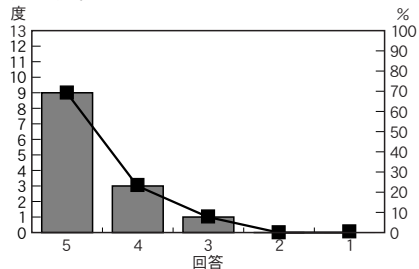
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



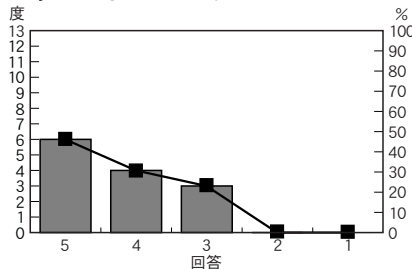
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



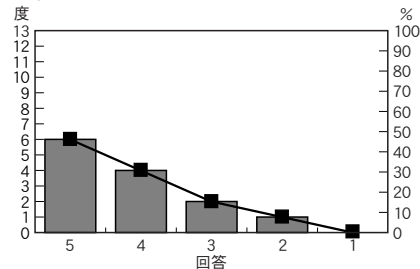
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



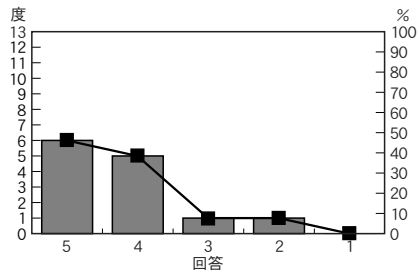
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



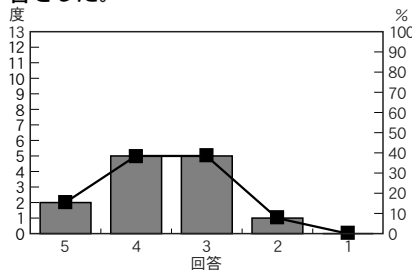
項目分析：(7)

授業によく出席した。



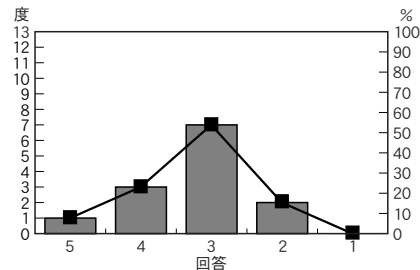
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



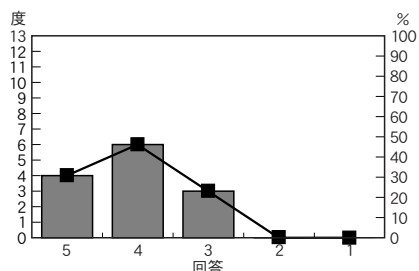
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



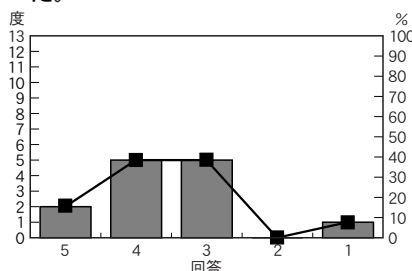
項目分析：(10)

積極的に課題に取り組んだ。



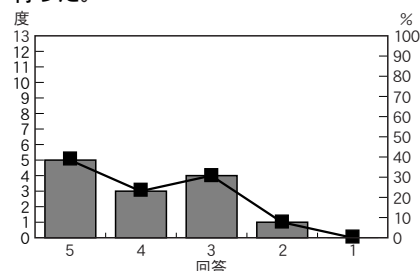
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



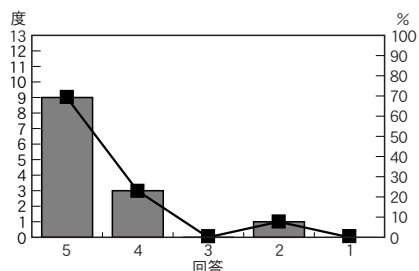
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



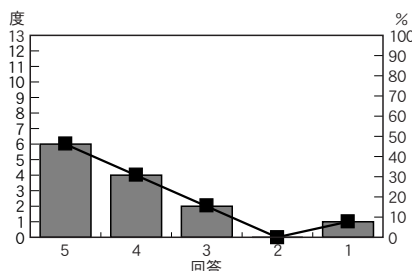
項目分析：(13)

学生参加型の授業だった。



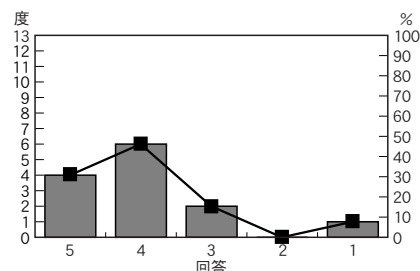
項目分析：(14)

熱心に指導した。

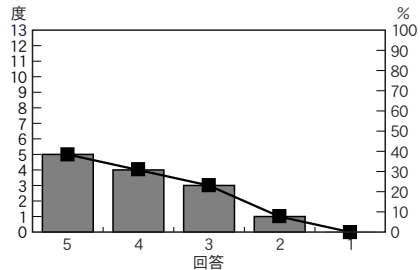


項目分析：(15)

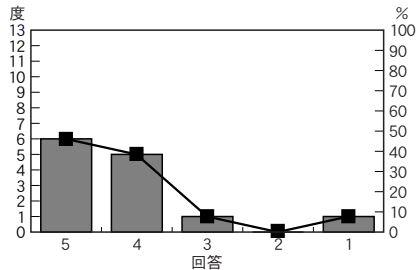
授業内容を分かりやすく説明した。



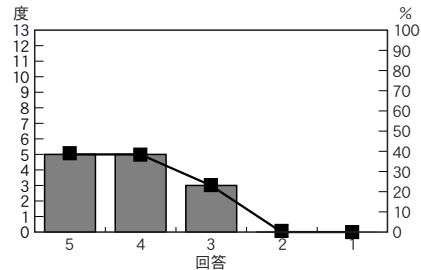
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



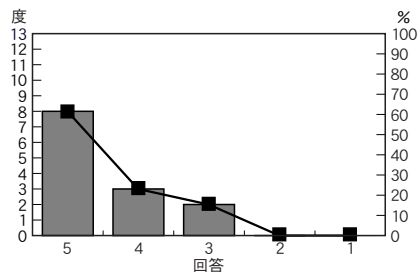
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



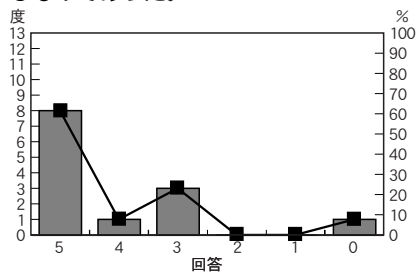
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

授業の概要については概ね了解されていた。

授業が医学的な専門性の高いものであるので、予習・復習、不明なことについての質問をするよう働きかけを促している。障害児の病理や保健という教育の基礎的などころの応用編であるが、グループ毎に学生自身が分担し調べ発表する形式を用いることにより、達成感が与えられたと思われる。授業のペースも多くのものが納得している状況であるが、今後もう少し質問を促す方向で進めることが求められる。

授業科目名：「障害児教育課程論」

評価実施日：平成 19 年 3 月 5 日

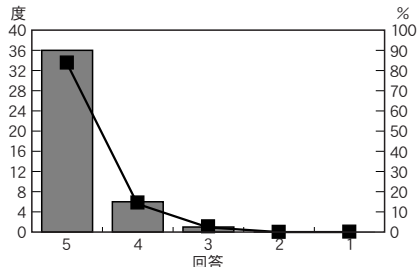
担当教員名：八幡 ゆかり

(有効な合計43)

■ 度 ■ %

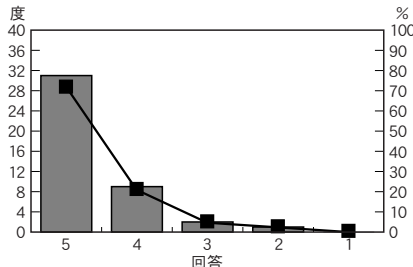
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



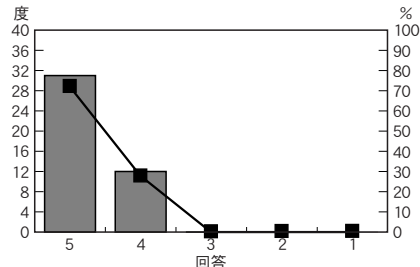
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



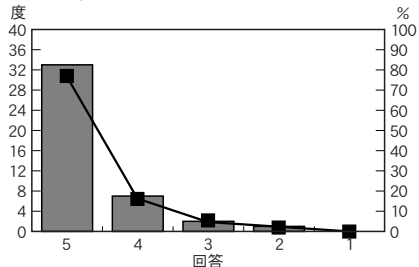
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



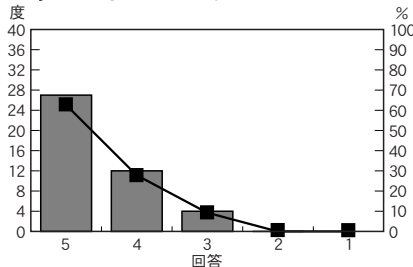
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



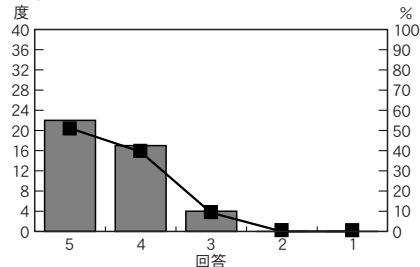
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



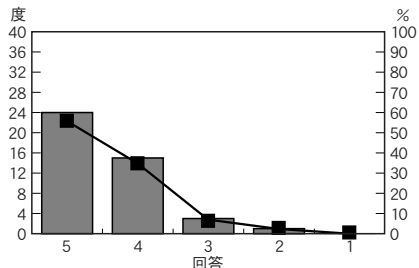
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



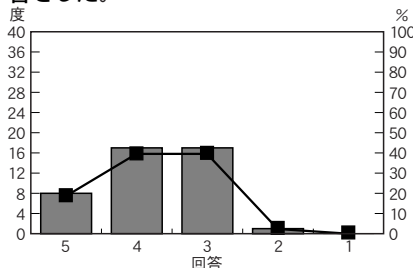
項目分析：(7)

授業によく出席した。



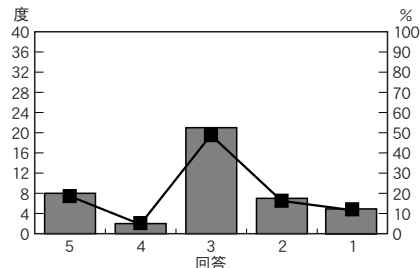
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



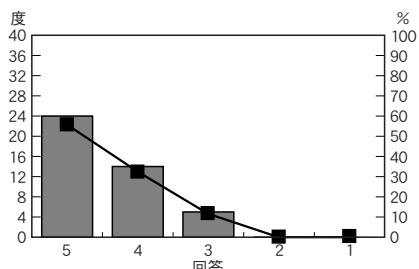
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



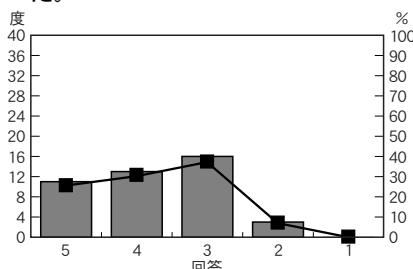
項目分析：(10)

教員の説明をよく聞いた。



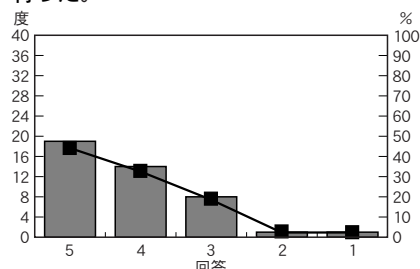
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



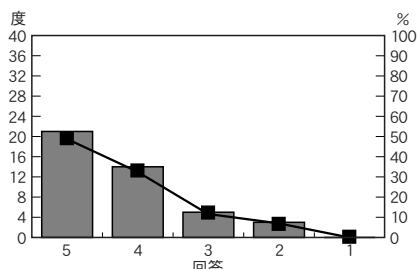
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



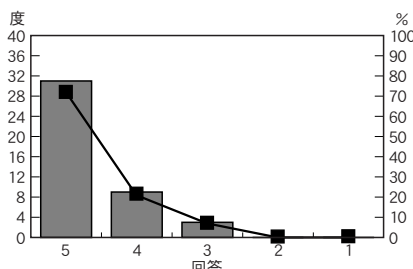
項目分析：(13)

学生が参加しやすい授業だった。



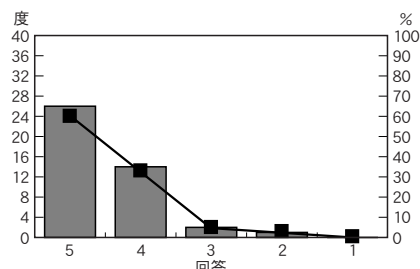
項目分析：(14)

熱心に指導した。

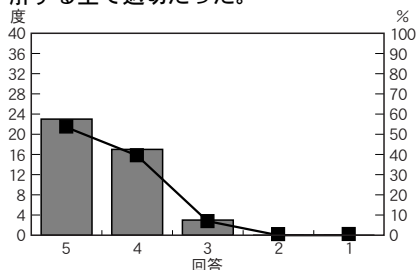


項目分析：(15)

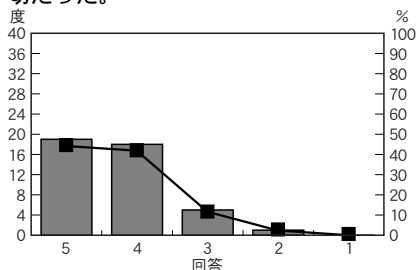
授業内容を分かりやすく説明した。



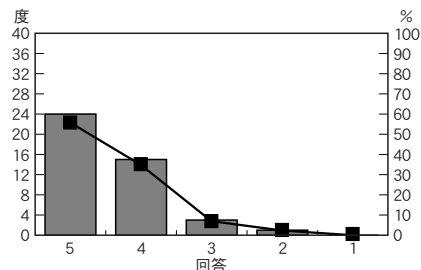
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



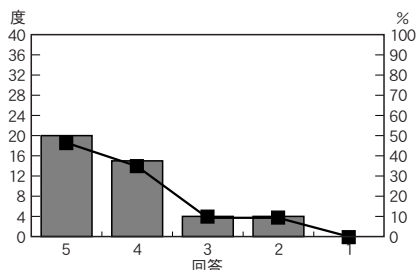
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



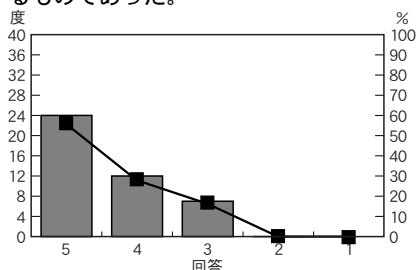
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

全体の評価を見ると、教員に対する評価は全ての項目について5の評価が最も多かった。そのうち、特に評価が高かったのは設問1「目標・授業計画・内容は明確に示されていた」で、約84%であった（4は約14%で合計約98%）。ついで、約72%が設問2「成績評価の方法は明確に示されていた」（4が約21%で合計約93%）、設問3「授業内容は授業概要に沿っていた」（4が約28%で合計100%）、設問14「熱心に指導した」（4が約21%で合計約93%）であった。設問20「この授業は自分自身にとって満足できるものであった」は5の評価が約56%、4の評価が約28%で合計約84%、3の評価が約16%であった。また、授業でよかったことについては、次のような記述があった。『教育課程や現場の現状と課題の内容がまとまっていた』『自分たちで調べて深く知ることができた』『障害児教育の専門性が高まった』『各テーマについて資料を得られた』『障害児教育の知識が増えた』『グループでテーマを決めて発表することで授業に主体的に参加できた』『教師の説明がわかりやすかった』これらの点から、本授業の進め方は適切であったといえる。一方、学生自らの評価については、設問7「授業への出席率」は5が約56%、4が約35%で、合計約91%であった。ついで、設問10「教員の説明を聞く」は5が約56%、4が約33%で、合計約89%であった。また、設問8「予習や復習をした」は5が約19%、4が約40%で、合計59%であった。しかし、設問9「授業中に積極的に発言や質問をした」は5と4の合計約24%と少なく課題として残された。

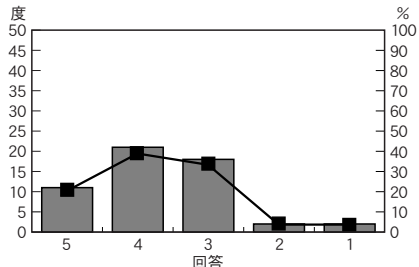
授業科目名：「障害児指導法Ⅰ」
 評価実施日：平成19年2月2日
 担当教員名：島田 恭仁

(有効な合計54)

■ 度 ■ %

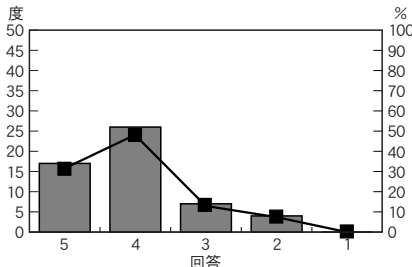
項目分析：(1)

目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



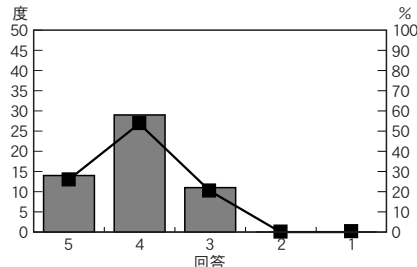
項目分析：(2)

成績評価の方法は、明確に示されていた。



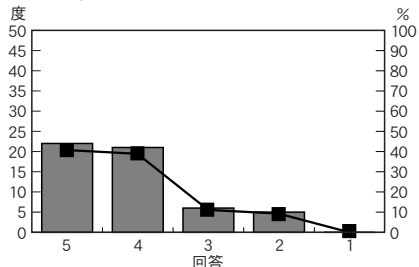
項目分析：(3)

授業内容は、授業概要に沿っていた。



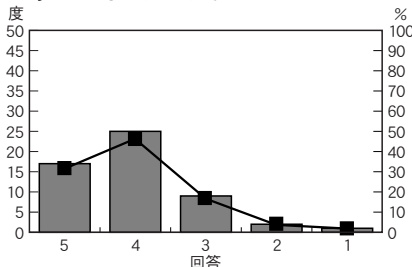
項目分析：(4)

授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



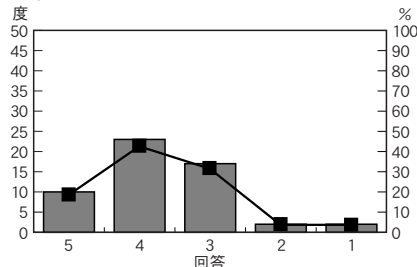
項目分析：(5)

授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



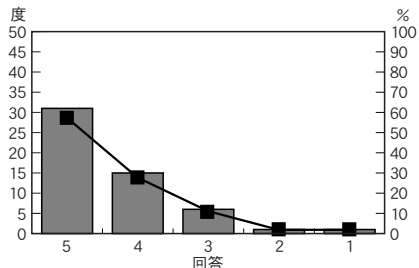
項目分析：(6)

授業内容は、興味・関心を引くものだった。



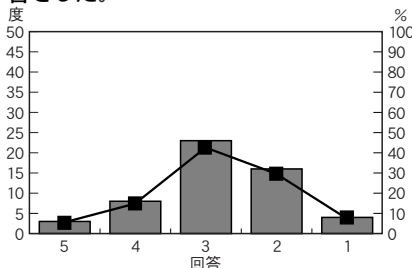
項目分析：(7)

授業によく出席した。



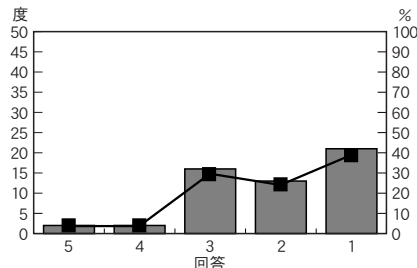
項目分析：(8)

授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



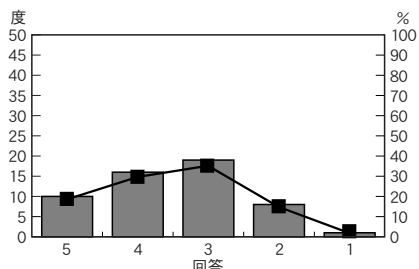
項目分析：(9)

授業中に積極的に発言や質問をした。



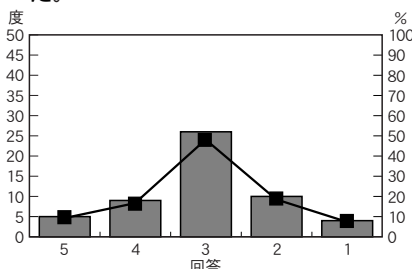
項目分析：(10)

積極的に課題に取り組んだ。



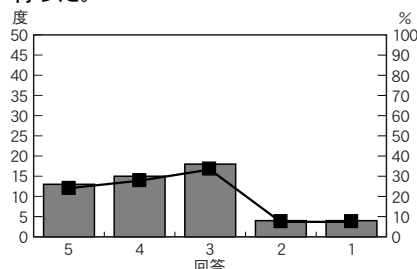
項目分析：(11)

分からないことや疑問に思ったことは調べた。



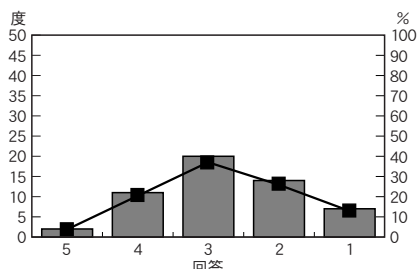
項目分析：(12)

学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



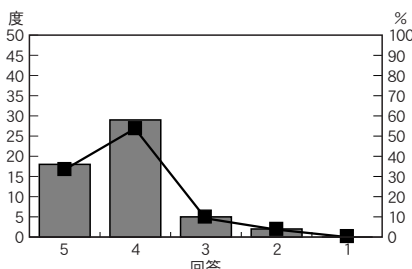
項目分析：(13)

学生参加型の授業だった。



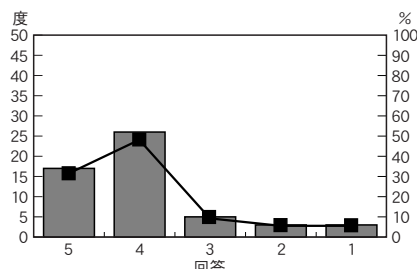
項目分析：(14)

熱心に指導した。

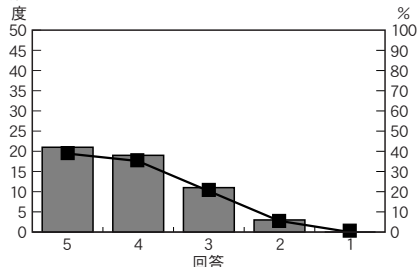


項目分析：(15)

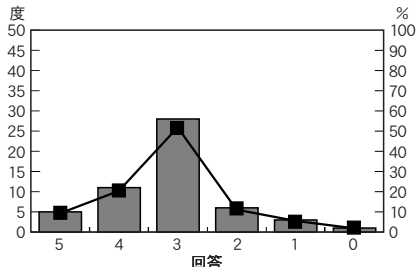
授業内容を分かりやすく説明した。



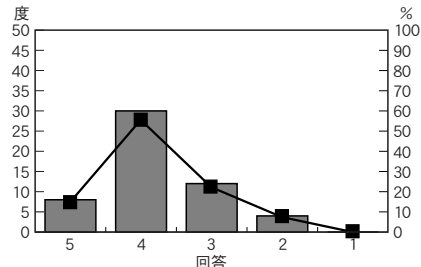
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



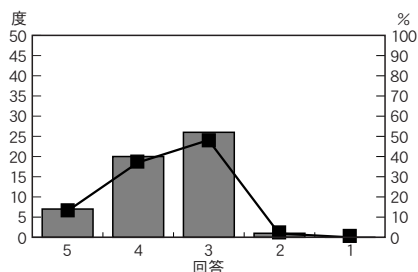
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



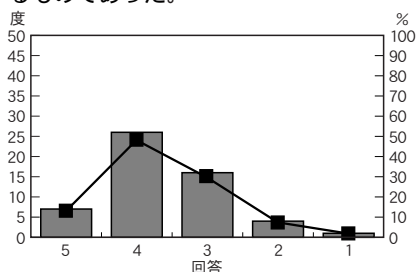
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

今年度の障害児指導法Ⅰの授業では、国際的な障害理解モデル（AAMRの多次元モデル・WHOの生活機能分類）について紹介した上で、認知心理学の理論に基づいて知的機能の査定を行う方法を詳述し、さらに、記憶方略の活用により知的機能の障害を改善する技法について論じた。

授業評価アンケートでは、問4「授業内容は教養や専門性を高めるものだった」、問14「熱心に指導した」、問15「授業内容を分かりやすく説明した」の項目で80%以上の受講生が5または4の高い評定をつけた。特に、問4において5の評定をした受講生が多かったことから、認知的な理論や技法についての知識の習得を促すことができたと思われる。また、問3「授業内容は授業概要に沿っていた」、問7「授業によく出席した」の項目でも、5または4の評定をした受講生が80%以上に達したことから、授業への興味・意欲を喚起することもできたと言える。

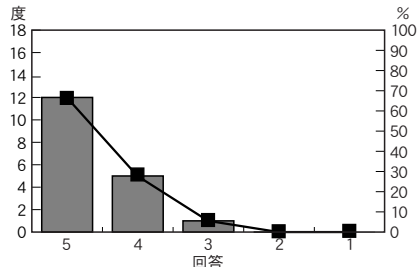
一方、問9「授業中に積極的に発言や質問をした」、問13「学生参加型の授業だった」に低い評定をした学生が多かったことより、演習形式の対話のある授業へのニーズがあることが分った。例年、受講者数が多数であるため、演習形式をとるのは難しいが、具体的な事例に即して、指導法にどのようなヴァリエーションを加えるかについて、討論する機会を設けてみたい。

授業科目名：「障害児指導法Ⅲ」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 14 日
 担当教員名：大谷 博俊

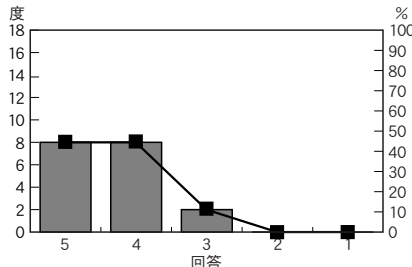
(有効な合計18)

■ 度 ■ %

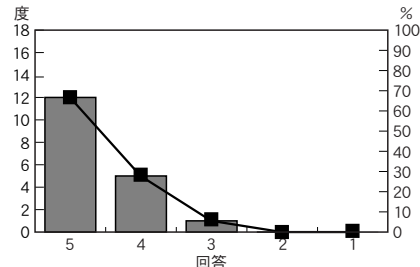
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



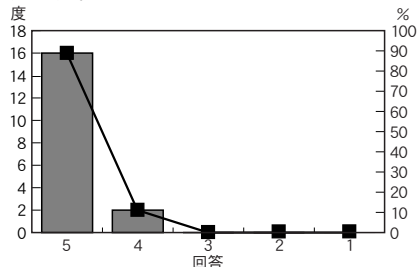
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



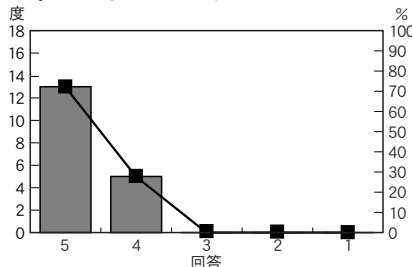
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



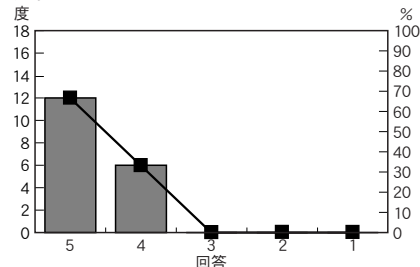
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



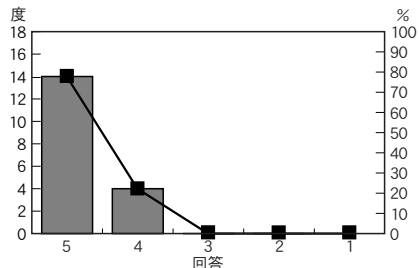
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



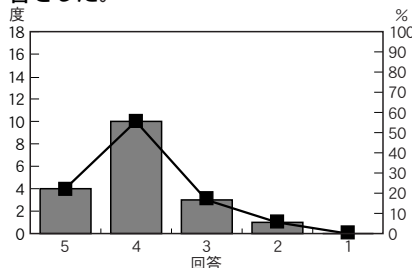
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



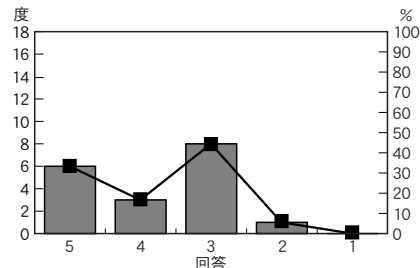
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



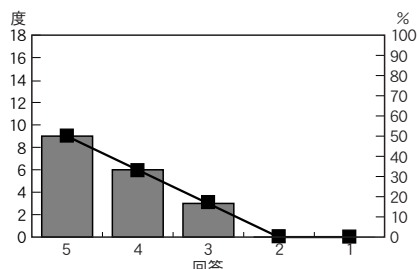
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



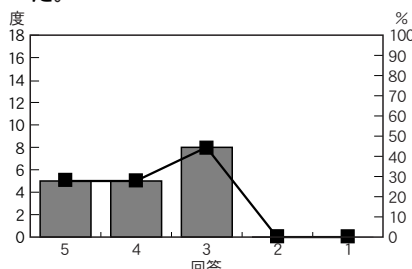
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



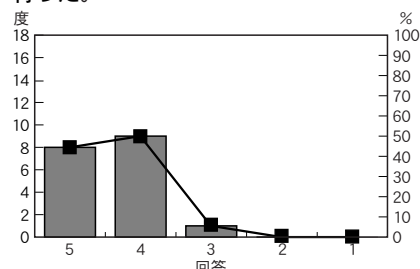
項目分析：(10)
 積極的に課題に取り組んだ。



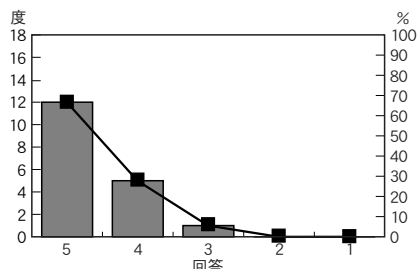
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



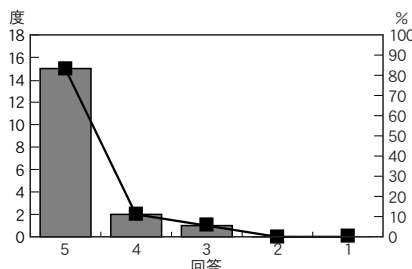
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



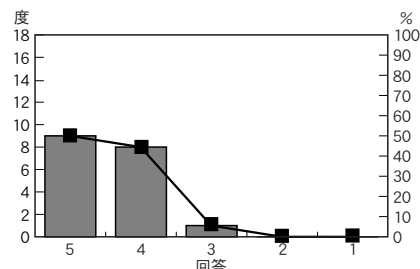
項目分析：(13)
 学生参加型の授業だった。



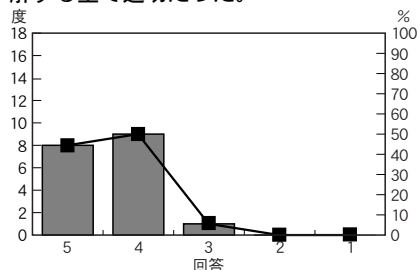
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



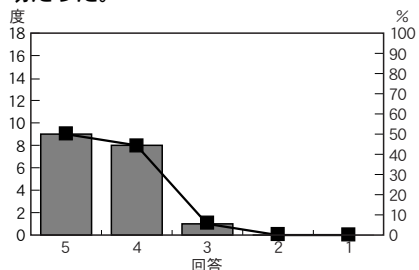
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



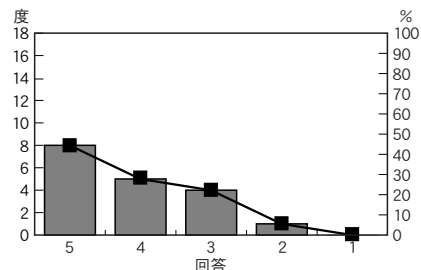
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



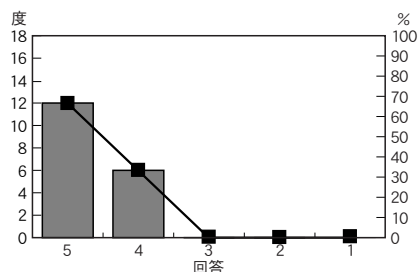
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



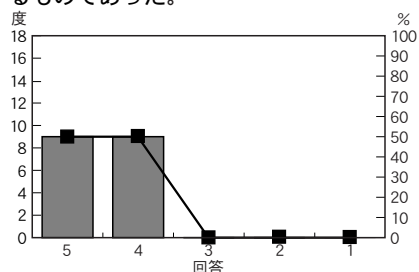
項目分析：(18)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(19)
学生の疑問や質問に適切に答えた。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

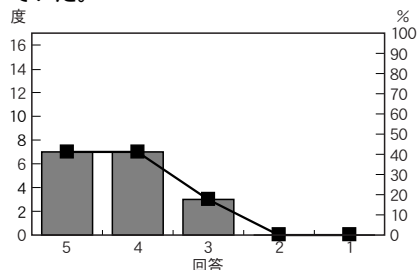
授業内容は専門性を高めるものであり、興味・関心を引くと評価されていた。授業内容の理解のための自主的な努力もなされており、授業への出席も促すことができたようである。授業進度に関しては約7割の学生にしか肯定的に捉えられていない点、気がかりであるが、授業の満足度は非常に高く評価されている。これらのことを勘案すると、本授業は学生にとって「勉強し甲斐のある授業」であったといえよう。今後も学生には授業中に積極的に発言や質問をする、さらには授業時間外に資料で調べる等、より一層の努力を期待したい。また自身としても本授業を振り返り、授業内容・計画の検討を行い、さらに魅力ある授業を提供していきたいと考えている。

授業科目名：「博物館概論」
 評価実施日：平成 19 年 2 月 2 日
 担当教員名：町田 哲

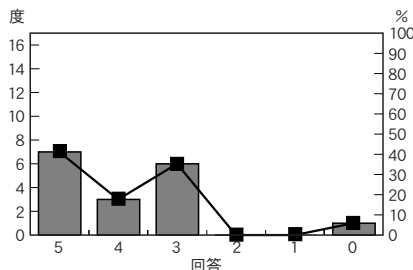
(有効な合計17)

■ 度 ■ %

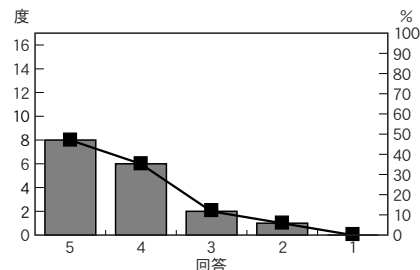
項目分析：(1)
 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。



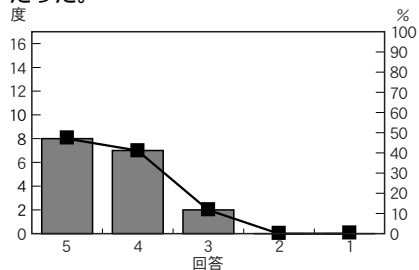
項目分析：(2)
 成績評価の方法は、明確に示されていた。



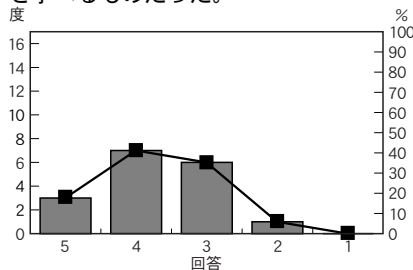
項目分析：(3)
 授業内容は、授業概要に沿っていた。



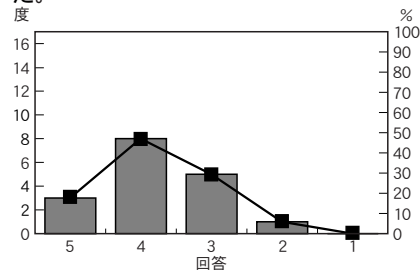
項目分析：(4)
 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。



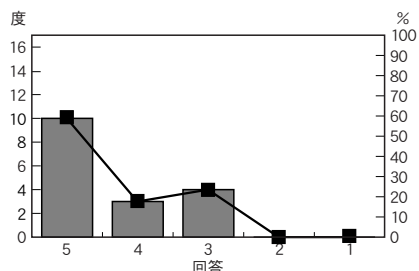
項目分析：(5)
 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。



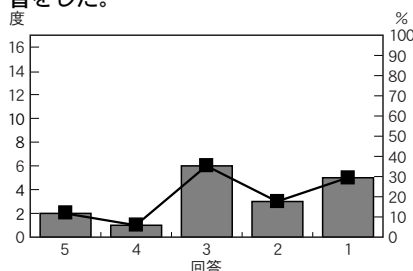
項目分析：(6)
 授業内容は、興味・関心を引くものだった。



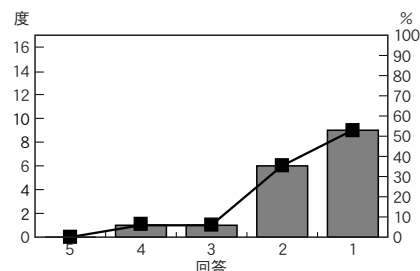
項目分析：(7)
 授業によく出席した。



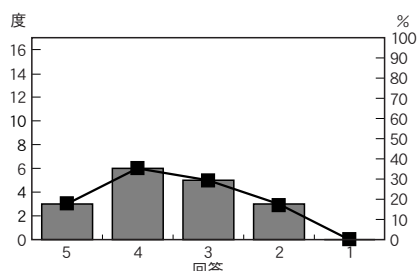
項目分析：(8)
 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。



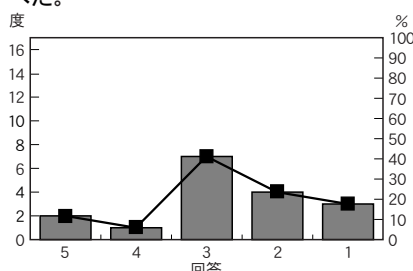
項目分析：(9)
 授業中に積極的に発言や質問をした。



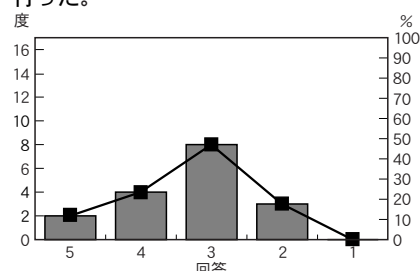
項目分析：(10)
 教員の説明をよく聞いた。



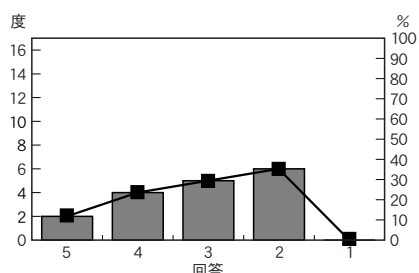
項目分析：(11)
 分からないことや疑問に思ったことは調べた。



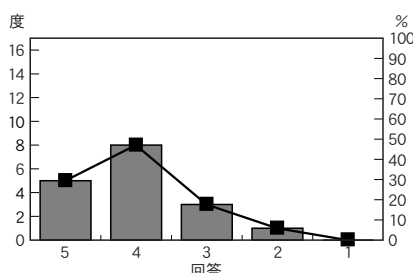
項目分析：(12)
 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。



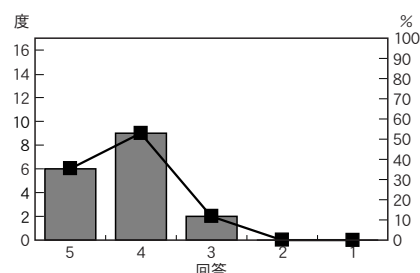
項目分析：(13)
 学生が参加しやすい授業だった。



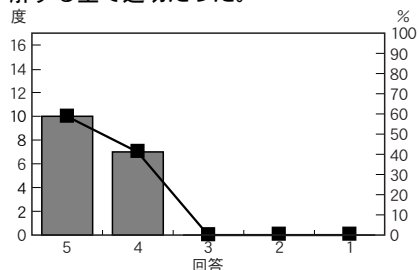
項目分析：(14)
 熱心に指導した。



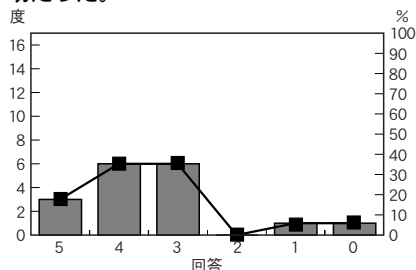
項目分析：(15)
 授業内容を分かりやすく説明した。



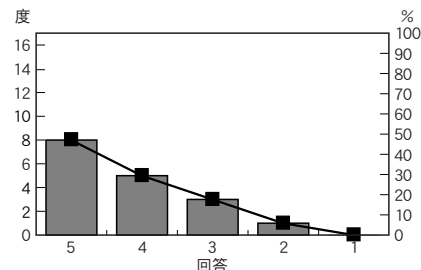
項目分析：(16)
教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。



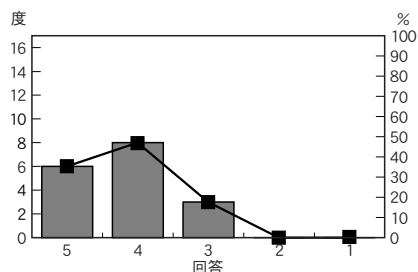
項目分析：(17)
視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。



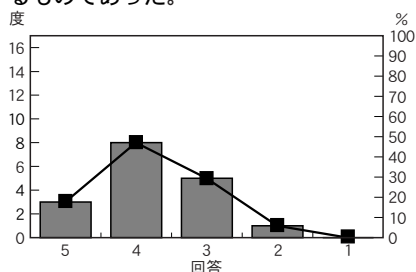
項目分析：(18)
教員の声は、聞き取りやすかった。



項目分析：(19)
授業の進む速さは、適切だった。



項目分析：(20)
この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。



教員のコメント

博物館概論では、学芸員としての基本的な資質の育成と、教員としての博物館利用の教育力向上を目標とし、開かれた学習の場としての博物館のあるべき方向・課題を検討している。

アンケートによれば、授業内容や配布教材については、相当程度の評価を得ることができた。「具体的な事例等を教えていただき、現場での教育実践（社会科や博物館との連携等）に活かせるヒントになりました」等の感想を得た。博物館学の理論的な側面だけでなく、博物館の実際の活動、また社会の中での博物館の意義を歴史と現状から、具体的に提示したことを反映したものと考える。

大方の学生も非常に熱心に学んだ。授業終了後のレポートでも、渾身の力作がいくつかみられた。授業内容は、当初の目標に達し得たものと考えられる。

その一方で、授業は、ともすれば一方的な講義形式に終始した面が強く、分からないことを調べることや、学生の理解度を確かめる点に弱かったことが反省される。今後は、博物館ミニ報告会などを行い、学生の主体的な意欲を引出しながら、授業に取り組むよう努力したい。

あ と が き

本学では、平成8（1996）年度、平成10（1998）年度の「授業に関する学生の意識調査」による試験的な取り組みに始まり、平成12（2000）年度から「学生による授業評価」が全学規模で実施されてきた。その経緯、ならびに評価内容や実施方法についての改善の取り組みは平成12年度、13年度の実施報告書で述べられている。その後も改善が重ねられ授業評価の実施体制が整えられてきた。平成8年度から数えて10年を経過した本年では、これまでの試行錯誤の経緯を鑑みても、学生による評価によって教員個々の授業をふり返るという営みが本学の教員文化として着実に根づいてきていると言えよう。それに伴い授業に関わる課題も明確化されてきた。今後はそのような課題を解決し授業の質的改善を図っていくとともに、今後もより実りある授業評価をめざし、本学が誇れる教員文化を継承・創造・伝承されることを期待したい。

さて、平成18年度に行われた学生による授業評価に関わる特徴は以下の2点である。第1点は、平成17年度に教育実践コア科目が新たに開設され、同時にその授業評価も実施された。教育実践コア科目は本学教員養成コア・カリキュラムの中核を担う授業科目であり、教育実践基礎演習と教科教育実践から構成される。昨年度に引き続き「初等中等教育実践基礎演習」「初等中等教科教育実践Ⅰ」に加え、本年度は「ふれあい実習」「初等中等教科教育実践Ⅱ」の2科目を追加して合計4科目を授業評価の対象とし、段階的に精細な調査・分析を行えたことである。第2点は、本年度の授業評価に関わる結果報告書を従来の紙媒体による公開に加えて、Web上において公開することとしたことである。これらにより本学教員のみならず他大学の教員や学生、そして広く社会から本学への関心が高まることを期待するとともに、本学の発展に役立てば幸いである。

最後に、授業評価の主旨に理解を示し調査協力を惜しまなかった学生諸君、本報告書の作成、および、学生による授業評価のさらなる向上のためにご尽力いただいた同部会の先生方および事務職員の方々に、心より感謝の意を表したい。

平成18年度学校教育学部教務委員会
学生による授業評価専門部会主査

小坂浩嗣

鳴門教育大学学校教育学部教務委員会 委員名簿

(平成18年度)

委員長	田中雄三	理事
副委員長	松島正矩	第4部(教授) (学生による授業評価専門部会委員)
委員	橋川喜美代	第1部(教授)
"	小坂浩嗣	第1部(助教授) (学生による授業評価専門部会主査)
"	近森憲助	第2部(教授)
"	夫明美	第2部(講師)
"	松岡隆	第3部(教授)
"	香西武	第3部(助教授) (学生による授業評価専門部会委員)
"	山田啓明	第4部(助教授)
"	渡邊廣二	第5部(教授)
"	伊藤陽介	第5部(助教授)
"	西村宏	地域連携センター所長
"	清水茂	地域連携センター(助教授)
"	津田芳見	学長指名(助教授)
"	青葉暢子	学長指名(助教授)
"	原卓志	学長指名(教授)
"	綿引勝美	学長指名(助教授) (学生による授業評価専門部会委員)

平成18年度 学生による授業評価実施報告書

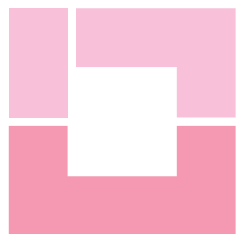
平成20年3月発行

編集 鳴門教育大学学校教育学部教務委員会
発行 鳴門教育大学

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748

電話 088-687-6093

FAX 088-687-6107



国立大学法人
鳴門教育大学

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地
<http://www.naruto-u.ac.jp/>

